

**Sterling Selling and Fulfillment Foundation**



# **アプリケーション・プラットフォーム 構成ガイド**

**リリース 9.1**



**Sterling Selling and Fulfillment Foundation**



# **アプリケーション・プラットフォーム 構成ガイド**

**リリース 9.1**

**お願い**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、751 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Sterling Selling and Fulfillment Foundation バージョン 9.1、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

**原典：** Sterling Selling and Fulfillment Foundation  
Application Platform Configuration Guide  
Release 9.1

**発行：** 日本アイ・ビー・エム株式会社

**担当：** トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.2

© Copyright IBM Corporation 1999, 2011.

# 目次

## 第 1 章 Sterling Application Platform

の紹介	1
ビジネス・モデル	1
複数事業部制コーポレーション	2
サード・パーティー物流管理	2
マーケットプレイス	2
アプリケーション・プラットフォームの構成	3
参加者モデリング	3
プロセス・モデリング	3
セキュリティー	3
システム管理	3
単位	3
国際化対応	4
プレゼンテーション	4
通信	4
命名法	4
キュー管理	4
地域の定義	4
警告管理	5

## 第 2 章 Applications Manager のナビゲート

Applications Manager の始動	7
Applications Manager のレイアウト	7
アプリケーション・ルールのサイド・パネル	9
作業領域	16
Applications Manager で使用可能なアクション	20
Applications Manager のルックアップ機能の使用	21
アプリケーションに関連付けられた伝票種別の表示	21
Applications Manager にログインしているユーザーの表示	23
リストおよびリスト・フィルタリングの使用	23
日時エントリー	24
コンテキスト・ヘルプの使用	25
エラーのトラブルシューティング	25
特殊文字の使用	25

## 第 3 章 参加者の構成

組織の作成と変更	27
組織の主要情報の定義	30
組織の役割と参加者の関連付け	33
ヤードの役割と参加者の関連付けの割り当て	110
通信プロトコルの定義	110
組織の支払情報の定義	121
組織の子組織の表示	123
組織のカレンダーの定義	123
組織の部門の表示	129
組織の変更	131
組織階層の作成および変更	131

組織階層の作成	131
ノード・タイプの作成	132
ノード・タイプの作成	132
ノード・タイプの変更	133
ノード・タイプの削除	133

## 第 4 章 プロセス・モデルの構成

伝票種別の構成	135
プロセス・モデリング・ツリー	137
新規伝票種別の定義	137
伝票種別の説明の変更	139
プロセス・タイプの変更	140
プロセス・タイプ・パイプラインの定義	150
パイプラインの決定の定義	150
パイプラインの作成	151
パイプラインをドラフトとして保存	153
パイプラインの変更	153
パイプラインのモニター・ルールの定義	154
トランザクションの定義	159
ステータスの定義	189
条件の定義	192
アクションの定義	199
サービス定義の定義	204

## 第 5 章 ユーザー・セキュリティーの構成

ユーザーの定義	213
ユーザーの作成	213
ユーザーの変更	216
ユーザーのプリンター・プリファレンスの設定	216
ユーザーの削除	219
ユーザー・グループの定義	220
ユーザー・グループの作成	220
ユーザー・グループの変更	221
ユーザー・グループの削除	232
チームの定義	233
チームの作成	233
チームの変更	236
チームの削除	237
データ・アクセス・ポリシーの定義	237
エンタープライズ・ユーザー・アクセス	238
パイヤー・ユーザー・アクセス	239
セラー・ユーザー・アクセス	241
ノード・ユーザー・アクセス	241
API のセキュリティーの構成	242
API セキュリティー・リソースの表示	242
API セキュリティー・リソースの作成	243
API のセキュリティー・リソースの変更	244

## 第 6 章 システム管理コンポーネントの構成 . . . . . 249

システム管理コンポーネント: パージ条件の定義	249
システム・パージ条件ルールの変更	250
システム管理コンポーネント: 外部プログラム実装の定義	251
外部プログラムの定義	253
システム管理のコンポーネント: インストール・ルールの定義	256
エージェント条件グループの作成	263
エージェント条件グループの変更	264
エージェント条件グループの削除	265
初期コンテキスト・ファクトリー・コードの定義	265
初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成	265
初期コンテキスト・ファクトリー・コードの変更	266
初期コンテキスト・ファクトリー・コードの削除	266
ヘルス・モニター・ルールの定義	267
構成されているサーバーのリストの表示	268
サーバーに対して構成されたサブフローまたは条件 ID のリスト	269
アイテム・コンフィギュレーター・プロパティの定義	269
アプリケーションのバージョンの定義	270
アプリケーションのバージョンの作成	270
アプリケーションのバージョンの変更	271
アプリケーションのバージョンの削除	271

## 第 7 章 単位の構成 . . . . . 273

数量の単位の作成	273
数量単位の変更	273
数量の単位変換率の作成	273
数量単位の変換率の変更	274
数量単位変換率の削除	274
数量単位の削除	274
サービス数量の単位の作成	275
サービス数量単位の変更	275
サービス数量の単位変換率の作成	275
サービス数量単位の変換率の変更	276
サービス数量単位変換率の削除	276
サービス数量単位の削除	276
寸法の単位の作成	277
寸法単位の変更	277
寸法の単位変換率の作成	277
寸法単位の変換率の変更	278
寸法単位変換率の削除	278
寸法単位の削除	278
容積の単位の作成	279
容積単位の変更	279
容積の単位変換率の作成	279
容積単位の変換率の変更	280
容積単位変換率の削除	280
容積単位の削除	280
重量の単位の作成	281
重量単位の変更	281
重量の単位変換率の作成	281
重量単位の変換率の変更	282

重量単位変換率の削除	282
重量単位の削除	282
時間の単位の作成	283
時間単位の変更	283
時間の単位変換率の作成	283
時間単位の変換率の変更	284
時間単位変換率の削除	284
時間単位の削除	284

## 第 8 章 国際化対応のルールの構成 . . . 285

国または地域コードの定義	285
国または地域コード定義の作成	285
国または地域コードの定義の変更	286
国または地域コードの定義の削除	286
言語コードの定義	287
言語定義の作成	287
言語定義の変更	287
言語定義の削除	288
日付形式の定義	288
日付形式の作成	288
日付形式の変更	289
日付形式の削除	289
時刻形式の定義	290
時刻形式の作成	290
時刻形式の変更	290
時刻形式の削除	291
日時形式の定義	291
日時形式の作成	291
日時形式の変更	292
日時形式の削除	292
通貨の定義の定義	293
通貨定義の作成	293
通貨定義の変更	294
通貨定義の削除	294
通貨換算の定義	295
通貨換算の作成	295
通貨換算の変更	296
通貨換算の削除	297

## 第 9 章 プレゼンテーション・コンポーネントの構成 . . . . . 299

ロケールの定義	299
ロケールの作成	299
ロケールの変更	301
ロケールの削除	301
メニューの定義	301
メニュー・グループを新規メニュー分類として保存	302
アプリケーション・メニューの詳細の変更	302
メニュー項目の定義	303
メニュー項目の変更	305
メニュー項目の削除	305
リソースの定義	305
Sterling Selling and Fulfillment Foundation リソース	306
アプリケーション・コンソール・エンティティ	308

アプリケーション・コンソール関連エンティティ	310
アプリケーション・コンソール検索ビュー	311
アプリケーション・コンソール詳細ビュー	311
アプリケーション・コンソール・リスト・ビュー	313
アプリケーション・コンソール API	314
アプリケーション・コンソール内部パネル	316
アプリケーション・コンソール・アクション	317
アプリケーション・コンソール・リンク	319
アプリケーション・コンソール・アイコン	319
リッチ・クライアント・プラットフォーム・アクション	320
リッチ・クライアント・プラットフォーム・タスク	321
テーマの定義	321
テーマの作成	322
テーマの変更	322
テーマの削除	323
カスタム共通コード・タイプの定義	323
カスタム共通コード・タイプの作成	323
カスタム共通コード・タイプの変更	324
カスタム共通コード・タイプの削除	324
カスタム共通コード値の定義	325
値のカスタム共通コードへの追加	325
カスタム共通コードの値の変更	325
カスタム共通コードの値の削除	326
カスタム・エラー・コードの定義	326
顧客エラー・コードの検索	326
カスタム・エラー・コードの追加	327
カスタム・エラー・コードの変更	327
カスタム・エラー・コードの削除	328
<b>第 10 章 ビジネス通信コンポーネントの構成</b>	<b>329</b>
プロトコル・コードの定義	329
プロトコル・コードの作成	329
プロトコル・コードの変更	329
プロトコル・コードの削除	330
ドキュメント形式コードの定義	330
ドキュメント形式コードの作成	330
ドキュメント形式コードの変更	331
ドキュメント形式コードの削除	331
ビジネス・ドキュメント・コードの定義	331
ビジネス・ドキュメント・コードの作成	332
ビジネス・ドキュメント・コードの変更	332
ビジネス・ドキュメント・コードの削除	333
既存ビジネス・ドキュメントの分類	333
<b>第 11 章 命名法コンポーネントの構成</b>	<b>335</b>
命名コードの定義	335
命名定義の定義	336
命名定義間のマッピングの作成	338
命名構成の定義	339
<b>第 12 章 警告キューの構成</b>	<b>343</b>
警告キューの作成	343

未解決の警告をサイズに基づいて処理する方法の定義	344
未割り当ての警告を時間に基づいて処理する方法の定義	345
未解決の警告を時間に基づいて処理する方法の定義	346
警告キューのユーザー・リストの表示	346
警告キューの変更	347
警告キューの削除	347

## 第 13 章 地域定義の構成 **349**

地域レベルの定義	349
地域レベルの作成	349
地域レベルの変更	350
地域レベルの削除	351
地域照合プリファレンスの定義	351
地域照合プリファレンスの設定	351
地域照合プリファレンスの削除	352
地域スキーマの定義	352
地域スキーマの作成	352
地域スキーマの変更	354
地域スキーマの削除	354

## 第 14 章 デバイスの構成 **357**

デバイス・タイプの定義	357
デバイス・タイプの作成	357
デバイス・タイプの変更	359
デバイス・タイプの削除	359
デバイス・サブタイプの定義	359
デバイス・サブタイプの作成	360
デバイス・サブタイプの変更	361
デバイス・サブタイプの削除	361
デバイスの定義	362
デバイス概要の作成	362
デバイスの作成	363
デバイスからの新規デバイスの作成の概要	366
デバイスからの新規デバイスの作成	368
デバイスの変更	368
デバイスの削除	368

## 第 15 章 印刷の構成 **371**

印刷ドキュメントの定義	372
印刷ドキュメントの作成	372
印刷ドキュメントの変更	374
印刷ドキュメントの削除	374
ラベル書式の定義	375
ラベル書式の作成	375
ラベル書式の変更	377
ラベル書式の削除	377

## 第 16 章 パスワード・ポリシーの管理 **379**

## 第 17 章 警告の構成 **381**

例外タイプの作成	381
例外タイプの変更	383
例外タイプの削除	383

例外タイプの役割の定義	384
例外タイプの役割の作成	384
例外タイプの役割の変更	384
例外タイプの役割の削除	385
組織例外タイプ構成の定義	385
組織例外タイプの作成	385
組織の例外タイプの変更	386
例外ルーティング・ルールの作成	386
例外ルーティング・ルールの変更	388
例外ルーティング・ルールの削除	388
組織の例外タイプの削除	389

## 第 18 章 データ・バージョン・ラベルの構成 . . . . . 391

構成データ・バージョン・ラベルの作成	391
構成データのバージョン・ラベルの変更	392
構成データ・バージョン・ラベルの削除	393

## 第 19 章 修飾タグ情報の構成 . . . . . 395

修飾タグ・タイプの作成	395
修飾タグ・タイプの変更	396
修飾タグ・タイプの削除	396
修飾タグの定義	397
修飾タグの作成	397
修飾タグの変更	398
修飾タグの削除	398
修飾タグ・バージョンの互換性の構成	398
修飾タグ・バージョンの互換性の変更	399
修飾タグ・バージョン互換性の削除	400

## 第 20 章 属性接尾辞ルールの構成 . . . . . 401

属性接尾辞の定義の作成	401
属性接尾辞定義の変更	401
属性接尾辞定義の削除	402

## 第 21 章 分析の構成 . . . . . 403

分析の地域使用の定義	403
------------	-----

## 第 22 章 時間トリガー・トランザクション参照 . . . . . 405

時間トリガー・トランザクション参照	405
時間トリガー・トランザクションの実行	406
時間トリガー・トランザクションをスケジュールする前に完了しておくステップ	406
エージェントと JMS サーバーの間の通信の構成	407
前提条件	407
初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成	408
トランザクション情報の定義	409
ビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクション	410
非同期要求プロセッサ	410
大/小文字を区別しないデータ・ローダー	412
変更データのエキスポート・エージェント	413
変更データのインポート・エージェント	415
集合・混載ステータスの変更	416
出荷ステータスの変更	417

配達計画の終了	419
集合・混載を閉じる	421
積荷目録を閉じる (Close Manifest)	422
オーダーを閉じる	424
受入の完了	426
出荷を閉じる (Close Shipment)	428
出荷統計の収集	430
追加在庫の統合	431
出荷に統合	433
カタログ・インデックスの作成 (Create Catalog Index)	435
連鎖オーダーの作成 (Create Chained Order)	440
派生オーダーの作成 (Create Derived Order)	441
オーダー・インボイスの作成	443
出荷インボイスの作成	445
ESP 評価者	446
アイテム・ペースの割り当て	448
集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク	452
在庫の照合	454
支払集金	455
支払実行	458
在庫一致の公示	460
オーダー保留タイプの処理	462
保留作業オーダー・タイプの処理	464
交渉の発行結果	465
リリース	467
出荷のルーティング	469
スケジュール	471
インボイスの送付	475
アイテム変更の送信	477
顧客変更の送信	479
オーダーの送信	480
リリースの送信	482
オーダー開始交渉	483
コロニー・マップの同期化	484
ベスト・マッチ地域の更新	486
所有権転送サマリーの読み込み	488
時間トリガー・パージ・トランザクション	489
パージ方法	490
パージ・トランザクション・ログ・ファイルの構成	490
使用可能なパージ	490
タスク・キューの同期プログラムの時間トリガー・トランザクション	581
集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム	581
オーダー配達タスク・キュー同期プログラム	583
オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム	584
オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム	585
見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム	586
モニター	587
在庫状況モニター	587
例外モニター	589
在庫モニター	591

交渉モニター	592
強化したオーダー・モニター	594
強化した見積モニター	597
強化した返品モニター	599
リアルタイム在庫状況モニター	602
出荷モニター	610
作業オーダー・モニター	612
<b>第 23 章 在庫およびキャパシティー変</b>	
<b>更トランザクション参照</b>	<b>615</b>
在庫の変更トランザクション	615
キャパシティー変更トランザクション	617
<b>第 24 章 転送ノード</b>	<b>619</b>
データベース	619
データベース送信者	619
データベース受信者	621
DCS 6.2 データベース	623
DDCS 6.2 データベース送信者	624
DCS 6.2 データベース受信者	625
コンポーネント・オブジェクト・モデル (COM)	626
Enterprise Java Beans (EJB)	627
ファイル入力/出力 (ファイル入出力)	629
ファイル入出力送信者	629
ファイル入出力受信者	630
アプリケーション・プラットフォーム・フレーム	
ワークでの EOF メッセージの使用可能化	633
ファイル転送プロトコル (FTP)	636
FTP 送信者	636
FTP 受信者	639
Hypertext Transport Protocol (HTTP)	641
WebService	643
同期 Oracle WebLogic および同期 MQSeries	645
Oracle WebLogic、MQSeries、および TIBCO JMS	
キュー	649
Oracle WebLogic、MQSeries、および TIBCO	
JMS キュー送信者	650
Oracle WebLogic、MQSeries、および TIBCO	
JMS 受信者	656
IBM WebSphere デフォルト・メッセージング JMS	
キュー	660
IBM WebSphere デフォルト・メッセージング	
JMS キュー送信者	660
IBM WebSphere デフォルト・メッセージング	
JMS キュー受信者	665
JBoss Default Messaging JMS キュー	669
JBoss Default Messaging JMS キュー送信者	669
JBoss Default Messaging JMS キュー受信者	673
同期 IBM WebSphere デフォルト・メッセージング	677
Microsoft Message Queue (MSMQ)	680
MSMQ 送信者	680
MSMQ 受信者	682
受信者リンク例外処理	683
コンポーネント・ノード	685
警告	685

アプリケーション・プログラミング・インターフ	
エース (API)	688
複合サービス	690
条件	691
E メール	692
命名実行時コンポーネント	694
ルーター	694
テキスト・トランスレーター	695
XSL トランスレーター	697
デフォルト・コンポーネント	698
データ・セキュリティ	700
Jasper プリンター・コンポーネント	701
アダプター・ノード	703
Sterling GISIBM Sterling B2B Integrator	703

<b>第 25 章 テキスト・トランスレーター</b>	
<b>参照</b>	<b>705</b>
ファイル形式の理解	705
位置指定フラット・ファイル	705
区切られたフラット・ファイル	705
XML フラット・ファイル	706
テキスト・トランスレーター・コンポーネント	707
テキスト・トランスレーターのセットアップの確認	708
エラー・メッセージ	709
テキスト・トランスレーター XSD ファイル	711
テキスト・トランスレーター定位置用受信プログラ	
ム XSD ファイル	711
テキスト・トランスレーター区切り文字付き用受信	
プログラム XSD ファイル	716
テキスト・トランスレーター定位置用送信プログラ	
ム XSD ファイル	718
テキスト・トランスレーター区切り文字付き用送信	
プログラム XSD ファイル	720
テキスト・トランスレーターの実行	722

## 第 26 章 ドキュメント・タイプ . . . . . 723

## 第 27 章 条件ビルダーの属性 . . . . . 725

条件ビルダーの属性	725
販売オーダー	726
オーダー・フルフィルメント	726
オーダー交渉	728
出荷	729
受入	730
計画済みオーダー	730
計画済みオーダー実行	730
計画済みオーダー交渉	730
返品オーダー	730
返品物流	730
返品出荷	732
返品受入	732
テンプレート・オーダー	733
「購入オーダー」	733
購入オーダー実行	733
購入オーダー交渉	734
入荷	735

購入オーダー受入 . . . . .	735
転送オーダー . . . . .	735
転送オーダー実行 . . . . .	735
転送オーダー配達 . . . . .	735
転送オーダー受入 . . . . .	735
マスター・オーダー・フルフィルメント . . . . .	735
見積フルフィルメント . . . . .	737
集合・混載実行 . . . . .	737
一般 . . . . .	738
WMS 格納 . . . . .	739
WMS レイアウト定義 . . . . .	739
WMS 在庫 . . . . .	739
トレーラー積み付け . . . . .	739
タスク実行 . . . . .	739
移動要請実行 . . . . .	739
積荷目録作成 . . . . .	739

超過梱包作成 . . . . .	740
棚卸実行 . . . . .	740
パック・プロセス . . . . .	741
出庫ピッキング . . . . .	742
VAS プロセス . . . . .	743
案件フルフィルメント . . . . .	744
アイテム・ペース割り当て (IBA) オーダー . . . . .	744

## 第 28 章 プロジェクト変更管理の構成 747

データベース変更のエクスポート . . . . .	747
データベース変更のパブリッシュのルールの構成 . . . . .	747
データベース変更の公開前に設定するプロパティ . . . . .	749

## 特記事項. . . . . 751

## 索引 . . . . . 755

---

## 第 1 章 Sterling Application Platform の紹介

本書は、Applications Manager を構成するルールおよびセットアップ構成に焦点を合わせています。本書は、IBM® Sterling Selling and Fulfillment Foundation 環境のセットアップに Applications Manager を使用する、ハブ管理者とエンタープライズ管理者の両方を対象読者としています。さらにビジネス・アナリストも、ビジネス慣行が Sterling Selling and Fulfillment Foundation に関係している場合は、その計画に本書を使用してください。プログラマーは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の拡張に関する情報について、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation カスタマイズ 基本*」を参照してください。システム・インテグレーターは、外部アプリケーションと Sterling Selling and Fulfillment Foundation との統合に関する情報について、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合ガイド*」を参照してください。

本書は、読者が「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き*」を読み、そこに詳述されている概念およびビジネス機能を理解していることを前提としています。

Applications Manager は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の実装に必要なすべてのルールおよびセットアップ構成の集合であり、各ビジネス・アプリケーションに対して個別に構成を実行できる仕方で編成されています。以下のビジネス・アプリケーションは、Applications Manager 内で構成できます。

- IBM Sterling Distributed Order Management
- IBM Sterling Global Inventory Visibility
- カタログ管理
- IBM Sterling Logistics Management
- IBM Sterling Supply Collaboration
- IBM Sterling Reverse Logistics
- IBM Sterling Warehouse Management System
- IBM Sterling Application Platform

---

### ビジネス・モデル

すべての Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーションが使用できる環境を包含する単一のビジネス・モデルはありません。したがって、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 環境を構成する単一の方法はありません。

例えば、会社が複数事業部制コーポレーション、サード・パーティーの物流管理企業、またはマーケットプレイス・ビジネス企業と見なされているとしましょう。これらの各ビジネス・モデルは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 構成に対して異なる概念アプローチを必要とします。

## 複数事業部制コーポレーション

複数事業部制コーポレーション・モデルは、主要な焦点が購入と販売のアクティビティを管理することであるビジネス・コーポレーションです。標準的な複数事業部制コーポレーションには、バイヤー、セラー、またはその両方が可能です。これはさらに、小売店、製造業者、またはその両方も可能です。複数事業部制コーポレーションがどのような形式を取るとしても、それは通常、消費者、小売店、販売業者、および相手先商標製造業者などの、さまざまなタイプの顧客との複数のチャネルを持ちます。

複数事業部制コーポレーション・モデルでは、各事業部は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation でエンタープライズとしてセットアップすることができます。このセットアップにより、事業部別のトランザクションの分離と、企業レベルでのグローバルな可視性の両方が可能になります。各エンタープライズは、固有のビジネス・ルール、ワークフロー、およびトランザクション処理を構成します。

## サード・パーティー物流管理

従来のサード・パーティー物流管理会社は、倉庫保管、輸送、および委託製造などの幅広いアウトソーシング・サービスを提供します。

大規模な会社では、そのサプライ・チェーンのリアルタイム管理によって、競争上の優位性を得ることができます。この利点には、コストの削減や顧客サービスの向上が含まれます。さらに、Web ストア、ハンドヘルド・デバイス、および店舗内キオスクなどの新たな販売チャネルにより、企業がその顧客に到達する新しい方法が備えられています。このすべての結果により、フルフィルメント・プロセスの複雑さは増大しました。

サード・パーティー物流管理モデルでは、各クライアントをエンタープライズとしてセットアップすることができます。このセットアップにより、サード・パーティーの物流管理ハブは、ハブ環境内のすべてのトランザクションの可視性を持つことができますが、エンタープライズとしてセットアップされているクライアントは、それ自身のトランザクションに対してのみ可視性を持ちます。これによりサード・パーティーの物流管理ビジネスは、固有のトランザクション処理をそのクライアントに提供することができます。

## マーケットプレイス

マーケットプレイスは、バイヤーとセラーを結び付けるオンラインの仲介です。マーケットプレイスは、多くのセラーからの提供アイテムを集約したり、交換またはオークションでバイヤーとセラーをマッチングさせることで、非効率を削減します。バイヤーは、これにより購入コストを引き下げ、新規のセラーに到達するために役立つことができます。セラーは、これによりセールス・コストを引き下げ、新規顧客へのアクセスを取得できます。これは中央ロケーション、つまりハブであり、そこでは信頼された仲介者がプロシージャーとテクノロジーの両方を統合して、コストを引き下げ、バイヤーとセラーのトランザクションの効率を強化します。

マーケットプレイス・モデルでは、各マーケットをエンタープライズとしてセットアップすることができます。このセットアップにより、各マーケットはその独自の製品またはサービスの取り扱いにおいて固有であることができます。

---

## アプリケーション・プラットフォームの構成

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、アプリケーション全体で使用される共通コンポーネントの集合です。これらのコンポーネントは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の他のすべてのビジネス・アプリケーション・モジュールが構築されるインフラストラクチャーです。

Applications Manager で、アプリケーション・プラットフォーム構成グループを使用して、ご使用のビジネス・アプリケーション向けに、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のさまざまな面を設定することができます。

### 参加者モデリング

Applications Manager の参加者モデリングは、組織とその関係を作成および維持するために使用されます。組織を作成すると、各組織の役割、それらが提供および使用するサービス、およびハブ内のすべての参加組織間でコラボレーション・プロセスをサポートするために必要なビジネス要素を定義することが可能になります。参加者モデリングについて詳しくは、27 ページの『第 3 章 参加者の構成』を参照してください。

### プロセス・モデリング

プロセス・モデリングは、ビジネス・ドキュメント・タイプの、プロセス・タイプの詳細パイプラインを定義します。プロセス・タイプは、1 つ以上のパイプラインと、特定の伝票種別 (例えば販売オーダーなど) がプロセス・タイプのライフサイクル中に通過するさまざまなステータスとで構成されます。プロセス・モデリングについて詳しくは、135 ページの『第 4 章 プロセス・モデルの構成』を参照してください。

### セキュリティー

セキュリティーは、アプリケーション・コンソールおよび Applications Manager のユーザー・インターフェース内で、ユーザーがアクション、ビュー、およびデータにアクセスできるようにセットアップする必要があります。ユーザーは、許可およびデータ・セキュリティー権限を持つ対象にのみアクセスを制限されます。

セキュリティーは、ユーザー、ユーザー・グループ、およびチームの作成に使用されます。詳しくは、213 ページの『第 5 章 ユーザー・セキュリティーの構成』を参照してください。

### システム管理

システム管理は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation インフラストラクチャー全体を通じて使用されるシステム・レベル情報を構成するために使用されます。システム管理により、システム・ページ条件、外部プログラム実装、およびインストール時ルールを定義できます。詳しくは、249 ページの『第 6 章 システム管理コンポーネントの構成』を参照してください。

### 単位

単位は、アイテムやロケールに関連付ける標準単位を定義するために使用されます。Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、寸法、容積、重量、および時間

の単位分類を提供しています。新しい単位を定義することに加えて、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、異なる単位間の変換率を作成する機能も提供しています。詳しくは、273 ページの『第 7 章 単位の構成』を参照してください。

## 国際化対応

国際化対応は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation をさまざまな海外向けロケールで実装するときを使用できる、一連のルールと共通コードを提供します。国際化対応は、国または地域コード、言語コード、日時形式、および通貨換算レートなどを定義するために使用できます。詳しくは、285 ページの『第 8 章 国際化対応のルールの構成』を参照してください。

## プレゼンテーション

プレゼンテーションは、ユーザー・インターフェース拡張性に必要なロケール、メニュー、テーマ、およびリソースを構成するために使用されます。詳しくは、299 ページの『第 9 章 プレゼンテーション・コンポーネントの構成』を参照してください。

## 通信

通信は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation と外部システムとの通信、およびビジネス・モデル内の別のビジネス組織との通信に使用するコードやドキュメントを定義する、ビジネス通信コンポーネントを構成するために使用します。詳しくは、329 ページの『第 10 章 ビジネス通信コンポーネントの構成』を参照してください。

## 命名法

命名法は、ビジネス・モデルで使用する固有の条件と、取引先が使用する一連の固有の条件とのマッピングを作成するために使用するコンポーネントを提供します。詳しくは、335 ページの『第 11 章 命名法コンポーネントの構成』を参照してください。

## キュー管理

キュー管理は、さまざまなユーザーおよびタイプの警告用のキューを作成するために使用されます。これらのキューは、構成済みのレベルと時刻に、指定されたユーザーに警告を通知するように設計できます。キュー管理は、構成済みユーザーへの通知方法を定義するためにも使用されます。詳しくは、343 ページの『第 12 章 警告キューの構成』を参照してください。

## 地域の定義

「地域の定義」は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation ジオグラフィー・エンジンが使用するコンポーネントを提供します。地域および地域レベルで構成される個々のコンポーネントは、ジオグラフィーを考慮する場合にはいつでも、Sterling Selling and Fulfillment Foundation ビジネス・アプリケーション・モデル全体を通じて使用できる地域スキーマを作成するために使用できます。地域の定義について詳しくは、349 ページの『第 13 章 地域定義の構成』を参照してください。

## 警告管理

警告管理により、ユーザーは新しい例外タイプ、組織例外タイプ、キュー、および例外ルーティング・ルールを作成できます。例外タイプはハブ・レベルで保守され、例外が割り当てられているキュー、例外のデフォルト優先順位、および高優先順位のしきい値などの情報が含まれます。優先順位番号が低くなれば、警告の優先順位は高くなります。高優先順位しきい値は、どの警告が高優先順位であるかを判別するために使用されます。高優先順位しきい値の番号より低い優先順位番号がある警告は、高優先順位と見なされます。「集約フック」、「解決フック」、および「解決ウィザード (Resolution Wizard)」などの、ここで構成できるいくつかの PCA 固有のフィールドもあります。

別のキューにルーティングするか、または異なる優先順位で発生させることができるように、特定の組織の例外タイプをオーバーライドする場合、新しい組織例外タイプを作成できます。組織例外タイプでは、作成時に例外が置かれるキューを決定するための複合ルーティング・ルールを構成できます。組織例外タイプは、このタイプの例外が発生する場合に E メール通知を送信するように構成することもできます。組織例外タイプは、組織レベルで保守されます。特定の組織に対して、例外を一度のみオーバーライドできます。

警告について詳しくは、381 ページの『第 17 章 警告の構成』を参照してください。



---

## 第 2 章 Applications Manager のナビゲート

---

### Applications Manager の始動

#### このタスクについて

Applications Manager にアクセスするには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. ブラウザーで、`http://<hostname>:<portname>/smcfs/console/start.jsp`を参照します。

ここで、

- `hostname` は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がインストールされているコンピューターのコンピューター名または IP アドレスです。
- `portnumber` は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がインストールされているコンピューターのリスニング・ポートです。

ブラウザーで「サインイン」ウィンドウが表示されます。

2. ログイン ID とパスワードを入力して「サインイン」ボタンを選択します。コンソールのホーム・ページが表示されます。
3. メニュー・バーから「構成」>「コンフィギュレーターの起動」を選択します。

Applications Manager が新しいウィンドウに表示されます。

また、エンタープライズを管理するエンタープライズ・ユーザーは、

`http://<Sterling Selling and Fulfillment Foundation installation server>/smcfs/console/login.jsp`からも Applications Manager をアクセスできます。

Applications Manager と System Management Console のモニターが両方同時に開いている状態で、いずれか一方のアプリケーションのダイアログ・ウィンドウが開いていると、もう一方のアプリケーションはそのダイアログ・ウィンドウが閉じるまでユーザー入力に応答しません。これは、Java プラットフォームのバグに起因するものです。

---

### Applications Manager のレイアウト

Applications Manager は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のさまざまな面を構成するために使用できるグラフィカル・ユーザー・インターフェースです。さまざまな構成は、Applications Manager メニュー・バーからアクセスできる、アプリケーションと呼ばれる論理グループによって定義されます。

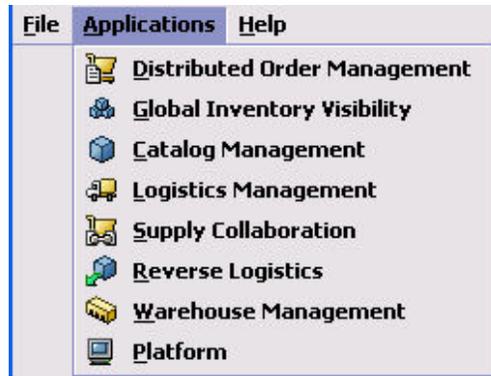


図1. アプリケーション・メニュー

各アプリケーションは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の特定の面に焦点を合わせており、Sterling Selling and Fulfillment Foundation が実世界のビジネス設定で機能するために必要なすべてのルール、共通コード、および設定が含まれています。

以下のアプリケーションは、このバージョンの Sterling Selling and Fulfillment Foundation で構成できます。

- 分散オーダー管理
- 統合在庫管理
- カタログ管理
- 物流管理
- 供給コラボレーション
- 返品物流
- 倉庫管理
- アプリケーション・プラットフォーム

構成するアプリケーションを選択すると、Applications Manager は、選択したアプリケーションに使用できるすべての構成ルールと、それらのルールを構成できる作業領域が含まれているサイド・パネルを表示します。

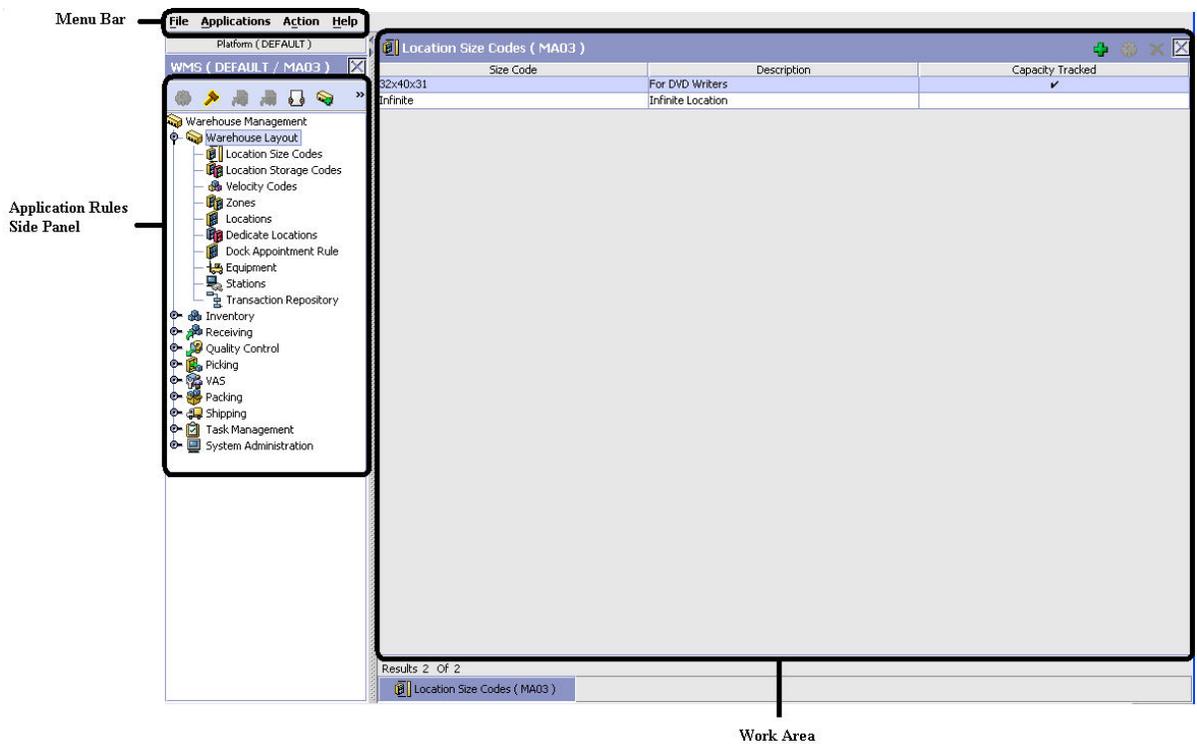


図 2. Applications Manager の標準インターフェース

## アプリケーション・ルールのサイド・パネル

アプリケーション・ルールのサイド・パネルは、アプリケーション内で使用されるプロセスに固有の要素を、階層ツリーで表示します。

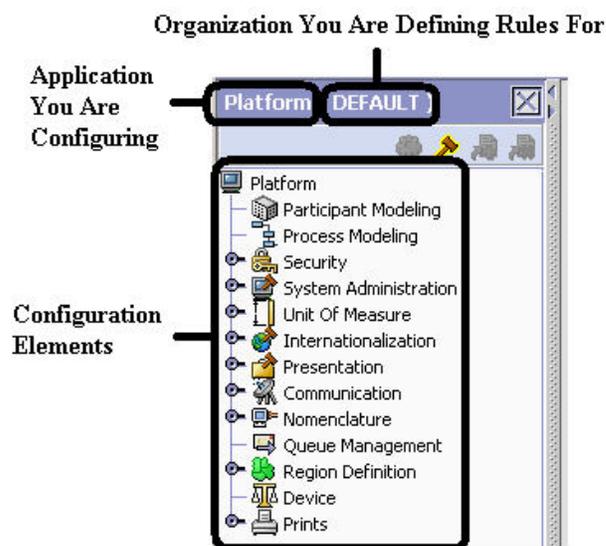


図 3. アプリケーション・ルールのサイド・パネルの例

また、アプリケーション・ルール・サイド・パネルには、ルールを構成する対象となる組織と、もしあれば、別の組織から継承したルールも示されます。

アプリケーション・ルール・サイド・パネルは、構成画面へのアクセス、継承の決定、および別の組織のルールのロードに使用できます。

## 構成画面へのアクセス

アプリケーション・ルール・サイド・パネルの主な目的は、アプリケーションの個々の構成画面にアクセスするためのインターフェースを備えることです。構成画面にアクセスするには、アプリケーション・ツリーを表示して、該当する構成要素をダブルクリックすると、要素の構成画面が作業域に表示されます。

## 継承の決定

Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、エンタープライズが作成されると、既存のエンタープライズの構成ルールのすべてまたは一部を継承できます。この継承は、構成グループ・レベルで実行されます。構成グループとは、類似の構成要素を分類したものです。例えば、アイテムを扱うルールと構成を、ある構成グループにまとめてグループ化し、組織を扱うすべてのルールと構成を、別の構成グループにグループ化します。

管理者組織は、システム内で定義されているすべての組織に対して設定されます。管理者組織のみが、特定の組織に対して定義されているルールを変更できます。特定の組織が複数の組織を管理する場合、アプリケーション・ツリー内にある管理対象の組織のルールをロードできます。別の組織のルールのロードについては、15 ページの『別の組織のルールをロード』を参照してください。

構成グループは、組織レベルに関連付けられます。組織レベルは、構成グループの継承方法と、それを保守できる組織を決定します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation で定義されている組織レベルは、以下のとおりです。

- ハブ・レベル - ハブ組織に関連付けられる構成グループ。
- エンタープライズ・レベル - ハブ環境内の、個々のエンタープライズ組織に関連付けられる構成グループ。
- カタログ組織 - ハブ環境内の、カタログを保守する組織 (複数可) に関連付けられる構成グループ。
- 在庫組織 - ハブ環境内の、在庫を保守する組織 (複数可) に関連付けられる構成グループ。
- 価格設定組織 - ハブ環境内の、価格設定を保守する組織 (複数可) に関連付けられる構成グループ。
- 組織 - ハブ環境内の、いずれかの組織に関連付けられる構成グループ。

アプリケーション・マネージャーは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」で説明されているデータ・アクセス・ポリシーに基づく構成データと許可はロードしません。

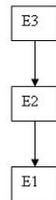
## プロセス・モデルの拡張継承

エンタープライズは、他のエンタープライズから以下のエンティティの構成を継承できます。

- パイプライン
- 外部プログラム
- サービス
- アクション
- 条件
- ステータス
- トランザクション
- イベント

エンタープライズが他のエンタープライズからこれらのエンティティを継承する場合、現在のエンタープライズは、継承の階層内の (ハブを含む) 他のすべてのエンタープライズから継承される構成を表示できます。さらに、現在のエンタープライズは、ハブに対して定義されている構成を表示できます。

例えば、以下の継承の階層について考慮してみましょう。



この階層では、エンタープライズ E1 はエンタープライズ E2 から継承しており、エンタープライズ E2 はエンタープライズ E3 から継承しています。エンタープライズ E1 は、エンタープライズ E2 とエンタープライズ E3 に対して定義されている構成を表示できます。さらに、エンタープライズ E1 は、ハブに対して定義されている構成を表示できます。

## 組織レベルのルール

以下の表では、組織レベルで定義された構成グループを保守できる組織の判別に使われるルールについて、詳しく記述しています。さらにこの表は、組織の作成時に構成グループの継承方法を決定するルールを説明しています。

表 1. 組織レベルのルール

組織レベル	このレベルで変更可能な組織...	継承詳細
ハブ・レベル	ハブ組織のみが、ハブ・レベルで構成グループを変更できます。他のすべての組織は、読み取り専用アクセス権限を持ちます。	すべての組織はこの情報を共有します。

表 1. 組織レベルのルール (続き)

組織レベル	このレベルで変更可能な組織...	継承詳細
エンタープライズ・レベル	エンタープライズ組織のみが、エンタープライズ・レベルで構成グループを変更できます。  エンタープライズ構成を必要とするすべてのビジネス・トランザクションは、トランザクション・コンテキストにより設定されたエンタープライズからピックアップされます。例えば、オーダー・ドキュメントには固有のエンタープライズがあります。	エンタープライズはこの構成を別のエンタープライズから継承できます。さらに、この構成は構成グループ・レベルでオーバーライドできます。
カタログ組織	カタログ組織として指定された組織は、カタログ組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。
在庫組織	在庫組織として指定された組織は、在庫組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。
価格設定組織	価格設定組織として指定された組織は、価格設定組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。
組織	役割 (セラー、バイヤーなど) が割り当てられている組織は、組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。

構成する組織と同じ在庫、キャパシティー、およびカタログ組織を持たないエンタープライズからは継承できません。

## アプリケーション・ルールのサイド・パネル

アプリケーション・ルールのサイド・パネルには、継承されているルールがグレー化されて表示されます。

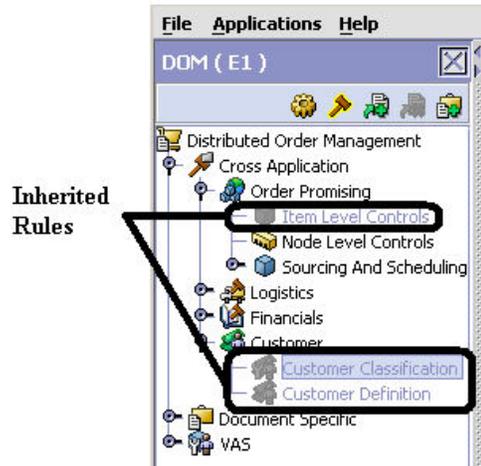


図4. アプリケーション・ルールサイド・パネルの継承済みルール

上記の表で記述されているように、ログインしている組織によっては、継承済みルールの一部をオーバーライドできる場合があります。ルールがオーバーライド可能な場合、ルールを強調表示すると、アプリケーション・ルールサイド・パネル内の「構成のオーバーライド」アイコンが使用可能になります。

#### Override Configuration Icon is Available

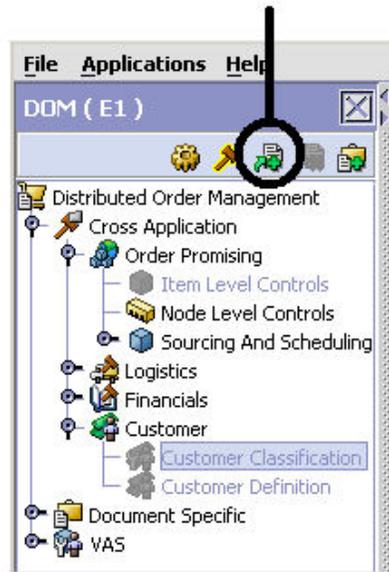


図5. 「構成のオーバーライド」アイコン

ルールのオーバーライドを選択した場合、オーバーライドするルールが関連付けられている構成グループ内の他のルールも、すべてオーバーライドされます。「構成のオーバーライド」アイコンを選択すると、「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、オーバーライドされるルールが表示されます。

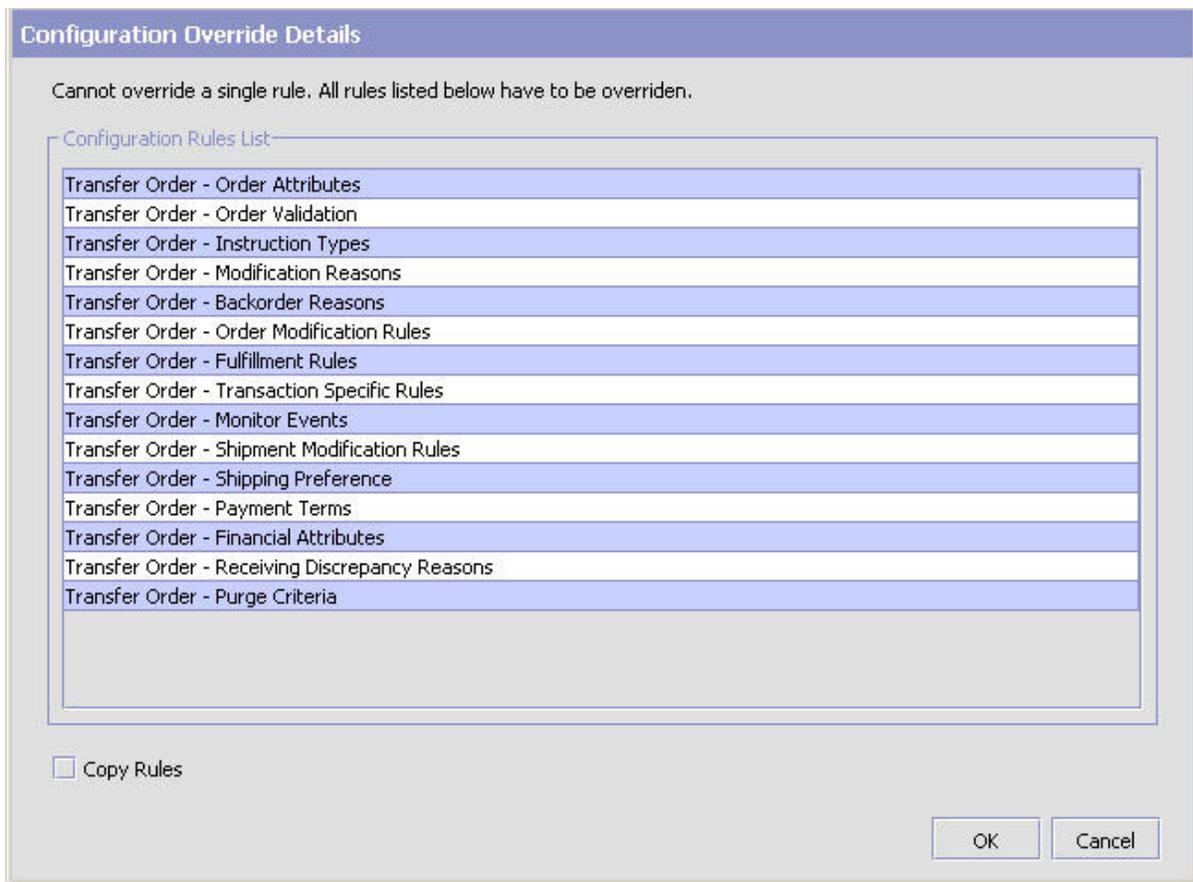


図6. 「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウの例

### 構成グループのオーバーライド

構成グループをオーバーライドし、次いで元のルールを「再継承」することを決めた場合は、「構成所有権を戻す」アイコンを選択できます。このアイコンは、オーバーライドされているルールのアプリケーション・ルール・サイド・パネルで使用できます。

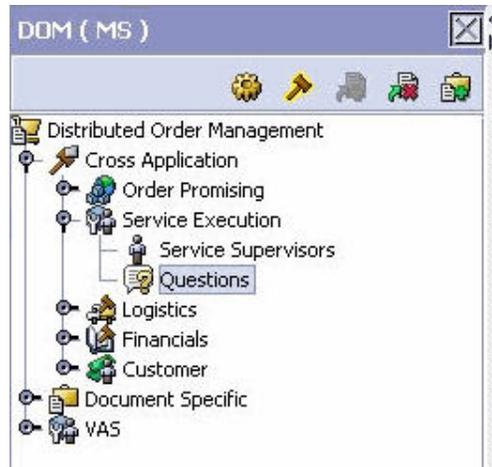


図7. 「構成所有権を戻す」アイコン

「構成所有権を戻す」アイコンを選択した場合、「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。このウィンドウに、再継承されるルールが示されます。

注: 「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウで「ルールの削除」フィールドを選択した場合、ルールの所有権をオリジナルの継承元の組織に戻し、そこから継承したすべてのルールを保持しないことになります。このフィールドを選択しなかった場合、ルールの所有権をオリジナルの継承元の組織に戻しますが、そこから継承したルールは保持することになります。

## 別の組織のルールをロード

### このタスクについて

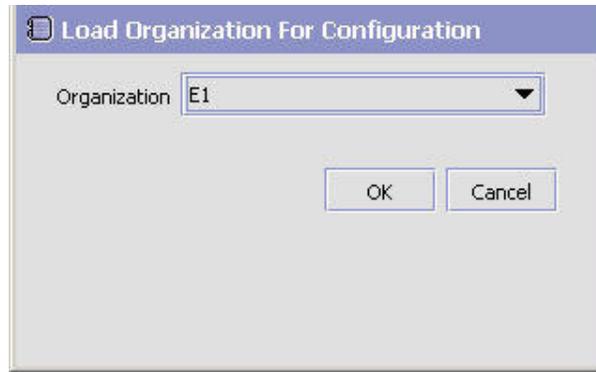
管理者組織は、システム内で定義されているすべての組織に対して設定されます。管理者組織のみが、特定の組織に対して定義されているルールを変更できます。特定の組織が複数の組織を管理する場合、アプリケーション・ツリー内にある管理対象の組織のルールをロードできます。管理可能な組織を判定するルールについては、11 ページの表 1 を参照してください。

アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから使用可能なルールは、選択した組織のタイプとそれが割り当てられている役割によって異なる場合があります。

別の組織のルールをロードするには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 該当するアプリケーション・ルールサイド・パネルで、 を選択します。「構成する組織のロード」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



2. 「組織」で、処理対象の組織を選択します。
3. 「OK」を選択します。その組織のルールがアプリケーション・ルールサイド・パネルに表示されます。

### タスクの結果

アプリケーション・ルールサイド・パネルで、処理対象の組織が括弧の中に表示されます。

## 作業領域

作業領域は、さまざまな構成画面が表示されるメイン領域です。作業領域に表示される画面のメイン・タイプは、検索、リスト、詳細、およびドラッグ・アンド・ドロップのウィンドウです。

### 検索ウィンドウ

「検索」ウィンドウでは、フィルタリングされた検索を行うための手段を提供します。「検索」ウィンドウの上部パネルでは、検索するエンティティに適用可能な条件を提供し、検索を絞り込むことができます。検索を実行すると、下部パネルに検索結果がリストされます。

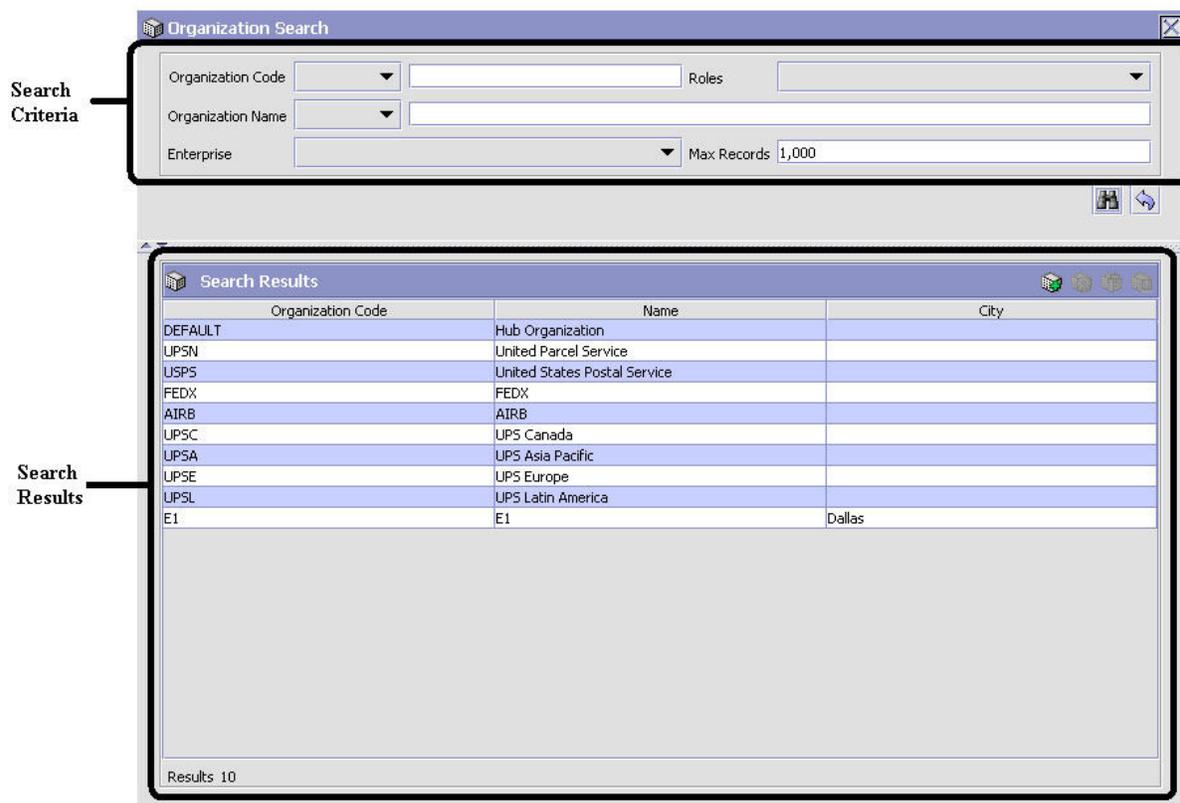


図 8. 「検索」ウィンドウ例

## リスト・ウィンドウ

検索を必要としない特定のルールまたはコードを構成することを選択すると、Applications Manager は、前に構成済みのルールおよびコードの基本リスト・ウィンドウを表示する場合があります。

Dimension UOMs ( DEFAULT )	
UOM Code	UOM Description
CM	Centimeter
FEET	Feet
IN	Inch
KM	Kilometer
METER	Meter
MILE	Mile

Results 6 Of 6

図9. リスト・ウィンドウの例

## 詳細ウィンドウ

詳細ウィンドウは、ほとんどの構成の実行に使用される、メイン・インターフェースです。詳細ウィンドウは、編集可能なフィールドとテーブル、エンティティのさまざまな特徴を構成するためのタブ、およびエンティティに対して実行可能な追加アクションを含むことができます。

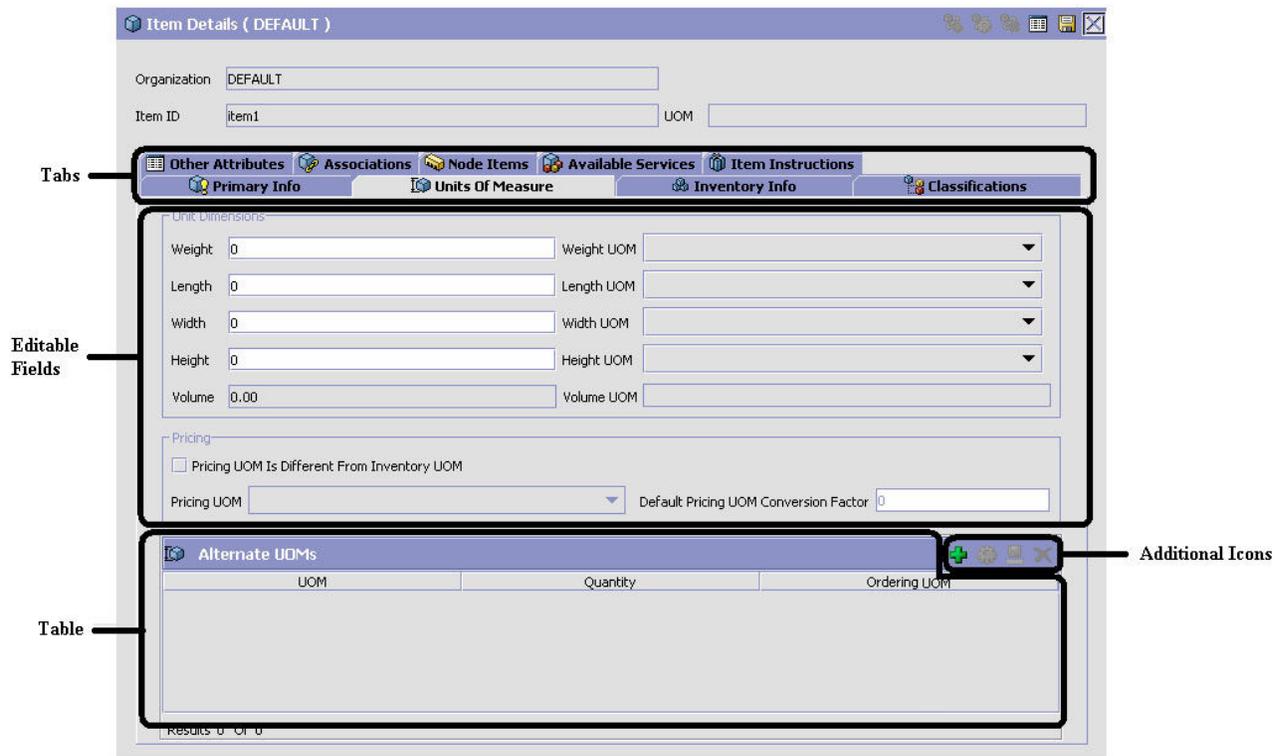
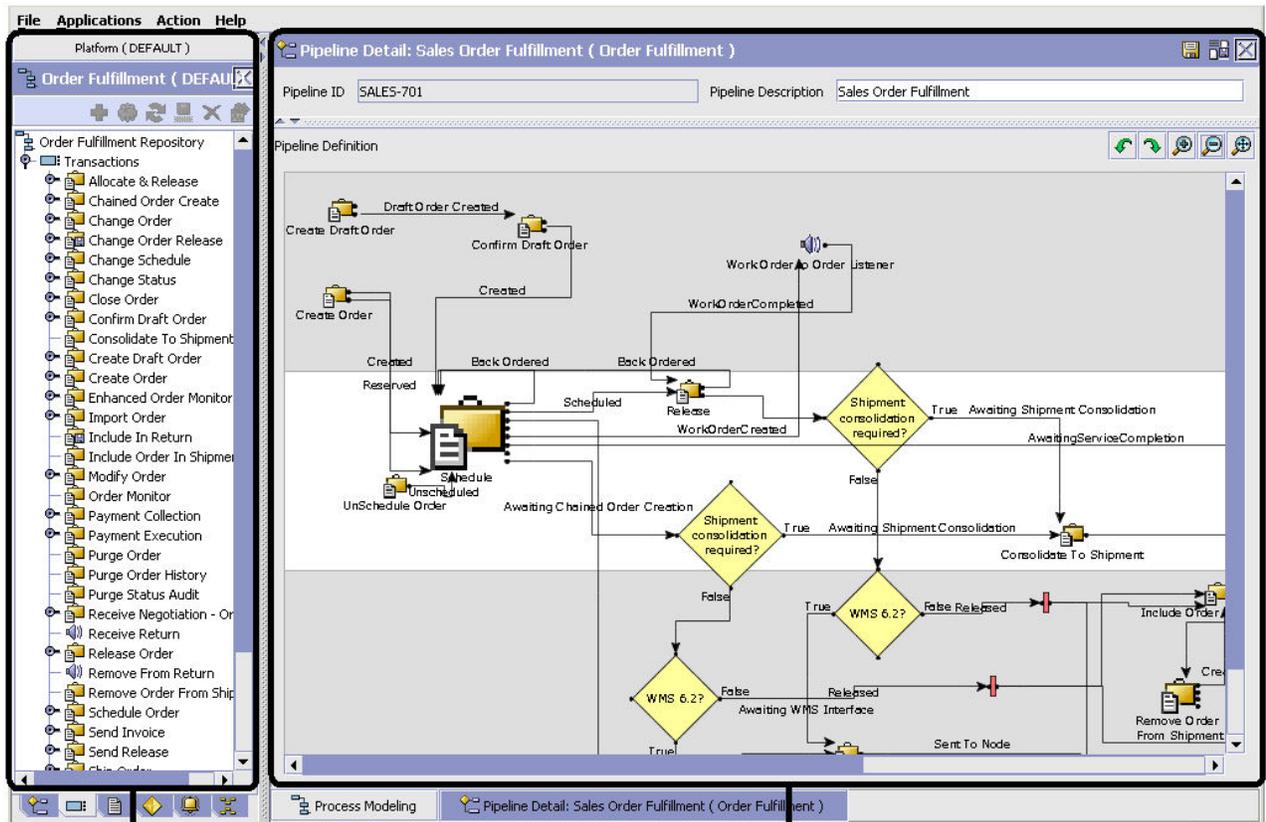


図 10. 詳細ウィンドウの例

## ドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウ

グラフィカルなドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウを使用して、パイプラインの作成、パイプラインの決定、イベント・ハンドラー、状況モニター・ルール、およびサービスを容易にできます。ドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウは、パレットとグラフィカル作業領域から成ります。



Pallet

Graphical Work Area

図 11. ドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウの例

これらのエンティティの構築を開始するには、トランザクションなどのコンポーネントをパレットから選択します。コンポーネントをグラフィカル作業領域にドラッグします。これでトランザクションが、それ自身のグラフィカル表現で表示されます。

1つのコンポーネントを別のコンポーネントに接続するには、コンポーネントの出力ポートから、別のコンポーネントの入力ポートまでマウスでドラッグして、接続ラインを形成する必要があります。コンポーネント間のリンクを、水平方向または垂直方向に設定することができます。

コンポーネントまたはリンクを削除するには、コンポーネントを右クリックして、「削除」を選択します。コンポーネントとリンクが構築されると、それらを任意の場所にドラッグして移動し、その位置に従って自動的にリンクを再描画することができます。Ctrl キーを押したままコンポーネントをドラッグすると、グラフィカル作業領域内でコンポーネントがコピーされます。

## Applications Manager で使用可能なアクション

Applications Manager では、検索機能の使用、ログイン・ユーザーの表示、リストとリスト・フィルタリングの使用、コンテキスト・ヘルプの使用、エラーのトラブルシューティング、および特殊文字の使用が可能です。

## Applications Manager のルックアップ機能の使用

Applications Manager 全体で、ルックアップ機能があるフィールドが多数あります。ルックアップ機能は、このフィールドに属する追加レコードの検索や作成を行うための機能です。例えば、「組織の詳細情報」画面の「主要情報」タブで、「ロケール」フィールドには、画面から新規ロケールを作成するためのルックアップ機能があります。「新規作成」ルックアップ・ボタンを選択すると、ユーザーが変更するロケールの詳細情報がポップアップ画面に表示されます。



図 12. ルックアップ・アイコンの例

ルックアップ・フィールドに表示される情報は、その特定フィールドに属するレコードの数により変わります。レコード数が 20 以下の場合、ルックアップは「新規作成」ボタンの付いたドロップダウン・リストとして表示されます。レコード数が 21 から 75 の場合、ルックアップは「検索」ボタンの付いたドロップダウン・リストとして表示されます。

レコード数が 75 より多い場合、ルックアップは「検索」ボタンの付いたテキスト・ボックスとして表示されます。値をテキスト・ボックスに入力するか、その値を「検索」ボタンを使用して検索できます。値を入力する場合、値は保存する際に妥当性検査されます。値がドロップダウン・リストとして表示される場合、必ず表示されるとおりに値を入力する必要があります。例えば通貨ルックアップの場合、通貨コードがテーブルに保存されるとしても、通貨の説明をテキスト・ボックスに入力する必要があります。ユーザーが誤った値を入力した場合、保存時にエラーが表示されます。

Applications Manager 内で特定のフィールドに対してルックアップを使用する場合、本書の対応するセクションを参照して、特定の情報をセットアップする必要があります。

## アプリケーションに関連付けられた伝票種別の表示

分散オーダー管理、供給コラボレーション、返品物流、および物流管理の構成アプリケーションで、アプリケーションに関連付けられたすべての伝票種別を表示できます。販売オーダー、転送オーダー、マスター・オーダー、見積もり、および購入オーダーは、すべての伝票種別の例です。

アプリケーションの関連付けられた伝票種別を表示するには、該当するアプリケーションをメニューから開いて、 をアプリケーション・ルールのサイド・パネルから選択します。「関連付けられた伝票種別」ウィンドウでは、作業しているアプリケーションに関連付けられたすべての伝票種別のリストを表示します。

Document Type	Description
0004	Template Order
0006	Transfer Order
0001	Sales Order
0007	Master Order
0015	Quote

Results 5 of 5

図 13. 「関連付けられた伝票種別」ウィンドウ

## 伝票種別のアプリケーションへの追加

### このタスクについて

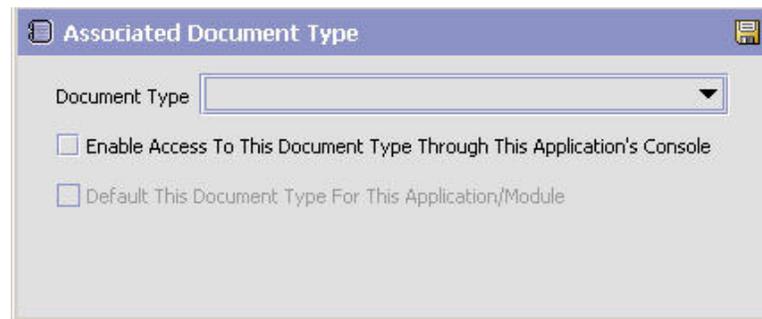
別のアプリケーションに関連付けられた伝票種別を、現在作業中のアプリケーションに追加することができます。

追加された伝票種別の関連する画面は、伝票種別を関連付けるアプリケーションに関係がない場合があります。

伝票種別をアプリケーションに追加するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「関連付けられた伝票種別」ウィンドウから、 を選択します。「関連付けられた伝票種別」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



2. 「伝票種別」から、アプリケーションに関連付ける伝票種別を選択します。

3. 「このアプリケーションのコンソールを使用してこのドキュメントへのアクセスを可能にする (Enable Access To This Document Through This Application's Console)」を選択します。
4.  を選択します。

## Applications Manager にログインしているユーザーの表示 このタスクについて

Applications Manager およびそのロケールにログインしているユーザーを表示できます。この情報を表示するには、アプリケーションの右下隅にあるユーザー・アイコンおよびロケール・アイコンの上にマウスを移動して、ツールチップを表示します。

## リストおよびリスト・フィルタリングの使用 このタスクについて

Applications Manager で任意のリストを表示するときに、条件の定義に基づいてリストの内容をフィルタリングすることができます。リストの列見出しを任意の位置で右クリックし、リストに関連付けられたテーブル・フィルター・エディターを使用して、フィルタリングを行うことができます。

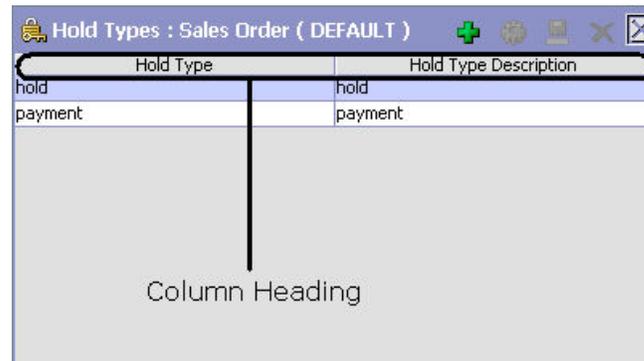


図 14. リストの列見出し

表 2. 「テーブル・フィルター・エディター」ウィンドウ

フィールド	説明
既存のレコードに適用	このボックスにチェック・マークを付けると、セット全体ではなく、事前にフィルタリングされた結果の新しいフィルター・セットを適用します。
最大レコード	フィルターから返されるレコードの最大数を指定します。デフォルトの数は 100 です。

表2. 「テーブル・フィルター・エディター」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
動的フィールド (Dynamic Fields)	<p>図 15 の「保留タイプ」や「保留タイプの説明」のフィールドは、表示しているリストに基づいて動的に読み込まれます。</p> <p>これらのフィールドは、テキスト・STRINGと「次と同じ」、「次から始まる」、または「次を含む」などの選択条件と組み合わせて検索することができます。</p>

「テーブル・フィルター・エディター」ウィンドウの例:

図 15. 保留タイプ: 販売オーダー

検索STRINGでは、大/小文字が区別されます。例えば、「Item」は「item」と同じ値を返しません。

## 日時エントリー

Applications Manager のすべての日付フィールドはカレンダー・アイコンを伴っており、これを使用してそのフィールドに関する日付を検索することができます。このアイコンをクリックすると、小さなカレンダーが表示されます。このカレンダーをナビゲートして目的の日付を指定することができます。例えば「カレンダーの作成」ウィンドウでは、「デフォルトの有効終了日」フィールドがカレンダー・アイコンを伴っており、このアイコンを使用して目的の出荷予定日を確認し、フィールドに入力することができます。

図 16. カレンダー・アイコンの例

Applications Manager のどの時刻情報も、入力することもできます。これを行うには、時刻フィールドをダブルクリックして、時刻を入力します。

Shift Name	Start Time	End Time
	<input type="text"/>	

図 17. 時刻フィールドの例

どの Applications Manager の場合も、時刻は 24 時間形式で入力する必要があります。

## コンテキスト・ヘルプの使用

### このタスクについて

「ヘルプ」ボタンをクリックして、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のコンテキスト・ヘルプにアクセスします。

## エラーのトラブルシューティング

### このタスクについて

Sterling Selling and Fulfillment Foundation で発生したエラーの説明と原因、およびトラブルシューティングするためのアクションについて表示することができます。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のシステム・エラーの説明を表示するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. メニュー・バーから、「ヘルプ」>「トラブルシューティング」を選択します。「エラー検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。エラー・コードのリストおよびその説明が表示されます。
3.  を選択して、エラーの原因およびトラブルシューティングするためのアクションを表示します。

## 特殊文字の使用

Applications Manager 全体で、データ入力の際に特殊文字の使用が必要なインスタンスがある可能性があります。Sterling Selling and Fulfillment Foundation での特殊文字の使用については、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation カスタマイズ 基本」を参照してください。



---

## 第 3 章 参加者の構成

サプライ・チェーン・コラボレーティブ・コマースを実行するために Sterling Selling and Fulfillment Foundation を使用する取引先は、参加者 と呼ばれます。各参加者は、定義された役割を持つ組織と見なされます。

---

### 組織の作成と変更

#### このタスクについて

組織を作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「参加者モデリング」>「参加者の設定」を選択します。作業領域に、「組織の検索」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「組織の作成」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、28 ページの表 3 を参照してください。
4.  を選択します。「組織の詳細情報」ウィンドウが表示されます。

表 3. 「組織の作成」ポップアップ

フィールド	説明
組織コード	組織を識別する固有のコードを入力します。
組織名	組織の名前を入力します。
DUNS 番号	単一のビジネス・エンティティの固有 ID となる 9 桁の固有 ID シーケンスを入力します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、いかなるロジックも DUNS 番号に関連付けません。
ハブのあるアカウント番号	組織がハブでない場合、この組織のハブのあるアカウント番号を入力します。
ロケール	ドロップダウン・リストから、組織の地理的位置を選択します。
親組織	ドロップダウン・リストから、親組織を選択します。
組織はエンタープライズである	この組織をエンタープライズとして構成する場合、このボックスをチェックします。 <b>注:</b> このチェック・ボックスを選択した場合、「主要エンタープライズ」ドロップダウン・リストは使用不可になります。

表 3. 「組織の作成」ポップアップ (続き)

フィールド	説明
割り当てられたコロニー ID	<p>ドロップダウン・リストから、コロニー ID か「デフォルト」コロニー ID を選択します。「デフォルト」コロニー ID は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation によって自動的にインストールされます。何も選択しない場合、「デフォルト」となります。</p> <p><b>注:</b> この選択は、「組織はエンタープライズである」チェック・ボックスが有効になっており、組織がマルチ・スキーマのデプロイメントの一部である場合に有効です。</p>
主要エンタープライズ	<p>「組織はエンタープライズである」チェック・ボックスが選択されていない場合、ドロップダウン・リストから適切な主要エンタープライズを選択します。</p> <p>この主要エンタープライズは、オーダー・コンソールの画面 (例えば、検索画面や作成画面) のエントリー・ポイントで表示されるデフォルトのエンタープライズです。</p> <p>「組織の詳細情報」画面でノード組織を作成または変更する場合、「ノード属性」タブの「主要情報」タブに表示されるアクションは、このエンタープライズに対して作成されたアクションです。特定の組織に関するエンタープライズ・レベルの構成が取り出される場合、ルールは常にその組織の主要エンタープライズから取り出されます。</p> <p><b>注:</b> 「組織はエンタープライズである」チェック・ボックスが選択されておらず、ドロップダウン・リストから適切な主要エンタープライズが選択されていない場合、保存時に「主要エンタープライズを指定してください」というエラーがスローされます。</p>
組織はフルフィルメント・ノードである	<p>組織がフルフィルメント・ノードであることを示すには、このボックスをチェックします。</p> <p>「ノード」で、ドロップダウン・リストからノード・タイプを選択します。ノード・タイプを作成するには、 を選択します。ノード・タイプの作成について詳しくは、132 ページの『ノード・タイプの作成』を参照してください。</p>
組織はヤードである	<p>組織がヤードであることを示すには、このボックスをチェックします。</p>
住所	<p>組織の企業本社の住所を入力します。この情報は必須です。</p> <p> を選択して、住所を入力します。</p> <p>追加の連絡先情報を表示するには、「問い合わせ先」タブを選択します。</p> <p>この住所の緯度および経度の座標も指定できます。</p> <p>緯度と経度は、10 進数形式で入力する必要があり、緯度は -90 から +90 まで、経度は -180 から +180 までにする必要があります。</p>

**注:** ユーザーがノードを作成するには、作成するノードに対してユーザーが作成後に自動的にアクセスできる必要があります。

以下のシナリオでは、ユーザーは新しく作成したノードに自動的にアクセスできます。

- ノードを作成しているユーザーがエンタープライズ・ユーザーであり、かつ
  - ユーザーにチームが関連付けられていない
  - ユーザーのチームの出荷ノード・アクセスが「全ノード」に設定されている
  - ユーザーのチームの出荷ノード・アクセスが「ユーザーのノード」に設定されており、作成しているノードの親がユーザーのエンタープライズである
  - ユーザーのチームの出荷ノード・アクセスが「チーム作成者がアクセス可能なノード」に設定されている場合、そのチームを作成したユーザーは新しく作成されたノードに自動的にアクセスできます。
- ノードを作成しているユーザーがノード・ユーザーであり、ユーザーのチームの出荷ノード・アクセスが「チーム作成者がアクセス可能なノード」に設定されている場合、そのチームを作成したユーザーは新しく作成されたノードに自動的にアクセスできます。

ユーザーのチーム構成で制限付きノード・セットへのアクセス権限が設定されているユーザーは、出荷ノードを作成できません。また、ユーザーがノード・ユーザーであり、そのユーザーにチームが関連付けられていない場合も、ユーザーは出荷ノードを作成できません。

## 組織の主要情報の定義

### このタスクについて

組織の主要情報では、組織に関する一般情報、および組織の企業住所と連絡先住所を提供します。

組織の主要情報を設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「主要情報」タブを選択します。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、31ページの表4を参照してください。
3.  を選択します。

表 4. 「主要情報」タブ

フィールド	説明
DUNS 番号	ビジネス・エンティティの固有 ID となる 9 桁の固有 ID シーケンスを入力します。
主要 URL (Primary URL)	組織のインターネット・アドレスの URL を入力します (該当する場合)。
管理者	この組織を管理する組織の組織コードを選択します。Applications Manager 内でこの組織に変更を加えることができるのは、選択された組織のみです。
ロケール	組織の地理的位置を選択します。
リソース ID	組織のリソース ID を入力します。
親組織	組織階層内で親組織を選択します。
組織の接尾辞	組織の接尾辞を入力します。組織の接尾辞は、企業顧客のバイヤー組織を作成するときに使用されます。

表 4. 「主要情報」タブ (続き)

フィールド	説明
法人組織	<p>この組織が独自の法人組織である場合は、このフィールドを選択します。</p> <p>法人組織は、自治体によって事業単位として識別される組織単位であり、通常、企業が活動を行っている各国または各地域に対して設けられています。組織単位は、通常自己完結型の組織であり、関連するすべてのトランザクションの記録、および財務諸表に関するすべてのサポート対象ドキュメントの生成に関与します。</p> <p>例えば、あるサード・パーティー・ロジスティクス企業が、米国とインドに存在する 2 つのエンタープライズから成るハブ組織として構成されている場合、米国とインドの両方のエンタープライズ組織が独自の法人組織になります。</p> <p><b>重要:</b> セラー組織を構成している場合、ある法人組織のセラー組織は、別の法人組織からの直接調達によってオーダーを処理することはできないことに注意してください。この場合、その組織で調達購入オーダーを作成する必要があります。</p> <p>調達購入オーダーは、連鎖オーダー・タイプのオーダーです。これは、顧客への最終的な出荷地点が組織内のノードであり、出荷ノードに十分な在庫がなく、外部組織のノードから補充する必要があるときに作成されます。</p>
割り当てられたコロニー ID	<p>「組織の作成」画面で選択されたコロニー ID を表示する読み取り専用フィールド。選択されていない場合は、「DEFAULT」が想定されます。</p> <p><b>注:</b> このフィールドは、マルチ・スキーマ・デプロイメントの場合にのみ表示されます。</p>
住所 (Address)	<p>組織の本社の住所。この情報は必須です。</p> <p>住所を入力する場合は、 を選択します。</p> <p>追加の連絡先情報を表示するには、「連絡先」タブを選択します。</p> <p>この住所の緯度および経度の座標も指定できます。</p> <p>緯度と経度は、10 進数形式で入力する必要があり、緯度は -90 から +90 まで、経度は -180 から +180 までにする必要があります。</p>

表 4. 「主要情報」タブ (続き)

フィールド	説明
連絡先住所	<p>組織の主な連絡先の住所。これは、「企業の住所」と異なってもかまいません。この情報は必須です。</p> <p>住所を入力する場合は、 を選択します。</p> <p>追加の連絡先情報を表示するには、「連絡先」タブを選択します。</p> <p>この住所の緯度および経度の座標も指定できます。これらの座標をノードに対して指定した場合、「フルフィルメント・ネットワーク・モデル」でノードをプロットする際に使用されます。フルフィルメント・ネットワーク・モデルについて詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 分散オーダー管理 構成ガイド」を参照してください。</p> <p>緯度と経度は、10 進数形式で入力する必要があり、緯度は -90 から +90 まで、経度は -180 から +180 までにする必要があります。</p>

## 組織の役割と参加者の関連付け

組織を希望どおりに機能させるには、1 つ以上の役割を付与する必要があります。各組織には少なくとも 1 つの役割が割り当てられます。**役割** とは、組織が実行できる、明確な一連のアクティビティのことです。各組織は少なくとも 1 つの役割を実行します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、以下の組織の役割をサポートします。

- バイヤー
- 運送会社
- エンタープライズ
- ハブ
- ノード
- セラー

### バイヤー

組織は、エンタープライズから、またはセラーとしてセットアップされている他の組織から製品を購入する場合は、**バイヤー** の役割が割り当てられます。

バイヤー組織は、複数のエンタープライズとともに参加できますが、一緒に参加する主要エンタープライズを割り当てる必要があります。バイヤーが主要エンタープライズを割り当てた場合は、そのエンタープライズの在庫ルールとカタログ集約ルールを採用することになります。バイヤーが複数のエンタープライズと対話する場合は、それぞれのエンタープライズのビジネス・ルールの境界内で作業します。

バイヤーは、セラー組織との関係や、バイヤーのサービスを構成できます。

## 運送会社

組織は、バイヤー、セラー、および顧客の間での配達サービスを提供する場合は、**運送会社** の役割が割り当てられます。「空路配送 (翌日)」などの特別サービスは、運送会社ごとに異なる提供内容とすることができます。例えば、UPS、Federal Express<sup>®</sup>、および米国郵政公社は、すべて運送会社の組織です。

運送会社は、小口貨物、小口貨物未満、小包などの、提供するサービスを構成できます。

## エンタープライズ

**エンタープライズ** はビジネスを仲介します。組織構造内の各組織は、エンタープライズであるか、またはあるエンタープライズをその主要エンタープライズとして指定している必要があります。

ハブ内の各エンタープライズは、多くの役割が割り当てられている多くの組織を持つことができます。

**注:** ハブがエンタープライズとして機能することもあります。

ハブ内のエンティティにエンタープライズの役割が割り当てられるかどうかは、ハブのビジネス・モデルに応じて異なります。例えば、マーケットプレイス・モデルでは、各マーケットにはエンタープライズの役割を割り当てることができます。このセットアップにより、各マーケットはその独自の製品またはサービスの取り扱いにおいて固有であることができます。

エンタープライズは、そのエンタープライズ内で対話する組織を定義できます。それらはすべての組織を通じて使用できるドキュメント定義をセットアップし、エンタープライズの運送会社プリファレンスを構成することもできます。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のエンタープライズは、オーダー・ドキュメントおよび物流管理ドキュメントのフローを制御し、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 全体を通じてさまざまなビジネス・ドキュメントの所有者と見なされます。

エンタープライズは、大半のビジネス・ルールとオーダーのフルフィルメント・プロセスを定義します。多くの場合、エンタープライズはドキュメント上で、販売オーダーなどの場合はセラー組織となることができ、購入オーダーの場合はバイヤー組織となることができます。他のケースとして、より高いレベルの組織単位がそのすべての従属組織のビジネス・ルールとドキュメント・フローを制御および実施しようとしている場合、エンタープライズによってこの組織単位を表すことができ、セラーバイヤー組織はその従属組織となります。

## ハブ

**ハブ** は、ハブの役割が割り当てられる中央組織であり、その周囲に他のすべての組織が構築されます。ハブは 1 つのみ存在します。一般にハブは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation を購入したエンティティです。ハブは、構成時に使用するビジネス・モデルの種類 (例えば、複数事業部制コーポレーション、サード・パーティー物流管理 (3PL)、またはマーケットプレイスなど) を決定します。

ハブは、複数のエンタープライズと対話するように他の組織を構成したり、その役割を割り当てたりできます。さらにハブは、すべての組織が使用できるドキュメント定義を決定し、インストール環境レベルのルールを構成します。ハブには、例えばハブとセラーなど、複数の役割を割り当てることができます。

## ノード

ノードは、物理ロケーションを表します (例えば、製造工場、小規模倉庫、またはウェアハウスなど)。ノードはバイヤーまたはセラーの役割を果たすこともできます。

ノード組織は、親組織がバイヤー、セラー、エンタープライズ、出荷ノード、または受入ノードのオーダーを参照できます。

ノードの役割は、以下のように指定されます。

- 子ノードは親組織に属します。これは子組織を持つことはできません。
- バイヤーまたはセラー・ノードは、親組織に属することができますが、必須ではありません。これは子組織を持つことができます。

注: 作成する組織が 1 つ以上のエンタープライズに参加する場合、各エンタープライズを関連参加者として識別する必要があります。

## セラー

組織は、エンタープライズに、またはバイヤーとしてセットアップされている他の組織に製品を販売する場合は、**セラー** の役割が割り当てられます。セラーは、支払タイプ、支払ルール、およびその組織の価格設定を構成できます。

オーダーを処理する場合、セラー組織は、オーダー、計画済みオーダー、および購入オーダーのプロセス・タイプ・パイプラインを使用できます。

セラー組織は、そのバイヤー、セラー、またはエンタープライズであるオーダーのみを参照できます。

## 組織の役割と参加者の関連付けの割り当て

### このタスクについて

組織の役割と参加者の関連付けを割り当てするには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「役割と参加」タブを選択します。



2. 「役割」ボックスで、この組織に適用する役割を選択します。
3. 「エンタープライズ」ボックスで、 を選択してから、この組織が参加するエンタープライズを「参加エンタープライズ」ポップアップ・ウィンドウから選択します。
4. 「エンタープライズ」ボックスから、組織の主要エンタープライズを選択します (該当する場合)。

## エンタープライズ属性の定義

組織の役割としてエンタープライズを選択した場合、エンタープライズに参加する組織を指示したり、他の組織の参加を追加または削除したりできます。エンタープライズの運送会社プリファレンスをセットアップすることもできます。

### エンタープライズの主要情報の定義:

このタスクについて

エンタープライズの主要情報を定義するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「エンタープライズ属性」を選択します。



2. 「エンタープライズ名」に、構成するエンタープライズの名前を入力します。
3. 別のエンタープライズからエンタープライズ・レベルのルールを継承するには、「エンタープライズから構成を継承する」から、継承する構成を持つエンタープライズを選択します。

注: 継承元のエンタープライズを指定しない場合は、作成するエンタープライズ用のすべてのルールを構成する必要があります。

4. 「UCC 接頭辞」に、出荷容器マーキング (SCM) でエンタープライズを識別するための UCC コードを入力します。
5. 「パスワード・ポリシー」で、このエンタープライズに関連付けるパスワード・ポリシーを選択します。

パスワード・ポリシーについては、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Password Policy Management*」を参照してください。

6. セラー連鎖オーダーを必要としている場合でも、連鎖オーダーが作成されないようにするには、「セラーが連鎖オーダーを必要とする場合も連鎖オーダーの作成を抑制する」チェック・ボックスを選択します。

### エンタープライズに参加する組織の指定:

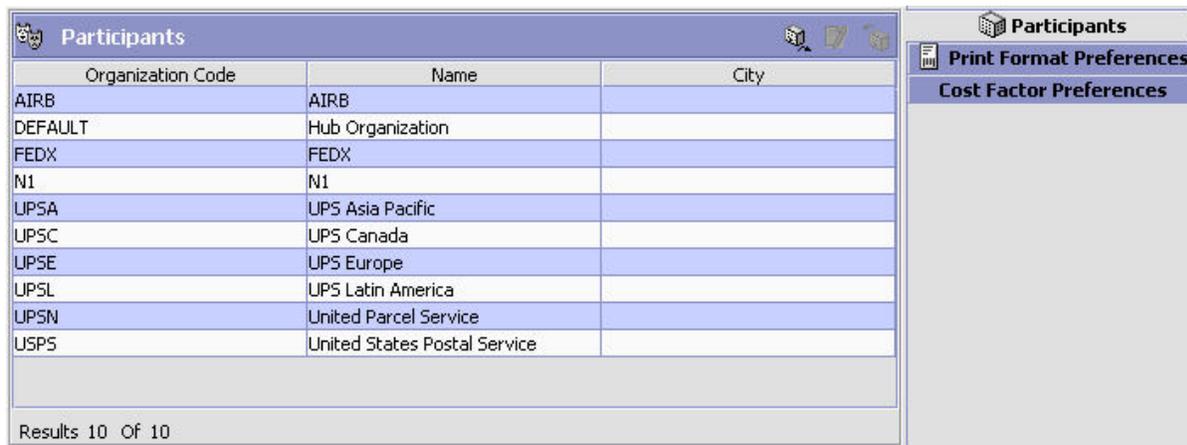
#### このタスクについて

運送会社組織やバイヤー組織など、複数の組織が 1 つのエンタープライズに参加できます。

特定のエンタープライズに参加する組織を指定するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「エンタープライズ属性」を選択します。「参加者」リストが表示されます。



Organization Code	Name	City
AIRB	AIRB	
DEFAULT	Hub Organization	
FEDX	FEDX	
N1	N1	
UPSA	UPS Asia Pacific	
UPSC	UPS Canada	
UPSE	UPS Europe	
USPL	UPS Latin America	
USPN	United Parcel Service	
USPS	United States Postal Service	

2.  を選択します。「組織を追加する参加者の検索 (Find Participants to Add Organization)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

3. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。組織のリストが表示されず。
4. エンタープライズに参加する組織を選択して、 を選択します。

**エンタープライズに関連付けられた組織の変更:  
このタスクについて**

エンタープライズには、関連付けられた組織の詳細を変更する機能があります。

エンタープライズに関連付けられた組織を変更するには、以下の手順を実行します。

**手順**

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「エンタープライズ属性」を選択します。「参加者」リストが表示されます。
2. 該当する組織を選択して、 を選択します。その組織に対する「組織の詳細情報」ウィンドウが表示されます。
3. 27 ページの『組織の作成と変更』のすべてのトピックを参照してください。
4.  を選択します。

**エンタープライズ参加からの組織の削除:  
このタスクについて**

エンタープライズにおける組織の参加を削除するには、以下の手順を実行します。

**手順**

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「エンタープライズ属性」を選択します。「参加者」リストが表示されます。

2. 該当する組織を選択して、 を選択します。

### エンタープライズの印刷形式プリファレンスの定義: このタスクについて

ドキュメントとラベルのデフォルトの印刷形式プリファレンスを設定できます。

エンタープライズの印刷形式プリファレンスをセットアップするには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「エンタープライズ属性」タブを選択します。
2. 「印刷形式プリファレンス」タブを選択します。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 5 を参照してください。
4.  を選択します。

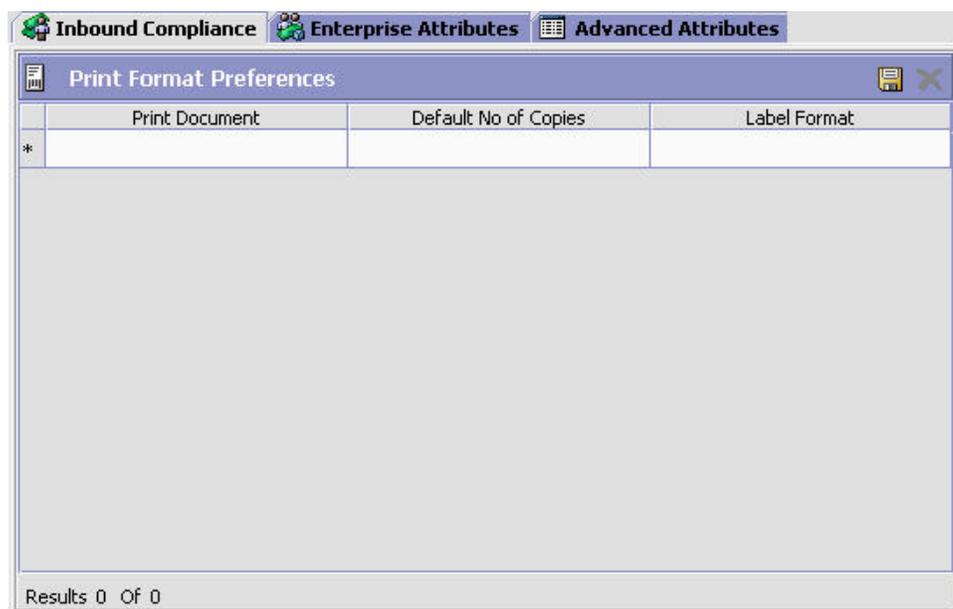


表 5. 「エンタープライズ属性」の「印刷形式プリファレンス」タブ

フィールド	説明
ドキュメントの印刷	ドロップダウンから、プリファレンスを構成する印刷ドキュメントを選択します。
デフォルトのコピー部数	印刷する部数を入力します。
ラベル書式	このドキュメント・タイプで使用するラベル書式を選択します。

### エンタープライズのコスト要因プリファレンスの設定:

## このタスクについて

エンタープライズがビジネス・モデルで使用する在庫コスト計算の要因を識別することができます。ベンダー・レベルでコスト要因を定義する場合は、エンタープライズのコスト要因プリファレンスを構成する必要はありません。

エンタープライズのコスト要因プリファレンスを設定するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「エンタープライズ」ロールを選択します。
2. 「コスト要因プリファレンス」タブを選択します。コスト要因プリファレンスのリストが表示されます。



3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表6を参照してください。

4.  を選択します。

表6. エンタープライズのコスト要因プリファレンスのリスト

フィールド	説明
標準コスト計算に使用するコスト要因グループ	ドロップダウン・リストから、このエンタープライズの標準コスト計算に使用するコスト要因グループを選択します。
荷役コスト計算に使用するコスト要因グループ	ドロップダウン・リストから、このエンタープライズの荷役コスト計算に使用するコスト要因グループを選択します。
物理キット・コスト計算に使用するコスト要因グループ	ドロップダウン・リストから、このエンタープライズの物理キット・コスト計算に使用するコスト要因グループを選択します。

## エンタープライズ属性: エンタープライズの在庫モニター・ルールの削除: このタスクについて

エンタープライズのノードでアイテムを追跡する場合は、アイテムの在庫モニター・ルールを使用して、最小および最大の在庫レベルを設定できます。アイテムがこれらのレベルのいずれかに達すると、アクションが構成されている場合は対応するイベントが実行されます。その後、該当する場合は、警告をトリガーするようにそのイベントを構成できます。

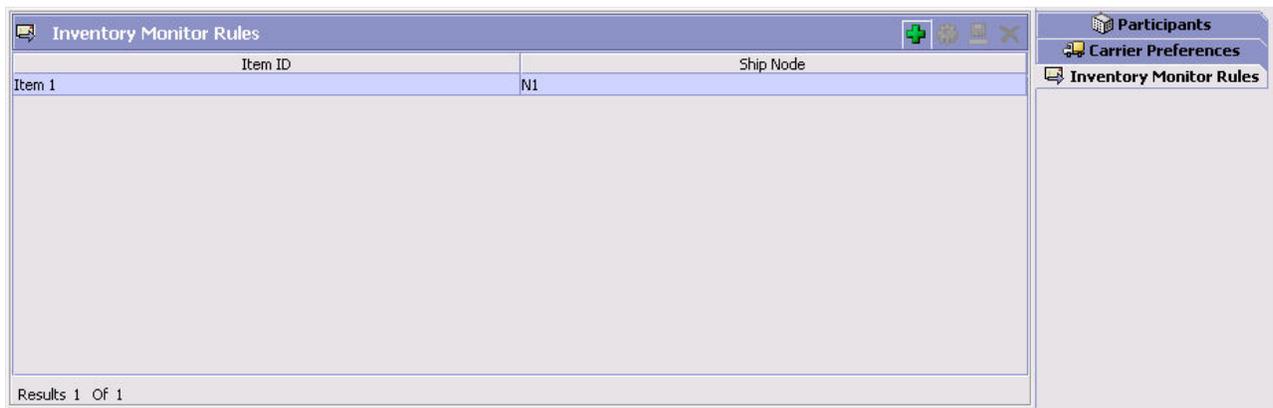
例えば、特定のアイテムに対して最小数量の 75 を設定できます。在庫数が減少し始め、最小レベルの 75 に達したときに、「E メール送信」アクションが発生するように最小アクションを構成できます。これにより、E メール・メッセージが送信され、在庫レベルが低減していることが管理者に通知されます。

在庫モニター・ルールを追加、変更、および削除を行うことができます。

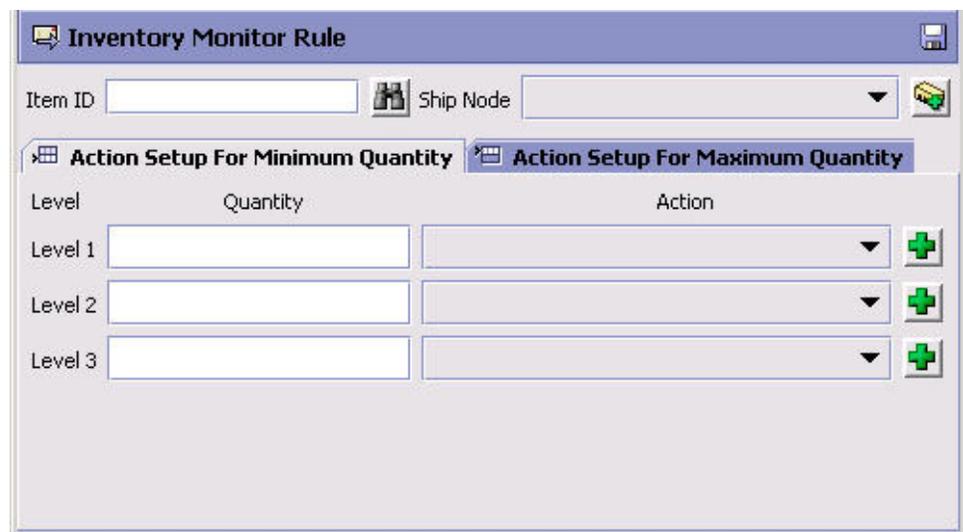
エンタープライズに在庫モニター・ルールを追加するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「エンタープライズ属性」を選択します。
2. 「在庫モニター・ルール」タブを選択します。「在庫モニター・ルール」リスト・ウィンドウが表示されます。



3.  を選択します。「在庫モニター・ルール」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。
5.  を選択します。



#### エンタープライズの在庫モニター・ルールの変更:

## このタスクについて

エンタープライズの在庫モニター・ルールを変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「エンタープライズ属性」を選択します。
2. 「在庫モニター・ルール」タブを選択します。「在庫モニター・ルール」リスト・ウィンドウが表示されます。
3. 該当する在庫モニター・ルールを選択して、 を選択します。「在庫モニター・ルール」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。
5.  を選択します。

## エンタープライズの在庫モニター・ルールの削除:

### このタスクについて

エンタープライズの在庫モニター・ルールを削除するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「エンタープライズ属性」を選択します。
2. 「在庫モニター・ルール」タブを選択します。「在庫モニター・ルール」リスト・ウィンドウが表示されます。
3. 該当する在庫モニター・ルールを選択して、 を選択します。

## セラー属性の定義

### このタスクについて

組織の役割としてセラーを選択した場合は、そのセラーが決済処理と連鎖オーダーを必要とするかどうか、およびデフォルトの支払ルールを設定するかどうかを指定します。「セラー属性」タブで、「支払処理が必要」を選択した場合は、ドロップダウン・リストからデフォルトの支払ルールも選択する必要があります。

セラー組織の属性を定義するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「セラー属性」を選択します。



Seller Attributes		Enterprise Attributes		Advanced Attributes	
<input checked="" type="checkbox"/>	Payment Processing Required	Default Payment Rule	DEFAULT	▼	
<input checked="" type="checkbox"/>	Requires Chained Orders	Default Price Program		▼	

注: 「デフォルトの価格プログラム」ドロップダウン・リストは、既存の価格設定サービスを使用する場合にのみ表示されます。既存の価格設定サービスの有効化について詳しくは、『システム管理のコンポーネント: インストール・ルールの定義』を参照してください。

2. 必要なフィールドに情報を入力します。

### セラーの印刷形式プリファレンスの定義: このタスクについて

ドキュメントとラベルのデフォルトの印刷形式プリファレンスを設定できます。

セラーの印刷形式プリファレンスを設定するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「セラー属性」タブを選択します。
2. 「印刷形式プリファレンス」タブを選択します。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表7を参照してください。
4.  を選択します。

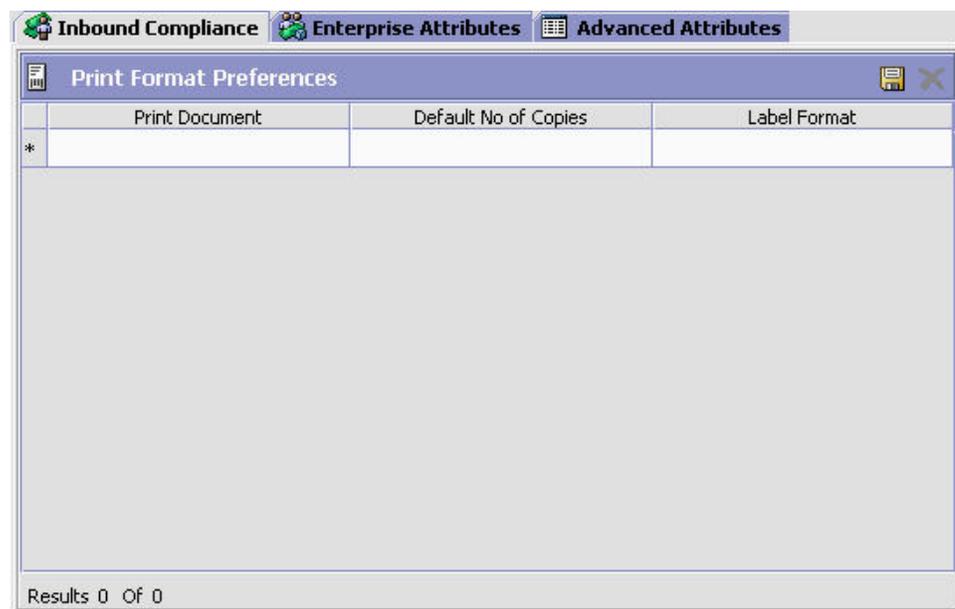


表7. 「セラー属性」の「印刷形式プリファレンス」タブ

フィールド	説明
ドキュメントの印刷	ドロップダウンから、プリファレンスを構成する印刷ドキュメントを選択します。
デフォルトのコピー部数	印刷する部数を入力します。
ラベル書式	このドキュメント・タイプで使用するラベル書式を選択します。

### セラーのコスト要因プリファレンスの設定:

## このタスクについて

セラー組織がビジネス・モデルで使用する在庫コスト計算の要因を識別することができます。ベンダー・レベルでコスト要因を定義する場合は、エンタープライズのコスト要因プリファレンスを構成する必要はありません。

セラーのコスト要因プリファレンスを設定するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「セラー」ロールを選択します。
2. 「コスト要因プリファレンス」タブを選択します。コスト要因プリファレンスのリストが表示されます。



3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 8 を参照してください。

4.  を選択します。

表 8. セラーのコスト要因プリファレンスのリスト

フィールド	説明
標準コスト計算に使用するコスト要因グループ	ドロップダウン・リストから、このセラーの標準コスト計算に使用するコスト要因グループを選択します。
荷役コスト計算に使用するコスト要因グループ	ドロップダウン・リストから、このセラーの荷役コスト計算に使用するコスト要因グループを選択します。

## セラー属性: エンタープライズの在庫モニター・ルールの定義:

### このタスクについて

エンタープライズのノードでアイテムを追跡する場合は、アイテムの在庫モニター・ルールを使用して、最小および最大の在庫レベルを設定できます。アイテムがこれらのレベルのいずれかに達すると、アクションが構成されている場合は対応するイベントが実行されます。その後、該当する場合は、警告をトリガーするようにそのイベントを構成できます。

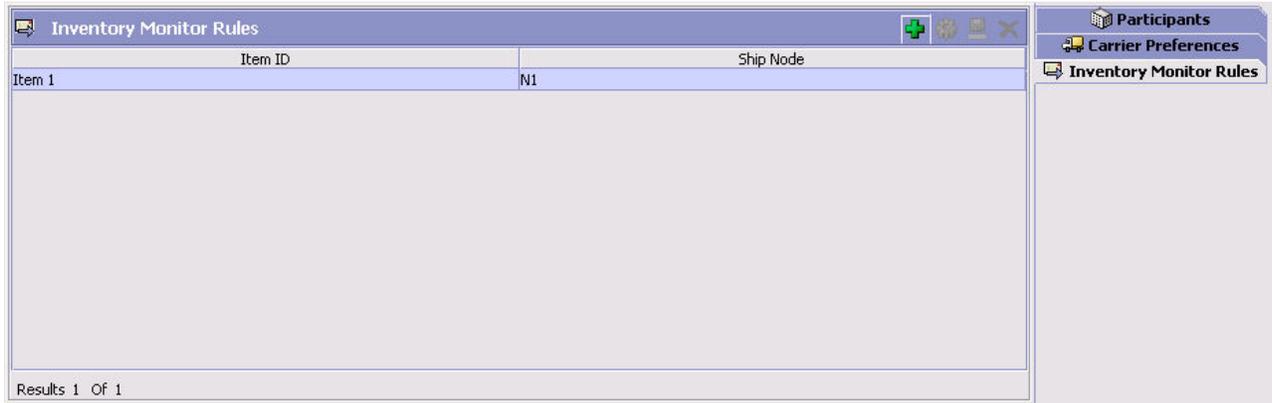
例えば、特定のアイテムに対して最小数量の 75 を設定できます。在庫数が減少し始め、最小レベルの 75 に達したときに、「E メール送信」アクションが発生するように最小アクションを構成できます。これにより、E メール・メッセージが送信され、在庫レベルが低減していることが管理者に通知されます。

在庫モニター・ルールの追加、変更、および削除を行うことができます。

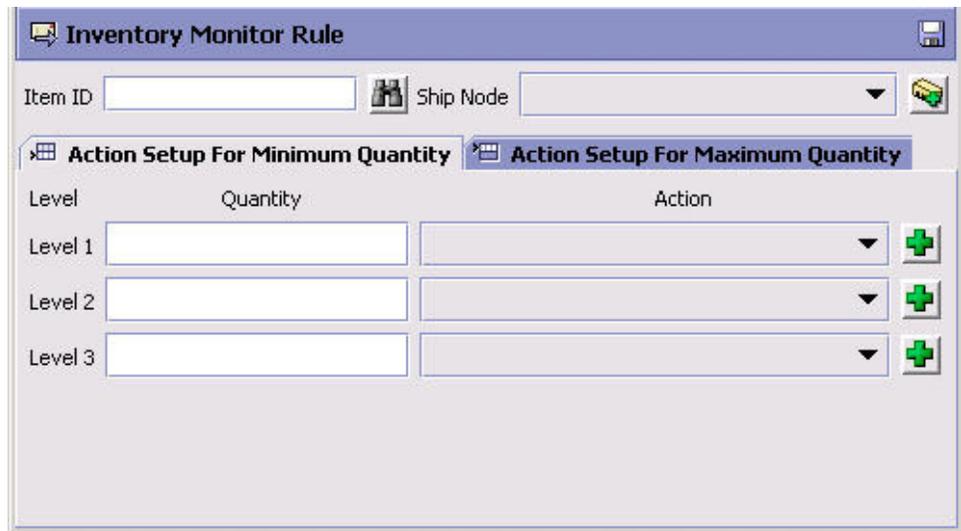
エンタープライズに在庫モニター・ルールを追加するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「エンタープライズ属性」を選択します。
2. 「在庫モニター・ルール」タブを選択します。「在庫モニター・ルール」リスト・ウィンドウが表示されます。



3.  を選択します。「在庫モニター・ルール」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。
5.  を選択します。



## バイヤーの属性の定義

組織の役割としてバイヤーを選択した場合、在庫コンプライアンスのバイヤー要件を指示することができます。在庫コンプライアンスは、バイヤーが出荷とルーティングに対して設定している条件です。

集約パラメーターの定義:

## このタスクについて

バイヤーの入庫コンプライアンスの集約パラメーターを設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「入庫コンプライアンス」タブを選択します。
2. 「集約」タブを選択します。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表9を参照してください。
4.  を選択します。

表9. 「入庫コンプライアンス」の「集約」タブ

フィールド	説明
要予約	バイヤーが配達を受け取るために予約を必要とする場合は、このボックスにチェックを付けます。
1 つの出荷内に混在させない	以下のオプションのいずれかが選択された場合、それらの属性に対して異なる値を持つアイテムについては、別の出荷を作成する必要があります。  例えば、「部門コード」を選択した場合、異なる部門のアイテムを同じ出荷に含めることはできません。
ノード ID のバイヤー・マーク	ノード ID のバイヤー・マークに基づいて別の出荷を作成する必要がある場合は、このボックスにチェックを付けます。
顧客 PO 番号	顧客の購入オーダー番号に基づいて別の出荷を作成する必要がある場合は、このボックスにチェックを付けます。

表9. 「在庫コンプライアンス」の「集約」タブ (続き)

フィールド	説明
部門コード	アイテムの対象となる部門に基づいて別の出荷を作成する必要がある場合は、このボックスにチェックを付けます。
贈答品フラグ	オーダー明細が贈答品アイテムであるときは別の出荷を作成する必要がある場合は、このボックスにチェックを付けます。
サービス・レベル (Level of Service)	オーダーのサービス・レベルに基づいて別の出荷を作成する必要がある場合は、このボックスにチェックを付けます。
マーク対象	この出荷のマーク対象である人物に基づいて別の出荷を作成する必要がある場合は、このボックスにチェックを付けます。
オーダー番号	オーダー番号に基づいて別の出荷を作成する必要がある場合は、このボックスにチェックを付けます。
オーダー・タイプ	バイヤーが定義したオーダー・タイプに基づいて別の出荷を作成する必要がある場合は、このボックスにチェックを付けます。
輸送の最適化	
エコノミック出荷パラメーターを維持	<p>エコノミック出荷パラメーター (ESP) は、出荷集約で使用されます。このフィールドは、以下のエコノミック出荷パラメーターのフィールドを有効にするために選択します。</p> <p>重量またはボリュームしきい値が満たされるまで、または一定の時間が経過するまで、ESP は出荷の集約をサポートします。出荷を集約することで、出荷コストは削減できます。</p> <p>例えば、出荷重量が 300 ポンド、または容積が 50 立方フィートまで出荷を集約するように設定できます。最終的に出荷が設定されていることを確認するために、条件が満たされるまで待機する最大日数を設定できます。</p> <p>重量、容積、または遅延のいずれかの出荷しきい値が満たされると、出荷は次の段階に移ります。</p>
出荷加速の限度 __ 日	<p>現在計画されている出荷日より早く出荷可能になった場合に、出荷日を前倒しできる日数を入力します。</p> <p>例えば、現在計画されている出荷日より最大 3 日間早く出荷可能にする場合は、「3」を入力します。</p>
出荷遅延時間の上限 __ 日	<p>出荷前にこの出荷が遅延可能な日数を入力します。例えば、重量のしきい値として 300 ポンドが設定されており、かつこのフィールドが 3 日に設定されている場合、重量のしきい値に達したかどうかに関係なく、3 日後に出荷されます。</p>
集約最大重量しきい値 (Consolidate up to weight threshold of)	重量を入力します。
集約最大容積しきい値 (Consolidate up to volume threshold of)	容積を入力します。

表9. 「入庫コンプライアンス」の「集約」タブ (続き)

フィールド	説明
1 つの集合・混載内に混在させない	以下の属性のいずれかが選択解除された場合、その属性に基づいて出荷を 1 つの集合・混載に集約できます。  例えば、「住所行 1」と「名前」が選択解除された場合、住所行 1 は異なるが、住所行 2 と 6 が同じである出荷を同じ集合・混載に含めることができます。
住所行 1	同じ住所行 1 に基づいて出荷を 1 つの集合・混載に集約したい場合は、このボックスのチェック・マークを外します。
住所行 2	同じ住所行 2 に基づいて出荷を 1 つの集合・混載に集約したい場合は、このボックスのチェック・マークを外します。
住所行 6	同じ住所行 6 に基づいて出荷を 1 つの集合・混載に集約したい場合は、このボックスのチェック・マークを外します。
Name	姓、ミドルネーム、名に基づいて出荷を 1 つの集合・混載に集約したい場合は、このボックスのチェック・マークを外します。

#### 運送会社プリファレンス・パラメーターの定義:

##### このタスクについて

バイヤーの入庫コンプライアンスの運送会社プリファレンス・パラメーターを設定するには、次の手順を実行します。

##### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「入庫コンプライアンス」タブを選択します。
2. 「小包運送会社プリファレンス」タブを選択します。

##### タスクの結果

運送会社プリファレンスの定義については、81 ページの『ノードの小包運送会社プリファレンスの定義』で説明されています。それらの手順を使用して、バイヤーの運送会社プリファレンスを定義して管理します。

**ルーティング・パラメーターの定義:** バイヤーのルーティング・パラメーターは、ルーティング・ガイドで構成されます。ルーティング・ガイドは、出荷のルーティング方法を決定する条件のリストです。ルーティング・ガイドは、有効である期間と、適用時期の条件があります。これらの条件は、運賃条件と部門に基づいています。

各ルーティング・ガイドには、ルーティング・ガイド明細 のリストが含まれており、それぞれには運送会社の選択についての詳細な条件が記述されています。ルーティング・ガイド情報は、VICS (Voluntary Interindustry Commerce Standards) ルーティングにより使用されるデータに基づいています。

##### ルーティング・プリファレンスの設定:

## このタスクについて

バイヤーの全体的なルーティング・プリファレンスを設定するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「入庫コンプライアンス」タブを選択します。
2. 「ルーティング」タブを選択します。
3. 表 10 で説明されている方法で、「ルーティング・ガイド」の値を設定します。

表 10. ルーティング・ガイドのプリファレンス

フィールド	説明
ルーティングの地域スキーマ	ルーティングの適切な地域スキーマを選択します。  を選択します。「地域スキーマの詳細」ウィンドウが表示されます。地域スキーマの詳細の変更について詳しくは、352 ページの『地域スキーマの定義』を参照してください。
<b>ルーティング・ガイド</b>	
保持しない	手動ルーティングを使用するには、これを選択します。出荷は出荷コンソールで管理され、どのルーティング・ガイドも利用されません。
Sterling Selling and Fulfillment Foundation で管理	Sterling Selling and Fulfillment Foundation で管理されているルーティング・ガイドを使用して、出荷のルーティング方法を決定する場合に選択します。  エンタープライズによりここで保守されるルーティング・ガイドに加え、バイヤー組織のルーティング・ガイドが存在している可能性があります。
外部で管理	外部ルーティング・システムを使用することを示すには、これを選択します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation で管理されているルーティング・ガイドは参照されません。  外部ルーティング・システムの例には、統合された Transportation Management System (TMS) の使用や、バイヤー組織に問い合わせる外部プログラムの実装などがあります。

## ルーティング・ガイドの作成:

### このタスクについて

ルーティング・ガイド は、出荷のルーティング方法を決定する条件のリストです。ルーティング・ガイドは、有効である期間と、適用時期の条件があります。これらの条件は、運賃条件と部門に基づいています。

各ルーティング・ガイドには、ルーティング・ガイド明細 のリストが含まれており、それぞれには運送会社の選択についての詳細な条件が記述されています。ルーティング・ガイド情報は、VICS (Voluntary Interindustry Commerce Standards) ルーティングにより使用されるデータに基づいています。

ルーティング・ガイドを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「出庫制約」を選択します。作業領域に、「出庫制約」ウィンドウが表示されます。
2. 「ルーティング・ガイド」リスト・ウィンドウで  を選択します。作業領域に、「ルーティング・ガイドの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 11 を参照してください。
4.  を選択します。

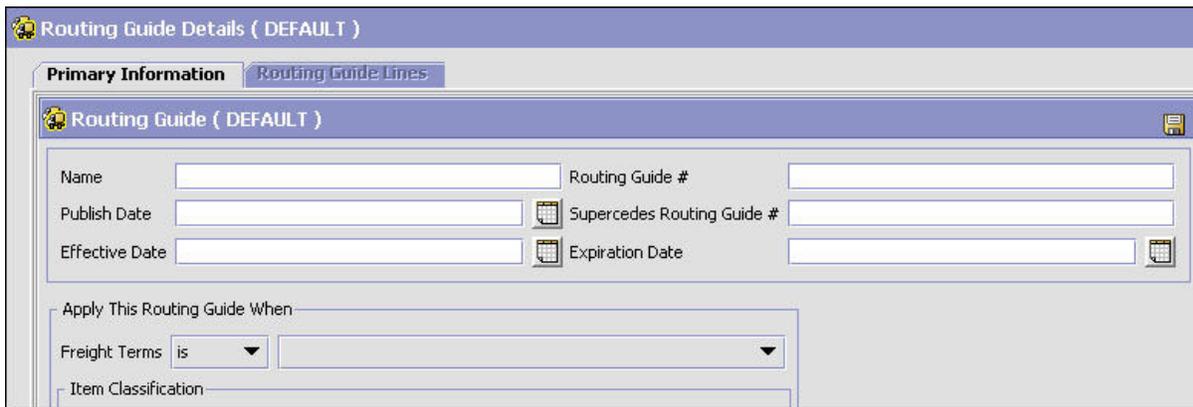


図 18. 「ルーティング・ガイドの詳細」ウィンドウ

表 11. 「ルーティング・ガイドの詳細」ウィンドウ

フィールド	説明
名前	ルーティング・ガイドの名前を入力します。
ルーティング・ガイド番号	ルーティング・ガイドの番号です。
発行日	このルーティング・ガイドがシステム内で使用可能になる日付です。
ルーティング・ガイド番号の置換 (Supersedes Routing Guide #)	追跡情報です。例えば、「1234」というルーティング・ガイドに小さな改訂を加えた場合は、「1234-A」というルーティング・ガイドを作成して、このルーティング・ガイドによってルーティング・ガイド「1234」を置き換える旨を入力できます。このフィールドは情報提供のみを目的としており、有効なルーティング・ガイドを決定するために使用されません。
有効日	このルーティング・ガイド内のルーティング情報の適用を開始する日付です。有効日と有効期限に基づいて、ルーティング・ガイド明細を特定の期間にわたって適用できます。
有効期限 (Expiration Date)	このルーティング・ガイド内のルーティング情報の適用を終了する日付です。
このルーティング・ガイドを適用する場面	

表 11. 「ルーティング・ガイドの詳細」 ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
運賃条件	<p>この条件が満たされた場合にこのルーティング・ガイドを適用します。「次と同じ」、「次のいずれか (is in)」、または「次に含まれない」を選択します。それぞれの説明は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 単一の運賃条件を指定するには、「次と同じ」を選択します。</li> <li>• いずれかに一致する必要がある一連の運賃条件を指定するには、「次のいずれか (is in)」を選択します。</li> <li>• 一連の運賃条件を指定するには、「次のいずれでもない (is not in)」を選択します。運賃条件がこれらの値のいずれにも一致しない場合に、このルーティング・ガイドが使用されます。</li> </ul>
製品分類	<p>アイテムを分類できます。</p> <p>このフィールドが表示されるのは、ルーティング・ガイドに対して有効なアイテム分類がセットアップされている場合です。</p>

### ルーティング・ガイドの変更:

#### このタスクについて

ルーティング・ガイドを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「出庫制約」を選択します。作業領域に、「出庫制約」ウィンドウが表示されます。
2. 「ルーティング・ガイド」リスト・ウィンドウでルーティング・ガイドを選択して、 を選択します。
3. 作業領域に、「ルーティング・ガイドの詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、50ページの表 11 を参照してください。
5.  を選択します。

### ルーティング・ガイドの削除:

#### このタスクについて

ルーティング・ガイドを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「出庫制約」を選択します。作業領域に、「出庫制約」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するルーティング・ガイドを選択して、 を選択します。

### ルーティング・ガイド明細の作成:

## このタスクについて

ルーティング・ガイド明細には、出荷品をルーティングする際に使用する特定の条件が含まれています。1 つのルーティング・ガイドに、複数のルーティング・ガイド明細を含めることができます。

ルーティング時には、出荷品がルーティング・ガイド明細と照合されます。指定された条件に基づいて、運送会社と運送会社サービスが選択されます。

ルーティングの結果として出荷宛先が変更された場合は、変更された宛先をルーティング要因として、システムによって再ルーティングされます。このタイプの構成は集約者ノードに使用されます。2 回目のルーティング時に、宛先ノードが含まれているが、他のどの宛先パラメーター (住所など) も入力されていないルーティング・ガイド・エントリーがシステムによって検索されます。

ルーティング・ガイド明細を作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「ルーティング・ガイドの詳細」ウィンドウで、「ルーティング・ガイド明細 (Routing Guidelines)」タブを選択します。「ルーティング・ガイド明細 (Routing Guidelines)」タブにアクセスするためには、「主要情報」タブで入力した情報を保存します。
2. 「ルーティング・ガイド明細の検索」ウィンドウが表示されます。

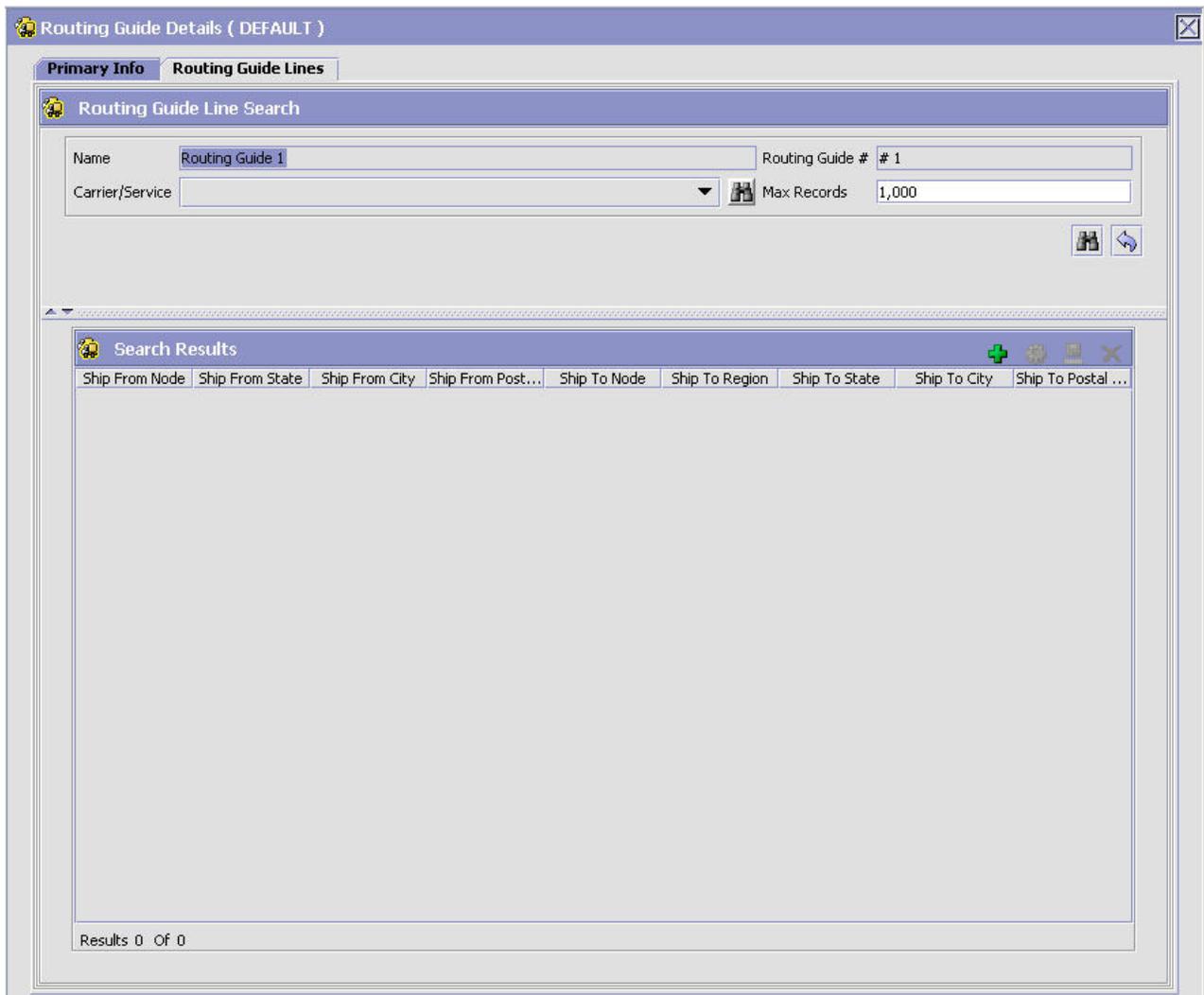


図 19. 「ルーティング・ガイドの詳細」ウィンドウ

3.  を選択します。「ルーティング・ガイド明細の詳細」画面が作業領域に表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、54 ページの表 12 を参照してください。
5.  を選択します。

表 12. ルーティング・ガイド明細の詳細

<p>条件の設定:</p> <p>以下のフィールドの多くでは、「次と同じ」、「次のいずれか (is in)」、または「次のいずれでもない (is not in)」を選択してから、値を指定できます。それぞれの説明は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一致する必要がある単一の値を指定するには、「次と同じ」を選択します。</li> <li>いずれかに一致する必要がある一連の値を指定するには、「次のいずれか (is in)」を選択します。</li> <li>一連の値を指定するには、「次のいずれでもない (is not in)」を選択します。これらの値のいずれにも一致しない場合に、そのルーティング・ガイド明細が使用されます。</li> </ul> <p>例えば、一連の都道府県のいずれかに一致させるには、「都道府県」について「次のいずれか (is in)」を選択して、「東京」、「大阪」、「愛知」などを指定します。この条件の検証時に、「東京」は一致対象となりますが、「福岡」は一致対象となりません。</p>	
フィールド	説明
出荷元	
ノード	ノードを選択します。
出荷元がノードでない場合、以下の属性を選択する	出荷元がノードではない場合はこのオプションを有効にしてから、次の条件のうち 1 つ以上を入力します。
国/地域	国または地域の名前を選択します。
都道府県	都道府県の名前を入力します。
市区町村	市区町村の名前を入力します。
郵便番号	郵便番号または郵便番号の範囲を入力します。
出荷先	
ノード	ノードを選択します。
地域	地域を入力します。
出荷先がノードでも地域でもない場合、以下の属性を選択する	出荷先が特定地域内のノードではない場合はこのオプションを選択してから、次の条件のうち 1 つ以上を選択します。
国/地域	国または地域の名前を選択します。
都道府県	都道府県の名前を入力します。
市区町村	市区町村の名前を入力します。
郵便番号	郵便番号または郵便番号の範囲を入力します。
集約者	集約者の名前を選択します。
ストア	ストアの番号を選択します。
重量の範囲:	重量の条件を指定できます。例えば、重量が 100 から 500 ポンドの間のパッケージを特定の運送会社で出荷するには、「下限 (From)」に「100」と指定して、「上限 (To)」に「500」と指定します。
出荷元 (From)	最小値を入力します。
宛先 (To)	最大値を入力します。
容積の範囲:	容積を一致させることができます。例えば、容積が 3 から 10 立方フィートの間のパッケージを特定の運送会社で出荷するには、「下限 (From)」に「3」と指定して、「上限 (To)」に「10」と指定します。

表 12. ルーティング・ガイド明細の詳細 (続き)

出荷元 (From)	最小値を入力します。
宛先 (To)	最大値を入力します。
取り扱い単位の範囲:	容器の数です。
出荷元 (From)	最小値を入力します。
宛先 (To)	最大値を入力します。
要請された運送会社サービス・コードが以下の場合	
配達サービス・コード (Carrier Service Code)	運送会社サービス・コードを選択します。
運送会社サービスの定義について詳しくは、56 ページの『運送会社サービスの定義』を参照してください。	
出荷経路:	
優先順位	このルール of 相対的重要度を決定する番号を指定します。  出荷品がルーティング・ガイド明細と照合された場合、使用可能な 2 つの運送会社サービスが存在する可能性があります。この優先順位は、そのような競合状況を解決するために使用されます。優先順位の番号が最も小さい運送会社サービスが使用されます。
運送会社/サービス	希望の運送会社とサービス・コードを指定します。
バルク仕分けノード (Break Bulk Node)	バイヤーに近接しているバルク仕分けノードです。
指定された連絡先	出荷品の連絡先詳細が指定されているかどうかを示します。
オーバーライドあり:	
運賃条件のオーバーライド	出荷品の運賃条件をオーバーライドする場合に選択します。
出荷先のオーバーライド	「出荷先」の値をオーバーライドするには、このフィールドを選択してから、次のいずれかを選択します。このフィールドが使用されるのは、出荷先住所が変更されたためにルーティングが再実行される場合のみです。
ノード	ノード名を選択します。
集約者	集約者の名前を選択します。
ストア	ストアの番号を選択します。

### タスクの結果

設定された条件が検証されると、最も多くの条件に一致するルーティング・ガイド明細が使用されます。例えば、次の 3 つのルーティング・ガイド明細が存在するとします。

ルーティング・ガイド明細 A - 出荷元がマサチューセッツの場合に実行する内容

ルーティング・ガイド明細 B - 出荷元がマサチューセッツであり、かつ出荷元の郵便番号が 01810 の場合に実行する内容

ルーティング・ガイド明細 C - 出荷元がマサチューセッツまたはニューヨークの場合に実行する内容

出荷元の郵便番号が 01810 の場合は、これらのルーティング・ガイド明細のすべてに一致します。この場合は、最も多くの条件 (州と郵便番号) が満たされているルーティング・ガイド明細 B で指定されたアクションが使用されます。

出荷元がマサチューセッツであるが、出荷元の郵便番号が 01810 でない場合は、ルーティング・ガイド明細 A とルーティング・ガイド明細 C の両方が一致します。このような場合は、優先順位の番号が小さい方のガイド明細が使用されます。例えば、ルーティング・ガイド明細 A の優先順位番号が 3 であり、ルーティング・ガイド明細 C の優先順位番号が 5 の場合は、ルーティング・ガイド明細 A が使用されます。

#### **ルーティング・ガイド明細の変更:**

##### **このタスクについて**

ルーティング・ガイド明細を変更するには、以下の手順を実行します。

##### **手順**

1. 「ルーティング・ガイド明細の詳細 (Routing Guidelines Details)」ウィンドウで、「ルーティング詳細 (Routing Details)」タブを選択します。「ルーティング・ガイド明細の検索」ウィンドウが表示されます。
2. 「ルーティング・ガイド明細」リスト・ウィンドウでルーティング・ガイド明細を選択して、 を選択します。「ルーティング・ガイド明細の詳細」検索ウィンドウが表示されます。
3. 該当するフィールドに新しい情報を入力します。フィールドの値の説明については、「ルーティング・ガイド明細の詳細」テーブルを参照してください。
4.  を選択します。

#### **ルーティング・ガイド明細の削除:**

##### **このタスクについて**

ルーティング・ガイド明細を削除するには、以下の手順を実行します。

##### **手順**

1. 「ルーティング・ガイド明細の詳細 (Routing Guide Lines Details)」ウィンドウで、「ルーティング詳細 (Routing Details)」タブを選択します。「ルーティング・ガイド明細の検索」ウィンドウが表示されます。
2. 「ルーティング・ガイド明細」リスト・ウィンドウでルーティング・ガイド明細を選択して、 を選択します。

**運送会社サービスの定義:** ルーティングが行われると、出荷はルーティング・ガイド明細に照らして照合されます。指定された選択条件に基づいて、使用する運送会社サービスを選択します。

運送会社サービスの作成、変更、または削除には、「運送会社サービス」パネルを使用できます。

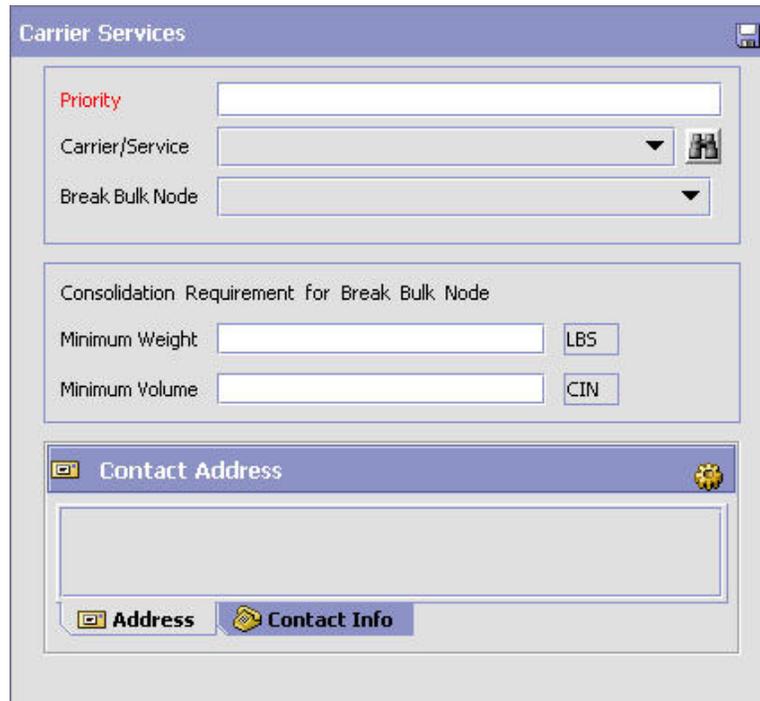
#### **運送会社サービスの作成:**

## このタスクについて

運送会社サービスを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「ルーティング・ガイド明細の詳細 (Routing Guidelines Details)」 ウィンドウで、「運送会社サービス」パネルにある  を選択します。「運送会社サービス」ウィンドウが表示されます。



2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 13 を参照してください。
3.  を選択します。

表 13. 運送会社サービス

フィールド	説明
優先順位	ルールで使用する相対重要度の数値を入力します。  出荷品がルーティング・ガイド明細と照合された場合、使用可能な 2 つの運送会社サービスが存在する可能性があります。この優先順位は、そのような競合状況を解決するために使用されます。優先順位の番号が最も小さい運送会社サービスが使用されます。
配送業者/サービス	目的の運送会社かサービスのコードを選択します。
パルク仕分けノード (Break Bulk Node)	パイヤーに近いパルク仕分けノードを選択します。
連絡先住所	運送会社サービスの連絡先住所の情報を指定するために使用します。  をクリックして、連絡先住所を変更します。

### 運送会社サービスの変更:

#### このタスクについて

運送会社サービスを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「ルーティング・ガイド明細の詳細 (Routing Guidelines Details)」ウィンドウの「運送会社サービス」パネルで、「運送会社サービス」リスト・ウィンドウ内のリストから運送会社サービスを選択して、 を選択します。「運送会社サービス」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するフィールドに新しい情報を入力します。フィールドの値の説明については、57 ページの表 13 を参照してください。
3.  を選択します。

### 運送会社サービスの削除:

#### このタスクについて

運送会社サービスを削除するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. 「ルーティング・ガイド明細の詳細 (Routing Guidelines Details)」ウィンドウの「運送会社サービス」パネルで、「運送会社サービス」リスト・ウィンドウの運送会社サービスを選択し、 を選択します。
2.  を選択します。

### パッケージ・パラメーターの定義:

#### このタスクについて

パイヤーの入庫コンプライアンス・パッケージ・パラメーターを設定するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「入庫コンプライアンス」タブを選択します。
2. 「パッケージ」タブを選択します。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、59 ページの表 14 を参照してください。
4.  を選択します。

表 14. 「入庫コンプライアンス」の「パッケージ」タブ

フィールド	説明
バイヤー・カタログの単位を使用	バイヤーは、ケースに含まれるパッケージ数や、バイヤー・カタログ内のパレットのケース数などの単位を指定できます。  出荷がこれらの要件を確実に満たすようにするには、このフィールドを選択します。このフィールドが選択されない場合は、エンタープライズの単位が使用されます。
すべてのタグ管理アイテムについてタグ情報を要求する	バイヤーは、すべてのタグ管理アイテムについてタグ情報を要求することができます。  タグ管理アイテムをバイヤーに出荷するときにはいつでもタグ情報が提供されるようにするには、このフィールドを選択します。
シリアル番号付きアイテムについてはシリアル情報を要求する	バイヤーは、ベンダーに、出荷されるすべてのシリアル番号付きアイテムについてシリアル情報の提供を要求することができます。  シリアル番号付きアイテムをこのバイヤーに出荷するときにはいつでもシリアル情報が提供されるようにするには、このフィールドを選択します。
<b>出荷容器マーキング</b>	
出荷容器マーキングは不要	容器に出荷容器マーキングを必要としない場合は、このフィールドを選択します。

表 14. 「入庫コンプライアンス」の「パッケージ」タブ (続き)

フィールド	説明
内容を含まない出荷容器マーキングが必要	容器に出荷容器マーキングを必要とするが、情報を含む必要がない場合は、このフィールドを選択します。
内容を含む出荷容器マーキングが必要	容器に、該当する情報をすべて含む出荷容器マーキングを必要とする場合は、このフィールドを選択します。
<b>出荷容器マーキング・ラベル・レベル</b>	
SCM を適用しない	「出荷容器マーキングは不要」を選択した場合は、このフィールドが自動的に選択されます。
すべてのケースに SCM を適用	出荷容器マーキングが必要と指定した場合、ケースにのみマーキングを適用したいときは、このフィールドを選択します。
すべての出荷単位 (ケースまたはパレット) に SCM を適用	出荷容器マーキングが必要と指定した場合、ケースおよびパレットにマーキングを適用したいときは、このフィールドを選択します。
<b>1 つのケース内に混在させない</b>	
顧客 PO 番号	異なる顧客購入オーダー番号を持つ出荷の SKU を同じケースに梱包したくない場合は、このフィールドを選択します。
部門コード	異なる部門コードを持つ出荷の SKU を同じケースに梱包したくない場合は、このフィールドを選択します。
製品 ID	異なるアイテム ID を持つ出荷の SKU を同じケースに梱包したくない場合は、このフィールドを選択します。
マーク対象	異なるマーク対象住所を持つ出荷の SKU を同じケースに梱包したくない場合は、このフィールドを選択します。
単位	異なる単位を持つ出荷の SKU を同じケースに梱包したくない場合は、このフィールドを選択します。
製品クラス	異なる製品クラスを持つ出荷の SKU を同じケースに梱包したくない場合は、このフィールドを選択します。
<b>1 つのパレット内に混在させない</b>	
顧客 PO 番号	異なる顧客購入オーダー番号を持つ出荷の SKU を同じパレットに梱包したくない場合は、このフィールドを選択します。
部門コード	異なる部門コードを持つ出荷の SKU を同じパレットに梱包したくない場合は、このフィールドを選択します。
製品 ID	異なるアイテム ID を持つ出荷の SKU を同じパレットに梱包したくない場合は、このフィールドを選択します。
マーク対象	異なるマーク対象住所を持つ出荷の SKU を同じパレットに梱包したくない場合は、このフィールドを選択します。
単位	異なる単位を持つ出荷の SKU を同じパレットに梱包したくない場合は、このフィールドを選択します。
製品クラス	異なる製品クラスを持つ出荷の SKU を同じパレットに梱包したくない場合は、このフィールドを選択します。

### コンプライアンス・サービス・パラメーターの定義:

#### このタスクについて

コンプライアンス・サービス・パラメーターは、バイヤーが特定のアイテムでの実行を望む追加のサービスを説明するものです。例としては、アイテムにセキュリティ

イー・タグを付ける、アイテムのパッケージに販売促進資料を追加する、アイテムに企業のロゴを付けるなどの、アイテムのカスタマイズがあります。

バイヤーの入庫コンプライアンス・サービス・パラメーターを設定するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「入庫コンプライアンス」タブを選択します。
2. 「コンプライアンス・サービス」タブを選択します。
3. コンプライアンス・サービスの使用を有効にするには、「VAS コンプライアンスが必要」ボックスにチェックを付け、バイヤーがアイテムでの実行を望む 1 つ以上のコンプライアンス・サービスを指定します。

#### コンプライアンス・サービスの作成:

##### このタスクについて

コンプライアンス・サービスを作成するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. 「コンプライアンス・サービス」タブで、 を選択します。
2. 表示される「コンプライアンス・サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウで、該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 15 を参照してください。
3.  を選択します。



表 15. コンプライアンス・サービスの詳細

フィールド	説明
エンタープライズ・コード	これらの条件を適用するエンタープライズを指定します。バイヤーは、さまざまなエンタープライズと相互作用するさまざまなコンプライアンス要件をセットアップできます。  選択されたエンタープライズによって、使用可能なサービス・アイテムとそれらのカタログ組織に基づいた分類が決定されます。

表 15. コンプライアンス・サービスの詳細 (続き)

フィールド	説明
製品分類	<p>アイテムのグループの分類コードです。例えば、セキュリティー・タグが 200 ドルを超える価値のある宝石に適用される場合は、「高価な宝石」というアイテム分類を設定してから、アイテムをこの「高価な宝石」という分類のメンバーとして分類できます。</p> <p>「高価な宝石」のアイテムが注文されると、当該コンプライアンス・サービスが実行されます。このコンプライアンス・サービスによって、この宝石に対してどのコンプライアンス・サービスを実行する必要があるのかが決定されます (セキュリティー・タグの追加を含む)。</p>
コンプライアンス・サービス	<p>当該コンプライアンス・サービスを識別します。このコンプライアンス・サービスでは、バイヤーの要求を満たすために実行される一連のアクティビティーが記述されます。これらのアクティビティーには、カスタム・ロゴの追加、広告の挿入、季節に応じたプロモーション用のボックスの使用、または当該アイテムをバイヤー向けにカスタマイズする他のさまざまなアクティビティーが含まれる可能性があります。</p>

表 15. コンプライアンス・サービスの詳細 (続き)

フィールド	説明
実行数量	<p>コンプライアンス・サービスの実行時に作成されるアイテムの数です。コンプライアンス・サービスが適用されたアイテムの作成をグループ化することで、バイヤーのニーズを予想して在庫を作成できます。</p> <p>実行数量は、一括処理するアイテムの数を示す数字です。実際のアイテム要求と使用可能な在庫によって、コンプライアンス・サービスを適用する必要があるアイテムの数が決定されます。</p> <p>例えば、実行数量が 10 であり、バイヤーが 8 個のアイテムを要求しているのに対し、手持ちの在庫が 1 個しかない場合は、10 個のアイテムにコンプライアンス・サービスが適用されます。この結果としてバイヤーは 8 個のアイテムを受け取り、その内訳は現在の在庫から提供された 1 個と新規作成された 7 個であり、新規作成された 3 個のアイテムがこの時点で在庫に残ります。</p> <p>バイヤーが実行数量の作成数より多くの数を要求した場合は、実行数量に基づいて実行が複数回繰り返されます。例えば、バイヤーが 22 個のアイテムを要求しているのに対して在庫が 1 個しかない場合は、10 個分を 1 回実行するだけではこの要求を満たすことができません。10 個分の実行を 2 回繰り返しても、この要求を満たすことはできませんが、3 回繰り返すことでこの要求を満たすことができます。したがって、30 個分の実行が 1 回行われます。</p> <p>実行数量は、予想されるバイヤーの要求に基づいて設定する必要があります。例えば、冷蔵庫や洗濯機などの大型アイテムの場合、それほど大きな数になることはないと考えられます。スポーツ・チームのロゴ入り T シャツなど、バイヤーが大量に購入するようなアイテムの場合は、数量は大きくなります。</p> <p><b>注:</b> 実行数量が実際の作業オーダーのオーダー済み数量と等しくないは、スケジューリング時に追加の在庫チェックが実行されます。</p>

### コンプライアンス・サービスの変更:

#### このタスクについて

コンプライアンス・サービスを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「入庫コンプライアンス」ウィンドウで、「コンプライアンス・サービス」タブを選択します。
2. 「コンプライアンス・サービス」リストからコンプライアンス・サービスを選択して、 を選択します。「コンプライアンス・サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、61ページの表 15 を参照してください。

4.  を選択します。

#### コンプライアンス・サービスの削除:

##### このタスクについて

コンプライアンス・サービスを削除するには、以下の手順を実行します。

##### 手順

1. 「入庫コンプライアンス」ウィンドウで、「コンプライアンス・サービス」タブを選択します。
2. 「コンプライアンス・サービス」リストからコンプライアンス・サービスを選択して、 を選択します。

#### バイヤーの印刷形式プリファレンスの定義:

##### このタスクについて

ドキュメントとラベルのデフォルトの印刷形式プリファレンスを設定できます。

バイヤーの入庫コンプライアンス印刷形式プリファレンスをセットアップするには、次の手順を実行します。

##### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「入庫コンプライアンス」タブを選択します。
2. 「印刷形式プリファレンス」タブを選択します。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、65ページの表 16 を参照してください。
4.  を選択します。

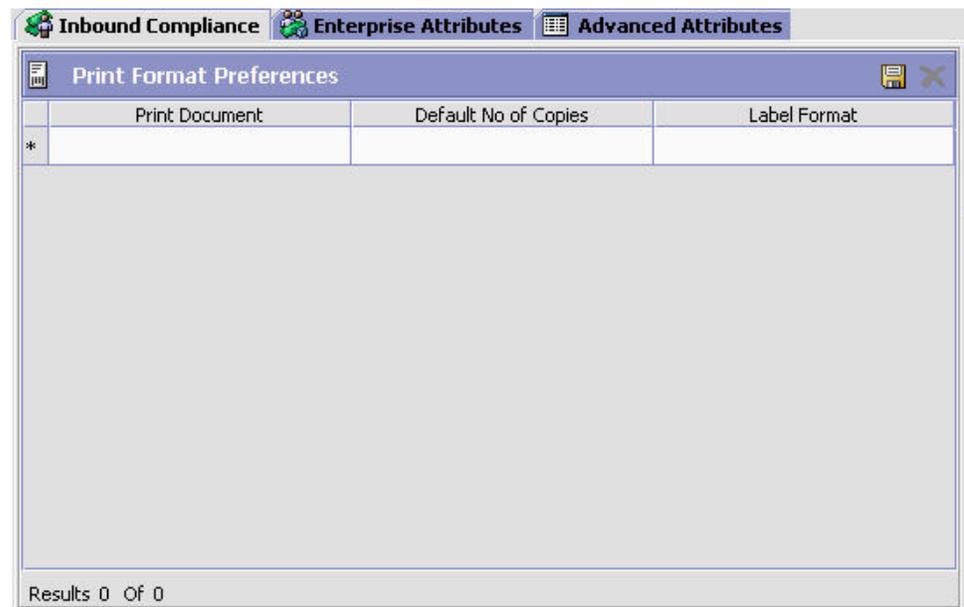


表 16. 「入庫コンプライアンス」の「印刷形式プリファレンス」タブ

フィールド	説明
ドキュメントの印刷	ドロップダウンから、プリファレンスを構成する印刷ドキュメントを選択します。
デフォルトのコピー部数	印刷する部数を入力します。
ラベル書式	このドキュメント・タイプで使用するラベル書式を選択します。

## 運送会社属性の定義

組織の役割として運送会社を選択した場合、小口貨物、小口貨物未満、および小包の出荷に対して運送会社が提供するサービスのタイプを指定できます。運送会社サービスとは、オーダーの配達に対して運送会社が提供するサービスのことで (例えば、「空路配送 (翌日)」など)。

### 貨物出荷のための運送会社サービスの定義:

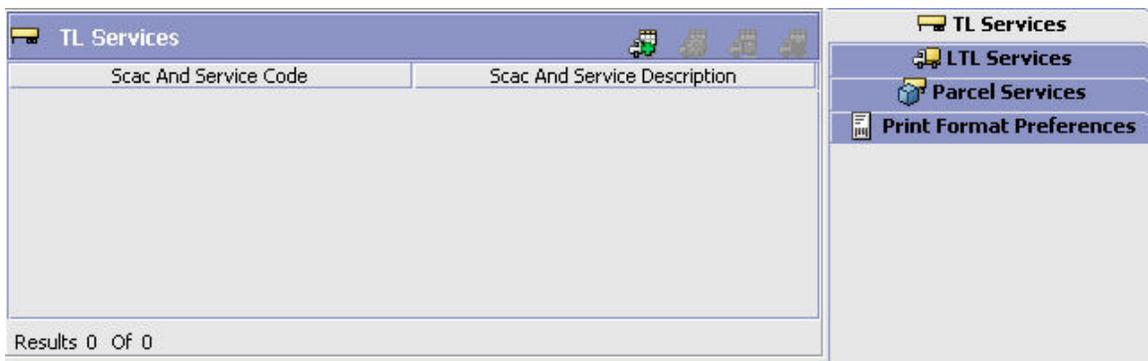
#### このタスクについて

貨物とは、最大の出荷モードです。貨物は通常、10,000 ポンドを超える出荷と考えられます。貨物出荷モードの運送会社サービスを追加、変更、および削除できます。

貨物出荷の運送会社サービスを作成するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「運送会社属性」を選択します。
2. 「貨物サービス」タブを選択します。貨物サービス・リストが表示されます。



3.  を選択します。「貨物サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、66 ページの表 17 を参照してください。
5.  を選択します。

図 20. 貨物サービスの詳細

表 17. 「貨物サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
サービス	ドロップダウン・リストから適切なサービスを選択します。
運送会社とサービス	運送会社とサービスの名前を入力します。 注: これは、運送会社サービス・コードを選択すると入力されます。入力された説明は、必要に応じて編集できます。
運送会社とサービスの説明	運送会社とサービスの簡単な説明を入力します。 注: これは、運送会社サービス・コードを選択すると入力されます。入力された説明は、必要に応じて編集できます。
電子コード	サービスを識別するために運送会社組織によって使用されるコードを入力します。例えば、UPS の空路配送 (翌日) の電子コードは「01」です。
ホスト・コード	このフィールドは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のこのバージョンでは使用されません。
拡張出荷モード	運送会社サービスが TL、LTL、または小包でない場合、ドロップダウン・リストから適切な出荷モードを選択します。

表 17. 「貨物サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
固定輸送日数	<p>そのサービスで配達に許容される最大日数を入力します。例えば、空路配送 (即日) では最大輸送日数は 1 日、陸路配送では最大輸送日数は 5 日などです。</p> <p>この数値は、オーダー明細のスケジューリングに使用されます。この値は、「分散オーダー管理」&gt;「アプリケーション共通」&gt;「物流管理」&gt;「物流属性」の下にある「他のルール」タブで、「事前輸送時間計算を使用」フラグが選択されている場合のみ使用されます。このフィールドについては、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理構成ガイド</i>』を参照してください。</p>
1 日あたりの距離	<p>そのサービスで各輸送日に移動する最大距離を入力します。ドロップダウン・リストから距離の関連単位を選択します。</p> <p>この数値は、オーダー明細のスケジューリングに使用されます。この値は、「分散オーダー管理」&gt;「アプリケーション共通」&gt;「物流管理」&gt;「物流属性」の下にある「他のルール」タブで、「事前輸送時間計算を使用」フラグが選択されている場合のみ使用されます。このフィールドについては、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理構成ガイド</i>』を参照してください。</p>
危険物の出荷を許可	この運送会社で危険物の出荷が許可されていることを示すには、このボックスにチェックを付けます。
航空便	この運送会社が航空便で配送できることを示すには、このボックスにチェックを付けます。
冷凍庫あり	この運送会社が冷凍庫を必要とするアイテムを出荷できることを示すには、このボックスにチェックを付けます。
出荷住所タイプの制限	<p>ドロップダウン・リストから、運送会社が出荷できる住所タイプを選択します。</p> <p>このオプションを選択しない場合、運送会社は、商業上の所在地と自宅住所の両方に出荷できます。</p>
パッケージ・レベルの統合	この運送会社サービスがパッケージ・レベルの統合に対応する場合は、これを選択します。
出荷レベルの統合	この運送会社サービスが出荷レベルの統合に対応する場合は、これを選択します。
返品出荷ラベルの統合をサポート	この運送会社サービスが返品出荷ラベルの統合をサポートする場合は、このボックスにチェックを付けます。

### 貨物出荷のための運送会社サービスの変更:

#### このタスクについて

貨物出荷の運送会社サービスを変更するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「運送会社属性」を選択します。

2. 「貨物サービス」タブを選択します。貨物サービス・リストが表示されます。
3. 該当する運送会社サービスを選択して、 を選択します。「貨物サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 該当するフィールドの情報を変更します。フィールドの値の説明については、66 ページの表 17 を参照してください。
5.  を選択します。

#### **貨物出荷のための運送会社サービスの削除: このタスクについて**

貨物出荷の運送会社サービスを削除するには、次の手順を実行します。

##### **手順**

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「運送会社属性」を選択します。
2. 「貨物サービス」タブを選択します。貨物サービス・リストが表示されます。
3. 該当する運送会社サービスを選択して、 を選択します。

#### **小口貨物出荷のための運送会社サービスの定義: このタスクについて**

重量が 150 から 10,000 ポンドの出荷は通常、小口貨物出荷と呼ばれます。小口貨物出荷モードの運送会社サービスを追加、変更、および削除できます。

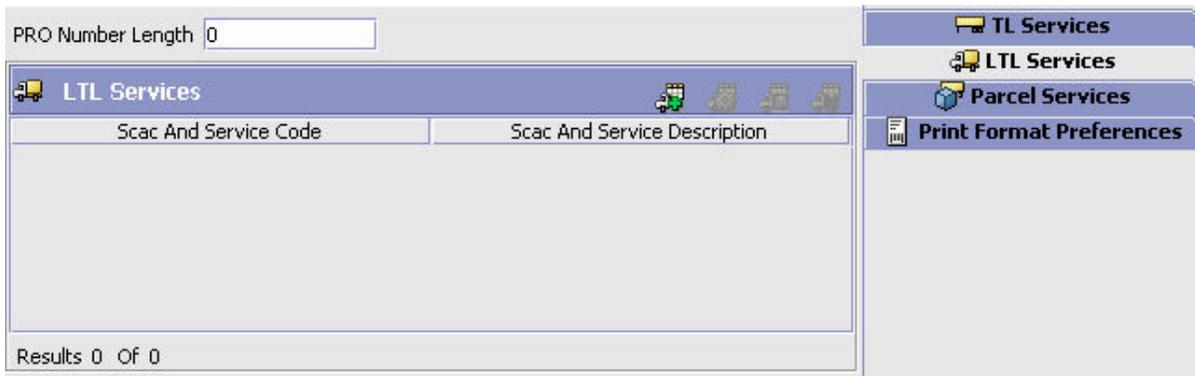
小口貨物出荷の運送会社サービスを作成するには、次の手順を実行します。

##### **手順**

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「運送会社属性」を選択します。
2. 「PRO 番号の長さ」を入力します。「PRO 番号の長さ」は、PRO 番号の桁数を表します。

PRO 番号およびその生成について詳しくは、88 ページの『ノードの小口貨物運送会社プリファレンスの定義』を参照してください。

3. 「LTL サービス」タブを選択します。小口貨物サービス・リストが表示されません。



4.  を選択します。「小口貨物サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 18 を参照してください。
6.  を選択します。

図 21. 小口貨物サービスの詳細

表 18. 「小口貨物サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
サービス	運送会社サービス・コードを選択します。
運送会社とサービス	運送会社とサービスの名前を入力します。 注: これは、運送会社サービス・コードを選択すると入力されます。入力された説明は、必要に応じて編集できます。

表 18. 「小口貨物サービスの詳細」 ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
運送会社とサービスの説明	運送会社とサービスの簡単な説明を入力します。 注: これは、運送会社サービス・コードを選択すると入力されます。入力された説明は、必要に応じて編集できます。
電子コード	サービスを識別するために運送会社組織によって使用されるコードを入力します。例えば、UPS の空路配送 (翌日) の電子コードは「01」です。
ホスト・コード	このフィールドは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のこのバージョンでは使用されません。
拡張出荷モード	運送会社サービスが TL、LTL、または小包でない場合、ドロップダウン・リストから適切な出荷モードを選択します。
固定輸送日数	そのサービスで配達に許容される最大日数を入力します。例えば、空路配送 (即日) では最大輸送日数は 1 日、陸路配送では最大輸送日数は 5 日などです。  この数値は、オーダー明細のスケジューリングに使用されます。この値は、「分散オーダー管理」>「アプリケーション共通」>「物流管理」>「物流属性」の下にある「他のルール」タブで、「事前輸送時間計算を使用」フラグが選択されている場合のみ使用されます。このフィールドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理構成ガイド』を参照してください。
1 日あたりの距離	そのサービスで各輸送日に移動する最大距離を入力します。ドロップダウン・リストから距離の関連単位を選択します。  この数値は、オーダー明細のスケジューリングに使用されます。この値は、「分散オーダー管理」>「アプリケーション共通」>「物流管理」>「物流属性」の下にある「他のルール」タブで、「事前輸送時間計算を使用」フラグが選択されている場合のみ使用されます。このフィールドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理構成ガイド』を参照してください。
危険物の出荷を許可	この運送会社で危険物の出荷が許可されていることを示すには、このボックスにチェックを付けます。
航空便	この運送会社が航空便で配送できることを示すには、このボックスにチェックを付けます。
冷凍庫あり	この運送会社が冷凍庫を必要とするアイテムを出荷できることを示すには、このボックスにチェックを付けます。
出荷住所タイプの制限	ドロップダウン・リストから、運送会社が出荷できる住所タイプを選択します。  このオプションを選択しない場合、運送会社は、商業上の所在地と自宅住所の両方に出荷できます。
パッケージ・レベルの統合	この運送会社サービスがパッケージ・レベルの統合に対応する場合は、このオプションを選択します。
出荷レベルの統合	この運送会社サービスが出荷レベルの統合に対応する場合は、このオプションを選択します。

表 18. 「小口貨物サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
返品出荷ラベルの統合をサポート	この運送会社サービスが返品出荷ラベルの統合をサポートする場合は、このボックスにチェックを付けます。

### 小口貨物出荷のための運送会社サービスの変更:

#### このタスクについて

小口貨物出荷の運送会社サービスを変更するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「運送会社属性」を選択します。
2. 「LTL サービス」タブを選択します。小口貨物サービス・リストが表示されます。
3. 「PRO 番号の長さ」を編集します。「PRO 番号の長さ」は、PRO 番号の桁数を表します。

PRO 番号およびその生成について詳しくは、88 ページの『ノードの小口貨物運送会社プリファレンスの定義』を参照してください。

4. 該当する運送会社サービスを選択して、 を選択します。「小口貨物サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 該当するフィールドの情報を変更します。フィールドの値の説明については、69 ページの表 18 を参照してください。
6.  を選択します。

### 小口貨物未満の出荷の運送会社サービスの削除:

#### このタスクについて

小口貨物未満の出荷の運送会社サービスを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「運送会社属性」を選択します。
2. 「LTL サービス」タブを選択します。小口貨物サービス・リストが表示されます。
3. 該当する運送会社サービスを選択して、 を選択します。

### 小包の出荷のための運送会社サービスの定義:

#### このタスクについて

小包とは、最小の出荷モードです。重量が 150 ポンドを下回る出荷は通常、小包と呼ばれます。小包出荷モードの運送会社サービスを追加、変更、および削除できます。

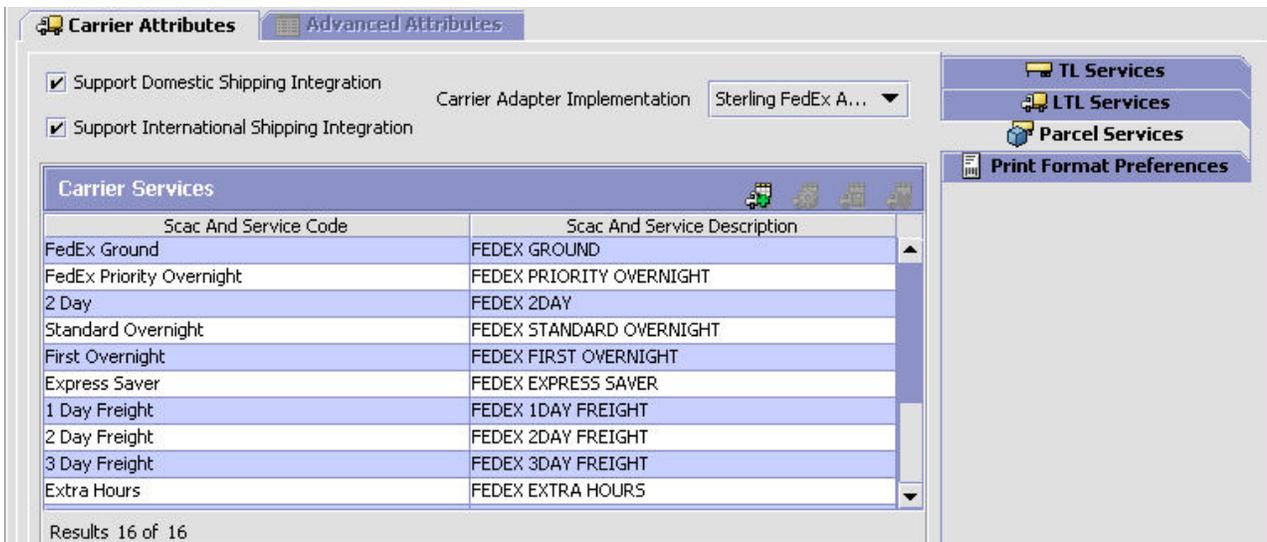
小包出荷モードの運送会社サービスを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「運送会社属性」を選択します。
2. 「小包サービス」タブを選択します。小包サービス・リストが表示されます。
3. 国内出荷について運送会社の外部システムを通じて統合する場合は、「国内出荷統合のサポート」ボックスにチェックを付けます。
4. 「運送会社アダプター実装」ドロップダウン・リストから、運送会社と統合したい運送会社アダプターを選択します。

注: ドロップダウン・リストには、選択された運送会社に対してサポートされている運送会社アダプターのみが表示されます。

5. 海外出荷について運送会社の外部システムを通じて統合する場合は、「海外出荷統合のサポート」ボックスにチェックを付けます。



6.  を選択します。「小包サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
7. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、73ページの表 19 を参照してください。
8.  を選択します。

**Parcel Service Details**

Service: Priority Overnight

Scac And Service Code: FedEx Priority Overnight

Scac And Service Description: FEDEX PRIORITY OVERNIGHT

Electronic Code: 01

Host Code:

Extended Ship Mode: Parcel

Fixed Transit Days: 0

Distance Per Day: 0

Allow Shipping Of Hazardous Materials     Ship By Air     Has Freezer

Restrict Shipping To Address Of Type:

Package Level Integration

Shipment Level Integration

Supports Integration for Return Shipping Label

図 22. 「小包サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

表 19. 「小包サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
サービス	運送会社サービス・コードを選択します。
運送会社とサービス・コード	運送会社とサービスの名前を入力します。 注: これは、運送会社サービス・コードを選択すると入力されます。入力された説明は、必要に応じて編集できます。
運送会社とサービスの説明	運送会社とサービスの簡単な説明を入力します。 注: これは、運送会社サービス・コードを選択すると入力されます。入力された説明は、必要に応じて編集できます。
電子コード	サービスを識別するために運送会社組織によって使用されるコードを入力します。例えば、UPS の空路配送 (翌日) の電子コードは「01」です。
ホスト・コード	このフィールドは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のこのバージョンでは使用されません。
拡張出荷モード	運送会社サービスが TL、LTL、または小包でない場合、ドロップダウン・リストから適切な出荷モードを選択します。

表 19. 「小包サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
固定輸送日数	そのサービスで配達に許容される最大日数を入力します。例えば、空路配送 (即日) では最大輸送日数は 1 日、陸路配送では最大輸送日数は 5 日などです。  この数値は、オーダー明細のスケジュールリングに使用されます。この値は、「分散オーダー管理」>「アプリケーション共通」>「物流管理」>「物流属性」の下にある「他のルール」タブで、「事前輸送時間計算を使用」フラグが選択されている場合のみ使用されます。このフィールドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理構成ガイド』を参照してください。
1 日あたりの距離	そのサービスで各輸送日に移動する最大距離を入力します。ドロップダウン・リストから距離の関連単位を選択します。  この数値は、オーダー明細のスケジュールリングに使用されます。この値は、「分散オーダー管理」>「アプリケーション共通」>「物流管理」>「物流属性」の下にある「他のルール」タブで、「事前輸送時間計算を使用」フラグが選択されている場合のみ使用されます。このフィールドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理構成ガイド』を参照してください。
危険物の出荷を許可	この運送会社で危険物の出荷が許可されていることを示すには、このボックスにチェックを付けます。
航空便	この運送会社が航空便で配達できることを示すには、このボックスにチェックを付けます。
冷凍庫あり	この運送会社が冷凍庫を必要とするアイテムを出荷できることを示すには、このボックスにチェックを付けます。
出荷住所タイプの制限	ドロップダウン・リストから、運送会社が出荷できる住所タイプを選択します。  このオプションを選択しない場合、運送会社は、商業上の所在地と自宅住所の両方に出荷できます。
パッケージ・レベルの統合	この運送会社サービスがパッケージ・レベルの統合に対応する場合は、このオプションを選択します。
出荷レベルの統合	この運送会社サービスが出荷レベルの統合に対応する場合は、このオプションを選択します。
返品出荷ラベルの統合をサポート	この運送会社サービスが返品出荷ラベルの統合をサポートする場合は、このボックスにチェックを付けます。

### 小包の出荷用運送会社サービスの変更:

#### このタスクについて

小包の出荷用の運送会社サービスを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「運送会社属性」を選択します。

2. 「小包サービス」タブを選択します。小包サービス・リストが表示されます。
3. 該当する運送会社サービスを選択して、 を選択します。「小包サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 該当するフィールドの情報を変更します。フィールドの値の説明については、73 ページの表 19 を参照してください。
5.  を選択します。

#### **小包の出荷の運送会社サービスの削除: このタスクについて**

小包の出荷の運送会社サービスを削除するには、以下の手順を実行します。

##### **手順**

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「運送会社属性」を選択します。
2. 「小包サービス」タブを選択します。小包サービス・リストが表示されます。
3. 該当する運送会社サービスを選択して、 を選択します。

#### **ノード属性の定義**

組織の役割としてノードを選択した場合、その主要情報、ソーシング、スケジューリング、運送会社プリファレンス、およびカレンダーを指定できます。

#### **ノードの主要情報の定義: このタスクについて**

ノードの主要情報によって、そのノードがシステム全体にわたってどのように識別されるのが決定されます。

ノードの主要情報を定義するには、次の手順を実行します。

##### **手順**

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「ノード属性」を選択します。
2. 「主要情報」タブを選択します。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、76 ページの表 20 を参照してください。
4.  を選択します。

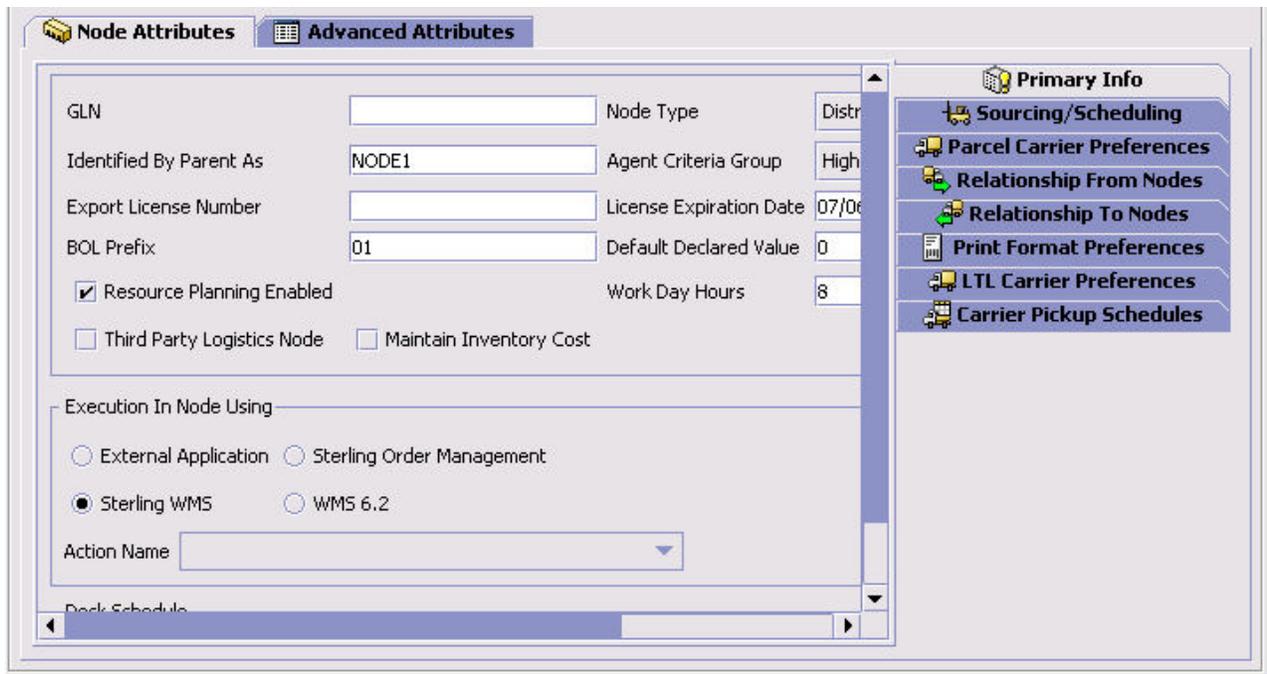


図 23. ノードの主要情報

表 20. ノードの「主要情報」タブ

フィールド	説明
<b>ノード・タイプ</b>	
GLN	グローバル・ロケーション番号を入力します。
ノード・タイプ	このノードのノード・タイプをドロップダウン・リストから選択します。
親によって識別された名前	このノードの親がこのノードを識別するために使用する名前を入力します。
エージェント条件グループ	エージェント条件グループをドロップダウン・リストから選択します。
輸出ライセンス番号	輸出出荷用に使用されるこのノードのライセンス番号を入力します。
ライセンス有効期限	輸出ライセンスが期限切れになる日付を入力します。
BOL 接頭辞	このノードが作成する船荷証券 (B/L) でこのノードが接頭辞として使用するラベルを入力します (該当する場合)。
デフォルトの申告金額	アプリケーション・コンソールでデフォルトの申告金額として表示する価格を入力します。この価格は一般に、小包運送会社によって保険金を計算するために使用されます。
作業日の時間数	リソースあたりまたは個人あたりの 1 日の標準の作業時間数です。  この値は時間数を日数に変換するために使用されます。
有効なリソース計画	リソースとアクティビティの計画を有効にするには、このオプションを選択します。

表 20. ノードの「主要情報」タブ (続き)

フィールド	説明
サード・パーティー物流ノード	このノードがサード・パーティー物流ビジネス・モデルの一部である場合は、このオプションを選択します。サード・パーティー物流ノードとしてマークされたノードについては、連鎖オーダーは作成されません。
在庫コストの管理	このノードが独自の在庫コストを管理している場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択した場合は、このノードで行われる在庫調整ごとにコストを入力する必要があります。このオプションを選択した場合は、このノードに対して行われた在庫調整は承認される必要があります。承認待ちの調整は、保留中の調整と呼ばれます。実際の調整は、保留中の調整が承認されるまで行われません。
ノードで実行する際に使用	
外部アプリケーション	オーダー・リリースをイベントを介してインターフェースさせるには、このオプションを選択します。イベントについて詳しくは、159 ページの『トランザクションの定義』を参照してください。
IBM Sterling Order Management	オーダー・リリースをアプリケーション・コンソールを介してインターフェースさせるには、このオプションを選択します。
Sterling Warehouse Management System	オーダー・リリースを Sterling Warehouse Management System を介してインターフェースさせるには、このオプションを選択します。
WMS 6.2	オーダー・リリースを Sterling Warehouse Management System リリース 6.2 以前を介してインターフェースさせるには、このオプションを選択します。
アクション名	<p>「外部アプリケーション」を選択した場合は、そのアプリケーションに関連付けるアクションを選択します。アクションについて詳しくは、199 ページの『アクションの定義』を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このドロップダウンでは、このノード/組織の主要エンタープライズにリンクされたアクションのみを選択できます。</p> <p>「+」ボタンを使用してこの画面から作成されたすべてのアクションは、ユーザーの組織の主要エンタープライズにリンクされます。その結果として、これらのアクションは作成対象のノード/組織では使用できない可能性があります。</p> <p>マルチ・エンタープライズ環境では、まず適切なエンタープライズに対してアクションが作成されることを確認してください (そのエンタープライズ・ユーザーとしてログイン中に)。その後、エンタープライズ・ユーザーまたはハブ・ユーザーとしてログイン中に、アクションに対するノードのマッピングを実行できます。</p>
ドック・スケジュール	
ドック・スケジュールの管理者	ドック・スケジュールを管理するアプリケーションを選択します。

### ノードのソーシングとスケジュールリングの定義:

## このタスクについて

ノードのソーシングとスケジューリングをセットアップすることで、そのノードからオーダーが調達される方法を定義できます。

ノードのソーシングとスケジューリングを定義するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「ノード属性」を選択します。
2. 右側の「ソーシング/スケジューリング」タブを選択します。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 21 を参照してください。

The screenshot shows the 'Node Attributes' window with the 'Advanced Attributes' tab selected. The main area contains several sections of configuration options. At the top, there is a text field for 'Do not schedule an order to this node more than 0 days before expected time of shipment'. Below this are two columns of checkboxes: 'Procure To Ship Allowed', 'Work Order Creation Is Allowed', 'Use End Of Shift Time', and 'Gift Wrap Services Allowed' on the left; 'Requires Transfer Acceptance', 'Substitution Is Allowed', and 'Item-Based Allocation Allowed' on the right. There are two dropdown menus for 'Receiving Calendar' and 'Shipping Calendar'. The 'Receipt Processing Time' section has three input fields: 'For Procurement (Hours)', 'For Forwarding (Hours)', and 'For Future Inventory (Days)'. The 'Node Can Ship To' section has radio buttons for 'Any Address' (checked), 'All Nodes', and 'Specific Nodes Of Type', and checkboxes for 'Distribution Center' and 'Store'. On the right side, there is a vertical navigation pane with icons and labels for 'Primary Info', 'Sourcing/Scheduling', 'Parcel Carrier Preferences', 'Relationship From Nodes', 'Relationship To Nodes', 'Print Format Preferences', 'LTL Carrier Preferences', and 'Carrier Pickup Schedules'.

図 24. ノード属性

表 21. ノードの「ソーシング/スケジューリング」タブ

フィールド	説明
出荷予定日の <日数> 日前以前にオーダーをこのノードにスケジュールしない	オーダーのスケジュールが履行されるために、そのスケジュールをノードに送信できる期間となる最大の営業日数を入力します。この日数に基づいて、最も早い予定日が計算されます。  このパラメーターが考慮されるのは、このノードがオーダー明細で事前に指定されている場合のみです。

表 21. ノードの「ソーシング/スケジューリング」タブ (続き)

フィールド	説明
出荷のための調達を許可	<p>このノードが調達連鎖オーダーを受諾できる場合は、このチェック・ボックスを選択します。調達連鎖オーダーは、ノードが別のノードから在庫を調達する必要がある場合に作成されるオーダーの一種です。連鎖オーダーは親オーダーにリンクされているオーダーであり、この場合は一方のオーダーのライフサイクルが他方のオーダーに影響を与えます。調達連鎖オーダーには、調達転送オーダーと調達購入オーダーという 2 つのタイプがあります。</p> <p>転送オーダーは、構成対象のノードがオーダーを履行するために、その在庫を同じ組織内の別のノードから補充する必要がある場合に作成される連鎖オーダーの一種です。</p> <p>調達購入オーダーは、構成対象のノードがオーダーを履行するために、その在庫を外部組織に属する別のノードから補充する必要がある場合に作成される連鎖オーダーの一種です。</p> <p>あるノードから別のノードへの調達をセットアップする際は、各ノードの請求先住所を定義する必要があります。請求先住所は、「組織の詳細情報」画面の「支払情報」パネルで定義します。また、調達元の出荷ノードの組織階層内に法人組織が存在している必要があります。</p>
転送受諾が必要	<p>オーダーの処理を進める前に在庫状況を確認するための調達をこのノードで受諾するには、このチェック・ボックスを選択します。</p>
作業オーダー作成可能	<p>作業オーダーを使用してこのノードでコンプライアンス・サービスをサポートするには、このチェック・ボックスを選択します。作業オーダーには、パイヤーの要請に基づいてアイテムをカスタマイズするためのサービス・アクティビティが記述されます。</p>
代替可能	<p>同一オーダー内のアイテムの代替が許可される場合は、このチェック・ボックスを選択します。</p>

表 21. ノードの「ソーシング/スケジューリング」タブ (続き)

フィールド	説明
シフト終了時刻を使用	<p>次の実行可能なシフトの終了時刻に基づいてこのノードで出荷時刻が決定されるようにするには、このチェック・ボックスを選択します。</p> <p>任意のノード・パラメーター（「最小通知時間」など）および出荷品を実際に出荷できる時刻に基づいてこのノードで出荷時刻が決定されるようにするには、このチェック・ボックスを選択解除します。</p> <p>例えば、あるノードは 1 週間に 5 日稼働して、午前 8 時から午後 4 時と午後 4 時から午後 8 時という 2 つのシフトが設けられているとします。</p> <p>このノードの「最小通知時間」は 2 時間に設定されています。</p> <p>「シフト終了時刻を使用」チェック・ボックスが選択されている場合は、金曜日の午後 1 時にノードに送信されたオーダーは、当日の午後 4 時に出荷するようにスケジュールされます。「シフト終了時刻を使用」チェック・ボックスが選択されていない場合は、このオーダーは当日の午後 3 時に出荷するようにスケジュールされます。</p> <p>「シフト終了時刻を使用」チェック・ボックスが選択されている場合は、金曜日の午後 3 時にノードに送信されたオーダーは、当日の午後 8 時に出荷するようにスケジュールされます。「シフト終了時刻を使用」チェック・ボックスが選択されていない場合は、このオーダーは当日の午後 5 時に出荷するようにスケジュールされます。</p> <p><b>注:</b> 「シフト終了時刻を使用」を適用できるのは、シフト時間が定義された出荷カレンダーを使用しているノードに対してのみです。</p> <p><b>注:</b> 「シフト終了時刻を使用」は、製品明細についてのみ適用できます。</p>
贈答品包装サービスの許可	<p>このノードが贈答品包装サービスを提供することを指定するには、このチェック・ボックスを選択します。</p>
アイテム・ベースの割り当て許可	<p>当該アイテムについてアイテム・ベースの割り当てを許可するには、このチェック・ボックスを選択します。「アイテム・ベースの割り当てを使用する」ルールを有効にした場合、アイテム・ベースの割り当てを適用できるのは、「アイテム・ベースの割り当て許可」属性が有効になっているアイテムとノードについてのみです。アイテム・ベース割り当てについては詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 製品概念の手引き」を参照してください。</p>
受入カレンダー	<p>このノードで配達品を受け入れるために使用できるシフトを決定するために使用するカレンダーを選択します。このドロップダウン・リストには、このノードのカレンダーと、このノードの主要エンタープライズのカレンダーが表示されます。</p>

表 21. ノードの「ソーシング/スケジュールリング」タブ (続き)

フィールド	説明
出荷カレンダー	このノードから出荷するために使用できるシフトを決定するために使用するカレンダーを選択します。このドロップダウン・リストには、このノードのカレンダーと、このノードの主要エントプライズのカレンダーが表示されます。
「受入処理時間」の「調達 (時間数)」	このノードが調達のための受入を処理するのにかかる時間数を入力します。
「受入処理時間」の「フォワーディング (時間数)」	このノードがフォワーディングのための受入を処理するのにかかる時間数を入力します。
「受入処理時間」の「将来の在庫 (日数)」	受け取る将来の供給をオーダーで使用できるように処理するのにかかる日数を入力します。
<b>ノードの有効出荷先</b>	
このノードが出荷できる先となるノード・タイプを選択します。常に使用できる「すべての住所」以外のチェック・ボックスの使用可否は、指定したノード・タイプに依存します。	
すべての住所	このノードが任意の住所に出荷できるようにするには、このチェック・ボックスを選択します。
全ノード	このノードがすべてのノードに出荷できるようにするには、このオプションを選択します。
以下のタイプの特定のノード	このノードが特定のノード・タイプのノードのみに出荷できるようにするには、このオプションを選択して、該当するノード・タイプのチェック・ボックスを選択します。

### ノードの小包運送会社プリファレンスの定義:

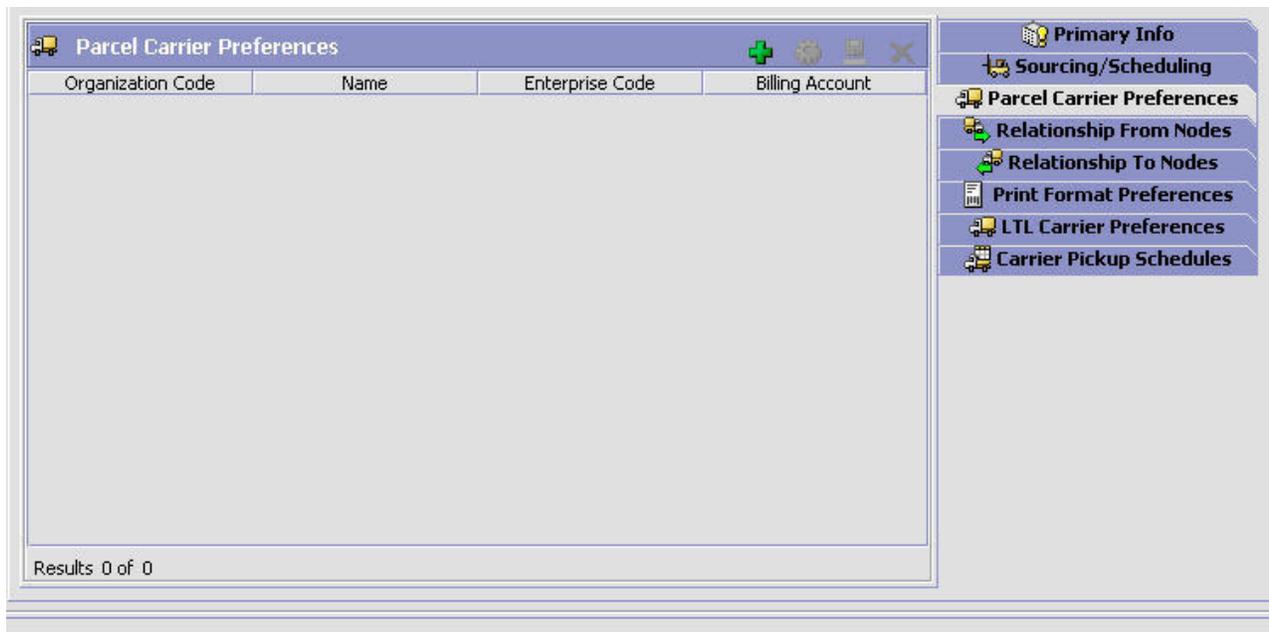
#### このタスクについて

ノードで使用する運送会社を指定して、これらの運送会社がどのように連携するかを定義できます。運送会社プリファレンスは、追加、変更、および削除できます。

小包運送会社プリファレンスをノードに追加するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「ノード属性」を選択します。
2. 「小包運送会社プリファレンス」タブを選択します。



3.  を選択します。「小包運送会社プリファレンスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。
5.  を選択します。

#### タスクの結果

##### **ノードの小包運送会社プリファレンスの変更:** このタスクについて

ノードの小包運送会社プリファレンスを変更する手順は、次のとおりです。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「ノード属性」を選択します。
2. 「小包運送会社プリファレンス」タブを選択します。
3. 該当する運送会社プリファレンスを選択して、 を選択します。「小包運送会社プリファレンスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、81ページの『ノードの小包運送会社プリファレンスの定義』の表を参照してください。
5.  を選択します。

##### **ノードの小包運送会社プリファレンスの削除:** このタスクについて

ノードの小包運送会社プリファレンスを削除する手順は、次のとおりです。

## 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「ノード属性」を選択します。
2. 「小包運送会社プリファレンス」タブを選択します。
3. 該当する運送会社プリファレンスを選択して、 を選択します。

### 「小包運送会社プリファレンスの詳細」ポップアップ・ウィンドウ:

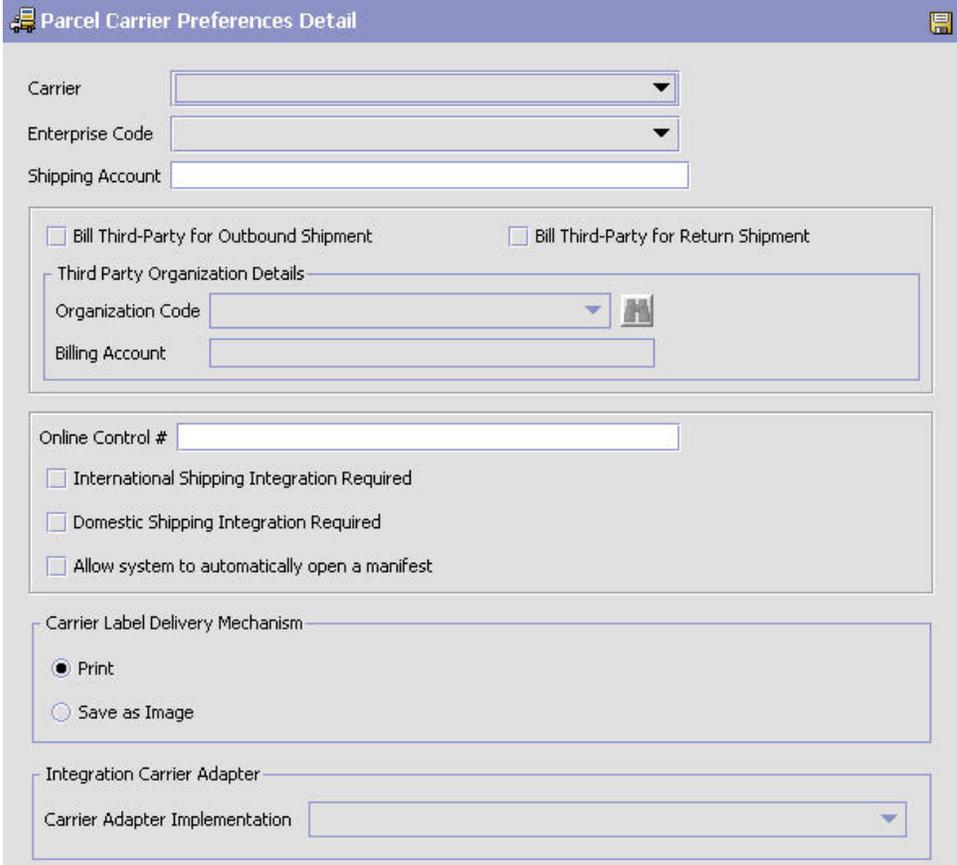


表 22. 「小包運送会社プリファレンスの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
運送会社	プリファレンスを設定する運送会社を選択します。これは必須フィールドです。
エンタープライズ・コード	エンタープライズ・コードを選択します。
出荷アカウント	出荷アカウント情報を入力します。
出荷のサード・パーティー請求 (Bill Third Party for Outbound Shipment)	出荷料をサード・パーティー組織に請求するには、このチェック・ボックスにチェック・マークを付けます。
返品出荷のサード・パーティー請求 (Bill Third Party for Return Shipment)	返品出荷料をサード・パーティー組織に請求するには、このチェック・ボックスにチェック・マークを付けます。

表 22. 「小包運送会社プリファレンスの詳細」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
サード・パーティー組織の詳細	
組織コード	サード・パーティー組織の組織コードを選択します。
請求先アカウント	サード・パーティー組織の請求先アカウント情報を選択します。
オンライン管理番号	運送会社プリファレンスのオンライン管理番号を入力します。
海外出荷統合が必要	海外向け出荷統合が必要な場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。
国内出荷統合が必要	国内出荷統合が必要な場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。
自動的に積荷目録を開くことを許可	システムに自動的に積荷目録を開くことを許可する場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。
運送会社ラベルの配達メカニズム	
印刷	運送会社ラベルを自動的に印刷するには、このオプションを選択します。
画像として保存	運送会社ラベルを PNG 形式で保存するには、このオプションを選択します。
統合運送会社アダプター	
運送会社アダプター実装	選択した運送会社と統合する運送会社アダプターを選択します。

**ノードの関係の定義:** 転送オーダーは連鎖オーダーの 1 タイプです。これは構成する組織に属するノードが、オーダーを実行するために、組織内の別のノードから在庫を補充する必要があるときに作成されます。連鎖オーダーは、親オーダーにリンクされ、一方のライフサイクルが他方のライフサイクルに影響するオーダーです。

定義するノードと他のノードとの間の関係を定義できます。この関係内で、ノードからアイテムを調達するための輸送時間を含め、転送スケジュールを曜日ベースで定義できます。このスケジュールは予定日付を計算するために使用されます。

ノードからアイテムを調達するための輸送時間を含め、あるノードから他のノードへとアイテムが出荷可能になるときを決定する転送スケジュールを、曜日ベースで定義できます。このスケジュールは予定日付を計算するために使用されます。転送スケジュールの作成について詳しくは、86 ページの『転送スケジュールの定義』のセクションを参照してください。

関係は作成、変更、および削除できます。

#### **ノード関係の作成: このタスクについて**

ノード関係を作成するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「ノード属性」を選択します。
2. このノードから別のノードへのノード関係を作成するには、「ノードへの関係」タブを選択します。別のノードからこのノードへのノード関係を作成するには、「ノードへの関係」タブを選択します。
3.  を選択します。「関係の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 23 を参照してください。
5.  を選択します。

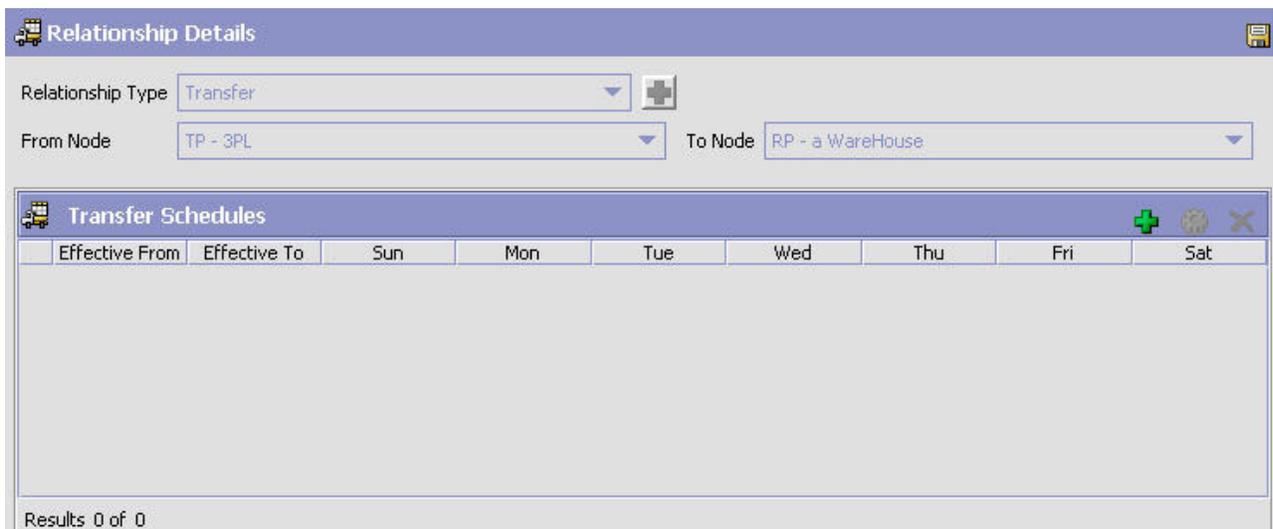


表 23. 「関係の詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
関係タイプ	ドロップダウン・リストからこの関係の関係タイプを選択します。
元のノード	アイテムの送信元のノードを選択します。ルックアップから出荷ノードを選択した場合、その出荷ノードの説明が構成されていなければ、「元のノード」フィールドに値が表示されません。  「ノードへの関係」タブで、このオプションのデフォルトは、構成中の使用不可のノードとなります。
宛先ノード	転送オーダーのアイテムが受信されるノードを選択します。ルックアップから出荷ノードを選択した場合、その出荷ノードの説明が構成されていなければ、「宛先ノード」フィールドに値が表示されません。  「ノードからの関係」タブで、このオプションのデフォルトは、構成中の使用不可のノードとなります。
転送スケジュール	
有効開始	スケジュールが有効になる日付を示します。

表 23. 「関係の詳細」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
有効終了	指定された転送スケジュールが有効でなくなる日付を示します。
曜日 (Days of the Week)	転送スケジュール・アイテムが出荷するアイテムに対して適格である曜日を示します。

### ノード関係の変更:

#### このタスクについて

ノード関係を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「ノード属性」を選択します。
2. そのノードから別のノードへのノード関係を変更するには、「ノードへの関係」タブを選択します。別のノードからそのノードへのノード関係を変更するには、「ノードへの関係」タブを選択します。
3. テーブルで該当する関係を見つけ、 を選択します。「関係の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、85 ページの表 23 を参照してください。
5.  を選択します。

### ノード関係の削除:

#### このタスクについて

ノード関係を削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「ノード属性」を選択します。
2. そのノードから別のノードへのノード関係を削除するには、「ノードへの関係」タブを選択します。別のノードからそのノードへのノード関係を変更するには、「ノードへの関係」タブを選択します。
3. テーブルで該当する関係を見つけ、 を選択します。

**転送スケジュールの定義:** 転送スケジュールは、特定の期間内の転送を許可または禁止する手段を提供します。

### 転送スケジュールの作成:

#### このタスクについて

転送スケジュールを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. 「関係の詳細」画面で、「転送スケジュール」パネルから  を選択します。「転送スケジュール」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 24 を参照してください。
3.  をクリックします。

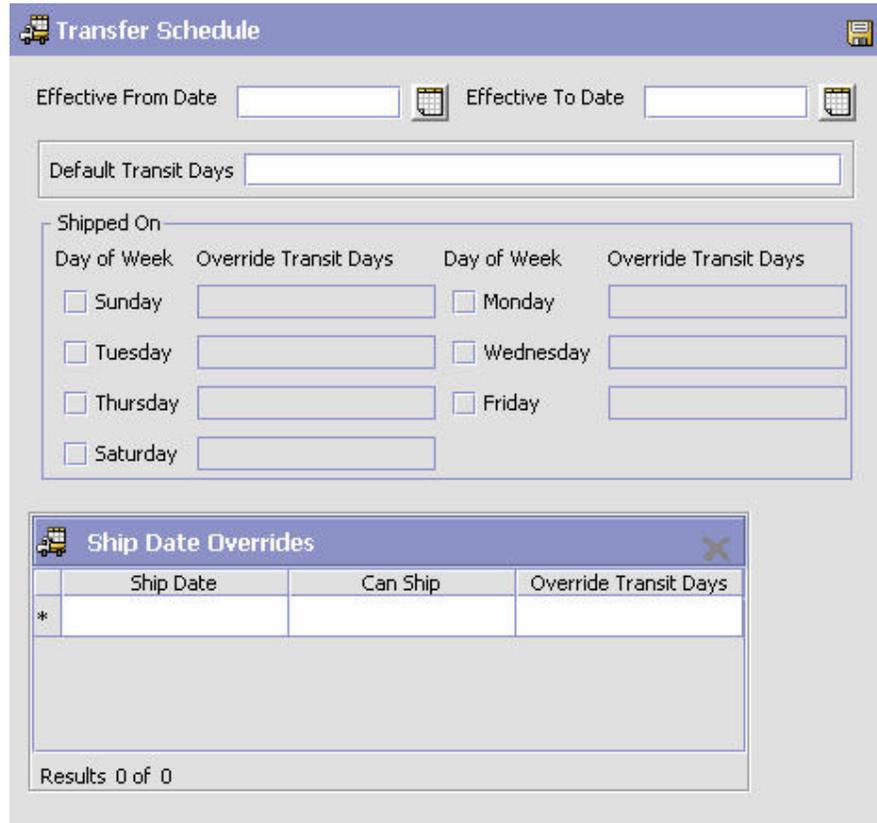


表 24. 「転送スケジュール」ウィンドウ

フィールド	説明
有効開始日	転送スケジュールが有効になる日付を選択します。 この値を空白のままにした場合は、この転送スケジュールは無制限の日数にわたって有効化されていると見なされます。
有効終了日	転送スケジュールが終了する日付を選択します。 この値を空白のままにした場合は、この転送スケジュールは永続的に有効なままと見なされます。
デフォルトの輸送日数	出荷品が宛先に到着するまでにかかると想定される最少日数を入力します。
出荷日	
曜日	転送が許可される各曜日のチェック・ボックスを選択します。

表 24. 「転送スケジュール」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
転送日数のオーバーライド	特定曜日の輸送日数を入力します。例えば、土曜日に出荷する場合は、転送日数に 1 日を追加することが考えられます。この結果として、新しい転送日数の値は「1 + 標準値」となります。
出荷日オーバーライド	
配送日付	出荷をオーバーライドする日付を選択します。例えば、休日である 2007 年 12 月 25 日 (火曜日) を選択します。
出荷可能日	指定された日の出荷を許可するには「はい」、禁止するには「いいえ」を選択します。
輸送日数のオーバーライド	オーバーライド日付のオーバーライド輸送日数を入力します。

注: 1 日の転送スケジュールが存在する場合は、すべての日の転送スケジュールが存在すると見なされます。

#### 転送スケジュールの変更:

##### このタスクについて

転送スケジュールを変更するには、以下の手順を実行します。

##### 手順

1. 「関係の詳細」画面の「転送スケジュール」パネルから、変更する転送スケジュールを選択します。
2.  を選択します。
3. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、87 ページの表 24 を参照してください。
4.  をクリックします。

#### 転送スケジュールの削除:

##### このタスクについて

転送スケジュールを削除するには、以下の手順を実行します。

##### 手順

1. 「関係の詳細」画面の「転送スケジュール」パネルで、削除する転送スケジュールを選択します。
2.  を選択します。

#### ノードの小口貨物運送会社プリファレンスの定義:

##### このタスクについて

ノードで使用する運送会社の PRO 番号生成の設定を定義して、これらの使用法を定義できます。

PRO 番号とは、特定の出荷品を識別および追跡するために運送会社によって割り当てられた固有の累進番号またはシリアル番号のことです。この番号は、請求と追跡の目的のために運賃請求書、船荷証券 (B/L)、および貨物運送状で使用されます。

倉庫では、運送会社によって割り当てられる PRO 番号の範囲を規定する場合があります。PRO 番号は、運送会社ごとに規定された固定された長さであり、接頭辞を含んでいることがあります。

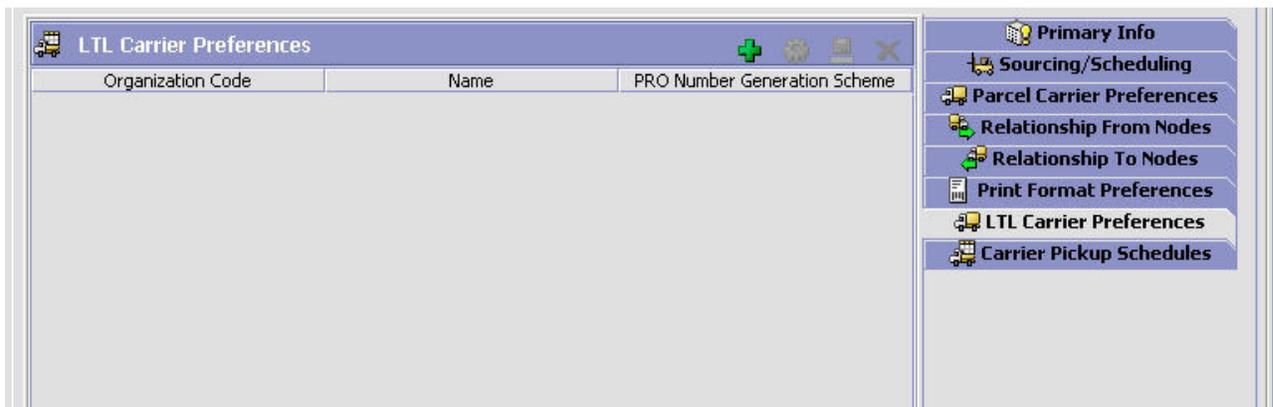
PRO 番号は一般に、「LTL」という運送会社タイプの荷物のルーティング時に生成されます。PRO 番号は、その荷物の運送会社/サービスが変更されると自動的に再生成されます。

小口貨物運送会社プリファレンスは、追加、変更、および削除できます。

小口貨物運送会社プリファレンスをノードに追加するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「ノード属性」を選択します。
2. 「小口貨物運送会社プリファレンス」タブを選択します。



3.  を選択します。「PRO 番号生成方法」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、90 ページの表 25 を参照してください。
5.  を選択します。

表 25. 「PRO 番号生成方法」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
PRO 番号生成方法	<p>選択した生成方法に基づいて次のいずれかのアクションが実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Sterling Warehouse Management System が PRO 番号を生成します。</li> <li>• Sterling Warehouse Management System が外部システムによって生成された PRO 番号を使用します。</li> <li>• Sterling Warehouse Management System は PRO 番号を生成しません。</li> </ul>
配送業者 (Carrier)	PRO 番号生成方法を定義する対象となる運送会社を選択します。
システム生成	Sterling Warehouse Management System が PRO 番号を生成するようにするには、「システム生成」を選択します。
外部生成	Sterling Warehouse Management System が外部システムによって生成された PRO 番号を使用するようにするには、「外部生成」を選択します。
生成しない	PRO 番号が生成されないようにするには、「生成しない」を選択します。
システム生成方法のデータの 設定	このオプションを適用できるのは、Sterling Warehouse Management System が PRO 番号を生成する場合のみです。
PRO 番号セット	1 つ目の範囲の PRO 番号がすべて使用されると、Sterling Warehouse Management System は 2 つ目の範囲の PRO 番号を使用します (逆の場合も同様)。
PRO 番号セット - 1	Sterling Warehouse Management System によって使用される 1 つ目の範囲の PRO 番号を定義します。

表 25. 「PRO 番号生成方法」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
PRO 番号接頭辞	<p>1 つ目の範囲の PRO 番号を生成する際に使用する PRO 番号接頭辞を入力します。</p> <p>PRO 番号接頭辞は英数字で構成でき、チェック・ディジットの計算には含まれません。</p>
PRO 番号開始	<p>1 つ目の範囲の PRO 番号を生成する際に使用する PRO 番号開始を入力します。</p> <p>PRO 番号開始は、1 つ目の PRO 番号セットの開始番号です。</p>
PRO 番号終了	<p>1 つ目の範囲の PRO 番号を生成する際に使用する PRO 番号終了を入力します。</p> <p>PRO 番号終了は、1 つ目の PRO 番号セットの終了番号です。</p>
PRO 番号セット - 2	<p><b>Sterling Warehouse Management System</b> によって使用される <b>2 つ目の範囲の PRO 番号を定義します。</b></p>
PRO 番号接頭辞	<p>2 つ目の範囲の PRO 番号を生成する際に使用する PRO 番号接頭辞を入力します。</p> <p>PRO 番号接頭辞は英数字で構成でき、チェック・ディジットの計算には含まれません。</p>
PRO 番号開始	<p>2 つ目の範囲の PRO 番号を生成する際に使用する PRO 番号開始を入力します。</p> <p>PRO 番号開始は、2 つ目の PRO 番号セットの開始番号です。</p>
PRO 番号終了	<p>2 つ目の範囲の PRO 番号を生成する際に使用する PRO 番号終了を入力します。</p> <p>PRO 番号終了は、2 つ目の PRO 番号セットの終了番号です。</p>
通知しきい値	<p>ユーザーに対して警告を発行する基準となる通知しきい値を入力します。この設定は、2 つ目の PRO 番号セットが定義されていない場合に特に重要となります。</p> <p>通知しきい値によって、PRO 番号終了に達するまでの使用可能な未割り当て PRO 番号の数を指定します。これにより、倉庫は運送会社と話をし、新しい範囲の PRO 番号を取得できます。</p> <p><b>注:</b> 例えば PRO 番号終了が X であり、通知しきい値が 50 に設定されている場合は、現在の PRO 番号 (未割り当て) が「X-50」に達したときに、Sterling Warehouse Management System はユーザーに警告を発行します。</p>
通知サービス	<p>使用する通知サービスを選択します。</p> <p>通知サービスは、通知しきい値に達したときに呼び出されるサービスです。</p>

表 25. 「PRO 番号生成方法」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
チェック・ディジットの決定	PRO 生成のために使用するチェック・ディジット・アルゴリズムを指定します。
アルゴリズムの選択	<p>チェック・ディジットの決定のための適切なアルゴリズムを選択します。</p> <p>標準的な値は「mod-11」や「mod-10」です。  <b>注:</b> チェック・ディジット決定方法として「mod-11」または「mod-10」を選択した場合は、チェック・ディジットは Sterling Warehouse Management System によって独自に生成されます。</p> <p>チェック・ディジット決定アルゴリズムについて詳しくは、『チェック・ディジット決定アルゴリズムの設定』を参照してください。</p>

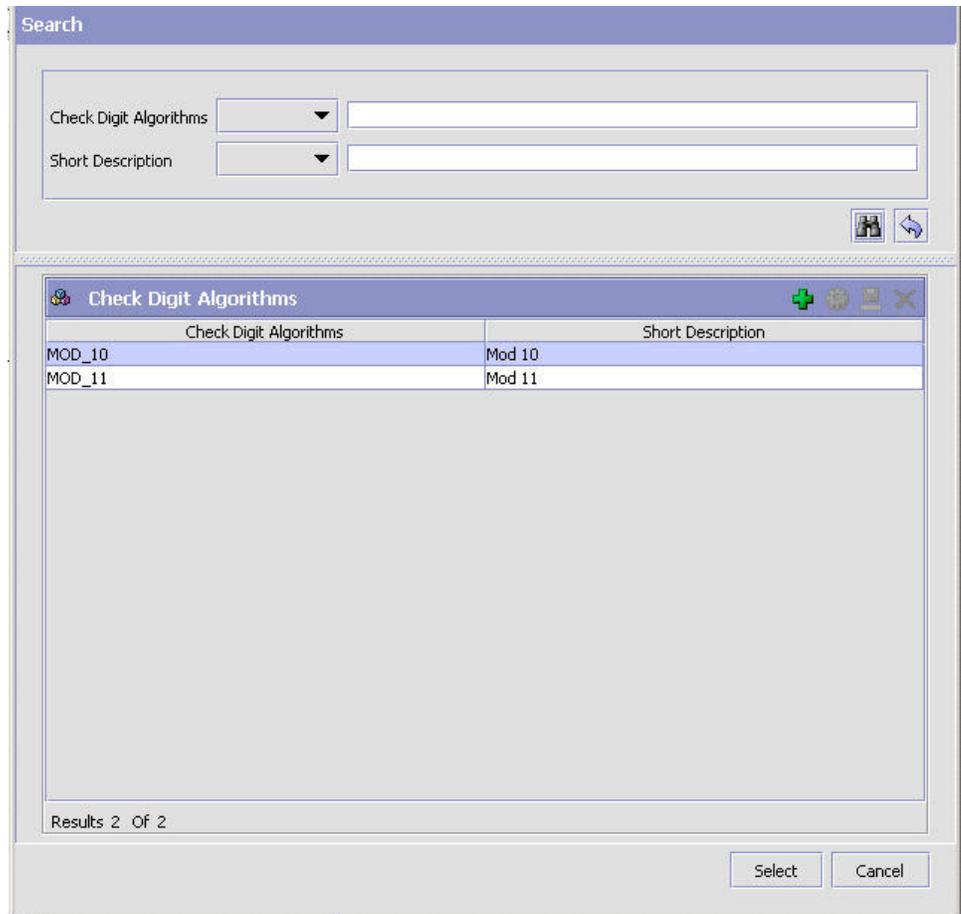
### チェック・ディジット決定アルゴリズムの設定:

#### このタスクについて

チェック・ディジット決定アルゴリズムを設定するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「PRO 番号生成方法」ポップアップ・ウィンドウで、 を選択します。
2. 「チェック・ディジット・アルゴリズムの検索 (Check Digit Algorithms Search)」ウィンドウが表示されます。



3. 「チェック・ディジット・アルゴリズム」パネルで、 を選択します。「チェック・ディジット・ロジックの詳細 (Check Digit Logic Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、94 ページの表 26 を参照してください。
5.  を選択します。

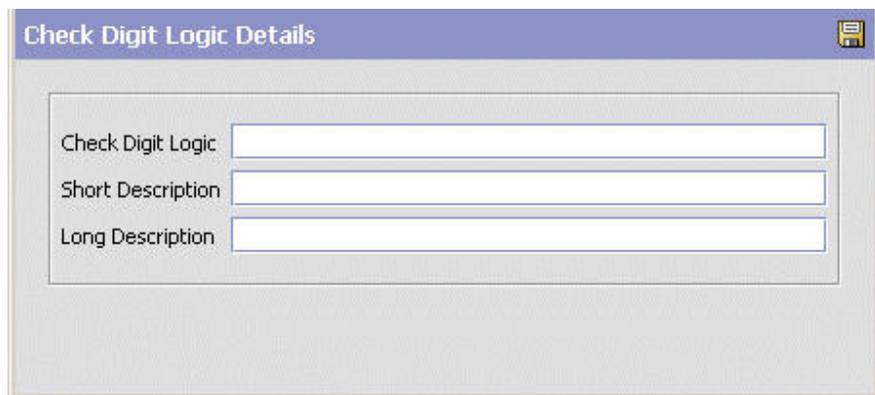


表 26. 「チェック・ディジット・ロジックの詳細 (Check Digit Logic Details)」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
チェック・ディジット・ロジック	作成するアルゴリズムのチェック・ディジット・ロジックを入力します。
簡略説明	作成するアルゴリズムの簡単な説明を入力します。
詳細説明	作成するアルゴリズムの詳細説明を入力します。

### 既存のチェック・ディジット決定アルゴリズムからの新規チェック・ディジット決定アルゴリズムの作成:

#### このタスクについて

既存のチェック・ディジット決定アルゴリズムから新規チェック・ディジット決定アルゴリズムを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「PRO 番号生成方法」ポップアップ・ウィンドウで、 を選択します。
2. 「チェック・ディジット・アルゴリズムの検索 (Check Digit Algorithms Search)」ウィンドウが表示されます。
3. 「検索」パネルで該当する検索条件を入力して、 を選択します。
4. 「チェック・ディジット・アルゴリズム」パネルに、関連する検索結果が表示されます。
5. 「チェック・ディジット・アルゴリズム」リストから、コピーするチェック・ディジット・アルゴリズムを選択します。
6.  を選択します。「チェック・ディジット・ロジックの詳細 (Check Digit Logic Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
7. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 26 を参照してください。
8.  を選択します。

### チェック・ディジット決定アルゴリズムの変更:

#### このタスクについて

チェック・ディジット決定アルゴリズムは、作成後に変更できます。

チェック・ディジット決定アルゴリズムを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「PRO 番号生成方法」ポップアップ・ウィンドウで、 を選択します。
2. 「チェック・ディジット・アルゴリズムの検索 (Check Digit Algorithms Search)」ウィンドウが表示されます。
3. 「検索」パネルで該当する検索条件を入力して、 を選択します。

4. 「チェック・ディジット・アルゴリズム」パネルに、関連する検索結果が表示されます。
5. 「チェック・ディジット・アルゴリズム」リストから、変更するチェック・ディジット・アルゴリズムを選択します。
6.  を選択します。「チェック・ディジット・ロジックの詳細 (Check Digit Logic Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
7. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、94 ページの表 26 を参照してください。
8.  を選択します。

#### **チェック・ディジット決定アルゴリズムの削除: このタスクについて**

チェック・ディジット決定アルゴリズムを削除するには、以下の手順を実行します。

##### **手順**

1. 「PRO 番号生成方法」ポップアップ・ウィンドウで、 を選択します。
2. 「チェック・ディジット・アルゴリズムの検索 (Check Digit Algorithms Search)」ウィンドウが表示されます。
3. 「検索」パネルで該当する検索条件を入力して、 を選択します。
4. 「チェック・ディジット・アルゴリズム」パネルに、関連する検索結果が表示されます。
5. 「チェック・ディジット・アルゴリズム」リストから、削除するチェック・ディジット・アルゴリズムを選択します。
6.  を選択します。

#### **ノードの小口貨物運送会社プリファレンスの変更: このタスクについて**

ノードの小口貨物運送会社プリファレンスを変更する手順は、次のとおりです。

##### **手順**

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「ノード属性」を選択します。
2. 「小口貨物運送会社プリファレンス」タブを選択します。
3. 該当する小口貨物運送会社プリファレンスを選択して、 を選択します。「PRO 番号生成方法」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、90 ページの表 25 を参照してください。
5.  を選択します。

#### **ノードの小口貨物運送会社プリファレンスの削除:**

## このタスクについて

ノードの小口貨物運送会社プリファレンスを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「ノード属性」を選択します。
2. 「小口貨物運送会社プリファレンス」タブを選択します。
3. 該当する小口貨物運送会社プリファレンスを選択して、 を選択します。

## ノードの運送会社ピックアップ・スケジュールの定義:

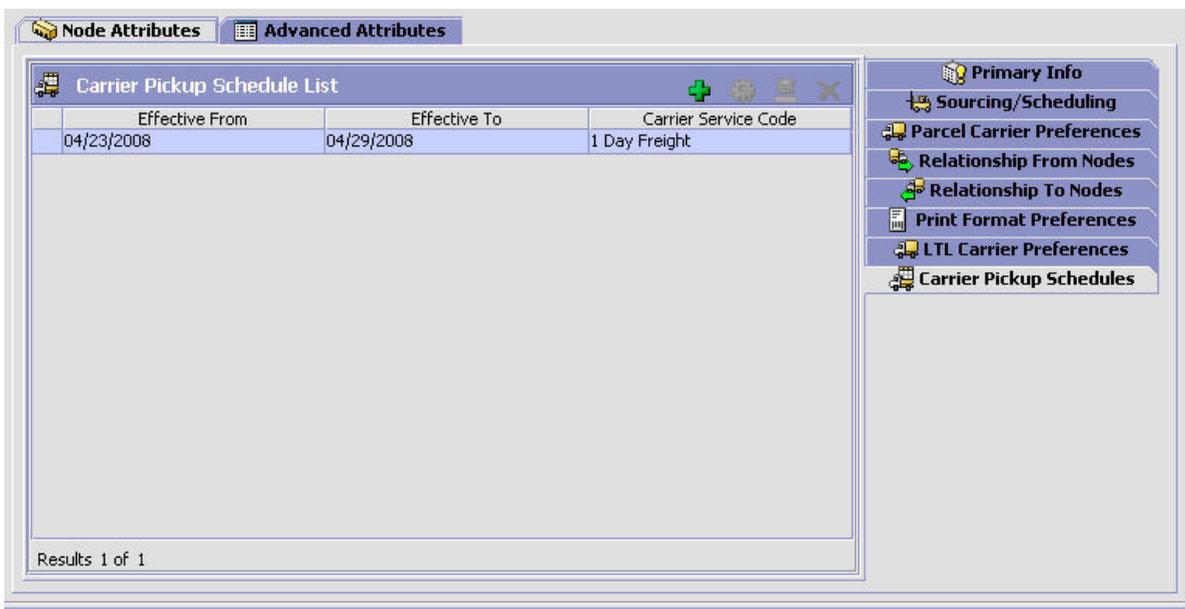
### このタスクについて

ノードでの運送会社のピックアップ・スケジュールを定義できます。ピックアップ・スケジュールは、追加、変更、および削除できます。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き*」を参照してください。

運送会社ピックアップ・スケジュールをノードに追加するには、次の手順を実行します。

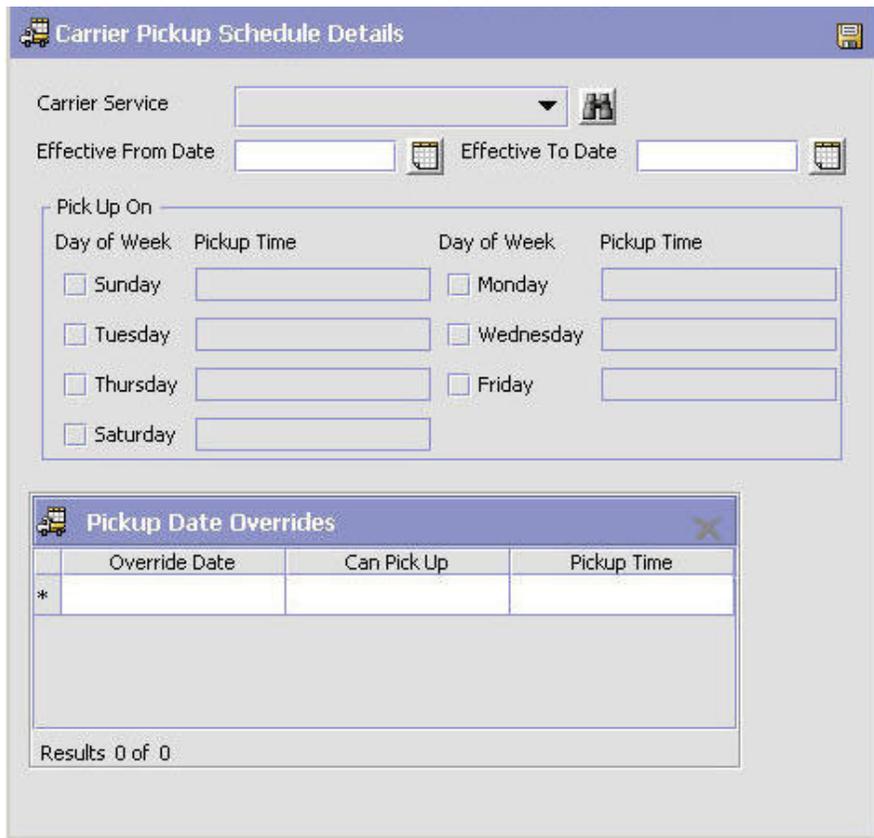
### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「ノード属性」を選択します。
2. 「運送会社ピックアップ・スケジュール」タブを選択します。



3.  を選択します。「運送会社ピックアップ・スケジュールの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。

5.  を選択します。



The screenshot shows a software window titled "Carrier Pickup Schedule Details". It contains several input fields and a table. At the top, there is a "Carrier Service" dropdown menu with a truck icon. Below it are "Effective From Date" and "Effective To Date" fields, each with a calendar icon. The main section is titled "Pick Up On" and contains a table with columns for "Day of Week" and "Pickup Time". The days listed are Sunday, Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, and Saturday, each with a checkbox and an input field. Below this is a "Pickup Date Overrides" window with a table that has columns for "Override Date", "Can Pick Up", and "Pickup Time". The table currently shows one row with an asterisk in the "Override Date" column. At the bottom of the window, it says "Results 0 of 0".

## タスクの結果

表 27. 「運送会社ピックアップ・スケジュールの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
配達サービス	ピックアップ・スケジュールを構成する対象となる運送会社サービスを選択します。
有効開始日	ピックアップ・スケジュールが有効になる日付を選択します。開始日を指定しない場合は、このピックアップ・スケジュールは既に開始されていると見なされます。
有効終了日	ピックアップ・スケジュールが終了する日付を選択します。終了日を指定しない場合は、このピックアップ・スケジュールは永続的に有効になります。ここでは、別の運送会社ピックアップ・スケジュールと重複しない日付範囲を指定してください。例えば、ある運送会社ピックアップ・スケジュールの日付範囲が 1 月から 6 月までの場合は、別のスケジュールで 5 月から 7 月までの日付範囲を指定することはできません。
ピックアップ日 (Pick Up On)	

表 27. 「運送会社ピックアップ・スケジュールの詳細」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
曜日	ピックアップが許可される各曜日のチェック・ボックスを選択します。
ピックアップ時間	この運送会社サービスがこのノードから出荷品をピックアップする時刻を入力します。時刻を指定しない場合は、この運送会社は選択された曜日にピックアップしません。
ピックアップ日オーバーライド	
オーバーライド日	スケジュールされたピックアップのオプションをオーバーライドする日付を選択します。
ピックアップ可能日	指定された日のピックアップを許可するには「はい」、禁止するには「いいえ」を選択します。
ピックアップ時間	ピックアップを許可するオーバーライド日のピックアップ時刻を入力します。

### 運送会社ピックアップ・スケジュールの変更:

#### このタスクについて

運送会社ピックアップ・スケジュールを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「ノード属性」を選択します。
2. 「運送会社ピックアップ・スケジュール」タブを選択します。
3. 「運送会社ピックアップ・スケジュール・リスト」からピックアップ・スケジュールを選択し、 を選択します。「運送会社ピックアップ・スケジュールの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、97 ページの表 27 を参照してください。
5.  を選択します。

### 運送会社ピックアップ・スケジュールの削除:

#### このタスクについて

運送会社ピックアップ・スケジュールを削除するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「ノード属性」を選択します。
2. 「運送会社ピックアップ・スケジュール」タブを選択します。
3. 「運送会社ピックアップ・スケジュール・リスト」からピックアップ・スケジュールを選択し、 を選択します。

## ノードの詳細在庫属性の定義

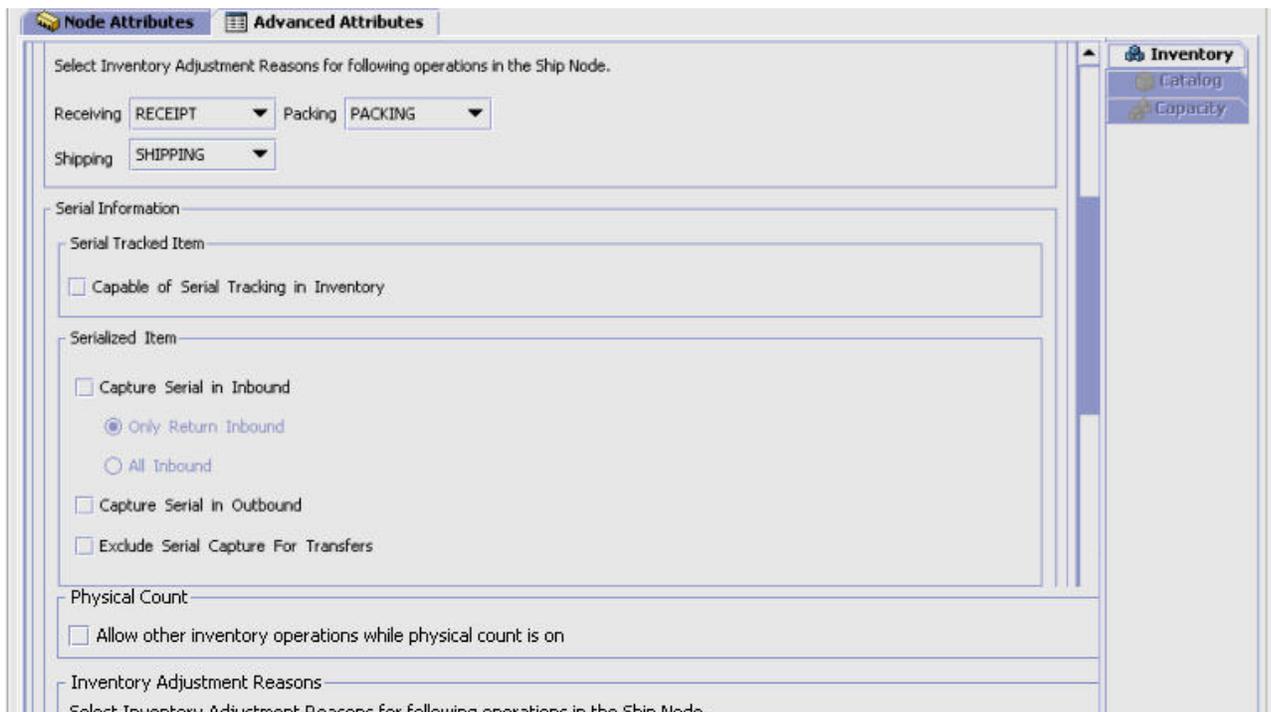
### このタスクについて

Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内でノードの在庫が管理されているかどうかを確認できます。また、構成対象のノード自体が在庫ノードであるのか、構成対象のノードがその所属先である在庫ノードを識別するのを確認することもできます。

ノードの詳細在庫属性を定義するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「詳細属性」を選択します。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、100ページの表 28 を参照してください。
3.  を選択します。



The screenshot shows the 'Node Attributes' window with the 'Advanced Attributes' tab selected. The main content area is titled 'Select Inventory Adjustment Reasons for following operations in the Ship Node.' and contains three dropdown menus: 'Receiving' set to 'RECEIPT', 'Packing' set to 'PACKING', and 'Shipping' set to 'SHIPPING'. Below these are sections for 'Serial Information' and 'Serialized Item' with various checkboxes and radio buttons. The 'Inventory' sidebar on the right shows 'Catalog' and 'Capacity' options.

表 28. 「詳細属性」の「在庫」タブ

フィールド	説明
Sterling Selling and Fulfillment Foundation は在庫情報を入手できません (Inventory Information Not Available To Sterling Selling and Fulfillment Foundation)	<p>このノードで Sterling Selling and Fulfillment Foundation 以外の在庫アプリケーションを使用して在庫を追跡している場合は、このオプションを選択します。</p> <p>このオプションを選択した場合は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、このノードの在庫ピクチャーにはまったくアクセスできず、在庫状況チェックをまったく試行しません。</p> <p><b>注:</b> このオプションを選択した場合でも、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、このノードの作成時に在庫組織として選択された組織とともに、このノードの在庫組織を保管します (256 ページの『システム管理のコンポーネント: インストール・ルールの定義』で在庫集約レベルのルールを参照)。</p>
Sterling Selling and Fulfillment Foundation は在庫情報を入手できるようになります (Inventory Is Made Available To Sterling Selling and Fulfillment Foundation)	<p>このノードが Sterling Selling and Fulfillment Foundation または別の在庫アプリケーションを使用して在庫を追跡する場合は、このオプションを選択します。このノードの在庫ピクチャーは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内で、在庫状況の計算、在庫追跡、および分配のために使用できます。</p> <p>ノードを構成している場合は、このフィールドにより、そのノードで在庫を追跡するか、無限在庫とするかが決まります。</p>
リアルタイムの外部供給取得	<p>供給を Sterling Selling and Fulfillment Foundation で取得可能であるが、供給は内部で保持されているのではなく外部システムから提供される場合は、このフィールドを選択します。供給ピクチャーを取得するには、getExternalSupply 外部プログラムを呼び出します。</p> <p><b>注:</b> このチェック・ボックスを使用できるのは、在庫情報を Sterling Selling and Fulfillment Foundation で入手可能であり、組織がノードのみである場合のみです。</p>
<b>タグ情報のキャプチャー (Capture Tag Information)</b>	
受入時のみ (Only when receiving)	在庫の受入時のみアイテムのタグ情報をキャプチャーするには、このオプションを選択します。
任意のノード操作の実行時 (When performing any node operation)	受入、ピック、格納、棚卸などの任意のノード操作の実行時にアイテムのタグ情報をキャプチャーするには、このオプションを選択します。
出荷時のみ (バイヤーが要求する場合) (Only when shipping, if the buyer mandates)	在庫を要求するバイヤーに在庫を出荷しているときにのみアイテムのタグ情報をキャプチャーするには、このオプションを選択します。
シリアル情報	
シリアル追跡アイテム	
在庫でシリアル番号追跡可能	<p>在庫内のシリアル追跡アイテムのシリアルを追跡するには、このオプションを選択します。</p> <p>このオプションを選択しない場合は、シリアル追跡はシリアル番号付きアイテムの構成に基づいて行われます。</p>
シリアル番号付きアイテム	

表 28. 「詳細属性」の「在庫」タブ (続き)

フィールド	説明
入庫でシリアルをキャプチャー	<p>入庫でシリアル情報をキャプチャーするには、このオプションを選択します。シリアルをキャプチャーする方法には次の 2 種類があります。</p> <p>返品入庫のみ - 返品入庫アイテムのシリアルのみをキャプチャーするには、このオプションを選択します。</p> <p>すべての入庫 - すべての入庫在庫のシリアルをキャプチャーするには、このオプションを選択します。</p>
出庫でシリアルをキャプチャー	出荷時にシリアル情報をキャプチャーするには、このオプションを選択します。
転送でシリアル・キャプチャーを除外	転送オーダーについてシリアルのキャプチャーを除外するには、このオプションを選択します。
<b>物理的棚卸</b>	
物理的棚卸が実施されている間、他の在庫操作を許可する	物理的棚卸プロセスの間に他の在庫操作の実行を許可するには、このチェック・ボックスを選択します。
<b>在庫調整理由</b>	
<p>受入、梱包、および出荷のアクティビティを実行する出荷ノードの在庫調整理由を関連付けることができます。</p> <p>Sterling Warehouse Management System で出荷ノードについて行った構成に基づいて、在庫調整理由のドロップダウン・リストが表示されます。在庫調整理由の定義については、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Warehouse Management System Configuration Guide</i>」を参照してください。</p>	
受入	<p>受入アクティビティに関連付けられた調整理由コードをドロップダウン・リストから選択します。デフォルトでは、受入アクティビティの値は「受入」です。</p> <p><b>注:</b> この理由コードがアカウントिंग・ピンに関連付けられていないことを確認してください。</p>
梱包	<p>梱包アクティビティに関連付けられた調整理由コードをドロップダウン・リストから選択します。デフォルトでは、梱包アクティビティの値は「梱包」です。</p> <p><b>注:</b> この理由コードがアカウントिंग・ピンに関連付けられていることを確認してください。</p>
配送	<p>出荷アクティビティに関連付けられた調整理由コードをドロップダウン・リストから選択します。デフォルトでは、出荷アクティビティの値は「出荷」です。</p> <p><b>注:</b> この理由コードがアカウントिंग・ピンに関連付けられていないことを確認してください。</p>
音声ベースのタスクの超過ピック	<p>音声ベースの超過ピック・アクティビティに関連付けられた調整理由コードをドロップダウン・リストから選択します。</p> <p><b>注:</b> この理由コードを適用できるのは、音声ベースのピックが倉庫内で実装されている場合のみです。</p>

## 組織の詳細在庫属性の定義

### このタスクについて

組織の在庫を Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内で管理するかどうかを指定できます。構成中の組織を在庫組織とすることも、構成中の組織が属する在庫組織を指定することもできます。

注: これは、インストール・レベルの構成です。実装時にこのタブのパラメーターを再構成しようとししないでください。

注: 「名前を付けて保存」操作で組織を作成すると、新しい組織の在庫組織は、元の組織の在庫組織になります。元の組織が独自の在庫組織である場合、元の組織は、新しい組織の在庫組織として設定されます。

組織の詳細在庫属性を定義するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「詳細属性」を選択します。
2. 「在庫」タブを選択します。
3.  を選択します。

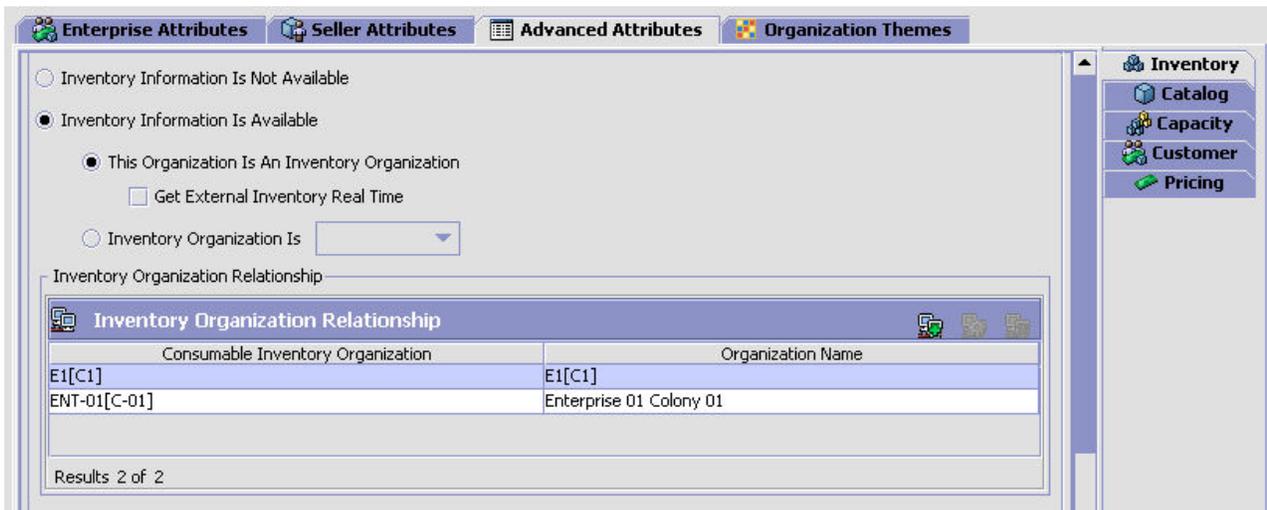


表 29. 「在庫」タブ

フィールド	説明
在庫情報は使用不可	<p>組織が Sterling Selling and Fulfillment Foundation 以外の在庫アプリケーションを使用して供給と需要を追跡する場合は、このオプションを選択します。</p> <p>このオプションが選択されると、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、この組織の在庫ピクチャーにアクセスすることはできず、在庫状況のチェックを一切試行しません。それでも、この組織をセラーとして使用してオーダーを発行することは可能ですが、オーダーは在庫状況のチェックなしにスケジュールされます。</p>
在庫情報は使用可能	<p>組織が Sterling Selling and Fulfillment Foundation または別の在庫アプリケーションのいずれかを使用して在庫の供給と需要を追跡する場合は、これを選択します。組織の供給と需要のピクチャーは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内で在庫状況の計算、在庫の追跡、および分配のために使用できます。</p> <p>ノードを構成している場合は、このフィールドにより、そのノードで在庫を追跡するか、無限在庫とするかが決まります。</p>
この組織は在庫組織である	<p>在庫が Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内で管理されることを選択し、この組織を在庫集約者として指定したい場合は、これを選択します。</p> <p>在庫組織は、次のことを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 製品の在庫 ID を提供します。例えば、異なる組織は、同じ在庫アイテムに対して異なる製品識別 ID を持つことができます。在庫組織は、複数の組織間でそれらの製品 ID を単一の命名として論理的に結びつけるためのメカニズムを提供します。</li> <li>• 単一の物理ロケーションが複数の組織間で共有されている場合に、在庫の所有権を確立します。在庫の所有権を確立するために、複数の論理ロケーションを作成する必要はありません。</li> <li>• 在庫の分離を実現します。これにより、在庫組織に属するすべての組織が、同じ在庫組織内の他のすべての組織の在庫を確認できるようになります。</li> </ul>
在庫組織	<p>「Sterling Selling and Fulfillment Foundation は在庫情報を入力できるようにします」を選択し、この組織を適切な在庫組織の一部として関連付ける場合は、このオプションと該当する在庫組織を選択します。</p> <p><b>重要:</b> 組織は、関連付ける在庫組織と同じカタログ組織を持っている必要があります。</p>
リアルタイムの外部在庫取得	<p>在庫が Sterling Selling and Fulfillment Foundation で使用可能であるが、在庫が、内部で管理されているシステムではなく、外部システムからもたらされる場合は、このフィールドを選択します。在庫ピクチャーは、その後 getExternalInventory 外部プログラムを呼び出すことで取得されます。</p>

表 29. 「在庫」タブ (続き)

フィールド	説明
リアルタイムの外部供給取得	供給を Sterling Selling and Fulfillment Foundation で取得可能であるが、供給は内部で保持されているのではなく外部システムから提供される場合は、このフィールドを選択します。供給ピクチャーは、その後 getExternalSupply 外部プログラムを呼び出すことで取得されます。 <b>注:</b> このチェック・ボックスは、組織がノードとして定義されている場合にのみ選択可能です。
<b>物理的棚卸</b>	
物理的棚卸が実施されている間、他の在庫操作を許可する	物理的棚卸プロセスの間に他の在庫操作の実行を許可するには、このチェック・ボックスを選択します。  このチェック・ボックスは、組織がノードである場合にのみ使用可能です。
<b>在庫組織関係</b>	
在庫組織関係	ドロップダウン・リストから在庫組織を選択するには、  を選択します。消費可能在庫組織と組織名が表示されます。 <b>注:</b> このパネルは、「この組織は在庫組織である」が選択された場合にのみ表示されます。

## 組織の詳細カタログ属性の定義

### このタスクについて

組織が自身のカタログを管理するか、別の組織によってカタログが管理されるようにするかを指定できます。

**注:** これは、インストール・レベルの構成です。実装時にこのタブのパラメーターを再構成しようとししないでください。

**注:** 「名前を付けて保存」操作で組織を作成すると、新しい組織のカタログ組織は、元の組織のカタログ組織になります。元の組織が独自のカタログ組織である場合、元の組織は、新しい組織のカタログ組織として設定されます。

組織の詳細カタログ属性を定義するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「詳細属性」を選択します。
2. 「カタログ」タブを選択します。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、105 ページの表 30 を参照してください。
4.  を選択します。



表 30. 「カタログ」タブ

フィールド	説明
組織で独自のカタログを定義	組織で独自のアイテム・マスター・カタログを定義する場合は、このフィールドを選択します。この組織が定義するアイテム・マスターは、他の組織と共有できます。
カタログ定義	独自の別のカタログを作成せずに、組織のアイテム・マスター・カタログを使用する場合は、このフィールドを選択し、該当するカタログ組織を選択します。

## 組織の詳細キャパシティー属性の定義

### このタスクについて

組織が自身のキャパシティーを管理するか、別の組織によってキャパシティーが管理されるようにするかを指定できます。

**注:** これは、インストール・レベルの構成です。実装時にこのタブのパラメーターを再構成しようとししないでください。

**注:** 「名前を付けて保存」操作で組織を作成すると、新しい組織のキャパシティー組織は、元の組織のキャパシティー組織になります。元の組織が独自のキャパシティー組織である場合、元の組織は、新しい組織のキャパシティー組織として設定されます。

組織の詳細キャパシティー属性を定義するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「詳細属性」を選択します。
2. 「カタログ」タブを選択します。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、106ページの表 31 を参照してください。

4.  を選択します。

表 31. 「キャパシティー」タブ

フィールド	説明
この組織はキャパシティー組織である	<p>この組織をサービス・キャパシティーの集約者として指定する場合は、「この組織はキャパシティー組織である」を選択します。</p> <p>キャパシティー組織は、次のことを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 製品のサービス・キャパシティー ID を提供します。</li> <li>• 単一の物理ロケーションが複数の組織間で共有されている場合に、キャパシティーの所有権を確立します。キャパシティーの所有権を確立するために、複数の論理ロケーションを作成する必要はありません。</li> <li>• キャパシティーの分離を実現します。これにより、キャパシティー組織に属するすべての組織が、同じキャパシティー組織内の他のすべての組織のキャパシティーを確認できるようになります。</li> </ul>
キャパシティー編成	<p>この組織を適切なキャパシティー組織の一部として関連付ける場合は、「キャパシティー編成」を選択し、該当するキャパシティー組織を選択します。</p> <p><b>重要:</b> 組織は、関連付けるキャパシティー組織と同じカタログ組織を持っている必要があります。</p>
リアルタイムのキャパシティー取得	<p>外部システムから Sterling Selling and Fulfillment Foundation がキャパシティー情報を利用できるようにする場合は、このフィールドを選択します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation がキャパシティーをチェックすると、外部システムは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation からの外部プログラム呼び出しに応じてキャパシティーを提供します。</p>

## 組織の詳細顧客属性の定義

### このタスクについて

組織が自身の顧客を定義するか、別の組織によって顧客が定義されるようにするかを指定できます。



The screenshot shows a configuration interface with two radio button options. The first option, 'Organization Defines Its Customers', is selected with a filled radio button. The second option, 'Customers Defined By', is unselected with an empty radio button and is followed by a dropdown menu.

組織の詳細顧客属性を定義するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「詳細属性」を選択します。
2. 「顧客」タブを選択します。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、106ページの表 31 を参照してください。
4.  を選択します。

## 組織の詳細価格設定属性の定義

### このタスクについて

組織が自身の価格設定を管理するか、別の組織によって価格設定が管理されるようにするかを指定できます。

注: これは、インストール・レベルの構成です。実装時にこのタブのパラメーターを再構成しようとししないでください。

組織の詳細価格設定属性を定義するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「詳細属性」を選択します。
2. 「価格設定」タブを選択します。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、105ページの表 30 を参照してください。
4.  を選択します。

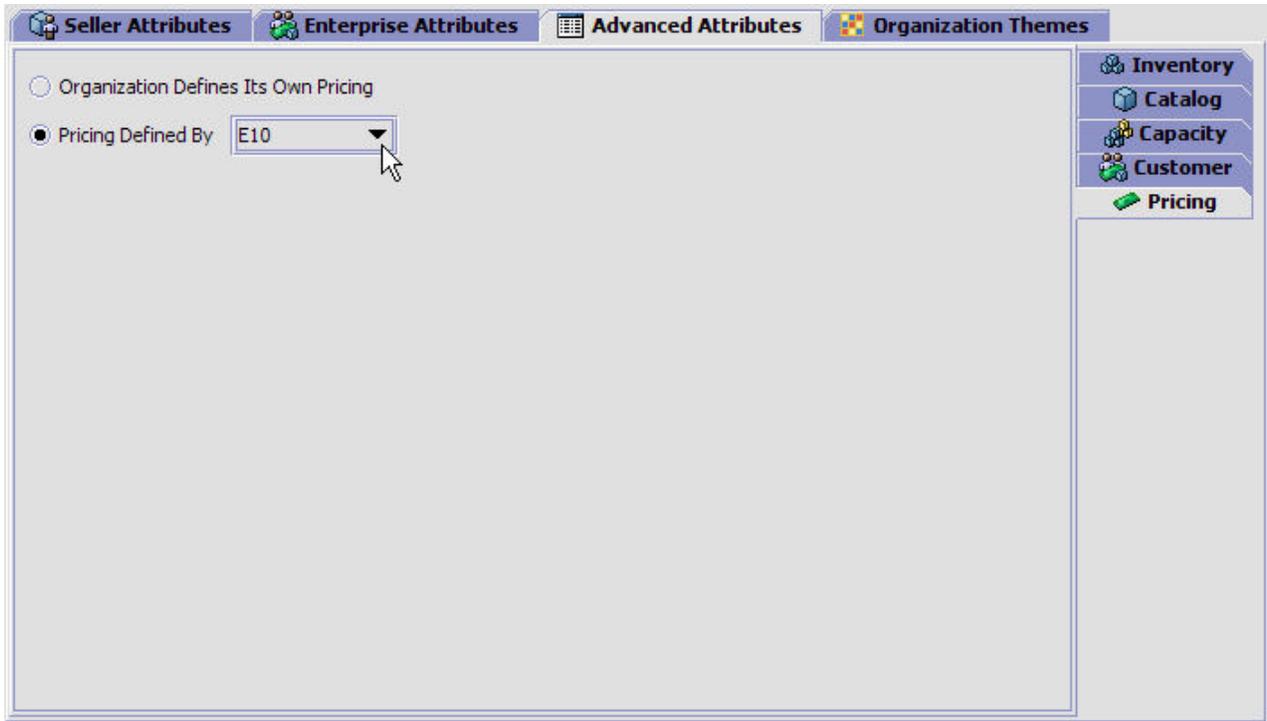


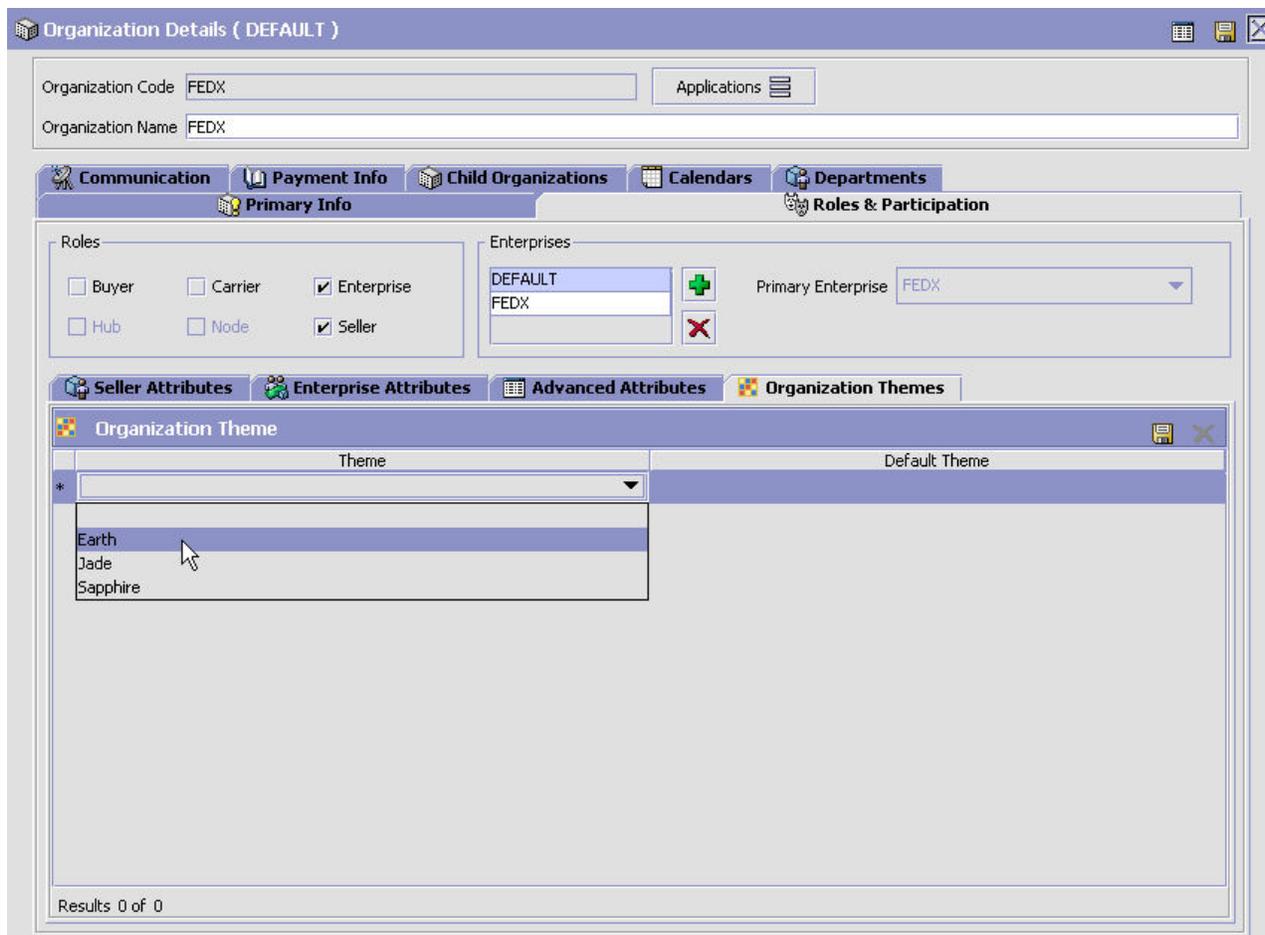
表 32. 「価格設定」タブ

フィールド	説明
組織で独自の価格設定を定義	組織で独自の価格リスト、価格設定ルール、およびクーポンを定義する場合は、このフィールドを選択します。この組織が定義する価格設定データは、他の組織と共有できます。
価格設定定義	組織の価格リスト、価格設定ルール、およびクーポンを使用する場合は、このフィールドを選択し、該当する組織を選択します。

## 組織のテーマの定義

### このタスクについて

ストアフロントの URL の一部となるテーマのリストを作成して管理し、Web 上の顧客向けのブランド名、「ルック・アンド・フィール」のエントリー・ポイントを提供することができます。このタブは、組織がエンタープライズおよびセラーの役割を持っている場合に使用可能になります。季節の表示や販売促進用の表示など、特定のテーマに加えて、より汎用的なデフォルト・テーマをリストできます。



組織のテーマを定義するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウの「役割と参加」タブで、「組織テーマ」を選択します。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 33 を参照してください。
3.  を選択します。

表 33. 組織テーマ

フィールド	説明
テーマ	組織がサポートしているテーマの名前を入力します。この名前は、URL の一部になります。
デフォルト・テーマ	組織のデフォルト・テーマの ID を入力します。この名前は、URL の一部になります。

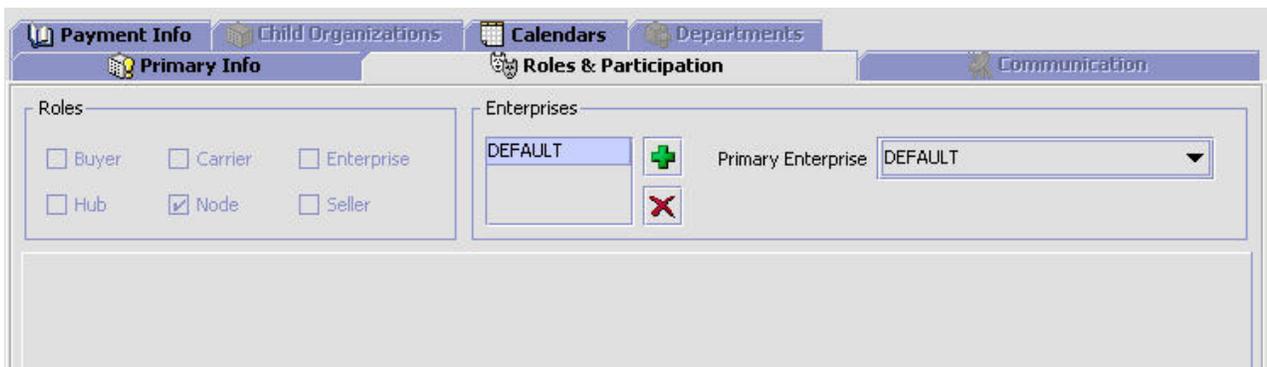
## ヤードの役割と参加者の関連付けの割り当て このタスクについて

組織がヤードの場合、役割はノードとして選択されます。このヤードにその他の役割を割り当てることはできません。

ヤードの役割と参加者の関連付けを割り当てるには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「役割と参加」タブを選択します。



組織がフルフィルメント・ノードではなくヤードであるため、「役割」ボックスは使用不可です。

2. 「エンタープライズ」ボックスで、 を選択します。「参加エンタープライズ」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。この組織が参加するエンタープライズを、ドロップダウン・リストから選択します。

 を選択して、組織に参加しないエンタープライズを削除します。

3. 「主要エンタープライズ」で、組織の主要エンタープライズをドロップダウン・リストから選択します (該当する場合)。
4.  をクリックします。

## 通信プロトコルの定義

通信プロトコルとは、ハブ環境内で組織が通信するために使用する手段のことです。例えば、セットアップする組織がドキュメントの送受信に FTP サイトと E メール・サービスの両方を使用する場合、それらはこのプロトコルを利用して識別します。通信プロトコルは作成、変更、および削除できます。

### 通信プロトコルの作成

#### このタスクについて

通信プロトコルを作成するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「通信」タブを選択します。「通信プロトコル」リストと「ドキュメント」リストが表示されます。
2. 「通信プロトコル」リストから、 を選択します。「通信プロトコルの詳細 (Communication Protocol Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 34 を参照してください。
4.  を選択します。

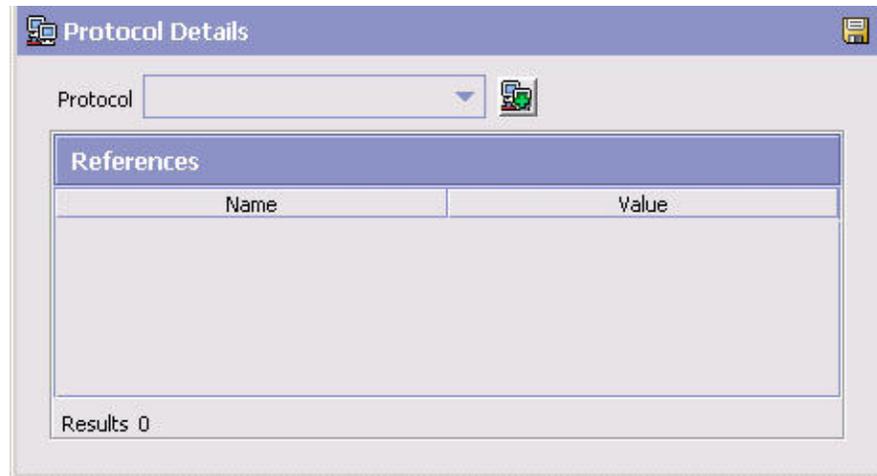


表 34. 「通信プロトコルの詳細 (Communication Protocol Details)」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
プロトコル	設定するプロトコルのタイプを選択します。プロトコルについて詳しくは、329 ページの『プロトコル・コードの定義』を参照してください。  参照を入力するには  を選択する必要があります。
参照	
名前	プロトコルの参照名を入力します。IP アドレスなどです。
値	参照名に対する値を入力します。

## 通信プロトコルの変更

### このタスクについて

通信プロトコルを変更するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「通信」タブを選択します。「通信プロトコル」と「ドキュメント」リストが表示されます。

2. 「通信プロトコル」リストから、該当する通信プロトコルを選択し、 を選択します。「通信プロトコルの詳細 (Communication Protocol Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 該当するフィールドの情報を変更します。フィールドの値の説明については、111 ページの表 34 を参照してください。
4.  を選択します。

## 通信プロトコルの削除

### このタスクについて

通信プロトコルを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「通信」タブを選択します。「通信プロトコル」リストと「ドキュメント」リストが表示されます。
2. 「通信プロトコル」リストから、該当する通信プロトコルを選択し、 を選択します。

## バイヤーのドキュメントの定義

組織の役割としてバイヤーを選択した場合、バイヤーのドキュメントのタイプを定義することが必要なことがあります。バイヤーのドキュメントとは、バイヤー組織がセラー組織と通信するとき使用するドキュメントです。

以下に示すのは、いくつかのバイヤーのドキュメントの例です。

- 計画済み購入オーダー
- 購入オーダーのダウンロード
- 請求書

バイヤーのドキュメントは作成、変更、および削除できます。

### バイヤーのドキュメントの作成:

#### このタスクについて

バイヤーのドキュメントを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「通信」タブを選択します。「通信プロトコル」リストと「ドキュメント」リストが表示されます。
2. 「ドキュメント」リストから、「バイヤーのドキュメント」タブを選択します。「バイヤーのドキュメント」リストが表示されます。
3.  を選択します。「バイヤーのドキュメントの詳細 (Buyer Document Detail)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、113 ページの表 35 を参照してください。
5.  を選択します。

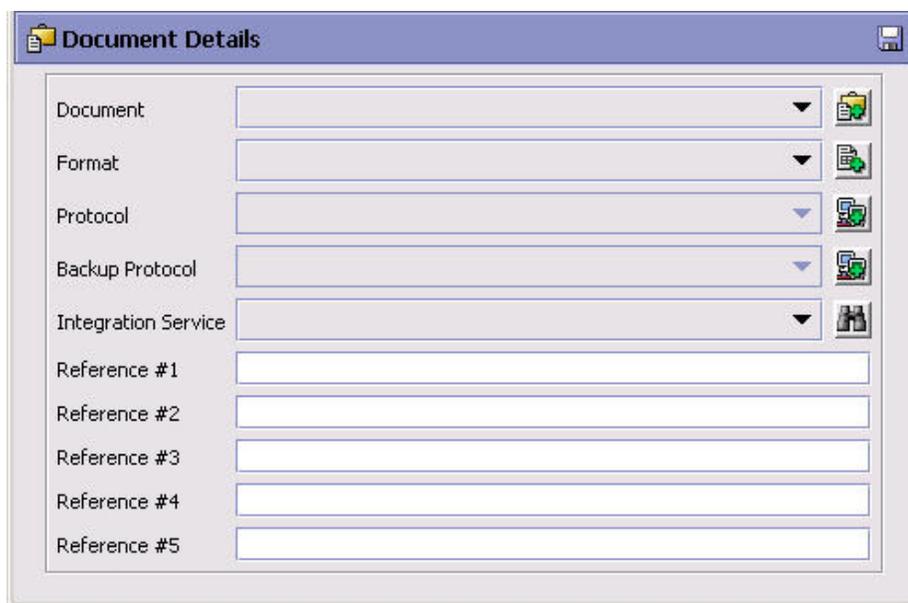


表 35. 「バイヤーのドキュメントの詳細 (Buyer Document Detail)」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
ドキュメント	組織で使用するビジネス・ドキュメント。ビジネス・ドキュメントについて詳しくは、331 ページの『ビジネス・ドキュメント・コードの定義』を参照してください。
形式	ドキュメントの表示形式を選択します。例えば、XML や EDI などです。ドキュメント形式について詳しくは、330 ページの『ドキュメント形式コードの定義』を参照してください。
プロトコル	ドキュメントの送受信時に使用するプロトコルを選択します。例えば、FTP などです。
バックアップ・プロトコル	プライマリー・プロトコルに問題がある場合に使用するバックアップ・プロトコルを選択します。例えば、FTP サイトで問題が発生したときのために E メール・サービスを設定します。プロトコルについて詳しくは、110 ページの『通信プロトコルの定義』を参照してください。

表 35. 「バイヤーのドキュメントの詳細 (Buyer Document Detail)」 ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
統合サービス	<p>バイヤーがこの文書を受信するために使用するサービスを入力します。</p> <p>例えば、インボイス文書を設定しているとします。バイヤーは、EDI 形式を使用してこの文書を組織から受信することを望んでいます。このバイヤーと関与しているある組織は、EDI ではない形式で文書を受信することを望んでいる 2 つの運送会社も利用しています。この企業のルーターは、パイプラインの中でインボイス文書がバイヤーに送信される時点で、優先されるサービスを探すように設定されています。この組織は、EDI を含む各種の形式でドキュメントを転送することを可能にするように構成されたいくつかのサービスも保有しています。</p> <p>このフィールドを使用して、パイプライン内の必要なポイントで必要な情報を EDI 形式に転送するためのサービスを指定できます。</p>
参照 1	<p>任意のユーザー定義の情報を入力します。このフィールドは、                  情報を入力して  を選択しないと使用可能になりません。</p>
参照 2	<p>任意のユーザー定義の情報を入力します。このフィールドは、                  情報を入力して  を選択しないと使用可能になりません。</p>
参照 3	<p>任意のユーザー定義の情報を入力します。このフィールドは、                  情報を入力して  を選択しないと使用可能になりません。</p>
参照 4	<p>任意のユーザー定義の情報を入力します。このフィールドは、                  情報を入力して  を選択しないと使用可能になりません。</p>
参照 5	<p>任意のユーザー定義の情報を入力します。このフィールドは、                  情報を入力して  を選択しないと使用可能になりません。</p>

### バイヤーのドキュメントの変更: このタスクについて

バイヤーのドキュメントを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「通信」タブを選択します。「通信プロトコル」リストと「ドキュメント」リストが表示されます。
2. 「ドキュメント」リストから、「バイヤーのドキュメント」タブを選択します。「バイヤーのドキュメント」リストが表示されます。
3. 該当するバイヤーのドキュメントを選択し、 を選択します。「バイヤーのドキュメントの詳細 (Buyer Document Detail)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

4. 該当するフィールドの情報を変更します。フィールドの値の説明については、113 ページの表 35 を参照してください。
5.  を選択します。

#### バイヤーのドキュメントの削除: このタスクについて

バイヤーのドキュメントを削除するには、次の手順を実行します。

##### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「通信」タブを選択します。「通信プロトコル」リストと「ドキュメント」リストが表示されます。
2. 「ドキュメント」リストから、「バイヤーのドキュメント」タブを選択します。「バイヤーのドキュメント」リストが表示されます。
3. 該当するバイヤーのドキュメントを選択し、 を選択します。

#### セラーのドキュメントのセットアップ

組織の役割としてセラーを選択した場合、セラーのドキュメントのタイプを定義することが必要なことがあります。セラーのドキュメントとは、セラー組織がバイヤー組織と通信するとき使用するドキュメントです。

以下に示すのは、いくつかのセラーのドキュメントの例です。

- オーダーの確認
- 出荷の確認
- 計画済みオーダーの変更

セラーのドキュメントは作成、変更、および削除できます。

#### セラーのドキュメントの作成: このタスクについて

セラーのドキュメントを作成するには、次の手順を実行します。

##### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「通信」タブを選択します。「通信プロトコル」リストと「ドキュメント」リストが表示されます。
2. 「ドキュメント」リストから、「セラーのドキュメント」タブを選択します。「セラーのドキュメント」リストが表示されます。
3.  を選択します。「セラーのドキュメントの詳細 (Seller Document Detail)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、116 ページの表 36 を参照してください。
5.  を選択します。

表 36. 「セラーのドキュメントの詳細 (Seller Document Detail)」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
ドキュメント	組織で使用するビジネス・ドキュメントです。ビジネス・ドキュメントについて詳しくは、331 ページの『ビジネス・ドキュメント・コードの定義』を参照してください。
形式	ドキュメントの表示形式を選択します。例えば、XML や EDI などです。ドキュメント形式について詳しくは、330 ページの『ドキュメント形式コードの定義』を参照してください。
プロトコル	ドキュメントの送受信時に使用するプロトコルを選択します。例えば、FTP などです。
バックアップ・プロトコル	プライマリー・プロトコルに問題がある場合に使用するバックアップ・プロトコルを選択します。例えば、FTP サイトで問題が発生したときのために E メール・サービスを設定します。プロトコルについて詳しくは、110 ページの『通信プロトコルの定義』を参照してください。

表 36. 「セラーのドキュメントの詳細 (Seller Document Detail)」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
統合サービス	<p>セラーがこのドキュメントを受け取るために使用することを希望するサービスを入力します。</p> <p>例えば、「購入オーダー」ドキュメントをセットアップしているとします。セラーは、このドキュメントを EDI 形式で組織から受け取ることを希望しています。このセラーとともに参加している特定の組織は、EDI 以外の形式でこのドキュメントを受け取ることを希望している 2 つの追加セラーも使用しています。この組織は、「購入オーダー」ドキュメントがセラーに送信される場所である自身のパイプライン内のポイントでこの希望されたサービスを探すように構成されたルーターを保有しています。この組織は、EDI を含む各種の形式でドキュメントを転送することを可能にするように構成されたいくつかのサービスも保有しています。</p> <p>このフィールドを使用して、パイプライン内の必要なポイントで必要な情報を EDI 形式に転送するためのサービスを指定できます。</p>
参照 1	<p>任意のユーザー定義の情報を入力します。このフィールドは、情報を入力して  を選択しないと使用可能になりません。</p>
参照 2	<p>任意のユーザー定義の情報を入力します。このフィールドは、情報を入力して  を選択しないと使用可能になりません。</p>
参照 3	<p>任意のユーザー定義の情報を入力します。このフィールドは、情報を入力して  を選択しないと使用可能になりません。</p>
参照 4	<p>任意のユーザー定義の情報を入力します。このフィールドは、情報を入力して  を選択しないと使用可能になりません。</p>
参照 5	<p>任意のユーザー定義の情報を入力します。このフィールドは、情報を入力して  を選択しないと使用可能になりません。</p>

### セラーのドキュメントの変更:

#### このタスクについて

セラーのドキュメントを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「通信」タブを選択します。「通信プロトコル」リストと「ドキュメント」リストが表示されます。
2. 「ドキュメント」リストから、「セラーのドキュメント」タブを選択します。「セラーのドキュメント」リストが表示されます。
3. 該当するセラーのドキュメントを選択して、 を選択します。「セラーのドキュメントの詳細 (Seller Document Detail)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

4. 該当するフィールドの情報を変更します。フィールドの値の説明については、116 ページの表 36 を参照してください。
5.  を選択します。

#### セラーのドキュメントの削除: このタスクについて

セラーのドキュメントを削除するには、以下の手順を実行します。

##### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「通信」タブを選択します。「通信プロトコル」リストと「ドキュメント」リストが表示されます。
2. 「ドキュメント」リストから、「セラーのドキュメント」タブを選択します。「セラーのドキュメント」リストが表示されます。
3. 該当するセラーのドキュメントを選択して、 を選択します。

#### 運送会社ドキュメントのセットアップ

組織の役割として運送会社を選択した場合、運送会社ドキュメントのタイプを定義することが必要なことがあります。運送会社ドキュメントは、運送会社の出荷情報をバイヤー組織とセラー組織との間で通信するために使用されるドキュメントです。

以下に示すのは、いくつかの運送会社ドキュメントの例です。

- パッケージの詳細
- 集合・混載ピックアップ要求
- 集合・混載ピックアップ確認

運送会社ドキュメントは作成、変更、および削除できます。

#### 運送会社ドキュメントの作成: このタスクについて

運送会社ドキュメントを作成するには、以下の手順を実行します。

##### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「通信」タブを選択します。「通信プロトコル」リストと「ドキュメント」リストが表示されます。
2. 「ドキュメント」リストから、「運送会社ドキュメント」タブを選択します。「運送会社ドキュメント」リストが表示されます。
3.  を選択します。「運送会社ドキュメントの詳細 (Carrier Document Detail)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、119 ページの表 37 を参照してください。
5.  を選択します。

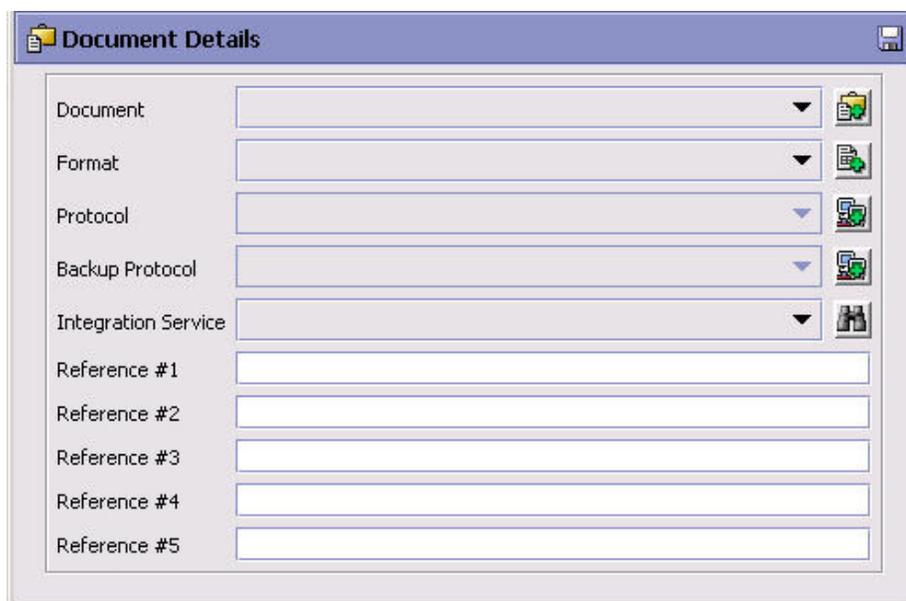


表 37. 「運送会社ドキュメントの詳細 (Carrier Document Detail)」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
ドキュメント	組織で使用するビジネス・ドキュメント。ビジネス・ドキュメントについて詳しくは、331 ページの『ビジネス・ドキュメント・コードの定義』を参照してください。
形式	ドキュメントの表示形式を選択します。例えば、XML や EDI などです。ドキュメント形式について詳しくは、330 ページの『ドキュメント形式コードの定義』を参照してください。
プロトコル	ドキュメントの送受信時に使用するプロトコルを選択します。例えば、FTP などです。
バックアップ・プロトコル	プライマリー・プロトコルに問題がある場合に使用するバックアップ・プロトコルを選択します。例えば、FTP サイトで問題が発生したときのために E メール・サービスを設定します。プロトコルについて詳しくは、110 ページの『通信プロトコルの定義』を参照してください。

表 37. 「運送会社ドキュメントの詳細 (Carrier Document Detail)」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
統合サービス	<p>運送会社がこの文書を受信するために使用するサービスを入力します。</p> <p>例えば、パッケージ・タイプ文書を設定しているとします。運送会社は、EDI 形式を使用してこの文書を組織から受信することを望んでいます。この運送会社と関与しているある組織は、EDI ではない形式で文書を受信することを望んでいる 2 つの運送会社も利用しています。この企業のルーターは、パイプラインの中でパッケージ・タイプ文書が運送会社に送信される時点で、優先されるサービスを探すように設定されています。この組織は、EDI を含む各種の形式でドキュメントを転送することを可能にするように構成されたいくつかのサービスも保有しています。</p> <p>このフィールドを使用して、パイプライン内の必要なポイントで必要な情報を EDI 形式に転送するためのサービスを指定できます。</p>
参照 1	<p>任意のユーザー定義の情報を入力します。このフィールドは、情報を入力して  を選択しないと使用可能になりません。</p>
参照 2	<p>任意のユーザー定義の情報を入力します。このフィールドは、情報を入力して  を選択しないと使用可能になりません。</p>
参照 3	<p>任意のユーザー定義の情報を入力します。このフィールドは、情報を入力して  を選択しないと使用可能になりません。</p>
参照 4	<p>任意のユーザー定義の情報を入力します。このフィールドは、情報を入力して  を選択しないと使用可能になりません。</p>
参照 5	<p>任意のユーザー定義の情報を入力します。このフィールドは、情報を入力して  を選択しないと使用可能になりません。</p>

### 運送会社ドキュメントの変更:

#### このタスクについて

運送会社ドキュメントを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

- 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「通信」タブを選択します。「通信プロトコル」リストと「ドキュメント」リストが表示されます。
- 「ドキュメント」リストから、「運送会社ドキュメント」タブを選択します。「運送会社ドキュメント」リストが表示されます。
- 該当する運送会社ドキュメントを選択し、 を選択します。「運送会社ドキュメントの詳細 (Carrier Document Detail)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

4. 該当するフィールドの情報を変更します。フィールドの値の説明については、119 ページの表 37 を参照してください。
5.  を選択します。

#### 運送会社ドキュメントの削除:

##### このタスクについて

運送会社ドキュメントを削除するには、次の手順を実行します。

##### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「通信」タブを選択します。「通信プロトコル」リストと「ドキュメント」リストが表示されます。
2. 「ドキュメント」リストから、「運送会社ドキュメント」タブを選択します。「運送会社ドキュメント」リストが表示されます。
3. 該当する運送会社ドキュメントを選択し、 を選択します。

## 組織の支払情報の定義

### このタスクについて

他の組織と何らかの金銭取引を行う組織は、支払情報を設定する必要があります。この情報では、すべてのパーティーにアカウント番号、請求先住所、および税情報が提供されます。

組織の支払情報を設定するには、次の手順を実行します。

##### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「支払情報」タブを選択します。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、122 ページの表 38 を参照してください。
3.  を選択します。

表 38. 「支払情報」タブ

フィールド	説明
ハブのあるアカウント番号	ハブ組織との金銭取引に使用される、組織のアカウント番号を入力します (該当する場合)。
税情報	
納税者 ID	組織の納税者識別番号を入力します。この番号は納税エンティティとしての組織を示します。
権限タイプ	免除証書に対して付与されている権限タイプを入力します (該当する場合)。
非課税	組織が税の支払いを免除されている場合は、このボックスにチェックを付けます。
免除証書	免除証書の識別番号を入力します。
承認の発行	免除証書を発行した機関を入力します。
税管轄	免除証明書が発行された税管轄を入力します。
請求先住所	組織の請求先住所。この情報は必須です。  住所を入力する場合は、  を選択します。  追加の連絡先情報を表示するには、「連絡先情報」タブを選択します。

## 組織の子組織の表示

### このタスクについて

組織が持つ任意の子組織を表示することができます。

組織の子組織を表示するには、「組織の詳細情報」ウィンドウで「子組織」タブを選択します。このタブから組織の作成および変更ができます。方法についての詳細は、この章の追加セクションで説明されています。

Organization Code	Name	Roles
CO1	Child Orgn1	Enterprise

## 組織のカレンダーの定義

組織の作業カレンダーを定義できます。作業カレンダーは、作業シフト (例えば、日中シフトや夜間シフト)、例外シフト (例えば、在庫ストックの実行のための月の最終日の追加シフト)、および例外日 (例えば、7月4日や元旦) を定義できる、定義済み期間の日付のスパンです。

ノードまたは組織は、そのカレンダーおよび主要エンタープライズのカレンダーを、そのビジネス・カレンダー、出荷カレンダー、または受入カレンダーとして選択できます。

ノードまたは組織は、カレンダーの作成時に、カレンダー定義をその主要エンタープライズから継承することもできます。カレンダーを別のカレンダーから継承した場合、有効期間、シフト、カレンダー日例外、および例外シフトなどの親カレンダーの構成要素を、子カレンダーは実行時に使用できます。これは、継承カレンダーが独自の有効期間またはシフトを指定できないことを意味します。ただし、子カレ

ンダーには、独自の一連のカレンダー日例外および例外シフトを指定する機能があります。これらは、実行時に子カレンダーの 1 日の詳細を取得する際に、親カレンダーの構成要素とともに使用されます。

注: 子カレンダーのカレンダー日例外および例外シフトは、同じ日付であれば、親カレンダーのそれらの構成要素をオーバーライドします。

カレンダーの継承時には、以下の制限が想定されます。

- 組織またはノードのカレンダーは、主要エンタープライズのカレンダーおよびその独自のカレンダーからのみ継承できます。
- 親カレンダーは、継承カレンダーにすることはできません。
- 継承カレンダーは非継承カレンダーに変更することはできず、その逆もできません。
- 継承カレンダーは、独自の有効期間や標準シフトを指定することはできません。
- カレンダーは別のカレンダーから継承されます。
  - 継承カレンダーには、カレンダー日例外および例外シフトのみを定義できません。
  - 例外日付は、親カレンダーのいずれかの有効期間に該当しなければなりません。さらに、例外シフトの開始時刻と終了時刻は、その有効期間内のシフトの開始時刻と終了時刻に一致しなければなりません。

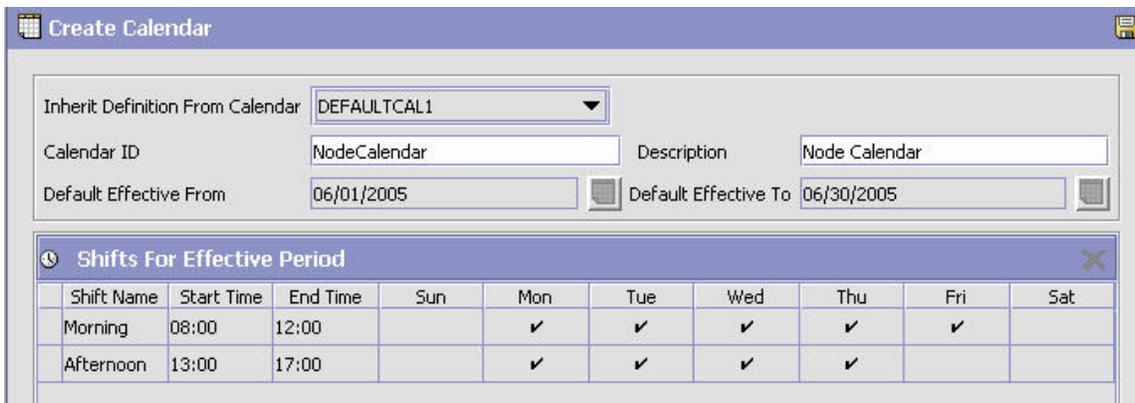
## 組織のカレンダーの設定

### このタスクについて

組織のカレンダーを設定するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「**カレンダー**」タブを選択します。カレンダーのリストが表示されます。
2.  を選択します。「**カレンダーの作成**」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



Shift Name	Start Time	End Time	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
Morning	08:00	12:00		✓	✓	✓	✓	✓	
Afternoon	13:00	17:00		✓	✓	✓	✓		

表 39. 「カレンダーの作成」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
カレンダーから定義を継承する	ドロップダウン・リストから、カレンダー定義の継承元とする親カレンダーを選択します。 <b>注:</b> このリストには、継承されたカレンダーは表示されません。 <b>注:</b> リストからカレンダーが選択されると、「デフォルトの有効開始日」、「デフォルトの有効終了日」、および「有効期間のシフト」が使用不可になります。
カレンダー ID	カレンダーの ID を入力します。
説明	カレンダーの説明を入力します。
デフォルトの有効開始日	カレンダーが有効となる時間フレームの開始日を (組織のロケールで定義されている日付形式で) を入力します。
デフォルトの有効終了日	カレンダーが有効である時間フレームの終了日を (組織のロケールで定義されている日付形式で) を入力します。ただし、システムでは終了日の時間が 00:00:00 と認識されるため、終了日は日付範囲に含まれません。
シフト名	シフト名を入力します。
開始時刻	シフトの開始時刻を入力します。
終了時刻	シフトの終了時刻を入力します。

シフトの作業がある曜日を選択します。必要に応じてシフトを追加します。

**注:** 1 つのカレンダーには複数の有効期間がある場合があります。

3.  を選択します。「カレンダーの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

**Calendar Details**

Calendar Definition Is Inherited From:

Calendar ID:

Description:  

---

**Calendar**

August 2005

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

---

**Day Details**

Working Day  Non Working Day

**Shifts**

Shift Name	Start Time	End Time	Is Valid
AM	08:00	12:00	<input checked="" type="checkbox"/>
PM	13:00	18:00	<input checked="" type="checkbox"/>

## カレンダーのデフォルトの定義

### このタスクについて

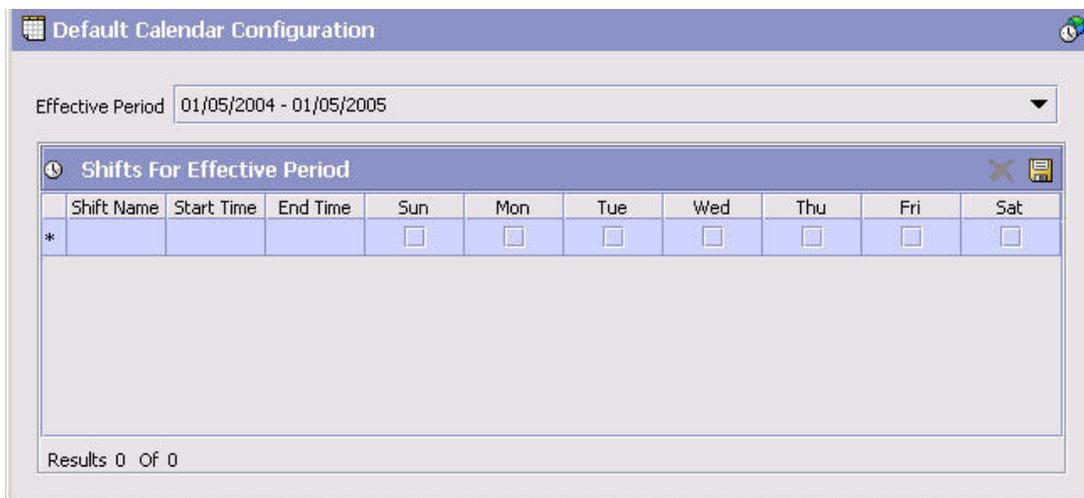
カレンダーのデフォルトの有効日と作業シフトを構成できます。

注: デフォルトの有効日と作業シフトは、継承されたカレンダーについては定義できません。

カレンダーのデフォルトを構成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「カレンダーの詳細」ポップアップ・ウィンドウで、 を選択します。「デフォルトのカレンダー構成」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



2. 「有効期間」から、このカレンダーを使用する期間を選択します。

- このカレンダーに関連付ける追加の有効期間を作成するには、 を選択します。

注: 複数の有効期間が重なり合っているはいけません。有効期間の開始時刻や終了時刻が昼間であってもいけません。

3. 「シフト名」に、シフトの名前を入力します。
4. 「開始時刻」に、シフトの開始時刻を入力します。
5. 「終了時刻」に、シフトの終了時刻を入力します。

注: シフトを翌日に繰り越すように構成することはできません。

6. 「シフト有効対象」から、構成対象のシフトが有効となる曜日を選択します。
7.  を選択します。選択したデフォルト曜日について、このシフトが「カレンダーの詳細」ポップアップ・ウィンドウに表示されます。

## 特定のカレンダー日に対する例外の作成

### このタスクについて

通常の就業日を非就業日とマークしたり、特定のシフトが特定の日に有効かどうかを示したりすることができます。示された例外は、その日にのみ有効です。

例えば、7月4日が組織の休日であり、それが、通常は就業日である金曜日にあたる場合、その特定の日を非就業日としてマークできます。

別の例として、組織に、毎月最終日に棚卸をするための追加シフトがあるとします。そのシフトを作成し、カレンダーの有効期間内で毎月最終日に有効なシフトとしてマークできます。

**Calendar Details**

Calendar Definition Is Inherited From:

Calendar ID:

Description:  

---

**Calendar**

August 2005

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

---

**Day Details**

Working Day  Non Working Day

**Shifts**

Shift Name	Start Time	End Time	Is Valid
AM	08:00	12:00	<input checked="" type="checkbox"/>
PM	13:00	18:00	<input checked="" type="checkbox"/>

通常の就業日を非就業日としてマークするか、その逆を行うには、「カレンダーの詳細」ポップアップ・ウィンドウから適切な日付を選択し、「1日の詳細」フレームから該当する例外を選択します。

デフォルトのシフトを有効または無効としてマークするには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「カレンダーの詳細」ウィンドウから、作業する日付を選択します。
2. この日付がデフォルトで非就業日である場合、以下の手順を実行します。
  - a. 「就業日」を選択します。
  - b. 「シフト」の表から、有効または無効としてマークするシフトを選択します。この特定の日付でシフトが有効であることを示すには、「有効」をチェックします。この特定の日付でシフトが無効であることを示すには、「有効」のチェック・マークを外します。
  - c. 「OK」を選択し、「1日の詳細」ウィンドウで  を選択します。

3. この日付がデフォルトで就業日である場合、「就業日以外」を選択します。これにより、その日のすべてのシフトに対して「有効」のチェック・マークが自動的に外れます。「1日の詳細」ウィンドウで  を選択します。

注: 「カレンダーの詳細」ウィンドウで  を選択した場合、強調表示されていた日付は、その日に対して何も変更しなくても、例外日の色で表示されます。

4.  を選択することで、デフォルトを適用してオーバーライドできます。ただし、継承されたカレンダーで、親のオーバーライドに対してデフォルトを復元することはできません。

## 組織の部門の表示

### このタスクについて

組織の部門をすべて表示することができます。

組織の部門を表示するには、「組織の詳細情報」ウィンドウで、「部門」タブを選択します。

### 部門の作成

#### このタスクについて

部門を作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「部門」タブを選択します。「部門リスト」が表示されます。
2. 「部門リスト」から、 を選択します。「部門の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、「結果」を参照してください。
4.  を選択します。



Department Details	
Department Code	<input type="text"/>
Department Name	<input type="text"/>
Department Abbreviation	<input type="text"/>
Queue	<input type="text"/> 
EmailId	<input type="text"/>

## タスクの結果

### フィールド

#### 説明

### 部門コード

部門を識別する固有コード。

**部門名** 部門の名前。

### 部門の略語

部門名の省略形。

**キュー** 例外のルーティング先となる部門に対するデフォルトの警告キューを選択します。このリストには、部門組織で構成された警告キューのみが含まれます。警告キューの作成について詳しくは、343 ページの『第 12 章 警告キューの構成』を参照してください。

### E メール ID

部門の E メール ID を入力します。

「部門の詳細」ポップアップ・ウィンドウ

## 部門の変更

### このタスクについて

部門を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「部門」タブを選択します。「部門リスト」が表示されます。
2. 「部門リスト」から、該当する部門を選択し、 を選択します。「部門の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 該当するフィールドの情報を変更します。
4.  を選択します。

## 部門の削除

### このタスクについて

部門を削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「組織の詳細情報」ウィンドウで、「部門」タブを選択します。「部門リスト」が表示されます。
2. 「部門リスト」から、該当する部門を選択し、 を選択します。

## 組織の変更

### このタスクについて

組織は、作成後に変更できます。

組織を変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「参加者モデリング」>「参加者の設定」を選択します。作業領域に、「組織の検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。組織のリストが表示されます。
3. 該当する組織を選択して、 を選択します。「組織の詳細情報」ウィンドウが表示されます。
4. さらなる説明については、27 ページの『組織の作成と変更』にあるトピックを参照してください。

---

## 組織階層の作成および変更

組織階層内にあるすべての既存の組織は編成することができます。この階層は、関連した組織間の関係を構成するために使用できます。例えば、1 つの親ハブとその下にいくつかのエンタープライズがある複数事業部制設定の場合、組織階層内のハブの下で、既存のすべてのエンタープライズを編成できます。組織は、組織階層に追加したりそこから削除したりできます。

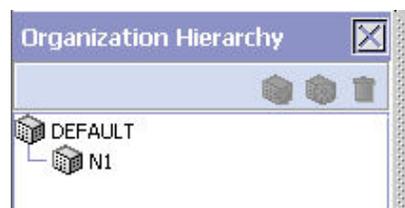
## 組織階層の作成

### このタスクについて

組織階層を作成するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「参加者モデリング」>「参加者の設定」を選択します。作業領域に、「組織の検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。組織のリストが表示されます。
3. 組織階層を作成する組織を選択し、 を選択します。
4. 左フレームに、選択した組織の名前の「組織階層 (Organizational Hierarchy)」ツリーが表示されます。組織を階層に追加します。



## 組織の組織階層への追加

### このタスクについて

組織を組織階層に追加するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. ツリーから、組織を追加する上位の組織を選択します。
2. 「組織階層 (Organizational Hierarchy)」 ツリーから、 を選択します。「組織を階層に追加」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。組織のリストが表示されます。
4. 組織階層に追加する組織を選択して、 を選択します。

## 組織階層からの組織の削除

### このタスクについて

組織階層から組織を削除するには、削除する組織を「組織階層 (Organizational Hierarchy)」 ツリーで選択して、 を選択します。

---

## ノード・タイプの作成

ノードを分類するノード・タイプを作成できます。ノードの関係を定義したり、在庫ルールを設定したりするには、ノード・タイプを使用できます。

在庫ノード・タイプ・ルールの定義について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

## ノード・タイプの作成

### このタスクについて

ノード・タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「参加者モデリング」>「ノード・タイプ」を選択します。作業領域に、「ノード・タイプ」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「ノード・タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

3. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、表 40 を参照してください。
4.  を選択します。

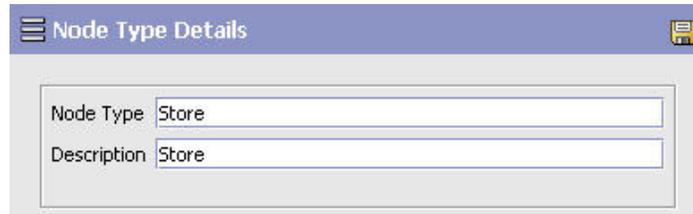


表 40. 「ノード・タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
ノード・タイプ	ノード・タイプの名前を入力します。
説明	ノード・タイプの説明を入力します。

## ノード・タイプの変更 このタスクについて

ノード・タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「参加者モデリング」>「ノード・タイプ」を選択します。作業領域に、「ノード・タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するノード・タイプを選択して、 を選択します。「ノード・タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、表 40 を参照してください。
4.  を選択します。

## ノード・タイプの削除 このタスクについて

ノード・タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「参加者モデリング」>「ノード・タイプ」を選択します。作業領域に、「ノード・タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するノード・タイプを選択して、 を選択します。



---

## 第 4 章 プロセス・モデルの構成

プロセス・モデリングは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation ビジネス・プロセス・ワークフローのセットアップです。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation ワークフローは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がビジネス・ドキュメントおよびそれらのドキュメントにあるトランザクションを取り扱う方法を定義する、一連のビジネス・ロジック全体で構成されます。トランザクションは、特定のビジネス・ロジックをカプセル化する作業論理単位です。トランザクションは、オーダー、在庫の変更、返品、支払承認、または他の多くのシステム・イベントに関連付けることができます。作成されたオーダー、在庫モニター、およびリリースの送信は、トランザクションの例です。

ビジネス・プロセスのワークフローは、以下のもので構成されます。

- 伝票種別
- リポジトリ
- プロセス・タイプ・パイプライン
- トランザクション
- 条件
- イベント
- ステータス
- アクション
- サービス

---

### 伝票種別の構成

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、構成済みのビジネス・プロセス・ワークフロー経由で情報を運ぶ伝票種別を使用します。これらのドキュメントは、基本伝票種別から派生しています。基本伝票種別は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation が取り扱うビジネス・ドキュメントを定義し、すべての派生伝票種別の共通ストレージ構造を定義します。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、以下の基本伝票種別が定義されています。

- 一般
- オーダー
- 集合・混載
- 棚卸
- 容器
- ウェーブ
- 作業オーダー
- 案件

注: 選択可能な基本伝票種別は、事前定義されており、追加することはできません。

伝票種別は、基本伝票種別から派生する固有のビジネス・ドキュメントです。例えば、販売オーダーや購入オーダーなどの伝票種別は、オーダー基本伝票種別から派生しています。

伝票種別について詳しくは、723 ページの『第 26 章 ドキュメント・タイプ』を参照してください。

ライフサイクルを実行するために、各伝票種別には、経ることができる一連のさまざまなプロセスがあります。これらのプロセスは、プロセス・タイプと呼ばれます。すべての基本伝票種別には、Sterling Selling and Fulfillment Foundation に、定義済みの一連のプロセス・タイプがあります。

以下に示すのは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で定義されている (基本伝票種別の) プロセス・タイプです。

- オーダー・フルフィルメント
- オーダー交渉
- 出荷
- 計画済みオーダー実行
- 計画済みオーダー交渉
- 返品物流
- 返品出荷
- 返品受入
- テンプレート・オーダー
- 購入オーダー実行
- 購入オーダー交渉
- 入荷
- 購入オーダー受入
- 転送オーダー実行
- 転送オーダー配達
- 転送オーダー受入
- マスター・オーダー・フルフィルメント
- 見積フルフィルメント
- 集合・混載実行
- 一般
- WMS 格納
- WMS レイアウト定義
- WMS 在庫
- トレーラー積み付け
- タスク実行
- 移動要請実行

- 積荷目録作成
- 超過梱包作成
- 棚卸実行
- パック・プロセス
- 出庫ピッキング
- VAS プロセス

支払集金ルールや変更ルールなどのビジネス・ルールは、各伝票種別に対してセットアップする必要があります。

## プロセス・モデリング・ツリー

### このタスクについて

Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、各基本伝票種別のグラフィカル表現とその伝票および処理タイプを表示できます。

プロセス・モデリング・ツリーを表示するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「プロセス・モデリング」を選択します。作業領域に、「プロセス・モデリング」ウィンドウが表示されます。
2. 基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示するには、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択します。

## 新規伝票種別の定義

キー・アクション (在庫の更新など) に関係するルールが影響を受ける場合は、新規伝票種別の作成が必要になることがあります。この場合、既存の伝票種別を新規のカスタム伝票種別として保存できます。新規伝票種別は、保存元の伝票種別と関連があるすべてのプロセス・タイプを保持します。伝票種別レベルとプロセス・タイプ・レベルの両方のデータベース表も、新規伝票種別にコピーされます。

以下の伝票種別属性は、新規伝票種別にコピーされます。

- ドキュメント・パラメーター
- 文書テンプレート
- 料金カテゴリー
- 料金名
- 共通コード
- オーダー明細タイプ
- ページ条件
- ビジネス・ルール
- 受入処分

以下のプロセス・タイプ・レベル属性は、新規伝票種別にコピーされます。

- プロセス・タイプ・ルール

- 日付タイプ
- プロセス・タスク・タイプ
- ステータス
- ステータス在庫のタイプ
- 変更タイプ
- 変更ルール
- トランザクション
- トランザクション・ピックアップ・ステータス
- トランザクション・ドロップ・ステータス
- イベント

## **新規伝票種別の作成**

### **このタスクについて**

新規伝票種別を作成するには、以下の手順を実行します。

#### **手順**

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウから、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「伝票種別」スイムレーンで、適切な伝票種別を右クリックし、「名前を付けて保存」を選択します。「新規伝票種別」ウィンドウが表示されます。

**New Document Type**

Document Type: 0001  
 Description: Sales Order

**ORDER\_FULFILLMENT**  
 Process Type: ORDER\_FULFILLMENT    Process Type Name: Order Fulfillment  
 Description: Order Fulfillment

**ORDER\_NEGOTIATION**  
 Process Type: ORDER\_NEGOTIATION    Process Type Name: Order Negotiation  
 Description: Order Negotiation

**ORDER\_DELIVERY**  
 Process Type: ORDER\_DELIVERY    Process Type Name: Outbound Shipment  
 Description: Outbound Shipment

3. 「伝票種別」に、新規伝票種別の識別番号を入力します。
4. 「説明」に、伝票種別の短い説明を入力します。
5. 名前をつけて保存する伝票種別に関連付けるプロセス・タイプごとに、プロセス・タイプ、プロセス・タイプ名、および短い説明を入力します。
6.  を選択します。新規伝票種別が、関連付けられたプロセス・タイプとともに伝票種別ツリーに表示されます。

注: 指定した伝票種別とプロセス・タイプの値に、拡張子 `.ex` が自動的に付加されます。

## 伝票種別の説明の変更

### このタスクについて

伝票種別の説明を変更できます。

伝票種別の説明を変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当する伝票種別を右クリックし、「詳細」を選択します。「伝票種別の詳細」ウィンドウが表示されます。



3. 「説明」に、新しい説明を入力します。
4.  を選択します。

## プロセス・タイプの変更

### このタスクについて

個々のプロセス・タイプに固有のパラメーターおよびテンプレートを定義できます。これらの定義は、そのプロセス・タイプのライフサイクルを通じてドキュメントに適用されます。

プロセス・タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「詳細」を選択します。「プロセス・タイプの詳細」ウィンドウが表示されます。

注: 見積フルフィルメント・プロセス・タイプの主要情報の定義について詳しくは、146 ページの『見積フルフィルメント・プロセス・タイプの主要情報の定義』を参照してください。案件フルフィルメント・タイプの主要情報の定義について詳しくは、147 ページの『案件フルフィルメント・プロセス・タイプの主要情報の定義』を参照してください。

## プロセス・タイプの主要情報の定義

### このタスクについて

オーダーの作成、在庫、金銭取引、およびその他の関連エンティティのための、プロセス・タイプのパラメーターを定義できます。これらのパラメーターは、プロセス・タイプにおいてそのライフサイクル全体を通してドキュメントに適用されません。

プロセス・タイプの主要情報を定義するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「詳細」を選択します。「プロセス・タイプの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「主要情報」タブを選択します。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、142 ページの表 41 を参照してください。

5.  を選択します。

表 41. プロセス・タイプの「主要情報」タブ

フィールド	説明
プロセス・タイプ	プロセス・タイプ ID。
プロセス・タイプ名	プロセス・タイプの名前を入力します。
説明	プロセス・タイプの簡単な説明を入力します。
ドキュメント分類	このプロセス・タイプに対して使用する伝票種別を選択します。
テンプレート・オーダーとして使用	このプロセス・タイプ内のドキュメントを別のドキュメントのテンプレートとして使用できる場合は、このフィールドを選択します。
オーダー作成/変更時にアイテムを検証する (Validate Item During Order Creation/Modification)	オーダー作成時またはオーダー明細の追加時に、アイテム ID および単位をカタログ管理アプリケーション (または外部のカタログ管理アプリケーション) に照らして検証する場合は、このフィールドを選択します。
ドライバー日付	
出荷指定日	フルフィルメント・プロセスがオーダー伝票の出荷指定日に基づいて進められるようにする場合は、このオプションを選択します。
配達指定日	フルフィルメント・プロセスがオーダー伝票の配達指定日に基づいて進められるようにする場合は、このオプションを選択します。
「オーダーの作成」タブ	

表 41. プロセス・タイプの「主要情報」タブ (続き)

フィールド	説明
デフォルト設定にテンプレート・オーダーを使用	<p>既存のオーダーの属性の一部を新たに作成されたオーダーのデフォルト値として設定できるようにする場合は、このフィールドを選択します。</p> <p>オーダーが作成され、このフィールドが選択された場合、システムは、同じバイヤー、セラー、およびエンタープライズ組織を持ち、かつ「テンプレート伝票種別」フィールドで指定された伝票種別の既存のオーダーを検索します。既存のテンプレートが見つかった場合、属性の一部が新しいオーダーにコピーされる可能性があります。</p> <p>テンプレート・オーダーについて詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management User Guide</i>」、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Supply Collaboration User Guide</i>」、および「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Reverse Logistics User Guide</i>」を参照してください。</p>
テンプレート伝票種別	<p>「デフォルト設定にテンプレート・オーダーを使用」を選択した場合、デフォルトのテンプレート・オーダーに対して使用する伝票種別を選択します。</p>
ドラフト・オーダーの監査を記録する	<p>ドラフト・ステータスのオーダーに変更が加えられた場合にシステムが監査レコードを記録するようにするには、このフィールドを選択します。</p> <p><b>注:</b> オーダー・ステータスへの変更は、このオプションを選択したかどうかに関係なく監査されます。</p>
返金フルフィルメント・オーダー伝票種別	<p>返金フルフィルメント・オーダーから使用する伝票種別を選択します。</p>
カタログに基づいたデフォルトの配達方法	<p>カタログ内で「配達許可」として設定されているアイテムに割り当てられた構成済み配達方法をデフォルト値として設定したい場合は、「カタログに基づいたデフォルトの配達方法」を選択します。アイテム属性の定義について詳しくは、「<i>カタログ管理: 構成ガイド</i>」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このフィールドは、販売オーダー以外の伝票種別に対しては選択しないでください。</p>
オーダー状況の変更に対して監査を行わない (Suppress Audits for Change Order Status)	<p>オーダー状況の何らかの変更に対して <code>changeOrderStatus</code> API によって <code>CHANGE_STATUS</code> 監査を行わないようにする場合は、このフィールドを選択します。</p>
「在庫」タブ	

表 41. プロセス・タイプの「主要情報」タブ (続き)

フィールド	説明
スケジュールする需要タイプ	<p>「オーダーのスケジュール」時間トリガー・トランザクションの実行時に考慮する必要のある需要タイプを選択します。</p> <p><b>重要:</b> 「在庫の検討事項」テーブルで需要タイプに関連付けられているすべての供給タイプは、需要を最適化するために在庫のスケジュールリングで考慮されます。在庫の検討事項の構成について詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド</i>」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> 需要タイプには、このプロセス・タイプに対して「オーダーのスケジュール」でドロップすることを計画したトランザクションの需要タイプと同じ供給タイプが関連付けられている必要があります。</p>
リリースする需要タイプ	<p>「オーダーのリリース」時間トリガー・トランザクションの実行時に考慮する必要のある需要タイプを選択します。</p> <p><b>重要:</b> 「在庫の検討事項」テーブルで需要タイプに関連付けられているすべての供給タイプは、在庫のリリース計算で考慮されます。在庫の検討事項の構成について詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド</i>」を参照してください。</p>
セラーの組織について在庫の更新を許可	システムがセラーに対して在庫の更新を実行するようにしたい場合は、このフィールドを選択します。
バイヤーの組織について在庫の更新を許可	システムがバイヤーに対して在庫の更新を実行するようにしたい場合は、このフィールドを選択します。
スケジュール時とリリース時の在庫チェックを許可	システムに保管されている在庫の供給と需要のデータを、スケジュールおよびリリース・プロセスで在庫状況の計算に使用する場合は、このフィールドを選択します。
オーダー作成時に予約を作成	<p>オーダー作成時に予約を有効にする場合は、このフィールドを選択します。</p> <p><b>注:</b> このフィールドは、調達オーダーの場合は適用されません。</p>
調達配置済み供給タイプ	調達オーダーの発行時に考慮する必要のある供給タイプを選択します。
「会計」タブ	
インボイス作成の許可	オーダーまたは出荷のインボイス作成を有効にするには、このフィールドを選択します。
出荷の仮インボイス作成を許可	<p>出荷の仮インボイス作成を有効にするには、このフィールドを選択します。仮インボイス作成について詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き</i>」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このフラグは、オーダーから作成された出荷にのみ適用されます。オーダーのない出荷の場合、このフラグは無視されます。オーダーのない出荷の仮インボイス作成について詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs</i>」を参照してください。</p>

表 41. プロセス・タイプの「主要情報」タブ (続き)

フィールド	説明
支払処理の許可	支払処理を有効にするには、このフィールドを選択します。支払処理について詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 製品概念の手引き」を参照してください。
ドラフト・オーダーについて価格計算を許可	ドラフト・オーダー作成時に、アイテムに価格を関連付けられるようにする場合は、このフィールドを選択します。価格の構成について詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 分散オーダー管理 構成ガイド」または「 <i>Business Center</i> 価格設定管理ガイド」を参照してください。 <b>注:</b> このフィールドと「確認済みオーダーについて価格計算を許可」がいずれも選択されていない場合、そのオーダーに関連付けられている価格リストがあっても、価格計算は行われません。このフィールドと「確認済みオーダーについて価格計算を許可」がいずれも選択された場合、オーダー作成サイクルのどのポイントでも価格計算を行うことができます。このフィールドのみが選択された場合、ドラフト・オーダー作成時にのみ価格計算が行われます。
確認済みオーダーについて価格計算を許可	ドラフト・オーダーの確認およびオーダー作成時に価格設定を行う場合は、このフィールドを選択します。 <b>注:</b> このフィールドと「ドラフト・オーダーについて価格計算を許可」がいずれも選択されていない場合、そのオーダーに関連付けられている価格リストがあっても、価格計算は行われません。このフィールドと「ドラフト・オーダーについて価格計算を許可」がいずれも選択された場合、オーダー作成サイクルのどのポイントでも価格計算を行うことができます。このフィールドのみが選択された場合、オーダーが確認された後任意の時点で (数量調整後など、確認が可能なタイミングで) 価格計算が行われます。
関連エンティティ	
連鎖オーダーの作成を許可	スケジューリング時にオーダー伝票で連鎖オーダーを作成できるようにする場合は、このフィールドを選択します。
連鎖された調達入荷オーダーの伝票種別	調達入荷オーダー・シナリオで、連鎖オーダー伝票に対して使用する伝票種別を選択します。  調達入荷オーダー・シナリオは、顧客への最終的な出荷地点がノードの 1 つであり、出荷ノードに十分な在庫がなく、外部組織のノードから補充する必要があるときに発生します。
新しいオーダー・リリースの統合	システムが新しいリリースを、処理されていない既存のリリースに統合するようにしたい場合は、このフィールドを選択します。
連鎖された調達転送オーダーの伝票種別	調達転送オーダー・シナリオで、連鎖オーダー伝票に対して使用する伝票種別を選択します。  調達転送オーダー・シナリオは、顧客への最終的な出荷地点がノードの 1 つであり、出荷ノードに十分な在庫がなく、組織内の別のノードから補充する必要があるときに発生します。

表 41. プロセス・タイプの「主要情報」タブ (続き)

フィールド	説明
派生の親に対する変更の反映を許可	適切なリスナーのトランザクションが構成されているときに、派生したオーダーでの変更を、その派生の親に反映させる場合は、このフィールドを選択します。 <b>注:</b> このフィールドが選択されていない場合、派生したオーダーの数量は、派生元の親オーダーより大きくなる可能性があります。
作業オーダーの他に配達する製品の出荷を作成	これがチェックされている場合、すべての製品に対して出荷が作成され、それらの製品は作業オーダーとともに配達されます。 <b>注:</b> このフラグにチェックを付けない場合、リリースは出荷なしでは要求されないため、リリースを作成することはできません。

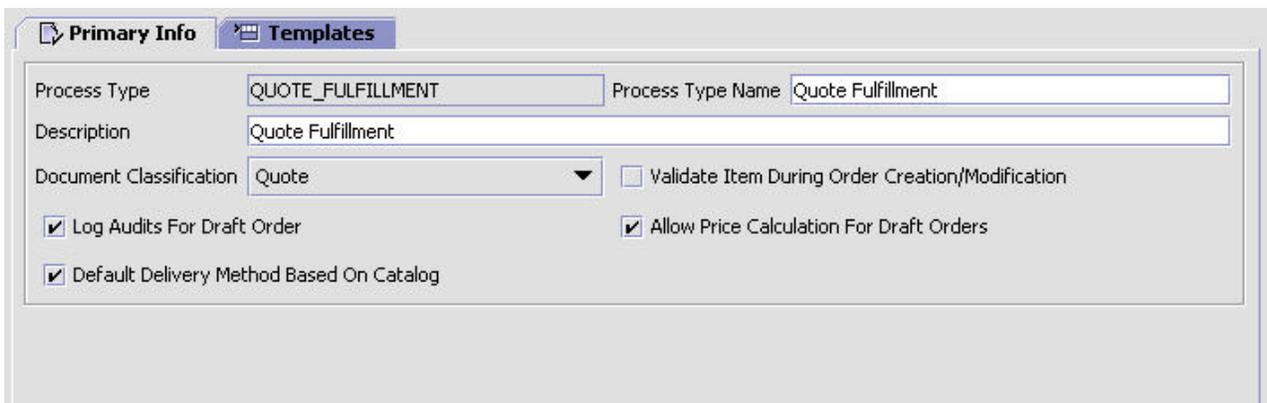
## 見積フルフィルメント・プロセス・タイプの主要情報の定義

### このタスクについて

見積フルフィルメント・プロセス・タイプの主要情報を定義するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、「見積フルフィルメント」プロセス・タイプを右クリックし、「詳細」を選択します。「プロセス・タイプの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「主要情報」タブを選択します。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、147ページの表 42 を参照してください。
5.  を選択します。



The screenshot shows the 'Primary Info' tab of a configuration window for 'Quote Fulfillment'. The fields are as follows:

- Process Type: QUOTE\_FULFILLMENT
- Process Type Name: Quote Fulfillment
- Description: Quote Fulfillment
- Document Classification: Quote
- Log Audits For Draft Order:
- Default Delivery Method Based On Catalog:
- Validate Item During Order Creation/Modification:
- Allow Price Calculation For Draft Orders:

表 42. 「見積フルフィルメント」プロセス・タイプの「主要情報」タブ

フィールド	説明
プロセス・タイプ	プロセス・タイプ ID。QUOTE_FULFILLMENT を入力します。
プロセス・タイプ名	プロセス・タイプの名前「見積フルフィルメント」を入力します。
説明	プロセス・タイプの簡単な説明を入力します。
ドキュメント分類	ドロップダウン・リストから「見積」伝票種別を選択します。
オーダー作成/変更時にアイテムを検証する (Validate Item During Order Creation/Modification)	見積作成時または見積明細の追加時に、アイテム ID および単位をカタログ管理アプリケーション (または外部のカタログ管理アプリケーション) に照らして検証する場合は、このフィールドを選択します。
ドラフト・オーダーの監査を記録する	見積に変更が加えられた場合にシステムが監査レコードを記録するようにするには、このフィールドを選択します。 <b>注:</b> 見積は、見積フルフィルメント・ライフサイクルを通じてドラフト・ステータスです。
ドラフト・オーダーについて価格計算を許可	見積作成時に、アイテムに価格を関連付けられるようにする場合は、このフィールドを選択します。価格の構成について詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 分散オーダー管理 構成ガイド」または「 <i>Business Center</i> 価格設定管理ガイド」を参照してください。
カタログに基づいたデフォルトの配達方法	カタログ内で「配達許可」として設定されているアイテムに割り当てられた構成済み配達方法をデフォルト値として設定したい場合は、「カタログに基づいたデフォルトの配達方法」を選択します。アイテム属性の定義について詳しくは、「カタログ管理: 構成ガイド」を参照してください。

## 案件フルフィルメント・プロセス・タイプの主要情報の定義

### このタスクについて

案件フルフィルメント・プロセス・タイプの主要情報を定義するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「案件」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、「案件フルフィルメント」プロセス・タイプを右クリックし、「詳細」を選択します。「プロセス・タイプの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「主要情報」タブで、該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、148 ページの表 43 を参照してください。
4.  を選択します。

The screenshot shows a software window titled "Process Type Details". Inside, there is a tab labeled "Primary Info". Below the tab, there are three input fields: "Process Type" with the value "OPPORTUNITY\_FULFILLMENT", "Process Type Name" with the value "Opportunity Fulfillment", and "Description" with the value "Opportunity Fulfillment".

表 43. 「案件フルフィルメント」プロセス・タイプの「主要情報」タブ

フィールド	説明
プロセス・タイプ	プロセス・タイプ ID。OPPORTUNITY_FULFILLMENT を入力します。
プロセス・タイプ名	プロセス・タイプの名前「案件フルフィルメント」を入力します。
説明	「案件」プロセス・タイプの簡単な説明を入力します。

## プロセス・タイプのテンプレートの定義 (フルフィルメント・プロセス・タイプのみ)

### このタスクについて

文書テンプレートは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 全体でさまざまなタイミングで使用されます。テンプレート・タイプは、テンプレートがどのように使用されるかを示します。通常、テンプレートは、処理のために指定のエンティティの特定の属性セットを考慮しなければならないシナリオで必要になります。例えば、copyOrder() API の呼び出し時、どのオーダー属性をコピーする必要があるかを示すために「オーダーのコピー」テンプレートが使用されます。

指定のフルフィルメント・プロセス・タイプに対して、マスター・テンプレート XML のどの XML 属性および要素を含めるかまたは除外するかを指定できます。

プロセス・タイプの XML テンプレートを定義するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「詳細」を選択します。「プロセス・タイプの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「テンプレート」タブを選択します。処理しているフルフィルメント・プロセス・タイプで使用可能なマスター・テンプレートがタブとして表示されます。これらのマスター・テンプレートは、YFS\_BASE\_DOCUMENT\_TYPE テーブルから取得されます。
4. 該当するマスター・テンプレートのタブを選択します。マスター・テンプレート XML が YFS\_BASE\_DOCUMENT\_TEMPLATE テーブルからロードされ、この

伝票種別用に YFS\_DOCUMENT\_TEMPLATE テーブルに保管されているテンプレート XML と結合されます。拡張属性を持つ各要素については、拡張属性もマスター・テンプレートに追加されます。結果の XML は、ツリー内に階層形式で表示されます。

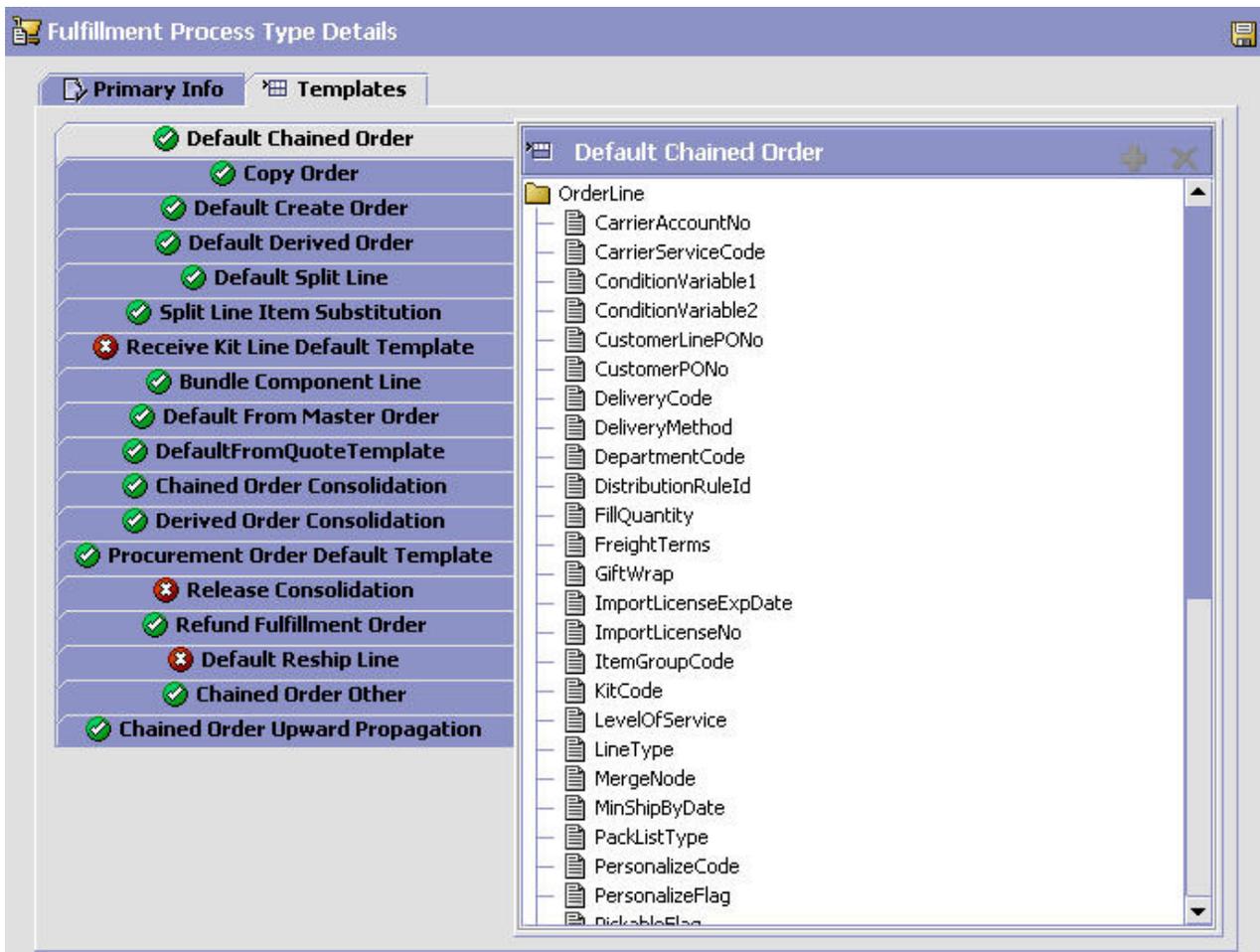
注: テンプレート XML の拡張ブランチは、自動的に生成されます。拡張ブランチは、YFS\_DOCUMENT\_TEMPLATE テーブルと

YFS\_BASE\_DOCUMENT\_TEMPLATE テーブルのいずれにも保管されません。

5. このプロセス・タイプに対して、マスター・テンプレート XML の XML 属性または要素を含めるには、 を選択します。このプロセス・タイプに対して、マスター・テンプレート XML の XML 属性を除外するには、 を選択します。

注: ある要素のすべての属性を除外したい場合は、その要素全体を除外する必要があります。

注: 一部の属性は必須であるため、それらをテンプレートから除外することはできません。



---

## プロセス・タイプ・パイプラインの定義

プロセス・タイプ・パイプラインを作成することで、ビジネス・プロセス・ワークフローを定義できます。プロセス・タイプ・パイプラインとは、販売オーダーなどの伝票種別を、定義済みのプロセスによって手引きする一連のトランザクションとステータスのことです。パイプラインは、フルフィルメント、交渉、出荷、または受入時にドキュメントが経るさまざまなステータスで構成されます。構成するパイプラインに関連するトランザクション（イベント、アクション、および条件から成る）を設定することもできます。

### リポジトリ

リポジトリとは、ビジネス・プロセスのワークフローを定義する、エンティティの論理的な集合体です。

リポジトリには、以下のエンティティが含まれています。

- パイプライン
- トランザクション
- ステータス
- 条件
- アクション
- サービス

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、各システム定義プロセス・タイプの基本リポジトリを提供します。リポジトリ内のエンティティの一部は、新規伝票種別の作成時にコピーされます。

モデル・プロセスをプロセス・モデリング・ツリーから選択すると、2つのフレームが表示されます。左のフレームはリポジトリで、右のフレームは作業領域です。

リポジトリの下部に、選択可能な6つのタブがあります。これらのタブにより、パイプライン・ツリー、トランザクション・ツリー、ステータス・ツリー、条件ツリー、アクション・ツリー、およびサービス・ツリーを切り替えることができます。これらのツリーのいずれかからエンティティを選択すると、該当する場合、その詳細は作業領域フレームに表示されます。

パイプラインを構成すると、構成プロセスでユーザーを支援する自動ヒントを有効にすることができます。自動ヒントをアクティブ化するには、作業領域の任意の場所を右クリックして、「自動ヒントを有効にする」を選択します。自動ヒントをアクティブ化した場合、特定のドロップ・ステータスが接続先にできるトランザクションは、グラフィカル・パイプラインのセットアップ時に青のフレームで強調表示されます。

## パイプラインの決定の定義

パイプラインの決定は、ビジネス・プロセス・ワークフローの開始時に使用されるパイプラインに影響を与える条件のセットアップに使用されます。例えば、組織によっては危険物が含まれる販売オーダーを扱うことがあります。これには2つの別個のパイプラインがあり、1つはオーダー明細に危険物がないオーダーが通過する

もので、もう 1 つは、オーダー・プロセスを続ける前に、オーダー明細に危険物が含まれているオーダーが検査のために通過しなければならないものです。組織は、オーダー明細に危険物が含まれているかどうかを判別し、オーダー明細を正しいパイプラインに送信する条件をセットアップするために、パイプラインの決定を使用します。

「パイプラインの決定」ブランチを展開表示する場合に表示されるコンポーネントは、ユーザーのログイン時の役割に応じて異なります。「ハブ」の役割としてログインした場合、「ハブ・ルール」が表示されます。「エンタープライズ」の役割でログインしている場合、「ハブ・ルール」と「マイ・ルール」の両方のコンポーネントが表示されます。該当するノードをダブルクリックすると、パイプラインの決定ルールが表示されます。

**注:** 「エンタープライズ」の役割としてログインした場合、「ハブ・ルール」画面はグレー化されて編集不能になります。

パイプラインの決定ルールを構成するには、条件とパイプラインを作業領域にドラッグします。1 つのパイプラインまたは条件はルートでなければなりません。条件は、チェーン内の以前のコンポーネントに戻ってリンクさせることはできません。パイプラインには 2 度リンクさせることはできません。

**注:** オーダー・ドキュメント・タイプのパイプラインに対してパイプラインの決定を構成する場合、パイプラインの決定は、明細の追加またはオーダーの作成時のみ考慮されることに注意してください。変更がドラフト・オーダーに対して行われる場合、パイプラインの決定は行われません。

## パイプラインの作成

### このタスクについて

作業しているプロセス・タイプに対してパイプラインを作成できます。

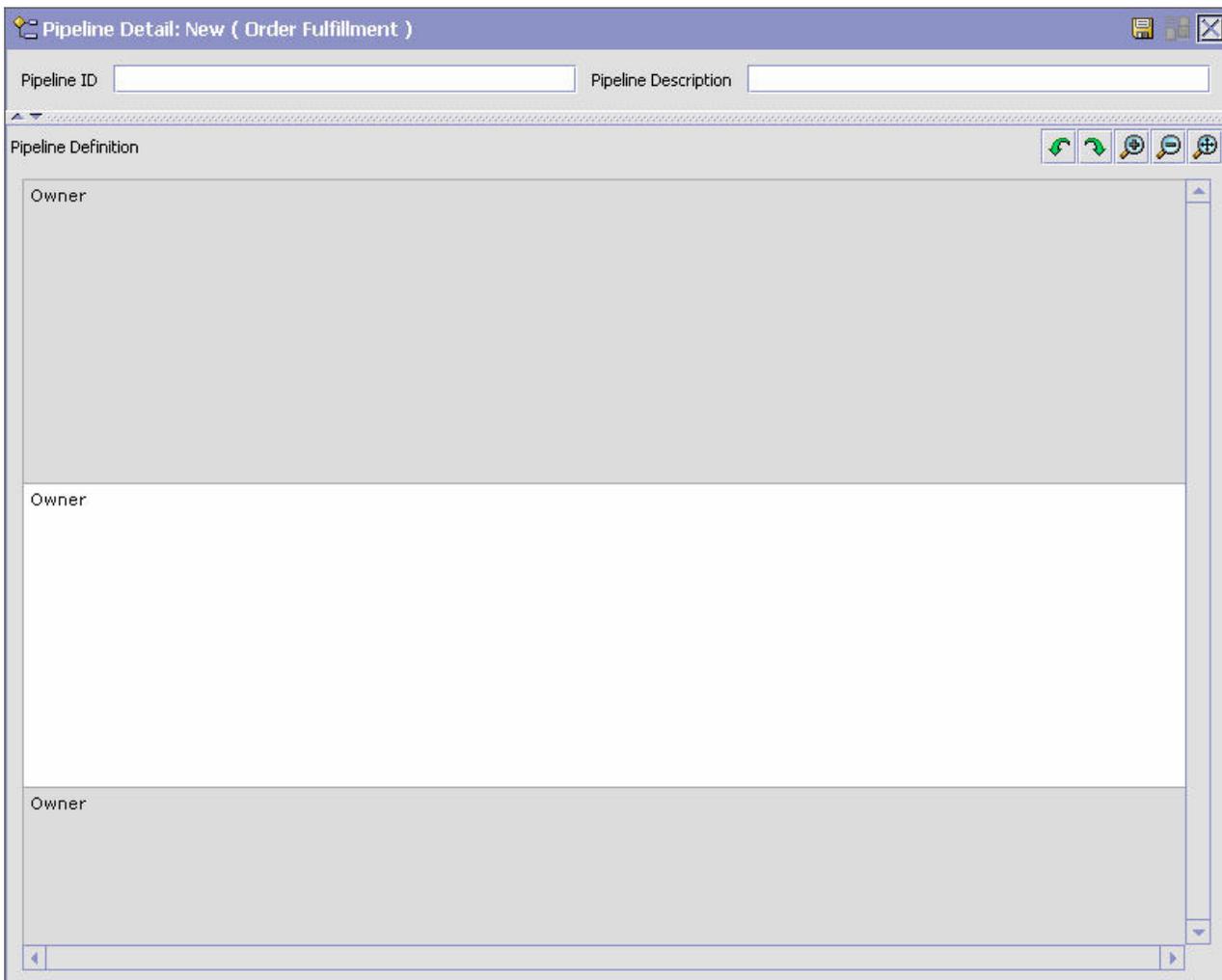
パイプラインを作成するには、パイプライン作業領域にトランザクションや条件をドラッグします。各トランザクションには、それぞれのドロップ・ステータスに関連する一連の分岐があります。トランザクションを別のトランザクションにリンクするには、第 1 のトランザクションから第 2 のトランザクションへ適切なポートをドラッグします。トランザクションのポートの上に矢印を置くことで、どのステータスがどのポートに属するかを特定できます。トランザクションで、自身に戻ってリンクされるステータスのピックアップが許可されている場合、自身に戻ってリンクできます。

トランザクションは、条件にリンクすることもできます。ドロップ・ステータスを条件で拡張するように指定するには、ポートを適切な条件にドラッグしてからピックアップ・トランザクションにドラッグします。ピックアップ・ステータスの基底がポートと同じである場合、リンクが許可されます。リンクが作成されると、デフォルトでは最初の可能なピックアップ・ステータスへのものになります。

パイプラインを作成するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「パイプライン」タブを選択します。
4. 「パイプライン」を選択し、 を選択します。作業領域に、「パイプラインの詳細」ウィンドウが表示されます。



5. 作業領域に適切なトランザクションと条件をドラッグ・アンド・ドロップし、このセクションで説明したルールにしたがってそれらを接続します。
6.  を選択します。

## パイプラインをドラフトとして保存

### このタスクについて

未完成のパイプラインをドラフトとして保存できます。このドラフトは、検証なしで、最終保存用に取り出すことができます。パイプラインを保存してアクティブ化すると、パイプラインのドラフトはシステムから削除されます。

サービスをドラフトとして保存するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「パイプライン」タブを選択します。
4. このセクションで説明されているルールに従い、パイプラインを構成します。
5.  を選択します。パイプラインがサービスのドラフトとして保存されます。
6. これを、完全および機能的なパイプラインとして保存する準備ができたなら、 を選択します。

**注:** 実行時に、パイプラインにおける複数の TaskQ ベースのトランザクションで検出されるように構成されたステータスに達した場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation ではこれらのトランザクションごとに TaskQ レコードが作成されます。

**注:** これには、条件の「はい」と「いいえ」の分岐先がいずれも同じステータスとなるものの、異なる TaskQ ベースのトランザクションへと流れる状況が含まれます。

**注:** パイプラインをドラフトとして保存すると、パイプラインの既存のドラフトは上書きされます。ドラフトを実際のパイプラインとして保存する場合は、同じパイプライン ID を持つ既存のパイプラインが上書きされます。

**注:** 「オーダー配達済み」ステータスは、複数のトランザクションによって検出することができます。これらのトランザクション間に暗黙の処理順序は存在しません。どのトランザクションが先に実行されるかに応じて、このステータスが処理されます。

## パイプラインの変更

### このタスクについて

**注:** Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、トランザクションの処理中はパイプラインの変更をサポートしません。実行中の API やエージェントがない場合に、クエイエット・システムでのみパイプラインを変更します。

**注:** 高可用性が懸案事項である場合は、決して実動環境で直接パイプラインを変更しないでください。テストですべての変更を行ってから、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 構成デプロイメント・ツールを使用して、その変更内容を実稼働環境に移行してください。

パイプラインを変更するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「パイプライン」タブを選択します。
4. 「パイプライン」ブランチを展開します。
5. 該当するパイプラインを選択し、 を選択します。作業領域に、「パイプラインの詳細」ウィンドウが表示されます。
6. この章の「基本」セクションに詳述されているルールおよび概念を使用して、パイプラインをお客様の商慣行に基づいて変更します。ドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウの使用法については、『ドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウ』のセクション 2.2.2.4 を参照してください。
7.  を選択します。

**注:** 実行時に、パイプラインにおける複数の TaskQ ベースのトランザクションで検出されるように構成されたステータスに達した場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation ではこれらのトランザクションごとに TaskQ レコードが作成されます。これには、条件の「はい」と「いいえ」の分岐先がいずれも同じステータスとなるものの、異なる TaskQ ベースのトランザクションへと流れる状況が含まれます。

## パイプラインのモニター・ルールの定義

### このタスクについて

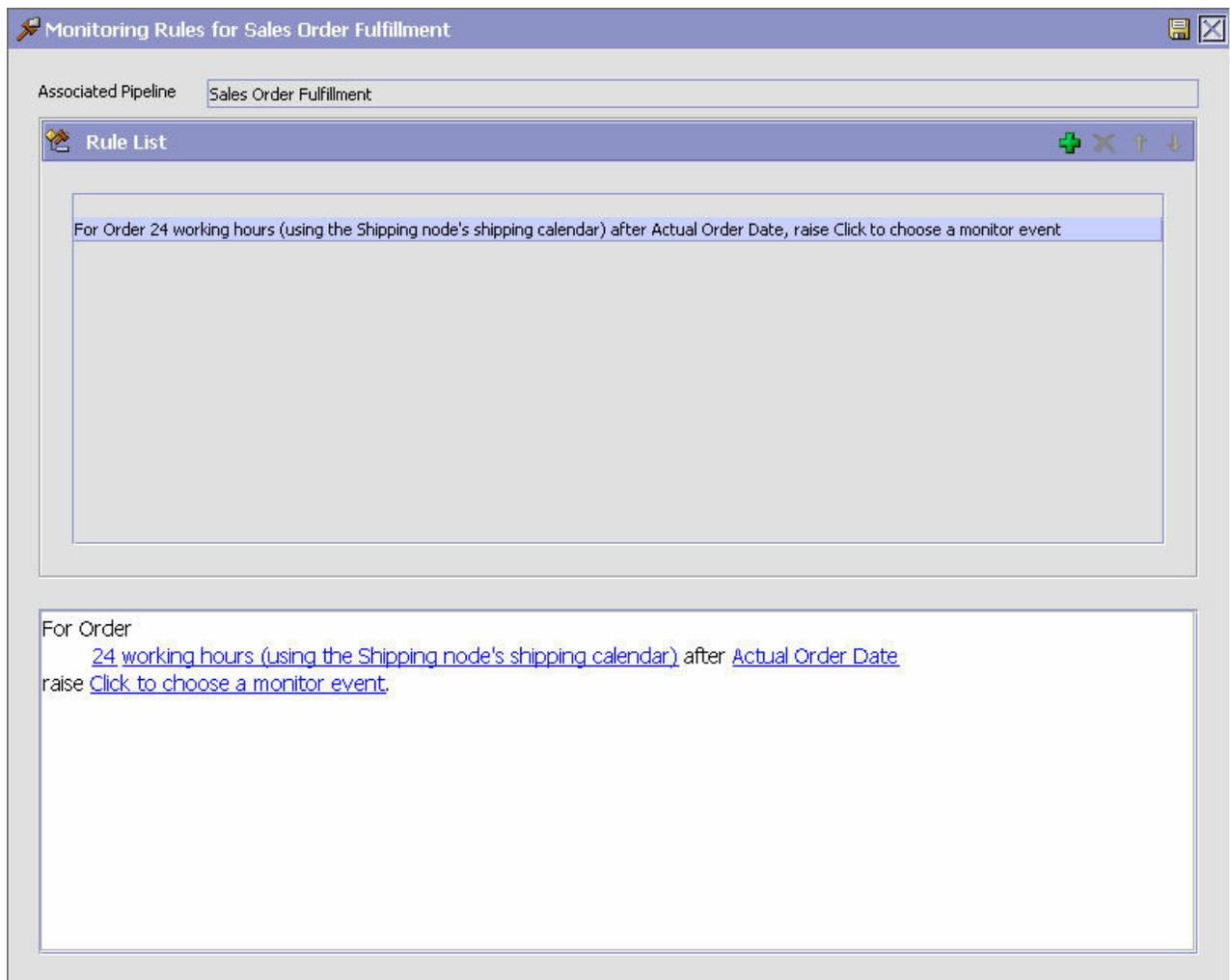
プロセス・タイプの定義時に構成したモニター・ルール・コンポーネントを使用して、フルフィルメントおよび出荷プロセス・タイプ・パイプラインにおけるライフサイクル全体を通してオーダーと出荷をモニターするためのパラメーターを定義できます。モニター・ルール・コンポーネントの構成については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」を参照してください。

**注:** パイプラインのモニター・ルールを定義できるのは、組織がそれらのルールの構成対象であるパイプラインを持っている場合のみです。

パイプラインのモニター・ルールを定義するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「パイプライン」タブを選択します。
4. 「パイプライン」ブランチを展開します。
5. 該当するパイプラインを選択し、 を選択します。作業領域に、「モニター・ルール」ウィンドウが表示されます。



6. 「ルール・リスト」から、 を選択します。「ルール・タイプ」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



7. 定義するルール・タイプを選択し、ルール・リストに追加します。フレームの下部にルールの詳細が表示されます。ルールの詳細にあるハイパーテキストを選択し、個々のパラメーターを定義できます。ルール・タイプと構成可能なルール詳細のリストについては、『表 44』を参照してください。

注: 時間パラメーターを定義する際、経過時間に基づくか、(カレンダーが定義されていれば) 任意のカレンダーに対する作業時間に基づくかを選択できます。

8.  を選択します。

注: ルールを選択し、優先順位を上げるときは上矢印を、優先順位を下げるときは下矢印を選択することで、モニター・ルールの優先順位を上げたり下げたりすることができます。

表 44. モニター・ルール・タイプ

ルール・タイプ	ルールの詳細 (太字およびイタリック体のテキストは構成可能パラメーターを示します)
ある日付までにマイルストーンが達成されていません	オーダー/出荷が、ある日付タイプの <i>n</i> カレンダー時間前にマイルストーンを達成していない場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
ある日付の後にマイルストーンが達成されていません	オーダー/出荷が、ある日付タイプの <i>n</i> カレンダー時間以内にマイルストーンを達成していない場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
別のマイルストーンの後にマイルストーンが達成されていません	オーダー/出荷が、あるマイルストーンの <i>n</i> カレンダー時間以内にマイルストーンを達成していない場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
ある日付までにマイルストーンが達成されました	オーダー/出荷が、ある日付タイプの <i>n</i> カレンダー時間前にマイルストーンを達成した場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
ある日付の後にマイルストーンが達成されました	オーダー/出荷が、ある日付タイプの <i>n</i> カレンダー時間以内にマイルストーンを達成した場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
別のマイルストーンの後にマイルストーンが達成されました	オーダー/出荷が、あるマイルストーンの <i>n</i> カレンダー時間以内にマイルストーンを達成した場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。

表 44. モニター・ルール・タイプ (続き)

ルール・タイプ	ルールの詳細 (太字およびイタリック体のテキストは構成可能パラメーターを示します)
あるステータスを継続中	オーダー/出荷が <i>n</i> カレンダー時間あるステータスを継続中である場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
ある日付の前	<b>ある日付タイプ</b> の前 <i>n</i> カレンダー時間のオーダー/出荷に対して、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
ある日付の後	<b>ある日付タイプ</b> の後 <i>n</i> カレンダー時間のオーダー/出荷に対して、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
あるマイルストーンの後	<b>あるマイルストーン</b> の後 <i>n</i> カレンダー時間のオーダー/出荷に対して、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
別の日付より前の日付	<b>日付タイプ</b> がある <b>日付タイプ</b> より <i>n</i> カレンダー時間以上前であるオーダー/出荷に対して、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
別の日付より後の指定期間内の日付	<b>日付タイプ</b> がある <b>日付タイプ</b> の後 <i>n</i> カレンダー時間以内であるオーダー/出荷に対して、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
別の日付より後の指定期間外の日付	<b>日付タイプ</b> がある <b>日付タイプ</b> の後 <i>n</i> カレンダー時間以内でないオーダー/出荷に対して、 <b>モニター・イベント</b> を発生させません。
別の日付より後の日付	<b>日付タイプ</b> がある <b>日付タイプ</b> より <i>n</i> カレンダー時間以上後であるオーダー/出荷に対して、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
条件付きで、ある日付までにマイルストーンが達成されていません	オーダー/出荷が、ある条件を満たし、かつ <b>ある日付タイプ</b> の <i>n</i> カレンダー時間前にマイルストーンを達成していない場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
条件付きで、ある日付の後にマイルストーンが達成されていません	オーダー/出荷が、ある条件を満たし、かつ <b>ある日付タイプ</b> の <i>n</i> カレンダー時間以内にマイルストーンを達成していない場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
条件付きで、別のマイルストーンの後マイルストーンが達成されていません	オーダー/出荷が、ある条件を満たし、かつ <b>あるマイルストーン</b> の <i>n</i> カレンダー時間以内にマイルストーンを達成していない場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
条件付きで、ある日付までにマイルストーンが達成されました	オーダー/出荷が、ある条件を満たし、かつ <b>ある日付タイプ</b> の <i>n</i> カレンダー時間前にマイルストーンを達成した場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
条件付きで、ある日付の後にマイルストーンが達成されました	オーダー/出荷が、ある条件を満たし、かつ <b>ある日付タイプ</b> の <i>n</i> カレンダー時間以内にマイルストーンを達成した場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
条件付きで、別のマイルストーンの後マイルストーンが達成されました	オーダー/出荷が、ある条件を満たし、かつ <b>あるマイルストーン</b> の <i>n</i> カレンダー時間以内にマイルストーンを達成した場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
条件付きで、あるステータスを継続中	オーダー/出荷が <b>ある条件</b> を満たし、かつ <i>n</i> カレンダー時間あるステータスを継続中である場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
条件付きで、ある日付の前	オーダー/出荷が <b>ある条件</b> を満たしている場合、 <b>ある日付タイプ</b> の <i>n</i> カレンダー時間 (またはそれ以上) 前に <b>モニター・イベント</b> を発生させます。

表 44. モニター・ルール・タイプ (続き)

ルール・タイプ	ルールの詳細 (太字およびイタリック体のテキストは構成可能パラメーターを示します)
条件付きで、ある日付の後	オーダー/出荷がある条件を満たしている場合、ある日付タイプの <i>n</i> カレンダー時間後に <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
条件付きで、あるマイルストーンの後	オーダー/出荷がある条件を満たしている場合、あるマイルストーンの <i>n</i> カレンダー時間後に <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
条件付きで、別の日付より前の日付	オーダー/出荷が、ある条件を満たし、日付タイプがある日付タイプより <i>n</i> カレンダー時間以上前である場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
条件付きで、別の日付より後の日付	オーダー/出荷が、ある条件を満たし、日付タイプがある日付タイプより <i>n</i> カレンダー時間以上後である場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
条件付きで、別の日付より後の指定期間内の日付	オーダー/出荷が、ある条件を満たし、日付タイプがある日付タイプ後 <i>n</i> カレンダー時間以内である場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
条件付きで、別の日付より後の指定期間外の日付	オーダー/出荷が、ある条件を満たし、日付タイプがある日付タイプ後 <i>n</i> カレンダー時間以内でない場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
保留タイプを継続中	オーダー/出荷が <i>n</i> カレンダー時間指定の <b>保留タイプ・ステータス</b> にある指定の <b>保留タイプ</b> を継続中である場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
条件付きで、保留タイプを継続中	オーダー/出荷が、ある条件を満たし、かつ <i>n</i> カレンダー時間指定の <b>保留タイプ・ステータス</b> にある指定の <b>保留タイプ</b> を継続中である場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
ある日付まで保留タイプを継続中	オーダー/出荷がある日付の前 <i>n</i> カレンダー時間指定の <b>保留タイプ・ステータス</b> にある指定の <b>保留タイプ</b> を継続中である場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。
条件付きで、ある日付まで保留タイプを継続中	オーダー/出荷が、ある条件を満たし、ある日付の前 <i>n</i> カレンダー時間指定の <b>保留タイプ・ステータス</b> にある指定の <b>保留タイプ</b> を継続中である場合、 <b>モニター・イベント</b> を発生させます。

注: 保留に基づくモニター・ルールでは、パイプラインを所有している組織に属する保留をモニターできます。

## モニター・ルールの構成例

ビジネス慣習に応じて、出荷指定日より 24 時間前にリリースされていないオーダーをモニターし、そのようなオーダーに対して警告を出す必要があります。作業するプロセス・タイプの、マイルストーン、日付タイプ、および警告統合ルールを含む必要なモニター・ルール・コンポーネントが構成済みであると想定すると、それらのパラメーターを示すモニター・ルールを作成できます。

「ある日付までにマイルストーンが達成されていません」モニター・ルール・タイプを使用すると、リリース済みマイルストーンがオーダーの出荷指定日の 24 時間前に達していない場合に、システムがモニターを行うように構成できます。

## トランザクションの定義

各プロセス・タイプには、独自に定義された基本トランザクションのセットがあります。トランザクションとは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内でアクティビティを実行するために必要な作業論理単位です。基本トランザクションとは、トランザクションの動作に関する情報（プロセス・タイプにトランザクションのコピーをいくつ保持するか、構成可能な基本ピックアップ/ドロップ・ステータスをプロセス・タイプに含めるかどうかなど）を含む、事前定義されたトランザクションです。基本トランザクションは、新規のトランザクションを作成する場合に使用できます。これらのトランザクションは、基本トランザクションに定義された制限内で変更することができます。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、API はトランザクションを実行するために使用されます。API を呼び出すと、API が実行されたコンテキストに基づいてトランザクション ID が決定されます。トランザクション ID は、実行するトランザクションを識別します。状況に応じて、トランザクション ID は入力パラメーターとして渡すことができます。または呼び出し先 API に対して事前定義することができます。API について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

作成される一部の拡張トランザクションでは、トランザクションのロジックを実装するために、カスタム・コードが必要になる場合があります。ただし、Sterling Selling and Fulfillment Foundation が提供する抽象化トランザクションから新規トランザクションを派生させることができます。抽象化トランザクションから派生したトランザクションには、ステータスやカスタム・コードが不要なトリガー・メカニズムなどの特定の詳細が含まれます。例えば、いくつかの異なるタイプのオーダー・ステータス変更トランザクションを必要とするオーダー・ドキュメント・パイプラインを構成する場合、「オーダー状況の変更」抽象化トランザクションから複数の拡張トランザクションを派生させ、それらをカスタム・コーディングを必要とせずにパイプラインで構成できます。

トランザクションは、以下のタイプのいずれかとして分類できます。

- 外部トリガー
- ユーザー・トリガー
- 時間トリガー

### 外部トリガー・トランザクション

外部トリガー・トランザクションは、サービス定義フレームワーク（非同期サービス）により実行されます。これはトランザクションを実行するために、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内で対応する API を呼び出します。

非同期サービスを、このトランザクションに関連してそのサービスが何らかの処理を実行し、それが外部的にトリガーされることに注意を促すリマインダーとして、トランザクションに追加できます。例えば、トリガーとして機能する、メッセージをキューに書き込むサービスをセットアップできます。次いで非同期サービスはこのメッセージをキューからピックアップし、何らかの処理を実行します。163 ページの『トランザクションを外部でトリガーに指定』は、「外部でトリガー」タブでトランザクションをトリガーするサービスの追加方法を説明しています。

## ユーザー・トリガー・トランザクション

ユーザー・トリガー・トランザクションは、アプリケーション・コンソール、構成済み警告キュー、または E メール・サービスにより手動で呼び出されます。

## 時間トリガー・トランザクション

時間トリガー・トランザクションは、スケジュールされた間隔で呼び出されます。Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、時間トリガー・トランザクションはエージェントとも呼ばれます。

## 拡張トランザクションの作成

### このタスクについて

作業しているプロセス・タイプの新規カスタム・トランザクションを作成できます。そのトランザクションを、パイプラインの作成と変更に使用できます。

**注:** 抽象化トランザクションから派生させずに拡張トランザクションを「作成」する場合、その拡張トランザクションをパイプラインで使用するためには別途ソフトウェア開発が必要になるカスタム・トランザクションを作成することになります。

拡張トランザクションを作成するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「トランザクション」タブを選択します。
4. 「トランザクション」ブランチを選択し、 を選択します。「新規トランザクションの作成」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 「抽象トランザクションから派生しない」を選択し、新規トランザクションを作成して、独自のロジックを関連付けます。
6. 「OK」を選択します。作業領域に、「トランザクションの詳細」ウィンドウが表示されます。
7. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、161ページの表 45 を参照してください。
8.  を選択します。

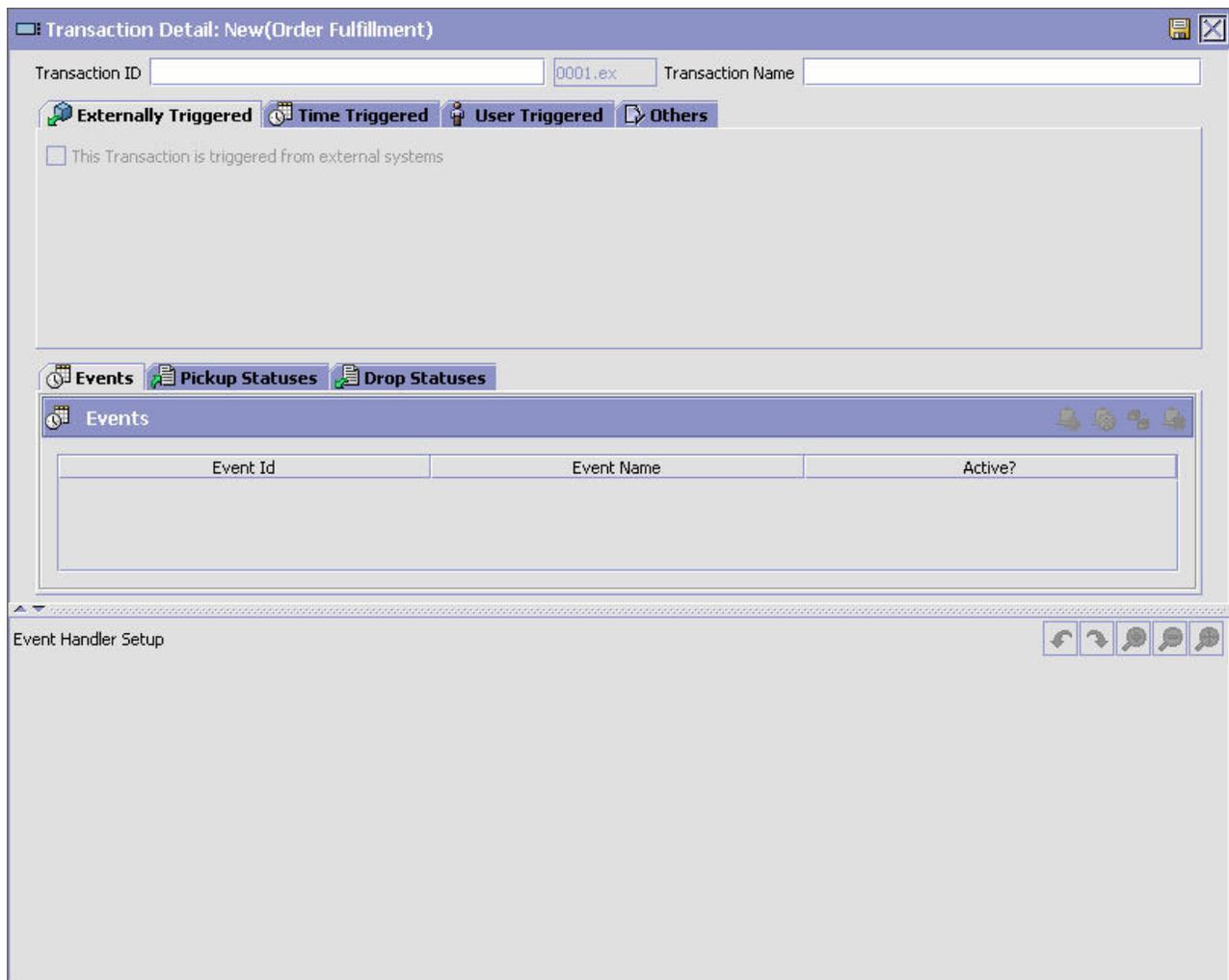


表 45. 「トランザクションの詳細」 ウィンドウ

フィールド	説明
トランザクション ID	トランザクションの ID を入力します。 注: 作成するトランザクションのトランザクション ID には、伝票種別と「.ex」が自動的に付加されます。
トランザクション名	トランザクションの名前を入力します。
外部でトリガー	「外部でトリガー」タブは、外部でトリガーされるトランザクションを設定するためのインターフェースとなります。外部でトリガーされるトランザクションの設定について詳しくは、163 ページの『トランザクションを外部でトリガーに指定』を参照してください。
時間トリガー	「時間トリガー」タブは、時間でトリガーされるトランザクションを設定するためのインターフェースとなります。時間でトリガーされるトランザクションの設定について詳しくは、164 ページの『トランザクションを時間トリガーに指定』を参照してください。

表 45. 「トランザクションの詳細」 ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
ユーザー・トリガー	「ユーザー・トリガー」タブは、ユーザーによってトリガーされるトランザクションを設定するためのインターフェースとなります。ユーザーによってトリガーされるトランザクションの設定について詳しくは、173 ページの『トランザクションをユーザー・トリガーに指定』を参照してください。
その他 (Other)	
タスク・ベースのトランザクション	このトランザクションがタスク・キューによってトリガーされる場合、このフィールドを選択します。これは、パイプラインにおける直前のトランザクションが機能を完了するたびに、このトランザクションに対するタスク・キュー・テーブルにシステムがタスクを作成することを表します。  <b>重要:</b> このフィールドが選択され、トランザクションが時間でトリガーされるトランザクションとして識別されていない場合、タスク・キュー項目は作成されません。
作業基準	トランザクションを使用するオーダー・レベル (例えば、オーダーまたはオーダー・リリース) を選択します。 <b>注:</b> このフィールドは、継承されたトランザクションでは無効です。
別のプロセスを作成	トランザクションで別のシステム・プロセスを作成する場合、このフィールドを選択します。
発生処理タイプ	「別のプロセスを作成」を選択した場合、トランザクションが作成するプロセスのタイプを選択します。
連鎖された伝票種別	このトランザクションで連鎖オーダーを作成する場合、作成される連鎖オーダーの伝票種別を入力します。販売オーダーや購入オーダーなどです。
派生伝票種別	このトランザクションで派生オーダーを作成する場合、作成される派生オーダーの伝票種別を入力します。返品オーダーや交換オーダーなどです。
抽象から派生したトランザクション	このトランザクションが基本トランザクションから派生したかどうかを示します。
基本トランザクション名	このトランザクションが基本トランザクションから派生した場合、その基本トランザクションの名前が表示されます。
このトランザクションは保留中のオーダーの処理を停止できます (This Transaction Can Be Stopped From Processing Orders That Are On Hold)	このトランザクションで保留タイプを有効にする場合、これをチェックします。保留タイプが有効なトランザクションは、特定の保留タイプに対して発注されたオーダーの処理を停止するように構成できます。  このフラグは、システムで定義されたトランザクションでは変更できませんが、抽象トランザクションから派生していないすべてのカスタム・トランザクションに設定できます。

表 45. 「トランザクションの詳細」 ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
イベント	<p>イベントは、ビジネス・プロセスにおいて具体的に発生し、しばしばステータスを変更したり警告を生成したりします。トランザクションでイベントが発生すると、アクションがトリガーされます。</p> <p>「イベント」タブは、イベントとイベント・ハンドラーを設定するためのインターフェースとなります。イベントとイベント・ハンドラーについて詳しくは、174 ページの『イベントのトランザクションへの追加』と 176 ページの『イベント・ハンドラーの定義』を参照してください。</p>
トランザクションの依存関係をサポート	<p>このトランザクションで依存関係をサポートする場合、このボックスをチェックします。トランザクション依存関係グループと関連するルールを作成について詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド</i>』を参照してください。</p>
トランザクションの完了をサポート	<p>トランザクション完了をサポートする場合、このボックスをチェックします。拡張トランザクションやカスタム・トランザクションでのトランザクション完了の構成について詳しくは、179 ページの『トランザクション完了の構成』を参照してください。</p>
運用レベル	<p>トランザクションを使用する運用レベルを選択します。ヘッダー・レベルか明細レベルを選択できます。見積パイプライン・トランザクションに対するヘッダー・レベルまたは明細レベルの運用の構成について詳しくは、187 ページの『見積パイプライン・トランザクションに対するヘッダー・レベル操作および明細レベル操作の構成』を参照してください。</p>
ピックアップ・ステータス	<p>「ピックアップ・ステータス」タブは、ピックアップ・ステータスを設定するためのインターフェースとなります。ピックアップ・ステータスについて詳しくは、177 ページの『ピックアップ・ステータスの拡張トランザクションへの追加』を参照してください。</p>
ドロップ・ステータス	<p>「ドロップ・ステータス」タブは、ドロップ・ステータスを設定するためのインターフェースとなります。ピックアップ・ステータスについて詳しくは、178 ページの『ドロップ・ステータスの拡張トランザクションへの追加』を参照してください。</p>

### トランザクションを外部でトリガーに指定:

#### このタスクについて

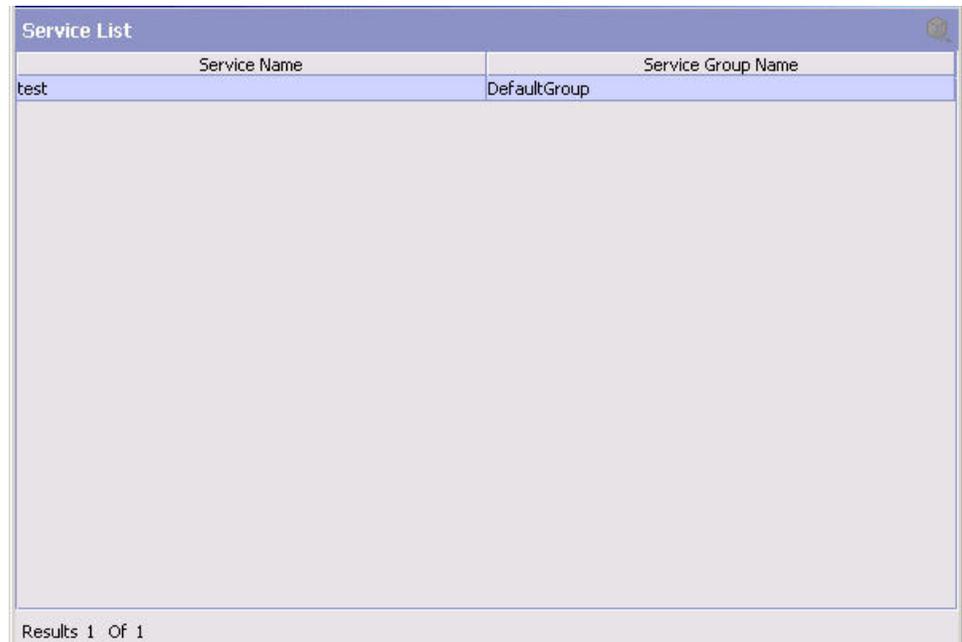
外部でトリガーされる拡張トランザクションを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「トランザクションの詳細」ウィンドウで、「外部でトリガー」タブを選択します。



2. 「このトランザクションは外部システムからトリガーされる」にチェック・マークを付けて、このトランザクションが外部でトリガーされるトランザクションであることを示します。
3. 「このトランザクションのトリガー元サービス」リストから、 を選択します。「サービス・リスト」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



4. トランザクションをトリガーするサービスを選択して、 を選択します。サービスが「このトランザクションのトリガー元サービス」リストに追加されます。
5. 該当するトランザクション・フィールドへの入力が続けます。フィールド・レベルの説明については、161 ページの表 45 を参照してください。
6.  を選択します。

#### トランザクションを時間トリガーに指定: このタスクについて

Sterling Selling and Fulfillment Foundation エージェントによりトリガーされるトランザクションを設定できません。時間トリガー・トランザクションについて詳しくは、付録 A 『時間トリガー・トランザクション参照』を参照してください。

注: 派生トランザクション用に時間トリガー・トランザクションを作成する場合は、エージェント条件データが自動的に読み込まれないため、作成する必要があることに注意してください。

時間でトリガーされる拡張トランザクションを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「トランザクションの詳細」ウィンドウで、「時間トリガー」タブを選択します。



2. 「このトランザクションは時間でトリガーされる」にチェック・マークを付けて、このトランザクションが時間でトリガーされるトランザクションであることを示します。
3. 「Java クラス」に、エージェント・メッセージを処理するエージェント・クラスを入力します。
4. エージェント条件テーブルで、 を選択します。「エージェント条件」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、166 ページの表 46 を参照してください。

**Agent Criteria Details**

Criteria ID:

**Runtime Properties** | **Criteria Parameters** | **Jms Security Properties**

Agent Server:

Alert Queue Name:

JMS Queue Name:

No. of Threads:

Initial Context Factory:

QCF Lookup:

Provider URL:

Enable JMS Security

Schedule Trigger Message

Schedule Trigger Message Interval (Min.):

Service to Execute on Completion of Work:

表 46. 時間トリガー・トランザクションの実行時プロパティ

コントロール	説明
<b>実行時プロパティ</b>	
エージェント・サーバー	トランザクションのこのインスタンスが実行されるサーバー。新規のエージェント・サーバーを追加するには、このフィールドの横にあるサーバー追加のボタンをクリックします。このパラメーターは、エージェント・サーバーの開始に使用されます。このパラメーターに関する詳細は、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation インストール・ガイド</i> 」を参照してください。
警告キュー名	警告キューの名前。
「JMS キュー名」	このトランザクションで処理するメッセージを含む JMS キューの名前。
スレッド数	このトランザクションで同時に実行するスレッド数。

表 46. 時間トリガー・トランザクションの実行時プロパティ (続き)

コントロール	説明
「初期コンテキスト・ファクトリー」	<p>リモートの Java クライアントが接続できるようにするための、アプリケーション・サーバー用の初期コンテキストの実装を備えたクラス。</p> <p>IBM WebSphere® IOP の URL からアクセスしている MQSeries® を使用している場合は、「WebSphere MQ」を選択します。これによって、クラス名は <code>com.ibm.websphere.naming.WsnInitialContextFactory</code> に設定されます。</p> <p>Oracle WebLogic と同様に、ファイル URL からアクセスしている MQSeries を使用している場合は、「ファイル」を選択します。これによって、クラス名は <code>com.sun.jndi.fscontext.ReffFSContextFactory</code> に設定されます。</p> <p>Oracle WebLogic JMS を使用している場合は、「WebLogic」を選択します。これによって、クラス名は <code>weblogic.jndi.WLInitialContextFactory</code> に設定されます。</p> <p>JBoss JMS を使用する場合は、「Jboss」を選択します。これによって、クラス名は <code>org.jnp.interfaces.NamingContextFactory</code> に設定されます。</p> <p>ActiveMQ の初期コンテキストのファクトリー・コードを定義した場合、そのために作成したエントリーを選択します。デフォルト・セットに含まれない他の JMS ベンダー (ActiveMQ など) の設定について詳しくは、セクション A.2 『エージェントと JMS サーバーの間の通信の構成』を参照してください。</p> <p>注: この値は、&lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties ファイルの <code>yfs.agent.override.icf</code> プロパティを構成することでオーバーライドできます。customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。</p> <p>注: ここで使用する独自の初期コンテキスト・ファクトリーを構成することができます。初期コンテキストのファクトリー・コードの定義について詳しくは、265 ページの『初期コンテキスト・ファクトリー・コードの定義』を参照してください。</p>

表 46. 時間トリガー・トランザクションの実行時プロパティ (続き)

コントロール	説明
「QCF ルックアップ」	<p>キュー接続ファクトリーの名前。この名前は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation が実行されているアプリケーション・サーバー・クラスターで構成された JMS 接続ファクトリーに対応します。</p> <p>注: この値は、&lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties ファイル内の yfs.agent.override.qcf プロパティを構成することでオーバーライドできます。</p> <p>customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。</p>
「プロバイダー URL」	<p>JMS キューへのアクセスに使用されるプロトコルおよびアドレスが存在する URL。</p> <p>Oracle WebLogic JMS を使用する場合は、次の値を入力します。</p> <p style="padding-left: 40px;">t3://&lt;IP address and port of the WLS instance&gt;</p> <p>JNDI ファイルを介して MQSeries を使用する場合は、次の値を入力します。</p> <p style="padding-left: 40px;">file://&lt;pathname&gt;</p> <p>例えば、.bindings ファイルが置かれているパスが /home/yantra/MQ_HSmith/java/jndi である場合、次の値を使用します。</p> <p style="padding-left: 40px;">file:///home/yantra/MQ_HSmith/java/jndi</p> <p>IBM WebSphere JNDI を介して MQSeries を使用する場合は、次の値を入力します。</p> <p style="padding-left: 40px;">corbaloc::&lt;DNS server name or IP address&gt;:&lt;bootstrapport&gt;</p> <p>JBoss JMS を使用する場合は、次の値を入力します。</p> <p style="padding-left: 40px;">jnp://&lt;IP address and port of the JBoss instance&gt;</p> <p>注: この値は、&lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties ファイル内の yfs.agent.override.providerurl プロパティを構成することでオーバーライドできます。</p> <p>プロバイダー URL の形式は次のとおりです。</p> <p style="padding-left: 40px;">t3://&lt;ip Address&gt;:&lt;port&gt;</p> <p>customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。</p>

表 46. 時間トリガー・トランザクションの実行時プロパティ (続き)

コントロール	説明
JMS セキュリティを有効にする	<p>JMS セキュリティを有効にする場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。これを選択すると、「JMS セキュリティ・パラメーター」タブが使用可能になり、キュー・ベースまたは JNDI ベース (またはその両方) の JMS セキュリティを構成できるようになります。</p> <p><b>注:</b> Oracle WebLogic 10.3 では、JNDI ベースの JMS セキュリティのみがサポートされています。キュー・ベースのセキュリティが有効になっている場合は、バイパスされます。そのため、Oracle WebLogic 10.3 を使用している場合は、JNDI ベースの JMS セキュリティを構成する必要があります。</p> <p><b>注:</b> この値は、&lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties ファイル内の yfs.agent.override.auth.enabled プロパティを構成することでオーバーライドできます。</p> <p>customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> プロパティ・ガイド」を参照してください。</p>
トリガー・メッセージのスケジュール	<p>実行時にエージェント・サーバー内から定期的なトリガー・トリガーを実行するようにエージェントを構成するには、このボックスにチェック・マークを付けます。</p> <p>エージェントが処理するメッセージがない場合、新しいトリガー・メッセージが一定の時間間隔でエージェントに送信されます。</p>
トリガー・メッセージの間隔 (分) をスケジュール	<p>希望する時間間隔を分単位で入力します。</p>
作業完了時に実行するサービス	<p>選択したエージェントの実行完了時に実行するサービスを入力します。  ボタンを使用して、必要なサービスを選択することができます。</p> <p><b>注:</b> 構成されたエージェント条件に対して複数レベルの GET を実行する AbstractPurgeAgent または AbstractEnterpriseAgent を拡張するエージェント実装の場合、作業サービスの完了は、実行メッセージで生成される GET コールごとに実行されます。この場合の作業の完了は、その条件または GET 操作での作業が完了したことを示します。</p>
<b>条件パラメーター</b>	
パラメーター名	<p>トランザクションに送信するパラメーターの名前。これは、トランザクションのトリガーに使用されるパラメーターです。このパラメーターについては、『時間トリガー・トランザクション参照』を参照してください。</p>
パラメーター値	<p>トランザクションに送信するパラメーターの値。有効なパラメーター名および値については、『時間トリガー・トランザクション参照』を参照してください。</p>

表 46. 時間トリガー・トランザクションの実行時プロパティ (続き)

コントロール	説明
<p>「JMS セキュリティー・プロパティ」タブ</p> <p>このタブは、「実行時プロパティ」タブで「JMS セキュリティーを有効にする」を選択すると有効になります。ここで指定した JMS セキュリティー・プロパティは、<code>yfs.properties</code> ファイルのエージェントおよびフロー承認パラメーターを有効にすることでオーバーライドできます。</p> <p><b>注:</b> <code>&lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties</code> ファイルの以下のパラメーターを構成することで、JMS セキュリティー・パラメーター (ユーザー ID およびパスワード) をオーバーライドできます。</p> <pre>yfs.agent.override.auth.userid yfs.agent.override.auth.password</pre> <p><code>customer_overrides.properties</code> ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについて詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> プロパティ・ガイド」を参照してください。</p> <p>アプリケーション・サーバー固有のセキュリティ・メカニズムについて詳しくは、『JMS セキュリティー・プロパティの設定』を参照してください。</p>	
パラメーター名	セキュリティ・パラメーターの名前を入力します。
パラメーター値	セキュリティ・パラメーターの値を入力します。

6.  を選択します。
7. 該当するトランザクション・フィールドへの入力が続けます。フィールド・レベルの説明については、161 ページの表 45 を参照してください。
8.  を選択します。
9. 変更を有効にするには、適切なエージェント・サーバーを再始動してください。

**JMS セキュリティー・プロパティの設定:** アプリケーション・サーバーによっては、ユーザー認証用に名前と値ペアを渡す必要もあります。

**キュー・ベースのセキュリティおよび JNDI ベースのセキュリティ:**  
このタスクについて

Oracle WebLogic、IBM WebSphere および IBM WebSphere MQ、および JBoss の場合は、166 ページの表 46 で説明されているパラメーター名とその値に、以下のパラメーター名と値のペアで指定してください。

- キュー・ベースのセキュリティの場合は、以下のパラメーターを設定します。
  - `sci.queuebasedsecurity.userid=<APPLICATION_SERVER` で構成され、キューに割り当てられているユーザー名>
  - `sci.queuebasedsecurity.password=<APPLICATION_SERVER` 用に構成されている上記ユーザー名のパスワード

**注:** Oracle WebLogic 10.3 では、JNDI ベースの JMS セキュリティーのみがサポートされています。キュー・ベースのセキュリティが有効になっている場合は、バイパスされます。そのため、Oracle WebLogic 10.3 を使用している場合は、JNDI ベースの JMS セキュリティーを構成する必要があります。

注: JBoss では、JMS サービスに対するキュー・ベースのセキュリティーはサポートされていません。JNDI ベースのセキュリティーのみがサポートされています。

- JNDI ベースのセキュリティーの場合は、以下のパラメーターを設定します。
  - `java.naming.security.principal=<APPLICATION_SERVER で構成され、JNDI に割り当てられているユーザー ID>`
  - `java.naming.security.credentials=<APPLICATION_SERVER 用に構成されている上記ユーザー ID のパスワード>`

注: 認証メカニズム、およびキューと QCF の設定について詳しくは、個別のアプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

IBM WebSphere および IBM WebSphere MQ の場合は、適切な個所に必要な形式の認証および暗号化を設定します。また、希望する目標に合わせて、Java コマンドを以下の説明のように変更します。

変更する前に、以下の変数が環境で定義されていることを確認してください。

- `WAS_HOME` は、IBM WebSphere ソフトウェアのインストール・ディレクトリーを示します。
- `MQ_HOME` は、IBM WebSphere MQ ソフトウェアのインストール位置を示します。
- `PROFILE_NAME` は、サーバーを作成した際のプロファイルの名前を示します。
- エージェントの IBM WebSphere JNDI での認証を許可するには、以下の定義を追加します。
  - `-Djava.ext.dirs=<CLASSPATH>` ここで、`CLASSPATH` には以下のディレクトリーが含まれている必要があります。
    - `$MQ_HOME\java\lib`
    - `$WAS_HOME\AppServer\java\jre\lib\ext`
    - `$WAS_HOME\AppServer\java\jre\lib`
    - `$WAS_HOME\AppServer\lib`
    - `$WAS_HOME\AppServer\lib\ext`
    - `$WAS_HOME\AppServer\properties`
    - `$WAS_HOME\AppServer\profiles\<PROFILE_NAME>\properties.`
  - `com.ibm.CORBA.ConfigURL` には、使用する SAS props ファイルへの絶対パスを設定します。例えば、`-Dcom.ibm.CORBA.ConfigURL=$WAS_HOME/AppServer/profiles/<PROFILE_NAME>/properties/sas.client.props.`です。

SAS props ファイルは、IBM WebSphere のインストール済み環境から取得します。このテキスト・ファイルを変更して、IBM WebSphere (corbaloc ベース) JNDI での認証に使用するユーザー名とパスワードを含める必要があります。

注: 上記に述べられている定義の設定方法について詳しくは、IBM の資料を参照してください。特に、グローバル・セキュリティーを使用可能化にする方法および構成する方法を理解するには、IBM WebSphere の資料を参照してください。

- MQ に送信する JMS メッセージの SSL 暗号化を有効にするには、エージェントおよびサービスが接続されているチャンネル上で SSL を有効にします。同等の SSLCIPHERSPEC を使用して QCF を作成します。Java コマンド・ラインで、以下の定義を指定します。

- javax.net.ssl.trustStore
- javax.net.ssl.keyStorePassword
- javax.net.ssl.KeyStore

**注:** Sterling Selling and Fulfillment Foundation のエージェントおよびサービスが接続するサーバー・チャンネル上で SSL を有効にする方法について詳しくは、IBM WebSphere MQ の資料を参照してください。QCF の作成における SSLCIPHERSPEC オプションの使用方法について詳しくは、IBM 資料を参照してください。

JBoss の場合は、変更する前に、以下の jar が CLASSPATH に追加されていることを確認してください。

- JBOSS\_HOME は、JBoss ソフトウェアのインストール・ディレクトリーを示します。
- エージェントの JBoss JNDI での認証を許可するには、以下の定義を追加します。
  - -Djava.ext.dirs=<CLASSPATH> ここで、CLASSPATH には以下のディレクトリーが含まれている必要があります。
    - <JBOSS\_HOME>/client/jbossall-client.jar
    - <JBOSS\_HOME>/server/<server-home>/jboss-aop-jdk50.deployer/jboss-aop-jdk50.jar
    - <JBOSS\_HOME>/jboss-messaging-client.jar

#### **新規サーバーの追加: このタスクについて**

新規サーバーを、「エージェント条件の詳細」画面またはサービス定義フレームワークから追加できます。この画面では、タスク完了時にサーバーを終了するオプションを提供します。

例えば、日に 1 回のウェーブ・リリースのシナリオを考えます。オーダーは統合サーバーによりダウンロードされ、ウェーブが作成されてバッチ処理されます。ピック・ロケーションが割り当てられると、ウェーブはリリースされて、複数のサーバーで出力されます。これには、処理に 1 時間以上かかる可能性があります。完了してしまえば、サーバーはアイドル状態になり、翌日まで待機します。プロセスは、アイドル状態だとしても、サーバーのメモリーや CPU などの貴重なリソースを使用します。

このアイドル時間を避けるため、サーバーが自動的に終了するように構成できます。これを行うには、以下の表の説明にあるように、作成時に「サーバーの詳細」で特定のオプションを指定できます。



表 47. サーバーの詳細

フィールド	説明
<b>「サーバーのプロパティ」タブ</b>	
「サーバー名」	サーバー名を入力します。
アイドル中のサーバーを終了	タスクの完了時またはアイドル時にサーバーを終了する場合、このオプションを選択します。  このオプションを選択すると、次の 2 つのフィールドが使用可能になります。
終了モニターの開始遅延 (分)	モニター開始時刻を入力します。これにより、サーバーは、ある実行が正常に完了する前に終了することがなくなります。
終了モニター間隔 (分)	サーバーを終了するまでのアイドル待機時間を入力します。
<b>「サブサービス・リスト」タブ</b>	
サブフロー名 (Subflow Name) または条件 ID	サブフローの名前をリストするか、構成済みのサービスかエージェントに属する条件をリストします。
スレッド	スレッド数を指定します。

詳細を入力したら、 をクリックします。

終了するように構成されたサーバーが開始されると、サーバーは、スレッドがアイドルかどうかを確認するためにスレッドをモニターします。モニター開始時刻は、モニターを開始するまでに遅らせる分数を示します。すべてのスレッドがアイドルになると、サーバーは終了する前に、構成された時間の長さだけ待機します。新しいメッセージが到着すると、時間がリセットされて、サーバーはスレッドのモニターを再開します。

#### トランザクションをユーザー・トリガーに指定: このタスクについて

ユーザーによりトリガーされるトランザクションを作成できます。

ユーザーによりトリガーされる拡張トランザクションを作成するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. 「トランザクションの詳細」ウィンドウで、「ユーザー・トリガー」タブを選択します。



2. 「このトランザクションはユーザーによってトリガーされる」にチェック・マークを付けて、このトランザクションがユーザーによりトリガーされるトランザクションであることを示します。
3. 「準備完了時に次を使用してユーザーに通知する」から、このトランザクションのピックアップ・ステータスに伝票が入るとトリガーされるサービスを選択します。例えば、特定のオーダー・タイプ用に作成されたすべてのオーダーを顧客サービス担当者が確認する必要がある場合、オーダーの確認を行う担当者へ E メールを送信するサービスを起動するユーザー・トリガー・トランザクションを作成できます。

**注:** ユーザーへの通知を行うには、「その他 (Others)」タブの「作業基準」フィールドから該当するトランザクションのオーダー・レベルを選択する必要があります。例えば、オーダー・リリース・レベルでユーザーによりトリガーされるトランザクションを構成する場合、「作業基準」のドロップダウン・リストから「オーダー・リリースのプロセス・タスク・タイプ」を選択する必要があります。

4. 該当するトランザクション・フィールドへの入力が続けます。フィールドの値の説明については、161 ページの表 45 を参照してください。
5.  を選択します。

### イベントのトランザクションへの追加:

#### このタスクについて

イベントをトランザクションに追加することができます。このイベントは、プロセス・タイプのワークフロー内で発生を示すとともに、関連付けられたアクションを呼び出します。

イベントをトランザクションに追加するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. 「トランザクションの詳細」ウィンドウで、「イベント」タブを選択します。



2.  を選択します。「イベントの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されません。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、表 48 を参照してください。
4. 「OK」を選択します。

表 48. 「イベントの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
イベント ID	イベント ID を入力します。
イベント名	イベントの名前を入力します。
アクティブ	イベントがトランザクションに対してアクティブである場合、このフィールドを選択します。  イベントを非アクティブにするには、このフィールドを選択しないでおきます。
エンタープライズはイベント・ハンドラーを構成できますか?	「ハブ」の役割としてログインしている場合、「エンタープライズ」の役割でイベント・ハンドラーをトランザクションに対して構成できるようにするには、このフィールドを選択します。 <b>注:</b> トランザクションが複数のエンタープライズ全体に動作する場合、またはエンタープライズ情報がトランザクションで使用できない場合、デフォルトのイベント・ハンドラーが使用されます。

表 48. 「イベントの詳細」 ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
下位互換性が必要	イベント・ハンドラーに、下位互換性が必要なプロパティが含まれる場合、このフィールドを選択します。このフィールドを選択する場合、該当するバージョンを選択します。

#### 拡張トランザクションのイベントの変更: このタスクについて

トランザクションのイベントを変更するには、次の手順を実行します。

##### 手順

1. 「トランザクションの詳細」 ウィンドウで、「イベント」 タブを選択します。
2. 該当するイベントを選択して、 を選択します。「イベントの詳細」 ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 該当するフィールドの情報を変更します。フィールドの値の説明については、175 ページの表 48 を参照してください。
4. 「OK」を選択します。

#### トランザクションからのイベントの削除: このタスクについて

イベントをトランザクションから削除するには、以下の手順を実行します。

##### 手順

1. 「トランザクションの詳細」 ウィンドウで、「イベント」 タブを選択します。
2. 該当するイベントを選択して、 を選択します。

#### イベント・ハンドラーの定義: このタスクについて

トランザクションでイベントが発生したときに実行されるアクションのタイプを決定するイベント・ハンドラーを定義できます。イベント・ハンドラーに適用する条件を設定できます。

**注:** 特定のパイプライン内のトランザクションに対して定義されているイベント・ハンドラーは、同じトランザクションが別のパイプラインで使用されたときも適用可能です。

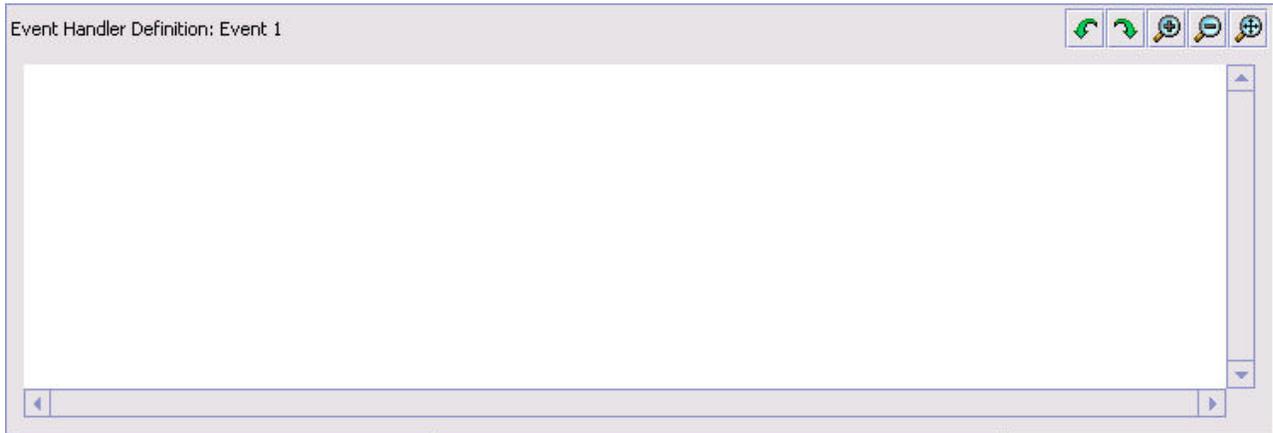
**注:** イベントに条件を関連付けるときは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照して、適用可能な条件変数がイベントのキー・データおよび公開済みデータと確実に一致するようにしてください。

イベント・ハンドラーを設定するには、次の手順を実行します。

##### 手順

1. 「トランザクションの詳細」 ウィンドウで、「イベント」 タブを選択します。

2. 適用可能なイベントを選択し、「イベント・ハンドラーの構成」ボタンを選択します。「イベント・ハンドラーの定義」作業領域がアクティブになります。



3. 適用可能なアクションと条件を作業領域にドラッグし、このセクションで詳説するルールに従ってそれらを関連付けます。
4.  を選択します。

#### ピックアップ・ステータスの拡張トランザクションへの追加: このタスクについて

ピックアップ・ステータスを拡張トランザクションに追加することができます。ピックアップ・ステータスにより、先行するドロップ・ステータスのドキュメントが取得されて、トランザクションに移動されます。

**注:** ピックアップ・ステータスもドロップ・ステータスもシステム・トランザクションに追加できなければ、ピックアップ・ステータスまたはドロップ・ステータスとして拡張ステータスを使用できます。使用できるのは、拡張ステータスの基本ステータスがトランザクションのピックアップ・ステータスまたはドロップ・ステータスに含まれている場合のみです。

ピックアップ・ステータスをトランザクションに追加するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「トランザクションの詳細」ウィンドウで、「ピックアップ・ステータス」タブを選択します。



2.  を選択します。「ステータス選択 (Select Status)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



**注:** トランザクションが抽象化トランザクションから派生している場合、リストに入るピックアップ・ステータスは、派生したトランザクションの基本トランザクションで定義されるピックアップ・ステータス・フィルターにより決まります。

3. トランザクションに追加するピックアップ・ステータスを選択します。
4. 「OK」を選択します。

#### トランザクションからのピックアップ・ステータスの削除: このタスクについて

ピックアップ・ステータスをトランザクションから削除するには、以下のようになります。

##### 手順

1. 「トランザクションの詳細」ウィンドウで、「ピックアップ・ステータス」タブを選択します。
2. 該当するピックアップ・ステータスを選択して、 を選択します。

**注:** 拡張トランザクションのピックアップ・ステータスは、トランザクションのピックアップ・ステータスのみであり、かつ、ドロップ・ステータスがトランザクションに存在している場合は、削除できません。

#### ドロップ・ステータスの拡張トランザクションへの追加: このタスクについて

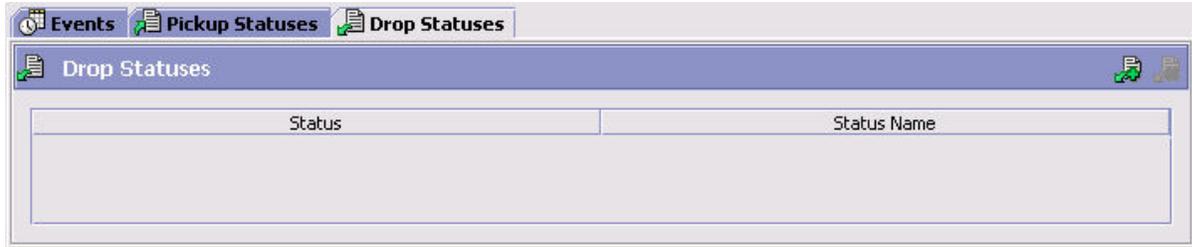
ドロップ・ステータスを拡張トランザクションに追加することができます。このステータスにより、ドキュメントが現在のトランザクションから次のトランザクションのピックアップ・ステータスに移動します。

**注:** ピックアップ・ステータスもドロップ・ステータスもシステム・トランザクションに追加できなければ、ピックアップ・ステータスまたはドロップ・ステータスとして拡張ステータスを使用できます。使用できるのは、拡張ステータスの基本ステータスがトランザクションのピックアップ・ステータスまたはドロップ・ステータスに含まれている場合のみです。

ドロップ・ステータスをトランザクションに追加するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. 「トランザクションの詳細」ウィンドウで、「ドロップ・ステータス」タブを選択します。



2.  を選択します。「ステータス選択 (Select Status)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



- 注: トランザクションが抽象化トランザクションから派生している場合、リストに入るドロップ・ステータスは、派生したトランザクションの基本トランザクションで定義されるドロップ・ステータス・フィルターにより決まります。
3. トランザクションに追加するドロップ・ステータスを選択します。
  4. 「OK」を選択します。

## トランザクションからのドロップ・ステータスの削除: このタスクについて

ドロップ・ステータスをトランザクションから削除するには、以下のようにします。

## 手順

1. 「トランザクションの詳細」ウィンドウで、「ドロップ・ステータス」タブを選択します。
2. 該当するドロップ・ステータスを選択して、 を選択します。

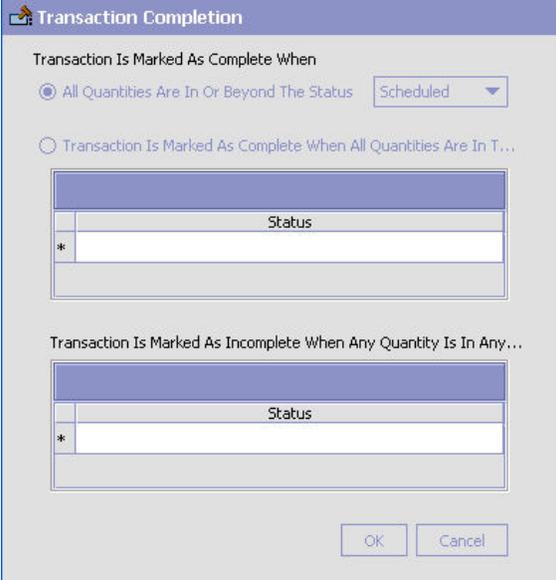
**トランザクション完了の構成:** オーダー・フルフィルメント・プロセス・タイプのオーダー明細ステータスに基づいて、トランザクションを完了するように構成できます。完了条件は、カスタム・トランザクションまたは拡張トランザクションに対してのみ定義できます。オーダーがそれらのトランザクションを実行する場合、完了について評価されます。トランザクションの評価時に、それはトランザクション完了基準での定義に従って完了または未完了とマークが付けられます。この構成は、そのドロップ・ステータスに基づくトランザクション・ベースの完了依存関係をセットアップする柔軟性を提供します。

注: Sterling Selling and Fulfillment Foundation により提供される標準トランザクションのトランザクション完了は構成できません。例えば、標準スケジュール・トランザクションの完了は構成できません。

注: ただし、スケジュールおよびリリースなどのいくつかのステータス・ベース・トランザクションは、完了基準が指定されて提供され、ドロップ・ステータス・タブで  を選択すると表示できます。

トランザクションは別にして、完了条件はさらに、パイプラインで使用される拡張リスナー向けにも構成できます。ただし、リスナーのすべてのインスタンス向けに完了を構成する必要があります。

トランザクション依存関係の概念については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き*」を参照してください。オーダー・フルフィルメント・モデルのトランザクション依存関係の構成については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」を参照してください。



The image shows a dialog box titled "Transaction Completion". It contains two radio button options for when a transaction is marked as complete. The first option, "All Quantities Are In Or Beyond The Status", is selected and has a dropdown menu set to "Scheduled". The second option is "Transaction Is Marked As Complete When All Quantities Are In T...". Below these options are two tables for defining completion and incompleteness criteria. Each table has a header "Status" and a row with an asterisk (\*) in the first column. At the bottom are "OK" and "Cancel" buttons.

### トランザクション完了セットアップの構成: このタスクについて

トランザクション完了セットアップを構成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「トランザクションの詳細」ウィンドウで、「ドロップ・ステータス」タブを選択します。
2.  を選択して、トランザクション完了を構成します。「トランザクション完了」ウィンドウが表示されます。
3. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。

4. 詳細を入力して、「OK」を選択します。

表 49. トランザクション完了の構成の詳細

フィールド	説明
オーダー明細ごとにトランザクション完了を構成	オーダー明細のステータスに基づいてトランザクション完了を構成する場合、このボックスにチェック・マークをつけます。
次の場合、トランザクションは完了としてマークを付けられます	
全数量がステータス内か、ステータスを超えています	ドロップダウンに指定されるステータスをオーダー明細が超えている時にトランザクションを構成する場合、このオプションを選択します。  いずれかの数量が、構成されるステータスを下回る場合、このトランザクションは未完了と見なされます。
すべての数量が次のステータスになると、トランザクションは完了としてマークされます	トランザクション完了ステータスをドロップダウン・オプションから選択します。ドロップダウン・リストは、組織に定義されるすべてのステータスをリストします。  アイコンを使用して、使用可能なドロップ・ステータスのリストから選択します。
次のいずれかのステータスの数量がある場合、トランザクションには未完了のマークが付けられます	トランザクションが未完了と見なされる対象のステータスをドロップダウンから選択します。  アイコンを使用して、使用可能なステータスのリストからステータスを選択します。

### タスクの結果

トランザクションの完了または未完了に関して選択されたステータスを削除する場合、適切なステータスを選択して、 をクリックします。

トランザクションが完了して、オーダーは従属するトランザクションの処理準備状態にあることをユーザーに通知する場合、**TRANSACTION\_DEPENDENCY.READY\_TO\_PROCESS** イベントがトリガーされます。また、このイベントは、カスタム・トランザクションが、オーダーが処理準備状態にあることを認識できるようにします。

**注:** **READY\_TO\_PROCESS** イベントがトリガーされるのは、トランザクションが即時処理に対して準備ができた場合のみです。

1 つのトランザクション完了により準備状態になることが可能なトランザクションは、複数設定することができます。この場合、使用可能なオーダー明細とともに、それぞれのトランザクションが出力です。

依存関係の削除により使用可能になる明細は、イベント内で公開されます。

### 基本トランザクションの外部プログラムの管理: このタスクについて

外部プログラムは、カスタム・ロジック・コンポーネントを作成するために実装可能な Java インターフェースです。実装したら、Sterling Selling and Fulfillment

Foundation トランザクションが実行時に必要なロジックを実行するために呼び出せるようにそれらを構成する必要があります。

基本トランザクションの外部プログラムを管理する手順は、次のとおりです。

#### 手順

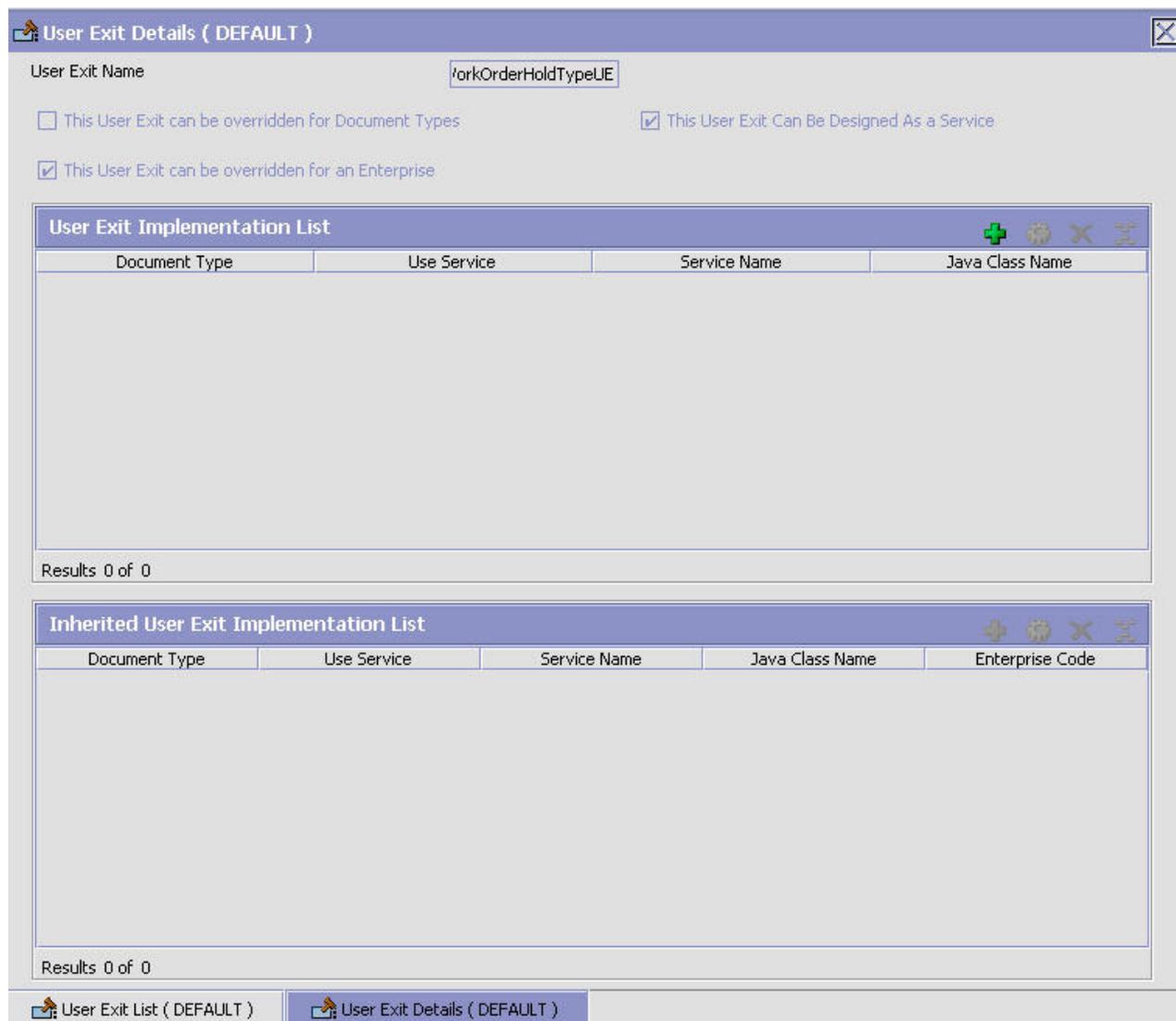
1. 「トランザクションの詳細」ウィンドウで、「外部プログラム」タブを選択します。

User Exit Name	Extensible By Document Type	Designable As Service	User Exit Implemented
com.yantra.yfs.japi.ue.YFSDeter...	Y	N	N
com.yantra.yfs.japi.ue.YF5GetR...	Y	Y	N

外部プログラムが伝票種別に対して実装可能である場合は、「伝票種別はオーバーライド可能」列に「Y」と表示されます。外部プログラムがサービスに対して実装可能である場合は、「サービスの付加が可能」列に「Y」と表示されます。外部プログラムが実装されている場合は、「外部プログラム実装済み」列に「Y」と表示されます。

**注:** 場合によっては、「外部プログラム・リスト」に、トランザクションで使用可能な外部プログラムの完全なリストが表示されないことがあります。使用可能な外部プログラム管理の完全なリストを表示するには、「外部プログラム管理」コンソールを使用します。

2. 該当する外部プログラムを見つけて、 を選択します。「外部プログラムの詳細」ウィンドウが表示されます。



3. 「外部プログラム実装リスト」テーブルで、 を選択します。「外部プログラム実装の詳細」が表示されます。
4. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、184 ページの表 50 を参照してください。

表 50. 「外部プログラム実装の詳細」フィールド

フィールド	説明
外部プログラム実装の詳細	
ドキュメント・タイプ	外部プログラムが伝票種別に対して実装可能である場合は、適切な伝票種別を選択します (該当する場合)。
サービスとして実装	外部プログラムが、サービスを使用するよう実装可能であり、そのように構成する場合は、「サービスとして実装」を選択します。
Java クラスとして実装	外部プログラムが Java クラスとして実装されるように構成する場合は、「Java クラスとして実装」を選択します。
サービス名 (「サービスとして実装」を選択した場合)	「サービスとして実装」を選択した場合は、構成する適切なサービスを選択します。
Java クラス (「Java クラスとして実装」を選択した場合)	「Java クラスとして実装」を選択した場合は、「外部プログラム名」フィールドに表示されているように Java クラスを入力します。
下位互換性が必要	外部プログラムが別のリリースに対する下位互換性を必要とする場合は、このフィールドを選択します。
Version	「下位互換性が必要」を選択した場合は、外部プログラムの下位互換性を必要とする Sterling Selling and Fulfillment Foundation バージョン番号を選択します。
呼び出し数の制限	外部プログラムのカスタム・コードがハングしたために外部システムに呼び出しが行われた場合、この外部プログラムを呼び出した API スレッドもハングしています。これにより、アプリケーション・サーバー内のすべての実行スレッドが遮断される可能性があります。これを選択すると、JVM 当たりの呼び出し数、待機中の呼び出し数、待ち時間を構成できます。

表 50. 「外部プログラム実装の詳細」フィールド (続き)

フィールド	説明
プール・サイズ	外部プログラムへの同時アクティブ呼び出しの総数を示します。
最大キュー長	アクティブ数がいっぱいになった場合に、アクティブになるのを待機している外部プログラム呼び出しの数の最大キュー長。アクティブになるのを待機している呼び出しでキューがいっぱいになった場合、新規の外部プログラム要請はすべてエラーになります。
待ち時間 (秒)	キュー内で外部プログラムが待機する時間。待ち時間がこの秒数を超えると、例外がスローされます。
外部プログラム実装メモ	外部プログラム実装に関する任意の追加情報を入力します。

## 抽象トランザクションから派生する拡張トランザクションの作成 このタスクについて

作業しているプロセス・タイプの既存のシステム・トランザクションから派生させて新規トランザクションを作成できます。そのトランザクションを、パイプラインの作成と変更で使用できます。

**注:** 抽象トランザクションから派生するトランザクションを作成する場合、文書フィールド・タイプの入力は必須ではありませんが、推奨されます。

派生トランザクションを作成するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「トランザクション」タブを選択します。
4. 「トランザクション」ブランチを選択し、 を選択します。「新規トランザクションの作成」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 「この抽象トランザクションから派生」を選択し、派生トランザクションを作成するための適切なトランザクションを選択します。
6. 「OK」を選択します。作業領域に、「トランザクションの詳細」ウィンドウが表示されます。
7. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、161ページの表 45 を参照してください。
8.  を選択します。
9. Java クラスを変更した場合、変更内容を有効にするには、適切なエージェント・サーバーを再始動します。

## ステータス変更リスナー派生トランザクションの作成: このタスクについて

リスナー・トランザクションを作成することで、ドキュメントが別のパイプラインにあるときにそのドキュメントの変更を追跡できます。例えば、オーダー・フルフィルメント・パイプラインを作成しようとしている場合に、そのパイプライン内で、オーダー伝票が独自の出荷ステータス・セットを持つ出荷パイプラインにドロップされる場合は、そのオーダー・フルフィルメント・パイプライン内でステータス変更リスナー・トランザクションを構成することで、そのオーダー伝票がその出荷パイプライン内で経るステータスを追跡できます。

リスナーのトランザクション詳細画面では、複数のドロップ・ステータスを追加できます。トランザクション・ドロップ・ステータス・レコードの削除を防止するために、検証が実行されます (そのドロップ・ステータスのパイプライン・リスナー・レコードが存在する場合)。パイプライン内のリッスン対象ステータスを設定する際は、それぞれのリッスン対象ステータス用に使用するドロップ・ステータスを指定します。子オーダーのステータスが変更されると、その子オーダーの変更後のステータスのドロップ・ステータスによって親オーダーが更新されます。

このリスナーは、直前の 3 つのリスナーの集合と同じステータスをすべてリッスンし、直前の 3 つのリスナーがドロップしたドロップ・ステータスにドロップします。

オーダー時にステータスを変更するリスナーは、ステータスの変更時にイベントを生成します。リスナーは、ステータスの変更を伴う各オーダー明細についてこのイベントを生成します。リスナー・トランザクションを使用している各オーダー明細について、ON\_STATUS\_CHANGE イベントが生成されます。

ステータス変更リスナーを構成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「トランザクション」タブを選択します。
4. 「トランザクション」ブランチを選択し、 を選択します。「新規トランザクションの作成」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 「この抽象トランザクションから派生」を選択して、該当するリスナー・トランザクションを選択します。
6. 「OK」を選択します。
7. リポジトリ内で、「パイプライン (pipeline)」タブを選択してから、このステータス変更リスナー・トランザクションの追加先となるパイプラインを選択します。そのパイプラインを右クリックして、「詳細」を選択します。そのパイプラインの詳細が作業領域に表示されます。

8. 「トランザクション」タブを選択して、作成したトランザクションを作業領域内の適切な個所にドラッグします。
9. ステータス変更リスナー・トランザクションを右クリックして、「リスナー詳細の表示」を選択します。「リスナーの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

The screenshot shows a dialog box titled "Listener Details". It has two input fields at the top: "Listener Transaction" containing "Status Change Listener" and "Process Type Listening To" which is a dropdown menu. Below these is a table with the title "Status Listening To". The table has two columns: "Status Name" and "Status". The table is currently empty. At the bottom right of the dialog are "OK" and "Cancel" buttons.

10. 「リスニング対象のプロセス・タイプ」から、このリスナーによってステータスを追跡する場所となる該当するプロセス・タイプ・パイプラインを選択します。
11. 「リスニング中ステータス」リストで、 を選択します。追跡可能なステータスのリストが表示されます。
12. このリスナーによって追跡するステータスを選択して、 を選択します。
13. 「OK」を選択します。

注：作業オーダー・ステータスのリスナーは、提供サービスや配達サービスの作業オーダーに対しては機能しません。

### 見積パイプライン・トランザクションに対するヘッダー・レベル操作および明細レベル操作の構成:

#### このタスクについて

トランザクションが、見積りの明細レベルまたはヘッダー・レベルで発生するかどうかを構成できます。トランザクションがヘッダー・レベルで作動する場合、すべての見積明細に関するステータスの移動は、すべての明細の移動が許可されている場合のみ行われます。トランザクションが明細レベルで作動する場合、見積内のその他の明細のステータスに関わらず、あらゆる明細のステータスを移動できます。

トランザクションが、見積りの明細レベルまたはヘッダー・レベルで発生するかどうかを構成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」タブを選択して、オーダーの基本伝票種別の見積プロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、「見積フルフィルメント」を右クリックして、「モデル・プロセス」を選択します。見積プロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと、作業領域が表示されます。
3. 「トランザクション」タブを選択します。
4. 「トランザクション」ブランチを選択し、 を選択します。「新規トランザクションの作成」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 「この抽象トランザクションから派生」を選択してから、「オーダー状況の変更」トランザクションを選択して派生トランザクションを作成します。
6. 「OK」を選択します。作業領域に、「トランザクションの詳細」ウィンドウが表示されます。
7. 「その他 (Others)」タブを選択します。フィールドの値の説明については、161ページの表 45 を参照してください。
8. 「運用レベル」ドロップダウン・リストから、以下のいずれかを選択します。
  - ヘッダーのトランザクション操作レベル
  - 明細のトランザクション操作レベル
9.  を選択します。

## トランザクションの変更

### このタスクについて

トランザクションを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「トランザクション」タブを選択します。
4. 「トランザクション」ブランチを展開します。
5. 該当するトランザクションを選択して、 を選択します。作業領域に、「トランザクションの詳細」ウィンドウが表示されます。
6. 該当するフィールドの情報を変更します。フィールドの値の説明については、161ページの表 45 を参照してください。
7.  を選択します。

## トランザクションの削除

### このタスクについて

トランザクションを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「トランザクション」タブを選択します。
4. 「トランザクション」ブランチを展開します。
5. 該当するトランザクションを選択して、 を選択します。

注: パイプラインに存在しているトランザクションを削除すると、グラフィックのパイプラインに明るい赤が表示されます。

## ステータスの定義

ステータスは、ドキュメントがパイプラインを移動する実際の状態です。トランザクションには、「ドロップ・ステータス」と「ピックアップ・ステータス」の2つのタイプのステータスを含めることができます。ドキュメントは、トランザクションのイベントと条件が完了すると、**ドロップ・ステータス**に移動します。**ピックアップ・ステータス**は、直前のドロップ・ステータスからドキュメントを取り出し、次のトランザクションへと移動させます。ステータスの例としては、「作成済み」や「スケジュール済み」があります。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、一連のデフォルトのステータスを提供します。これらのステータスは、トランザクションを接続するために使用します。使用するビジネス慣行によっては、1 つ以上の拡張ステータスを使用することが必要な場合があります。これらのステータスは独立しておらず、単に拡張元のステータスに従うものです。

## 拡張ステータスの作成

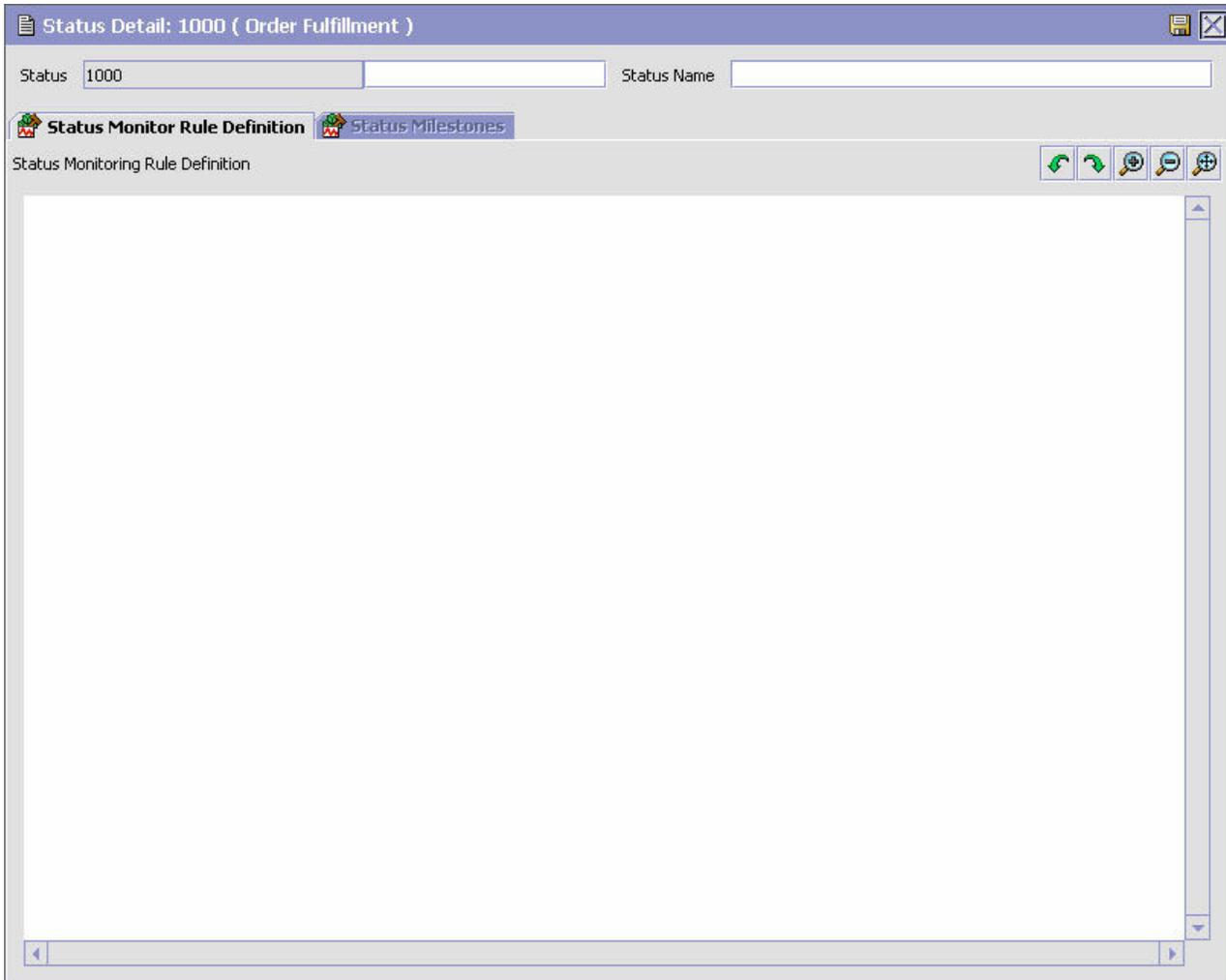
### このタスクについて

拡張ステータスを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「ステータス」タブを選択します。

4. 「ステータス」 ブランチを展開します。
5. 適切なステータスを選択し、 を選択します。作業領域に、「ステータスの詳細」 ウィンドウが表示されます。



6. 「ステータス」に、拡張番号を入力します。この番号は、他の既存の拡張ステータスと連番になっている必要があります。
7. 「ステータス名」に、拡張ステータスの名前を入力します。
8.  を選択します。

## 拡張ステータスの変更

### このタスクについて

拡張ステータスを変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。

2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「ステータス」タブを選択します。
4. 「ステータス」ブランチを展開します。
5. 該当する拡張ステータスを選択して、 を選択します。作業領域に、「ステータスの詳細」ウィンドウが表示されます。
6. 「ステータス名」に、拡張ステータスの名前を入力します。
7.  を選択します。

## 拡張ステータスの削除

### このタスクについて

拡張ステータスを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「ステータス」タブを選択します。
4. 「ステータス」ブランチを展開します。
5. 該当する拡張ステータスを選択して、 を選択します。

## ステータス・モニター・ルールの定義

### このタスクについて

ステータス・モニター・ルールは、一定時間、特定のステータスにあるビジネス・ドキュメントをモニターするために使用されます。構成された時間に達すると、「ステータス・モニター・ルールの定義」作業領域で定義されたアクションが実行されます。

注: ステータス・モニター・ルールの定義の以下の設定は、オーダー・モニターに対するものです。

ステータス・モニター・ルールの定義を設定するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。

3. 「ステータス」 ブランチを展開します。
4. 「ステータス」 タブを選択します。
5. 目的のステータスをダブルクリックします。作業領域に、「ステータスの詳細」ウィンドウが表示されます。
6. 作業領域で右クリックし、「アクション」 > 「モニター・ノードの追加」を選択します。作業領域にモニター・ノードが表示されます。
7. 適用可能なアクションと条件を作業領域にドラッグし、このセクションで詳説するルールに従ってそれらに関連付けます。
8. ステータス・モニター・ノードを該当するアクションに関連付けます。アクションが実行されるまでにドキュメントがそのステータスにある時間が接続線上に表示されます。時間を変更するには、時間を右クリックし、「変更」を選択して、新しい時間を入力します。

注: 同じモニター経過時間に対して複数のアクションを設定しないでください。

9.  を選択します。

注: 以下のプロセス・タイプでは、ステータス・モニター・ルールは追加できず、「ステータス・モニター・ルールの定義」タブは使用できません。

- 棚卸実行
- 一般
- 集合・混載実行
- 積荷目録作成
- 移動要請実行
- 出庫ピッキング
- 出荷
- 超過梱包作成
- パック・プロセス
- 購入オーダー受入
- 返品受入
- タスク実行
- トレーラー積み付け
- 転送オーダー受入
- VAS プロセス
- WMS レイアウト定義
- WMS 格納
- WMS 在庫

## 条件の定義

条件は、決定点に照らして伝票種別属性と突き合わせられ、指定された属性と値の組み合わせに基づいて、ドキュメントをさまざまなパスにルーティングします。条件を作成可能な伝票種別属性は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義されます。これらの属性は任意の組み合わせで使用できます。または特定の状況向けに適切なアプリケーション・ロジックを実行する条件を作成できます。

例えば、販売オーダー・フルフィルメント・プロセス・タイプ・パイプラインの特定の点で、オーダーに危険物が含まれるかどうかを判別するための条件をセットアップします。オーダーがパイプラインでこの条件に到達すると、この条件が明確な「yes」または「no」値で条件を満たすまで、オーダーはそれ以上移動できません。この例では、オーダーに危険物が含まれていない場合、値は「no」であり、オーダーは通常のパイプラインを経て続行します。オーダーに危険物が含まれている場合、値は「yes」であり、オーダーは、危険物オーダーを扱うように構成されているオーダー・パイプラインの代替ブランチに送られます。

## 静的条件

静的条件の動作は、条件評価に使用できるデータに基づき、異なるフローごとに(例えば、SDF、パイプライン、パイプラインの決定ルール、およびイベント・ハンドラーなどで)異なります。

- SDF では、フロー全体または入力データは、条件評価に使用できます。
- パイプラインの決定ルールの場合、(プロセス・タイプに応じて) パブリッシュされた限定セットのデータのみが条件評価に使用できます。すぐに使用可能なプロセス・タイプの完全なリストについては、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド*」を参照してください。
- パイプラインまたはイベントの場合、(エンティティまたはイベントに応じて) パブリッシュされた限定セットのデータのみが条件評価に使用できます。関連イベントのキー・データについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。
- 「自分の属性を入力してください」による構成は、入力可能な XML 属性とは異なり、*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* で事前に定義された非公開のキー属性のみに適用されます。さらに、この構成には、コンテキスト条件に対する制限された可視性があるため、再使用不可です。条件全体を再使用可能な必要がある場合、条件ビルダー構成にメタデータを強制する `extn_conditionbuilder.xml` を使用する必要があります。

注: パイプラインでは、条件の「false」ノードは別の条件にリンクさせることができますが、「true」ノードは別の条件にリンクさせることはできません。

## 動的条件

動的条件は、入力フロー・データに対する完全な可視性と、あらゆる種類の単純条件または複合条件を評価する柔軟性を提供します。

## 条件の作成

### このタスクについて

条件を作成するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。

2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「条件」タブを選択します。
4. 「条件」ブランチを展開します。
5.  を選択します。作業領域に、「条件の詳細」ウィンドウが表示されます。
6. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、表 51 を参照してください。
7.  を選択します。

表 51. 「条件の詳細」ウィンドウ

フィールド	説明
条件 ID	条件 ID を入力します。
条件名	条件の名前を入力します。
条件グループ	必要に応じて、条件グループの名前を入力します。条件グループを使用して、条件ツリー内の関連条件をグループ化できます。
固定的	これがチェックされている場合、固定的条件に対する条件値を入力する必要があります。
動的	これがチェックされている場合、実行時に条件を評価する Java クラス名を入力する必要があります。
拡張 XML	<p>拡張 XML タイプの新規条件を作成するには Sterling Greex Editor IDE ツールを使用する必要があるため、新規条件を作成している場合、このオプションは使用不可になっています。Sterling Greex Editor を使用した拡張 XML 条件の作成について詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 条件ビルダーの拡張」を参照してください。</p> <p>拡張 XML タイプの条件を修正する場合は、このオプションが自動的に選択されます。</p>

表 51. 「条件の詳細」 ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
条件値 (「固定的」がチェックされている場合)	<p>条件ビルダーを使用するには、「条件ビルダー」ボタンを選択します。ここで条件ビルダーを使用して条件値を設定することができます。有効な記号を使用して、定型の読み出しとして設定できます。</p> <p>「固定的」条件がチェックされている場合、独自の属性や拡張属性を入力できます。これらの属性の作成について詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p>
クラス名 (「動的」がチェックされている場合)	<p>次の Java インターフェースを実装しているクラス名を入力します。</p> <p style="text-align: center;"><code>com.yantra.ycp.japi.YCPDynamicCondition</code></p> <p><b>注:</b> 条件で拡張属性を使用するには、YCPDynamicConditionEx インターフェースを実装します。このインターフェースの実装について詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p>
条件のプロパティ (「動的」がチェックされている場合)	<p>条件を評価する前に、条件を評価する Java クラス・ファイルに設定するカスタムの名前または値のプロパティを指定します。カスタム属性の作成について詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p>

**条件ビルダーの使用:** 条件値を作成するには、条件ビルダーを使用できます。条件ビルダーを使用するには、まず条件の使用時に分析するフィールドを選択し、それに適切な値を関連付ける必要があります。

例えば、この例 SN1 で、オーダー・フルフィルメントのための特定のノードを検索する条件をセットアップするとします。この条件値をセットアップするには、選択可能なオーダー・フルフィルメント・フィールドのリストから「出荷ノード」を選択します。ドロップダウン・リストから「Is」を選択し、値として「SN1」を入力し、「追加」を選択します。これで、「Ship Node is 'SN1'(出荷ノードは SN1)」という条件値が作成されます。これはこの条件を使用する際に、ドキュメントが構成に従ってパイプライン内を移動するものである場合に、それが SN1 に関連付けられているかどうかを確認するために、アプリケーションはドキュメントを検査することを示します。

さらに、評価する条件について、選択したフィールドに基づいて、それが「次より大」、「次より大か同じ」、「次より小」、「次より小か同じ」、および「次を含む」かどうかを検査することもできます。

条件値を作成するときは、条件ビルダーを使用して、さらに複雑なストリングを作成できます。例えば、SN1 に関連付ける条件値のセットアップとともに、その条件に Item1 に関連付けられたアイテム ID はいずれも含めないように決めたとします。この条件値をセットアップするには、選択可能なオーダー・フルフィルメント・フィールドのリストから「出荷ノード」を選択します。ドロップダウン・リストから「Is」を選択し、値として「SN1」を入力し、「追加」を選択します。次いで

ステートメントを選択し、左括弧ボタンと閉じ括弧ボタンを選択します。このステートメントをセットアップした後に、選択可能なオーダー・フルフィルメント・ルールからアイテム ID を選択します。ドロップダウン・リストから「等しくない」を選択し、「Item1」と入力します。ステートメントを選択し、& ボタンを選択し、次いで左括弧ボタンと閉じ括弧ボタンを選択します。これで、「(Ship Node Is 'SN1') AND (Item ID Not Equal To 'Item1')」(出荷ノードは SN1 かつアイテム ID は Item1 と等しくない) というステートメントがセットアップされました。このステートメントは、この条件が使用される場合、アプリケーションは特定のドキュメントを参照して、それが SN1 とは関連付けられており、Item1 とは関連付けられていないかどうかを確認することを示します。これが当てはまれば、ドキュメントは構成に従ってパイプラインに沿って進みます。

**注:** 条件ステートメントで複数のフィールドを使用する場合は、括弧を使用する必要があります。

**注:** 大括弧記号の間に入れることができるのは、2 つの条件のみです。

プロセス・タイプ別の、条件定義時に条件ビルダー機能の一部として評価されるカスタム属性を追加できます。カスタム属性の実装と条件ビルダーへのその取り込みについて詳しくは、*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 条件ビルダーの拡張を参照してください。

## 条件の変更

### このタスクについて

条件を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「条件」タブを選択します。
4. 「条件」ブランチを展開します。
5. 該当する条件グループ・ブランチを展開します。
6. 該当する条件を選択して、 を選択します。作業領域に、「条件の詳細」ウィンドウが表示されます。
7. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、194 ページの表 51 の「トランザクションの詳細」ウィンドウ表を参照してください。(固定的条件の変更については、195 ページの『条件ビルダーの使用』を参照してください。) (拡張 XML 条件のフィールド・レベルの説明については、197 ページの表 52 を参照してください。)
8.  を選択します。

表 52. 「拡張 XML 条件の詳細 (Advanced XML Condition Details)」ウィンドウ

フィールド	説明
条件 ID	拡張 XML 条件の新規 ID を入力します (必要な場合)。
条件名	拡張 XML 条件の新規名を入力します (必要な場合)。
条件グループ	拡張 XML 条件のグループの新規名を入力します (必要な場合)。条件グループを使用して、条件ツリー内の関連条件をグループ化できます。
拡張 XML (AdvancedXML にチェックが付いている場合)	<p>この画面は、Sterling Greex Editor IDE ツールを使用して作成される拡張 XML 条件を編集している場合のみ表示されます。Sterling Greex Editor を使用した拡張 XML 条件の作成について詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 条件ビルダーの拡張」を参照してください。この画面には、拡張 XML 条件が簡単な英語で示されます。拡張 XML 条件の変更可能なすべてのパラメーターが画面上にハイパーリンクとして表示されます。</p> <p>値を編集するパラメーターのハイパーリンクをクリックします。ポップアップ画面で、パラメーターの新しい値を指定します。ポップアップ画面には古い値が表示されます。新しい値を入力することもできます。ポップアップ画面で「保存」ボタンをクリックすると、新しい値が「拡張 XML」画面と「画面ビュー (Screen View)」画面で反映されます。</p>
ソース・ビュー (AdvancedXML にチェックが付いている場合)	<p>この画面は、Sterling Greex Editor IDE ツールを使用して作成される拡張 XML 条件を編集している場合のみ表示されます。</p> <p>この画面には、特定の拡張 XML 条件が XML 形式で表示されるか、あるいは、拡張 XML ファイルで定義したとおりに表示されます。拡張 XML 条件のいかなるパラメーターにも変更を加えることはできません。</p>
条件のケース (AdvancedXML にチェックが付いている場合)	決定表ベースの拡張 XML 条件のカスタム・ケースを指定します。決定表ベースの拡張 XML 条件のカスタム・ケースの作成方法について詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 条件ビルダーの拡張」を参照してください。

## 条件の削除

### このタスクについて

条件を削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「条件」タブを選択します。

4. 「条件」 ブランチを展開します。
5. 該当する条件グループ・ブランチを展開します。
6. 削除する条件を選択して、 を選択します。

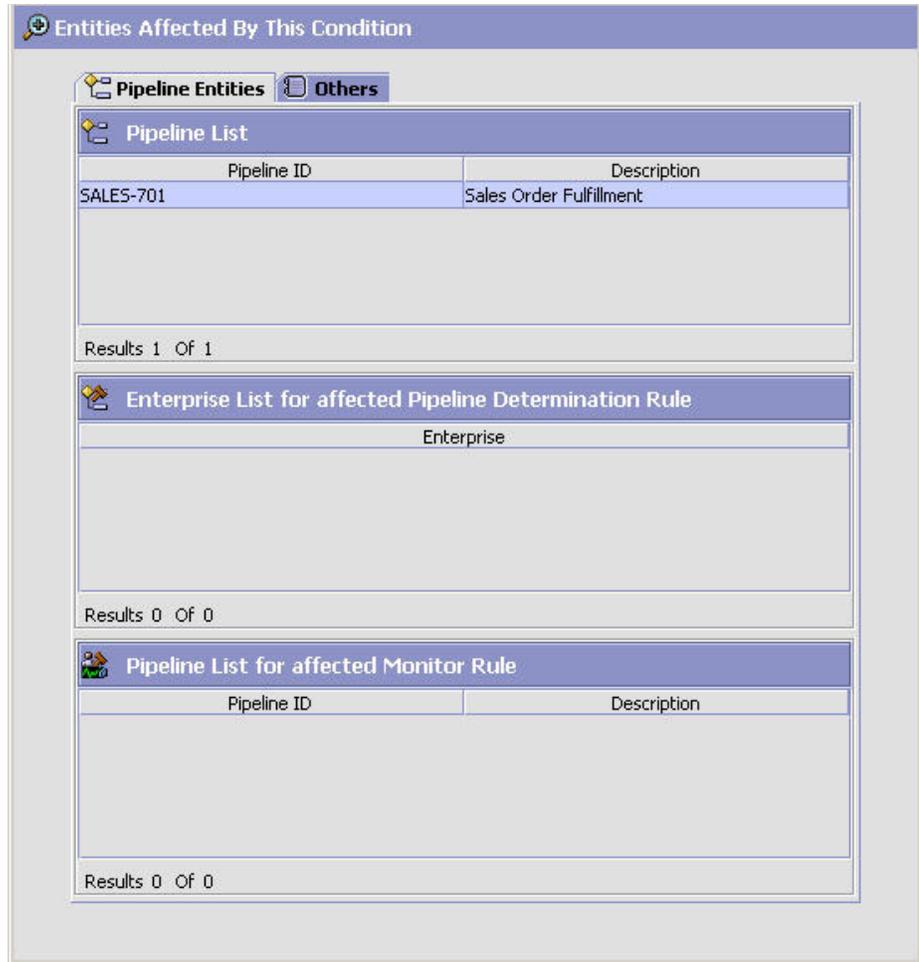
## 条件の影響を受けるすべてのエンティティの表示 このタスクについて

特定の条件に影響を受けるすべてのイベント、パイプライン、およびステータス・ルールを表示できます。変更による影響を確認できるため、条件を変更する必要があるときに役立ちます。

条件に影響を受けるエンティティを表示するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「条件」タブを選択します。
4. 「条件」ブランチを展開します。
5. 該当する条件グループ・ブランチを展開します。
6. 該当する条件を選択して、 を選択します。作業領域に、「条件の詳細」ウィンドウが表示されます。
7.  を選択します。「この条件の影響を受けるエンティティ (Entities Affected by this Condition)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。「パイプラインのエンティティ」タブでは、この条件に影響を受けるパイプライン、この条件を含む決定ルールに影響を受けるエンタープライズ、およびこの条件を含むモニター・ルールに影響を受けるパイプラインのリストが提供されます。「その他 (Others)」タブでは、この条件に影響を受けるすべてのイベント、ステータス、およびサービスについて詳しく述べられています。



## アクションの定義

アクションは、イベントにより起動されるプロセスまたはプログラムです。これらのプロセスおよびプログラムは、警告通知を送信し、データを発行し、カスタム・サービスを開始します。

例えば、オーダーがリリースされると (イベント)、顧客に E メールを送信するアクションを設定できます。

## アクションの作成

### このタスクについて

アクションを作成するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。

3. 「アクション」タブを選択します。
4. 「アクション」ブランチを展開します。
5.  を選択します。「アクションの詳細」ウィンドウが表示されます。
6. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、201 ページの表 53 を参照してください。
7.  を選択します。

注: 工場出荷時のアクションとカスタム定義アクションの競合を防ぐため、定義するアクションのすべてに接頭辞「EXTN\_」を含めることを推奨します。

**Action Detail: New ( Order Fulfillment )**

Action Code: OrderAlerts  
 Action Name: Order Alerts  
 Action Group: Templates

**Invoked Services** | Others

Send To Alert Console Queue Name: DEFAULT  
 User Name: Administrator  
 Template:  
 List Template:

Send E-Mail Template:  
 Call Java Extension Class Name:  
 Execute Program:  
 Call DB Extension Stored Procedure:  
 Call HTTP Extension URL:  
 Send Fax Template:  
 Call COM Extension Prog ID:

Publish Data

System ID  
 System ID

表 53. 「アクションの詳細」ウィンドウ

フィールド	説明
アクション・コード	アクション・コードを入力します。
アクション名	アクションの名前を入力します。
アクション・グループ	必要に応じて、アクション・グループの名前を入力します。同じグループに属するアクションは、プロセス・モデリング・ツリーの「アクション」タブでまとめて表示されます。
呼び出されたサービス	
このアクションの一部として次のサービスを起動する	<p>構成されたサービスをこのアクションによって起動する場合、これを選択します。</p> <p><b>注:</b> MQ Series のキューにメッセージを挿入するサービスを起動するアクションを構成する場合、システム管理者が以下の .jar ファイルを、お使いのアプリケーション・サーバー (Oracle WebLogic、IBM WebSphere、または JBoss) の CLASSPATH 環境変数に含めていることを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• \$MQSERIES_HOME/lib/fscontext.jar</li> <li>• \$MQSERIES_HOME/lib/providerutil.jar</li> <li>• \$MQSERIES_HOME/lib/jndi.jar</li> <li>• \$MQSERIES_HOME/lib/com.ibm.mq.jar</li> <li>• \$MQSERIES_HOME/lib/com.ibm.mqbind.jar</li> <li>• \$MQSERIES_HOME/lib/com.ibm.mqjms.jar</li> <li>• \$MQSERIES_HOME/lib/jms.jar</li> </ul>
起動したサービスのリスト	このアクションが起動するサービスのリスト。「このアクションの一部として次のサービスを起動する」をチェックした場合、  を選択してサービスを追加できます。サービスを削除するには、該当するサービスを選択して  を選択します。
サービス名	サービスの名前。
サービス・グループ名	サービスが属するサービス・グループの名前。
その他 (Others)	<b>重要:</b> このタブのすべての情報は、「サービス定義」フレームワークでも構成できます。このタブの情報は、下位互換性の目的でのみ提供されます。バージョン 5.0 以降では、これらはサービスとして構成できます。
警告コンソールに送信	特定のユーザーに警告通知を送信する場合、このチェック・ボックスを選択します。
キュー名	警告の送信先となるキューの名前を入力します。
ユーザー名	警告通知を受信するユーザーの名前を選択します。

表 53. 「アクションの詳細」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
テンプレート	<p>警告コンソールのテンプレートを入力します。拡張子が ECT または XSL の任意の名前にすることができます。</p> <p>テンプレートが EAR ファイルの中にある場合</p> <p>アクションで指定する「テンプレート」フィールドの値は、EAR の中で作成されたテンプレート・ファイルのパスと同じである必要があります。このパスは、EAR のルートからの相対パスにする必要があります。</p> <p>テンプレートが EAR ファイルの外部にある場合</p> <p>アクションで指定する「テンプレート」フィールドの値は、アプリケーション・サーバーの始動スクリプトで規定された CLASSPATH で与えられるパスに対して相対的なファイル・パスにすることができます。</p>
E メール送信	<p>E メール・メッセージを送信する場合、このチェック・ボックスを選択します。「テンプレート」フィールドにテンプレート名を入力します。</p> <p><b>注:</b> このアクションをアクティブ化する前に、E メール・サーバーを構成する必要があります。</p>
テンプレート	<p>E メール・テンプレートの名前を入力します。拡張子が MLT (発行するデータがマップの場合) または XSL (発行するデータが XML の場合) の任意の名前にすることができます。</p> <p>テンプレートが EAR ファイルの中にある場合</p> <p>アクションで指定する「テンプレート」フィールドの値は、EAR の中で作成されたテンプレート・ファイルのパスと同じである必要があります。このパスは、EAR のルートからの相対パスにする必要があります。</p> <p>テンプレートが EAR ファイルの外部にある場合</p> <p>アクションで指定する「テンプレート」フィールドの値は、アプリケーション・サーバーの始動スクリプトで規定された CLASSPATH で与えられるパスに対して相対的なファイル・パスにすることができます。</p>
Java 拡張機能の呼び出し	<p>特定の Java コンポーネントを呼び出す場合、このフィールドを選択します。</p>
クラス名	<p>Java クラス名を入力します。</p>
実行	<p>特定の実行可能ファイルを呼び出す場合、このフィールドを選択します。</p>
プログラム	<p>プログラム (実行可能ファイル) の名前を入力します。実行可能ファイルがシステムの PATH に含まれていることを確認してください。</p>
DB 拡張機能の呼び出し	<p>特定のストアード・プロシージャを呼び出す場合、このフィールドを選択します。</p>

表 53. 「アクションの詳細」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
ストアード・プロシージャ	ストアード・プロシージャの名前を入力します。
HTTP 拡張機能の呼び出し	特定の URL を呼び出す場合、このフィールドを選択します。
URL	HTTP 拡張機能で呼び出す URL を入力します。
Fax の送信	このフィールドはサポートされなくなりました。
テンプレート	このフィールドはサポートされなくなりました。
COM 拡張機能の呼び出し	このフィールドはサポートされなくなりました。
プログラム ID	このフィールドはサポートされなくなりました。
データの発行	外部システムにデータを発行する場合、このフィールドを選択します。
システム ID	<p> を選択し、「システム ID」ポップアップ・ウィンドウでシステム ID を入力します。</p> <p>既存のシステム ID を削除する場合、削除するシステム ID を選択して  を選択します。</p> <p>注: システム ID は 20 文字以下にする必要があります。</p>

注: このノードまたは組織の主要エンタープライズにリンクされたアクションのみが、ドロップダウンで選択可能です。この画面の作成ボタンを使用して作成されたアクションはすべて、ユーザーの組織の主要エンタープライズにリンクされるため、作成しているノードや組織では選択できない場合があります。エンタープライズが複数ある場合、最初に、アクションが適切なエンタープライズに対して作成されていることを確認してください (そのエンタープライズのユーザーとしてログインしている場合)。エンタープライズ・ユーザーまたはハブ・ユーザーとしてログインしている場合、後でノードをアクションにマッピングできません。

## アクションの変更 このタスクについて

アクションを変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「アクション」タブを選択します。
4. 「アクション」ブランチを展開します。
5. 該当するアクション・グループ・ブランチを展開します。

6. 該当するアクションを選択して、 を選択します。「アクションの詳細」ウィンドウが表示されます。
7. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、201ページの表 53 を参照してください。
8.  を選択します。

## アクションの削除 このタスクについて

アクションを削除するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「アクション」タブを選択します。
4. 「アクション」ブランチを展開します。
5. 該当するアクション・グループ・ブランチを展開します。
6. 該当するアクションを選択して、 を選択します。

## サービス定義の定義

サービス定義とは、ドキュメント・ワークフロー・サービスを制御するロジックの表現のことです。サービス・ビルダーは、以下のシチュエーションにおいて、それらのサービスのグラフィカル表現を作成できるグラフィカル・インターフェースです。

- 一般には Sterling Selling and Fulfillment Foundation と外部アプリケーションとの間のデータのトランスポート。
- ある形式から別の形式へのデータの変換。
- イベントを出したときのアプリケーション・ロジックの拡張。

サービスは、以下のメカニズムを使用してアクセスできます。

- executeFlow() API
- ユーザー・インターフェースからアクセスするためのリソース構成
- サービスを起動するためにアクションの関連付けが可能
- 該当するユーザーへの通知警告を出すサービスの起動に、ユーザー・トリガー・トランザクションの使用が可能
- ドキュメント・ルーター
- モニター

## サービス・ノード

サービス・ノードには、サービス定義の構築に使用できるロジックが含まれます。

以下のサービス・ノードは、サービス・パレットから使用できます。

- 転送ノード
- コンポーネント・ノード
- アダプター・ノード
- コネクター・ノード

コネクター・ノードは、右クリック・メニューからのみ使用できます。

## 転送ノード

転送ノードは、メッセージを転送し、Sterling Selling and Fulfillment Foundation が外部システムと通信できるようにします。トランスポート (およびサービス全体) は、以下のカテゴリに分類できます。

- 同期 - 即時にメッセージを転送
- 非同期 - メッセージを保管して転送

必要に応じて、いずれかのタイプを使用できます。続くいくつかのセクションでは、同期および非同期転送タイプをリストしています。

転送ノードは、パレットから作業領域にドラッグすることで追加できます。

同期サービスは、メッセージを即時に転送します。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、以下の同期転送タイプをサポートします。

- COM
- Enterprise Java Bean (EJB)
- Hypertext Transfer Protocol (HTTP)
- Web サービス
- 同期 MQSeries メッセージ・キュー
- 同期 Oracle WebLogic メッセージ・キュー

非同期サービスは、メッセージを保管して転送します。これはメッセージをデータベースまたはキューイング・メカニズムでキューに入れます。これにより、例外があれば後から再処理できます。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、以下の非同期転送タイプをサポートします。

- 非同期 MQ JMS キュー
- 非同期 Oracle WebLogic JMS キュー
- データベース
- ファイル入出力
- FTP
- 一般 JMS
- MSMQ

各転送タイプには、以下の差出人と受取人の面があります。

- 受信側 - 転送ノードから情報を受け取る方法を定義します。
- 送信側 - 情報を転送ノードに送信する方法を定義します。

トランスポートが送信側または受信側のどちらであるかは、ロジックの流れの向きの接続方法に応じて異なります。

選択可能な転送ノードの完全なリストおよびそのパラメーターの詳細については、619 ページの『第 24 章 転送ノード』を参照してください。

## コンポーネント・ノード

コンポーネント・ノードはデータをフォーマットまたは変換します。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、以下のコンポーネントをサポートします。

- 警告
- API
- E メール
- 複合サービス
- 条件
- 命名実行時
- ルーター
- テキスト・トランスレーター (テキスト・トランスレーター・ファイル構成の詳細情報については、705 ページの『第 25 章 テキスト・トランスレーター参照』を参照してください。)
- XSL トランスレーター

コンポーネント・ノードは、パレットから作業領域にドラッグすることで追加できます。

選択可能なコンポーネント・ノードの完全なリストおよびそのパラメーターの詳細については、619 ページの『第 24 章 転送ノード』を参照してください。

## アダプター・ノード

アダプター・ノードでは、 Sterling Selling and Fulfillment Foundation アダプターを外部システムで実装できます。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は Sterling GISIBM Sterling B2B Integrator をサポートします。

## コネクタ・ノード

コネクタ・ノードでは、ロジックを追加せずにノードを相互にリンクできます。これによりサービスを実行できるようになります。選択可能なコネクタ・ノードのタイプは、以下のとおりです。

- 開始ノード - すべてのサービスは開始ノードで開始する必要があります。開始ノードは、サービス定義フレームワーク・ロジックの実行開始場所を定義します。新規フローの作成時に、開始ノードは事前に配置されています。

- エンド・ノード - すべてのサービスはエンド・ノードで終了する必要があります。エンド・ノードは、サービス定義フレームワーク・ロジックの特定のフローの終了場所を定義します。新規フローの作成時に、エンド・ノードは事前に配置されています。
- 通過ノード - 通過ノードでは、同期コンポーネントと非同期コンポーネントとを相互に接続できます。

作業領域を右クリックし、上記のコネクター・ノード・タイプから選択することで、コネクター・ノードを追加できます。

## 完全なサービス・フローの条件

サービスを保存するには、以下の条件を満たす必要があります。

- 開始ノード - 必須。最大で 1 つ。
- 転送ノード - オプション。 0 または複数。
- コンポーネント・ノード - 必須。 1 つまたは複数。
- アダプター・ノード - オプション。 0 または複数。
- エンド・ノード - 必須。 1 つまたは複数。
- すべてのノードは相互に接続する必要があります。
- すべてのノードとリンクのすべての必須プロパティには、値の指定が必要です。

## サービスの作成

### このタスクについて

サービスを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「サービス定義」タブを選択して、現在のサービス定義ツリーの親ノードを選択します。
4. 「プロセス・タイプ・サービス (Process Type Services)」ノードを選択して、 を選択します。「新規サービス・プロパティの作成 (Create New Service Properties)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、208 ページの表 54 を参照してください。
6. 「OK」を選択します。「サービスの詳細」ウィンドウが表示されます。

注: 標準で用意されているサービスとカスタム定義したサービスの間の競合を避けるために、自身が定義したすべてのサービスには「EXTN\_」という接頭辞を付

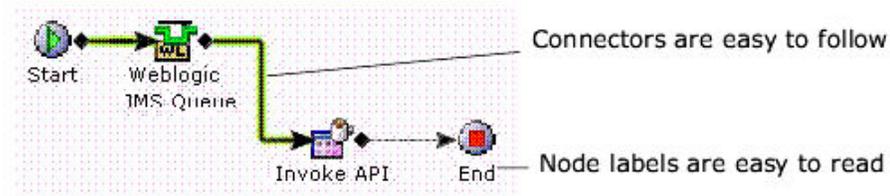
けることをお勧めします。

表 54. 「新規サービスの作成」ウィンドウ

プロパティ	説明
サービス名	サービスの名前を入力します。
サービス・グループ名	新しいサービスの分類先となるサービス・グループを入力します。  サービスが含まれているサービス・グループを削除することはできません。グループ内のすべてのサービスを削除すると、そのグループのコンテナは自動的に削除されます。
このサービスはリアルタイムの応答を提供します	サービスが呼び出された時点で呼び出し元に応答を返す場合は、このオプションを選択します。このオプションを使用できるのは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内からまたは外部からなのかにかかわらず、同期的に呼び出されるサービスに対してのみです。 <b>注:</b> このプロパティを選択した場合は、非同期トランスポートをそのサービスに追加することはできません。
印刷サービス	ラベルを印刷するには、このサービスを選択します。
データ・ロード・サービス	データをロードするには、このサービスを選択します。
このサービスは外部システムによって、または Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内から呼び出されます	
非同期モード	このサービスが開始時に非同期トランスポート・ソースからメッセージを取得する必要がある場合は、このオプションを選択します。  このサービスはキューまたはデータベースから開始されます。このサービスの定義では、メッセージがキューやデータベースなどの非同期ソースに着信する方法が詳述されている必要はありません。  このオプションを選択した場合は、開始ノードの後の最初のノードは、非同期転送ノードである必要があります。
同期モード	このサービスが Sterling Selling and Fulfillment Foundation からまたは API を通じて同期的に呼び出される場合は、このオプションを選択します。

## サービス定義ノードのリンク: このタスクについて

ノード同士をリンクする前に、作業領域でロジックが左から右へ、上から下に流れるようにノードのレイアウトを行います。ソース・ノードからのリンクが下側または右側になり、それがターゲット・ノードの上側または左側につながるようにノードを置きます。以下の例を参照してください。



ノード同士をリンクするには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 最初のノードで、右側の小さい黒のダイヤモンドをクリックします。
2. リンクを次のノードにドラッグします。

### タスクの結果

ノードをリンクする際にどのオーダーを使用するかは問題ではありませんが、ロジックが流れる先のオーダーでリンクを作成する方が理にかなっています。

**注:** トランスポート・リンクを削除すると、定義済みのすべてのプロパティーも削除されます。プロパティーを定義する前にノードをリンクすると、これを回避できます。

リンク不可能なノード同士をリンクしようとすると、ステータス・バーにこのタスクを完了できないことが示されます。

## ノードのプロパティーの定義: このタスクについて

個別のノード・プロパティーを構成できます。使用可能なサービス・ノードとそれらのプロパティーの全リストについては、619ページの『第24章 転送ノード』を参照してください。

ノードのプロパティーを構成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。

3. 「サービス」タブを選択して、現在のサービス定義ツリーの親ノードを選択します。
4. 「プロセス・タイプ・サービス (Process Type Services)」ノードを選択します。
5. 該当するサービスを探して選択して、 を選択します。「サービスの詳細」ウィンドウが表示されます。
6. 作業領域で、該当するノードを選択します。そのプロパティ・パネルが下部フレームに表示されます。
7. そのノードについて 619 ページの『第 24 章 転送ノード』で示されているとおりに、プロパティを編集します。

## サービスをドラフトとして保存

### このタスクについて

未完成のサービスをドラフトとして保存できます。このドラフトは、検証なしで、最終保存用に取り出すことができます。

サービスをドラフトとして保存するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「サービス」タブを選択して、現在のサービス定義ツリーの親ノードを選択します。
4. このセクションで説明されているルールに従い、サービスを構成します。
5.  を選択します。サービスがサービスのドラフトとして保存されます。
6. これを、完全および機能的なサービスとして保存する準備ができたなら、 を選択します。

注: サービスをドラフトとして保存すると、サービスの既存のドラフトは上書きされます。ドラフトを実際のサービスとして保存する場合は、既存のサービスが上書きされます。

## サービスを別のサービスとして保存

### このタスクについて

既存のサービスを別のサービスとして保存できます。

注: サブサービス名を持つサービスを別のサービスとして保存する場合、元のサブサービス名と区別するために、サブサービス名に数字が追加された形でコピーされます。例えば、サブサービス名 R1 を持つ Service1 という名前のサービスを、Service2 という名前の別のサービスとして保存した場合、元のサブサービス名は R1\_0 としてコピーされます。

サービスを別のサービスとして保存するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「プロセス・モデリング」ウィンドウで、「オーダー」、「集合・混載」、または「一般」タブを選択して、その基本伝票種別に対応するプロセス・モデリング・ツリーを表示します。
2. 「プロセス・タイプ」スイムレーンで、該当するプロセス・タイプを右クリックし、「モデル・プロセス」を選択します。対応するプロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
3. 「サービス」タブを選択して、現在のサービス定義ツリーの親ノードを選択します。
4. 新しいサービスとして保存する既存のサービスを選択します。
5.  を選択します。「サービスに名前を付けて保存」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
6. 「サービス名」に、新しいサービスの名前を入力します。
7.  を選択します。



---

## 第 5 章 ユーザー・セキュリティの構成

セキュリティは、ユーザーが所属している組織が提供するアクションやビューにアクセスできるようにセットアップする必要があります。ユーザーは、許可されている対象のみにアクセスを制限されます。

Applications Manager のセキュリティ管理は、ユーザー、ユーザー・グループ、およびチームの作成に使用されます。それらを作成してから、許可を割り当てることができます。

---

### ユーザーの定義

ユーザーとは、組織内で果たす役割に応じて、ハブ管理者や顧客サービス担当者などの特定のタスクが割り当てられた単一の個人です。各ユーザーは 1 つの組織と関連を持ちます。

### ユーザーの作成

#### このタスクについて

ユーザーを作成する手順は、次のとおりです。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「セキュリティ」>「ユーザー」を選択します。作業領域に、「ユーザー検索」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「ユーザーの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「主要情報」タブを選択します。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、214 ページの表 55 を参照してください。

表 55. 「ユーザーの詳細」ウィンドウ

フィールド	説明
ユーザー ID	ユーザーがシステムにアクセスするために使用するユーザー ID を入力します。
パスワード	ユーザーがシステムにアクセスするために使用するパスワードを入力します。
部門コード	ユーザーに関連付ける部門のコードを選択します。
ユーザー名	ユーザーの名前を入力します。
ロケール	ユーザーがいる場所のロケールを選択します。 <b>注:</b> 東部標準時のタイム・ゾーン向けに構成されているユーザーが、物理的に太平洋標準時のタイム・ゾーンにいるときにログインした場合は、東部標準時のタイム・ゾーンにいる場合と同じロケール固有情報が表示されます。
メニュー・グループ	ユーザーがアプリケーション・コンソールにログインしたときにそのユーザーに表示するメニュー・オプションを表すメニュー・グループを選択します。

表 55. 「ユーザーの詳細」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
テーマ	<p>ユーザーに表示する使用可能なテーマを入力します。このテーマによって、コンソールと Applications Manager のカラー・スキームをユーザーに表示する方法が決定されます。</p> <p>使用可能なテーマは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 地球</li> <li>• ヒスイ</li> <li>• サファイア</li> </ul> <p><b>注:</b> システムを拡張して、希望の数のテーマを追加できます。</p>
パスワード・ポリシー	<p>ユーザーに関連付けるパスワード・ポリシーを選択します。</p> <p>パスワード・ポリシーについては、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Password Policy Management</i>」を参照してください。</p>
チーム	<p>ユーザーを割り当てるチームを選択します。チームについては詳しくは、233 ページの『チームの定義』を参照してください。</p> <p><b>注:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• このリストには、ユーザーが属する組織について構成されているすべてのチーム、および親組織 (該当する場合) が表示されます。</li> <li>• この構成に加えた変更を有効にするには、データベース・キャッシュをクリアする必要があります。</li> </ul>
アクティブ	<p>ユーザーが組織内で現在アクティブな場合は、このチェック・ボックスを選択します。非アクティブなユーザーはログインできません。</p>
管理者	<p>ユーザーが人員管理者である場合は、このチェック・ボックスを選択します。</p>
最大顧客割り当て	<p>このユーザーに管理対象として割り当てることができる顧客の最大数を入力します。</p>
連絡先住所	<p>ユーザーの連絡先住所です。</p> <p>住所を入力する場合は、 を選択します。</p> <p>追加の連絡先情報を表示するには、「連絡先」タブを選択します。</p>
請求先住所	<p>ユーザーの請求先住所です。</p> <p>住所を入力する場合は、 を選択します。</p> <p>追加の連絡先情報を表示するには、「連絡先」タブを選択します。</p>
グループ登録	

表 55. 「ユーザーの詳細」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
購入可	使用可能なユーザー・グループのリストです。 ユーザーをユーザー・グループに登録するには、該当するユーザー・グループを選択して、  を選択します。
登録済み	ユーザーが登録されているユーザー・グループのリストです。 ユーザーをユーザー・グループから削除するには、該当するユーザー・グループを選択して、  を選択します。

5. ユーザーを警告キューに登録するには、またはユーザーを警告キューから削除するには、「キューへの登録」タブを選択します。
6. ユーザーを警告キューに登録するには、該当するキューを「使用可能 (Available)」から選択して、 を選択します。ユーザーをキューから削除するには、該当するキューを「登録済み」から選択して、 を選択します。
7.  を選択します。

## ユーザーの変更

### このタスクについて

ユーザーを変更する手順は、次のとおりです。

#### 手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「アプリケーション・プラットフォーム」を選択します。サイド・パネルに、「アプリケーション・プラットフォーム」ツリーが表示されます。
2. アプリケーション・プラットフォーム・ツリーで「セキュリティ」>「ユーザー」を選択します。作業領域に、「ユーザー検索」ウィンドウが表示されます。
3. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。ユーザーのリストが表示されます。
4. 該当するユーザーを選択して、 を選択します。
5. 該当するフィールドの情報を変更します。フィールドの値の説明については、214 ページの表 55 を参照してください。
6.  を選択します。

## ユーザーのプリンター・プリファレンスの設定

### このタスクについて

ユーザーのプリンター・プリファレンスでは、特定のユーザーに関連付けられたプリンターを構成します。このプリファレンスを使用して、ユーザーがドキュメントを印刷するとき使用するプリンターを決定します。

例えば、受入オフィスでは、すべてのユーザーをオフィス内にある HP LaserJet 5P に関連付けています。

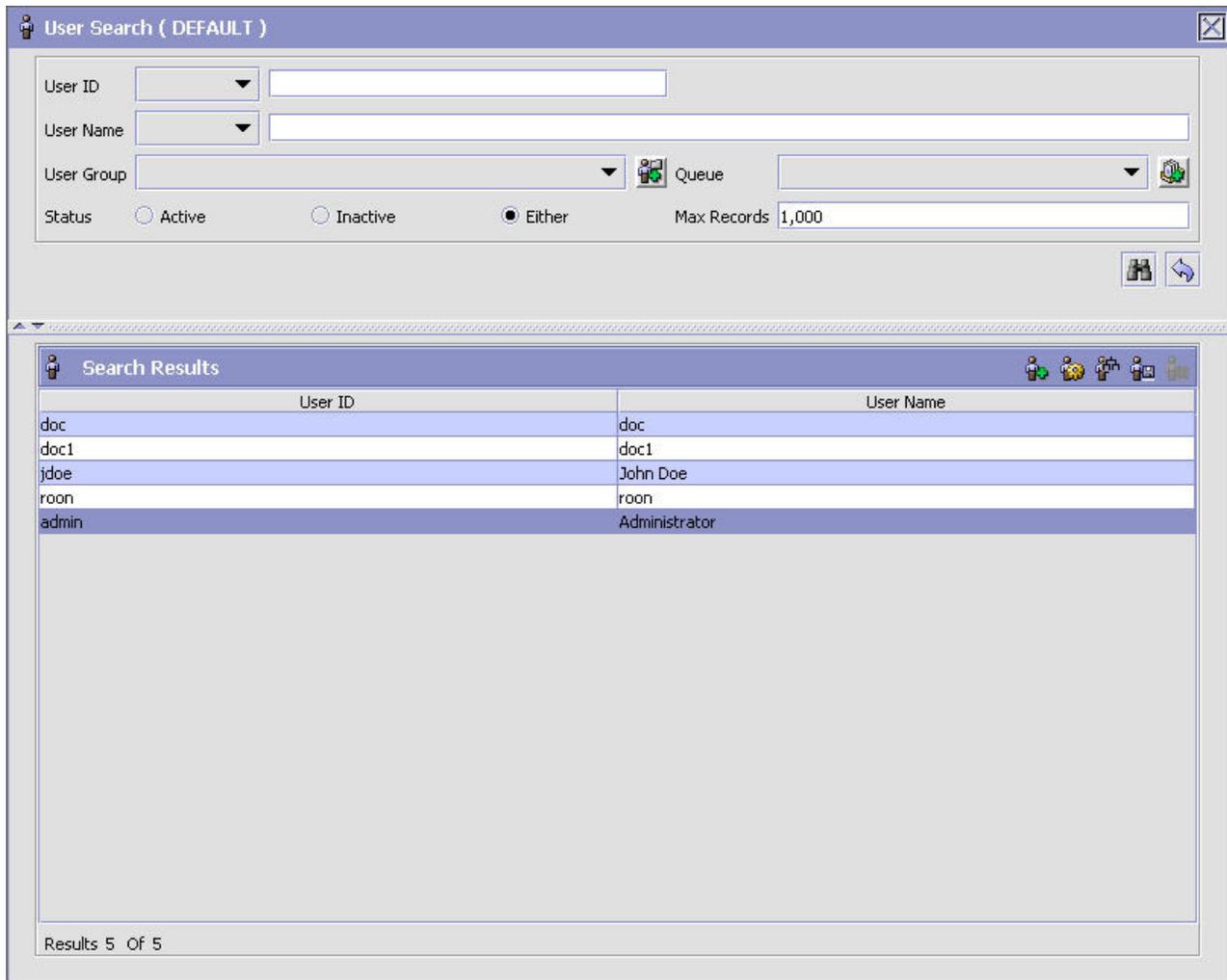
プリンターのステーションへの関連付けは、指定のユーザーのグループ・プリファレンスをオーバーライドします。ステーションとは、デバイスが直接ステーションに接続されている可能性がある、静的なロケーションのことです。

管理を容易にするため、ユーザーのプリンター・プリファレンスはグループ・レベルで構成することが推奨されます。

ユーザーのプリンター・プリファレンスを設定するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「アプリケーション・プラットフォーム」を選択します。サイド・パネルに、「アプリケーション・プラットフォーム」ツリーが表示されます。
2. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「セキュリティー」>「ユーザー」を選択します。「ユーザー検索」ウィンドウが表示されます。
3. 「ユーザー検索」ウィンドウで、該当する検索条件を入力します。
4.  を選択します。「ユーザー検索」ウィンドウの「検索結果」パネルにユーザーのリストが表示されます。



5. 「ユーザー検索」ウィンドウの「検索結果」パネルで、プリンター・プリファレンスを設定するユーザーを選択します。
6.  を選択します。「ユーザーの詳細」ウィンドウが表示されます。
7. 「ユーザーの詳細」ウィンドウで、「プリンター・プリファレンス」タブを選択します。「プリンター・プリファレンス」タブ・ウィンドウが表示されます。
8. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、219 ページの表 56 を参照してください。
9.  を選択します。

### タスクの結果

ユーザーの設定 (ユーザーの作成、変更、または削除) について詳しくは、213 ページの『ユーザーの定義』を参照してください。

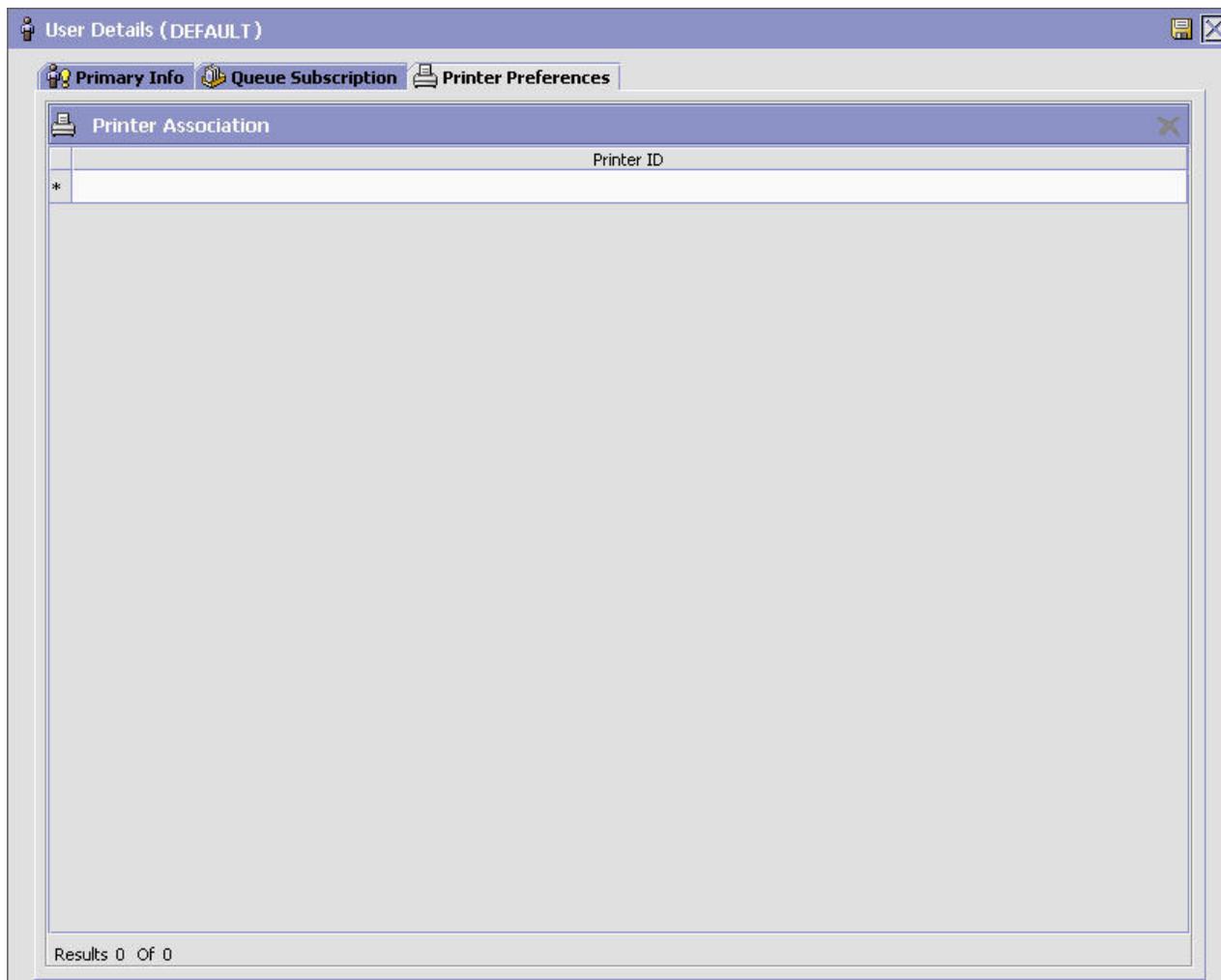


表 56. 「プリンター・プリファレンス」タブ・ウィンドウ

フィールド	説明
プリンターの関連付け	
プリンター ID	ドロップダウン・リストから、ユーザーに関連付けるプリンター ID を選択します。

## ユーザーの削除

### このタスクについて

ユーザーを削除するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「セキュリティー」 > 「ユーザー」を選択します。作業領域に、「ユーザー検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。ユーザーのリストが表示されます。

3. 該当するユーザーを選択して、 を選択します。

---

## ユーザー・グループの定義

ユーザー・グループは、類似するタスクを実行するユーザーの集まりです。例えば、顧客サービス担当者のグループは、顧客サービス担当者ユーザー・グループに属することがあります。ユーザーは、権限が割り当てられている複数のユーザー・グループに属することができます。複数のユーザー・グループに属しているユーザーは、属しているグループによって定義された権限セットのうちもっとも制約の少ないものを保持します。例えば、ユーザーがアプリケーション・コンソールを使用することをユーザーを許可するユーザー・グループに属しており、そのユーザーがコンソールと Applications Manager のみへのアクセスをユーザーに許可するユーザー・グループにも属している場合、ユーザーはどちらのアプリケーションにもアクセスします。

各組織には固有のユーザー・グループがあります。ユーザー・グループには、ユーザーの作成対象である同じ組織のユーザーのみを含めることができます。ただしどの組織のユーザーでも含めることができる、ハブ組織により作成されたユーザー・グループの場合を除きます。

## ユーザー・グループの作成

### このタスクについて

ユーザー・グループを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルール・サイド・パネルのツリーから、「セキュリティ」>「グループ」を選択します。作業領域に、「グループ」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「グループの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、221ページの表 57 を参照してください。
4.  を選択します。

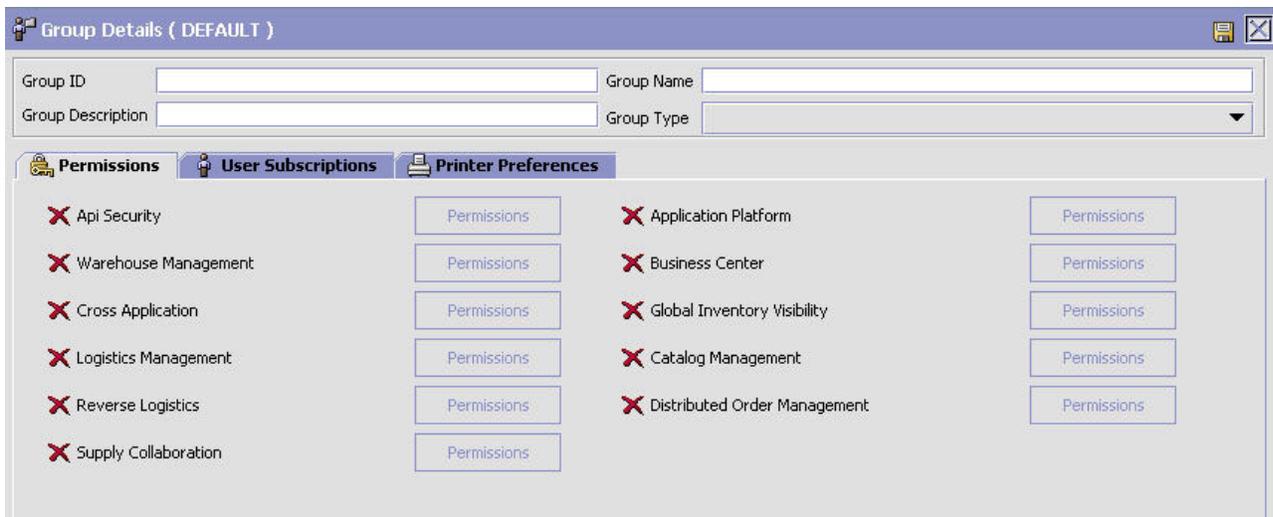


表 57. 「グループの詳細」ウィンドウ

フィールド	説明
グループ ID	ユーザー・グループの ID を入力します。
「グループ名」	ユーザー・グループの名前を入力します。
グループの説明	ユーザー・グループの説明を入力します。
グループ・タイプ	ドリップダウン・リストから、ユーザー・グループに関連付けるグループ・タイプを選択します。次のいずれかを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>内部 - このユーザー・グループに属するユーザーが内部ユーザーであることを指定します。</li> <li>外部 - このユーザー・グループに属するユーザーが Web チャンネル・ユーザーであることを指定します。</li> </ul>

## ユーザー・グループの変更

### このタスクについて

ユーザー・グループを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「セキュリティー」 > 「グループ」を選択します。作業領域に、「グループ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するユーザー・グループを選択して、 を選択します。「グループの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 該当するフィールドの情報を変更します。フィールドの値の説明については、表 57 を参照してください。
4.  を選択します。

## ユーザー・グループ・アクセス権の管理

### このタスクについて

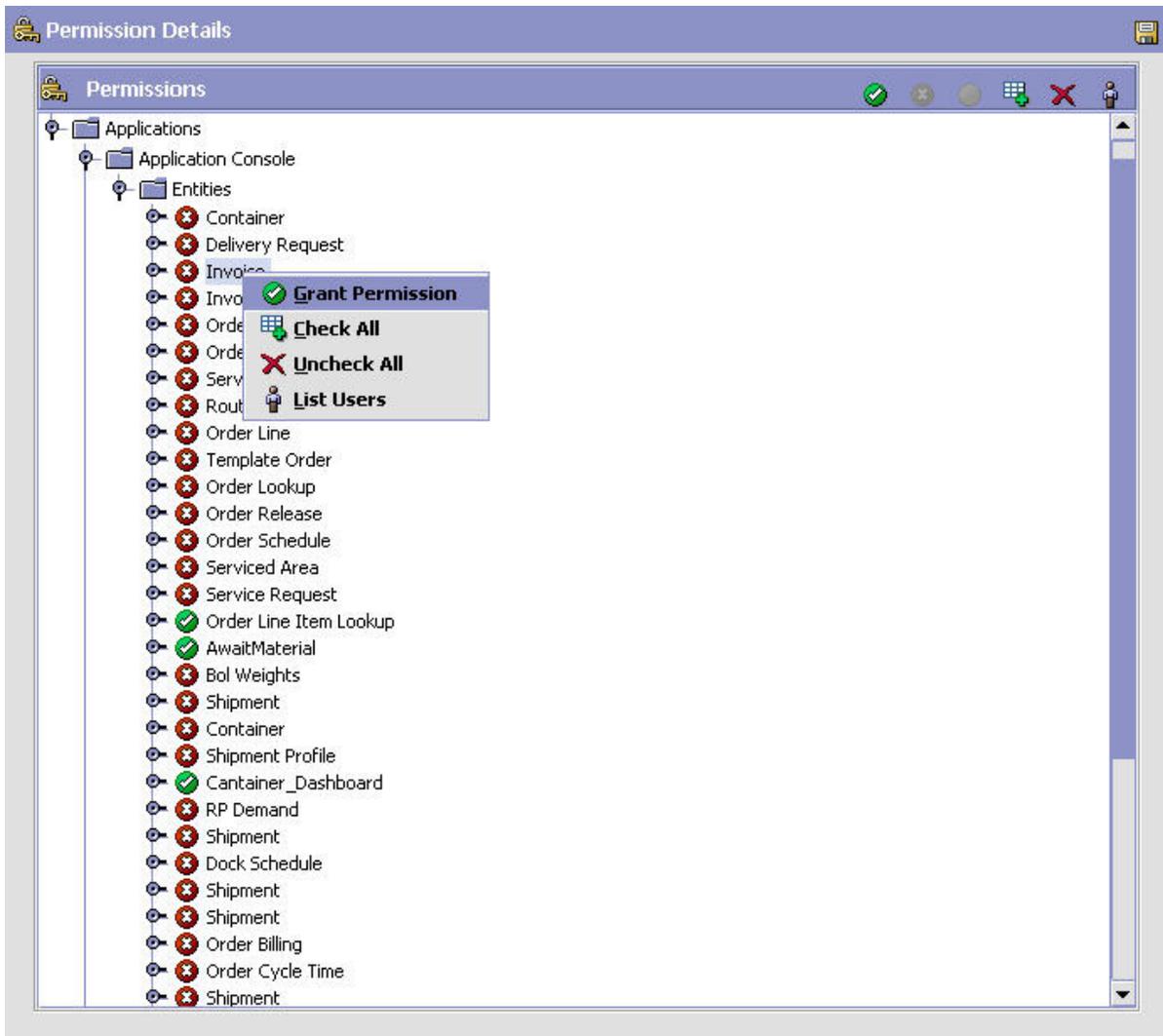
ユーザー・グループの持つアクセス権を、コンソールおよび Applications Manager アプリケーション全体で管理できます。アクセス権は、すべてのモジュール、画面ごと、また機能ごとをベースに許可または禁止にすることができます。このアクセス権は、ユーザー・グループ内のすべてのユーザーに適用されます。

**注:** アクセス権を管理するユーザーは、そのユーザーが管理する権限のあるアクションおよび表示に対するアクセス権のみ管理できます。したがって、各組織には、自身の組織のアクセス権を管理する 1 人のユーザーを設けることをお勧めします。

ユーザー・グループのアクセス権をセットアップするには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「グループの詳細」ウィンドウから、「アクセス権」タブを選択します。
2. アクセス権の追加および取り消しまたはそのいずれかを行うモジュールを探し、「アクセス権」ボタンを選択します。対応するモジュールのアクセス権ツリーが表示されます。



3. すべてのモジュールに対してアクセス権を許可する場合、アクセス権を許可するモジュールを強調表示し、「すべて付与 (Grant All)」アイコンを選択します。すべてのモジュールに対してアクセス権を禁止するには、モジュールを強調表示して、「すべて取り消し (Revoke All)」アイコンを選択します。

また、エンティティにアクセスするアクセス権があるユーザーのリスト表示を、右クリックして  を選択することで行えます。

**注:** 特定のユーザー・グループの特定のメニューに対するアクセス権を取り消す場合、アクセス権を取り消すメニュー・オプションの下で選択可能な画面のすべてのアクセス権を取り消す必要があります。例えば、System Management Console およびそれに関連するすべての画面と機能のチェック・マークを外すと、ユーザーにはアプリケーション・コンソールで System Management Console メニュー・オプションが表示されません。

4. アクセス権を画面ごと、または機能ごとをベースに許可する場合、アクセス権を許可するアプリケーションを展開し、許可する画面を強調表示してから、「付与」アイコンを選択します。画面ごと、または機能ごとをベースにアクセス権を禁止にする場合、画面を強調表示して、「取り消し」アイコンを選択します。

注: アクセス権ツリーにより、新規価格設定機能および旧価格設定機能に対して「価格設定」画面および機能が表示されます。新規価格設定機能を使用している場合、アクセス権を新規価格設定機能に割り当てる必要があります。旧価格設定機能を使用している場合、アクセス権を旧価格設定機能に割り当てる必要があります。新旧の価格設定機能の使用可能化について詳しくは、256 ページの『システム管理のコンポーネント: インストール・ルールの定義』を参照してください。

5. アプリケーション・コンソール・にアクセスするグループに対してアクセス権を構成する場合、「アプリケーション共通アクセス権 (Cross Application Permission)」ボタンを選択し、「アプリケーション (Application)」>「Sterling Selling and Fulfillment Foundation Console」>「オーバーライド」ブランチと展開し、必要に応じて以下のアクセス権のいずれかを使用可能にします。
  - 主要支払属性復号表示アクセス権は、機密支払情報 (クレジット・カード名、クレジット・カード有効期限、顧客口座番号、または主要支払参照など) をアプリケーション・コンソール内で表示するかマスクするかどうかを決定します。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation が主要支払属性を暗号化するように構成されており、主要支払属性復号表示アクセス権が付与されている場合、アプリケーション・コンソールでは、`getDecryptedString` API を呼び出して暗号化解除を行い機密支払情報を表示するかどうかを決定します。

主要支払属性に関するデータベース暗号化の使用可能化について詳しくは、256 ページの『システム管理のコンポーネント: インストール・ルールの定義』を参照してください。

注: クレジット・カード番号とストアード・バリュー・カード番号の暗号化および復号は、推奨されません。IBM は、クレジット・カード番号およびストアード・バリュー・カード番号は暗号化しないことをお勧めします。その代わりに、いずれのカード番号もトークン化して外部のポールト・システムに安全に保管する必要があります。結果として、クレジット・カード番号およびストアード・バリュー・カード番号がアプリケーション・コンソールに表示されることはありません。

- (参照) を構成したステータス変更ルールに基づいて、通常は許可されないドキュメントに対する変更をアプリケーション・コンソールでできるように権限を付与するには、変更ルールのオーバーライド権限を付与します。例えば、通常のユーザーがリリース済み販売オーダーの指示を変更することは許可できません。ただし、例外条件の際は、特定ユーザーが指示を追加できるようにすることが必要です。この権限が付与される場合、ユーザーは、オーダー・コンソールで適切な変更のオーバーライドを行うことができます。

注: このユーザー・グループのアクセス権を使用すると、特定フィールドの変更のみできることを示すために、Sterling Selling and Fulfillment Foundation コンソールでは、青の背景色を用いてこのフィールドが編集可能であることを示します。

- アプリケーション・コンソールで、スタック・トレースのエラー・メッセージを表示できるように権限付与するには、表示エラーの詳細の権限を付与します。

6. アクセス権を構成したら、 を選択します。

**注:** アプリケーション・コンソールにアクセスするグループのアクセス権を構成する場合、「アプリケーション共通アクセス権 (Cross Application Permission)」ボタンを選択し、「アプリケーション (Application)」>「Sterling Selling and Fulfillment Foundation Console」>「オーバーライド」プランチと展開します。このグループのユーザーが機密支払情報 (クレジットカード名、クレジットカード有効期限、顧客口座番号、または主要支払参照など) をアプリケーション・コンソールで参照できるようにする場合、「機密支払情報の表示」を選択します。このグループに対して構成したアクセス権が、構成済みの任意の変更ルールをオーバーライドするようにする場合、「変更ルールのオーバーライド」を選択します。それ以外の場合、このボックスにチェックしないでおけば、構成された変更ルールが必ず適用されます。

## 内部パネルを読み取り専用を設定

### このタスクについて

Sterling Selling and Fulfillment Foundationでは、内部パネルを読み取り専用に設定することができます。これにより、指定のユーザー・グループは、表示されているデータを変更または更新できません。内部パネルが読み取り専用としてマーク付けされると、ページ内のすべてのコントロールおよびその値が表示のみとなり、使用不可となります。

内部パネルを読み取り専用にするには、2つの方法があります。

- RESOURCE\_PERMISSION.xml ファイルで、リソースの読み取り専用属性を設定します。

ユーザーに対して内部パネルを読み取り専用に設定する必要がある場合は、ファクトリー設定の RESOURCE\_PERMISSION\_CONSOLE.xml ファイルを読み取り専用属性で更新します。

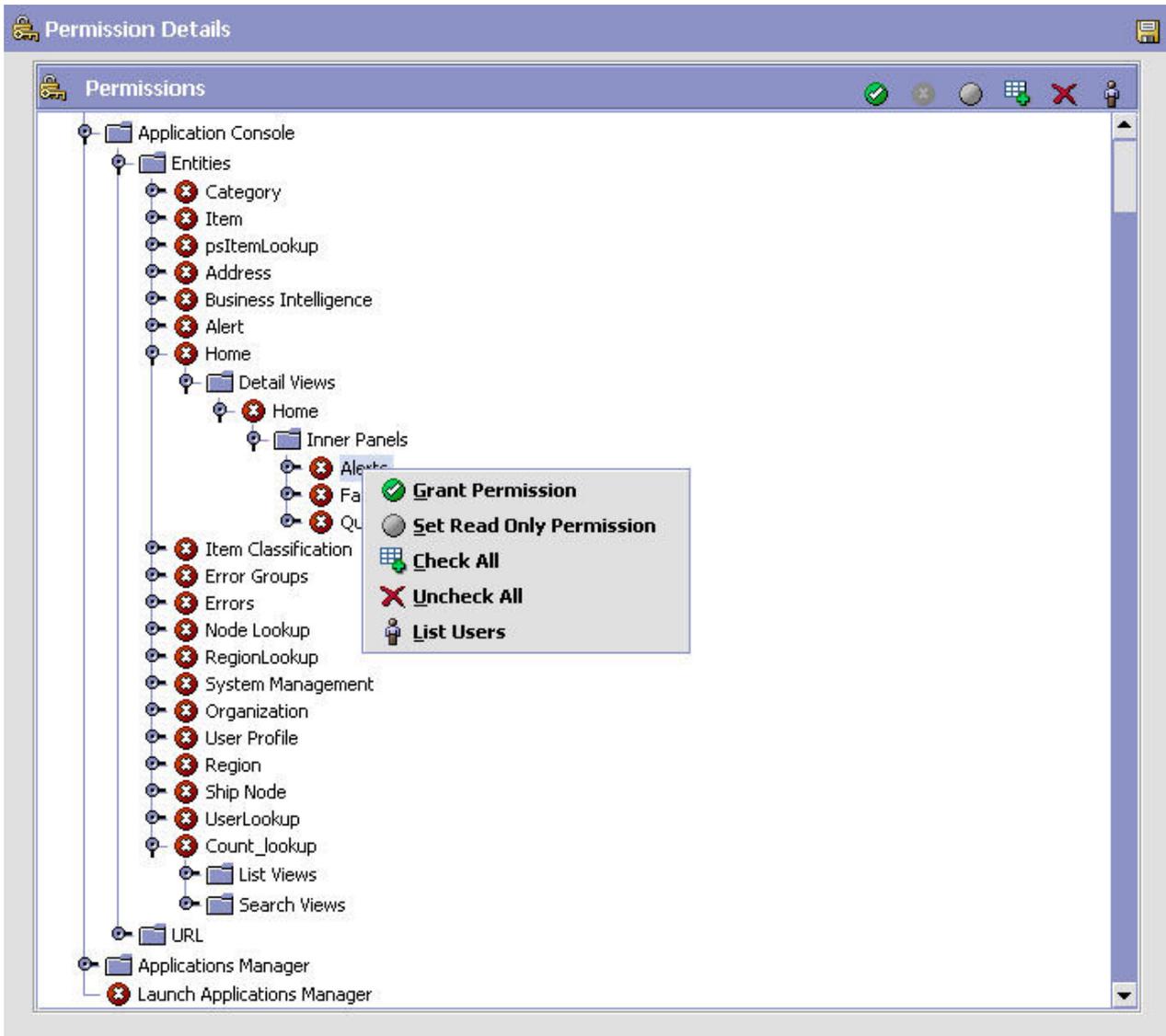
以下の例は、変更された RESOURCE\_PERMISSION.xml ファイルを示していません。

```
<ResourcePermission ActivateFlag="Y" Createprogid="SYSTEM"
Createuserid="SYSTEM" Modifyprogid="SYSTEM" Modifyuserid="SYSTEM"
ResourceKey="YEMS012" ResourcePermissionKey="SYS_YEMS012"
UsergroupKey="SYSTEM" READ-ONLY-FLAG="True"/>
```

この例では、データベース表の YFS-RESOURCE-PERMISSION が、ユーザー SYSTEM およびリソース YEMS012 に対して更新されます。

- Applications Manager を使用して、セキュリティー・アクセス権を適用し、内部パネルを読み取り専用としてマーク付けします。
  1. Applications Manager にログインします。「アプリケーション (Applications)」>「アプリケーション・プラットフォーム」>「セキュリティー」>「グループ」を選択します。
  2. グループを選択するか、新規グループを作成します。管理するアプリケーションの横の「アクセス権」をクリックします。

アプリケーションのすべてのエンティティはツリー形式で開きます。エンティティをダブルクリックすると、エンティティのビューおよび内部パネルを表示できます。



3. 選択した内部パネルを右クリックして、読み取り専用を設定または解除します。

## 相互運用性サブレットのアクセス権の設定

### このタスクについて

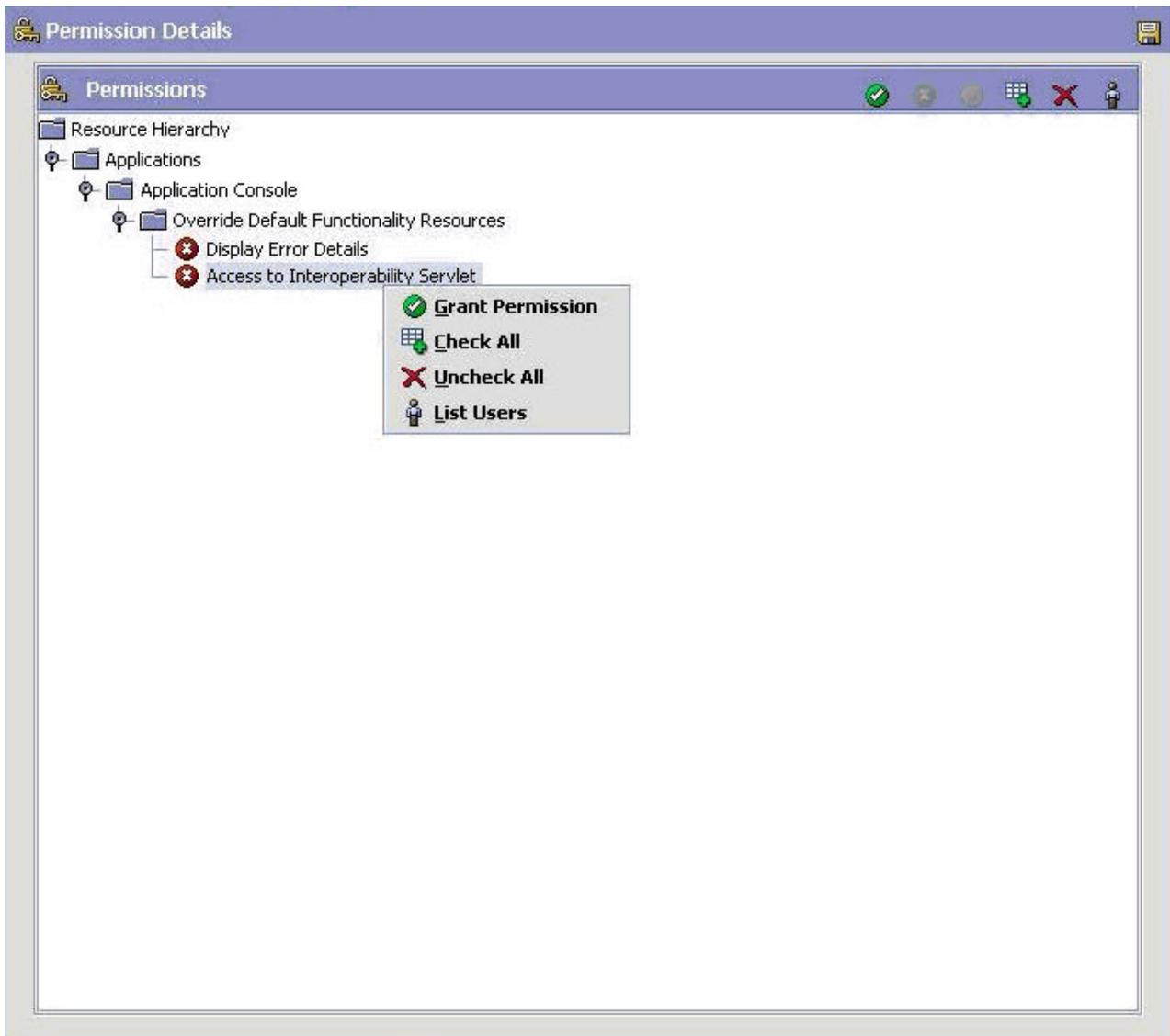
Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、相互運用性サブレットへのアクセス権を設定することができます。これにより、指定のユーザー・グループに相互運用性サブレットへのアクセス権を付与できます。

Applications Manager を使用して相互運用性サブレットへのセキュリティー・アクセス権を設定するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. Applications Manager にログインします。「アプリケーション (Applications)」 > 「アプリケーション・プラットフォーム」 > 「セキュリティー」 > 「グループ」 を選択します。
2. グループを選択するか、新規グループを作成します。管理するアプリケーションの横の「アクセス権」をクリックします。

アプリケーションのすべてのエンティティはツリー形式で開きます。エンティティをダブルクリックして、エンティティの要素に相互運用性サーブレットのアクセス権を設定できます。



3. 「相互運用性サーブレットへのアクセス権」して、アクセス権を付与します。

## API のアクセス権の設定

### このタスクについて

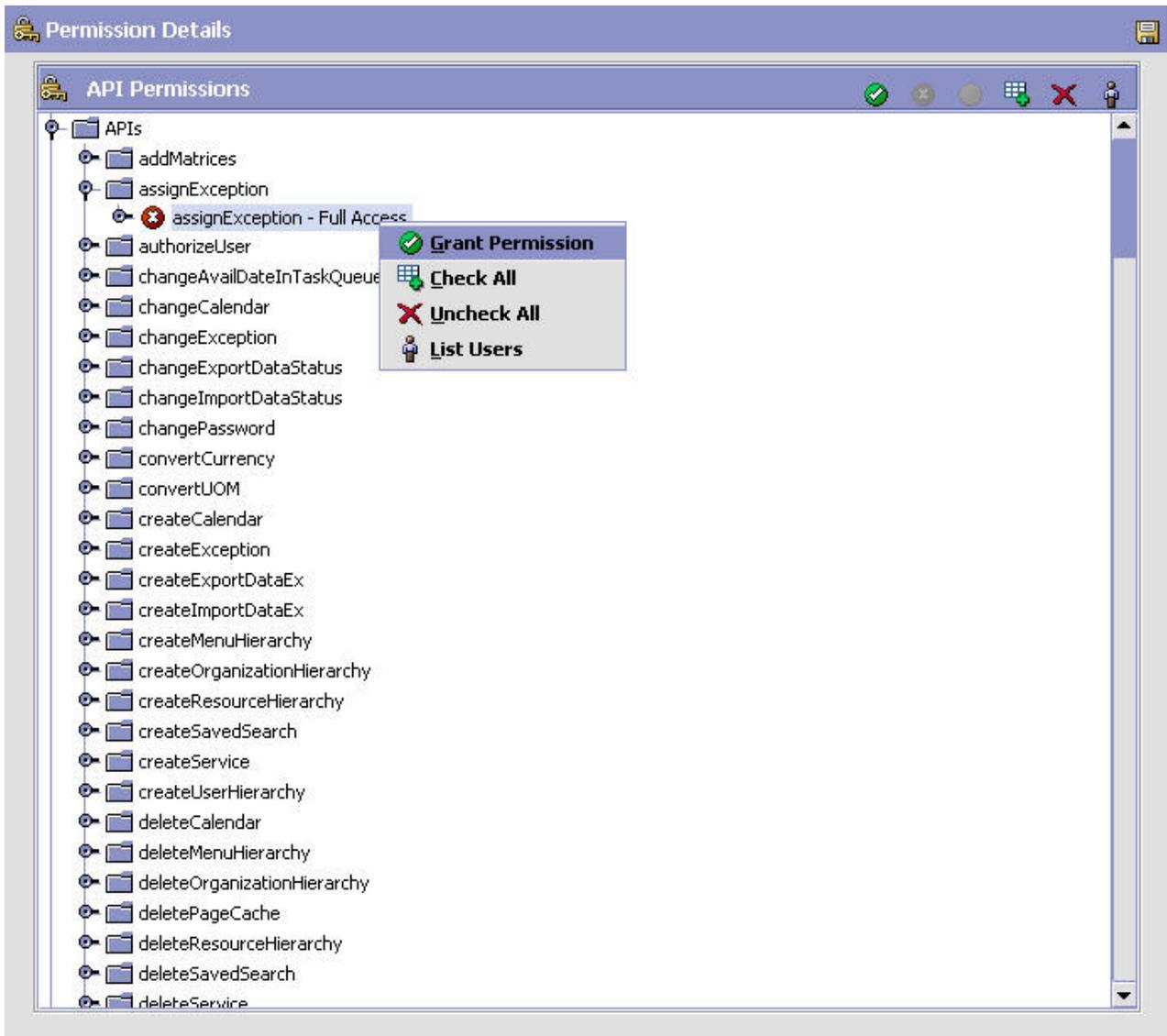
Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、承認確認用に API のアクセス権を設定することができます。API を呼び出すときにユーザーによりアクセス可能な対象を制御するために、API リソースへのアクセスを定義する必要があります。

Applications Manager を使用して API のセキュリティー・アクセス権を設定するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. Applications Manager にログインします。「アプリケーション (Applications)」 > 「アプリケーション・プラットフォーム」 > 「セキュリティー」 > 「グループ」 を選択します。
2. グループを選択するか、新規グループを作成します。API セキュリティーの横の「アクセス権」をクリックします。「API のアクセス権」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

API またはサービスのブランチをダブルクリックすることができます。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation のすべての API およびサービスはツリー形式で開きます。

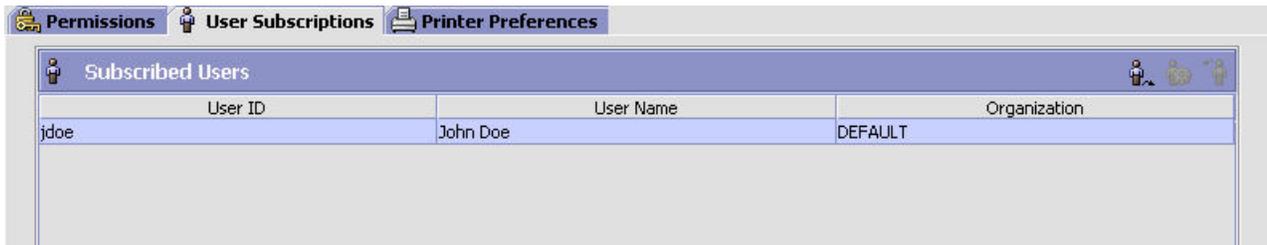


3. 個別の API またはサービスを右クリックして、アクセス権を付与します。
4. 「API のアクセス権」画面の右上で、 または  をクリックし、ユーザーに対するその API またはサービスのアクセス権の付与または取り消しを行います。デフォルトでは、すべての API またはサービスでのアクセス権が取り消されています。 をクリックして、API またはサービスのアクセス権を付与されたユーザーのリストを表示します。
5. アクセス権の付与および取り消しが完了したら、 をクリックしてアクセス権のレコードを保存します。

### ユーザー・グループに登録されているユーザーの表示 このタスクについて

ユーザー・グループに登録されているすべてのユーザーを表示できます。リストを表示するには、「グループの詳細」ウィンドウの「ユーザー登録」タブを選択しま

す。グループ登録に対してユーザーの追加または削除も可能です。



User ID	User Name	Organization
jdoe	John Doe	DEFAULT

## ユーザー・グループのプリンター・プリファレンスの設定 このタスクについて

ユーザーのプリンター・プリファレンスでは、ユーザー・グループに関連付けられたプリンターを構成します。このプリファレンスを使用して、ユーザーがドキュメントを印刷するときに使用するプリンターを決定します。

例えば、受入オフィスでは、すべてのユーザーをオフィス内にある HP LaserJet 5P に関連付けています。

プリンターのステーションへの関連付けは、指定のユーザーのグループ・プリファレンスをオーバーライドします。ステーションとは、デバイスが直接ステーションに接続されている可能性がある、静的なロケーションのことです。

管理を容易にするため、ユーザーのプリンター・プリファレンスはグループ・レベルで構成することが推奨されます。

### 手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「アプリケーション・プラットフォーム」を選択します。サイド・パネルに、「アプリケーション・プラットフォーム」ツリーが表示されます。
2. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「セキュリティ」>「グループ」を選択します。「グループ」ウィンドウにグループのリストが表示されます。

Group ID	Group Name	Organization Code
SYSTEM	SYSTEM	DEFAULT
admin	Administrator	DEFAULT

3. 「グループ」ウィンドウで、プリンター・プリファレンスを設定するグループを選択します。
4.  を選択します。「グループの詳細」ウィンドウが表示されます。
5. 「グループの詳細」ウィンドウで、「プリンター・プリファレンス」タブを選択します。「プリンター・プリファレンス」タブ・ウィンドウが表示されます。
6. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、232 ページの表 58 を参照してください。
7.  を選択します。

### タスクの結果

グループの設定 (グループの作成、変更、または削除) について詳しくは、220 ページの『ユーザー・グループの定義』を参照してください。

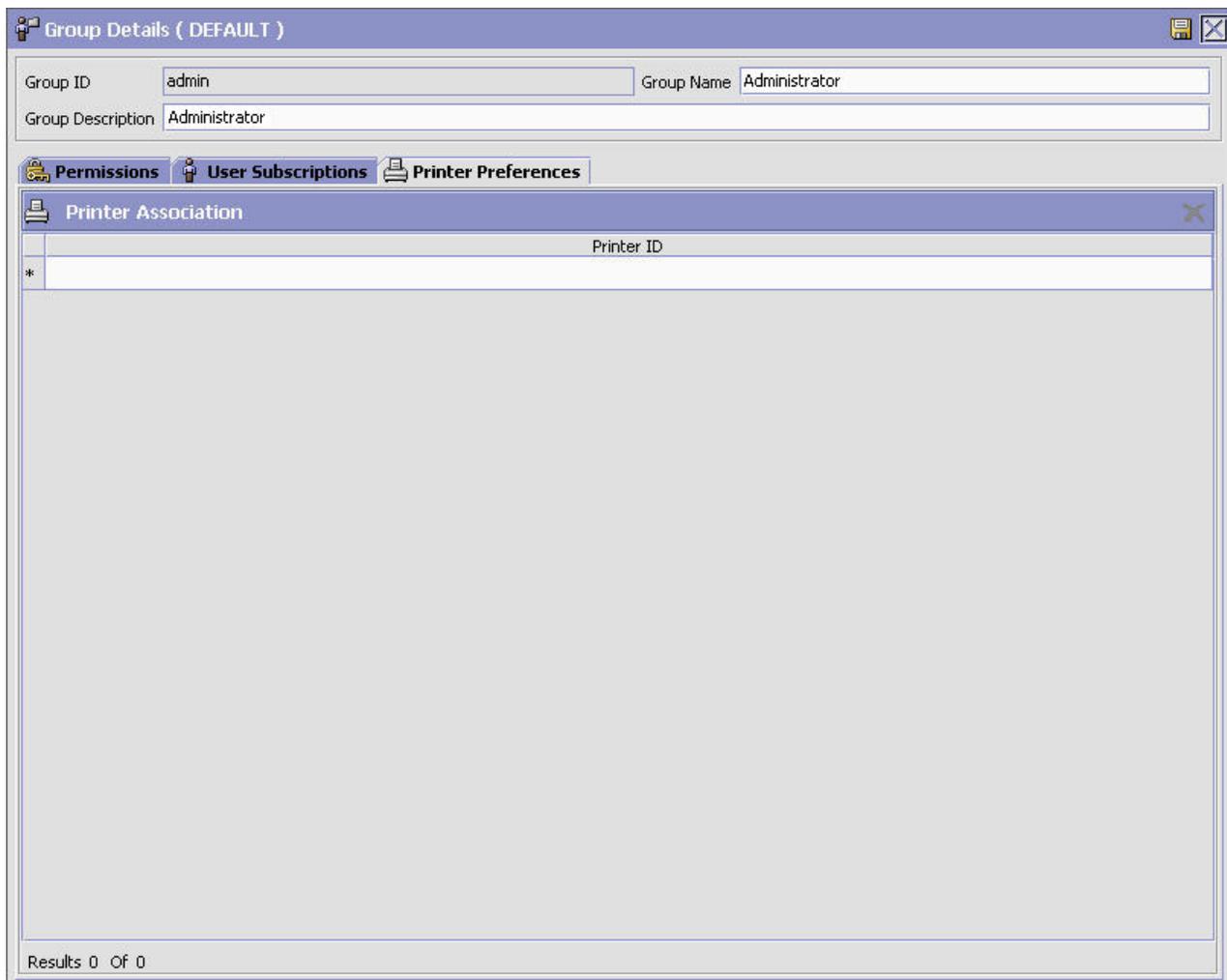


表 58. 「プリンター・プリファレンス」タブ・ウィンドウ

フィールド	説明
プリンターの関連付け	
プリンター ID	ドロップダウン・リストから、グループに関連付けるプリンター ID を選択します。

注: 梱包ステーションにあるプリンターは、梱包グループや個別の梱包者ではなく、ステーションに関連付けられています。このようにすることは、梱包ステーションが 1 つしかない倉庫の場合でも推奨されます。

## ユーザー・グループの削除 このタスクについて

ユーザー・グループを削除するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「セキュリティー」>「グループ」を選択します。作業領域に、「グループ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するユーザー・グループを選択して、 を選択します。

---

## チームの定義

チームは、共通のデータ・アクセス要件を持つユーザーの集合です。チームは、特定の伝票種別、エンタープライズ、出荷ノード、および顧客にアクセスできます。チームは特定の顧客に割り当てることができます。

注: チームに割り当てたエンタープライズとノードは、チームの所有者 (または作成者) 組織が属するのと同じコロニーに属している必要があります。

チームの作成は、オプションのプロセスです。ユーザーがチームに関連付けられていない場合、そのユーザーは、顧客オーダーおよび情報に対して最も制限度が低いアクセスまたはデフォルト・アクセスを持っていると見なされます。チームを定義することで、エンタープライズ、伝票種別、またはデフォルトのアクセス・リストのサブセットである参加出荷ノードへのアクセスをさらに制限できます。チームと、それらを Sterling Selling and Fulfillment Foundation でどのように使用できるかについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き*」を参照してください。

注: この構成に加えた変更を有効にするには、データベース・キャッシュをクリアする必要があります。

## チームの作成

### このタスクについて

チームを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「セキュリティー」>「チーム」を選択します。作業領域に、「チーム」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「チームの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、234ページの表 59 を参照してください。
4.  を選択します。

Team Details ( DEFAULT )

Team ID  Parent Team ID

Description

Enterprise Access Document Type Access Ship Node Access

Default Enterprise Access  Inherited Enterprise Access  Restrict Access To A Specific List Of Enterprises

表 59. 「チームの詳細」 ウィンドウ

フィールド	説明
チーム ID	チーム名を入力します。
親チーム ID	このチームの親チームの名前を選択します。このチームがマルチレベル階層チーム構造の一部である場合は、この名前は、この構造内の 1 つ上のレベルにあるチームの名前である必要があります。
説明	ユーザー・チームの簡単な説明を入力します。
エンタープライズ・アクセス	
デフォルトのエンタープライズ・アクセス	このチームに属するユーザーがデフォルトのエンタープライズ・アクセス・リストに含まれたエンタープライズしか表示できないように制限するには、「デフォルトのエンタープライズ・アクセス」を選択します。
継承されたエンタープライズ・アクセス	このチームに属するユーザーが、親チームのアクセス構成に基づいてエンタープライズを表示することのみ可能になるように制限するには、「継承されたエンタープライズ・アクセス」を選択します。
特定のリストに含まれるエンタープライズのみアクセスを制限する	<p>このチームに関連付けられたユーザーが表示できるエンタープライズのリストを作成するには、「特定のリストに含まれるエンタープライズのみアクセスを制限する」を選択します。</p> <p>「アクセス可能なエンタープライズ」テーブルから  を選択して、該当するエンタープライズを「組織の検索」ポップアップ・ウィンドウで検索します。  を選択して、エンタープライズを追加します。</p> <p>エンタープライズを「アクセス可能なエンタープライズ」リストから削除するには、  を選択します。</p> <p><b>注:</b> この制限されたリストには、このチームの構成対象である組織の主要エンタープライズが常に含まれています。</p>
伝票種別アクセス	
デフォルトの伝票種別アクセス	このチームがデフォルトのアクセス・リストに含まれた伝票種別しか表示できないように制限するには、「デフォルトの伝票種別アクセス」を選択します。デフォルトのアクセス・リストは、特定のビジネス・アプリケーションに関連付けられた伝票種別に基づいています。

表 59. 「チームの詳細」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
継承された伝票種別アクセス	このチームに属するユーザーが、親チームのアクセス構成に基づいて伝票種別を表示することのみ可能になるように制限するには、「継承された伝票種別アクセス」を選択します。
特定のリストに含まれる伝票種別のみアクセスを制限する	<p>このチームがアクセスできる伝票種別を具体的に指定するには、「特定のリストに含まれる伝票種別のみアクセスを制限する」を選択します。</p> <p>このオプションを選択した場合は、「アプリケーション (Applications)」から、アクセス権を設定する伝票種別が関連付けられたビジネス・アプリケーションを選択します。</p> <p>次に、「このアプリケーションのすべての伝票種別にアクセス」または「特定のリストに含まれる伝票種別のみアクセスを制限する」を選択します。後者を選択した場合は、「アクセス可能な伝票種別」テーブルが表示されて、選択したビジネス・アプリケーションで使用できるすべてのアクセス可能な伝票種別が表示されます。該当する伝票種別の「アクセス可能」チェック・ボックスを選択します。</p> <p><b>注:</b> 各ビジネス・アプリケーションのデータ・セキュリティー・グループには、少なくとも 1 つの伝票種別が含まれている必要があります。</p>
出荷ノード・アクセス	
全ノード	<p>このチームがすべての出荷ノードにアクセスできるようにするには、このラジオ・ボタンを選択します。</p> <p><b>注:</b> このラジオ・ボタンは、「ノード」という役割の組織に対しては使用できません。</p>
ユーザーのノード	<p>ユーザーがノード・ユーザーである場合は、このラジオ・ボタンを選択すると、このチームはそのノード・ユーザーが属しているノードにアクセスできるようになります。</p> <p>ユーザーがエンタープライズ・ユーザーである場合は、このラジオ・ボタンを選択すると、このチームは、ユーザーのエンタープライズまたはユーザーのエンタープライズより低い階層にあるエンタープライズ (またはこれら両方のエンタープライズ) を親組織として持つすべてのノードにアクセスできるようになります。</p>

表 59. 「チームの詳細」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
特定のノードのみにアクセスを制限する	<p>このチームが特定のノードにしかアクセスできないように制限するには、このラジオ・ボタンを選択します。次に設定を保存します。</p> <p>保存時に、「アクセス可能な出荷ノード」パネルに  が表示されます。 をクリックして、「出荷ノードの検索」ダイアログ・ボックスから目的のノードを検索します。</p> <p><b>注:</b> 「出荷ノードの検索」ダイアログ・ボックスに表示されるのは、このチームの作成者である管理者がアクセスできるノードのみです。</p> <p>ノードを選択して、 をクリックしてこのチームがこのノードにアクセスできるようにします。選択したノードが「アクセス可能な出荷ノード」パネルに表示されます。</p> <p>ノードを「アクセス可能な出荷ノード」パネルから削除するには、 をクリックします。確認ダイアログ・ボックスが表示されます。「OK」をクリックして、ノードの削除を確認します。</p>
チーム作成者がアクセス可能なノード	<p>このチームが、このチームの作成者がアクセスできるすべてのノードにアクセスできるようにするには、このラジオ・ボタンを選択します。</p> <p><b>注:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• チームの作成者がハブ・ユーザー (組織 = デフォルト) である場合は、このチームはすべての出荷ノードにアクセスできます。</li> <li>• 特定のノードに対する作成者のアクセス権が変更された場合は、それらのノードに対するこのチームのアクセス権も自動的に変更されます。また、作成者がアプリケーション・マネージャーから削除されると、該当するノードに対するこのチームのアクセス権は無効になります。</li> </ul>

## チームの変更

### このタスクについて

チームを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「セキュリティ」 > 「チーム」を選択します。作業領域に、「チーム」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するチームを選択して、 を選択します。「チームの詳細」ウィンドウが表示されます。

3. 該当するフィールドで修正を行います。フィールドの値の説明については、234ページの表 59 を参照してください。
4.  を選択します。

## チームの削除

### このタスクについて

チームを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「セキュリティ」>「チーム」を選択します。作業領域に、「チーム」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するチームを選択して、 を選択します。

---

## データ・アクセス・ポリシーの定義

### このタスクについて

すべてのアプリケーションは、データ・アクセス・セキュリティに対して異なるフィルタリング要件を持っているため、Sterling Selling and Fulfillment Foundationには、適用可能なさまざまなデータ・アクセス・ポリシーが用意されています。

エンタープライズ、バイヤー、セラー、およびノード・ユーザーのデータ・アクセス・ポリシーを定義することで、特定の伝票種別、エンタープライズ、および出荷ノードに含まれるデータへのアクセスを制御できるようになります。データ・アクセス・ポリシーは、次のアクセス・モードに適用されます。

- エンタープライズ・ユーザー・アクセス
- バイヤー・ユーザー・アクセス
- セラー・ユーザー・アクセス
- ノード・ユーザー・アクセス

次の手順に従って、これらのアクセス・ポリシーを定義できます。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「セキュリティ」>「データ・アクセス・ポリシー・ルール」を選択します。作業領域に、このウィンドウが表示されます。
2. 表示された「エンタープライズ」、「バイヤー」、「セラー」、および「ノード・ユーザー・アクセス」の各タブから、目的のタブを選択します。

#### タスクの結果

以降のセクションで、これらのアクセス・モードの構成方法について説明します。

データ・アクセス・ポリシーをどのように使用できるかについて詳しくは、

「Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き」を参照してください。

## エンタープライズ・ユーザー・アクセス このタスクについて

「データ・アクセス・ポリシー・エンタープライズ・ユーザー (Data Access Policy Enterprise User)」画面で、内部のストアフロント管理者など、エンタープライズ・ユーザーのアクセス権限を構成できます。

### 手順

1. 「エンタープライズ・ユーザー」タブを選択します。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 60 を参照してください。

表 60. エンタープライズ・ユーザー・アクセス・ポリシー・ルール

フィールド	説明
エンタープライズ・アクセス	
ユーザーは自分のエンタープライズのみアクセス可能	ユーザーは、自分のエンタープライズのみ属しているデータにアクセスできます。
ユーザーは自分のチームに割り当てられたすべてのエンタープライズにアクセス可能	ユーザーは、自分のチームに割り当てられたすべてのエンタープライズのデータにアクセスできます。
顧客アクセス権	
ユーザーはすべての顧客にアクセス可能	ユーザーは、階層内のすべての顧客にアクセスできません。
ユーザーはチーム構成に従って選択された顧客にアクセス可能	ユーザーは、顧客階層アクセス権のルールで定義されているようにのみ、顧客にアクセスできます。
顧客階層アクセス権	
ユーザーは顧客およびその子顧客にアクセス可能	ユーザーは、顧客およびその子顧客にアクセスできません。

表 60. エンタープライズ・ユーザー・アクセス・ポリシー・ルール (続き)

フィールド	説明
ユーザーは自分の顧客にアクセス可能	ユーザーは、直接割り当てられた顧客にアクセスできます。(これには、チーム定義でユーザー対顧客の手动割り当てを構成する必要があります。)
管理者アクセス権	
管理者は自分のチームに割り当てられた顧客にアクセス可能	管理者は、自分のチームがアクセス可能なすべての顧客にアクセスできます。
管理者は自分のチームおよび子チームに割り当てられた顧客にアクセス可能	管理者は、自分のチームおよびすべての子チームに割り当てられたすべての顧客にアクセスできます。

## バイヤー・ユーザー・アクセス

データ・アクセス・ポリシーの「バイヤー・ユーザー」タブで、顧客バイヤーなどのバイヤー・ユーザーのアクセス権を構成できます。フィールドの値の説明については、240 ページの表 61 を参照してください。

The screenshot shows the 'Data Access Policy Rules (DEFAULT)' configuration window. The 'Enterprise User' tab is active. The configuration is organized into several sections:

- Customer Access:**
  - Default Customer Access:
    - Users Have Access To Data For Their Customer Organization Only
    - Users Have Access To Data For Their Customer Organization And Child Customer Organizations
    - Users Have Access To Their Data And Data For Their Subordinate Users
- Customer Access Exceptions:**
  - Users Assigned To The Following Groups Have Expanded Access:
    - Users Have Access To Data For Their Customer Organization Only
    - Users Have Access To Data For Their Customer Organization And Child Customer Organizations
- Assigned Customer Access:**
  - Users Have No Assigned Customer Organizations
  - Users Have Access To Data Based On Their Assigned Customer Organizations
    - Assigned Customer Hierarchy Access:
      - Users Have Access To Data For Their Assigned Customer Organization
      - Users Have Access To Data For Their Assigned Customer Organization And Child Customer Organizations
- Anonymous User Access:**
  - Users Assigned To The Following Groups Have Anonymous Access:

表 61. バイヤー・ユーザーのアクセス・ポリシー・ルール

フィールド	説明
顧客アクセス権	
デフォルトの顧客アクセス権	
ユーザーは自分の顧客組織のデータ のみにアクセス可能	バイヤーは、自分の顧客組織のデータ のみにアクセスできます。
ユーザーは自分の顧客組織および子 顧客組織のデータにアクセス可能	バイヤーは、自分の顧客組織および子 顧客組織のデータにアクセスできます。
ユーザーは自分のデータおよび従属 ユーザーのデータにアクセス可能	バイヤーは、自分のデータおよび従属 ユーザーのデータにアクセスできます。
顧客アクセス権の例外	
次のグループに割り当てられたユー ザーには拡張アクセス権あり	グループへの登録に基づく拡張データ・ アクセス権をバイヤーが持つことができ るかどうかを選択します。   を選択すると、グループ登録が表示されます。
グループ登録	
購入可	使用可能なユーザー・グループのリス トです。  ユーザーをユーザー・グループに登 録するには、該当するユーザー・グ ループを選択して、  を選 択します。
登録済み	ユーザーが登録されているユーザー・ グループのリストです。  ユーザーをユーザー・グループから削 除するには、該当するユーザー・グ ループを選択して、  を選 択します。
ユーザーは自分の顧客組織のデータ のみにアクセス可能	バイヤーは、自分の顧客組織のデータ のみにアクセスできます。
ユーザーは自分の顧客組織および子 顧客組織のデータにアクセス可能	バイヤーは、自分の顧客組織および子 顧客組織のデータにのみアクセスでき ます。
割り当てられた顧客アクセス権	
ユーザーには顧客組織が割り当てら れていません	ユーザーには、どの顧客組織も割り 当てられていません。
ユーザーは、割り当てられた顧客組 織に基づいてデータにアクセス可能	ユーザーは、「割り当てられた顧客階 層アクセス権」ボックスで指定され た、割り当て済みの顧客のデータに アクセスできます。
割り当てられた顧客階層アクセス権	
ユーザーは、割り当てられた顧客組 織のデータにアクセス可能	ユーザーは、自分に割り当てられた 顧客のデータにのみアクセスできま す。
ユーザーは、割り当てられた顧客組 織および子顧客組織のデータにアク セス可能	ユーザーは、自分に割り当てられた 顧客組織および子顧客組織のデータ にアクセスできます。
匿名ユーザー・アクセス権	

表 61. バイヤー・ユーザーのアクセス・ポリシー・ルール (続き)

フィールド	説明
次のグループに割り当てられたユーザーには匿名アクセス権あり	グループへの登録に基づく匿名のデータ・アクセス権をユーザーが持つことができるかどうかを選択します。  🔒 を選択すると、グループ登録が表示されます。
購入可	使用可能なユーザー・グループのリストです。  ユーザーをユーザー・グループに登録するには、該当するユーザー・グループを選択して、➡ を選択します。
登録済み	ユーザーが登録されているユーザー・グループのリストです。  ユーザーをユーザー・グループから削除するには、該当するユーザー・グループを選択して、⬅ を選択します。

## セラー・ユーザー・アクセス

セラー・ユーザーの場合、以下のアクセス・ルールがあります。この時点で、アクセス・ルールを構成することはできません。フィールドの値の説明については、表 62 を参照してください。



表 62. セラー・ユーザーのアクセス・ポリシー・ルール

フィールド	説明
セラー・アクセス権	
ユーザーは自分の組織のみにアクセス可能	セラーは、自分の組織のみにアクセスできます。

## ノード・ユーザー・アクセス

「データ・アクセス・ポリシー・ノード・ユーザー (Data Access Policy Node User)」タブで、ノード・ユーザー・アクセスを構成できます。フィールドの値の説明については、242 ページの表 63 を参照してください。



表 63. ノード・ユーザー・アクセス・ポリシー・ルール

フィールド	説明
ノード・アクセス権	
ユーザーは自分のノードのみにアクセス可能	ユーザーは、自分のノードのみにアクセスできます。
ユーザーは自分のチームに割り当てられたノードにアクセス可能	ユーザーは、自分のチームに割り当てられたノードにアクセスできます。

## API のセキュリティの構成

API を呼び出すときにユーザーによりアクセス可能な対象を制御するために、API リソースへのアクセスを定義する必要があります。

API を呼び出すときは、以下の 2 つのレベルのセキュリティを通過する必要があります。

- ユーザー ID、証明書、またはその両方による確認。ログイン API は、他のいずれかの API が呼び出される前に呼び出されます。
- 承認。これはユーザーがアクセスできるリソースを確認します。

API のセキュリティについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation API のカスタマイズ*」を参照してください。

**注:** Sterling Selling and Fulfillment Foundation コンポーネントを、API のセキュリティを有効にした Web サービスとして実行している場合、ログイン API を Web サービスとして公開する必要があります。Web サービスの作成を準備するときの API の公開の詳細については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation インストール・ガイド*」を参照してください。さらに、ログイン API を呼び出し、ログイン時に生成されるセキュリティ・トークンをキャプチャーし、そのトークンを YFSEnvironment で「tokenId」として設定する必要があります。YFS 環境インターフェースについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

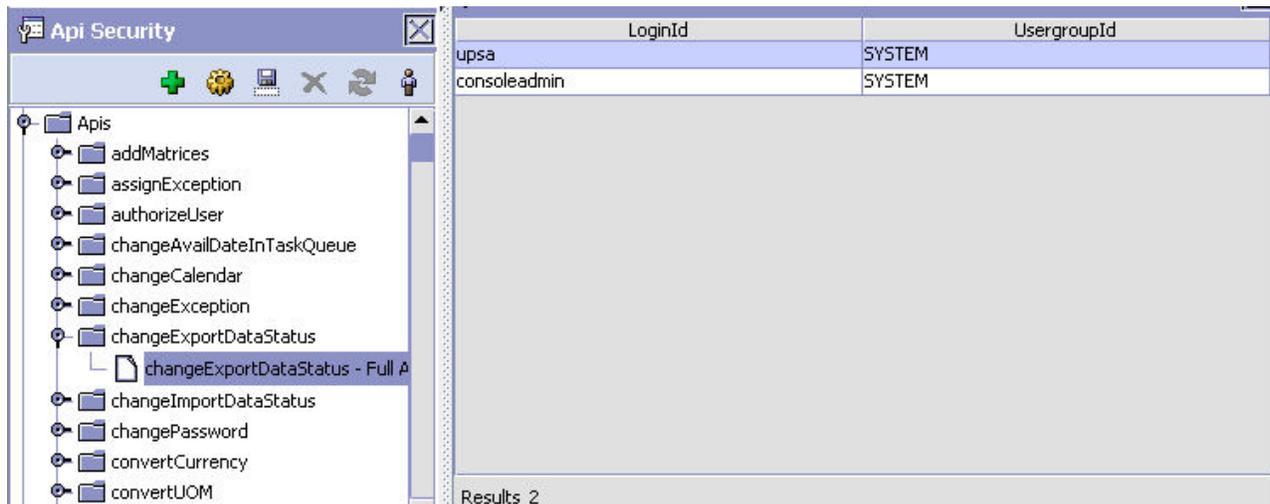
## API セキュリティ・リソースの表示 このタスクについて

既存の API セキュリティ・リソースを表示するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「セキュリティ」 > 「API のセキュリティ」を選択します。「API セキュリティ・エディター (API Security Editor)」ウィンドウが表示されます。
2. Sterling Selling and Fulfillment Foundation ので API またはサービスのブランチを展開します。
3. API またはサービスを選択します。デフォルトでは、API またはサービスに対

して「フル・アクセス (Full Access)」オプションが使用可能です。 をクリックして、API またはサービスのアクセス権を付与されたユーザーのリストを表示します。



## API セキュリティ・リソースの作成

### このタスクについて

API セキュリティ・リソースを作成するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「セキュリティ」 > 「API のセキュリティ」を選択します。「API セキュリティ・エディター (API Security Editor)」ウィンドウが表示されます。
2. API またはサービスのブランチを展開します。
3. 新規 API セキュリティ・リソースを作成する API を選択して、 をクリックします。「API セキュリティ・リソースの作成」ウィンドウが表示されま

Resource ID	<input type="text"/>
Description	<input type="text"/>
Resource Sequence	<input type="text"/>
Api Name	<input type="text" value="assignException"/>

4. 「リソース ID」に、API リソースの固有 ID を入力します。
5. 「説明」に、API リソースの短い説明を入力します。
6. 「リソース・シーケンス」に、この API リソースを起動する順番を入力します。1 つの API リソースの出力を別の API リソースの入力として使用できません。
7.  を選択します。

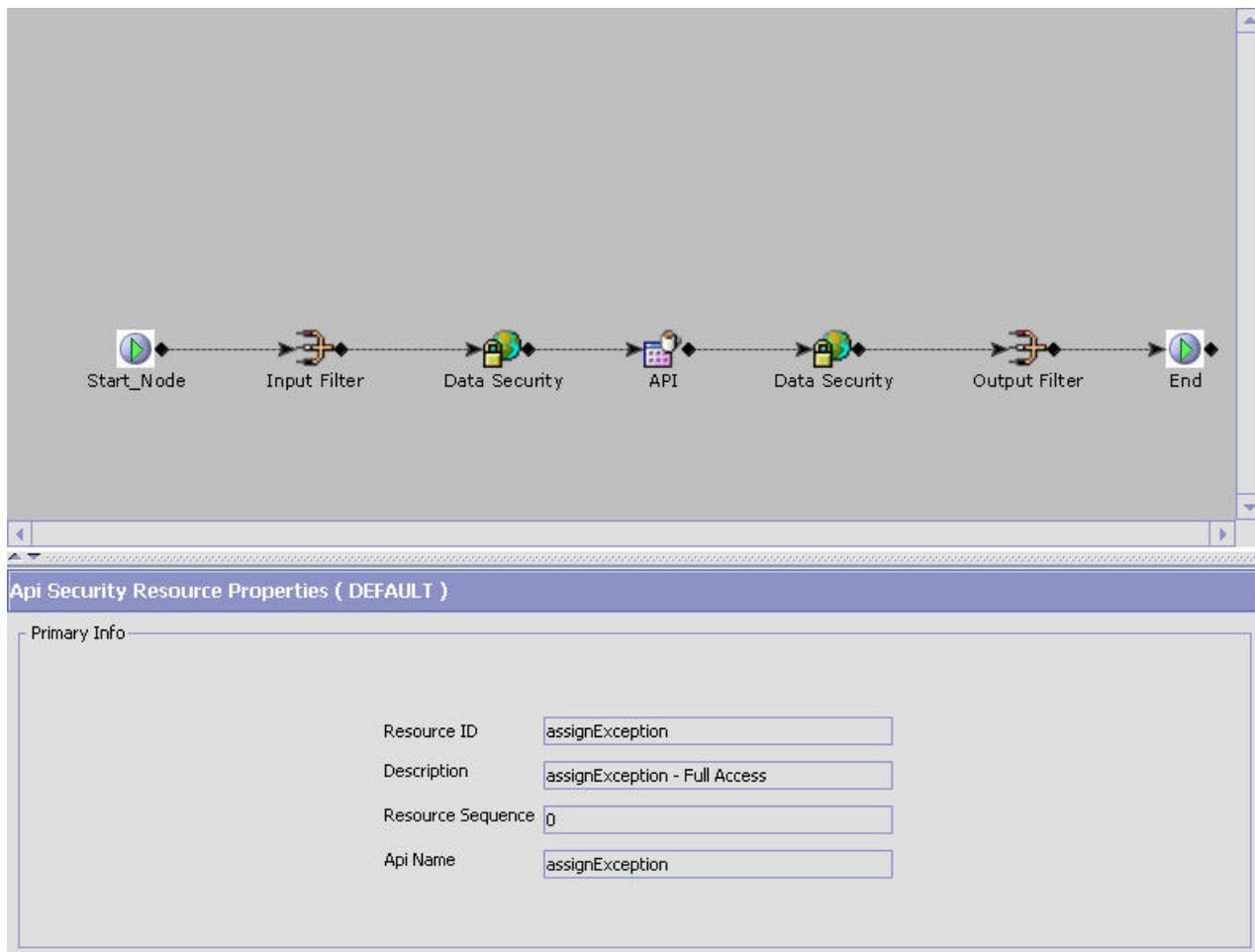
## API のセキュリティー・リソースの変更 このタスクについて

API のセキュリティー・リソースは、定義後に変更できます。

API のセキュリティー・リソースを変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「セキュリティー」 > 「API のセキュリティー」を選択します。「API セキュリティー・エディター (API Security Editor)」ウィンドウが表示されます。
2. Sterling Selling and Fulfillment Foundation の API またはサービスのブランチを展開します。
3. 変更する API またはサービスのブランチを個別に選択して、 を選択します。「API セキュリティー・リソースの詳細」ウィンドウおよび「API セキュリティー・リソースのプロパティー」ウィンドウが表示されます。



4. 「API セキュリティー・リソースの詳細」ウィンドウには、それぞれの API セキュリティー・リソースとデフォルトで関連付けられたさまざまなコンポーネントが表示されます。「API セキュリティー・リソースの詳細」ウィンドウに選択されたコンポーネントがない場合、「API セキュリティー・リソースのプロパティ」には、選択した API セキュリティー・リソースに関連した読み取り専用の情報が表示されます。
5. 特定のコンポーネントを選択すると、そのコンポーネントの詳細が下のプロパティ・ウィンドウに表示されます。
6. API のセキュリティ・リソースに関連付けられた以下のコンポーネントを構成できます。

**注:** 「開始」または「終了」コンポーネントを選択すると、プロパティ・ウィンドウが表示されます。このプロパティ画面は、早見表としてデフォルトの入力 `apisecurity` ファイルと出力 `apisecurity` ファイルをそれぞれテキスト領域に表示するのみです。編集できませんが、テキストをコピーすることは可能です。

## 入力フィルター

### このタスクについて

「入力フィルター」コンポーネントは、API フィルター入力 XML を編集する手段となります。



デフォルトの API フィルター入力 XML をインポートするには、 をクリックします。API フィルター入力 XML をファイルからロードするには、 をクリックします。API フィルター入力 XML をストリングからロードするには、 をクリックします。

入力フィルター XML エlement構造を操作する場合、XML ツリーで新しい子Elementを追加するには、ノードを選択して  をクリックします。また、XML ツリーでElementの新しい属性を追加するには、 をクリックします。

設定または変更する値を持つElementの該当する属性を選択して、 をクリックします。

XML ツリーからElementまたは属性を削除する場合は、該当するElementまたは属性を選択して、 をクリックします。

API 呼び出し中に属性を処理したくない場合は、該当する属性を選択して、 をクリックします。属性のステータスを「選択解除」から「選択」に変更する場合は、 をクリックします。

## データ・セキュリティー

### このタスクについて

「データ・セキュリティー」コンポーネントを使用して、検証する組織を指定するXPath 式のリストを定義できます。新規 XPath 式を追加するには、 をクリックします。

注: 一部の構成は、入力と出力の両方の API のセキュリティーに使用されます。

## **API**

### **このタスクについて**

「API」コンポーネントは、API 名に使用します。編集不可能です。

## **出力フィルター**

### **このタスクについて**

「出力フィルター」コンポーネントは、API フィルター出力 XML を編集する手段となることを除いて、入力フィルター・コンポーネントとほぼ同じです。



## 第 6 章 システム管理コンポーネントの構成

システム・レベル・パージ条件、外部プログラム実装、およびインストール・ルールを含む、システム・レベル情報を構成できます。

### システム管理コンポーネント: パージ条件の定義

データ・パージのパージ条件ルールを、特定のドキュメント・タイプに関係なしに定義できます。パージは、システム・データベースから古いデータを削除するためのプロセスです。パージは、未使用のデータベース・レコードの数を最小化することで、検索効率を高め、必要な物理ディスクのサイズを削減します。

表 64 は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation に備わっているシステム・パージ・ルールをリストしています。

表 64. システム定義のパージ・ルール

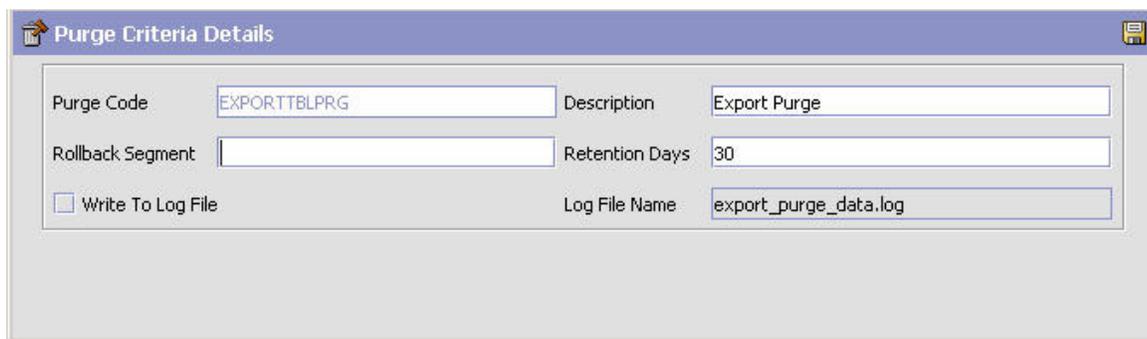
ルール	説明	保持日数
CAPACITYPRG	容量データをパージします。	30
EXPORTTBLPRG	データを外部システムに公開するために使用されるエクスポート・テーブルからデータをパージします。これは、ハブ・レベルのパージです。	30
IMPORTTBLPRG	インポート・テーブルからデータをパージします。これは、ハブ・レベルのパージです。	30
INBOXPRG	ユーザーの受信箱から警告コンソール・メッセージをパージします。これは、ハブ・レベルのパージです。	30
INVENTORYPRG	在庫情報をパージします。在庫パージでは、パージの際に保持日数を考慮しません。数量が 0 の関連するテーブルのすべてのレコードがパージされます。	30
MANIFESTPRG	積荷目録情報をパージします。	30
PERSONINFOHISTPRG	顧客履歴情報のパージ。	30
PERSONINFOPRG	顧客情報のパージおよび履歴テーブルへの移動を行います。	30
PRICELISTPRG	価格リストのパージ。	30
REPROCESSPRG	再処理された情報をすべてパージします。これは、ハブ・レベルのパージです。	30
STATTBLPRG	統計情報をパージします。これは、ハブ・レベルのパージです。	30
USERACTAUDITPRG	ユーザー・アクティビティの監査データをシステムからすべてパージします。	30
USERACTIVITYPRG	すべてのユーザー・アクティビティ・データをパージします。	30

## システム・パージ条件ルールの変更 このタスクについて

パージ条件ルールを変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「システム管理」>「パージ条件」を選択します。作業領域に、「パージ条件リスト」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するパージ条件ルールを選択して、 を選択します。「パージ条件の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Purge Criteria Details". It has several input fields and a checkbox:

- Purge Code:** EXPORTTBLPRG
- Description:** Export Purge
- Rollback Segment:** (empty field)
- Retention Days:** 30
- Write To Log File:**
- Log File Name:** export\_purge\_data.log

3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 65 を参照してください。
4.  を選択します。

表 65. 「パージ条件の詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
パージ・コード	パージ・プログラムを示します。これは、システム定義のコードです。
説明	パージのタイプを説明します。
ロールバック・セグメント	パージ・コードによって承認されたパージ・トランザクションで明示的に使用されるロールバック・セグメントを定義します。これは、大量の論理データ・セットをパージしなくてはならない場合に役立ちます。これはオプションで、オーダー関連のパージで使用します。
保持日数	データベース内にデータを保持する日数を入力します (プログラムの実行時からさかのぼる)。ここで入力する保持日数が、テーブル・サイズで考慮されていることを確認します。  在庫パージでは、パージの際に保持日数を考慮しません。
ログ・ファイルに書き込む	パージのステータスに対応したシステム・メッセージを記録する場合は、このフィールドを選択します。ログはバックアップして、後日ジャーナルとして使用することができます。

表 65. 「パーズ条件の詳細」 ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
ログ・ファイル名	<p>ログ・ファイル名を入力します。ログ・ファイルは、<code>yfs.purge.path</code> プロパティで指定されたディレクトリに作成されます。これが受け渡されない場合、<code>yfs.properties</code> ファイルに指定された値がデフォルトとなります。変数が導入された場合は、<code>yfs.purge.path</code> は無視されます。</p> <p>このプロパティを変更するには、<code>&lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties</code> ファイルにエンタリーを追加します。 <code>customer_overrides.properties</code> ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> プロパティ・ガイド』を参照してください。</p> <p>ログ・ファイル・ディレクトリの変数の使用方法については、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> トランザクションの拡張」を参照してください。</p> <p>国際化対応に関連したファイル名の制限については、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> ローカライズ・ガイド』を参照してください。</p>

## システム管理コンポーネント：外部プログラム実装の定義

外部プログラムは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation トランザクションに対してビジネス・ロジック拡張機能を有効にするために作成されます。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation トランザクション内では、カスタム・ロジックをプラグインできるように、外部プログラムを呼び出すコードが存在しています。これらは Sterling Selling and Fulfillment Foundation によって事前定義されているので、外部プログラムを追加または削除することはできません。ただし、外部プログラムに対して適切な実装を構成することができます。

外部プログラムは、カスタム・ロジック・コンポーネントを作成するために実装可能な Java インターフェースです。実装したら、Sterling Selling and Fulfillment Foundation トランザクションが実行時に必要なロジックを実行するために呼び出せるようにそれらを構成する必要があります。この章では、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内での外部プログラム実装の構成方法を説明しています。

**注:** Sterling Selling and Fulfillment Foundation トランザクション拡張機能を必要としない場合は、外部プログラムを実装する必要はありません。外部プログラムが構成されていない場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation はそのデフォルトのビジネス・ロジックを実行します。外部プログラムは、カスタム・トランザクションの作成時には関係ありません。

### 外部プログラムと伝票種別

伝票種別は、さまざまなビジネス・ドキュメントとそのライフサイクルを管理可能にする仕組みです。詳しくは、135 ページの『伝票種別の構成』を参照してください。時には、伝票種別に応じて外部プログラムの異なる実装が必要になります。例

例えば、YFSRecalculateHeaderTaxUE 外部プログラムにより、カスタム・ロジックを使用したオーダー・ヘッダー税を計算できます。税計算ロジックを、販売オーダー、購入オーダー、返品などで異なるものにした場合は、伝票種別レベルで同じ外部プログラムに対して、それぞれ異なる実装を提供できます。すべての外部プログラムが伝票種別に依存しているわけではないことに注意してください。

## 外部プログラムおよびサービス

XML 入力を取り、XML 出力を返す外部プログラムは、サービス対応可能です。これはつまり、それらの外部プログラムに対して、Java 実装を作成する代わりに、サービス・ビルダーにより構築されたサービスを接続するだけで済むということです。実行時には、Java クラスを呼び出す代わりに、Sterling Selling and Fulfillment Foundation トランザクションは構成済みサービスを呼び出します。これにより、プログラマチックな方法よりもより叙述的な方法で外部プログラム・ロジックを作成するメカニズムが可能になります。

## 外部プログラムの使用のガイドライン

以下のガイドラインは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation API 内で外部プログラムを使用する際に留意している必要があります。

- 外部プログラムは特定の情報を戻すように構成されており、その使用法はそのような目的のみに制限する必要があります。

## 継承

外部プログラム (およびそのイベント) やテンプレートなどのリソースの継承を、エンタープライズ・レベルで構成できます。例えば、新しい一連のリソース構成全体を定義する代わりに、エンタープライズ「B」は、エンタープライズ「A」からリソース構成を継承することを選択できます。

エンタープライズ・レベルで以下の継承を構成できます。

- . 外部プログラム
- . テンプレート

## 外部プログラムの継承

外部プログラム実装はエンタープライズ・レベルで継承できます。

エンタープライズの外部プログラム実装が存在している場合、システムは外部プログラム実装を返します。しかし、外部プログラム実装がそのエンタープライズに対して定義されていない場合、システムは検査により、それが他のエンタープライズからの構成を継承するかどうか、および正しい外部プログラム実装を検索するために継承の階層を使用するかどうかを確認します。外部プログラム実装が検出されない場合、そのエンタープライズの外部プログラムのハブの実装が使用されます。

## イベントの継承

イベント実装はエンタープライズ・レベルで継承できます。

## テンプレートの継承

エンタープライズのリソース ID を指定することで、エンタープライズ・レベルで外部プログラムとイベント・テンプレートを継承できます。リソース ID が指定されない場合、それは継承の階層から取得されます。

## 外部プログラムの定義

### このタスクについて

外部プログラム実装を構成するには、次の手順を実行します。

### 手順

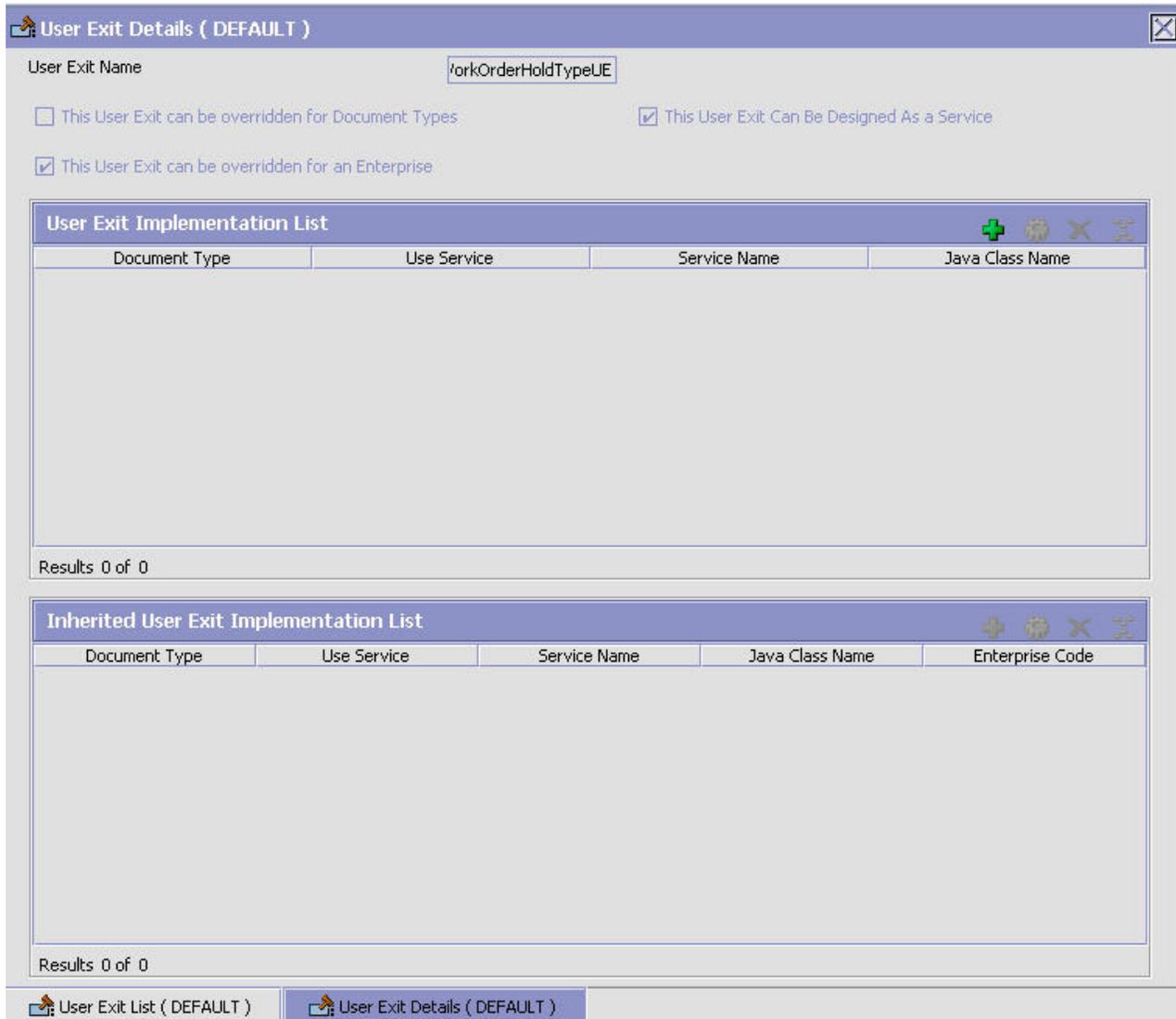
1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「システム管理」>「外部プログラム管理」を選択します。作業領域に、「外部プログラム・リスト」ウィンドウが表示されます。

User Exit Name	Can Override For Document Type	Can Override For Enterprise	Can Attach Service	User Exit Implemented
com.yantra.yfs.japi.ue.YFS...				
com.yantra.yfs.japi.ue.YFS...				
com.yantra.yfs.japi.ue.YFS...				
com.yantra.ycp.japi.ue.YC...			✓	
com.yantra.yfs.japi.ue.YFS...				
com.yantra.ycp.japi.ue.YC...			✓	
com.yantra.ycp.japi.ue.YC...			✓	
com.yantra.ycp.japi.ue.YC...			✓	
com.yantra.yfs.japi.ue.YFS...				
com.yantra.ycs.japi.ue.YC...				
com.yantra.wms.japi.ue.W...			✓	
com.yantra.wms.japi.ue.W...			✓	
com.yantra.wms.japi.ue.W...		✓	✓	
com.yantra.vas.japi.ue.VA...		✓	✓	
com.yantra.vas.japi.ue.VA...		✓	✓	
com.yantra.vas.japi.ue.VA...		✓	✓	
com.yantra.vas.japi.ue.VA...		✓	✓	
com.yantra.vas.japi.ue.VA...		✓	✓	
com.yantra.ycs.japi.ue.YC...				
com.yantra.wms.japi.ue.W...		✓	✓	
com.yantra.wms.japi.ue.W...		✓	✓	
com.yantra.wms.japi.ue.W...		✓	✓	
com.yantra.wms.japi.ue.W...		✓	✓	
com.yantra.wms.japi.ue.W...		✓	✓	
com.yantra.wms.japi.ue.W...		✓	✓	
com.yantra.wms.japi.ue.W...		✓	✓	
com.yantra.wms.japi.ue.W...		✓	✓	

外部プログラムが伝票種別に対して実装可能である場合は、「伝票種別はオーバーライド可能」列に「Y」と表示されます。外部プログラムがサービスに対して実装可能である場合は、「サービスの付加が可能」列に「Y」と表示されます。

外部プログラムが実装されている場合は、「外部プログラム実装済み」列に「Y」と表示されます。外部プログラムがエンタープライズによってオーバーライド可能である場合は、「エンタープライズはオーバーライド可能」列に「Y」と表示されます。

2. 該当する外部プログラムを見つけて、 を選択します。「外部プログラムの詳細」ウィンドウが表示されます。



画面上部にある次の 3 つのフィールドは、情報提供を目的としたもので、読み取り専用です。

- この外部プログラムは、伝票種別でオーバーライド可能
- この外部プログラムは、エンタープライズでオーバーライド可能
- この外部プログラムはサービスとして設計可能

これらのフィールドは、前の画面で選択されたオプションを反映しています。「継承した外部プログラム実装リスト」パネルも情報提供を目的としたもので、読み取り専用です。このパネルには、現在のエンタープライズによって、

その階層内の他のエンタープライズから継承された外部プログラムのリストが表示されます。例えば、次のような階層関係を持つ 3 つのエンタープライズ E1、E2、および E3 があるとします。

- エンタープライズ E1 は、エンタープライズ E2 から構成を継承します。
- エンタープライズ E2 は、エンタープライズ E3 から構成を継承します。

このような階層では、エンタープライズ E1 は、エンタープライズ E2 および E3 に対して定義されているすべての構成を表示およびオーバーライドすることができます。エンタープライズ E1 は、ハブ・レベルで定義されている構成を表示することも可能です。

「外部プログラム実装リスト」パネルのテーブルに値を追加することができます。

3. 「外部プログラム実装リスト」テーブルに値を追加するには、「外部プログラム実装リスト」パネルで  を選択します。「外部プログラム実装の詳細」ウィンドウが表示されます。該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 66 を参照してください。

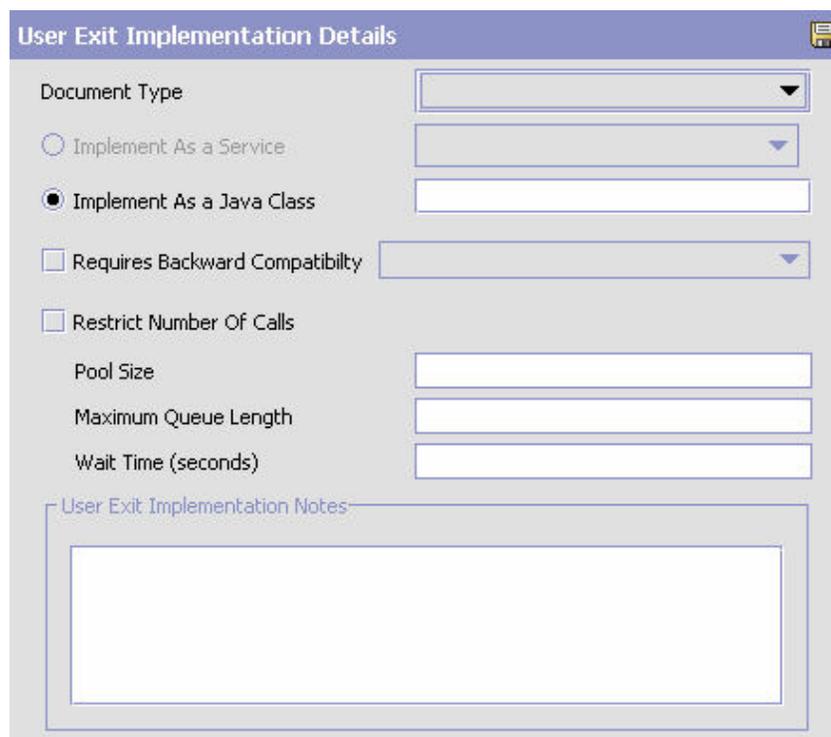


表 66. 「外部プログラム実装の詳細」フィールド

フィールド	説明
外部プログラム実装の詳細	
ドキュメント・タイプ	外部プログラムが伝票種別に対して実装可能である場合は、適切な伝票種別を選択します (該当する場合)。
サービスとして実装	外部プログラムが、サービスを使用するよう実装可能であり、そのように構成する場合は、「サービスとして実装」を選択します。

表 66. 「外部プログラム実装の詳細」フィールド (続き)

フィールド	説明
Java クラスとして実装	外部プログラムが Java クラスとして実装されるように構成する場合は、「Java クラスとして実装」を選択します。
サービス名 (「サービスとして実装」を選択した場合)	「サービスとして実装」を選択した場合は、構成する適切なサービスを選択します。  <b>重要:</b> 選択できるのは、リアルタイムの応答を返すように定義されているサービスのみです。サービスについて詳しくは、204 ページの『サービス定義の定義』を参照してください。
Java クラス (「Java クラスとして実装」を選択した場合)	「Java クラスとして実装」を選択した場合は、「外部プログラム名」フィールドに表示されているように Java クラスを入力します。
下位互換性が必要	外部プログラムが別のリリースに対する下位互換性を必要とする場合は、このフィールドを選択します。
Version	「下位互換性が必要」を選択した場合は、外部プログラムの下位互換性を必要とする Sterling Selling and Fulfillment Foundation バージョン番号を選択します。
プール・サイズ	外部プログラムへの同時アクティブ呼び出しの合計数を示します
最大キュー長	アクティブ・カウントがいっぱいになったときにアクティブになるのを待機する外部プログラム呼び出し数の最大キュー長。アクティブになるのを待機している呼び出しでキューがいっぱいになった場合、新規の外部プログラム要請はすべてエラーになります。
待ち時間 (秒)	キュー内で外部プログラムが待機する時間。待ち時間がこの秒数を超えると、例外がスローされます。
外部プログラム実装メモ	外部プログラム実装に関する任意の追加情報を入力します。

## システム管理のコンポーネント: インストール・ルールの定義

### このタスクについて

ハブによるアプリケーションのインストール時に定義が必要なルールを設定できます。

インストール・ルールを設定するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「システム管理」> 「インストール・ルール」を選択します。作業領域に、「インストール・ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 7 から 16 を参照してください。
3.  を選択します。

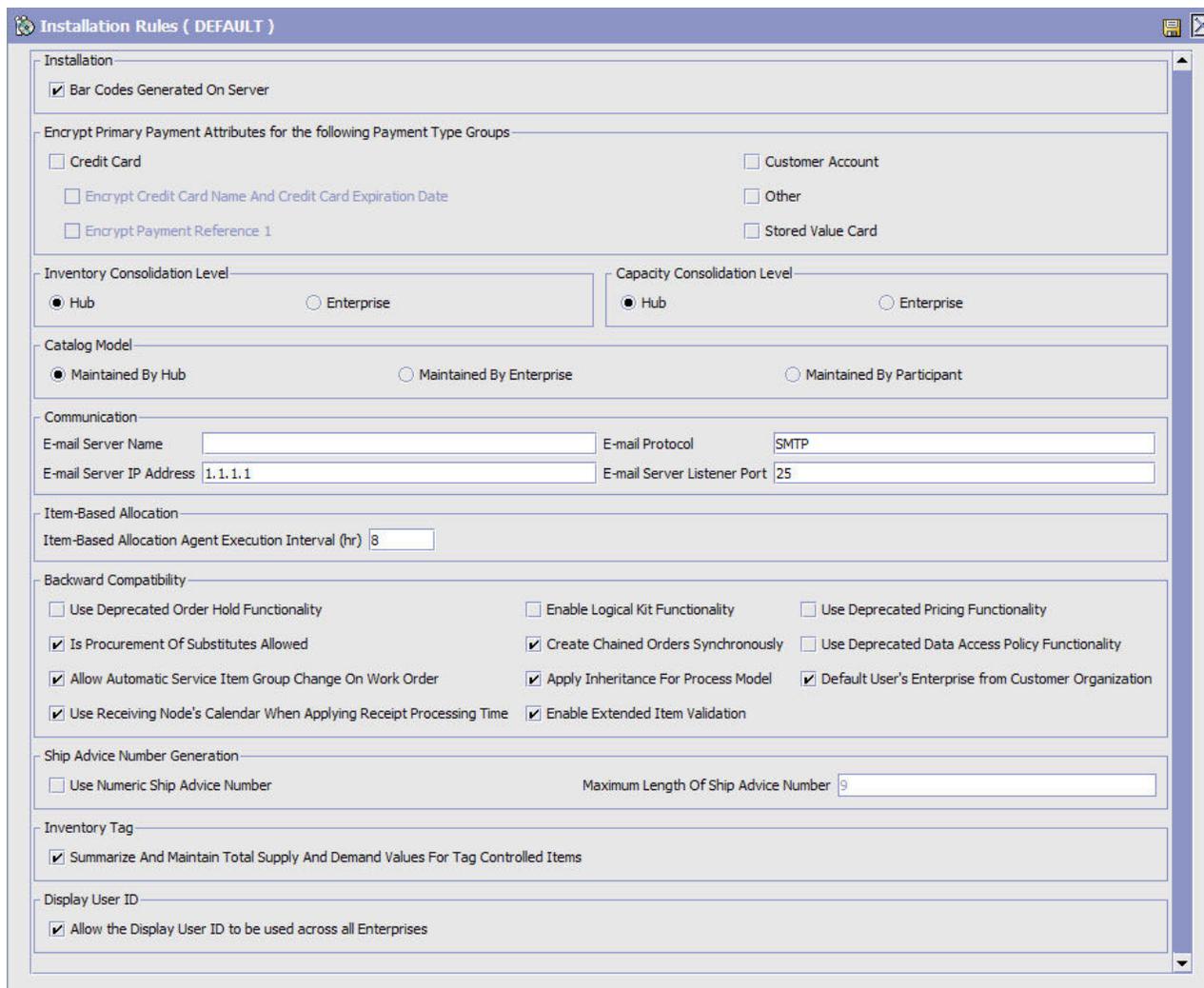


図 25. インストール・ルール

注: クレジット・カードおよびストアード・バリュー・カードの暗号化ルールは、廃止が予定されています。

表 67. 「インストール・ルール」ウィンドウ

フィールド	説明
<b>インストール</b>	
サーバー上で生成されたバーコード	チェックが付けられている場合、システムによりハブ環境にあるすべてのアイテムのバーコードが自動的に生成されます。
次の支払タイプ・グループの主要支払属性を暗号化する	
注: IBM は、システムに入ってくる支払情報を以下のルールを使用して暗号化するのではなく、既にトークン化されていることを推奨します。	

表 67. 「インストール・ルール」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
クレジット・カード (Credit Card)	<p>チェックが付けられている場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation によりデータベース内のクレジット・カード番号が暗号化されます。</p> <p><b>注:</b> このフィールドは廃止が予定されています。クレジット・カード番号およびストア・バリュー・カード番号をキャプチャーしてトークン化する IBM Sterling Sensitive Data Capture Server というアプリケーションが IBM から提供されています。PCI DSS および PA-DSS の要件を満たす方法を理解するには、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: セキュア・デプロイメント・ガイド</i>」を確認してください。</p>
クレジット・カードの名義とクレジット・カードの有効期限を暗号化する	<p><b>注:</b> 「クレジット・カード」フィールドは廃止が予定されています。IBM は、クレジット・カード番号をトークン化し、外部のポールト・システムで安全に保管することを推奨しています。</p> <p>チェックが付けられている場合、適切なアクセス権限を持つ Sterling Selling and Fulfillment Foundation ユーザーのみが、暗号化解除されたクレジット・カード番号を表示することができます。アクセス権限の構成について詳しくは、222 ページの『ユーザー・グループ・アクセス権の管理』を参照してください。</p> <p><b>注:</b> 最初にクレジット・カードのチェックが必要です。</p>
ストアード・バリュー・カード	<p><b>注:</b> このフィールドは廃止が予定されています。IBM は、ストアード・バリュー・カード番号をトークン化し、外部のポールト・システムで安全に保管することを推奨しています。</p> <p>チェックが付けられている場合、データベース内にある SVC 番号および支払参照 1 が Sterling Selling and Fulfillment Foundation により自動的に暗号化されます。適切なアクセス権限を持つユーザーのみが、暗号化解除された SVC 番号および支払参照 1 を表示することができます。アクセス権限の構成について詳しくは、222 ページの『ユーザー・グループ・アクセス権の管理』を参照してください。</p>
顧客アカウント (Customer Account)	<p>チェックが付けられている場合、データベース内にある顧客のアカウント番号および支払参照 1 が Sterling Selling and Fulfillment Foundation により自動的に暗号化されます。適切なアクセス権限を持つユーザーのみが、暗号化解除された顧客のアカウント番号および支払参照 1 を表示することができます。アクセス権限の構成について詳しくは、222 ページの『ユーザー・グループ・アクセス権の管理』を参照してください。</p>
その他 (Other)	<p>チェックが付けられている場合、データベース内にある支払参照 1 が Sterling Selling and Fulfillment Foundation により自動的に暗号化されます。適切なアクセス権限を持つユーザーのみが、暗号化解除された支払参照 1 を表示することができます。アクセス権限の構成について詳しくは、222 ページの『ユーザー・グループ・アクセス権の管理』を参照してください。</p>
在庫集約レベル	

表 67. 「インストール・ルール」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
ハブ	<p>アイテム ID をすべての組織間で一意のものにする場合、「ハブ」オプションを選択します。</p> <p><b>重要:</b> 組織の作成後にこのオプションを選択すると、在庫組織はデフォルトのハブ組織に設定されます。これは、新しく作成された組織の「組織の詳細情報」画面で変更することができます。新規の組織の作成について詳しくは、27 ページの『組織の作成と変更』を参照してください。</p>
エンタープライズ	<p>組織間でのアイテム ID の重複を許可し、同時に在庫モデル内では識別する場合は、「エンタープライズ」オプションを選択します。また、このエンタープライズ組織を DEFAULT コロニーとは別のコロニーに追加する場合も、「エンタープライズ」オプションを選択します。</p> <p><b>重要:</b> エンタープライズ組織の作成時にこのオプションを選択すると、在庫組織のデフォルトは作成したエンタープライズ組織になります。これは、新しく作成された組織の「組織の詳細情報」画面で変更することができます。新規の組織の作成について詳しくは、27 ページの『組織の作成と変更』を参照してください。</p> <p><b>注:</b> 「エンタープライズ」を選択した場合、コンソールで在庫調整を行うときに組織コードまたはエンタープライズ・コードの指定が必要になります。</p>
<b>キャパシティー集約レベル</b>	
ハブ	<p>サービス・アイテム ID をすべての組織間で一意のものにする場合、「ハブ」オプションを選択します。</p> <p><b>重要:</b> 組織の作成後にこのオプションを選択すると、在庫組織はデフォルトのハブ組織に設定されます。これは、新しく作成された組織の「組織の詳細情報」画面で変更することができます。新規の組織の作成について詳しくは、27 ページの『組織の作成と変更』を参照してください。</p>
エンタープライズ	<p>組織間でのサービス・アイテム ID の重複を許可し、同時に在庫モデル内では識別する場合は、「エンタープライズ」オプションを選択します。また、このエンタープライズ組織を DEFAULT コロニーとは別のコロニーに追加する場合も、「エンタープライズ」オプションを選択します。</p> <p><b>重要:</b> エンタープライズ組織の作成時にこのオプションを選択すると、在庫組織のデフォルトは作成したエンタープライズ組織になります。これは、新しく作成された組織の「組織の詳細情報」画面で変更することができます。新規の組織の作成について詳しくは、27 ページの『組織の作成と変更』を参照してください。</p>
<b>カタログ・モデル</b>	

表 67. 「インストール・ルール」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
ハブで管理	<p>参加者すべてのカタログをハブで設定する場合は、「ハブで管理」オプションを選択します。</p> <p><b>重要:</b> 組織の作成後にこのオプションを選択すると、カタログ組織はデフォルトのハブ組織に設定されます。これは、新しく作成された組織の「組織の詳細情報」画面で変更することができます。新規の組織の作成について詳しくは、27 ページの『組織の作成と変更』を参照してください。</p>
エンタープライズで管理	<p>個別のエンタープライズに関連している参加者すべてのカタログをそれぞれのエンタープライズで設定する場合は、「エンタープライズで管理」オプションを選択します。</p> <p><b>重要:</b> 組織の作成後にこのオプションを選択すると、カタログ組織のデフォルトは組織の主要エンタープライズになります。これは、新しく作成された組織の「組織の詳細情報」画面で変更することができます。新規の組織の作成について詳しくは、27 ページの『組織の作成と変更』を参照してください。</p>
参加者が管理	<p>個別の参加者が各自のカタログを管理する場合は、「参加者が管理」オプションを選択します。</p> <p><b>重要:</b> 組織の作成後にこのオプションを選択すると、カタログ組織のデフォルトは組織そのものになります。これは、新しく作成された組織の「組織の詳細情報」画面で変更することができます。新規の組織の作成について詳しくは、27 ページの『組織の作成と変更』を参照してください。</p>
通信	
E メール・サーバー名	ハブの E メール・サーバー名を入力します。
Eメールのプロトコル	ハブの Eメールのプロトコルを入力します。
Eメール・サーバーの IP アドレス	ハブの Eメール・サーバーの IP アドレスを入力します。
Eメール・サーバーのリスナー・ポート	ハブの Eメール・サーバーのリスナー・ポートを入力します。
アイテム・ベースの割り当て	
アイテム・ベースの割り当てエージェントの実行間隔 (時間)	このルールは、アイテム・ベースの割り当てエージェントが、YFS_IBA_TRIGGER テーブルで既に処理済みのトリガーを再プロセスするべきでない時間間隔を示すために使用します。
下位互換性	

表 67. 「インストール・ルール」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
<p>廃止が予定されているオーダー保留機能の使用</p>	<p>拡張されたオーダー保留機能ではなく、廃止が予定されているオーダー保留機能を使用する場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。</p> <p>拡張されたオーダー保留機能について詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド</i>」を参照してください。</p> <p>廃止が予定されているモードでは、オーダー保留機能は次のように動作します。</p> <p>オーダーを保留状態にすると、販売オーダー・フルフィルメントのパイプラインにおける現在のステータスでオーダーを凍結することになります。オーダーは任意の理由により保留することができます。例えば、特定のバイヤーに対してセキュリティ検査を実行する場合、必要な情報を明確にできるまでそのオーダーを保留状態にすることができます。</p> <p>オーダーが保留されると、以下のトランザクションは処理されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• オーダー完了の計画 (Plan Order Complete)</li> <li>• 割り当ておよびリリース (Allocate &amp; Release)</li> <li>• 連鎖オーダーの作成</li> <li>• 派生オーダー作成</li> <li>• オーダーのスケジュール</li> <li>• オーダーのリリース</li> <li>• リリースの送信</li> </ul> <p><b>注:</b> 保留されているオーダーはスケジューリングでピックアップされません。</p> <p><b>注:</b> オーダーから出荷が作成され、その後オーダーが保留された場合、このオーダーは荷の確認時に引き続き確認されます。</p>
<p>論理キット機能を有効にする</p>	<p>論理キット機能を有効にする場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。バンドルは論理キットの拡張フィーチャーであるため、デフォルトではこのボックスにチェックは付いていません。</p>
<p>代替の調達を許可する</p>	<p>代替品の調達を使用可能にする場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。</p> <p>代替品の在庫を調達できる場合は、オーダーはスケジューリングされ、バックオーダーされません。</p>
<p>連鎖オーダーの同時作成</p>	<p>スケジューリングする際に調達オーダーおよびドロップ出荷オーダーを同時に作成する場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。</p> <p>このルールが使用可能になると、子オーダーの予定出荷日が子オーダーの出荷ノードから事前通知時間内である場合にのみ、連鎖オーダーが作成されます。</p>

表 67. 「インストール・ルール」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
<p>作業オーダーでの自動サービス・アイテム・グループの変更を許可</p>	<p>作業オーダーから提供サービス明細が追加または削除されたとき、または作業オーダーのサービス・アイテム・グループが 1 つのサービス・タイプから別のサービス・タイプに変更されたときにサービス・アイテム・グループの自動的な変更を許可する場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。例えば、提供サービスから配達サービスです。</p> <p>このボックスの選択が解除されると、サービス・アイテム・グループへの変更はできなくなります。例えば、ボックスの選択が解除され、提供サービス、配達サービス、およびアイテムを含む作業オーダーから提供サービスが削除されると、作業オーダーそのものがキャンセルされます。また、配達サービスおよびアイテムを含む作業オーダーに提供サービスを追加すると、「VAS00002: Invalid Service Item Group Code」エラーがスローされます。</p> <p><b>注:</b> Yantra 7x または Sterling Supply Chain Applications の旧版から Sterling Selling and Fulfillment Foundation リリース 9.1 へのアップグレードを希望する既存のユーザーが、以前の機能の保持を希望する場合は、このボックスにチェック・マークを付けなくてもください。</p>
<p>受入処理時間の適用時に受入ノードのカレンダーを使用</p>	<p>このルールは、将来の在庫の受入処理時間および ATP ルールの処理時間の算出に、ノードの受入カレンダーを使用するかどうかを指定します。使用しない場合は、システム日数が追加されます。使用する場合は、ノードの受入カレンダー日数が追加されます。</p>
<p>拡張アイテム検証を有効にする</p>	<p>オーダーのアイテム検証を拡張して以下を含める場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 有効日</li> <li>• 最小数量および最大数量</li> <li>• アイテム・ステータス</li> <li>• 顧客の資格</li> <li>• IsSoldSeparately フラグ</li> </ul> <p><b>注:</b> 検証を拡張する前に、アイテム検証を使用可能にしておく必要があります。</p>
<p>廃止が予定されている価格設定機能の使用</p>	<p>Sterling Selling and Fulfillment Foundation リリース 9.1 以前で使用されていて廃止予定の価格設定機能を使用可能にする場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。</p> <p>リリース 9.1 へアップグレードすると、デフォルトでは廃止が予定されている価格設定機能が有効となっています。アップグレード後にこのボックスの選択を解除し、リリース 9.1 の価格設定機能を使用可能にした場合、Applications Manager で価格設定の構成ルールを定義し、Business Center 価格設定管理ガイドの説明に基づいて価格リストを変換します。</p>

表 67. 「インストール・ルール」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
廃止が予定されているデータ・アクセス・ポリシー機能の使用	リリース 9.1 以前で使用されていて廃止予定のデータ・アクセス・ポリシーをアプリケーション全体にわたって使用可能にする場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。  廃止が予定されているデータ・アクセス・ポリシーを特定の API に対して使用可能にする場合は、yfs.properties_ext_ysc.in プロパティを参照してください。 <b>注:</b> この構成の選択解除を有効にするには、アプリケーションを再始動する必要があります。この構成の選択を有効にするには、データベース・キャッシュをクリアする必要があります。ただし、よりよいパフォーマンスのためには、アプリケーションの再始動が推奨されます。
顧客組織からデフォルトのユーザーのエンタープライズ	顧客情報を顧客連絡先と作成する際に、ユーザーのエンタープライズ・コードのデフォルトを顧客の組織コードとする場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。
出荷通知番号の生成	
数値による出荷通知番号を使用	生成された数値を出荷通知番号として使用する場合は、このオプションを選択します。
出荷通知番号の最大長	生成される出荷通知番号の最大長を示します。最大値に到達すると、生成シーケンスはリセットされます。デフォルト値は 9 で、これは許容される最大長です。 <b>注:</b> この制約のため、出荷通知番号は必ずしも一意である保証はありません。
在庫タグ	
タグ管理アイテムの供給合計値と需要合計値を集計および維持する	タグ管理アイテムの供給合計値と需要合計値を集計および維持する場合は、このチェック・ボックスにチェック・マークを付けます。  これにより、在庫の更新時に、タグ記述子とタグ管理アイテムの在庫タグの供給合計フィールドおよび需要合計フィールドが更新されます。
ユーザー ID の表示	
すべてのエンタープライズにわたって「ユーザー ID の表示」の使用を許可します。	各ユーザー ID をデプロイメント内のエンタープライズ全体にわたって使用可能にする場合は、このチェック・ボックスにチェック・マークを付けます。各ユーザー ID をそれぞれのエンタープライズ内で一意とする場合には、このボックスにチェック・マークを付けないでください。

## エージェント条件グループの作成

### このタスクについて

エージェント条件グループを作成するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「アプリケーション・プラットフォーム」を選択します。サイド・パネルに、「アプリケーション・プラットフォーム」ツリーが表示されます。
2. 「アプリケーション・プラットフォーム」ツリーから、「システム管理」>「エージェント条件グループ」を選択します。作業領域に、「エージェント条件グループ」ウィンドウが表示されます。
3.  を選択します。「エージェント条件グループの詳細 (Agent Criteria Group Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



4. 「エージェント条件グループ」に、エージェント条件グループの名前を入力します。
5. 「簡略説明」に、エージェント条件グループの名前を入力します。
6. 「詳細説明」に、エージェント条件グループの短い説明を入力します。
7.  を選択します。

## エージェント条件グループの変更

### このタスクについて

エージェント条件グループを変更するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「アプリケーション・プラットフォーム」を選択します。サイド・パネルに、「アプリケーション・プラットフォーム」ツリーが表示されます。
2. 「アプリケーション・プラットフォーム」ツリーから、「システム管理」>「エージェント条件グループ」を選択します。作業領域に、「エージェント条件グループ」ウィンドウが表示されます。
3. 変更するエージェント条件グループを選択して、 を選択します。「エージェント条件グループの詳細 (Agent Criteria Group Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要な場合、「簡略説明」でエージェント条件グループの名前を変更します。
5. 必要な場合、「詳細説明」でエージェント条件グループの簡略説明を変更します。

6.  を選択します。

## エージェント条件グループの削除

### このタスクについて

エージェント条件グループを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「アプリケーション・プラットフォーム」を選択します。サイド・パネルに、「アプリケーション・プラットフォーム」ツリーが表示されます。
2. 「アプリケーション・プラットフォーム」ツリーから、「システム管理」>「エージェント条件グループ」を選択します。作業領域に、「エージェント条件グループ」ウィンドウが表示されます。
3. 削除するエージェント条件グループを選択して、 を選択します。

---

## 初期コンテキスト・ファクトリー・コードの定義

リモートの Java クライアントが接続できるようにするための、アプリケーション・サーバー用の `InitialContext` の実装を備えたクラスの定義に使用される、追加の初期コンテキストのファクトリー・コードを構成できます。これらのコードは、時間トリガー・トランザクションとサービスの構成時に使用される、初期コンテキスト・ファクトリー・ドロップダウン・フィールドに表示されます。

デフォルトの初期コンテキストのファクトリー・コードとそのクラス名は、以下のとおりです。

- WebSphere MQ — `com.ibm.websphere.naming.WsnInitialContextFactory`
- ファイル — `com.sun.jndi.fscontext.RefFSContextFactory`
- WebLogic — `weblogic.jndi.WLInitialContextFactory`
- JBoss — `org.jnp.interfaces.NamingContextFactory`
- TIBCO — `com.tibco.tibcojms.naming.TibjmsInitialContextFactory`

## 初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成

### このタスクについて

初期コンテキストのファクトリー・コードを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「命名法」>「初期コンテキスト・ファクトリー・コード」を選択します。作業領域に、「初期コンテキスト・ファクトリー・コード」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「初期コンテキスト・ファクトリーの詳細 (Initial Context Factory Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



3. 「初期コンテキスト・ファクトリー」に、このコードに関連付けるクラスの名前を入力します。

注: クラス名が固有でない場合、エラーがスローされます。

4. 「簡略説明」に、ドロップダウン・メニューに表示する初期コンテキストのファクトリー・コードの名前を入力します。
5. 「詳細説明」に、初期コンテキストのファクトリー・コードの簡単な説明を入力します。
6.  を選択します。

## 初期コンテキスト・ファクトリー・コードの変更 このタスクについて

初期コンテキストのファクトリー・コードを変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「命名法」>「初期コンテキスト・ファクトリー・コード」を選択します。作業領域に、「初期コンテキスト・ファクトリー・コード」ウィンドウが表示されます。
2. 変更するコードを選択して、 を選択します。「初期コンテキスト・ファクトリーの詳細 (Initial Context Factory Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、ドロップダウン・メニューに表示する初期コンテキストのファクトリー・コードの名前を入力します。
4. 「詳細説明」に、初期コンテキストのファクトリー・コードの簡単な説明を入力します。
5.  を選択します。

## 初期コンテキスト・ファクトリー・コードの削除 このタスクについて

初期コンテキストのファクトリー・コードを削除するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「命名法」>「初期コンテキスト・ファクトリー・コード」を選択します。作業領域に、「初期コンテキスト・ファクトリー・コード」ウィンドウが表示されます。
2. 削除するコードを選択して、 を選択します。

## ヘルス・モニター・ルールの定義

### このタスクについて

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のヘルスをモニターするために定義する必要のあるルールを設定できます。

ヘルス・モニター・ルールを定義するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. 「アプリケーション・プラットフォーム」ツリーから、「システム管理」>「ヘルス・モニター・ルール」を選択します。作業領域に、「ヘルス・モニター・ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 7 から 16 を参照してください。ヘルス・モニター・エージェントまたはモニターしきい値について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* システム管理ガイド」を参照してください。
3.  を選択します。

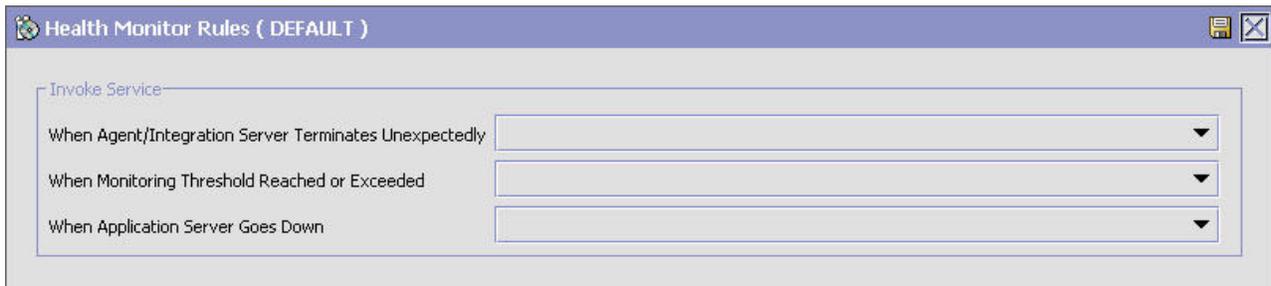


表 68. 「ヘルス・モニター・ルール」ウィンドウ

フィールド	説明
サービスの起動	
エージェント/統合サーバーが予期せずに停止した場合	エージェントまたは統合サーバーが予期せずに停止した場合に実行するサービスを選択します。
モニターしきい値に達した場合またはそれを越えた場合	API の応答時間、アプリケーション・サーバーの応答時間、エージェントの保留タスク、またはメッセージの JMS キュー数のモニターしきい値が、ヘルス・モニターの持続間隔に連続して 3 回達したか、またはそれを越えた場合に実行するサービスを選択します。
アプリケーション・サーバーがダウンした場合	アプリケーション・サーバーがダウンした場合に常に実行するサービスを選択します。

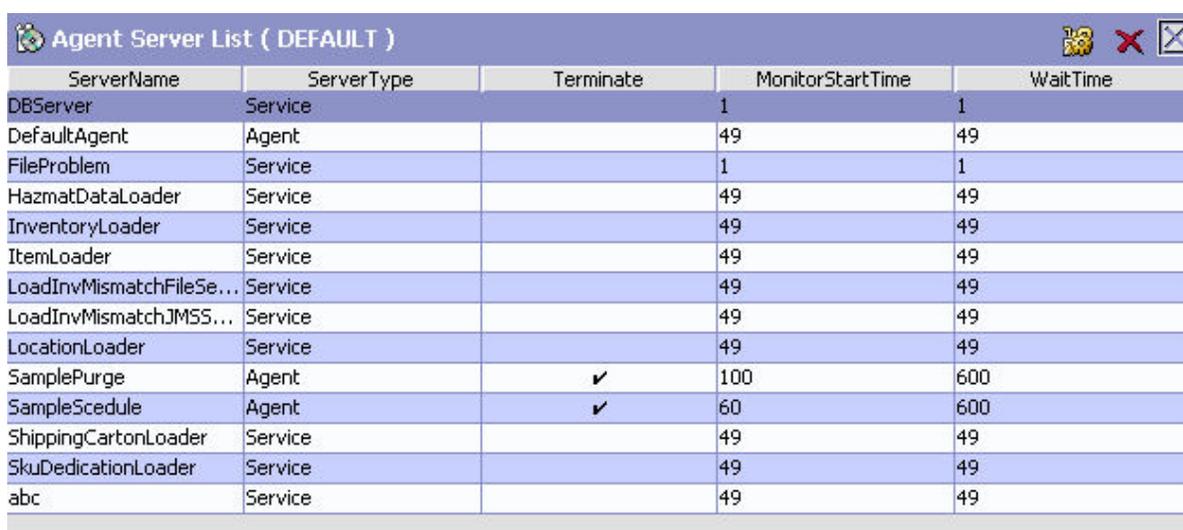
## 構成されているサーバーのリストの表示

### このタスクについて

「エージェント・サーバー・リスト」画面で、エージェントおよびサービス用に構成されたサーバーのリストを表示できます。サーバーのリストを表示するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルの「アプリケーション・プラットフォーム」ツリーから、「システム管理」>「構成済みサーバー」を選択します。以下のように、作業領域に「エージェント・サーバー・リスト」ウィンドウが表示されます。



ServerName	ServerType	Terminate	MonitorStartTime	WaitTime
DBServer	Service		1	1
DefaultAgent	Agent		49	49
FileProblem	Service		1	1
HazmatDataLoader	Service		49	49
InventoryLoader	Service		49	49
ItemLoader	Service		49	49
LoadInvMismatchFileSe...	Service		49	49
LoadInvMismatchJMSS...	Service		49	49
LocationLoader	Service		49	49
SamplePurge	Agent	✓	100	600
SampleSchedule	Agent	✓	60	600
ShippingCartonLoader	Service		49	49
SkuDedicationLoader	Service		49	49
abc	Service		49	49

表 69. エージェント・サーバー・リスト

フィールド	説明
「サーバー名」	エージェント・サーバーの名前。
「サーバーのタイプ」	サーバーのタイプ例えば、「Agent」および「Service」は有効なサーバー・タイプです。
終了	このオプションは、タスクの完了時にサーバーを終了するかどうかを指定します。
モニター開始時刻 (秒)	モニターの開始時刻を指定します。これは、1つの正常な実行もなくサーバーが終了してしまうことがないようにするためです。
待ち時間 (秒)	サーバーを終了するまでのアイドル待ち時間を指定します。

**注:** サーバーを使用するように構成されたサービスまたはエージェントがない場合のみ、サーバーを削除できます。

2. このサーバー用に構成されたサービスまたはエージェントのリストを表示するには、 を選択します。サーバー上で構成されているサービスまたはエージェン

トを表示するには、『サーバーに対して構成されたサブフローまたは条件 ID のリスト』を参照してください。

3. Sterling Selling and Fulfillment Foundation で提供されている出荷時のデフォルトのエージェントは、デフォルトでは「終了」オプションが構成されていません。

## サーバーに対して構成されたサブフローまたは条件 ID のリスト

「サーバーのフロー・リスト (Flow List For Server)」画面では、サーバーに対して構成されているサブフローまたは条件 ID のリストを表示できます。フィールドの詳細については、135 ページの『第 4 章 プロセス・モデルの構成』の『新規サーバーの追加』を参照してください。

---

## アイテム・コンフィギュレーター・プロパティの定義

### このタスクについて

モデル・アイテムの定義時にアイテム・コンフィギュレーターによって生成されるファイルの場所を設定する必要があります。さらに、アイテム・コンフィギュレーターによって使用されるプロパティ・ファイルの場所も定義する必要があります。

アイテム・コンフィギュレーターを設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「アプリケーション・プラットフォーム」ツリーから、「システム管理」>「アイテム・コンフィギュレーター」を選択します。作業領域に、「アイテム・コンフィギュレーター」ウィンドウが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 70 を参照してください。
3.  を選択します。



表 70. 「アイテム・コンフィギュレーター」ウィンドウ

フィールド	説明
モデル・リポジトリ	モデル・リポジトリの場所を指定します。モデル・リポジトリは、モデル・アイテムが Visual Modeler を使用してコンパイルされるときに生成される、コンパイル済み XML ファイルを格納します。ローカルの場所またはネットワークの場所を指定できます。
プロパティ・ファイルの場所	アイテム・コンフィギュレーターによって使用されるプロパティ・ファイルの場所を指定します。

表 70. 「アイテム・コンフィギュレーター」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
ルールの場所	モデル・アイテムがアイテム・コンフィギュレーターを使用して変換されるときに生成される Java ファイルの場所を指定します。これらのファイルは、モデル・アイテムに対するアイテム・コンフィギュレーター・ルールを定義します。

## アプリケーションのバージョンの定義

アプリケーションの修飾子バージョン互換性を定義するために使用する、アプリケーションのバージョンとコードを構成できます。これらのアプリケーション・コードとバージョンは、修飾子バージョン互換性を構成するときに使用される「アプリケーション・コード」ドロップダウン・フィールドに表示されます。

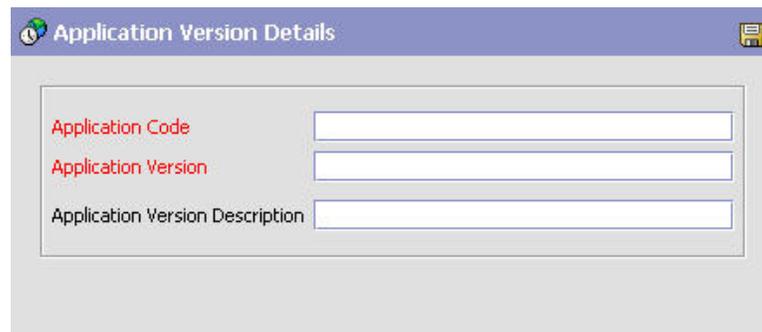
## アプリケーションのバージョンの作成

### このタスクについて

アプリケーションのバージョンを作成するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「システム管理」> 「アプリケーションのバージョン」を選択します。作業領域に、「アプリケーションのバージョン」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「アプリケーション・バージョンの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Application Version Details". It has a title bar with a clock icon on the left and a save icon on the right. The main area contains three input fields with labels in red text: "Application Code", "Application Version", and "Application Version Description". Each label is followed by a text input box.

3. 「アプリケーション・コード」に、ドロップダウン・メニューに表示する、アプリケーションに関連付けられたコードを入力します。これは必須フィールドです。
4. 「アプリケーションのバージョン」に、ドロップダウン・メニューに表示する、アプリケーションのバージョンを入力します。これは必須フィールドです。
5. 「アプリケーション・バージョンの説明」に、アプリケーションのバージョンの簡単な説明を入力します。
6.  を選択します。

## アプリケーションのバージョンの変更 このタスクについて

アプリケーションのバージョンを変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「システム管理」> 「アプリケーションのバージョン」を選択します。作業領域に、「アプリケーションのバージョン」ウィンドウが表示されます。
2. 変更するコードを選択して、 を選択します。「アプリケーション・バージョンの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「アプリケーション・バージョンの説明」に、アプリケーションのバージョンの簡単な説明を入力します。
4.  を選択します。

## アプリケーションのバージョンの削除 このタスクについて

アプリケーションのバージョンを削除するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「システム管理」> 「アプリケーションのバージョン」を選択します。作業領域に、「アプリケーションのバージョン」ウィンドウが表示されます。
2. 削除するアプリケーション・コードを選択して、 を選択します。



---

## 第 7 章 単位の構成

単位を定義すると、アイテムやロケールに関連付ける標準単位をセットアップできます。単位を定義することで、各ユーザーには見慣れた形式でデータが表示されます。

---

### 数量の単位の作成

#### このタスクについて

数量の単位を作成するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「数量」を選択します。作業領域に、「数量単位」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「単位コード」に、単位を入力します。
4. 「単位の説明」に、単位の簡単な説明を入力します。
5.  を選択します。

---

### 数量単位の変更

#### このタスクについて

数量単位を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「数量」を選択します。作業領域に、「数量単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「単位の説明」に、単位の簡単な説明を入力します。
4.  を選択します。

---

### 数量の単位変換率の作成

#### このタスクについて

数量の単位変換を作成するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「数量」を選択します。作業領域に、「数量単位」ウィンドウが表示されます。

2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3.  を選択します。「単位変換の詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 「変換後」から、指定の変換率で変換した後の単位を選択します。
5. 「変換率」に、「変換前」から「変換後」の間で使用する変換率を入力します。
6.  を選択します。

---

## 数量単位の変換率の変更

### このタスクについて

数量単位の変換を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「数量」を選択します。作業領域に、「数量単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 該当する変換率を選択して、 を選択します。「単位変換の詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 「変換率」に、「変換前」から「変換後」の間で使用する変換率を入力します。
5.  を選択します。

---

## 数量単位変換率の削除

### このタスクについて

数量単位変換を削除する手順は、次のとおりです。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「数量」を選択します。作業領域に、「数量単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 該当する変換率を選択して、 を選択します。

---

## 数量単位の削除

### このタスクについて

数量単位を削除する手順は、次のとおりです。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「数量」を選択します。作業領域に、「数量単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。

---

## サービス数量の単位の作成

### このタスクについて

サービス数量の単位を作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「サービス数量」を選択します。作業領域に、「サービス数量単位」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「単位コード」に、単位を入力します。
4. 「単位の説明」に、単位の簡単な説明を入力します。
5.  を選択します。

---

## サービス数量単位の変更

### このタスクについて

サービス数量単位を変更するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「サービス数量」を選択します。作業領域に、「サービス数量単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「単位の説明」に、単位の簡単な説明を入力します。
4.  を選択します。

---

## サービス数量の単位変換率の作成

### このタスクについて

サービス数量の単位変換を作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「サービス数量」を選択します。作業領域に、「サービス数量単位」ウィンドウが表示されます。

2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3.  を選択します。「単位変換の詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 「変換後」から、指定の変換率で変換した後の単位を選択します。
5. 「変換率」に、「変換前」から「変換後」の間で使用する変換率を入力します。
6.  を選択します。

---

## サービス数量単位の変換率の変更

### このタスクについて

サービス数量単位の変換を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「サービス数量」を選択します。作業領域に、「サービス数量単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 該当する変換率を選択して、 を選択します。「単位変換の詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 「変換率」に、「変換前」から「変換後」の間で使用する変換率を入力します。
5.  を選択します。

---

## サービス数量単位変換率の削除

### このタスクについて

サービス数量単位変換を削除する手順は、次のとおりです。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「サービス数量」を選択します。作業領域に、「サービス数量単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 該当する変換率を選択して、 を選択します。

---

## サービス数量単位の削除

### このタスクについて

サービス数量単位を削除する手順は、次のとおりです。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「サービス数量」を選択します。作業領域に、「サービス数量単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。

---

## 寸法の単位の作成

### このタスクについて

寸法の単位を作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「寸法」を選択します。作業領域に、「寸法単位」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「単位コード」に、単位を入力します。
4. 「単位の説明」に、単位の簡単な説明を入力します。
5. 「容積単位コード」から、この寸法の容積測定に対応する容積単位を選択します。例えば、寸法単位がインチの場合は「立方インチ」を選択します。
6.  を選択します。

---

## 寸法単位の変更

### このタスクについて

寸法単位を変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「寸法」を選択します。作業領域に、「寸法単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「単位の説明」に、単位の簡単な説明を入力します。
4.  を選択します。

---

## 寸法の単位変換率の作成

### このタスクについて

寸法の単位変換を作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「寸法」を選択します。作業領域に、「寸法単位」ウィンドウが表示されます。

2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3.  を選択します。「単位変換の詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 「変換後」から、指定の変換率で変換した後の単位を選択します。
5. 「変換率」に、「変換前」から「変換後」の間で使用する変換率を入力します。
6.  を選択します。

---

## 寸法単位の変換率の変更

### このタスクについて

寸法単位の変換を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「寸法」を選択します。作業領域に、「寸法単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 該当する変換率を選択して、 を選択します。「単位変換の詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 「変換率」に、「変換前」から「変換後」の間で使用する変換率を入力します。
5.  を選択します。

---

## 寸法単位変換率の削除

### このタスクについて

寸法単位変換を削除する手順は、次のとおりです。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「寸法」を選択します。作業領域に、「寸法単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 該当する変換率を選択して、 を選択します。

---

## 寸法単位の削除

### このタスクについて

寸法単位を削除する手順は、次のとおりです。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「寸法」を選択します。作業領域に、「寸法単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。

---

## 容積の単位の作成

### このタスクについて

容積の単位を作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「容積」を選択します。作業領域に、「容積単位」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「単位コード」に、単位を入力します。
4. 「単位の説明」に、単位の簡単な説明を入力します。
5.  を選択します。

---

## 容積単位の変更

### このタスクについて

容積単位を変更するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「容積」を選択します。作業領域に、「容積単位」ウィンドウが表示されます。
2. 変更対象として該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「単位の説明」に、単位の簡単な説明を入力します。
4.  を選択します。

---

## 容積の単位変換率の作成

### このタスクについて

容積の単位変換率を作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「容積」を選択します。作業領域に、「容積単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。

3.  を選択します。「単位変換の詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 「変換後」から、指定の変換率で変換した後の単位を選択します。
5. 「変換率」に、「変換前」から「変換後」の間で使用する変換率を入力します。
6.  を選択します。

---

## 容積単位の変換率の変更

### このタスクについて

容積単位の変換を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「容積」を選択します。作業領域に、「容積単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 該当する変換率を選択して、 を選択します。「単位変換の詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 「変換率」に、「変換前」から「変換後」の間で使用する変換率を入力します。
5.  を選択します。

---

## 容積単位変換率の削除

### このタスクについて

容積単位変換を削除する手順は、次のとおりです。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「容積」を選択します。作業領域に、「容積単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 該当する変換率を選択して、 を選択します。

---

## 容積単位の削除

### このタスクについて

容積単位を削除する手順は、次のとおりです。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「容積」を選択します。作業領域に、「容積単位」ウィンドウが表示されます。

2. 該当する単位を選択して、 を選択します。

---

## 重量の単位の作成

### このタスクについて

重量の単位を作成するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「重量」を選択します。作業領域に、「重量単位」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「単位コード」に、単位を入力します。
4. 「単位の説明」に、単位の簡単な説明を入力します。
5.  を選択します。

---

## 重量単位の変更

### このタスクについて

重量単位を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「重量」を選択します。作業領域に、「重量単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「単位の説明」に、単位の簡単な説明を入力します。
4.  を選択します。

---

## 重量の単位変換率の作成

### このタスクについて

重量の単位変換を作成するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「重量」を選択します。作業領域に、「重量単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3.  を選択します。「単位変換の詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 「変換後」から、指定の変換率で変換した後の単位を選択します。

5. 「変換率」に、「変換前」から「変換後」の間で使用する変換率を入力します。
6.  を選択します。

---

## 重量単位の変換率の変更

### このタスクについて

重量単位の変換を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「重量」を選択します。作業領域に、「重量単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 該当する変換率を選択して、 を選択します。「単位変換の詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 「変換率」に、「変換前」から「変換後」の間で使用する変換率を入力します。
5.  を選択します。

---

## 重量単位変換率の削除

### このタスクについて

重量単位変換を削除する手順は、次のとおりです。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「重量」を選択します。作業領域に、「重量単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 該当する変換率を選択して、 を選択します。

---

## 重量単位の削除

### このタスクについて

重量単位を削除する手順は、次のとおりです。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「重量」を選択します。作業領域に、「重量単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。

---

## 時間の単位の作成

### このタスクについて

時間の単位を作成するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「時間」を選択します。作業領域に、「時間単位」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「単位コード」に、単位を入力します。
4. 「単位の説明」に、単位の簡単な説明を入力します。
5.  を選択します。

---

## 時間単位の変更

### このタスクについて

時間単位を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「時間」を選択します。作業領域に、「時間単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「単位の説明」に、単位の簡単な説明を入力します。
4.  を選択します。

---

## 時間の単位変換率の作成

### このタスクについて

時間の単位変換を作成するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「時間」を選択します。作業領域に、「時間単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3.  を選択します。「単位変換の詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 「変換後」から、指定の変換率で変換した後の単位を選択します。
5. 「変換率」に、「変換前」から「変換後」の間で使用する変換率を入力します。
6.  を選択します。

---

## 時間単位の変換率の変更

### このタスクについて

時間単位の変換率を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「時間」を選択します。作業領域に、「時間単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 該当する変換率を選択して、 を選択します。「単位変換の詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 「変換率」に、「変換前」から「変換後」の間で使用する変換率を入力します。
5.  を選択します。

---

## 時間単位変換率の削除

### このタスクについて

時間単位変換を削除する手順は、次のとおりです。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「時間」を選択します。作業領域に、「時間単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位変換の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 該当する変換率を選択して、 を選択します。

---

## 時間単位の削除

### このタスクについて

時間単位を削除する手順は、次のとおりです。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「単位」>「時間」を選択します。作業領域に、「時間単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。

---

## 第 8 章 国際化対応のルール構成

国際化対応のルールは、海外向け用途の Sterling Selling and Fulfillment Foundation の機能の作成に関連したルールと共通コードのセットアップに使用されます。

---

### 国または地域コードの定義

以下の共通コードをセットアップするには、「国」ブランチを使用できます。

- 国または地域コード。この共通コードは、ロケールがある国または地域を示します。以下に示すのは、国または地域コードの例です。
  - US (米国)
  - FR (フランス)
  - GB (英国)
- 短い郵便番号の正規表現。この共通コードは、長い郵便番号を単純化された形式に変換します。短い ZIP コード形式は、レポート、ソーシング、およびリソース・プールなどの機能の、最良の地域スキーマ照合のメカニズムにより使用されます。 T

### 国または地域コード定義の作成

#### このタスクについて

国または地域コード定義を作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」> 「国」を選択します。作業領域に、「国/地域コード」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「国/地域の詳細 (Country/Region Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「国/地域」に、2 文字の国または地域コード定義を入力します。

**注:** 国または地域コードは、International Standard Organization (ISO) の仕様 (ISO 3166-1 文書に記載されている 2 文字のコード) に従う必要があります。

4. 「簡略説明」に、国または地域コード定義の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、国または地域コード定義の詳細な説明を入力します。
6. 「短い郵便番号の正規表現」に、国または地域に対する短い郵便番号の正規表現を入力します。正規表現でグループ化を指定した場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、郵便番号を最初の括弧の中の正規表現と突き合わせて短い郵便番号を定義します。一方、グループ化が指定されていない場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は正規表現全体と一致する先頭の数文字を使用します。例えば、郵便番号が 5 文字の場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は先頭の 5 文字を正規表現と突き合わせます。正規表現について詳しくは、`java.util.regex.Pattern` クラスの Javadoc を参照してください。

注: エスケープ処理が必要な文字をあまりに多く含む正規表現を入力した場合、データベース・エラーが発生することがあります。POSIX 文字クラスは長すぎてデータベースの制限を越えることがあるため、Sterling Selling and Fulfillment Foundation では代替の使用が推奨されています。

7.  を選択します。

## 国または地域コードの定義の変更

### このタスクについて

国または地域コードの定義を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」> 「国」を選択します。作業領域に、「国/地域コード」ウィンドウが表示されません。
2. 該当する国または地域コードの定義を選択し、 を選択します。「国/地域の詳細 (Country/Region Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、国または地域コード定義の簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、国または地域コード定義の詳細な説明を入力します。
5. 「短い郵便番号の正規表現」に、国または地域に対する短い郵便番号の正規表現を入力します。正規表現でグループ化を指定した場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、郵便番号を最初の括弧の中の正規表現と突き合わせて短い郵便番号を定義します。一方、グループ化が指定されていない場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は正規表現全体と一致する先頭の数文字を使用します。例えば、郵便番号が 5 文字の場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は先頭の 5 文字を正規表現と突き合わせます。正規表現について詳しくは、`java.util.regex.Pattern` クラスの Javadoc を参照してください。

注: エスケープ処理が必要な文字をあまりに多く含む正規表現を入力した場合、データベース・エラーが発生することがあります。POSIX 文字クラスは長すぎてデータベースの制限を越えることがあるため、Sterling Selling and Fulfillment Foundation では代替の使用が推奨されています。

6.  を選択します。

## 国または地域コードの定義の削除

### このタスクについて

国または地域コードの定義を削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」> 「国」を選択します。作業領域に、「国/地域コード」ウィンドウが表示されません。
2. 該当する国または地域コードの定義を選択し、 を選択します。

## 言語コードの定義

ロケールのセットアップ時に使用される言語定義の共通コードをセットアップできます。この共通コードは、ロケールで使用される言語を識別します。言語定義は作成、変更、および削除できます。

以下に示すのは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトの言語定義です。

- EN (英語)

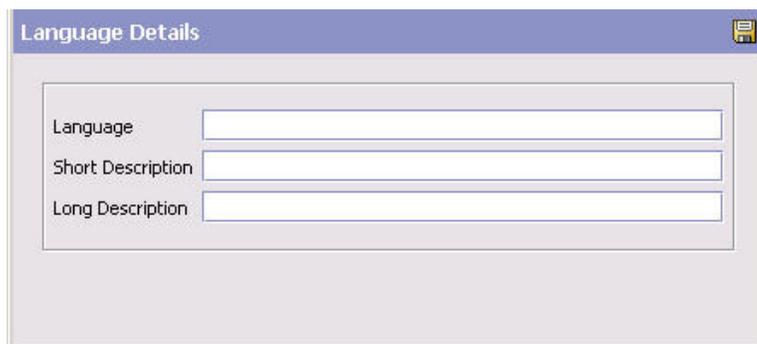
## 言語定義の作成

### このタスクについて

言語定義を作成するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」>「言語」を選択します。作業領域に、「言語コード」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「言語定義の詳細 (Language Definition Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Language Details". It has a title bar with a close button on the right. The main area contains three text input fields labeled "Language", "Short Description", and "Long Description".

3. 「言語定義」に、2 文字の言語定義を入力します。

**注:** 言語定義は、International Standard Organization (ISO) の仕様 (ISO 639 文書に記載されている 2 文字のコード) に従う必要があります。

4. 「簡略説明」に、言語定義の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、言語定義の詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

## 言語定義の変更

### このタスクについて

言語定義を変更するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」>「言語」を選択します。作業領域に、「言語コード」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する言語定義を選択して、 を選択します。「言語定義の詳細 (Language Definition Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、言語定義の簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、言語定義の詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

## 言語定義の削除

### このタスクについて

言語定義を削除するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」>「言語」を選択します。作業領域に、「言語コード」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する言語定義を選択して、 を選択します。

---

## 日付形式の定義

ロケールのセットアップ時に使用する日付形式の共通コード形式をセットアップできます。この共通コード形式は、ロケールで日付を入力する方法を示します。日付形式は作成、変更、および削除できます。

以下に示すのは、日付形式の例です。

- MM/dd/yyyy
- dd/MM/yyyy

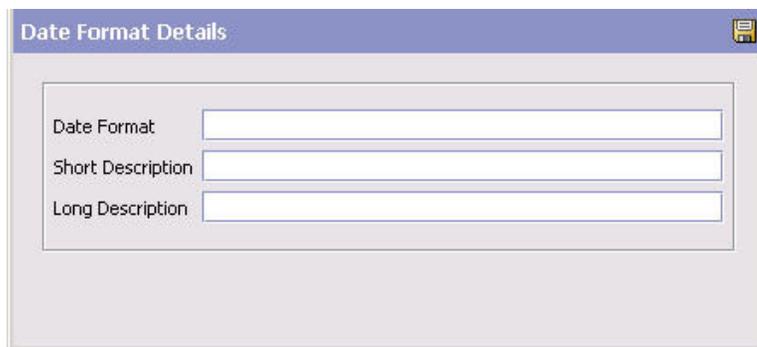
## 日付形式の作成

### このタスクについて

日付形式を作成するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」>「日付形式」を選択します。作業領域に、「日付形式」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「日付形式の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



3. 「日付形式」に、日付形式を入力します。月を表すには「M」、日付を表すには「d」、そして年を表すには「y」を使用します。
4. 「簡略説明」に、日付形式の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、日付形式の詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

## 日付形式の変更

### このタスクについて

日付形式を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」> 「日付形式」を選択します。作業領域に、「日付形式」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する日付形式を選択して、 を選択します。「日付形式の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、日付形式の簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、日付形式の詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

## 日付形式の削除

### このタスクについて

日付形式を削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」> 「日付形式」を選択します。作業領域に、「日付形式」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する日付形式を選択して、 を選択します。

## 時刻形式の定義

ロケールのセットアップ時に使用する時刻形式の共通コード形式をセットアップできます。この共通コード形式は、ロケールで時刻を入力する方法を示します。時刻形式は作成、変更、および削除できます。

注: Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、Java 時刻/日付規則を使用します。例えば、時に hh を入力すると、12 時間クロックの使用を示すこととなります。時に HH を入力すると、24 時間クロックの使用を示すこととなります。ただし、アプリケーションは 24 時間クロックのみをサポートします。

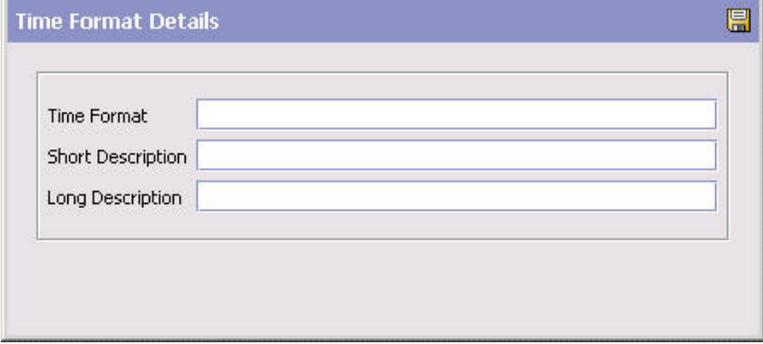
## 時刻形式の作成

### このタスクについて

時刻形式を作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」> 「時刻形式」を選択します。作業領域に、「時刻形式」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「時刻形式の詳細 (Time Format Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Time Format Details". It contains three text input fields: "Time Format", "Short Description", and "Long Description".

3. 「時刻形式」に、時刻形式を入力します (時間は「H」、分は「m」、および秒は「s」で表します)。
4. 「簡略説明」に、時刻形式の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、時刻形式の詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

## 時刻形式の変更

### このタスクについて

時刻形式を変更するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」>「時刻形式」を選択します。作業領域に、「時刻形式」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する時刻形式を選択して、 を選択します。「時刻形式の詳細 (Time Format Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、時刻形式の簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、時刻形式の詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

## 時刻形式の削除

### このタスクについて

時刻形式を削除するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」>「時刻形式」を選択します。作業領域に、「時刻形式」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する時刻形式を選択して、 を選択します。

---

## 日時形式の定義

ロケールのセットアップ時に使用する日時形式の共通コード形式をセットアップできます。この共通コード形式は、ロケールで日時を入力する方法を示します。日/時刻形式は作成、変更、および削除できます。

注: Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、Java 時刻/日付規則を使用します。例えば、時に hh を入力すると、12 時間クロックの使用を示すこととなります。時に HH を入力すると、24 時間クロックの使用を示すこととなります。ただし、アプリケーションは 24 時間クロックのみをサポートします。

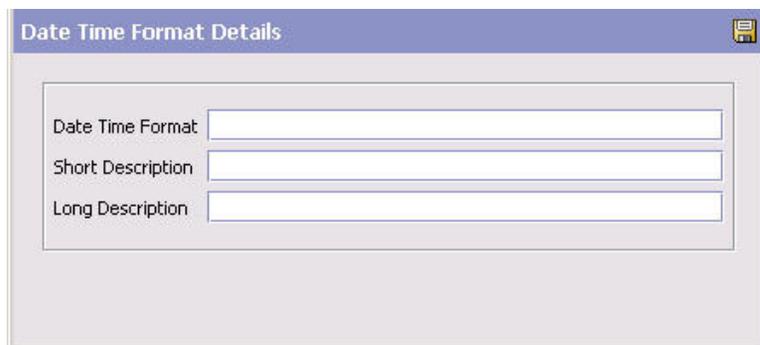
## 日時形式の作成

### このタスクについて

日時形式を作成するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」>「日時形式」を選択します。作業領域に、「時刻形式」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「日時形式の詳細 (Date/Time Format Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



3. 「日時形式」に、日時形式を入力します。月を表すには「M」、日付を表すには「d」、年を表すには「y」、時を表すには「h」、分を表すには「m」、そして秒を表すには「s」を使用します。
4. 「簡略説明」に、日時形式の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、日時形式の詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

## 日時形式の変更

### このタスクについて

日時形式を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」> 「日時形式」を選択します。作業領域に、「時刻形式」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する日時形式を選択して、 を選択します。「日時形式の詳細 (Date/Time Format Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、日時形式の簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、日時形式の詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

## 日時形式の削除

### このタスクについて

日時形式を削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」> 「日時形式」を選択します。作業領域に、「時刻形式」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する日時形式を選択して、 を選択します。

## 通貨の定義の定義

通貨定義は、各通貨の記号を定義し、該当する場合はユーロ通貨加盟国と有効期限日付を示します。オーダーの通貨換算およびユーロ変換のルールを設定することもできます。

ユーロ通貨は、ヨーロッパのすべての国を 1 つの定義通貨に変換する計画の一端を成しています。以下の国は、2003 年 8 月からユーロをその通貨として使用しています。

- オーストリア
- ベルギー
- フィンランド
- フランス
- ドイツ
- アイルランド
- イタリア
- ルクセンブルグ
- オランダ
- ポルトガル
- スペイン

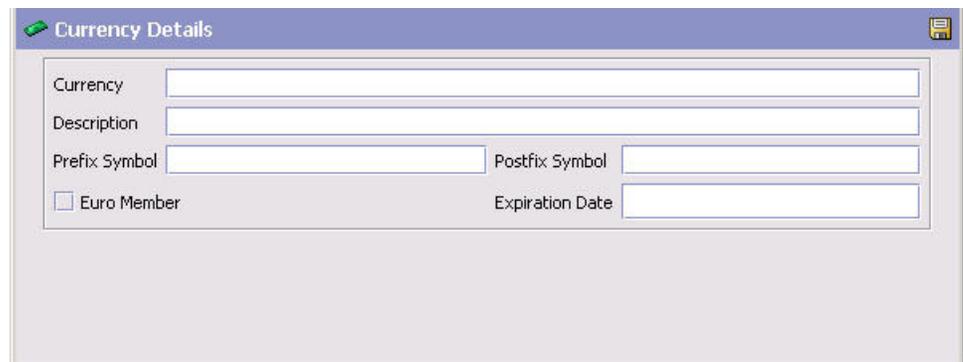
## 通貨定義の作成

### このタスクについて

通貨定義を作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」> 「通貨定義」を選択します。作業領域に、「通貨定義」ウィンドウが表示されず。
2.  を選択します。「通貨の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。
4.  を選択します。



Currency			
Description			
Prefix Symbol		Postfix Symbol	
<input type="checkbox"/> Euro Member	Expiration Date		

表 71. 「通貨の詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
通貨	通貨の名前を入力します。
説明	通貨の短い説明を入力します。
接頭辞記号	通貨の金額の前に置く記号を入力します (必要な場合)。
接尾辞記号	通貨の金額の後に置く記号を入力します (必要な場合)。
ユーロ加盟国	通貨がユーロ加盟国の通貨である場合は、このチェック・ボックスを選択します。
有効期限	「ユーロ加盟国」が選択されている場合、通貨が無効になる日付を入力します。例えば、当初のユーロ加盟国 11 カ国のうち 1 カ国の通貨定義を作成している場合、「01/01/2002」と入力します。

## 通貨定義の変更

### このタスクについて

通貨定義を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」> 「通貨定義」を選択します。作業領域に、「通貨定義」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する通貨定義を選択して、 を選択します。「通貨の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。
4.  を選択します。

## 通貨定義の削除

### このタスクについて

通貨定義を削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」> 「通貨定義」を選択します。作業領域に、「通貨定義」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する通貨定義を選択して、 を選択します。

## デフォルトの換算レート・レポートおよびユーロ通貨コードの定義

### このタスクについて

デフォルトの換算レート・レポートおよびユーロ通貨コードを定義するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」>「通貨定義」を選択します。作業領域に、「通貨定義」ウィンドウが表示されず。
2. 「デフォルトの換算レート・レポート」にチェックを付けると、オーダー作成時の換算レート・レポートがデフォルトとして設定されます。
3. 「ユーロ通貨コード」から、換算でユーロ通貨を表す通貨を選択します (該当する場合)。

---

## 通貨換算の定義

「通貨換算」では、通貨間の為替レートをセットアップできます。

為替レートは、組織が使用する、それぞれのロケールで定義されている通貨間での変換に使用されます。為替レートは、オーダー伝票種別の作成時にその一部として格納されます。格納された為替レートは、変動通貨市場に基づいて見直しができます。または明細のキャンセル、数量の追加、料金の追加などのオーダーの価格の変更時にはいつでも見直しができます。

## 通貨換算の作成

### このタスクについて

通貨換算を作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」>「通貨換算」を選択します。作業領域に、「通貨換算」ウィンドウが表示されず。
2.  を選択します。「通貨換算の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 7 から 18 を参照してください。
4.  を選択します。

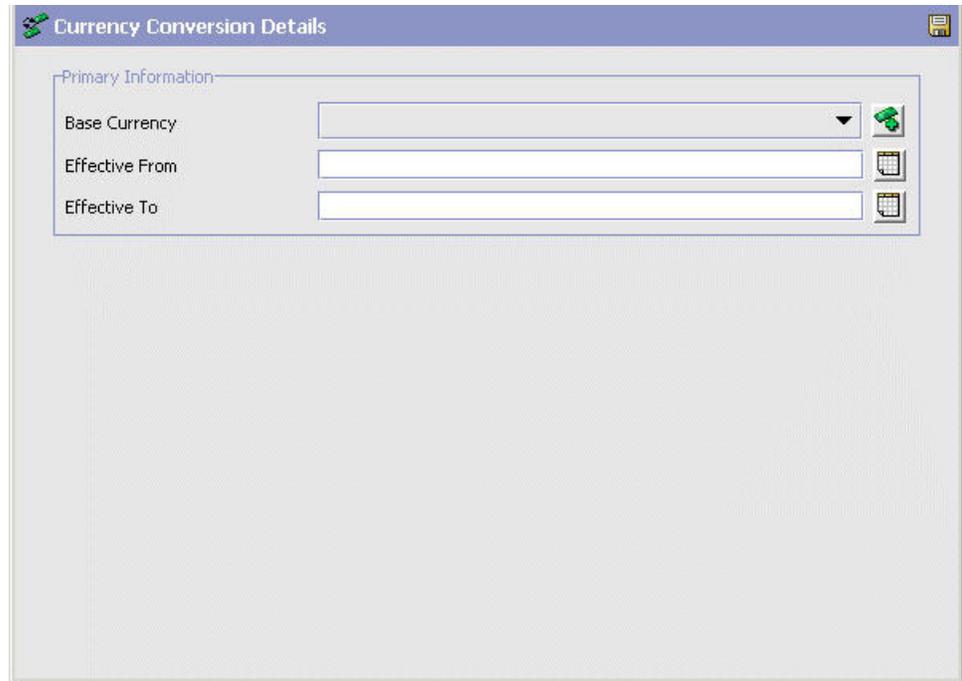


表 72. 通貨換算の詳細

フィールド	説明
基軸通貨	変換の基準とする通貨を選択します。
有効開始	交換レートの有効期間の開始日を入力します。
有効終了	交換レートの有効期間の終了日を入力します。
他の通貨	基軸通貨との変換に使用する通貨を選択します。
基準からの換算レート	基軸通貨から他の通貨への換算レートを入力します。
基準への換算レート	他の通貨から基軸通貨への換算レートを入力します。

## 通貨換算の変更

### このタスクについて

通貨換算を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」> 「通貨換算」を選択します。作業領域に、「通貨換算」ウィンドウが表示されません。
2. 該当する通貨換算を選択して、 を選択します。「通貨換算の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 7 から 18 を参照してください。
4.  を選択します。

## 通貨換算の削除

### このタスクについて

通貨換算を削除するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「国際化対応」>「通貨換算」を選択します。作業領域に、「通貨換算」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する通貨換算を選択して、 を選択します。



---

## 第 9 章 プレゼンテーション・コンポーネントの構成

プレゼンテーション・フレームワークは、グラフィカル・ユーザー・インターフェースをカスタマイズできるインターフェースを提供します。

---

### ロケールの定義

ロケールをセットアップし、それらをハブ内の複数の組織およびユーザーに関連付けることができます。ロケールはハブによってのみ確立されます。ロケールは、地理的領域内の人と明確な方法で通信し、ビジネス・トランザクションを実行できるようにする、一連の標準を定義します。例えば、ロケールは、特定の地理的領域の固有のタイム・ゾーン、言語、日時形式、通貨、および単位を定義します。

ロケール標準により、海外向け組織は、グローバルに対話したり、トランザクション時の UOM、通貨換算、およびタイム・ゾーン計算を確実に考慮に入れたりできます。例えば、サンフランシスコと東京の組織の以下のロケール定義により、それらの組織は相互にビジネス・トランザクションを行うことができます。

図 26. サンフランシスコ、米国

- ロケール - カリフォルニア
- 国/地域 - 米国
- 言語 - 英語
- 日時 - DD/MM/YYYY、HH:MM:SS
- タイム・ゾーン - GMT-8:00
- 通貨 - ドル
- 単位 - インチ/ポンド

図 27. 東京、日本

- ロケール - 東京
- 国/地域 - 日本
- 言語 - 日本語
- 日時 - DD/MM/YYYY、HH:MM:SS
- タイム・ゾーン - GMT+9:00
- 通貨 - 円
- 単位 - メートル/キログラム

### ロケールの作成

#### このタスクについて

ロケールを作成するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「ロケール」を選択します。作業領域に、「ロケール」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「ロケールの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。詳しくは、表 73 を参照してください。
4.  を選択します。

表 73. 「ロケールの詳細」ウィンドウ

フィールド	説明
ロケール・コード	Sterling Selling and Fulfillment Foundation で表示するロケール名を入力します。スペースを含めることはできません。国/地域と言語の入力をアンダースコアで結合した構文を推奨します。例えば、カナダ・フランス語を表すには fr_CA を使用します。
ロケールの説明	ロケールの短い説明を入力します。
国/地域	国または地域を選択します。大文字 2 文字の ISO-3166 コードの使用を推奨します。例えば、カナダに対しては CA と入力します。
タイム・ゾーン	ロケールのタイム・ゾーンを選択します。
バリエント	ロケールのバリエントを入力します。
言語	ロケールで話されている言語を選択します。小文字 2 文字の ISO-639 コードの使用を推奨します。例えば、フランス語に対しては fr と入力します。
通貨	ロケールで使用されている通貨を選択します。
寸法単位	ロケールで寸法に使用している単位を選択します。
容積単位	ロケールで容積に使用している単位を選択します。
重量単位	ロケールで重量に使用している単位を選択します。
日時形式	
日時形式	ロケールで使用されている日時形式を選択します。
日付形式	ロケールで使用されている日付形式を選択します。
月表示日付形式	月を表示するときに使用する日付形式を選択します。
曜日祝日表示の日付形式	曜日を表示するときに使用する日付形式を選択します。
時刻形式	ロケールで使用されている時刻形式を選択します。
時/分の時刻形式	時と分で構成される時刻を表示するときに使用する時刻形式を選択します。
日/時/分形式	日付と、(時と分で構成される) 時刻を表示するときに使用する日時形式を選択します。
クライアントの時刻形式	ロケールで使用されている時刻形式を選択します。これは、AM/PM 時刻形式もサポートします。 <b>注:</b> このフィールドは、リッチ・クライアント・プラットフォーム・アプリケーションに対してのみ適用されます。

表 73. 「ロケールの詳細」 ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
クライアントの日時形式	ロケールで使用されている日時形式を選択します。これは、AM/PM 時刻形式もサポートします。 注: このフィールドは、リッチ・クライアント・プラットフォーム・アプリケーションに対してのみ適用されます。

## ロケールの変更

### このタスクについて

ロケールを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「ロケール」を選択します。作業領域に、「ロケール」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するロケールを選択して、 を選択します。「ロケールの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。詳しくは、300 ページの表 73 を参照してください。
4.  を選択します。

## ロケールの削除

### このタスクについて

ロケールを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「ロケール」を選択します。作業領域に、「ロケール」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するロケールを選択して、 を選択します。

---

## メニューの定義

ユーザーに表示されるメニュー (および画面構成) を定義できます。メニュー構成には、標準 Sterling Selling and Fulfillment Foundation リソースと、リソースの構成時に定義するリソースが含まれます。

すべてのメニューは、1 つのメニュー・グループにグループ化されます。デフォルトのメニュー・グループには、アプリケーション・コンソールの標準メニュー構成が含まれます。

それ以外のアプリケーションは追加できません。

このデフォルト・グループは、デフォルトの管理者ユーザーにリンクされます。独自のユーザーを作成する際には、このメニュー・グループを再利用することも、まったく新しいメニュー・グループを作成することもできます。独自のカスタム・メニューには、さまざまメニュー項目を含めることができます。

## メニュー・グループを新規メニュー分類として保存

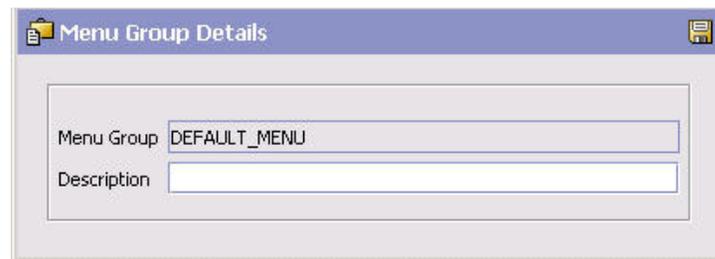
### このタスクについて

既存のメニュー・グループをカスタマイズ可能な新規メニュー・グループとして保存できます。

メニュー・グループを新規メニュー分類として保存するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」 > 「メニュー」 を選択します。作業領域に、「メニュー階層」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するメニュー・グループを選択して、 を選択します。「メニュー・グループの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



3. リソース・バンドルで使用されているリソース・キーを使用して、「メニュー・グループ」にメニュー・グループ名を入力します。
4. 「説明」には、メニュー階層インターフェースで表示させるメニュー・グループ名を入力します。
5.  を選択します。

## アプリケーション・メニューの詳細の変更

### このタスクについて

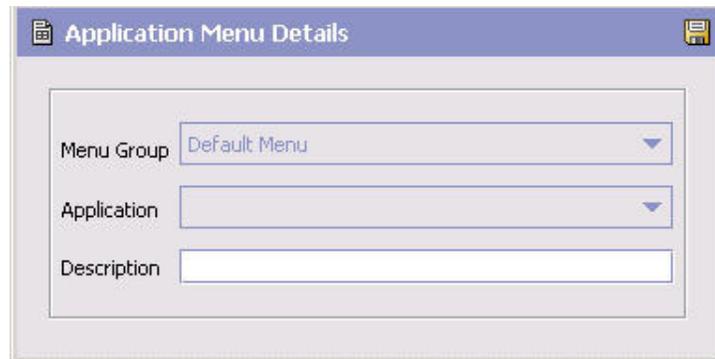
メニュー階層に表示されることを想定して、アプリケーション・メニューの名前を変更できます。

アプリケーション・メニューの詳細を変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」 > 「メニュー」 を選択します。作業領域に、「メニュー階層」ウィンドウが表示されます。

2. 必要なメニュー・グループ・ブランチを展開します。
3. 該当するアプリケーション・メニューを選択して、 を選択します。「アプリケーション・メニューの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



4. 「説明」に、メニュー階層インターフェースに表示するアプリケーション・メニューの名前を入力します。
5.  を選択します。

## メニュー項目の定義

メニュー階層には、ユーザーに提供できるすべての可能なメニュー項目のリストが含まれています。メニュー項目は作成、変更、および削除できます。

### メニュー項目の作成

#### このタスクについて

メニュー項目を作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「メニュー」を選択します。作業領域に、「メニュー階層」ウィンドウが表示されます。
2. 必要なメニュー・グループ・ブランチを展開します。
3. 必要なアプリケーション・メニューを展開します。
4.  を選択します。「メニュー項目の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、「メニュー項目の詳細」ポップアップ・ウィンドウの表を参照してください。
6.  を選択します。

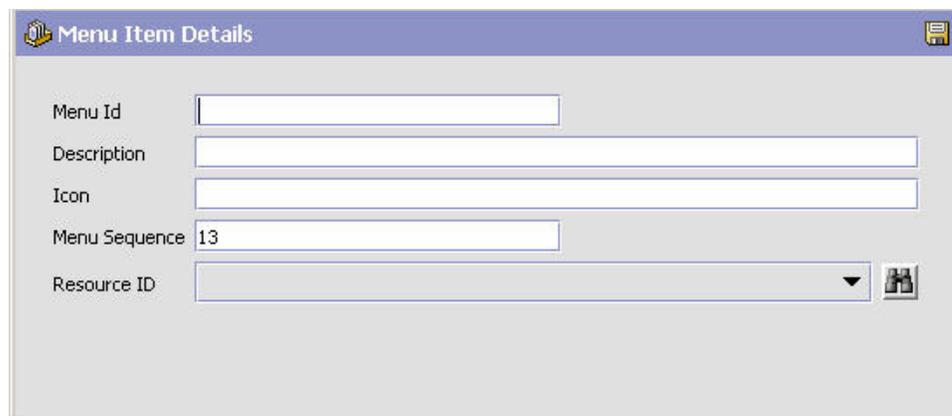


表 74. 「メニュー項目の詳細」ポップアップ・ウィンドウ

コントロール	説明
メニュー ID	このメニュー・オプションの値 ID を入力します。
説明	リソース・バンドルに格納されたスクリーン内のリテラルに関連付ける値を入力します。
アイコン	<p>メニュー項目に関連付けるイメージがある場合、相対パスを入力を入力します。イメージはイメージ .jar ファイルから取得されます。イメージは次のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デフォルトのアイコンは、&lt;INSTALL_DIR&gt;/jar/&lt;install_dir_name&gt;/&lt;version&gt;/scfoundationiconsbe.jar ファイルにあります。この .jar ファイルの中の多くのアイコンは、&lt;INSTALL_DIR&gt;/repository/eardata/smcfs/war/console/icons ディレクトリーにあります。</li> </ul> <p>このイメージは、UI ではテキストの前に表示されます。</p>
メニュー・シーケンス	メニュー項目のメニュー・シーケンスを入力します。このシーケンス番号は、1 つのレベルの中でメニューが表示される順序を指定するために使用します。メニュー・シーケンスを変更することで、順番を入れ替えることができます。
リソース ID	<p>メニュー項目のリソース ID を入力します。</p> <p>メニューがエンティティのリソース ID にタグ付けされている場合、デフォルトでは、ユーザーがスクリーンでそのメニューをクリックすると、リソース階層ツリーにおいてそのエンティティで使用できる最初の検索ビューが表示されます。</p> <p>リソース ID には、このメニュー項目が選択されたときに起動されるスクリーンに関する詳細情報が含まれます。このフィールドに対する検索ウィンドウの結果では、詳細ビュー・リソースまたはエンティティ・リソースのすべてのリソースが表示されます。</p> <p><b>注:</b> タイプが詳細ビューであるリソースが選択された場合、メニューが選択されたときに詳細ビューが起動します。</p> <p>タイプがエンティティであるリソースが選択された場合、そのエンティティのデフォルト検索ビューが起動します。</p>

## メニュー項目の変更 このタスクについて

メニュー項目を変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「メニュー」を選択します。作業領域に、「メニュー階層」ウィンドウが表示されます。
2. 必要なメニュー・グループ・ブランチを展開します。
3. 必要なアプリケーション・メニューを展開します。
4. 該当するメニュー項目を選択して、 を選択します。「メニュー項目の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、304ページの表 74 を参照してください。
6.  を選択します。

## メニュー項目の削除 このタスクについて

メニュー項目を削除するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「メニュー」を選択します。作業領域に、「メニュー階層」ウィンドウが表示されます。
2. 必要なメニュー・グループ・ブランチを展開します。
3. 必要なアプリケーション・メニューを展開します。
4. 該当するメニュー項目を選択して、 を選択します。

---

## リソースの定義

リソースとは、画面内の情報の表示と、その表示に関連付けられているプログラム・ロジックの実行を制御する、自己完結型の単位のことです。例えば、スクリーンと API はリソースのタイプです。

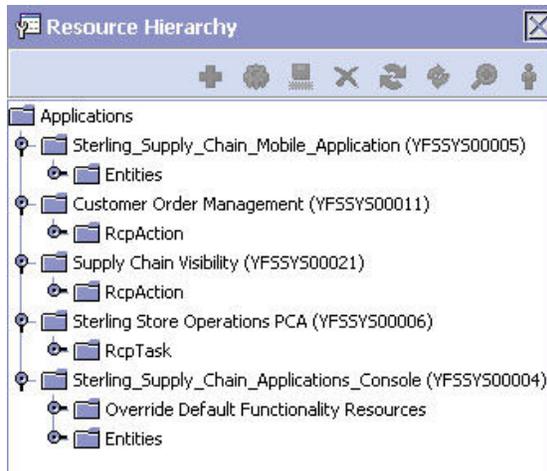


図 28. リソース階層ツリー

## Sterling Selling and Fulfillment Foundation リソース

すべての Sterling Selling and Fulfillment Foundation リソースには、主要プロパティ (すべてのリソース・タイプに共通) のセットおよび固有プロパティ (特定タイプのリソースに固有) のセットがあります。共通の主要プロパティは、すべてのリソースが共通で持つ特性です。例えば、すべてのリソースにリソース ID があります。このリソースは、アプリケーション・コンソール内の画面定義に使用されます。

すべての主要リソース情報の説明については、以下の表を参照してください。

主要情報に加えて、リソースの各タイプには固有の特性があります。各リソース・タイプについては、この章の表のリストを参照してください。

表 75. リソース詳細の主要情報

フィールド	説明
リソース ID	<p>リソースごとの固有 ID。リソースの各タイプには、以下のような固有のリソース ID 構文規則があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• API - &lt; 親リソースの ID &gt;AP&lt; 1 を加算したシーケンス番号 &gt;。例えば、オーダー・コンソールは <code>getOrderList()</code> API を使用し、そのリソース ID は <code>orderAP2</code> です。</li> <li>• 詳細ビュー - Y&lt; 2 文字のモジュール・コード &gt; D&lt; シーケンス番号 &gt;。例えば、オーダー管理には詳細ビューのリソース ID <code>YOMD010</code> があります。</li> <li>• エンティティ- フリー・フォーム。例えば、<code>Order</code> です。</li> <li>• アイコン - &lt; 親リソースの ID &gt;C&lt; 2 桁のシーケンス番号 &gt;。例えば、<code>YOMD010DIC02</code> です。</li> <li>• 内部パネル - &lt; 親リソースの ID &gt;I&lt; 2 桁のシーケンス番号 &gt;。例えば、<code>YOMD010II01</code> です。</li> <li>• リンク - &lt; 親リソースの ID &gt;L&lt; 2 桁のシーケンス番号 &gt;。例えば、<code>YOML010</code> です。</li> <li>• リスト・ビュー - Y&lt; 2 文字のモジュール・コード &gt; L&lt; シーケンス番号 &gt;。例えば、<code>YOML010</code> です。</li> <li>• アクション - &lt; 親リソースの ID &gt;A&lt; 2 桁のシーケンス番号 &gt;。例えば、<code>YOMD010I02A01</code> です。</li> <li>• 関連エンティティ - &lt; 親エンティティの ID &gt;S&lt; シーケンス番号 &gt;。例えば、<code>OrderS01</code> です。</li> <li>• 検索ビュー - Y&lt; 2 文字のモジュール・コード &gt;S&lt; シーケンス番号 &gt;。例えば、<code>YOMS010</code> です。</li> <li>• RCP リソース - &lt; 3 文字の <code>pca</code> コード &gt;RCP&lt; シーケンス番号 &gt;。例えば、<code>YCDRCP0122</code> です。</li> </ul>
説明	<p>ラベルとしてターゲット画面上およびリソース階層ツリー内に表示されるリテラル値。この値は、リソース・バンドル内に格納されます。</p>
「URL」	<p>Sterling Selling and Fulfillment Foundation の場合、リソースの Uniform Resource Locator を入力します。</p> <p>リッチ・クライアント・プラットフォーム・アプリケーションの場合、リソースが関連付けられる対象のアクションの ID を入力します。この ID は、画面を起動するクラスのアクション ID であり、<code>plugin.xml</code> ファイルに定義されます。アクションの作成方法について詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Customizing the Rich Client Platform Interface</i>」を参照してください。</p>

表 75. リソース詳細の主要情報 (続き)

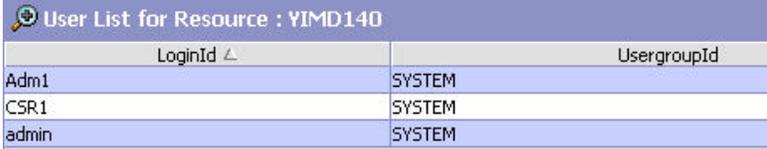
フィールド	説明
リソース・タイプ	<p>ユーザー・インターフェース上のフィーチャーのセットを定義する特性のセット。アプリケーション・コンソール・リソースの場合、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アプリケーション・コンソール・エンティティー</li> <li>• アプリケーション・コンソール関連エンティティー</li> <li>• アプリケーション・コンソール検索ビュー</li> <li>• アプリケーション・コンソール詳細ビュー</li> <li>• アプリケーション・コンソール・リスト・ビュー</li> <li>• アプリケーション・コンソール API</li> <li>• アプリケーション・コンソール内部パネル</li> <li>• アプリケーション・コンソール・アクション</li> <li>• アプリケーション・コンソール・リンク</li> <li>• アプリケーション・コンソール・アイコン</li> </ul> <p>Sterling Selling and Fulfillment Foundation リッチ・クライアント・プラットフォーム・アプリケーション・リソースの場合、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• リッチ・クライアント・プラットフォーム・アクション</li> <li>• リッチ・クライアント・プラットフォーム・タスク</li> </ul>
リソース・シーケンス	<p>画面関連リテラルおよびロジックが表示されるか実行される順序。リソース順序付けは、兄弟リソースのコンテキスト内のみで有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 関連エンティティー - エンティティーのポップアップが検索パネル内に表示される順序。</li> <li>• 検索ビュー - 検索ビューが検索ビューのポップアップ・メニューにリストされる順序。</li> <li>• 詳細ビュー - 詳細ビューが詳細ビューのポップアップ・メニューにリストされる順序。</li> <li>• リスト・ビュー - リスト・ビューがリスト・ビューのポップアップ・メニューにリストされる順序。</li> <li>• API - API が起動される順序。順序付けは、API の場合に特に重要です。なぜなら、ある API の出力が別への入力として使用される可能性があるためです。</li> <li>• アクション - アクションが UI に表示される順序。</li> <li>• アイコン - 別のビューへのアイコン・リンクが UI 内に表示される順序。</li> <li>• RCP アクションまたはタスク - メニューが Sterling Selling and Fulfillment Foundation リッチ・クライアント・プラットフォーム・アプリケーションに表示される順序。</li> </ul>

## アプリケーション・コンソール・エンティティー

「アプリケーション・コンソール・エンティティー・リソースの詳細 (Application Consoles Entity Resource Details)」ダイアログ・ボックスでは、エンティティーの伝

票種別を設定できます。エンティティは、オーダー・エンティティなどの、特定のビジネス・エンティティに関連する UI 画面とプログラム・ロジックの関連グループです。

リソースおよびその対応するサブリソースにより使用される JSP のリスト、およびリソースにアクセスする許可を持つユーザーのリストは、エンティティを右クリックし、「JSP リスト」または「ユーザー・リスト」を選択するか、またはメニュー・パネルから  を選択して表示できます。



The screenshot shows a window titled "User List for Resource : YIMD140". Below the title bar, there is a table with two columns: "LoginId" and "UsergroupId".

LoginId	UsergroupId
Adm1	SYSTEM
CSR1	SYSTEM
admin	SYSTEM

各エンティティには、デフォルトの検索ビュー、リスト・ビュー、および詳細ビューがあります。デフォルトのビューは、リソース階層ツリー内のこれらのビューの順序付けによって決定されます。例えば、オーダー・エンティティに 4 つの検索ビューがある場合、デフォルトの検索ビューは、4 つの検索ビューの中で最も低いリソース・シーケンス番号を持つものと判別されます。

各エンティティ・リソース下で、1 つの詳細 API と 1 つのリスト API を構成できます。構成される詳細 API は、ユーザーがそのエンティティの詳細ビューにナビゲートすると自動的に呼び出されます。リスト API は、ユーザーがそのエンティティのリスト・ビューにナビゲートすると呼び出されます。

リソース構成画面で「デフォルト API の無視 (Ignore Default API)」パラメーターを選択することで、特定のビューに対してこのデフォルトの API が呼び出されないようにすることができます。

注: エンティティの下では任意の数の API リソースが作成可能ですが、1 つのリスト と 1 つの詳細 API のみ を作成する必要があります。

表 76. 「エンティティ・リソース (Entity Resource)」 ダイアログ・ボックス

コントロール	説明
伝票種別	<p>指定した場合、これはこのエンティティ (すべてのサブリソースを含む) 内で構成されている任意の API への入力として渡されます。</p> <p>伝票種別は、ルート・ノードで DocumentType 属性名が指定されて渡されます。これは、i18n taglib が、このエンティティ (およびすべてのサブリソース) に対して構成されているすべての JSP で使用される場合に、リソース・バンドルからリテラルを選出するためにも使用されます。特に、アプリケーションは &lt;DocumentType&gt;_&lt;ResourceKey&gt; が指定されている項目を探します。それが見つからない場合、&lt;ResourceKey&gt; の項目が選出されます。</p>

## アプリケーション・コンソール関連エンティティ

アプリケーション・コンソール関連エンティティ・リソースの詳細ダイアログ・ボックスを使用して、エンティティのドロップダウン・メニューのオプションとして検索ビューに表示するエンティティを指定できます。



図 29. ドロップダウン・メニュー上の関連エンティティ

表 77. 「コンソール関連エンティティ・リソース (Console Related Entity Resource)」 ダイアログ・ボックス

コントロール	説明
関連エンティティ	<p>関連エンティティのリソース ID です。関連エンティティは、検索可能なその他のエンティティとして検索画面に表示されます。例えば、メニューから「オーダー」を選択すると、検索画面が表示されます。検索画面の左上隅にあるドロップダウン・メニューに、「オーダー明細」と「オーダー・リリース」を表示することができます。これらは、オーダー・エンティティの関連エンティティとして構成されます。</p> <p>「オーダー明細」を選択すると、現在のエンティティが「オーダー明細」になります。このとき、ドロップダウン・メニューには、「オーダー」と「オーダー・リリース」が関連エンティティとして表示されています。これは、これらのエンティティがオーダー明細エンティティの関連エンティティとして明示的に定義されているためです。</p>

関連エンティティ・リソースのアクセス権を保守することはできません。つまり、すべてのユーザーは、検索ビューのエンティティ・ドロップダウンに、関連エンティティを表示することができます。

## アプリケーション・コンソール検索ビュー

コンソールの検索ビュー・リソースの詳細ダイアログ・ボックスを使用して、検索ビューのカスタマイズを可能にする詳細情報を指定できます。

表 78. 「検索ビュー・リソース (Search View Resource)」ダイアログ・ボックス

コントロール	説明
Java Server Page	<INSTALL_DIR>/extensions/global/webpages ディレクトリーに対する絶対パス付きの JSP ファイル名です。  通常、カスタム・リソースは、/extensions ディレクトリー内のファイルを指します。例えば、オーダー検索ビューによる警告の検索を変更する場合、<INSTALL_DIR>/extensions/global/webpages/em/alerts/search/alert_search_byorder.jsp ファイルを指定します。  カスタム JSP ファイルを含む /extensions ディレクトリーを入力する際は、標準 JSP ファイルを含むディレクトリーの構造を模倣してください。
出力名前空間	検索 JSP 上にある検索条件入力フィールドの XML バインディングの名前空間です。この名前空間を持つ入力、エンティティのリスト API に送信されます。
高さ	該当なし
幅	該当なし
デフォルト API を無視する	該当なし
最大レコード・フィールドの非表示	「最大レコード数」フィールドを表示しないようにするには、これを選択します。
ビュー・グループ ID	エンティティの特定の検索ビュー内で、現在の検索ビューと同じビュー・グループ ID を持つ他の任意の詳細ビューに切り替えることができます。
入力	該当なし
テンプレート	該当なし

## アプリケーション・コンソール詳細ビュー

アプリケーション・コンソール詳細ビュー・リソースの詳細ダイアログ・ボックスを使用して、詳細ビューをカスタマイズできます。

表 79. 「詳細ビュー・リソース (Detail View Resource)」 ダイアログ・ボックス

コントロール	説明
Java Server Page	<p>詳細ビューの場合、このフィールドはアンカー・ページ用の JSP として使用されます。通常この JSP には他の内部パネルのみを含め、それらを所望のレイアウトで表示するために使用されます。</p> <p>このフィールドが入力されず、詳細ビューに複数の内部パネルが含まれる場合、それらの内部パネルは縦に並び、水平方向全体に広がってレイアウトされます。</p> <p>&lt;INSTALL_DIR&gt;/extensions/global/webpages ディレクトリーに対する絶対パスを指定します。通常、カスタム・リソースは、/extensions ディレクトリー内のファイルを指します。例えば、「警告の詳細」ビューのアンカー・ページを変更する場合、JSP を /extensions/global/webpages/em/alerts/detail/alert_detail_anchor.jsp. と指定できます。</p> <p>カスタム JSP ファイルを含む /extensions ディレクトリーを入力する際は、標準 JSP を含むディレクトリーの構造を模倣してください。</p>
出力名前空間	該当なし
高さ	このビューをポップアップ画面で表示する場合の、ポップアップ・ウィンドウの高さです。
幅	このビューをポップアップ画面で表示する場合の、ポップアップ・ウィンドウの幅です。
デフォルト API を無視する	<p>このオプションが設定された場合、現在のエンティティーに対して構成されている場合のある詳細 API は、現在の詳細ビューが表示されるときに呼び出されません。</p> <p>通常、エンティティーには 1 つの標準詳細 API があり、同じ詳細 API の出力の異なる部分を必要とする複数のビューが存在します。そのため通常は、エンティティー・レベルで詳細 API を定義するだけで、そのエンティティーの詳細ビューが表示されるときには常にデフォルトの詳細 API が呼び出されることが期待できます。しかし、そのエンティティーのビューによっては、特別に異なる API を呼び出す必要がある場合があります。そのような場合、このフィールドにチェックを付けて、特別な詳細ビューのいずれかの内部パネルに対して代替 API を構成できます。</p>
ナビゲーション・パネルの非表示	このオプションが設定された場合、「次へ」および「前へ (Previous)」ナビゲーション・ボタンは、この詳細ビュー上に表示されません。
タイトル・バーの非表示	このオプションが設定された場合、この詳細ビューでは、タイトル・バー全体が表示されません。なお、タイトル・バーには、画面タイトル、「保存」ボタン、「ヘルプ」ボタン、および「クローズ」ボタンが含まれています。
ビュー・グループ ID	エンティティーの特定の詳細ビュー内で、現在の詳細ビューと同じビュー・グループ ID を持つ他の任意の詳細ビューに切り替えることができます。

表 79. 「詳細ビュー・リソース (Detail View Resource)」ダイアログ・ボックス (続き)

コントロール	説明
入力	該当なし
テンプレート	該当なし
リダイレクター・ビュー	これが設定された場合、詳細ビューは、別の詳細ビューへのリダイレクトにのみ使用されます。このビューの JSP には、表示用のどの HTML も含めないようにしてください。最終的に goToDetailView JSP メソッドを呼び出して最終表示にナビゲートする、条件付き JSP ステートメントのみを含めるようにしてください。

## アプリケーション・コンソール・リスト・ビュー

アプリケーション・コンソール・リスト・ビュー・リソースの詳細ダイアログ・ボックスを使用して、リスト・ビューをカスタマイズできます。

表 80. 「リスト・ビュー・リソース (List View Resource)」ダイアログ・ボックス

コントロール	説明
Java Server Page	<p>&lt;INSTALL_DIR&gt;/extensions/global/webpages ディレクトリーに対する絶対パス付きの JSP ファイル名です。通常、カスタム・リソースは、/extensions ディレクトリー内のファイルを指します。例えば、警告リストの詳細ビューを変更する場合、/extensions/global/webpages/em/alerts/list/alerts_list_verbose.jsp ファイルを指定します。</p> <p>カスタム JSP ファイルを含む /extensions ディレクトリーを入力する際は、標準 JSP ファイルを含むディレクトリーの構造を模倣してください。</p>
出力名前空間	該当なし
高さ	該当なし
幅	該当なし

表 80. 「リスト・ビュー・リソース (List View Resource)」ダイアログ・ボックス (続き)

コントロール	説明
「デフォルト API を無視する」チェック・ボックス	<p>このオプションが設定された場合、現在のエンティティに対して構成されている可能性のあるリスト API は、現在のリスト・ビューが表示されるときに呼び出されません。</p> <p><b>注:</b> また、このオプションを設定した場合、カスタム JSP 内で、検索パネル省略表示機能を処理するとともに、UI 上に表示されるレコードの総数を処理する必要があります。例えば、カスタム JSP 内で以下のコード行を記述することによって、外部 API 呼び出しによって返されるレコード数を取り込むロジックを処理できます。</p> <pre>&lt;%   int numberOfRecords = /* logic to find out the number of records returned by an external API call.*/   if (numberOfRecords &gt; 0){ %&gt; &lt;script type="text/javascript"&gt;   slideSearchPanelView();   yfcOverrideResultSetCount(numberOfRecords); &lt;/script&gt; &lt;%   } %&gt;</pre>
1 つのレコードが返された場合にその詳細を直接表示する機能をサポートします	これが設定された場合、関連する検索が 1 つのレコードを返したときに、リスト画面が省略されて詳細情報が表示されます。
ビュー・グループ ID	エンティティの特定のリスト・ビュー内で、現在のリスト・ビューと同じビュー・グループ ID を持つ他の任意の詳細ビューに切り替えることができます。
入力	該当なし
テンプレート	ビューでデフォルトのリスト API が呼び出された場合に API に渡される出力テンプレートです。

## アプリケーション・コンソール API

アプリケーション・コンソール API リソースの詳細ダイアログ・ボックスを使用して、API を呼び出すかどうか、および API の呼び出し方法を指定できます。

API リソースのアクセス権を保守することはできません。API リソースは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 標準 API を呼び出したり、構成済みのサービスを起動することができます。

**注:** エンティティの下に任意の数の API リソースを作成できますが、1 つのリストおよび 1 つの詳細 API のみを作成する必要があります。

表 81. 「API リソース (API Resource)」ダイアログ・ボックス

コントロール	説明
サービスの起動	このリソースの UI でサービスを起動することを指定します。

表 81. 「API リソース (API Resource)」 ダイアログ・ボックス (続き)

コントロール	説明
サービス名	サービスにのみ適用されます。「サービスの起動」ラジオ・ボタンで使用可能にします。以前に Applications Manager のサービスで構成した利用可能なサービスのドロップダウン・リストが提供されます。
テンプレート	サービスにのみ適用されます。「サービスの起動」ラジオ・ボタンで使用可能にします。テンプレートのリストを追加、修正、および削除する手段が提供されます。テーブル内の各行に API 名とテンプレートを入力できます。このようにして、サービス内で呼び出されるすべての API のテンプレートを入力することができます。  重要: 同じ API について複数のテンプレート要素を構成することはできません。そのため、1 つのサービスが同じ API を 2 回実行することはできませんので、注意してください。
API の起動	このリソースの UI で Sterling Selling and Fulfillment Foundation 標準 API を起動することを指定します。これがチェックされると、「API 名」ドロップダウン・リストおよび API テンプレートが使用可能になります。
「API 名」	API にのみ適用されます。「API の起動」ラジオ・ボタンで使用可能にします。サービス定義フレームワークで使用可能な標準 API または拡張 API のドロップダウン・リストが提供されます。選択した API に下位互換性がある場合、「下位互換性が必要」チェック・ボックスが使用可能になります。
下位互換性が必要	下位互換性モードで起動可能な API にのみ適用されます。API を下位互換性モードで実行する必要があるかどうかを指定できます。これをチェックした場合、バージョンも指定する必要があります。
Version	下位互換性モードで実行する API にのみ適用されます。API が下位互換性を持つバージョンのドロップダウン・リストが提供されます。
入力名前空間	「API の保存」に入力を渡すためのテキスト・ボックスに対応する名前空間です。詳細ビューにのみ適用されます。これは、詳細ビューには、異なる XML 名前空間に結びついた複数のテキスト・ボックスが含まれる場合があるためです。ただし、API に入力を渡すことができるテキスト・ボックスは 1 つのみです。
出力名前空間	API の出力は、この名前空間に保存されます。名前空間はオプションですが、指定されない場合、考慮中の XML のルート・ノード名がデフォルト設定されます。したがって、API の出力を参照する際は、ここに名前空間が指定されない場合でも、名前空間は出力のルート・ノード名と同じであると仮定できます。  名前空間は、特定の XML の識別に使用できるタグです。プレゼンテーション・フレームワークを使用して複数の API を呼び出し、それらの出力を異なる名前空間に格納することができます。JSP 内または API への入力内で、その時点で使用可能な任意の名前空間の値を参照できます。

表 81. 「API リソース (API Resource)」 ダイアログ・ボックス (続き)

コントロール	説明
例外の無視	この API が例外をスローした場合、その例外がユーザーに表示されません。エンティティ・リソースの直下に作成された API リソースには、このオプションは使用できません。
自動実行のスキップ	このオプションをチェックすると、ビューが表示されるときに、API は自動的に呼び出されません。その後、callAPI タグ・ライブラリーを使用して JSP 内でこの API を呼び出すことができます。エンティティ・リソースの直下に作成された API リソースには、このオプションは使用できません。
ロールバック専用モードでの呼び出し	データベースに対して行った変更をロールバックするために、この API をロールバック専用モードで呼び出す場合、このボックスにチェックを付けます。  デフォルトでは、このチェック・ボックスは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のすべての API で使用不可になっています。 <b>注:</b> ただし、このロールバック専用操作を実行するには、カスタム・アクションを作成する必要があります。画面内のカスタム・アクションの作成について詳しくは、『 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Customizing Console JSP Interface for End-User</i> 』を参照してください。
API タイプ	API を呼び出すことができるビューのタイプを指定します。このオプションは、エンティティ・リソースの直下に作成された API リソースに対してのみ使用できます。それらのリソース・タイプは、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• リスト - API をリスト・ビューから呼び出す</li><li>• 詳細 - API を詳細ビューから呼び出す</li></ul>
入力	API に特定の入力を渡すために使用できる XML 構造を指定します。ここには、動的属性を指定できます。
テンプレート	ここには、テンプレート XML を指定します。このテンプレート XML は、YFSEnvironment クラスを介して API に渡されます。  YFSEnvironment クラスでは、完全な XML または単に XML ファイル名を渡すことがサポートされていますが、このフィールドに指定できるのは完全な XML のみです。

## アプリケーション・コンソール内部パネル

アプリケーション・コンソール内部パネル・リソース・タイプのダイアログ・ボックスを使用して、内部パネルをカスタマイズできます。内部パネルは、詳細ビューを構成する UI コンポーネントです。

表 82. 「内部パネル・リソース (Inner Panel Resource)」 ダイアログ・ボックス

コントロール	説明
Java Server Page	<p>&lt;INSTALL_DIR&gt;/extensions/global/webpages ディレクトリーに対する絶対パス付きの JSP ファイル名です。通常、カスタム・リソースは、/extensions ディレクトリー内のファイルを指します。例えば、個人情報内部パネルを変更する場合、/extensions/global/webpages/pm/personinfo/detail/personinfo_detail_anchor.jsp ファイルを指定します。</p> <p>カスタム JSP ファイルを含む /extensions ディレクトリーを入力する際は、標準 JSP を含むディレクトリーの構造を模倣してください。</p>
エンティティ ID のオーバーライド	将来的な使用のため。
エンティティのキー名	将来的な使用のため。
テンプレート	ビューでデフォルトの詳細 API が呼び出された場合、ビューの内部パネルごとに指定されているテンプレートがすべて結合されて、API に渡される出力テンプレートを形成します。

注: 内部パネルには、読み取り専用のマークを付けることができます。詳しくは、225 ページの『内部パネルを読み取り専用を設定』を参照してください。

## アプリケーション・コンソール・アクション

アプリケーション・コンソール・アクション・リソースの詳細ダイアログ・ボックスを使用して、アプリケーション・コンソールで使用できるアクションの詳細をカスタマイズできます。

表 83. 「アクション・リソース (Action Resource)」 ダイアログ・ボックス

コントロール	説明
Java Server Page	ユーザー・インターフェースでアクションを実行すると、この JSP が呼び出されます。この JSP は、複数の API 呼び出しなどの、サーバー・サイド処理の実行に使用できます。
JavaScript	<p>ここで指定する JavaScript 関数は、eval() 関数によって実行されます。関数本体は、extensions/global/webpages/extn.js に含まれている必要があります。この JS ファイルは container.jsp ファイルにインクルードされており、そのためすべての JSP で使用できます。</p> <p>注: container.jsp ファイルは、プレゼンテーション・フレームワーク JSP のうちの 1 つです。この JSP には、すべての画面の基本構造が定義され、内部パネル、検索ビュー、リスト・ビュー、および詳細ビューに対して定義された他の JSP が含まれます。</p>

表 83. 「アクション・リソース (Action Resource)」 ダイアログ・ボックス (続き)

コントロール	説明
ビュー ID	<p>アクションに対してビュー ID を指定すると、ユーザーがアクションをクリックしたときに、モーダル・ダイアログ内でビューが開きます。</p> <p>ただし、アクションに対して API も構成されている場合、次のような動作になります。まず API が呼び出され、その後、ここで構成したビューを含む現行ウィンドウ自体が更新されます。</p> <p>JavaScript も構成されている場合、それが呼び出されてから、ビューまたは API が呼び出されます。JavaScript が false を返した場合、他のアクションは何も呼び出されません。</p> <p>リスト・ビューに対してアクションが構成されている場合、指定されたビュー ID のビューが、別のポップアップ内ではなく同じブラウザ・ウィンドウ内で開きます。</p>
ビュー・グループ ID	<p>このアクションを選択した場合にナビゲートできるビュー・グループです。</p>
入力名空間	<p>このアクションが API を呼び出す場合に、その API に入力として渡される XML の名前空間です。この名前空間が存在することが前提となります。</p>
結合	<p>ここでは、XML バインディングを指定できます。</p> <p>XML 属性が true、0 よりも大きい値、または Y を返す場合、アクションは使用可能になり、ユーザーはアクションをクリックできなくなります。これは、他のすべての値が使用不可と見なされるためです。</p>
選択キー名	<p>このアクションをクリックする前にチェックする必要のある、内部パネル内のチェック・ボックスの名前または ID 属性です。例えば、「オーダー・リスト」画面では、オーダーの一部を選択している場合にのみ詳細情報を表示できます。オーダーを何も選択しないで「詳細情報の表示」アクションをクリックすると、クライアント・サイドのエラー・メッセージが表示される結果になります。「詳細情報の表示」アクションの場合、order_list_concise.jsp ファイル内のチェック・ボックスの ID である選択キー名を含むようにリソースが構成されているため、このエラーが発生します。</p> <p>このフィールドが指定されない場合、アクションがどのチェック・ボックスのチェックにも依存しないことを意味します。</p>

表 83. 「アクション・リソース (Action Resource)」ダイアログ・ボックス (続き)

コントロール	説明
入力キー名	<p>構成されたアクションにおいて、ユーザーがリスト内のチェック・ボックスを使用してリストからレコードを選択する必要がある場合、JSP 内のチェック・ボックス・オブジェクトの名前または ID をここで指定します。これによって、チェック・ボックスが関連付けられたキーを、このビューのターゲットに入力として渡すことができます。</p> <p>例えば、「オーダーの詳細」画面には「サービス要請」内部パネルが含まれており、このオーダーのサービス要請がすべて表示されます。この内部パネル上で定義されているキャンセル・アクションでは、ユーザーが 1 つ以上のサービス要請を選択する必要があります (リストの 1 列目に表示されているチェック・ボックスを使用します)。JSP 内のこのチェック・ボックスの名前は、chkEntityKeyPS です。したがって、キャンセル・アクションで呼び出される API に選択済みキーを正しく渡すには、キャンセル・アクションの「入力キー名」を chkEntityKeyPS に設定します。</p>
ポップアップ	該当なし
完了時にウィンドウを閉じる	これが指定された場合、現在のアクションの実行後に現行ウィンドウが閉じます。例えば、ポップアップ・ウィンドウ上の「保存」アクションにこのコントロールを使用すると、保存の実行後に自動的にポップアップ・ウィンドウが閉じます。

## アプリケーション・コンソール・リンク

アプリケーション・コンソール・リンク・リソースの詳細ダイアログ・ボックスを使用して、内部パネル内で使用されるハイパーリンクの詳細を指定できます。

リンクは、アクセス権で制御されません。つまり、変更するどのリンクも、Applications Manager のユーザー・グループの「アクセス権」ツリーには表示されません。

表 84. 「リンク・リソース (Link Resource)」ダイアログ・ボックス

コントロール	説明
ビュー ID	リンクをクリックしたときに開かれるビューの ID です。
ビュー・グループ ID	このリンクを選択した場合にナビゲートできるビュー・グループです。

## アプリケーション・コンソール・アイコン

アプリケーション・コンソール・アイコン・リソースの詳細ダイアログ・ボックスを使用して、内部パネルのタイトルの左上部分に表示されるアイコンの詳細を指定することができます。これらのアイコンは、ビュー・アイコンと呼ばれます。

表 85. 「アイコン・リソース (Icon Resource)」 ダイアログ・ボックス

コントロール	説明
JavaScript	<p>ここで指定する JavaScript 関数は、eval() 関数によって実行されます。関数本体は、/extensions/global/webpages/scripts/extn.js ファイルに含まれている必要があります。この JS ファイルは container.jsp ファイルにインクルードされており、そのためすべての JSP で使用できます。</p> <p>注: container.jsp ファイルは、プレゼンテーション・フレームワーク JSP ファイルのうちの 1 つです。この JSP ファイルには、すべての画面の基本構造が定義され、内部パネル、検索ビュー、リスト・ビュー、および詳細ビューに対して定義された他の JSP が含まれます。</p>
ビュー ID	このアイコンをクリックしたときに開かれるビューの ID です。
ビュー・グループ ID	このアイコンを選択した場合にナビゲートできるビュー・グループです。
有効な結合	<p>ここでは、XML バインディングを指定できます。</p> <p>XML 属性が true、0 よりも大きい値、または Y を返す場合、アクションは使用可能になり、ユーザーはアクションをクリックできなくなります。これは、他のすべての値が使用不可と見なされるためです。</p>
結合を表示する	<p>ここでは、XML バインディングを指定できます。</p> <p>XML 属性が true、0 よりも大きい値、または Y を返す場合、アクションは使用可能になり、ユーザーはアクションをクリックできなくなります。これは、他のすべての値が使用不可と見なされるためです。</p>
イメージ (Image)	イメージ・ファイルの相対パスです。アプリケーション・コンソールメニュー項目の場合、com/smcfs/ycp/ui/icons/configmenu.gif ファイルを指定します。
ツール・ヒント	<p>ここでは、XML バインディングを指定できます。</p> <p>画面が表示されるときに、バインディングが指す XML が評価されます。XML 属性によってゼロ (0) 以外の数値が返された場合、このアイコンのツール・ヒント内のリソース説明の隣に、括弧付きでこの数値が表示されます。</p>
代替画像結合	<p>ここでは、XML バインディングを指定できます。</p> <p>このフィールドは、このバインディングの値に基づいて、コンソール内部パネル上に別のアイコンを表示するために使用されます。XML 属性によって、「Y」、「true」、または 0 を超える値が返された場合、代替アイコンが使用されます。</p>
代替画像	代替画像ファイルの相対パスです。

## リッチ・クライアント・プラットフォーム・アクション

Sterling Selling and Fulfillment Foundation リッチ・クライアント・プラットフォームでは、アクションはリソースとして定義されます。リッチ・クライアント・プラ

ットフォーム・アクションにより、メニュー項目の呼び出し時に呼び出されるアクションの ID を指定できます。リッチ・クライアント・プラットフォーム・アクションのリソースは、アクセス権が制御されています。

・ アクション ID - メニュー項目をクリックすると呼び出されるアクションの ID。

リソース構成の URL フィールドは、リッチ・クライアント・プラットフォーム・アクション ID を指す必要があります。URL フィールドについては、307 ページの表 75を参照してください。

リッチ・クライアント・プラットフォーム・アクションのリソース・タイプは、リッチ・クライアント・プラットフォーム内のメニュー項目にリンクさせることができます。リッチ・クライアント・プラットフォーム・アクションのリソース・タイプをメニュー項目で構成するには、301 ページの『メニューの定義』を参照してください。

リッチ・クライアント・プラットフォーム・アクションについては、  
「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Customizing the Rich Client Platform Interface*」を参照してください。

## リッチ・クライアント・プラットフォーム・タスク

各リッチ・クライアント・プラットフォーム・タスクのリソース・タイプは、リソース ID に関連付けられます。リッチ・クライアント・プラットフォーム・タスクのリソース・タイプは、アクセス権が制御可能です。ユーザーは、ユーザーが許可を持つリッチ・クライアント・プラットフォーム・タスクのみを表示できます。リッチ・クライアント・プラットフォーム・タスクのリソース・タイプは、リッチ・クライアント・プラットフォーム内の関連タスクの論理表現です。リッチ・クライアント・プラットフォーム・タスクには、一連のアクションが含まれています。関連タスクを作成する場合は、関連タスクに関連付けるリソースの ID を指定する必要があります。リソースに割り当てられた許可に基づいて、関連タスクのビューがユーザーに表示されます。

リソース構成の URL フィールドは、リッチ・クライアント・プラットフォーム・アクション ID を指す必要があります。URL フィールドの説明については、307 ページの表 75を参照してください。

関連タスクおよびリッチ・クライアント・プラットフォーム・アクションについては詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Customizing the Rich Client Platform Interface*」を参照してください。

---

## テーマの定義

Sterling Selling and Fulfillment Foundation で使用されるテーマを識別するラベルを定義できます。Sterling Selling and Fulfillment Foundation が使用するすべてのテーマは、CSS および XML ファイルにより中央で定義されます。テーマには、標準の Sterling Selling and Fulfillment Foundation のテーマと、ユーザー定義のテーマがあります。

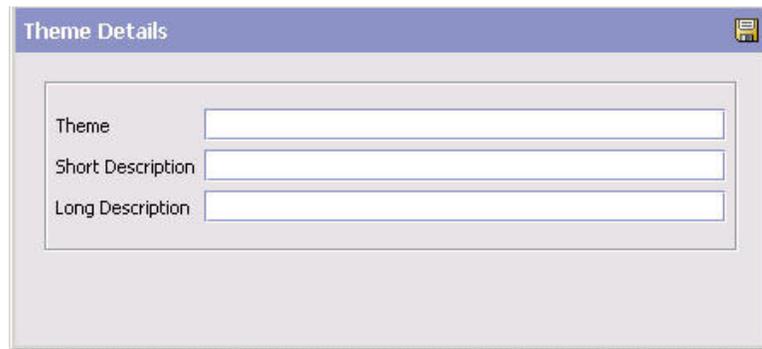
## テーマの作成

### このタスクについて

テーマを作成するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「テーマ」を選択します。作業領域に、「テーマ」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「テーマの詳細 (Theme Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Theme Details". It has a blue title bar with a close button on the right. The main area contains three text input fields with labels: "Theme", "Short Description", and "Long Description".

3. 「テーマ」に、XML ファイルまたは CSS ファイルの名前を入力します。例えば、テーマ・ファイルの名前が「malachite.xml」の場合は「malachite」と入力します。ローカライズに関する命名規則については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* ローカライズ・ガイド」を参照してください。
4. 「簡略説明」に、テーマの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、テーマの詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

## テーマの変更

### このタスクについて

テーマを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「テーマ」を選択します。作業領域に、「テーマ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するテーマを選択して、 を選択します。「テーマの詳細 (Theme Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、テーマの簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、テーマの詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

## テーマの削除

### このタスクについて

テーマを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「テーマ」を選択します。作業領域に、「テーマ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するテーマを選択して、 を選択します。

---

## カスタム共通コード・タイプの定義

共通コードは、ユーザーに、データを手動で入力するのではなくオプションのリストから選択できるようにする値です。これらは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の拡張コンソール画面にあるドロップダウン・リストから選択可能にできます。例えば、アイテムがバックオーダーされた場合、ユーザーは「在庫なし」などの理由をリストから選択できます。理由のリストは、共通コードのリストです。

デフォルトでは、標準インターフェースのフィールドには、独自の共通コードに追加できる共通コードのリストがあります。

フィールドをユーザー・インターフェースに追加する場合、コンボ・ボックスを追加することで、カスタム共通コードのドロップダウン・リストを備えることができます。これらの共通コード値は、getCommonCodeList() API を使用して、拡張画面内から取得できます。

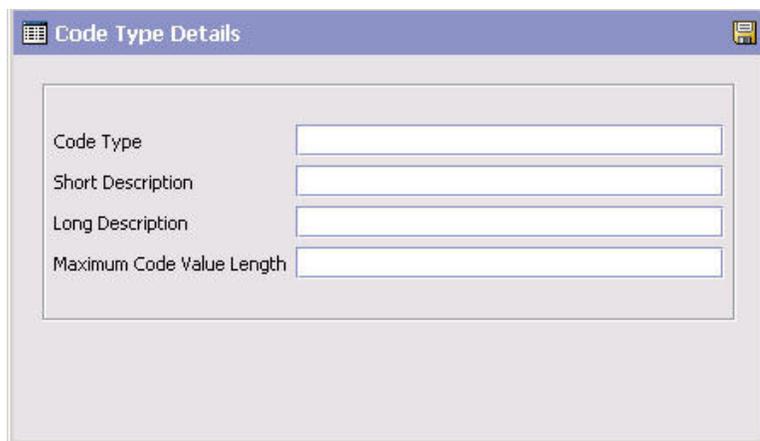
## カスタム共通コード・タイプの作成

### このタスクについて

カスタム共通コード・タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「カスタム共通コード・タイプ」を選択します。作業領域に、「カスタム共通コード・タイプ」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「コード・タイプの詳細 (Code Type Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



3. 「コード・タイプ」に、カスタム共通コード・タイプの名前を入力します。

注: 新規共通コード・タイプの最大長は 15 文字です。この値には、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で定義された共通コードとの競合を避けるため、.ex という拡張子が自動的に付加されます。この値は `getCommonCodeList()` API に渡す必要があります。

4. 「簡略説明」に、テーマの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、テーマの詳細な説明を入力します。
6. 「コード値の最大長」に、このカスタム共通コード・タイプに対するコード値の最大長を入力します。ユーザーがこの共通コード・タイプのコード値を作成する場合、ここで指定した値を最大長とする値を入力できます。
7.  を選択します。

## カスタム共通コード・タイプの変更

### このタスクについて

カスタム共通コード・タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「カスタム共通コード・タイプ」を選択します。作業領域に、「カスタム共通コード・タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するカスタム共通コード・タイプを選択し、 を選択します。「コード・タイプの詳細 (Code Type Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」フィールドに、コード・タイプの簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」フィールドに、コード・タイプのより詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

## カスタム共通コード・タイプの削除

### このタスクについて

カスタム共通コード・タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「カスタム共通コード・タイプ」を選択します。作業領域に、「カスタム共通コード・タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する共通コード・タイプを選択し、 を選択します。

---

## カスタム共通コード値の定義

---

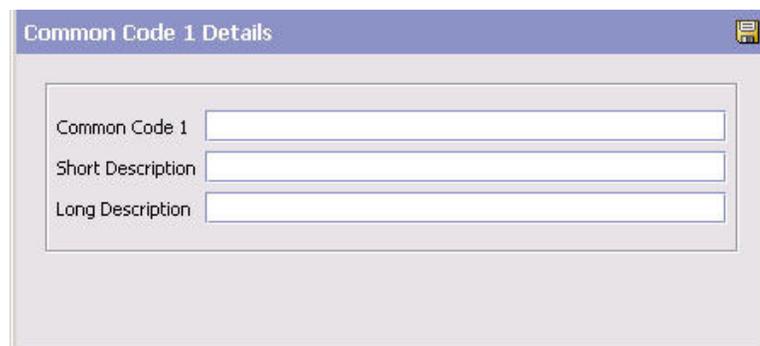
### 値のカスタム共通コードへの追加

#### このタスクについて

値をカスタム共通コードに追加するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「カスタム共通コード」を選択します。作業領域に、「カスタム共通コード・タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するカスタム共通コードを選択し、 を選択します。「共通コード値」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3.  を選択します。「共通コードの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Common Code 1 Details". It has a blue header bar with a close button icon on the right. Below the header, there are three text input fields stacked vertically. The first field is labeled "Common Code 1", the second is labeled "Short Description", and the third is labeled "Long Description".

4. 「共通コード」フィールドに、コード値を入力します。
5. 「簡略説明」に、コード値の簡単な説明を入力します。
6. 「詳細説明」に、コード値の詳細な説明を入力します。
7.  を選択します。

---

## カスタム共通コードの値の変更

#### このタスクについて

カスタム共通コードの値を変更するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「カスタム共通コード」を選択します。作業領域に、「カスタム共通コード・タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するカスタム共通コードを選択し、 を選択します。「共通コード」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 該当するコード値を見つけ、 を選択します。共通コードの「詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「簡略説明」に、コード値の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、コード値の詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

---

## カスタム共通コードの値の削除

### このタスクについて

カスタム共通コードの値を削除するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「カスタム共通コード」を選択します。作業領域に、「カスタム共通コード・タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するカスタム共通コードを選択し、 を選択します。「共通コード」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 該当するコード値を見つけ、 を選択します。

---

## カスタム・エラー・コードの定義

Sterling Selling and Fulfillment Foundation が提供するデフォルト・エラー・コードとともに使用する、カスタム・エラー・コードおよび説明を定義できます。例えば、これらのカスタム・エラー・コードは、パスワードを検証する外部プログラムが検証失敗理由を返すときに使用できます。さらに、カスタム・エラー・コードは既存の手段でローカライズ可能です。

カスタム・エラー・コードの保存時に例外がスローされないとしても、すべてのエラー・コードの先頭には EXTN を使用する必要があります。

## 顧客エラー・コードの検索

### このタスクについて

顧客エラー・コードを検索するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「カスタム・エラー・コード」を選択します。作業領域に、「カスタム・エラー・コードの検索」ウィンドウが表示されます。
2. 検索する該当のエラー・コードおよび説明を入力します。
3.  を選択すると、カスタム・エラー・コードのリストが表示されます。

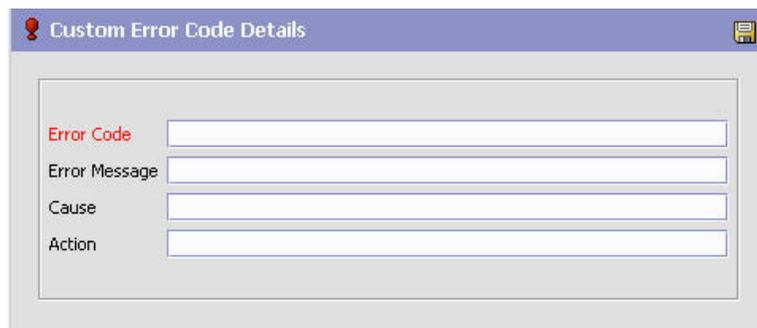
## カスタム・エラー・コードの追加

### このタスクについて

カスタム・エラー・コードに値を追加するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「カスタム・エラー・コード」を選択します。作業領域に、「カスタム・エラー・コード・リスト (Custom Error Codes List)」ウィンドウが表示されません。
2.  を選択します。「カスタム・エラー・コードの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The image shows a dialog box titled "Custom Error Code Details". It contains four input fields with labels: "Error Code", "Error Message", "Cause", and "Action". Each label is in red text, and each field is a white rectangular box with a blue border.

3. 「エラー・コード」フィールドに、コード値を入力します。
4. 「エラー・メッセージ」に、このコード値に対して表示されるメッセージを入力します。
5. 「原因」に、エラーが発生する原因を入力します。
6. 「アクション」に、エラー発生時に行うアクションを入力します。
7.  を選択します。

## カスタム・エラー・コードの変更

### このタスクについて

カスタム・エラー・コードの値を変更するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「カスタム・エラー・コード」を選択します。作業領域に、「カスタム・エラー・コードの検索」ウィンドウが表示されます。

2.  を選択すると、カスタム・エラー・コードのリストが表示されます。
3. 該当するカスタム・エラー・コードをリストから選択して、 を選択します。「エラー・コード」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「エラー・メッセージ」で、このコードの値に対して表示されるメッセージを変更します。
5. 「原因」で、生じるエラーの原因を変更します。
6. 「アクション」で、エラーが生じたときにとられるアクションを変更します。
7.  を選択します。

## カスタム・エラー・コードの削除

### このタスクについて

カスタム・エラー・コードの値を削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「プレゼンテーション」>「カスタム・エラー・コード」を選択します。作業領域に、「カスタム・エラー・コードの検索」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択すると、カスタム・エラー・コードのリストが表示されます。
3. 削除するコード値を選択して、 を選択します。

---

## 第 10 章 ビジネス通信コンポーネントの構成

ビジネス通信コンポーネントを構成して、Sterling Selling and Fulfillment Foundation と外部システムとの通信、およびビジネス・モデル内の別のビジネス組織との通信に使用するコードやドキュメントを定義できます。

---

### プロトコル・コードの定義

プロトコル・コード・セットアップを使用して、組織が相互に通信するために使用するさまざまなプロトコルを示すコードをセットアップできます。

以下に示すのは、さまざまなプロトコルの例です。

- FTP
- E メール
- Fax

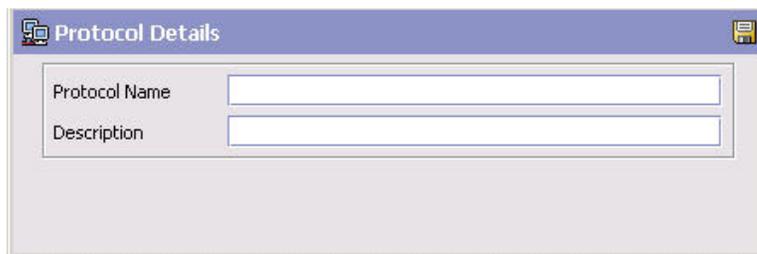
### プロトコル・コードの作成

#### このタスクについて

プロトコル・コードを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「通信」>「プロトコル」を選択します。作業領域に、「プロトコル・リスト」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「プロトコルの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a window titled "Protocol Details". It has a standard Windows-style title bar with a close button on the right. Below the title bar, there are two text input fields. The first field is labeled "Protocol Name" and the second is labeled "Description".

3. 「プロトコル名」に、プロトコルの名前を入力します。
4. 「説明」に、プロトコルの簡単な説明を入力します。
5.  を選択します。

### プロトコル・コードの変更

#### このタスクについて

プロトコル・コードを変更するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「通信」>「プロトコル」を選択します。作業領域に、「プロトコル・リスト」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するプロトコルを選択して、 を選択します。「プロトコルの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「説明」に、プロトコルの簡単な説明を入力します。
4.  を選択します。

## プロトコル・コードの削除

### このタスクについて

プロトコル・コードを削除するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「通信」>「プロトコル」を選択します。作業領域に、「プロトコル・リスト」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するプロトコルを選択して、 を選択します。

---

## ドキュメント形式コードの定義

ドキュメント形式コード・セットアップを使用して、組織が相互に通信するために使用するさまざまなドキュメント形式を示すコードをセットアップできます。

以下に示すのは、さまざまなドキュメント形式の例です。

- EDI
- XML
- フラット・ファイル

## ドキュメント形式コードの作成

### このタスクについて

ドキュメント形式コードを作成するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「通信」>「ドキュメント形式」を選択します。作業領域に、「ドキュメント形式リスト」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「ドキュメント形式の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



3. 「形式 ID」に、ドキュメント形式の名前を入力します。
4. 「説明」に、ドキュメント形式の簡単な説明を入力します。
5.  を選択します。

## ドキュメント形式コードの変更

### このタスクについて

ドキュメント形式コードを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「通信」>「ドキュメント形式」を選択します。作業領域に、「ドキュメント形式リスト」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するドキュメント形式を選択し、 を選択します。「ドキュメント形式の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「説明」に、ドキュメント形式の簡単な説明を入力します。
4.  を選択します。

## ドキュメント形式コードの削除

### このタスクについて

ドキュメント形式コードを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「通信」>「ドキュメント形式」を選択します。作業領域に、「ドキュメント形式リスト」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するドキュメント形式を選択し、 を選択します。

---

## ビジネス・ドキュメント・コードの定義

ビジネス・ドキュメント・コード・セットアップを使用して、組織が相互に通信するために使用するさまざまなドキュメントを示すコードをセットアップできます。

以下に示すのは、さまざまなドキュメント形式の例です。

- 購入オーダー (PO)

- 拡張出荷通知 (ASN)
- 請求書

## ビジネス・ドキュメント・コードの作成

### このタスクについて

ビジネス・ドキュメント・コードを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「通信」>「ビジネス・ドキュメント」を選択します。作業領域に、「ビジネス・ドキュメント・リスト (Business Document List)」ウィンドウが表示されます。
2. 画面の上部にある  を選択します。「ビジネス・ドキュメントの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



3. 「ドキュメント ID」に、ビジネス・ドキュメントの ID を入力します。
4. 「ドキュメント名」に、ビジネス・ドキュメントの名前を入力します。
5. 「説明」に、ドキュメント形式の簡単な説明を入力します。
6.  を選択します。

## ビジネス・ドキュメント・コードの変更

### このタスクについて

ビジネス・ドキュメント・コードを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「通信」>「ビジネス・ドキュメント」を選択します。作業領域に、「ビジネス・ドキュメント・リスト (Business Document List)」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するビジネス・ドキュメントを選択して、 を選択します。「ビジネス・ドキュメントの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「ドキュメント名」に、ビジネス・ドキュメントの名前を入力します。
4. 「説明」に、ドキュメント形式の簡単な説明を入力します。
5.  を選択します。

## ビジネス・ドキュメント・コードの削除

### このタスクについて

ビジネス・ドキュメント・コードを削除するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「通信」>「ビジネス・ドキュメント」を選択します。作業領域に、「ビジネス・ドキュメント・リスト (Business Document List)」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するドキュメント形式を選択し、 を選択します。

## 既存ビジネス・ドキュメントの分類

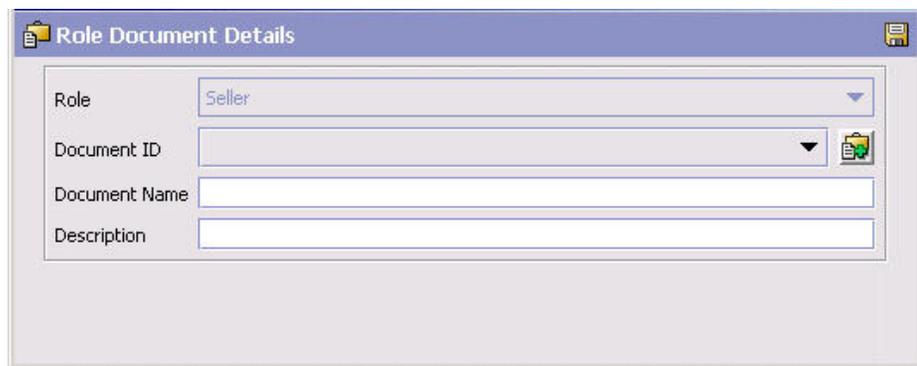
### このタスクについて

あらゆる既存のビジネス・ドキュメントを、バイヤー、セラー、または運送会社のドキュメントとして識別されるように分類できます。例えば、拡張出荷通知は運送会社に送信されるドキュメントで、オーダーの作成およびアイテムの特定セットの出荷が必要であることを警告します。このドキュメントを運送会社ドキュメントとして識別します。

既存のビジネス・ドキュメントを、バイヤー、セラー、または運送会社のドキュメントとして分類するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「通信」>「ビジネス・ドキュメント」を選択します。作業領域に、「ビジネス・ドキュメント・リスト (Business Document List)」ウィンドウが表示されます。
2. ビジネス・ドキュメントを関連付ける役割に応じて、「セラーのドキュメント」タブ、「バイヤーのドキュメント」タブ、または「運送会社ドキュメント」タブのいずれかを選択します。
3.  を選択します。「役割ドキュメントの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



Role Document Details	
Role	Seller
Document ID	<input type="text"/> 
Document Name	<input type="text"/>
Description	<input type="text"/>

4. 「ドキュメント ID」から、役割に関連付けるビジネス・ドキュメントを選択します。
5. 「ドキュメント名」に、ビジネス・ドキュメントの名前を入力します。

6. 「説明」に、ドキュメント形式の簡単な説明を入力します。
7.  を選択します。

---

## 第 11 章 命名法コンポーネントの構成

命名実行時コンポーネントは、取引先が用いる固有の条件に適合させるために使用する、固有の条件を構成できるマッピング・ツールを提供します。

取引先または外部システムが Sterling Selling and Fulfillment Foundation と情報を交換する場合、それらは Sterling Selling and Fulfillment Foundation や相互とは異なる方法でエンティティ値を識別することがあります。例えば、運送会社コードは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation では UPS、取引先や外部システムでは UnitedParcelService と呼ばれることがあります。

命名法変換エンジンにより、それらのエンティティ、その値、および対話システムまたは取引先との間のマッピングを定義できます。次いで、データが Sterling Selling and Fulfillment Foundation と外部システムまたは取引先との間で交換される場合、命名法変換エンジンは、指定されたマッピング・ルールを自動的に適用します。

上記の例の United Parcel Service を使用して、データを Sterling Selling and Fulfillment Foundation から外部システムまたは取引先に送信すると、命名法変換エンジンは、運送会社コード・リテラルの UPS を UnitedParcelService に (あるいはその逆に) 変換します。

---

### 命名コードの定義

#### このタスクについて

命名コードにより、命名定義でエンティティを定義するのに使用できる属性コードの作成、変更、および削除が可能になります。

命名コードを作成するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「アプリケーション・プラットフォーム」を選択します。サイド・パネルに、「アプリケーション・プラットフォーム」ツリーが表示されます。
2. 「アプリケーション・プラットフォーム」ツリーから、「命名法」>「命名コード」を選択します。作業領域に、「命名コード」ウィンドウが表示されます。
3.  を選択します。「命名コードの詳細 (Nomenclature Code Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



4. 「命名コード」に、属性コードの名前を入力します。
5. 「簡略説明」に、命名コードの簡単な説明を入力します。
6. 「詳細説明」に、命名コードの詳しい説明を入力します。
7.  を選択します。

---

## 命名定義の定義

### このタスクについて

命名定義により、変換を必要とするエンティティを作成できます。これらのエンティティは、各システムおよび参加者（エンタープライズ、バイヤー、セラー、キャリア）に対して識別されます。エンティティ定義は、1 つ以上の属性コードの組み合わせに対して作成されます。エンティティを作成する属性コードは、参加しているすべてのシステムおよび参加者間で共通です。

命名定義を作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「命名法」>「命名定義」を選択します。作業領域に、「命名定義の検索」ウィンドウが表示されません。
2.  を選択します。「命名定義の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。以下の表「命名定義メニュー」を参照して、情報を入力します。
3.  を選択します。

表 86. 命名定義メニュー

プロパティ	説明
システム名	このエンティティの定義対象である各システムの固有のシステム名を入力します。これは必須パラメータです。 「STERLING」というシステム名は予約されています。
組織コード	組織コードに対する参加者を選択します。参加者全体に定義を適用する場合は、ドロップダウン・リストから「デフォルト」組織を選択します。これは必須パラメータです。  組織コードは、取引パートナーまたは外部システムを一意に識別します。
コードの説明	作成されるエンティティの固有の説明を入力します。
値の表示	デフォルトでは、値が表示されます。システムおよび参加者に対して有効値のリストを表示したくない場合は、これにチェックを付けます。このチェックを外すと、マッピング時にエンティティの有効値は表示されません。
コード 1 の名前からコード 4 の名前	エンティティを定義するためにグループ化できる属性コードを最大 4 つ選択します。少なくとも 1 つの属性を選択する必要があります。命名コードの保守管理を通じて、リストに属性を追加することができます。リストは、 CODE_TYPE='XREF_CODE' の YFS_COMMON_CODE テーブルから表示されます。
コード値 API	「コード値 API」ボックスにチェックを付け、クラス名を入力します。これにより、コードの値のリストが取得されます。
クラス名	外部システムから値を取得するために使用されるクラス名を入力します。  システムには、特定の属性コードに対して事前定義されたクラスがあります。それにより、「STERLING」というシステム名に対するデータが取得されます (Sterling Selling and Fulfillment Foundation によって定義されたコード値)。  属性コードに対する有効な値のリストの取得にクラスを使用することは必須ではありません。コード値は、エンティティのマッピング時に作成し、直接マッピングすることが可能です。

## 命名定義間のマッピングの作成 このタスクについて

命名定義間のマッピングを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「命名法」>「命名定義」を選択します。作業領域に、「命名定義の検索」ウィンドウが表示されず。
2. マップする 2 つのエンティティーを選択して、「マッピング」ボタンをクリックします。「命名マッピング」パネルが表示されます。

The screenshot shows the 'Nomenclature Mapping Search' window. It features two search panels. The left panel is for 'System1' and the right for 'System2'. Both have 'Carrier' as the Code1 Name and Code2 Name. Below the search panels is a 'Create Mapping' button. At the bottom is a 'Nomenclature Mappings' panel with a table structure for mapping values.

From Code1 Value	From Code2 Value	From Code3 Value	From Code4 Value	To Code1 Value	To Code2 Value	To Code3 Value	To Code4 Value
------------------	------------------	------------------	------------------	----------------	----------------	----------------	----------------

「命名マッピング」パネルには、選択したエンティティーに対する有効な値のリストが表示されます。マップ元/マップ先のエンティティーを変更するには、システム名、組織コード、またはエンティティーの説明を変更します。

**注:** エンティティー定義の作成時に「値の表示」オプションが選択されない場合は、このリストは表示されません。

3.  を選択します。新たに定義されたエンティティが検索結果内のエンティティのリストに追加されます。
4. 各属性の値を入力して、 を選択します。
5. 2 つのエンティティ間のマッピングを作成するには、マッピング元/マッピング先のシステムに表示される値のリストから 1 つの行を選択して、「マッピングの作成」ボタンをクリックします。

## 命名構成の定義

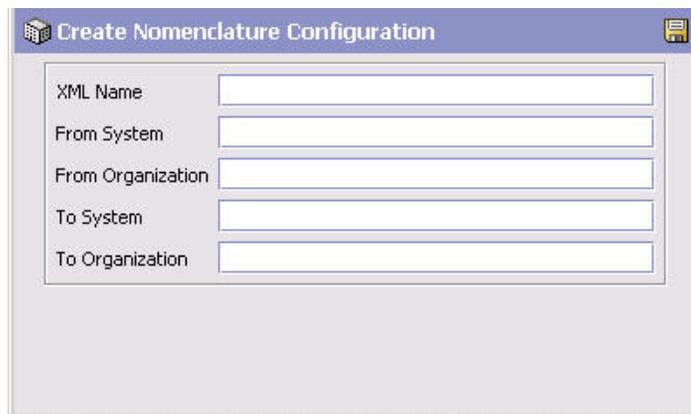
### このタスクについて

命名構成により、Sterling Selling and Fulfillment Foundation と外部システムまたは取引パートナーとの間でのデータ交換時に適用するルールおよび変換される必要のあるエンティティを定義できます。構成は、交換される各ドキュメントについてキャプチャーされます。

2 つのシステム間で固有の構成を作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「命名法」>「命名構成」を選択します。作業領域に、「命名構成の検索」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「命名構成の作成」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、以下の表を参照してください。



The screenshot shows a dialog box titled "Create Nomenclature Configuration". It has a title bar with a close button on the right. The main area contains five text input fields, each with a label to its left: "XML Name", "From System", "From Organization", "To System", and "To Organization".

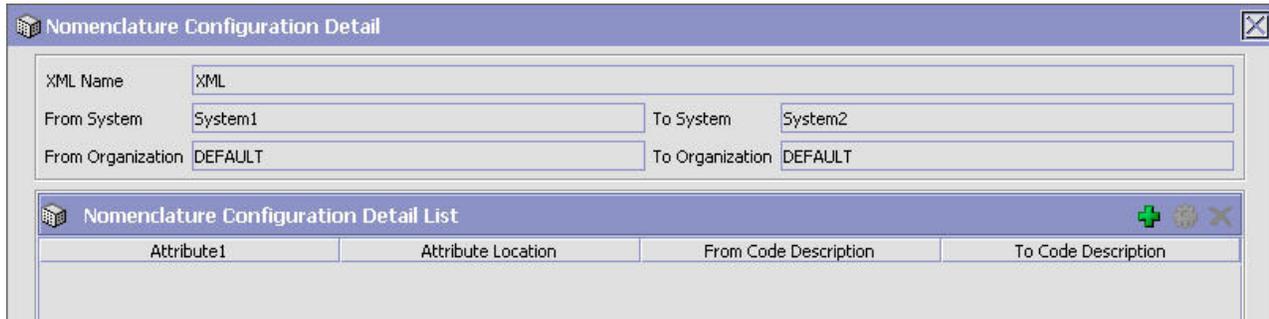
表 87. 命名構成

プロパティ	説明
XML 名	2 つのシステムまたは参加者間で交換されるドキュメントの固有の名前を入力します。
開始システム	ドキュメントの発信元のシステム名を入力します。
終了システム	ドキュメントの送信先のシステム名を入力します。
開始組織	ドキュメントの発信元の組織を入力します。

表 87. 命名構成 (続き)

プロパティ	説明
終了組織	ドキュメントの送信先の組織を入力します。

4.  を選択します。「構成の詳細」ウィンドウが表示されます。



5.  を選択します。変換する必要があるドキュメント内のすべてのフィールドが示された「構成の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
6. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、以下の表を参照してください。

表 88. 命名構成の詳細

プロパティ	説明
XML 名	交換されるドキュメントを識別する固有の名前。
属性ロケーション	<p>変換が必要な属性が存在する要素の絶対 XML パスを入力します。</p> <p>これが XML ドキュメント内の繰り返しノードである場合、変換はすべてのノードに適用されます。</p> <p>例えば、publishShipAdvice 出力 XML がフルフィルメントのために倉庫管理システムに送信され、運送会社コードが変換される必要がある場合、属性ロケーションは ShipmentAdvices/ShipmentAdvice として入力する必要があります。</p>

表 88. 命名構成の詳細 (続き)

プロパティ	説明
属性 1 から 4	<p>ドキュメントの発行時に変換する必要のある XML 属性名を入力します。</p> <p>例えば、publishShipAdvice 出力 XML がフルフィルメントのために倉庫管理システムに送信され、運送会社コードが変換される必要がある場合、属性はドキュメント・ロケーション ShipmentAdvices &gt; ShipmentAdvice 内に Scac として入力する必要があります。</p>
新規属性 1 から 4	<p>変換される各属性では、ドキュメント内の既存の値を置き換えることも、同じレベルの XML に新規属性を挿入することも可能です。変換時に挿入する新規 XML 属性名を入力します。</p> <p>例えば、publishShipAdvice 出力 XML がフルフィルメントのために倉庫管理システムに送信され、運送会社コードが SCAC 属性のドキュメント内のロケーション ShipmentAdvices &gt; ShipmentAdvice で変換される必要があるとします。これは WhseCarrier として指定され、WhseCarrier という新規属性がロケーション ShipmentAdvices &gt; ShipmentAdvice に挿入されます。この XML 属性は変換された新しい値を保持し、古い属性と値はそのままになります。</p>
マッピング・タイプ	<p>命名変換エンジンで指定されているマッピングから値が取得される場合の、命名法を選択します。</p> <p>値が常に定数値に変換される場合は、「定数」を選択します。</p>
エラーにより処理中止	<p>これが選択され、かつ「マッピング・タイプ」が「命名法」に設定されている場合、マッピングが見つからないと、「デフォルトなし (No Default)」になり、処理が停止します。</p>
命名法	<p>変換値を特定するためにシステム参加者が使用するエンティティ定義を指定します。使用する「開始コード説明」および「終了コード説明」を選択します。</p>
デフォルト値の使用	<p>これを選択した場合は、マッピングが見つからないときに適用するデフォルト値を入力します。</p>
定数 1 から 4	<p>「定数」を選択した場合は、XML 属性変換のための定数値を入力します。</p>

---

## 第 12 章 警告キューの構成

キュー管理は、ユーザー警告通知に関係するルールおよび方法を定義するために使用されます。

### 警告

警告は、手操作による介入を必要とするトランザクションに関する、ユーザーまたは警告キューに送信されるメッセージです。警告は、E メール、ファクシミリなどのさまざまな形式で受け取ることができます。

警告は、構成した通知定義に応じて異なるキューに送信されます。

### 警告キュー

警告キューをセットアップして、警告をユーザーに配布します。ユーザーをキューに割り当てることで、どのユーザーがそれぞれの警告タイプを受け取るかを決定します。さらに、警告の特定の条件が満たされた場合に出される警告の優先順位とアクションをセットアップすることもできます。

---

## 警告キューの作成

### このタスクについて

警告キューを作成するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「キュー管理」を選択します。作業領域に、「キュー検索」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「キューの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。

表 89. 「キューの詳細」 ウィンドウ

フィールド	説明
キュー ID	キューの固有 ID を入力します。
キュー名	キューの名前を入力します。
キューの説明	キューの短い説明を入力します。
キュー・グループ	このキューが属するグループを入力します。
キューの優先順位	キューの優先順位を数値で入力します。1 が最高位で、0 は優先順位なしです。これは、ビジネス環境でのキューの重要度を特定するために使用されます。
このキューを監査	キューに加えられた警告とその解決を監査する場合、「このキューを監査」を選択します。

注: 上記の構成が有効になるには、例外モニターがバックグラウンドで稼働している必要があります。

## 未解決の警告をサイズに基づいて処理する方法の定義 このタスクについて

未解決の警告が指定の数を超えたら、それらを別のキューに上申するように、未解決の警告を構成できます。

サイズ・ベースの上申を設定するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. 「キューの詳細」ウィンドウで、「サイズ・ベースの上申」タブを選択します。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。

表 90. 「サイズ・ベースの上申」タブ

フィールド	説明
未解決の警告を上申する場合の上限数	アクションを発生させる前にこのキューにログできる未解決の警告の最大数を入力します。
アクションの発生	このキュー内の未解決の警告の数が、指定された最大数に等しいか、それを超えた場合に実行するアクションを選択します。
再警告までの経過時間	再警告を生成するまでの経過時間数を入力します。

## 未割り当ての警告を時間に基づいて処理する方法の定義 このタスクについて

ユーザーに割り当てられていない警告を、別のキューに上申するか、指定の時間が経過したらアクションを発生させるように（またはその両方）構成できます。

未割り当ての警告に対する時間ベースの上申を設定するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. 「キューの詳細情報」ウィンドウで、「未割り当ての警告」タブを選択します。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。

表 91. 「未割り当ての警告」タブ

フィールド	説明
警告を上申するまでの経過時間	未割り当ての警告が別のキューに移動されるまでの最大時間数を入力します。
警告を別のキューに移動	未割り当ての警告の移動先となるキュー（通常は、より優先順位の高いキュー）の名前を選択します。

表 91. 「未割り当ての警告」タブ (続き)

フィールド	説明
アクションの発生	発生させるアクションを選択します (該当する場合)。
再警告までの経過時間	再警告を生成するまでの経過時間数を入力します。

## 未解決の警告を時間に基づいて処理する方法の定義

### このタスクについて

未解決の警告を、別のキューに上申するか、指定の時間が経過したらアクションを発生させるように (またはその両方) 構成できます。

注: 未割り当ての警告を解決することはできません。

未解決の警告に対する時間ベースの上申を設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 「キューの詳細情報」ウィンドウで、「未解決の警告」タブを選択します。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。

表 92. 「未解決の警告」タブ

フィールド	説明
警告を上申するまでの経過時間	警告がこのキュー内に未解決のまま存在できる最大時間数を入力します。
警告を別のキューに移動	未解決の警告の移動先となるキュー (通常は、より優先順位の高いキュー) の名前を選択します。
アクションの発生	発生させるアクションを選択します (該当する場合)。
再警告までの経過時間	再警告を生成するまでの経過時間数を入力します。

## 警告キューのユーザー・リストの表示

### このタスクについて

警告キューに登録されているユーザーを表示して、登録の詳細を変更することができます。ユーザーについて詳しくは、213 ページの『ユーザーの定義』を参照してください。

キューに登録されているユーザーを表示および変更するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. 「キューの詳細」ウィンドウで、「ユーザー・リスト」タブを選択します。ユーザーの詳細のリストが表示されます。
2. 該当するユーザーを選択して、 を選択します。「ユーザーの詳細」ウィンドウが表示されます。ユーザーの変更について詳しくは、213 ページの『ユーザーの作成』を参照してください。
3. キューからユーザーを削除するには、 を選択します。

User ID	User Name	Organization
Barb	Barbara Ann	DEFAULT
admin	Administrator	DEFAULT

## 警告キューの変更

### このタスクについて

警告キューは、定義後に変更できます。

警告キューを変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「キュー管理」を選択します。作業領域に、「キュー検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。「キュー・リスト」が表示されます。
3. 該当するキューを選択して、 を選択します。「キューの詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 詳しくは、343 ページの『警告キューの作成』にあるトピックを参照してください。

## 警告キューの削除

### このタスクについて

警告キューを削除するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「キュー管理」を選択します。作業領域に、「キュー検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。「キュー・リスト」が表示されます。
3. 該当するキューを選択して、 を選択します。



---

## 第 13 章 地域定義の構成

地域の定義によって、Sterling Selling and Fulfillment Foundation ジオグラフィー・エンジンにより使用されるコンポーネントを構成できます。地域および地域レベルで構成される個々のコンポーネントは、ジオグラフィーを考慮する場合にはいつでも (例えば、配達サービスで配達先にする地域を決定するときなど)、Sterling Selling and Fulfillment Foundation ビジネス・アプリケーション・モデル全体を通じて使用できる地域スキーマを作成するために使用できます。

---

### 地域レベルの定義

地域レベルは、地域を異なるカテゴリーに分類します。地域を集約するレベルに基づいて、国または地域、市区町村などの地域レベルを定義したり、地域レベルが対応する住所フィールドを定義したりできます。地域レベルによって、地域階層を作成することもできます。

### 地域レベルの作成

#### このタスクについて

地域レベルを作成するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「地域の定義」> 「地域レベル」を選択します。作業領域に、「地域レベル」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「地域レベルの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。
4.  を選択します。

表 93. 「地域レベルの詳細」ウィンドウ

フィールド	説明
地域レベル名	地域レベルの名前を入力します。
説明	地域レベルの簡単な説明を入力します。
この地域レベルとの対応	この地域レベルの対応する住所フィールドをドロップダウン・リストから選択します。地域照合について詳しくは、351 ページの『地域照合プリファレンスの定義』を参照してください。
この地域レベルは一連の郵便番号で定義可能	この地域レベルに関連付けられた地域によって郵便番号の範囲を定義できることを示すには、「この地域レベルは一連の郵便番号で定義可能」を選択します。これは、この地域レベルの地域を定義する際にのみ、「郵便番号でこの地域を定義する」フィールドをデフォルトに設定するために使用されます。
有効な子地域レベル	この地域に定義済みの子地域レベルがある場合は、「使用可能 (Available)」テーブルから該当する地域レベルを選択して、右矢印ボタンをクリックします。

注: 最も低い地域レベルから最も高い地域レベルの順に作成することをお勧めします。例えば、まず「町」という地域レベルを作成します。次に「群」という地域レベルを作成します。「町」は既に作成されているため、「群」地域レベルを作成すると同時に「町」を「群」の下に移動できます。

注: 「群」を最初に作成した場合は、「群」を閉じてから「町」を作成して、「町」を閉じてから「群」を再び開いて、「町」を「群」の下に追加する必要があります。

## 地域レベルの変更

### このタスクについて

地域レベルを変更するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「地域の定義」>「地域レベル」を選択します。作業領域に、「地域レベル」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する地域レベルを選択して、 を選択します。「地域レベルの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、350ページの表 93 を参照してください。
4.  を選択します。

## 地域レベルの削除

### このタスクについて

地域レベルを削除するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「地域の定義」>「地域レベル」を選択します。作業領域に、「地域レベル」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する地域レベルを選択して、 を選択します。

---

## 地域照合プリファレンスの定義

地域照合プリファレンスにより、各国または地域に対して、地域と照合する住所のレベルを指定できます。地域照合について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 製品概念の手引き」を参照してください。

## 地域照合プリファレンスの設定

### このタスクについて

地域照合プリファレンスを設定するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「地域の定義」>「地域照合プリファレンス」を選択します。作業領域に、「地域照合プリファレンス」ウィンドウが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。
3.  を選択します。

表 94. 地域照合プリファレンス

フィールド	説明
国/地域	ドロップダウン・リストから国コードまたは地域コードを選択します。

表 94. 地域照合プリファレンス (続き)

フィールド	説明
地域の検索条件	特定の国または地域に対して地域の突き合わせを行う住所フィールドを選択します。

## 地域照合プリファレンスの削除

### このタスクについて

地域照合プリファレンスを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「地域の定義」> 「地域照合プリファレンス」を選択します。作業領域に、「地域照合プリファレンス」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する地域照合プリファレンスを選択して、 を選択します。

## 地域スキーマの定義

地域スキーマは、特定のジオグラフィーを定義する地域の完全階層セットです。地域は、特定の領域で構成されます。例えば、各都道府県や市区町村全体の地域を作成できます。

特定の地域をさらに小さい地域の親地域と定義することで、地域階層を作成できます。

## 地域スキーマの作成

### このタスクについて

地域スキーマを作成するには、次の手順を実行します。

**注:** 地域スキーマは、上位から下位の順に作成する必要があります。例えば、地域スキーマが国、都道府県、および市区町村という地域で構成されている場合は、国、都道府県、および市区町村という順に作成する必要があります。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「地域の定義」> 「地域スキーマ」を選択します。作業領域に、「地域スキーマ」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「地域スキーマの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。
4.  を選択します。

表 95. 「地域スキーマの詳細」 ウィンドウ

フィールド	説明
地域スキーマ名	地域スキーマの名前を入力します。
国/地域	地域スキーマの配置先の国または地域を選択します (国全体や地域全体を選択しても、国内や地域内の領域などを選択してもかまいません)。このフィールドは省略可能であり、個別地域の定義時に郵便番号の範囲を入力する際に国または地域をデフォルトに設定するためにのみ使用されます。
説明	地域スキーマの簡単な説明を入力します。
地域	地域階層のグラフィカル表現です。

## 地域の作成

### このタスクについて

地域を作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 「地域スキーマの詳細」 ウィンドウで、地域階層内で新しい地域の追加先となる地域を強調表示して、 を選択します。「地域の詳細」 ウィンドウが表示されます。
- 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。
-  を選択します。

表 96. 「地域の詳細」 ウィンドウ

フィールド	説明
レベル	地域のレベルを選択します。地域レベルについて詳しくは、349 ページの『地域レベルの定義』 を参照してください。
地域名	地域の名前を入力します。  「国/地域」 フィールドにマッピングされた地域レベルを選択した場合は、このフィールドでは、選択できる国コードや地域コードのドロップダウン・リストが表示されます。
郵便番号でこの地域を定義する	この地域を 1 つまたは複数の郵便番号で定義するには、このチェック・ボックスを選択します。  このチェック・ボックスを選択すると、「郵便番号の範囲」 テーブルが有効になります。  この地域に対して選択した地域レベルについて、「この地域レベルは一連の郵便番号で定義可能」 オプションが選択されていない場合は、このチェック・ボックスは使用できません。  地域レベルの定義について詳しくは、349 ページの『地域レベルの定義』 を参照してください。
郵便番号の範囲	「郵便番号でこの地域を定義する」 を選択した場合は、構成対象の地域の郵便番号の範囲を入力して、それらの郵便番号が定義されている対象の国または地域を選択します。

## 地域の変更

### このタスクについて

地域を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「地域スキーマの詳細」ウィンドウで、該当する地域を地域階層から選択して、 を選択します。「地域の詳細」ウィンドウが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、353ページの表 96 を参照してください。
3.  を選択します。

## 地域の削除

### このタスクについて

地域を削除するには、「地域の詳細」ウィンドウで該当する地域を選択して、 を選択します。

注: 子地域もすべて削除されます。

## 地域スキーマの変更

### このタスクについて

地域スキーマを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「地域の定義」> 「地域スキーマ」を選択します。作業領域に、「地域スキーマ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する地域スキーマを選択して、 を選択します。「地域スキーマの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、353ページの表 95 を参照してください。
4.  を選択します。

## 地域スキーマの削除

### このタスクについて

地域スキーマを削除するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「地域の定義」>「地域スキーマ」を選択します。作業領域に、「地域スキーマ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する地域スキーマを選択して、 を選択します。



---

## 第 14 章 デバイスの構成

ウェアハウスは、多数のハンドヘルド・デバイスおよびステーションナリー・デバイスで構成されます。これらのデバイスには、その固有の定義があり、場合によってはステーションまたは機器と特別に関連付けられています。デバイスの例には、プリンター、RF スキャナー、および重量計などがあります。

デバイスの個別の各グループは、デバイス・タイプとサブタイプの組み合わせとして表されます。デバイスとその固有の通信要件は、各デバイスの構成時に示されません。

---

### デバイス・タイプの定義

すべてのデバイスは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation でデバイス・タイプに関連付けられます。個々の単位は、デバイス・タイプのサブタイプと定義されます。

例えば、デバイス・タイプには、RF スキャナー、プリンター、および重量計が含まれます。

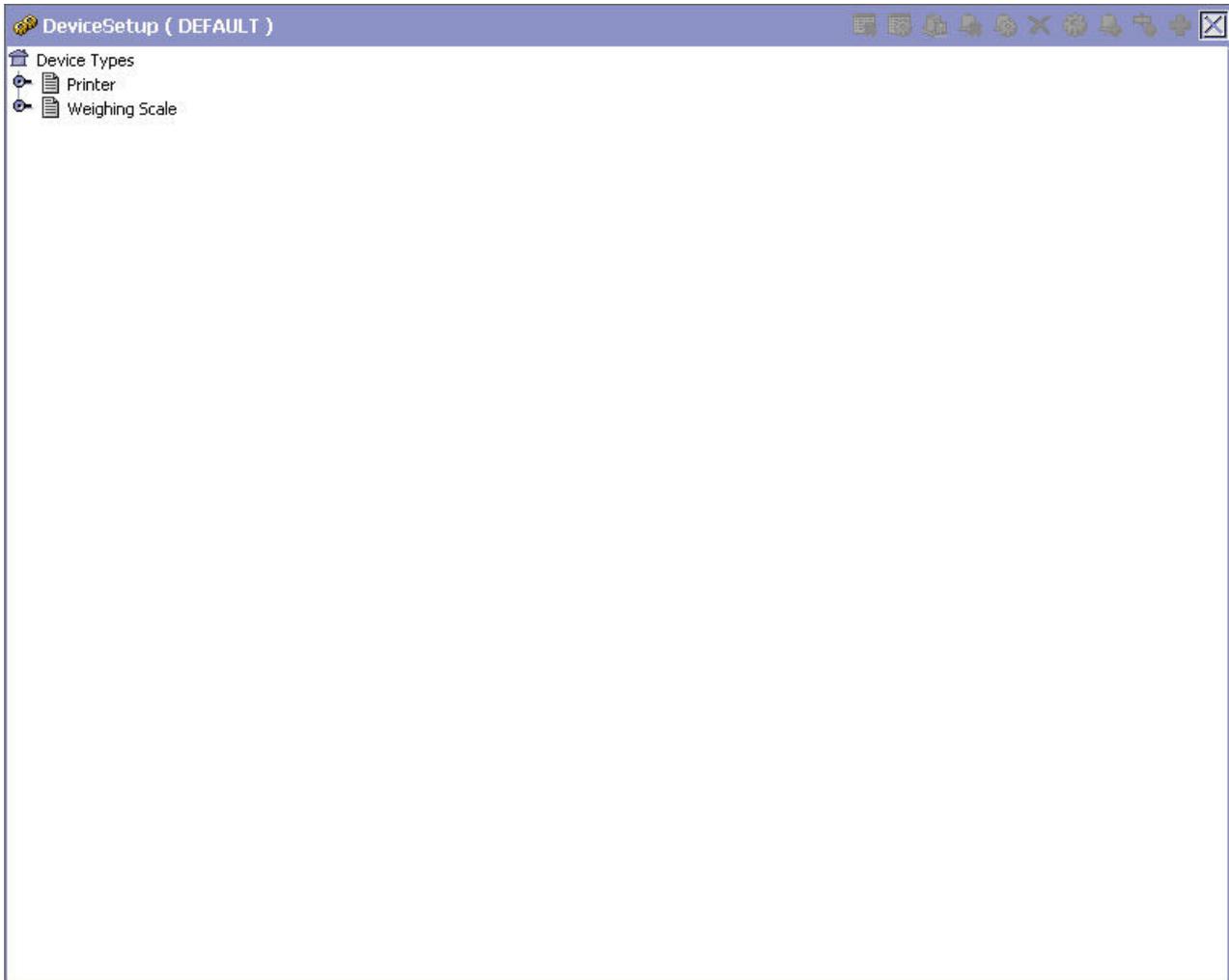
### デバイス・タイプの作成

#### このタスクについて

デバイス・タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「デバイス」を選択します。「デバイス設定」ウィンドウが表示されます。



2. 「デバイス設定」ウィンドウで、 を選択します。「デバイス・タイプ」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。
4.  を選択します。

A screenshot of a dialog box titled "Device Type". The dialog box has a title bar with a small icon on the left and a save icon on the right. The main area of the dialog box contains two text input fields. The first field is labeled "Device Type" and the second field is labeled "Description". Both fields are currently empty.

表 97. 「デバイス・タイプ」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
デバイス・タイプ	デバイス・タイプの名前を入力します。  これは、デバイスのタイプを識別するために役立ちます。デバイス・タイプの例は、重量計やプリンターです。
説明	デバイス・タイプの短い説明を入力します。

## デバイス・タイプの変更 このタスクについて

デバイス・タイプは、作成後に変更できます。

デバイス・タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「デバイス」を選択します。
2. 「デバイス設定 (Device Setup)」ウィンドウに、デバイス・タイプのリストが表示されます。
3. 変更するデバイス・タイプを選択します。  を選択します。
4. 「デバイス・タイプ」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 97 を参照してください。
6.  を選択します。

## デバイス・タイプの削除 このタスクについて

デバイス・タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「デバイス」を選択します。
2. 「デバイス設定 (Device Setup)」ウィンドウに、デバイス・タイプのリストが表示されます。
3. 削除するデバイス・タイプを選択します。  を選択します。

---

## デバイス・サブタイプの定義

デバイス・サブタイプは、デバイス・タイプを分類します。

例えば、デバイス・タイプ「プリンター」は、HP LaserJet 5P、Eltron、Unimark、および Zebra 170 などにさらに分類またはサブタイプ化されます。それぞれのサブタイプでは、デバイス構成と個別パラメーターの指定ができます。

他の例としては、デバイス・タイプ「RF スキャナー」の下で使用されるハンドヘルド・スキャナー・モデルや機器マウント・モデルなどのサブタイプもあります。

## デバイス・サブタイプの作成

### このタスクについて

デバイス・サブタイプを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「デバイス」を選択します。「デバイス設定」ウィンドウが表示されます。
2. 「デバイス設定」ウィンドウで、作成するデバイス・サブタイプのデバイス・タイプを選択します。
3.  を選択します。「デバイス・サブタイプ」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。
5.  を選択します。

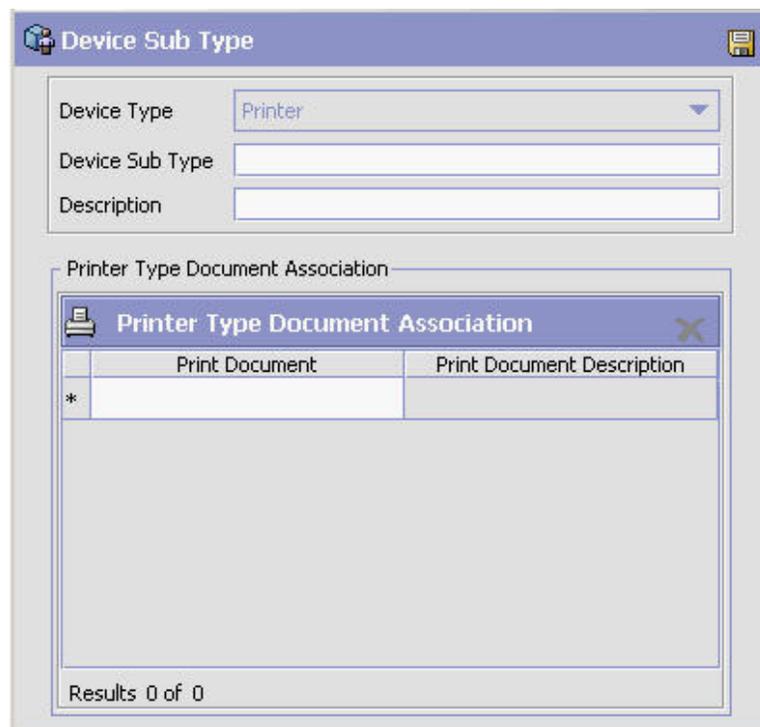


表 98. 「デバイス・サブタイプ」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
デバイス・タイプ	「デバイス・タイプ」は、作成するデバイス・サブタイプのデバイス・タイプを示します。  これは、「デバイス設定」ウィンドウで選択されたデバイス・タイプに基づき、システムによって入力されています。

表 98. 「デバイス・サブタイプ」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
デバイス・サブタイプ	デバイス・サブタイプの名前を入力します。
説明	デバイス・サブタイプの短い説明を入力します。
プリンター・タイプのドキュメント関連付け	
このパネルは、「デバイス・タイプ」の値が「プリンター」に設定されている場合に利用できません。	
プリンター・タイプのドキュメント関連付け	選択したプリンターに関連付ける印刷ドキュメントを選択します。

注: FEDEX 運送会社ラベルを印刷するための新規デバイス・サブタイプを構成している場合、新規デバイス・サブタイプの値を YCS マッピング・テーブルでマッピングしてください。YCS マッピング・テーブルについて詳しくは、『Parcel Carrier アダプター・ガイド』を参照してください。

## デバイス・サブタイプの変更

### このタスクについて

デバイス・サブタイプは、作成後に変更できます。

デバイス・サブタイプを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「デバイス」を選択します。「デバイス設定 (Device Setup)」ウィンドウが表示されます。
2. 「デバイス設定 (Device Setup)」ウィンドウで、変更するデバイス・サブタイプのデバイス・タイプを選択します。これで、デバイス・サブタイプのリストが表示されます。
3. 変更するデバイス・サブタイプを選択します。 を選択します。
4. 「デバイス・サブタイプ」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、360 ページの表 98 を参照してください。
6.  を選択します。

## デバイス・サブタイプの削除

### このタスクについて

デバイス・サブタイプを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「デバイス」を選択します。「デバイス設定 (Device Setup)」ウィンドウが表示されます。
2. 「デバイス設定 (Device Setup)」ウィンドウで、削除するデバイス・サブタイプのデバイス・タイプを選択します。これで、デバイス・サブタイプのリストが表示されます。

3. 削除するデバイス・サブタイプを選択します。
4.  を選択します。

---

## デバイスの定義

デバイスは、ネットワーク上に存在しているか、端末あるいは機器に直接接続されている実際のデバイスを表します。デバイス・タイプとサブタイプの組み合わせのすべてのインスタンスは、デバイスとして定義する必要があります。

例えば、5 台の HP LaserJet 5P プリンターと、4 台の Zebra R140 プリンターが在庫するウェアハウスでは、9 台すべてのプリンターがデバイスとして構成されます。

## デバイス概要の作成

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、標準デバイス・タイプ、サブタイプ、およびサポートされる個々のデバイスのリストを供給します。新規デバイス・タイプ、サブタイプ、および結果のデバイスの定義には、そのデバイスとの通信を定義する適切な属性の作成が必要です。

プリンターとの通信を制御する属性のリストは、以下のとおりです。

- DropDirectory - 印刷ファイルが Sterling Selling and Fulfillment Foundation サーバーにより「ドロップ」されるディレクトリー。Loftware Print Server は、印刷要求をピックアップするためにこのディレクトリーのポーリングを継続します。ディレクトリー構造について言えば、絶対パス名を使用するか、またはパス名を変数で置き換えることができます。この変数の組み込みについては、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 条件ビルダーの拡張」を参照してください。

注: DropDirectory 属性は、<INSTALL\_DIR>/properties/customer\_overrides.properties ファイルで yfs.loftware.tcpip.sockets プロパティーが N に設定されている場合のみ、Applications Manager で表示されません。

注: customer\_overrides.properties ファイルを使用したプロパティーのオーバーライドについては、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティー・ガイド」を参照してください。

- PrinterAlias - Loftware プリンター・セットアップで構成されるプリンター・エイリアス。

注: プリンター・デバイスを Sterling Selling and Fulfillment Foundation にセットアップする場合は、プリンター・エイリアスが Loftware プリンター・セットアップで指定されたものと厳密に同じものとなるようにします。

注: ネットワーク・プリンターを使用する場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 上のプリンター・エイリアスには接頭辞「¥¥」を絶対に含めないようにします。ただし、Loftware では、プリンターに接頭辞「¥¥」を付けて定義することが必要な場合があります。

- PrinterServerHostName - Software Print Server のホスト名。IP アドレスで十分である場合もありますが、保守を容易にするためにホスト名の使用を推奨します。
- PrintServerPort - Software Print Server が印刷要求を listen するポート。デフォルトでは、Software Print Server のプリント・サーバー・ポートは 2723 です。

注: PrinterServerHostName 属性および PrintServerPort 属性は、  
<INSTALL\_DIR>/properties/customer\_overrides.properties ファイルで  
yfs.loftware.tcpip.sockets プロパティーが Y に設定されている場合にのみ、  
Applications Manager で表示されます。

注: customer\_overrides.properties ファイルを使用したプロパティーのオーバーライドについては、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティー・ガイド」を参照してください。

重量計との通信を制御する属性のリストは、以下のとおりです。

- ClassName
- PortId
- BaudRate
- DataBits
- StopBits
- Parity
- FlowIn
- FlowOut

注: Mettler Toledo 重量計の ClassName は  
com.yantra.ycp.ui.io.YCPToledoPSImpl です。他の属性に関する指定については、  
重量計のユーザー・マニュアルを参照してください。

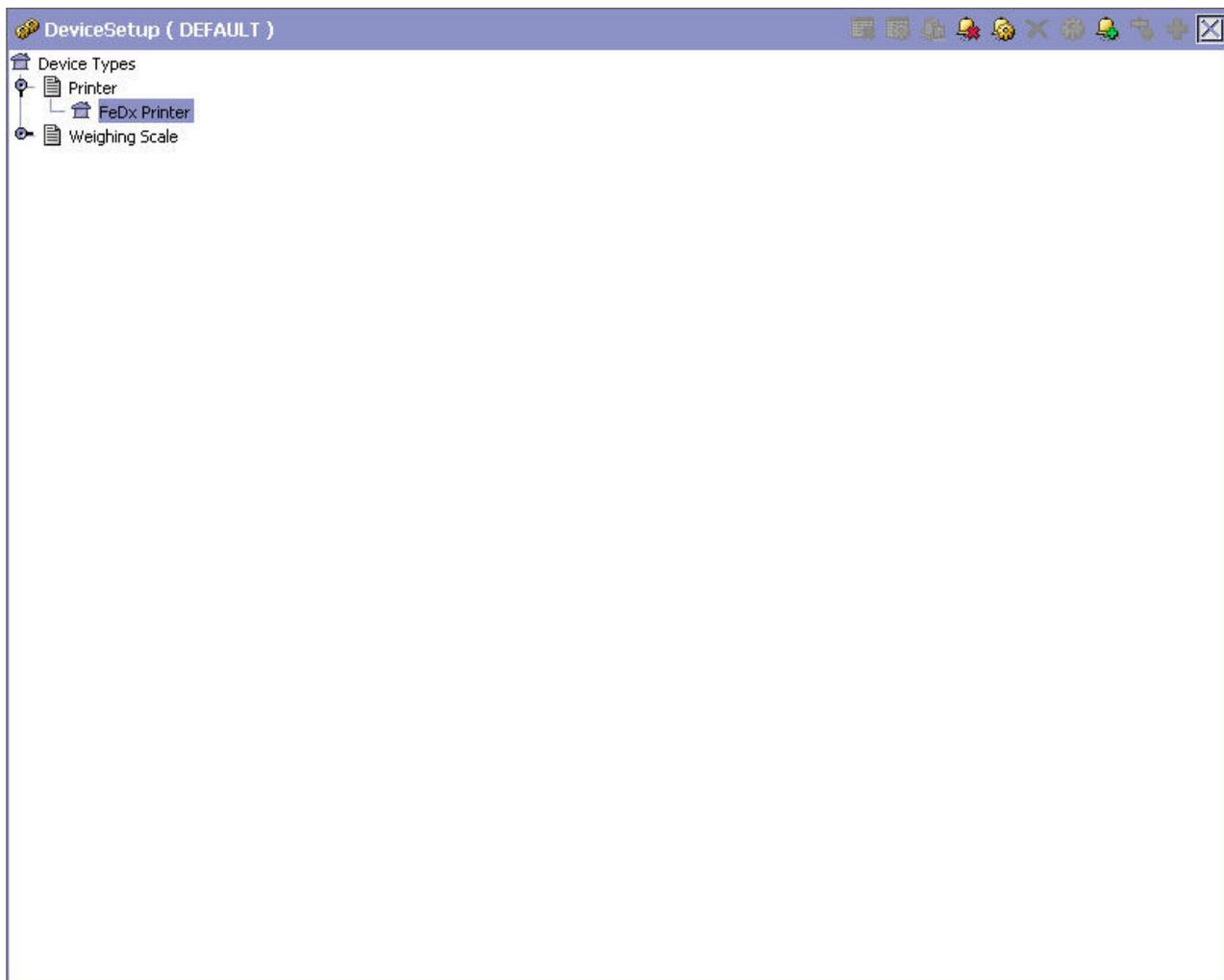
## デバイスの作成

### このタスクについて

デバイスを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「デバイス」を選択します。「デバイス設定」ウィンドウが表示されます。
2. 「デバイス設定」ウィンドウで、作成するデバイスのデバイス・タイプとデバイス・サブタイプを選択します。



3.  を選択します。「デバイス」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、360ページの表 98 を参照してください。
5.  を選択します。

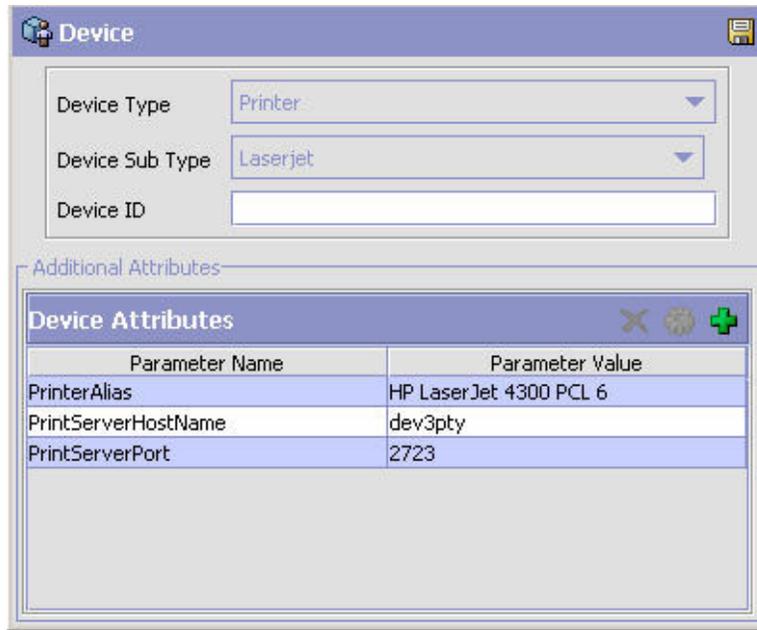


表 99. 「デバイス」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
デバイス・タイプ	「デバイス・タイプ」は、作成するデバイスのデバイス・タイプを示します。  これは、「デバイス設定」ウィンドウで選択されたデバイス・タイプに基づき、システムによって入力されています。
デバイス・サブタイプ	「デバイス・サブタイプ」は、作成するデバイスのデバイス・サブタイプを示します。  これは、「デバイス設定」ウィンドウで選択されたデバイス・サブタイプに基づき、システムによって入力されています。
デバイス ID	デバイスの名前を入力します。  これにより、デバイスがシステム全体で識別されます。
デバイス属性	これは、デバイスの追加属性を示します。  デバイス属性の設定について詳しくは、『デバイス属性の設定』を参照してください。

## デバイス属性の設定

### このタスクについて

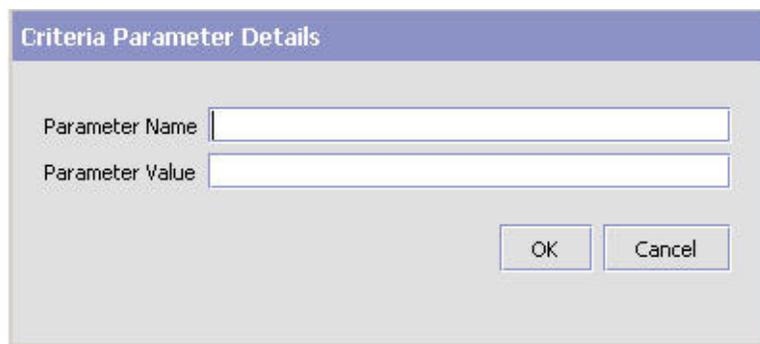
デバイス属性は、適切なデバイスとの通信方法を定義します。HP LaserJet プリンターは、重量計と比較して異なるパラメーター・リストを持ちます。プリンターの個別のブランドもそれぞれ固有のパラメーターおよび値のセットを持ちます。

例えば、シリアル・ポートを通して接続されている重量計には、ストップ・ビットやパリティなどを含むデバイス属性があります。

デバイス属性を設定するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. 「デバイス」ポップアップ・ウィンドウの「デバイス属性」パネルで、 を選択します。
2. 「条件パラメーターの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 100 を参照してください。
4.  を選択します。



The image shows a dialog box titled "Criteria Parameter Details". It contains two text input fields: "Parameter Name" and "Parameter Value". At the bottom right, there are two buttons: "OK" and "Cancel".

表 100. 「条件パラメーターの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
パラメーター名	デバイス属性のパラメーター名を入力します。
パラメーター値	デバイス属性のパラメーター値を入力します。

## デバイスからの新規デバイスの作成の概要

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、標準デバイス・タイプ、サブタイプ、およびサポートされる個々のデバイスのリストを供給します。新規デバイス・タイプ、サブタイプ、および結果のデバイスの定義には、そのデバイスとの通信を定義する適切な属性の作成が必要です。

プリンターとの通信を制御する属性のリストは、以下のとおりです。

- DropDirectory - 印刷ファイルが Sterling Selling and Fulfillment Foundation サーバーにより「ドロップ」されるディレクトリー。Loftware Print Server は、印刷要求をピックアップするためにこのディレクトリーのポーリングを継続します。ディレクトリー構造について言えば、絶対パス名を使用するか、またはパス名を変数で置き換えることができます。この変数の組み込みについて詳しくは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張」を参照してください。

注: DropDirectory 属性は、<INSTALL\_DIR>/properties/customer\_overrides.properties ファイルで yfs.loftware.tcpip.sockets プロパティーが N に設定されている場合にのみ、Applications Manager で表示されません。

注: customer\_overrides.properties ファイルを使用したプロパティーのオーバーライドについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティー・ガイド」を参照してください。

- PrinterAlias - Loftware プリンター・セットアップで構成されるプリンター・エイリアス。

注: プリンター・デバイスを Sterling Selling and Fulfillment Foundation にセットアップする場合は、プリンター・エイリアスが Loftware プリンター・セットアップで指定されたものと厳密に同じものとなるようにします。

注: ネットワーク・プリンターを使用する場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 上のプリンター・エイリアスには接頭辞「¥¥」を絶対に含めないようにします。ただし、Loftware では、プリンターに接頭辞「¥¥」を付けて定義することが必要な場合があります。

- PrinterServerHostName - Loftware Print Server のホスト名。IP アドレスで十分である場合もありますが、保守を容易にするためにホスト名の使用を推奨します。
- PrintServerPort - Loftware Print Server が印刷要求を listen するポート。デフォルトでは、Loftware Print Server のプリント・サーバー・ポートは 2723 です。

注: PrinterServerHostName 属性および PrintServerPort 属性は、  
<INSTALL\_DIR>/properties/customer\_overrides.properties ファイルで  
yfs.ftware.tcpip.sockets プロパティーが Y に設定されている場合にのみ、  
Applications Manager で表示されます。

注: customer\_overrides.properties ファイルを使用したプロパティーのオーバーライドについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティー・ガイド」を参照してください。

重量計との通信を制御する属性のリストは、以下のとおりです。

- ClassName
- PortId
- BaudRate
- DataBits
- StopBits
- Parity
- FlowIn
- FlowOut

適切な属性の作成について詳しくは、365 ページの『デバイス属性の設定』を参照してください。

注: Mettler Toledo 重量計の ClassName は com.yantra.ycp.ui.io.YCPToledoPSImpl です。他の属性に関する指定については、重量計のユーザー・マニュアルを参照してください。

## デバイスからの新規デバイスの作成

### このタスクについて

デバイスから新規デバイスを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「デバイス」を選択します。「デバイス設定」ウィンドウが表示されます。
2. 「デバイス設定」ウィンドウで、コピーするデバイスのデバイス・タイプとデバイス・サブタイプを選択します。
3. デバイスのリストが表示されます。新規デバイスを作成するためにコピーするデバイスを選択します。
4.  を選択します。「デバイス」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、360ページの表 98 を参照してください。
6.  を選択します。

## デバイスの変更

### このタスクについて

デバイスは、作成後に変更できます。

デバイスを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「デバイス」を選択します。「デバイス設定 (Device Setup)」ウィンドウが表示されます。
2. 「デバイス設定 (Device Setup)」ウィンドウで、変更するデバイスの関連デバイス・タイプおよびデバイス・サブタイプを選択します。
3. デバイスのリストが表示されます。変更するデバイスを選択します。
4.  を選択します。「デバイス」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、360ページの表 98 を参照してください。
6.  を選択します。

## デバイスの削除

### このタスクについて

デバイスを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「デバイス」を選択します。「デバイス設定 (Device Setup)」ウィンドウが表示されます。

2. 「デバイス設定 (Device Setup)」ウィンドウで、削除するデバイスの関連デバイス・タイプおよびデバイス・サブタイプを選択します。
3. デバイスのリストが表示されます。削除するデバイスを選択します。
4.  を選択します。



---

## 第 15 章 印刷の構成

ウェアハウスの運用には多数のドキュメントが必要であり、ラベルやレポートであれば、毎日印刷することが必要です。ドキュメントの印刷は、特定のイベントのオカレンスによるか、またはユーザーによるその都度の要請のいずれかで開始されます。

例えば、運送会社ラベルは積荷目録ステーションにカートンのスキャン後に印刷され、トラック積荷目録 (MBOL) はトレーラー積み付けが完了し、トラックをクローズする準備ができた場合に要請されます。

ドキュメントは、個別にまたはセットやグループで印刷されます。ドキュメント・セットは、実行される個々のアクティビティーに関連付けられている複数のドキュメントで構成されます。

例えば、ウェーブ・トリガーのリリースにより、ウェーブ・サマリー・レポート、カートン内容ラベル、バッチ・シート、およびパッキング・スリップが印刷されます。

ウェアハウスで印刷されるドキュメントの例には、パッキング・リスト、BOL、運送会社ラベル、SKU ラベル、および UCC128 SCM ラベルが含まれます。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は標準ドキュメントを提供しますが、これには以下のものが含まれます。

- ピック用のバッチ・シート
- ピック用のカート積荷目録
- パッキング・スリップ
- VICS 積荷証券 (BOL)
- UCC-128 準拠の 4x6 出荷ラベル (WALMART® 準拠を含む)
- UPS 標準運送会社ラベル
- 上記の 1 つ以上の印刷で構成されるウェーブ・リリース印刷ドキュメント・セット

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は標準ドキュメントを提供しますが、これには以下のものが含まれます。

特定のドキュメントには、ラベル書式と、それに関連付けられているデバイス・サブタイプがあります。

印刷ドキュメントとデバイス・サブタイプとの関連付け (例えば、HP LaserJet プリンター上のパッキング・スリップ) は、デバイス・サブタイプのセットアップにより行われます。デバイス・サブタイプのセットアップについては、359 ページの『デバイス・サブタイプの定義』を参照してください。

ドキュメントとラベル書式および名前との関連付けはここで行われます。

---

## 印刷ドキュメントの定義

ドキュメントには、名前と、その対応するラベル書式が割り当てられます。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、印刷がサポートされる標準ドキュメント・リストを提供しています。

例えば、VICS BOL は VICS BOL ラベル書式に関連付けられます。

印刷ドキュメントおよび作成されるラベル書式は、ハブ・レベルのものとなります。

## 印刷ドキュメントの作成

### このタスクについて

印刷ドキュメントを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「印刷」 > 「ドキュメントの印刷」を選択します。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルト印刷ドキュメントが示された「ドキュメントの印刷」ウィンドウが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。
3.  を選択します。

Print Documents ( DEFAULT )			
Print Document	Document Description	Save Directory	Default Label Format
PACKLIST	Packing Slip		PACKLIST
CONTAINER_LABEL	UCC-128 Container Shipping Label		CONTAINER_LABEL_MULTI_SKU
TASKLIST	TaskList		ITEM_PICK_BATCHSHEET
VICS_BOL	VICS Bill Of Lading		VICSBOL_SHIPMENT
UPS_PICKUP_SUMMARY	UPS Pickup Summary		UPS_PICKUP_SUMMARY
UPS_CARRIER_LABEL	UPS Carrier Label		UPS_CARRIER_LABEL
FEDX_CARRIER_LABEL	FEDEX Carrier Label		
COUNTSHEET	Count Sheet		COUNT_SHEET
*			

Results 8 Of 8

Print Documents ( DEFAULT )

表 101. 「ドキュメントの印刷」ウィンドウ

フィールド	説明
ドキュメントの印刷	印刷するドキュメントの名前を入力します。
ドキュメントの説明	印刷ドキュメントの短い説明を入力します。

表 101. 「ドキュメントの印刷」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
保存ディレクトリー	<p>印刷ドキュメントを保存するディレクトリー・パスを入力します。</p> <p>これは、事前に生成され、後で要求時に印刷されるドキュメントで使用されます。</p> <p>代表的な例は、パッキング・リストです。これは、事前に生成され、最後のカートンがスキャンされたときに印刷されます。</p> <p>絶対パス名ではなく変数を使用する場合、その変数が &lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties ファイルで設定されていることを確認してください。customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> プロパティ・ガイド」を参照してください。</p>
デフォルトのラベル書式	<p>印刷のためのデフォルト・ラベル書式を選択します。</p> <p>これは、すべての組織にわたるこの文書のデフォルト・ラベル書式を示します。ラベル書式は、Loftware Label Manager™ を使用して作成されたラベル設計ファイル (.LWL) の名前です。</p>

## 印刷ドキュメントの変更 このタスクについて

印刷ドキュメントは、作成後に変更できます。

印刷ドキュメントを変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「印刷」>「ドキュメントの印刷」を選択します。「ドキュメントの印刷」ウィンドウに、印刷ドキュメントのリストが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、373 ページの表 101 を参照してください。
3.  を選択します。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation によって提供された標準の印刷ドキュメントは変更しないでください。

## 印刷ドキュメントの削除 このタスクについて

印刷ドキュメントを削除するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「印刷」 > 「ドキュメントの印刷」を選択します。「ドキュメントの印刷」ウィンドウに、印刷ドキュメントのリストが表示されます。
2. 削除する印刷ドキュメントを選択します。
3.  を選択します。
4. Sterling Selling and Fulfillment Foundation によって提供された標準の印刷ドキュメントは削除しないでください。

---

## ラベル書式の定義

ドキュメントに対応するラベル書式は、ここで定義します。これにより、Loftware™ ラベル書式およびマッピング XML ファイルへのラベル書式の関連付けができます。

ここで関連付けられる Loftware™ ラベル書式は、Loftware™ ツールを使用して作成されます。マッピング XML ファイルは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 提供のツールキットを使用して作成されます。ラベル内のフィールドと、パブリック済み標準 XML のフィールドとの間のフィールド結合は、マッピング XML で指定されます。

Loftware Label Manager™ のインストールおよび構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* インストール・ガイド」を参照してください。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、サポートされるすべての標準ドキュメント用の標準ラベル形式およびマッピング・ファイルを提供します。印刷は、サービス定義フレームワーク (SDF) で定義されたサービス・フローにより実行されます。Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、提供される標準ドキュメントのデータ・フローを提供します。

## ラベル書式の作成

### このタスクについて

ラベル形式を作成するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「印刷」 > 「ラベル書式」を選択します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトのラベル書式が含まれた「ラベル書式」ウィンドウが表示されます。

Label Format Name	Label Format File Name	Mapping XML File Name
CONTAINER_LABEL_SINGLE_SKU	UCC128_SingleSKU_ShippingLabel.lwl	UCC128SingleSKUShippingLabelMap.xml
CONTAINER_LABEL_MULTI_SKU	UCC128_MultiSKU_ShippingLabel.lwl	UCC128MultiSKUShippingLabelMap.xml
PACKLIST	PackList.lwl	PackListMap.xml
CART_MANIFEST_BATCHSHEET	Cart_Manifest_BatchSheet.lwl	CartManifestBatchSheetMap.xml
ITEM_PICK_BATCHSHEET	Item_Pick_BatchSheet.lwl	ItemPickBatchSheetMap.xml
VICSBOL_SHIPMENT	VICSBOL_Shipment.lwl	VICSBOLShipmentMap.xml
VICSBOL_SHIPMENT_CUSTOMER_SUPPLEMENT	VICSBOL_Shipment_Customer_Supplement.lwl	VICSBOLShipmentCustomerSupplementMap.xml
VICSBOL_SHIPMENT_CARRIER_SUPPLEMENT	VICSBOL_Shipment_Carrier_Supplement.lwl	VICSBOLShipmentCarrierSupplementMap.xml
VICSBOL_SHIPMENT_SUPPLEMENT	VICSBOL_Shipment_Supplement.lwl	VICSBOLShipmentSupplementMap.xml
VICSBOL_LOAD	VICSBOL_Load.lwl	VICSBOLLoadMap.xml
VICSBOL_LOAD_CUSTOMER_SUPPLEMENT	VICSBOL_Load_Customer_Supplement.lwl	VICSBOLLoadCustomerSupplementMap.xml
VICSBOL_LOAD_CARRIER_SUPPLEMENT	VICSBOL_Load_Carrier_Supplement.lwl	VICSBOLLoadCarrierSupplementMap.xml
VICSBOL_LOAD_SUPPLEMENT	VICSBOL_Load_Supplement.lwl	VICSBOLLoadSupplementMap.xml
UPS_PICKUP_SUMMARY	UPS_Pickup_Summary.lwl	UPSPickupSummaryMap.xml
UPS_CARRIER_LABEL	UPSCarrierLabel.lwl	UPSCarrierLabelMap.xml
UPS_CARRIER_LABEL_GROUND	UPSCarrierLabel_Ground.lwl	UPSCarrierLabelMap.xml
COUNT_SHEET	CountSheet.lwl	CountSheetMap.xml
LTL_MANIFEST	LTLManifest.lwl	LTLManifestMap.xml
SHIPPERS_DECLARATION	Shippers_DeclarationSheet.lwl	ShippersDeclarationMap.xml
Test	VICSBOL_Load.lwl	VICSBOLLoadMap.xml
shj	VICSBOL_Load.lwl	VICSBOLLoadMap.xml

Results 21 Of 21

Label Formats ( DEFAULT )

- 「ラベル書式」ウィンドウで、 を選択します。「ラベルの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
- 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。
-  を選択します。

 Label Details 

Label Format Name:

Label Format File Name:

Mapping XML File Name:

表 102. 「ラベルの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
ラベル書式名	このラベルに対するラベル書式の名前を入力します。  ラベル書式は、Loftware Label Manager™ を使用して作成された .lwl (ラベル設計) ファイルの名前です。
ラベル書式ファイル名	このラベル用に Loftware™ で設計した「.LWL」ファイルの名前を入力します。  カスタム・ラベルの場合、ファイル名として extn/ の後に「.lwl」ファイルを入力します。
マッピング XML ファイル名	このラベルに対するマッピング XML のファイル名を入力します。  マッピング XML には、イベントによって発行される XML とラベル定義で使用されるフィールド名との間の結合または関連が含まれます。  カスタム・ラベルの場合、ファイル名として extn/ の後に「.lwl」ファイルを入力します。

## ラベル書式の変更

### このタスクについて

ラベル書式は、作成後に変更できます。

ラベル書式を変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「印刷」>「ラベル書式」を選択します。「ラベル書式」ウィンドウに、ラベル書式のリストが表示されます。
2. 変更するラベル書式を選択して、 を選択します。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 102 を参照してください。
4.  を選択します。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation によって提供された標準ラベル書式は変更しないでください。

## ラベル書式の削除

### このタスクについて

ラベル書式を削除するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「印刷」>「ラベル書式」を選択します。「ラベル書式」ウィンドウに、ラベル書式のリストが表示されます。
2. 削除するラベル書式を選択します。
3.  を選択します。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation によって提供された標準ラベル書式は削除しないでください。

---

## 第 16 章 パスワード・ポリシーの管理

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、パスワードの使用および動作を制御するための、組み込みの柔軟なパスワード管理ポリシーを提供します。パスワード・ポリシーは、ユーザー・パスワードを定義、制御、および管理するための一連のルールです。一連のデフォルトのルールが提供されています。ただし、パスワード・ポリシーに対して固有のルールを構成することもできます。

パスワード・ポリシーの管理について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Password Policy Management*」を参照してください。



---

## 第 17 章 警告の構成

警告は、手操作による介入を必要とするトランザクションに関する、ユーザーまたは警告キューに送信されるメッセージです。警告は、E メール、ファクシミリなどのさまざまな形式で受け取ることができます。

警告を構成するときには、それらを 1 つ以上のタイプに分類する例外を作成できます。例外タイプを作成するときには、優先順位と高優先順位番号を例外タイプに割り当てることができます。例外タイプの集約が必要かどうかも指定できます。例外タイプの集約は、集約期間および集約外部プログラム (UE) 実装を指定することで構成できます。解決フォームおよび解決 UE 実装を指定することで、例外タイプのコンテキスト依存の解決画面を構成できます。さらに、構成フォームとリスト・フォームを指定することで、例外タイプのいくつかの追加構成を定義できます。

例外タイプは、PCA などのアプリケーションや、BUYER および SELLER などの役割に関連付ける必要があります。組織に対しては、1 つ以上の例外タイプを構成できます。組織レベルの例外タイプのルーティング・ルールを作成したり、特定の警告キューにそれらの例外タイプをルーティングするための特定のルーティング・ロジックを使用したりすることもできます。

---

### 例外タイプの作成

#### このタスクについて

例外タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「警告」>「例外タイプ」を選択します。作業領域に、「警告タイプ」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「例外タイプの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。
4.  を選択します。

The screenshot shows a software window titled "Exception Type Details (DEFAULT)". It contains the following fields and controls:

- Exception Type: [Text Input]
- Exception Type Description: [Text Input]
- Priority: [Text Input]
- High Priority Number: [Text Input]
- Expiration Days: [Text Input]
- Followup Hours: [Text Input]
- Queue: [Dropdown Menu]
- Owner Role: [Dropdown Menu]
- Consolidation Hook: [Text Input]
- Resolution Hook: [Text Input]
- Consolidation Window: [Dropdown Menu]
- Configurable
- Consolidation Required
- Configuration Form: [Text Input]
- Resolution Wizard: [Text Input]
- List Wizard: [Text Input]

図 30. 「例外タイプの詳細」ウィンドウ

表 103. 「例外タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
例外タイプ	作成する新規例外タイプの名前を入力します。これは必須フィールドです。
例外タイプの説明	例外タイプの短い説明を入力します。これは必須フィールドです。
優先順位	例外タイプの優先順位を入力します。
高優先順位番号	このタイプの高優先順位例外に対するしきい値を入力します。
有効な日数	この例外タイプの有効期限が切れるまでの日数を入力します。
追跡時間	この例外タイプを追跡する時間数を入力します。
キュー	この例外タイプがルーティングされる警告キューの名前を選択します。警告キューの作成について詳しくは、343 ページの『第 12 章 警告キューの構成』を参照してください。
所有者の役割	この組織が属する役割を、ドロップダウン・リストから選択します。
構成可能	この例外タイプに対して追加の構成を定義する場合、このボックスをチェックします。
集約フック	この例外タイプを集約するための実装を提供するクラスの名前を入力します。

表 103. 「例外タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
解決フック	この例外タイプを解決するための実装を提供するクラスの名前を入力します。
集約が必要	このタイプの例外を集約する場合、このボックスをチェックします。
集約期間	このタイプの例外を集約するために使用する期間に関する情報を入力します。有効な値は、「時間」、「日」、および「永久」です。
構成フォーム	この例外タイプに対する追加構成を収集するために使用するフォームに関する情報を入力します。
解決フォーム	このタイプの例外を解決するために起動するフォームに関する情報を入力します。
リスト・フォーム	この例外タイプに対する例外をリストするフォームに関する情報を入力します。

## 例外タイプの変更

### このタスクについて

例外タイプは、作成後に変更できます。

例外タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「警告」>「例外タイプ」を選択します。
2. 「警告タイプ」ウィンドウに、警告タイプのリストが表示されます。
3. 変更する警告タイプを選択します。  を選択します。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、382ページの表 103 を参照してください。
5.  を選択します。

## 例外タイプの削除

### このタスクについて

例外タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「警告」>「例外タイプ」を選択します。
2. 「警告タイプ」ウィンドウに、警告タイプのリストが表示されます。
3. 削除する警告タイプを選択します。  を選択します。

## 例外タイプの役割の定義

アプリケーション (PCA など)、またはアプリケーションがサポートする役割 (BUYER または SELLER など) の例外タイプのリストを指定できます。

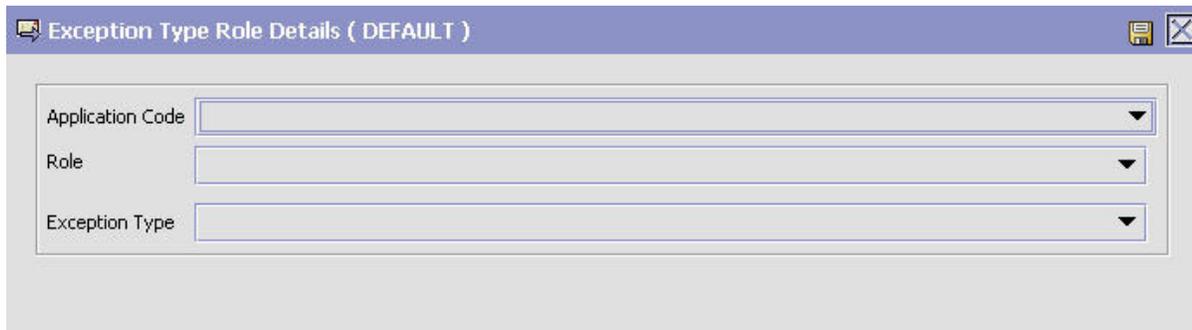
## 例外タイプの役割の作成

### このタスクについて

例外タイプの役割を作成するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「警告」>「例外タイプの役割」を選択します。作業領域に、「例外タイプの役割」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「例外タイプの役割詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。
4.  を選択します。



The screenshot shows a window titled "Exception Type Role Details ( DEFAULT )". Inside the window, there are three dropdown menus stacked vertically. The first is labeled "Application Code", the second is labeled "Role", and the third is labeled "Exception Type". Each dropdown menu has a small downward-pointing arrow on its right side.

表 104. 「例外タイプの役割詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
アプリケーション・コード	アプリケーションのコードを選択します。これは必須フィールドです。
役割	役割を選択します。例えば、バイヤーやノードなどです。
例外タイプ	アプリケーションと役割に関連付ける例外タイプを選択します。

## 例外タイプの役割の変更

### このタスクについて

例外タイプの役割は、作成後に変更できます。

例外タイプの役割を変更するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「警告」>「例外タイプの役割」を選択します。
2. 「例外タイプの役割」ウィンドウに、例外タイプの役割のリストが表示されます。
3. 変更する例外タイプの役割を選択します。 を選択します。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、384ページの表 104 を参照してください。
5.  を選択します。

## 例外タイプの役割の削除 このタスクについて

例外タイプの役割を削除するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「警告」>「例外タイプの役割」を選択します。
2. 「例外タイプの役割」ウィンドウに、例外タイプの役割のリストが表示されます。
3. 削除する例外タイプの役割を選択します。 を選択します。

---

## 組織例外タイプ構成の定義

組織例外タイプ構成により、組織レベルで例外タイプの追加パラメーターをアクティブ化したり、オーバーライドしたりできます。これらの属性は、警告ルーティング・サービス・ビルダー・コンポーネントにより使用されます。さらに、組織レベルの例外タイプの複数のルーティング・ルールを作成できます。ルーティング・ルールは、ルーティングのタイプを示します。ルーティング・ルールの作成時には、組織レベルの例外タイプを特定のキューにルーティングするために使用する、ルーティング・ロジックを指定できます。

## 組織例外タイプの作成 このタスクについて

組織例外タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「警告」>「組織例外タイプの構成 (Organization Exception Type Configuration)」を選択します。作業領域に、「組織例外タイプ (Exception Type for Organization)」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「組織の詳細情報」ウィンドウに「例外タイプ」が表示されます。

3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。
4.  を選択します。

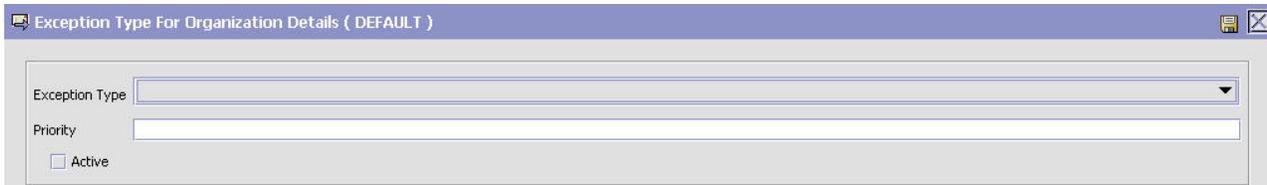


表 105. 「組織の詳細情報」ポップアップ・ウィンドウの「例外タイプ」

フィールド	説明
例外タイプ	組織に関連付ける例外タイプを選択します。
優先順位	このタイプの例外の優先順位を入力します。
アクティブ	組織に対するこのタイプの例外をアクティブにする場合、このボックスをチェックします。

## 組織の例外タイプの変更 このタスクについて

組織の例外タイプは、作成後に変更できます。

組織の例外タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「アラート」>「組織例外タイプの構成 (Organization Exception Type Configuration)」を選択します。
2. 「組織例外タイプの構成 (Organization Exception Type Configuration)」ウィンドウに、特定の組織に対して構成された例外タイプのリストが表示されます。
3. 変更する例外タイプを選択します。  を選択します。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 105 を参照してください。
5.  を選択します。

## 例外ルーティング・ルールの作成 このタスクについて

組織レベルの例外タイプに対する例外ルーティング・ルールを作成するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「警告」>「組織例外タイプの構成 (Organization Exception Type Configuration)」を選択します。作

業領域に、「組織の組織例外タイプ (Organization Exception Type for Organization)」ウィンドウが表示されます。

2. 該当する例外タイプを選択し、 を選択します。「組織の詳細情報」ウィンドウに「例外タイプ」が表示されます。
3.  を選択します。「例外ルーティング・ルールの詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。
5.  を選択します。

表 106. 「例外ルーティング・ルールの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
例外ルーティング・シーケンス	例外ルーティングのシーケンス番号を入力します。
ルーティング・タイプ	<p>ルーティング・ルールのタイプを選択します。有効な値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「部門キューの使用」 — 部門のデフォルトのキューに例外を作成する場合、このルーティング・ルールを選択します。</li> <li>• 「指定のキューを使用」 — 特定のキューに例外を作成する場合、このルーティング・ルールを選択します。</li> <li>• 「インターフェースを使用してキューを取得」 — 例外を作成するキューを決定するための Java クラスを構成する場合、このルーティング・ルールを選択します。</li> <li>• 「役割にルーティング」 — このルーティング・ルール・タイプを選択した場合、SDF コンポーネントがセラー組織またはバイヤー組織をピックアップします。その組織に対するルーティング構成が存在する場合、そのルールが適用されます。</li> <li>• 「カスタム役割にルーティング」 — このルーティング・ルール・タイプを選択した場合、SDF コンポーネントがカスタム組織をピックアップします。その組織に対するルーティング構成が存在する場合、そのルールが適用されます。</li> <li>• 「例外タイプ・キューへのルーティング」 — このルーティング・ルールを選択した場合、例外タイプに対して構成されたデフォルト・キューに例外が作成されます。</li> </ul>

表 106. 「例外ルーティング・ルールの詳細」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
キュー	このタイプの例外がルーティングされる警告キューの名前を選択します。警告キューの作成については、343ページの『第 12 章 警告キューの構成』を参照してください。
Java クラス	ルーティング・タイプを「インターフェースを使用してキューを取得」に指定した場合、そのインターフェースを実装した Java クラスを指定します。
ルーティングの役割	ルーティングの役割を選択します。例えば、パイヤーやセラードです。
カスタム役割	カスタム役割を選択します。
E メール要求	この例外ルーティング・ルールに対して E メール ID を指定する場合、このボックスをチェックします。
E メール・テンプレート	Eメールのテンプレートを入力します。
E メール ID	以下のいずれかのルーティング・ルールに対する E メール ID を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 部門キューの使用</li> <li>• 指定のキューを使用</li> <li>• インターフェースを使用してキューを取得</li> </ul>

## 例外ルーティング・ルールの変更 このタスクについて

例外ルーティング・ルールを変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アラート」>「組織例外タイプの構成 (Organization Exception Type Configuration)」を選択します。作業領域に、「組織の組織例外タイプ (Organization Exception Type for Organization)」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する例外タイプを選択し、 を選択します。「組織の詳細情報」ウィンドウに「例外タイプ」が表示されます。
3. 該当する例外ルーティング・ルールを選択して、 を選択します。「例外ルーティング・ルールの詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、387ページの表 106 を参照してください。
5.  を選択します。

## 例外ルーティング・ルールの削除 このタスクについて

例外ルーティング・ルールを削除するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アラート」>「組織例外タイプの構成 (Organization Exception Type Configuration)」を選択します。作業領域に、「組織の組織例外タイプ (Organization Exception Type for Organization)」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する例外タイプを選択し、 を選択します。「組織の詳細情報」ウィンドウに「例外タイプ」が表示されます。
3. 該当する例外ルーティング・ルールを選択して、 を選択します。

## 組織の例外タイプの削除

### このタスクについて

組織の例外タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アラート」>「組織例外タイプの構成 (Organization Exception Type Configuration)」を選択します。
2. 「組織例外タイプの構成 (Organization Exception Type Configuration)」ウィンドウに、特定の組織に対して構成された例外タイプのリストが表示されます。
3. 削除する例外タイプを選択します。 を選択します。



---

## 第 18 章 データ・バージョン・ラベルの構成

構成データは、すべての実装の不可欠な部分です。多くの場合、実装の構成の変更を追跡する必要があります。さらに、構成データの変更が不適切であることが検出された場合でも、変更を元の状態にロールバックするための簡易な方法はありません。

オフサイトとオンサイトの両方がある実装モデルでは、マスター構成データは、実稼働環境がホスティングされるオンサイトで維持されます。パッチを実稼働環境に適用する必要がある場合、オフサイトのテスト開発者は、パッチのすべての構成データ変更に関する指示を作成し、それをオンサイトの構成マネージャーに渡す必要があります。つまり、ビジネス・ルールの特定の値を変更する必要があります。オンサイトの構成マネージャーは、構成変更を実稼働環境に複製する必要があります。

構成データのバージョンや、構成データの一連の変更の追跡を容易にするために、Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、構成デプロイメント・ツール (CDT) の一部である、構成データ・バージョン管理ツールが組み込まれています。これにより、ソース・データベースから変更をキャプチャーし、それらと比較して、ターゲット・データベース (これは同じデータベースでも異なるデータベースでも構いません) にデプロイすることができます。

config 表では、AuditRequired が Y に設定されており、表名が config\_db.xml 内に存在している必要があります。

**注:** この機能を有効にするには、構成表で AuditRequired フラグが Y に設定されている必要があります。デフォルトでは、ほとんどの構成表で AuditRequired フラグは Y に設定されています。

構成データで変更が行われた時を時系列のタイム・スタンプで表すバージョン・ラベルを、Applications Manager で作成できます。システムは、システム内の監査情報に基づいて、バージョン・ラベルのタイム・スタンプ間で構成データの変更があれば、それを識別できます。

構成バージョン管理ツールにより、ソース・データベースから異なるバージョン・ラベルを選択し、データを比較してそれらをターゲット・データベースに適用できます。それぞれの相違の詳細を確認し、矛盾を検出できます。すべての矛盾を解決したら、変更をデプロイできます。このツールについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 構成・デプロイ・ツール・ガイド*」を参照してください。

---

### 構成データ・バージョン・ラベルの作成

#### このタスクについて

比較ツールを使用するには、その前に Applications Manager を使用して、データベースのバージョン・ラベルを作成する必要があります。

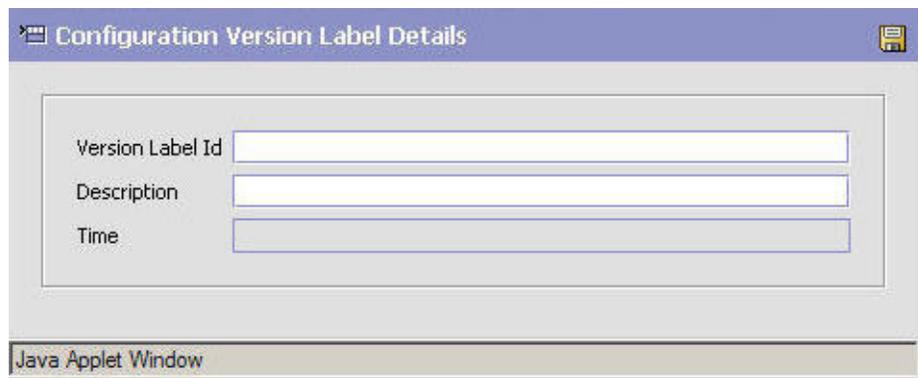
構成バージョン・ラベルを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. Applications Manager で、「アプリケーション・プラットフォーム」を選択します。
2. 「構成バージョン・ラベル」を選択します。

「構成バージョン・ラベル」画面が右側のパネルに表示されます。バージョン・ラベル ID とバージョン・ラベル・タイム・スタンプに基づいて既存のバージョン・ラベルをフィルタリングして、フィルター結果に基づいてバージョン・ラベルを管理できます。

3. 新しいラベルを作成または変更するには、 をクリックして、そのラベルのバージョン・ラベル ID と説明を入力します。



4.  をクリックします。

表 107. 「ラベルの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
バージョン・ラベル ID	このラベルの ID の名前を入力します。
説明	このラベルの説明を入力します。
時刻	デフォルトではこのラベルの現在のタイム・スタンプが表示されます。

## 構成データのバージョン・ラベルの変更 このタスクについて

構成バージョン・ラベルを作成した後に、これを変更することができます。

構成バージョン・ラベルを変更するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. Applications Manager で、「アプリケーション・プラットフォーム」を選択します。
2. 「構成バージョン・ラベル」を選択します。

「構成バージョン・ラベル」画面が右側のパネルに表示されます。

3. 変更するバージョン・ラベル ID を選択して、 を選択します。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、392ページの表 107 を参照してください。
5.  を選択します。

## 構成データ・バージョン・ラベルの削除 このタスクについて

構成バージョン・ラベルを削除するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. Applications Manager で、「アプリケーション・プラットフォーム」を選択します。
2. 「構成バージョン・ラベル」を選択します。  
  
「構成バージョン・ラベル」画面が右側のパネルに表示されます。
3. 削除するバージョン・ラベル ID を選択します。
4.  を選択します。



---

## 第 19 章 修飾タグ情報の構成

「修飾タグ情報」ブランチは、ルールや共通コードに関係した修飾タグおよび修飾タグ・タイプを定義するために使用されます。

### 修飾タグ

ルールまたは共通コードを特定の Sterling Selling and Fulfillment Foundation バージョンに関連付けるには、修飾タグを構成できます。修飾タグに基づいて、さまざまなルールや共通コードを定義できます。次いで修飾タグを特定の Sterling Selling and Fulfillment Foundation に関連付けることができます。

### 修飾タグ・タイプ

修飾タグ・タイプは、特定の Sterling Selling and Fulfillment Foundation バージョンに照らして修飾タグを検証するクラスを構成するために使用されます。特定の修飾タグ・タイプは、1 つ以上の修飾タグに関連付けることができます。

注: 2 つの修飾子タグ Q1 および Q2 を構成し、Q1 を Sterling Selling and Fulfillment Foundation バージョン V1 と V2 に対して、Q2 を Sterling Selling and Fulfillment Foundation バージョン V2 と V3 に対してそれぞれ有効とし、getRuleDetails API を呼び出して V2 を Sterling Selling and Fulfillment Foundation バージョンとして渡す場合、システムはルール値の 1 つをランダムに返します。

---

## 修飾タグ・タイプの作成

### このタスクについて

修飾タグ・タイプを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「修飾タグ情報」>「修飾タグ・タイプ」を選択します。「修飾タグ・タイプ」ウィンドウが作業領域に表示されます。
2.  を選択します。「修飾タグ・タイプの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。
4.  を選択します。

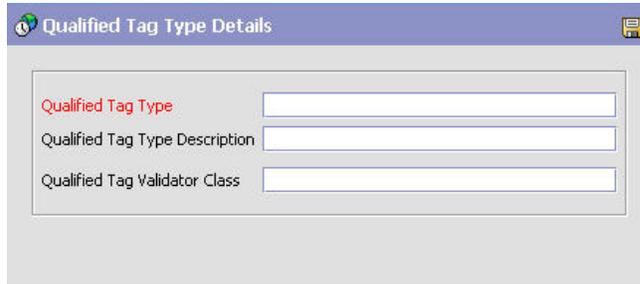


図 31. 「修飾タグ・タイプの詳細」 ウィンドウ

表 108. 「修飾タグ・タイプの詳細」 ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
修飾タグ・タイプ	作成する新しい修飾タグ・タイプの名前を入力します。これは必須フィールドです。
修飾タグ・タイプの説明	修飾タグ・タイプの簡単な説明を入力します。
修飾タグのバリデーター・クラス	修飾タグ ID が特定のアプリケーション・コードやアプリケーション・バージョンに対して有効かどうかを検証する修飾タグ・クラスの名前を入力します。 注: 空白のままにした場合は、修飾タグ・バリデーター・クラスのデフォルト実装を使用して修飾タグが検証されます。

## 修飾タグ・タイプの変更

### このタスクについて

修飾タグ・タイプは、作成後に変更できます。

修飾タグ・タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「修飾タグ情報」 > 「修飾タグ・タイプ」を選択します。
2. 「修飾タグ・タイプ」 ウィンドウに、修飾タグ・タイプのリストが表示されます。
3. 変更する修飾タグ・タイプを選択します。  を選択します。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 108 を参照してください。
5.  を選択します。

## 修飾タグ・タイプの削除

### このタスクについて

修飾タグ・タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「修飾タグ情報」>「修飾タグ・タイプ」を選択します。
2. 「修飾タグ・タイプ」ウィンドウに、修飾タグ・タイプのリストが表示されます。
3. 削除する修飾タグ・タイプを選択します。  を選択します。

---

## 修飾タグの定義

特定の Sterling Selling and Fulfillment Foundation 向けのルールと共通コードに対して、修飾タグのリストを指定できます。1 つ以上の修飾タグと、特定の修飾タグ・タイプとを関連付けることができます。

## 修飾タグの作成

### このタスクについて

修飾タグを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「修飾タグ情報」>「修飾タグ」を選択します。「修飾タグ」ウィンドウが作業領域に表示されます。
2.  を選択します。「修飾タグの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。
4.  を選択します。



表 109. 「修飾タグの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
修飾タグ ID	修飾タグ ID を入力します。これは必須フィールドです。
修飾タグの説明	修飾タグに関する説明を入力します。
修飾タグ・タイプ	入力した修飾タグ ID に関連付ける修飾タグ・タイプを選択します。これは必須フィールドです。

## 修飾タグの変更

### このタスクについて

修飾タグは、作成後に変更できます。

修飾タグを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「修飾タグ情報」>「修飾タグ」を選択します。
2. 「修飾タグ」ウィンドウに、修飾タグのリストが表示されます。
3. 変更する修飾タグを選択します。 を選択します。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、397ページの表 109 を参照してください。
5.  を選択します。

## 修飾タグの削除

### このタスクについて

修飾タグを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「修飾タグ情報」>「修飾タグ」を選択します。
2. 「修飾タグ」ウィンドウに、修飾タグのリストが表示されます。
3. 削除する修飾タグを選択します。 を選択します。

---

## 修飾タグ・バージョンの互換性の構成

### このタスクについて

修飾タグ・バージョンの互換性を構成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「修飾タグ情報」>「修飾タグ・バージョンの互換性」を選択します。「修飾タグ・バージョンの互換性」ウィンドウが作業領域に表示されます。
2.  を選択します。「修飾タグ・バージョン互換性の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。
4.  を選択します。

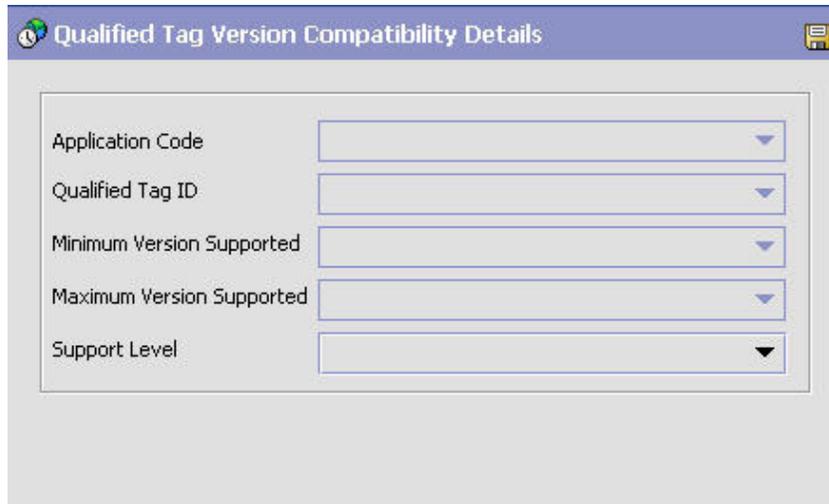


表 110. 「修飾タグ・バージョン互換性の詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
アプリケーション・コード	Sterling Selling and Fulfillment Foundation コードを選択します。これは必須フィールドです。
修飾タグ ID	修飾タグ ID を選択します。これは必須フィールドです。
サポートされる最下位バージョン	修飾タグ ID をサポートする、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の最下位のバージョンを選択します。 注: 「サポートされる最上位バージョン」を指定しない場合、これは必須フィールドです。
サポートされる最上位バージョン	修飾タグ ID をサポートする、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の最上位のバージョンを選択します。 注: 「サポートされる最下位バージョン」を指定しない場合、これは必須フィールドです。
サポート・レベル	サポート対象の最下位バージョンより低い、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のバージョンのサポート・レベルを入力します。

## 修飾タグ・バージョンの互換性の変更

### このタスクについて

修飾タグ・バージョンの互換性を構成した後に、これを変更することができます。

修飾タグ・バージョンの互換性を変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「修飾タグ情報」> 「修飾タグ・バージョンの互換性」を選択します。
2. 「修飾タグ・バージョンの互換性」ウィンドウに、「修飾タグ・バージョンの互換性」リストが表示されます。このリストには、「アプリケーション・コー

ド」、「修飾タグ ID」、「サポートされる最下位バージョン」、「サポートされる最上位バージョン」、および「サポート・レベル」フィールドが含まれています。

3. 変更する修飾タグ・バージョンの互換性リスト項目を選択します。 を選択します。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、399ページの表 110 を参照してください。
5.  を選択します。

## 修飾タグ・バージョン互換性の削除

### このタスクについて

修飾タグ・バージョン互換性を削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「修飾タグ情報」>「修飾タグ・バージョンの互換性」を選択します。
2. 「修飾タグ・バージョンの互換性」ウィンドウに、「修飾タグ・バージョンの互換性」リストが表示されます。このリストには、「アプリケーション・コード」、「修飾タグ ID」、「サポートされる最下位バージョン」、「サポートされる最上位バージョン」、および「サポート・レベル」フィールドが含まれています。
3. 削除する修飾タグ・バージョンの互換性のリスト項目を選択します。 を選択します。

---

## 第 20 章 属性接尾辞ルール of 構成

属性接尾辞の共通コードを定義することにより、属性に関連付ける接尾辞をセットアップできます。接尾辞を定義することで、それぞれの顧客には見慣れた形式で属性データが表示されます。例えば、「ドル (dollars)」は価格属性の接尾辞として定義できます。

---

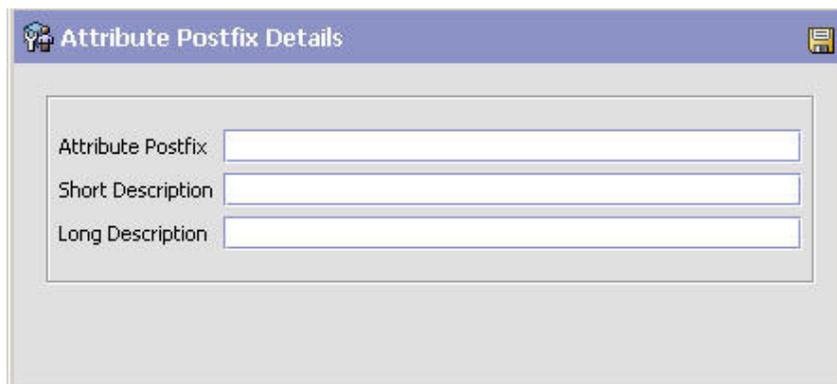
### 属性接尾辞の定義の作成

#### このタスクについて

属性接尾辞の定義を作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「属性接尾辞」を選択します。作業領域に、「属性接尾辞」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「属性接尾辞の詳細 (Attribute Postfix Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The image shows a dialog box titled "Attribute Postfix Details". It has a title bar with a small icon on the left and a close button on the right. The main area contains three text input fields, each with a label to its left: "Attribute Postfix", "Short Description", and "Long Description".

3. 「属性接尾辞」に、属性接尾辞の定義を入力します。
4. 「簡略説明」に、属性接尾辞の短い説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、属性接尾辞の詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

---

### 属性接尾辞定義の変更

#### このタスクについて

属性接尾辞定義を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「属性接尾辞」を選択します。作業領域に、「属性接尾辞」ウィンドウが表示されます。

2. 該当する属性接尾辞定義を選択して、 を選択します。「属性接尾辞の詳細 (Attribute Postfix Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」フィールドに、属性接尾辞定義の簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」フィールドに、属性接尾辞定義のより詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

---

## 属性接尾辞定義の削除

### このタスクについて

属性接尾辞定義を削除するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「属性接尾辞」を選択します。作業領域に、「属性接尾辞」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する属性接尾辞定義を選択して、 を選択します。

---

## 第 21 章 分析の構成

事前に存在していた地域スキーマをデータウェアハウス分析に関連付けるには、分析を使用できます。この関連付けにより、ソーシングやリソース・プールなどのフィーチャーの最良の地域照合のメカニズムに関するレポート作成が可能になります。分析では、地域スキーマにより、データウェアハウス・レポートで使用される細分性のレベルが決定されます。地域スキーマの構成について詳しくは、349 ページの『第 13 章 地域定義の構成』を参照してください。

注: 地域スキーマと分析とを関連付ける場合は、9 桁の郵便番号が組み込まれたスキーマは指定しないでください。指定した場合、システム・パフォーマンスが影響を受けます。

---

### 分析の地域使用の定義

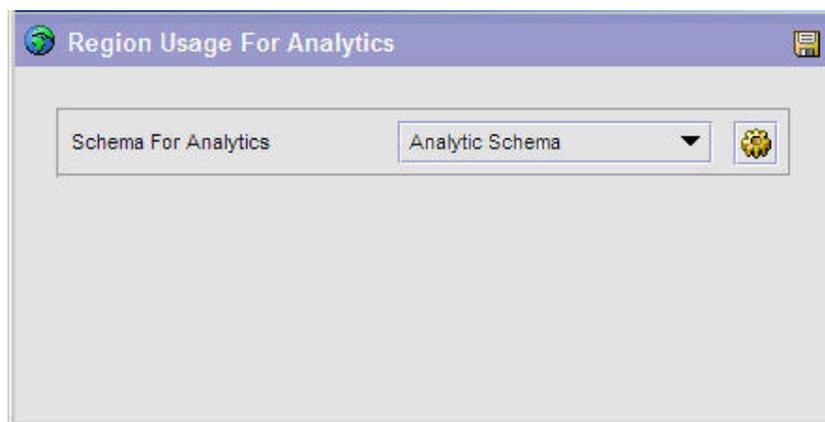
#### このタスクについて

分析の地域スキーマを定義するには、「分析」ブランチを使用します。

分析の地域使用を定義するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「分析」>「分析の地域使用 (Region Usage For Analytics)」を選択します。「分析の地域使用 (Region Usage For Analytics)」ウィンドウが表示されます。



2. 「分析のスキーマ (Schema for Analytics)」から、データウェアハウス・レポートに使用する地域スキーマを選択します。
3.  を選択します。



---

## 第 22 章 時間トリガー・トランザクション参照

---

### 時間トリガー・トランザクション参照

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、一群の時間トリガー・トランザクションを提供します。これは、さまざまな個別機能をそれぞれ自動的にまたは一定の時間間隔で実行するユーティリティです。

時間トリガー・トランザクションは、スケジュール・ベースで反復アクションを実行します。標準的な実行内容としては、データベースの更新、イベントの発行、または API の呼び出しなどがあります。1 タイプのトランザクションであるモニターは、通常の境界を越えているプロセスや状況を監視し、警告を出すように設計されています。モニターは、常時ではないものの頻繁に、タスク・キューからタスクを取り出したり、パイプラインから作業を取り出したりします。

一部のトランザクションでは、アプリケーションの正常性に関する統計データを収集できます。このデータは、`yfs.properties` ファイルの `yantra.statistics.persist.interval` 属性に指定された値を使用して、定期的に収集されます。デフォルトでは、統計収集は `on` に設定されています。このプロパティをオーバーライドするには、項目を `<INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties` ファイルに追加します。`customer_overrides.properties` ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについて詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティ・ガイド』を参照してください。

統計の持続性について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* パフォーマンス管理ガイド」を参照してください。使用される特定の統計パラメーターについて詳しくは、該当する時間トリガー・トランザクションを参照してください。

この章で説明されている時間トリガー・トランザクションは、固有のトランザクションであり、これは伝票種別に固有である場合もあれば、そうでない場合もあります。ドキュメント固有トランザクションの場合、命名法はそのベースとなる固有トランザクションを定義するのに役立ちます。トランザクション ID は `Unique_Transaction_ID.Document_Type_Code` という形式です。例えば、返品のパージのトランザクション ID が `PURGE.0003` であれば、それが固有トランザクション `PURGE` をベースとしており、伝票種別は返品オーダーの `0003` であることを示します。したがって、返品のパージを構成できるようにするには、この章で、オーダー・パージである `PURGE` トランザクション ID を探す必要があります。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、以下のタイプの時間トリガー・トランザクションを提供します。

- ビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクション - 処理を扱います。
- 時間トリガー・パージ・トランザクション - 処理の完了後に破棄できるデータをクリアします。

- タスク・キュー同期プログラムの時間トリガー・トランザクション - 最新のパイプライン構成に基づいて、各トランザクションにより実行される未完了タスクの最新リストでタスク・キュー・リポジトリを更新します。
- モニター - 処理の遅延および例外について監視し、警告を送信します。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、各時間トリガー・トランザクションの以下の統計を追跡します。

- ExecuteMessageCreated - 一定の時間間隔内に JMS キューに追加されたジョブ数。
- ExecuteMessageSuccess - 一定の時間間隔内に正常に実行されたジョブ数。
- ExecuteMessageError - 一定の時間間隔内で実行が失敗したジョブ数。
- GetJobsProcessed - 一定の時間間隔内で処理された GetJob メッセージの数。

注: 時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の次のリリースで変更される可能性があります。

---

## 時間トリガー・トランザクションの実行

すべての時間トリガー・トランザクションは、スレッド対応です。これはつまり、単一のプロセス内でトランザクションの複数のインスタンスを実行できるということです。時間トリガー・トランザクションについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* インストール・ガイド」を参照してください。システムを同時に実行しながらのシステム・パフォーマンスの微調整については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* パフォーマンス管理ガイド」を参照してください。

## 時間トリガー・トランザクションをスケジュールする前に完了しておくステップ

### このタスクについて

時間トリガー・トランザクションの実行およびスケジューリングの前に、以下の手順を完了していることを確認してください。

### 手順

1. 時間トリガー・トランザクション用に構成された QCF 名に関連付ける JMS 接続ファクトリーを構成します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation のファクトリーのデフォルトには、JMS 接続ファクトリーとして AGENT\_QCF が含まれます。JMS の構成について詳しくは、ご使用のアプリケーション・サーバーの資料を参照してください。
2. 時間トリガー・トランザクションのグループまたは個別の名前に関連付ける JMS サーバーの宛先を構成します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation のファクトリーのデフォルトには、サーバーの宛先として DefaultAgentQueue が含まれます。destination。JMS サーバーの宛先の名前にドット (.) を入れないでください (例えば、

「A.0001」)。ドットが入っている場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation はそのサーバーと通信できなくなります。

3. Applications Manager を使用して、ビジネス・プロセスで必要な時間トリガー・トランザクションごとに構成します。構成方法については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」の『トランザクションの定義』のセクションで説明されています。時間トリガー・トランザクションの条件パラメーターのセットごとに、JMS エージェント・サーバーとの適切な関連付けがされている必要があります。

---

## エージェントと JMS サーバーの間の通信の構成

### このタスクについて

エージェント (時間トリガー・トランザクション) とリモート JMS サーバーの間の通信をセットアップするには、JMS システムで前提条件のセットアップをいくつか行う必要があります。それから、アプリケーション内で構成をいくつか行います。構成は、以下の手順で構成されます。

- ご使用の JMS システムの初期コンテキスト・ファクトリー・コードがアプリケーションに提供されない場合、このコードを作成する必要があります。提供されるコードのリストについては、408 ページの『初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成』を参照してください。
- トランザクションの詳細の定義 - 時間トリガー・トランザクション、またはエージェントは、編集して、JMS システムの接続情報および作成する初期コンテキスト・ファクトリーを含める必要があります。409 ページの『トランザクション情報の定義』を参照してください。

時間トリガー・トランザクションおよびそれがアプリケーション・ビジネス・プロセス・モデリングの全体像にどのように適合するかについて詳しくは、『プロセス・モデルの構成』の章を参照してください。また、キューおよびエージェントの追加情報については、『警告キューの構成』の章を参照してください。

## 前提条件

### このタスクについて

開始する前に、JMS サーバーに対して以下の手順を実行します。これらタスクの実行に関する詳細は、JMS サーバーのドキュメンテーションを参照してください。

### 手順

1. JMS サーバー上の JMS キュー接続ファクトリー (QCF) とキューの構成を行います。
2. JMS サーバー上のキューの JNDI 表現を構成します。

タスクに関して以下の情報が使用可能であることを確認してください。

- 各キューの JNDI 名
- JNDI QCF ルックアップ
- JMS ロケーション - JMS サーバープロバイダー URL

## タスクの結果

前述のタスクを完了した後に、以下の 2 つの手順を表示されている順番どおりに実行してください。これらはいずれもアプリケーション内で実行します。

## 初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成

### このタスクについて

初期コンテキスト・ファクトリー (ICF) クラスを使用すると、リモート Java クライアントがアプリケーションに接続できます。このクラスはアプリケーション・ベンダーによって提供されます。アプリケーションは、エージェントを設定する際に、ICF コードを使用してこれらを識別します。以下の JMS ベンダー用の初期コンテキストのファクトリー・コードは、アプリケーションの中で事前定義されています。

- IBM WebSphere MQ (IBM WebSphere Internet Inter-ORB Protocol URL を介してアクセスされる MQSeries 用)
- ファイル (Oracle WebLogic などのように、ファイル URL を介してアクセスされる MQSeries 用)
- Oracle WebLogic (WebLogic JMS 用)
- JBoss (JBoss JMS 用)

上記のリストにない JMS サーバー (例えば ActiveMQ) を使用している場合、それに対する初期コンテキストのファクトリー・コードを、以下の手順にしたがってアプリケーションの中で作成する必要があります。

### 手順

1. アプリケーション・マネージャーを開きます。アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「システム管理」>「初期コンテキスト・ファクトリー・コード」を選択します。作業領域に、「初期コンテキスト・ファクトリー・コード」ウィンドウが表示されます。
2. 「+」アイコンを選択して、新しい初期コンテキストのファクトリー・コードを作成します。「初期コンテキスト・ファクトリー」ウィンドウが表示されます。
3. 「初期コンテキスト・ファクトリー」フィールドに、JMS ベンダーによって提供されたクラス名を入力します。例えば、ActiveMQ の場合、クラス名は `org.apache.activemq.jndi.ActiveMQInitialContextFactory` です。
4. 「簡略説明」フィールドに、40 文字以内の記述名を入力します。この名前を次の手順で使うので、書き留めておいてください (409 ページの『トランザクション情報の定義』を参照)。ActiveMQ の場合、**ActiveMQ** と入力します。
5. 「詳細説明」フィールドに、初期コンテキスト・ファクトリーの詳細な説明を 100 文字以内で入力します。
6. 新しい初期コンテキストのファクトリー・コードを保存し、ウィンドウを閉じます。

## タスクの結果

ICF について詳しくは、「初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成」を参照してください。

## トランザクション情報の定義

### このタスクについて

JMS サーバーが当アプリケーションと通信するためには、JMS サーバーと ICF 情報を使用して構成された時間トリガー・トランザクションが存在する必要があります。

### 手順

1. アプリケーション・マネージャーを開きます。アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「プロセス・モデリング」をダブルクリックします。作業領域に、「プロセス・モデリング」ウィンドウが表示されます。
2. 希望のタブを選択して、「基本伝票種別」を選択してから、「プロセス・タイプ」をダブルクリックします。
3. 実行するエージェントに対応するトランザクションをダブルクリックします。
4. 「時間トリガー」タブを選択します。
5. 新しいエージェント条件の定義を作成するか、編集する既存のエージェント条件の定義を選択します。
6. 「エージェント条件の詳細」画面が表示されます。「実行時プロパティ」タブを選択します。
7. リストから既存のエージェント・サーバーを選択するか、独自のエージェント・サーバーを作成します (後者を推奨)。
8. リストから既存の警告キューを選択するか、独自の警告キューを作成します。
9. 「JMS キュー名」フィールドに、作成したキューの JNDI 名を入力します。407 ページの『前提条件』を参照してください。
10. このエージェントで実行するスレッドの希望数を入力します (5 スレッド以下を推奨。6 スレッド以上が必要な場合は、別のエージェントをそれぞれ独自の JVM 内で開始してください)。
11. 作成した初期コンテキスト・ファクトリー・コードを選択します。408 ページの『初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成』を参照してください。
12. 「QCF ルックアップ」フィールドに、作成したキューの JNDI QCF ルックアップを入力します (これは該当する JMS サーバー用に作成したキュー接続ファクトリーです)。407 ページの『前提条件』を参照してください。
13. 「プロバイダー URL」に入力します。この URL は JMS システムが配置されている場所であり、JMS ベンダー固有のものです。
14. このエージェントに自己トリガーさせるのか (推奨)、外部トリガー (`<install_dir>/install/bin` ディレクトリー内の `triggeragent.sh`) を使用するのを選択します。前者の場合はトリガーの間隔 (分単位) を指定します。
15. JMS セキュリティー・オプションの設定については、『JMS セキュリティー・プロパティの設定』を参照してください。
16. 「条件パラメーター」タブの値はデフォルト値のままにします。
17. 「エージェント条件の詳細」の内容を保存して、このウィンドウを閉じます。
18. `<install_dir>/install/bin` ディレクトリー内の `startagentserver.sh/cmd` スクリプトを実行して、このエージェントをそれぞれ独自の JVM 内で起動します。

## タスクの結果

トランザクションの定義およびこの手順について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」で『トランザクションの定義』および『トランザクションを時間トリガーに指定』のセクションを参照してください。

---

## ビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクション

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundationの次のリリースで変更される可能性があります。

すべてのビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクションには、CollectPendingJobs 条件パラメーターがあります。このパラメーターが「N」に設定されている場合、エージェントは、このモニターに関係する保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

デフォルトでは、CollectPendingJobs は「Y」に設定されます。1 つの特定の時間トリガー・トランザクションがかなりの量の getPendingJobs 照会を実行している場合、オーバーヘッド・コストが高すぎるため、これを「N」に設定することが有益なことがあります。

## 非同期要求プロセッサ

このトランザクションは、任意の API 要求またはサービス要請をオフライン・モードで作成します。YFS\_ASYNC\_REQ テーブルから API メッセージまたはサービス・メッセージが選択され、それに対応する API またはサービスが呼び出されます。createAsyncRequest API を使用して、メッセージを YFS\_ASYNC\_REQ テーブルに挿入することができます。Sterling Warehouse Management System の一部のビジネス・トランザクションも、YFS\_ASYNC\_REQ テーブルにメッセージを挿入します。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 111. 「非同期要求プロセッサ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ASYNC_REQ_PROCESSOR
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 112. 「非同期要求プロセッサー」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
リード日数	エージェントがレコードを消去するまでの日数です。空欄のままにするか、0 (ゼロ) を指定すると、30 がデフォルト設定されます。
最大エラー件数 (Maximum Error Count)	例外がスローされた場合にレコードが処理される最大回数です。失敗した回数がこの値と等しくなると、エージェントはそれ以上レコードを処理しません。空欄のままにするか、0 (ゼロ) を指定すると、20 がデフォルト設定されます。
再処理間隔 (分単位) (Reprocess Interval In Minutes)	トランザクションが処理されて例外がスローされてから、次にトランザクションが処理されるまでの、分単位の時間です。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_ASYNC_REQ テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし (None)

## 保留中のジョブの数

なし (None)

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 113. 非同期要求プロセッサーによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開済みデータ*	テンプレートがサポートされるか
HAS_EXCEPTIONS	なし (None)	YCP_ASYNC_REQ_PROCESSOR.HAS_EXCEPTIONS.html	あり

\* これらのファイルは、以下のディレクトリーにあります。

<INSTALL\_DIR>/xapidocs/api\_javadocs/XSD/HTML

## 大/小文字を区別しないデータ・ローダー

「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」エージェントは、「大/小文字を区別しない検索 (CaseInsensitiveSearch)」のマークが付けられた列からシャドー列にデータをマイグレーションします。このエージェントは、トランザクション条件を使用して更新が必要なレコードを特定し、次に元の列の値をシャドー列内で小文字に変換します。大/小文字を区別しない検索の使用可能化について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースの拡張*』を参照してください。

「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」エージェントは、既存データを更新する場合に必要なです。シャドー列が作成されると、テーブルまたはテーブル・タイプごとに、「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」エージェントを一度だけ実行する必要があります。その後、アプリケーションによって、シャドー列がリアルタイムで入力されます。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 114. 「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	DATA_LOADER
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 115. 「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 <ul style="list-style-type: none"><li>これを空欄のままにするか、10000 未満の数を指定した場合、5000 がデフォルト設定されます。</li><li>10000 よりも大きい数字を指定した場合、その値が使用されます。</li></ul>

表 115. 「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
テーブル・タイプ (TableType)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性がある場合、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。  有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。  これを CONFIGURATION に設定した場合、エージェントは、テーブル・タイプが CONFIGURATION のテーブルに関連付けられたレコードに対して実行されます。  これを TRANSACTION に設定した場合、エージェントは、テーブル・タイプが TRANSACTION のテーブルに関連付けられたレコードに対して実行されます。
テーブル名	必須。シャドー列にマイグレーションするレコードのテーブル名です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

なし。

## 変更データのエクспорт・エージェント

変更データのエクспорт・エージェントは、データベース変更を XML ファイルにエクспортするために使用されます。次いでこのファイルは圧縮され、指定されたフォルダー内に置かれます。このエージェントは特定のエンタープライズに対して実行しますが、エンタープライズ・コードが提供されない場合、エージェントはコロニーのすべてのエンタープライズで実行します。圧縮された XML ファイルは指定されたフォルダー内に置かれ、そこから変更データのインポート・エージェントによって、ターゲット環境への変更のパブリッシュ用にピックアップされます。

## 属性

表 116. 変更データのエクスポート・エージェントの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CHANGE_DATA_EXPORT
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般

## 条件パラメーター

表 117. 変更データのエクスポート・エージェント条件のパラメーター

パラメーター名	説明
アクション	必須。このパラメーターはトランザクションを起動します。デフォルト値は「Get」です。
バッファーに入れるレコード数	エージェントにより取得および処理されるレコードの数は、この属性で設定されます。デフォルト値は「50」です。
エンタープライズ・コード	エージェントの実行対象のエンタープライズ。これが指定されない場合、エージェントはコロニーのすべてのエンタープライズに対して実行されます。
変更プロジェクト ID	該当しません。
呼び出すサービス	エージェントにより呼び出されるサービス。デフォルト値は「ChangeDataPublisher」であり、これは変更を XML ファイルに書き込みます。
エクスポート・ディレクトリー	XML ファイルが書き込まれて圧縮されるフォルダー・パス。
圧縮再試行間隔 (Zip Retry Interval)	すべてのファイルがエクスポートできない場合に、デフォルト・プロジェクトの XML ファイルを圧縮する前にエージェントが待機する時間間隔。ファイルを圧縮する必要がなかったり、非同期サービスを使用したりする場合は、この値を「0」に設定します。
ファイルあたりのロック中のエンティティー	エンティティーのロックに使用されるエンティティー・キーの固有の組み合わせ数。

## 発生するイベント

表 118. 変更データのエクスポート・エージェントにより出されるイベント。

トランザクション/ イベント	キー・ データ	公開されるデータ	テンプレ- ート・サ ポート
PUBLISHED	なし	YSC_CHANGE_DATA_EXPORT.PUBLISHED.xml*	なし

\*これらのファイルは、<INSTALL\_DIR>%SC-Platform%documentation%devXML ディレクトリーに置かれます。

## 追跡対象の統計

なし

## 変更データのインポート・エージェント

変更データのインポート・エージェントは、変更データのエクスポート・エージェントによりエクスポートされたファイルをインポートするために使用されます。エージェントは、エージェント条件で指定されたフォルダー内に置かれた圧縮済み XML ファイルをピックアップし、そのファイルを解凍し、変更をデータベースに適用します。EndOfZip ファイルは、エージェントによる XML ファイルの解凍時に作成されますが、フォルダー内に存在するのはインポート中にエラーを検出した場合のみです。EndOfZip ファイルには、オリジナルの ZIP ファイルに含まれていた XML ファイルの名前と、オリジナルの ZIP ファイル名が含まれています。EndOfZip ファイルの名前は、必ず EndOfZip <解凍された最終 XML ファイルの名前> という形式になります。例えば、ZIP ファイルに 000001\_12345678.xml と 000002\_12345789.xml が含まれている場合、EndOfZip は、最後に解凍されるのが EndOfZip\_000002\_12345789.xml であるので、その名前になります。

ZIP ファイルに MASTER や CONFIGURATION などのさまざまなテーブル・タイプの複数のフォルダーがあり、MASTER フォルダーが最後に処理される場合、処理中にエラーが検出されると、EndOfZip ファイルは MASTER フォルダー内に存在するようになります。

**注:** ターゲット環境内でエンティティが直接変更される場合、変更データ・インポート・エージェントの実行時に、変更は同じエンティティのソース・データベース更新によりオーバーライドされます。

**重要:** インポート時には、エージェントが XML ファイルの処理を終了するために最大で 30 分かかることがあります。

### 属性

表 119. 変更データのインポート・エージェントの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CHANGE_DATA_IMPORT
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般

### 条件パラメーター

表 120. 変更データのインポート・エージェントのパラメーター

パラメーター名	説明
アクション	必須。このパラメーターはトランザクションを起動します。デフォルト値は「Get」です。
バッファーに入れるレコード数	エージェントにより取得および処理されるレコードの数は、この属性で設定されます。デフォルト値は「5000」です。

表 120. 変更データのインポート・エージェントのパラメーター (続き)

パラメーター名	説明
インポート・ディレクトリー	エージェントが処理するための、圧縮された XML ファイルが保管されるインポート・フォルダー。

## 発生するイベント

表 121. 変更データのインポート・エージェントにより出されるイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	レポート・サポート
ON_SUCCESS	なし	YSC_CHANGE_DATA_IMPORT.ON_SUCCESS.xml*	なし
ON_FAILURE	なし	YSC_CHANGE_DATA_IMPORT.ON_FAILURE.xml*	なし

\*これらのファイルは、<INSTALL\_DIR>%SC-Platform%documentation%devXML ディレクトリーに置かれます。

## 追跡対象の統計

なし

## 集合・混載ステータスの変更

このトランザクションは、changeLoadStatus() API と等価です。このトランザクションについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』を参照してください。

集合・混載処理パイプラインの一部として構成するために、集合・混載ステータスの自動変更が必要な場合、常にこのトランザクションを使用することができます。この自動変更では、集合・混載情報の集合・混載計画ソフトウェアへのエクスポートや集合・混載の運送会社への送信を表現できます。

タスク・キューを処理するには、このトランザクションを構成する必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 122. 「集合・混載ステータスの変更」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CHANGE_LOAD_STATUS
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	あり

表 122. 「集合・混載ステータスの変更」の属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	changeLoadStatus()

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 123. 「集合・混載ステータスの変更」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 124. 「集合・混載ステータスの変更」の統計

統計の名前	説明
変更された集合・混載数 (NumLoadsChanged)	ステータスが変更された集合・混載の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が現在日付の値以下 ( $\leq$ ) の、トランザクションによって処理可能な YFS\_Task\_Q テーブル内のレコードの数になります。

## 発生するイベント

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の changeLoadStatus() API の項に記載されたイベントが発生します。

## 出荷ステータスの変更

このトランザクションは、changeShipmentStatus() API と等価です。このトランザクションについて詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』を参照してください。

出荷処理パイプラインの一部として構成するために、出荷ステータスの自動変更が必要な場合、常にこのトランザクションを使用することができます。例えば、この自動変更では、倉庫管理システムへの出荷情報のエクスポートやバイヤーへの事前出荷通知の送信を表すことができます。

タスク・キューを処理するには、このトランザクションを構成する必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 125. 「出荷ステータスの変更」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CHANGE_SHIPMENT_STATUS
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 126. 「出荷ステータスの変更」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 127. 「連鎖オーダーの作成」の統計

統計の名前	説明
ステータスに変更された出荷数 (NumShipmentsChanged)	ステータスに変更された出荷の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

このトランザクションでは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』の changeShipmentStatus() API の項に記載されたイベントが発生します。

## 配達計画の終了

このトランザクションは、システム・パフォーマンスを高めるために、「配達計画のページ (Delivery Plan Purge)」が配達計画関連のデータを削除するまで、一時的なページとして機能します (501 ページの『配達計画のページ (Delivery Plan Purge)』を参照してください)。

このトランザクションは、未完了の集合・混載や出荷が存在しない配達計画をすべて選択して、deliveryplan\_closed\_flag に「Y」のマークを付けます。このフラグは、これ以上実行できる操作がこの計画にないことを示します。

このトランザクションは、集合・混載パイプラインにおける「配達計画の終了」(CLOSE\_DELIVERY\_PLAN) 基本トランザクションに対応しています。

コンソールを使用するエンタープライズは、ページ・ジョブをスケジュールする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 128. 「配達計画の終了」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_DELIVERY_PLAN
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 129. 「配達計画の終了」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 130. 「配達計画の終了」の統計

統計の名前	説明
クローズされた配達計画数 (NumDeliveryPlansClosed)	クローズされた配達計画の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 131. 「配達計画の終了」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	delivery_plan_dbd.txt	YDM_CLOSE_DELIVERY_PLAN.ON_SUCCESS.xml	あり

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON\_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

## 集合・混載を閉じる

このトランザクションは、システム・パフォーマンスを高めるために、「集合・混載ページ」が集合・混載関連のデータを削除するまで、一時的なページとして機能します (517 ページの『集合・混載ページ』を参照してください)。

このトランザクションは、集合・混載パイプラインにおける「集合・混載を閉じる」基本トランザクション (CLOSE\_LOAD) に対応しています。

集合・混載処理パイプラインを使用する場合、このトランザクションをスケジュールする必要があります。閉じられた集合・混載のみが、ページ・トランザクションによって選択されます。したがって、このトランザクションをパイプラインの一部に含め、その日の最後に実行されるようにスケジュールする必要があります。

このトランザクションをパイプラインの一部に含める必要があります。さらに、タスク・キューを処理するように、トランザクションを構成する必要があります。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 132. 「集合・混載を閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_LOAD
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 133. 「集合・混載を閉じる」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 134. 「集合・混載を閉じる」の統計

統計の名前	説明
閉じられた集合・混載数 (NumLoadsClosed)	閉じられた集合・混載の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、どの未完了の集合・混載、未完了の出荷にも関連付けられていない、未完了の配達計画の数です。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 135. 「集合・混載を閉じる」トランザクションによって発生するイベント。

トランザクション/イベント	公開されるデータ	テンプレート がサポートさ れるか
ON_SUCCESS	YDM_CLOSE_LOAD_PLAN.ON_ SUCCESS.xml	あり

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON\_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

## 積荷目録を閉じる (Close Manifest)

この時間トリガー・トランザクションは、積荷目録の MANIFEST\_CLOSED\_FLAG フラグを「Y」に設定し、積荷目録ステータスを CLOSED に更新します。この時間トリガー・トランザクションは、確認を保留しているすべての出荷を確認し、積荷目録を閉じます。

**注:** 条件を指定しないで「積荷目録を閉じる」エージェントを起動した場合、出荷ノード全体において対象となるすべての積荷目録が閉じられます。

yfs.properties\_ysc\_ext.in ファイル内の yfs.closemanifest.online プロパティは、この時間トリガー・トランザクションをオンライン・モードまたはオフライン・モードで動作するように設定するために使用されます。

- **オンライン・モード:** オンライン・モードでは、通常どおり「積荷目録を閉じる」トランザクションが実行され、積荷目録内のすべての出荷が確認されてから、積荷目録が閉じられます。
- **オフライン・モード:** オフライン・モードでは、「積荷目録を閉じる」トランザクションがエージェントを起動し、積荷目録ステータスを「終了要求済み」に変更します。エージェントが実行されると、1 回の呼び出しで、積荷目録の各出荷が確認されるか、積荷目録が閉じられます。

操作モード (オンラインまたはオフライン) は、yfs.properties\_ycs\_ext.in ファイルの yfs.closemanifest.online プロパティに指定された値に基づいて決定されます。このプロパティをオーバーライドするには、これに関するエントリーを <INSTALL\_DIR>/properties/customer\_overrides.properties ファイルに追加します。customer\_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。

デフォルトのすぐに使用可能な出荷済みプロパティを使用すると、「積荷目録を閉じる」トランザクションはオンライン・モードで実行されます。

「積荷目録を閉じる」トランザクションをオフライン・モードで実行する場合は、トランザクションに対して定義されたすべてのエージェント条件が正しく構成されていることを確認してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 136. 「積荷目録を閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_MANIFEST
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	積荷目録作成
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	confirmShipment()

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 137. 「積荷目録を閉じる」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。  有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。

表 137. 「積荷目録を閉じる」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
出荷ノード	オプション。「積荷目録を閉じる」の実行が必要な出荷ノードです。これが渡されない場合は、すべての出荷ノードがモニターされます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 138. 「積荷目録を閉じる」の統計

統計の名前	説明
確認された出荷数 (NumShipmentsConfirmed)	確認された出荷の数。
閉じられた積荷目録数 (NumManifestsClosed)	閉じられた積荷目録の数。
エラーが発生した積荷目録数 (NumManifestsErrored)	エラーが発生した積荷目録の数。
エラーが発生した出荷数 (NumShipmentsErrored)	エラーが発生した出荷の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、未完了の積荷目録数と積荷目録 (MANIFEST\_STATUS が「1200」) に含まれる出荷数の合計です。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 139. 「積荷目録を閉じる」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	manifest_dbd.txt	YDM_CLOSE_MANIFEST .ON_SUCCESS.xml	あり

## オーダーを閉じる

この時間トリガー・トランザクションは、オーダーの ORDER\_CLOSED フラグを「Y」に設定し、ON\_SUCCESS イベントを生成します。これらのアクションは、すべてのオーダー明細の ORDER\_QTY が構成済みピックアップ・ステータスに達した場合のみ実行されます。オーダーの ORDER\_CLOSED フラグが「Y」に設定された場合、そのオーダーはモニター対象として選択されません。

パイプライン内で、ページ・トランザクションと共に、「オーダーを閉じる」エージェントを構成する必要があります。

このトランザクションの要素および属性の多くは、テンプレート駆動型です。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。

キャンセル済みオーダーに対して警告が発生するのを避けるために、「オーダーを閉じる」エージェントを実行してからモニター・エージェントを実行する必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 140. 「オーダーを閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_ORDER
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 141. 「オーダーを閉じる」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 142. 「オーダーを閉じる」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
閉じられたオーダー数 (NumOrdersClosed)	閉じられたオーダーの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Task\_Q テーブル内の AVAILABLE\_DATE の値が現在の日付の値以下 (<=) となる、トランザクションによって処理可能なレコードの数になります。保留中の各タスクの処理準備ができていないことが条件になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 143. 「オーダーを閉じる」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	YFS_CLOSE_ORDER.ON_SUCCESS.xml	あり

## 受入の完了

この時間トリガー・トランザクションは、指定された受入ルールを使用して受入を完了させます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 144. 「受入の完了」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RECEIPT_COMPLETE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	受入 (購入オーダー受入、返品受入、転送オーダー受入、受入)
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 145. 「受入の完了」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0（ゼロ）と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	「受入の完了」の実行が必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ノード	必須です。「受入の完了」の実行が必要なノードです。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。  有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 146. 「受入の完了」の統計

統計の名前	説明
完了した受入数 (NumReceiptsClosed)	完了した受入の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、完了できる受入 (OPEN\_RECEIPT\_FLAG が「Y」) の数です。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 147. 「受入の完了」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	receipt_dbd.txt	YFS_RECEIPT_COMPLETE .ON_SUCCESS.xml	あり

複数の入荷が同じロケーションに受け入れられ、受け入れた在庫にライセンス・プレートが付与されていない場合、エラー・メッセージ「格納する在庫がソース・ロケーションにありません (There is no inventory for put away at the SourceLocation)」が表示されます。この問題の解決方法は、以下の手順のいずれかです。

- 既に受け入れている入荷に対する移動要請を手動で作成します。移動要請の作成について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Warehouse Management System User Guide*』を参照してください。
- 受け入れる予定である入荷については、在庫にライセンス・プレートが付与されていることを確実にし、入荷と格納用の在庫を同じロケーションに受け入れることがないようにします。

## 出荷を閉じる (Close Shipment)

このトランザクションは、システム・パフォーマンスを高めるために、「出荷ページ」が出荷関連のデータをすべて削除するまで、一時的なページとして機能します (561 ページの『出荷ページ』を参照してください)。

このトランザクションは、CLOSE\_SHIPMENT トランザクションの抽出についてのパイプライン構成に基づいて、完了の条件を満たすすべての出荷を抽出し、それらの shipment\_closed\_flag に「Y」のマークを付けます。このフラグは、これ以上実行できる操作がこの出荷にないことを示します。関連するステータスの変更はありません。出荷済みステータスまたは配達済みステータスを抽出するように、パイプライン内でこのトランザクションを構成できます。

このトランザクションは、出荷パイプライン内の「出荷を閉じる」基本トランザクション (CLOSE\_SHIPMENT) に対応しています。

このトランザクションをパイプラインの一部に含める必要があります。さらに、タスク・キューを処理するように、トランザクションを構成する必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 148. 「出荷を閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_SHIPMENT
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 149. 「出荷を閉じる」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 150. 「出荷を閉じる」の統計

統計の名前	説明
閉じられた出荷数 (NumShipmentsClosed)	閉じられた出荷の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 151. 「出荷を閉じる」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	YDM_CLOSE_SHIPMENT. ON_SUCCESS.xml	あり

## 出荷統計の収集

「出荷統計の収集」は、時間トリガー・トランザクションです。これを起動して出荷を処理し、日次出荷レポートに必要な情報を生成できます。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 152. 「出荷統計の収集」の属性

属性	値
トランザクション名	出荷統計の収集
トランザクション ID	COLLECT_STATISTICS
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 153. 「出荷統計の収集」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ノード	必須。レコードが処理される倉庫管理出荷ノードです。

表 153. 「出荷統計の収集」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。  有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 154. 「出荷統計の収集」の統計

統計の名前	説明
統計収集日数 (NumDaysStatisticsCollected)	出荷統計が収集された日数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、出荷統計を収集する必要のある日数です。この日数は、現在の日付と出荷統計を最後に収集した日付との差 (日単位) によって計算します。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 155. 「出荷統計の収集」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	公開されるデータ	テンプレートがサ ポートされるか
ON_SUCCESS	YDM_COLLECT_STATISTICS.ON_ SUCCESS.xml	なし

## 追加在庫の統合

「追加在庫の統合」時間トリガー・トランザクションは、YFS\_INVENTORY\_SUPPLY\_ADDNL テーブルおよび YFS\_INVENTORY\_DEMAND\_ADDNL テーブルの供給と需要を統合します。統合は、YFS\_INVENTORY\_SUPPLY テーブル内および YFS\_INVENTORY\_DEMAND テーブル内の追加の供給と需要の数量を合計することによって行います。

適合する供給または需要がない場合、YFS\_INVENTORY\_SUPPLY\_ADDNL テーブル内および YFS\_INVENTORY\_DEMAND\_ADDNL テーブル内の変更の合計数量を

使用して新しい供給または需要が作成されます。変更が適用された後、統合処理で使用された YFS\_INVENTORY\_SUPPLY\_ADDNL テーブル内および YFS\_INVENTORY\_DEMAND\_ADDNL テーブル内のレコードは削除されます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 156. 「追加在庫の統合」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CONSOLIDATE_ADDNL_INV
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションのパラメーターは、以下のとおりです。

表 157. 「追加在庫の統合」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に検索および処理される、追加の供給と需要が統合された在庫アイテム・レコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_SUPPLY_ADDNL テーブルおよび YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 158. 「追加在庫の統合」の統計

統計の名前	説明
統合で処理される追加の在庫供給レコード数 (NumInventorySupplyAddnlsProcessed)	統合で処理される追加の在庫供給レコードの数。
統合で処理される追加の在庫需要レコード数 (NumInventoryDemandAddnlsProcessed)	統合で処理される追加の在庫需要レコードの数。

表 158. 「追加在庫の統合」の統計 (続き)

統計の名前	説明
統合で処理される追加の在庫需要詳細レコード数 (NumInventoryDemandDtlsProcessed)	統合で処理される追加の在庫需要詳細レコードの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、  
YFS\_INVENTORY\_SUPPLY\_ADDNL テーブル内および  
YFS\_INVENTORY\_DEMAND\_ADDNL テーブル内の個別の在庫アイテムの数を 2  
倍した値です。

## 発生するイベント

なし。

## 出荷に統合

これは、オーダー・パイプライン内のタスク・キューに基づくトランザクションであり、CONSOLIDATE\_TO\_SHIPMENT 基本トランザクションに対応します。このトランザクションは、指定されたオーダー・リリースを含めることができる出荷を検索します。既存の出荷が見つかり、changeShipment() API が呼び出されます。見つからない場合は、createShipment() API が呼び出されます。

トランザクションは、既存の出荷を検索するために、オーダー・リリースの出荷ノード、出荷先住所、セラー組織コード、運送会社、伝票種別などを既存の出荷と突き合わせます。トランザクションが突き合わせる属性のリストは、実際は、オーダーの伝票種別の伝票テンプレートに基づきます。

このトランザクションは、以下のいずれかのステータスの出荷にのみ適用可能です。

- 荷作成済み
- ESP チェックが必要
- ESP 保留時
- ESP 保留解除
- ルーティングのためにリリース済み
- ルーティング待機中
- 出荷ルーティング中 (Shipment Routing)
- ノードに送信

オーダー・リリースを既存の出荷と正常に統合するには、現在のステータスの出荷に対して「明細の追加」および関連する変更タイプが許可されている必要があります。

このトランザクションは、オーダー・フルフィルメント・パイプラインの一部です。さらに、タスク・キューを処理するように、トランザクションを構成する必要があります。

GIFT\_FLAG が Y に設定されたオーダー・リリースは、他のどのリリースとも統合できません。

詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の createShipment() API、changeShipment() API、および releaseOrder() API についての記述を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 159. 「出荷に統合」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CONSOLIDATE_TO_SHIPMENT
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	createShipment() および changeShipment()
ユーザー出口	<ul style="list-style-type: none"> <li>トランザクションは、com.yantra.ydm.japi.ue の beforeConsolidateToShipment を呼び出します。</li> <li>トランザクションは、処理を開始する前にリリースごとに YDMBeforeConsolidateToShipment を呼び出します。</li> <li>トランザクションは、出荷を検索した後、com.yantra.ydm.japi.ue の determineShipmentToConsolidateWith を呼び出します。</li> </ul> <p style="text-align: center;">YDMDetermineShipmentToConsolidateWith。 詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs</i>』を参照してください。</p>

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 160. 「出荷に統合」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。

表 160. 「出荷に統合」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 161. 「出荷に統合」の統計

統計の名前	説明
統合されたオーダー・リリース数 (NumOrderReleasesConsolidated)	統合されたオーダー・リリースの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 162. 「出荷に統合」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	YDM_CONSOLIDATE_TO_SHIPMENT.ON_SUCCESS.xml	あり

このトランザクションでは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』の createShipment() API および changeShipment() API の項に記載されたイベントも発生します。

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON\_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

## カタログ・インデックスの作成 (Create Catalog Index)

「カタログ・インデックスの作成」トランザクションは、カタログ検索で使用される Apache Lucene インデックス・ファイルを作成します。このインデックス・ファイルは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースまたは外部ソースから抽出された非正規化アイテム・データを格納することによって、検索パフォーマンスを向上させます。

「カタログ・インデックスの作成」トランザクションを構成して、以下のタスクを実行できます。

- スケジュール済みインデックス作成またはユーザーが開始するインデックス作成の実行
- フル・インデックス・ファイルまたはインクリメンタル・インデックス・ファイルの作成
- インデックス・ファイルのアクティブ化

## インデックス作成処理

「カタログ・インデックスの作成」トランザクションでは、インデックス作成用のエージェントが提供されます。インデックス作成はマルチスレッド処理になっており、各処理では、インデックス作成エージェントが Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベース内のアクティブな販売カタログから、アイテム情報およびアイテム関連情報を抽出します。対応する XML 構成ファイルが拡張されている場合、エージェントはこの情報を外部ソースから抽出することができます。

エージェントはこの情報を、最終的なインデックスに含める必要のあるアイテム・データを識別するための複数のファイルに書き込みます。エージェントは、ファイルへの書き込みを完了した後、各ファイルを最終的なインデックス・ファイルにマージします。

マルチスレッド処理には、並列に処理できるメリットがあります。大量のデータベース・データは、セグメント化されて同時に処理されます。これにより、1 つの大きなファイルを逐次処理する場合に比べて高速化され、拡張が容易になります。

インデックス作成エージェントは、情報を複数のファイルに書きこむときに、アイテムごとに以下のタスクを実行してから次のアイテムにループします。

- アイテムに関するデータについて、Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースまたは外部ソースに照会します。
- XML 構成ファイルおよび拡張ファイルの情報を使用して、照会によって取得するデータを決定します。
- Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースから、関連データを取得します。
- アイテムの Lucene ドキュメントを作成します。

トランザクションは、アイテムごとに Lucene ドキュメントを作成した後、組織および組織のロケールに基づいて、それらのドキュメントをインデックス・ファイルに書き込みます。

## カタログ・インデックス・ファイルにアクセスするための構成オプション

ビジネス要件に応じて、以下の 2 つの方法のいずれかで「カタログ・インデックスの作成」を構成できます。

- 共有された集中型ディスク上にインデックスを作成し、すべてのサーバーからアクセスできるようにします。
  - メリット

- 共有されたインデックスの集中制御
- インデックスが複数のサーバー間でコピーされないため、ファイル転送問題が発生しません。
- 制限
  - 共有ディスクが単一障害点になる可能性があります (予備ディスクが起動されない場合)。
  - 設定によっては、共有ディスクからの大量の読み取り/書き込みによって、パフォーマンスが低下する可能性があります。
- インデックスのコピーを作成し、ファイル転送を介してそれを複数のサーバーにプッシュします。インデックス作成の完了時にファイル転送処理は自動的に行われますが、インデックスは自動的にアクティブ化されません。すべてのサーバーからファイル転送完了の応答が返されたときに、manageSearchIndexTrigger API を呼び出してインデックスをアクティブ化します。
  - メリット
    - 障害の中心点がない
  - 制限
    - インデックス・ファイルを作成してサーバー間でプッシュするため、オーバーヘッドが生じる可能性があります。

1 つの場所にインデックスを作成して、別の場所からそれを読み取る方法を選択した場合、個々のプロセスで異なるプロパティを使用可能にする方法について、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティ・ガイド』を参照してください。

カタログ・インデックスの作成と検索については、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* カタログ管理概念ガイド』を参照してください。

## 属性

以下の表に、「カタログ・インデックスの作成」トランザクションの属性を示します。

表 163. 「カタログ・インデックスの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	Create_Catalog_Index
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YCMParseAssetUE YCMGetAdditionalCatalogIndexInformationUE

## 条件パラメーター

以下の表に、「カタログ・インデックスの作成」トランザクションの条件パラメーターを示します。

表 164. 「カタログ・インデックスの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
組織コード	必須。検索インデックスを維持するカタログ組織またはサブカタログ組織の組織コード。
メッセージ数 (Number of Messages)	<p>必須。インデックス・ファイルの作成時に使用するメッセージの数。</p> <p>Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、スレッドあたり 1 つのメッセージのみを処理します。例えば、メッセージ数が 10、スレッド数が 3 に設定された場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は一度に 3 つのメッセージのみを処理します。システム・パフォーマンスの微調整については、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation パフォーマンス管理ガイド』を参照してください。</p>
インクリメンタル・ビルド	<p>Y または N です。</p> <p>既存のインデックス・ファイルを再作成するには、Y を指定します。Y を指定した場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、最後に作成に成功したインデックスに基づいて、インデックスを再作成します。アイテムの属性が変更されたかどうかは、YFS_ITEM テーブルの MaxModifyTS 列によって判別されます。アイテムの外部属性が変更された場合、アイテムに対して manageItem API を呼び出すことによって MaxModifyTS 列を更新します。</p> <p>フル・インデックス・ファイルを作成するには、N を指定します。</p> <p>ユーザーがインデックス作成を開始した場合は、このパラメーターは無視されます。しかし、スケジュールされたインデックス作成を構成している場合、インデックスのフル・ビルドまたはインクリメンタル・ビルドを指定していることを確認してください。</p>
カテゴリ・ドメイン	<p>オプション。インデックスを作成する元になるカタログです。カタログ組織またはサブカタログ組織のアクティブな販売カタログがデフォルトになります。スケジュールされたインデックス作成を構成している場合、カタログを指定していることを確認してください。</p>
自動的にアクティブ化する (Auto Activate)	<p>Y または N です (オプション)。</p> <p>インデックス・ファイルの作成後にインデックスをアクティブ化するには、Y を指定します。</p> <p>デフォルトは、N です。</p>

表 164. 「カタログ・インデックスの作成」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
検索インデックス・トリガーの自動挿入 (Auto Insert Search Index Trigger)	<p>Y または N です (オプション)。 スケジュールされたカタログ・インデックス・ファイルの作成を有効にするには、Y を指定します。エージェントは、YFS_SEARCH_INDEX_TRIGGER テーブルに格納された情報を参照して、スケジュールされたインデックス作成をいつ実行するかを決定します。インデックスのビルド・タイプ (フルまたはインクリメンタル) をエージェント条件に指定します。</p> <p>カタログ・インデックス・ファイルの作成をユーザーが開始できるようにするには、N を指定します。エージェントは、継続的に YFS_SEARCH_INDEX_TRIGGER テーブルを照会し、インデックス作成が指示されているかどうかを判定します。ユーザーが、IBM Sterling Business Center からインデックス作成を開始した場合、このテーブルのステータス設定が「スケジュール済み」に変わります。これによって、エージェントはインデックス作成を起動します。ユーザーは、Sterling Business Center から、インデックスのビルド・タイプ (フルまたはインクリメンタル) を指定します。</p> <p>スケジュールまたはユーザーによってインデックス作成が実行された後、インデックスを Sterling Business Center からアクティブ化することができます。あるいは、インデックスが自動的にアクティブ化されるようにエージェントを構成することもできます。</p> <p>スケジュールとユーザーの両方がインデックス作成を開始できるようにするには、トランザクションが 2 つのエージェントのインスタンスを含むように構成します。1 つのインスタンスによってユーザーが開始するインデックス作成を起動し、もう 1 つのインスタンスによってスケジュール済みインデックス作成を起動するように構成します。</p>
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

以下の表に、「カタログ・インデックスの作成」トランザクションの統計を示します。

表 165. 「カタログ・インデックスの作成」の統計

統計の名前	説明
作成された検索インデックス数 (SearchIndicesBuilt)	作成された検索インデックスの数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 166. 「カタログ・インデックスの作成」 トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	非公開	CATALOG_INDEX_BUILD.ON_SUCCESS.xml	あり

## 連鎖オーダーの作成 (Create Chained Order)

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納されたオーダー・ヘッダー・キーを持つオーダーから、1 つ以上の連鎖オーダーを作成します。連鎖可能なオーダー明細を含む新しい連鎖オーダーを作成する代わりに、それらの明細を既存の連鎖オーダーに追加することもできます。既存の連鎖オーダーは、`determineChainedOrderForConsolidation` 外部プログラムによって特定する必要があります。外部プログラムが実装されていないか、外部プログラムが空白文書を返す場合、1 つ以上の連鎖オーダーが新規作成されます。

連鎖オーダーの作成について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `createChainedOrder()` API および `YFSdetermineChainedOrderForConsolidation` 外部プログラムについての記載内容を参照してください。

このトランザクションは、オーダーをスケジュールした後に起動する必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 167. 「連鎖オーダーの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CHAINED_ORDER_CREATE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>createChainedOrder()</code>

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 168. 「連鎖オーダーの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 169. 「連鎖オーダーの作成」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	「連鎖オーダーの作成」で処理されたオーダーの数。
作成されたオーダー数 (NumOrdersCreated)	作成された連鎖オーダーの数。

処理対象の 2 つのオーダーが存在し、最初のオーダーが連鎖オーダーを作成した場合、DetermineChainedOrderForConsolidation 外部プログラムによって、2 番目のオーダーの明細が最初のオーダーに追加されます。作成された連鎖オーダーの数は、2 つとしてカウントされます。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 ( $\leq$ ) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

このトランザクションでは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』の createChainedOrder() API の項に記載されたイベントが発生します。

## 派生オーダーの作成 (Create Derived Order)

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納されたオーダー・ヘッダー・キーを持つオーダーから、1 つ以上の派生オーダーを作成します。派生

オーダーが存在する場合、派生可能な明細を追加するか、それらの明細を含む派生オーダーを新規作成することができます。既存の派生オーダーは、`determineDerivedOrderForConsolidation` 外部プログラムによって特定する必要があります。外部プログラムが実装されていないか、ヌル文書を返す場合、派生オーダーが新規作成されます。派生オーダーの作成について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `createDerivedOrder()` API および `YFSDetermineDerivedOrderForConsolidation` 外部プログラムについての記載内容を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 170. 「派生オーダーの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	DERIVED_ORDER_CREATE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>createDerivedOrder()</code>

タスク・キュー・オブジェクトにポストされるトランザクション・キーは、オーダーに関連付けられたプロセス・タイプの `DERIVED_ORDER_CREATE` 抽象化トランザクションのインスタンスである必要があります。それ以外の場合、例外がスローされます。

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 171. 「派生オーダーの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 172. 「派生オーダーの作成」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
作成されたオーダー数 (NumOrdersCreated)	作成された派生オーダーの数。

処理対象の 2 つのオーダーが存在し、最初のオーダーが派生オーダーを作成した場合、DetermineChainedOrderForConsolidation 外部プログラムによって、2 番目のオーダーの明細が最初のオーダーに追加されます。作成された派生オーダーの数は、2 つとしてカウントされます。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

このトランザクションでは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』の createDerivedOrder() API の項に記載されたイベントが発生します。

## オーダー・インボイスの作成

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納されたオーダー・ヘッダー・キーを持つオーダーから、1 つ以上のインボイスを作成します。オーダー・ヘッダー・キーのために、createOrderInvoice() API が呼び出されます。

数量または価格に影響する可能性のある処理がすべて完了している場合にのみ、このトランザクションをパイプライン内で構成します。インボイスの作成後に、明細の数量を請求済み数量よりも減らすことはできません。

「オーダー・インボイスの作成」トランザクションと「出荷インボイスの作成」トランザクションのどちらも、オーダーのインボイスを作成することができます。パイプラインを構成する場合、これら 2 つのトランザクションのうちの 1 つのみが、特定のオーダー明細のインボイスを作成するように構成されていることを確認してください。詳しくは、445 ページの『出荷インボイスの作成』を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 173. 「オーダー・インボイスの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CREATE_ORDER_INVOICE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	createOrderInvoice()

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 174. 「オーダー・インボイスの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 175. 「オーダー・インボイスの作成」の統計

統計の名前	説明
作成されたオーダー・インボイス数 (NumOrderInvoicesCreated)	作成されたオーダー・インボイスの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `createOrderInvoice()` API の項に記載されたイベントが発生します。

## 出荷インボイスの作成

オーダーが決済処理を必要とする場合、インボイス作成は必須です。以下の条件が満たされる場合、インボイスが作成されます。

- ドキュメント・パラメーター・レベルでインボイス作成が可能。
- セラーが決済処理を必要とする。

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納された出荷キーを持つ出荷に対して、1 つ以上のインボイスを作成します。出荷ヘッダー・キーに対して、`createShipmentInvoice()` API が呼び出されます。

このトランザクションは、出荷が出荷済みステータスに達した場合にのみ、出荷パイプライン内で構成する必要があります。

「オーダー・インボイスの作成」と「出荷インボイスの作成」のどちらも、オーダーのインボイスを作成できます。パイプラインを構成する場合、これら 2 つのトランザクションのうちの 1 つのみが、特定のオーダー明細のインボイスを作成するように構成されていることを確認してください。443 ページの『オーダー・インボイスの作成』を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 176. 「出荷インボイスの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CREATE_SHIPMENT_INVOICE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>createShipmentInvoice()</code>

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 177. 「出荷インボイスの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 177. 「出荷インボイスの作成」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 178. 「出荷インボイスの作成」の統計

統計の名前	説明
作成された出荷インボイス数 (NumShipmentInvoicesCreated)	作成された出荷インボイスの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の createShipmentInvoice() API の項に記載されたイベントが発生します。

## ESP 評価者

「ESP 評価者」時間トリガー・トランザクションは、出荷が特定のエコノミック出荷パラメーターに適合するかどうかを検証します。出荷に対してどの運賃を適用するかを決定する運賃条件を使用して、バイヤーまたはエンタープライズについて ESP を構成することができます。

ESP のために出荷を保留するように構成を定義している場合、出荷は作成時に ESP のために保留されます (ステータスは「ESP 保留時」)。このタスク・キューに基づく時間トリガー・トランザクションは、ESP に対して出荷を評価し、その条件 (重量と容積の制限、および保留の最大日数) に適合する場合、出荷パイプライン内の次のステップに出荷を渡します。これで出荷ステータスは「ESP 保留解除」に設定され、ルーティング処理が開始されます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 179. 「ESP 評価者」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ESP_EVALUATOR.0001
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	出荷
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	getNodeMinimumNotificationTime

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 180. 「ESP 評価者」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「ESP 評価者」の実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
ノード	必須。レコードが処理される倉庫管理出荷ノードです。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。  有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 181. 「ESP 評価者」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	ESP_EVALUATOR.ON_SUCCESS.xml	あり

## アイテム・ベースの割り当て

「アイテム・ベースの割り当て」トランザクションは、YFS\_IBA\_TRIGGER テーブルで「アイテム・ベースの割り当て」プロセス用にトリガーされている在庫アイテムおよび在庫ノードに基づいて、既存オーダーの約束していない需要と約束した需要をより適切な供給に割り当てます。

「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、YFS\_IBA\_TRIGGER テーブルから、以下の条件に合致するすべての「アイテム・ベースの割り当て」トリガーを取得し、処理します。

- IBA\_RUN\_REQUIRED = "Y"
- LAST\_IBA\_PROCESSED\_TS が現在時刻よりも「x」時間前である。ここで「x」は、インストール・ルール内の「アイテム・ベースの割り当てエージェントの実行間隔 (時間数)」のルールに定義されている時間です。インストール・ルールについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド*」を参照してください。このルールは、「アイテム・ベースの割り当て」エージェントが、前に処理した YFS\_IBA\_TRIGGER テーブル内のトリガーを、再処理してはならない間隔を示すために使用されます。これによって、IBA エージェントは指定された時間間隔内にアイテムとノードの組み合わせを処理しすぎることがなくなるため、システムに対する高負荷を避けることができます。
- PROCESSING\_BY\_AGENT="N" または PROCESS\_OVER\_BY\_TS が現在のタイム・スタンプより前である。PROCESSING\_BY\_AGENT フィールドを使用して、他のエージェントのインスタンスによって処理中の IBA トリガーがピックアップされないようにします。

「在庫組織コード」がエージェント条件に指定されている場合は、その在庫組織の在庫アイテムを持つ IBA トリガーのみが取り出されます。

トリガーされたアイテムとノードの組み合わせごとに、エージェントは、そのアイテムおよびノードを含むすべての該当するオーダー明細またはオーダー明細予約を見つけて、ユーザー構成の IBA 選択ルールまたは FIFO (先入れ先出し) IBA 選択ルールに基づいて、それらの約束していない需要と約束した需要を、より適切な入手可能な供給に移動しようとします。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、一致した供給の最初の出荷日で新規の正のオーダー明細予約を作成し、既存の需要の出荷日には負のオーダー明細予約を作成します。すべてのオーダーは、処理が完了すると保留状態になり、オーダー明細予約で変更が検出された場合に、再スケジュールされます。

「アイテム・ベースの割り当て」プロセスには、以下の構成が必要です。

- 「アイテム・ベースの割り当てを使用する」ルールを有効にする必要があります。
- アイテムおよびノードで「アイテム・ベースの割り当て許可」が有効でなければなりません。
- 再スケジュールのためオーダーを保留状態にできるように、保留タイプをオーダー明細予約変更の変更タイプ用にセットアップする必要があります。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

バックオーダーされた需要を再割り当てするために、「1 つの明細がバックオーダーされた場合は、優先度が最も高い出荷ノードに対してバックオーダーする」のルールにチェック・マークを付ける必要があります。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」の『フルフィルメント・ルール (Fulfillment Rules)』セクションを参照してください。

「アイテム・ベースの割り当て」ロジックを処理する前に、「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、「アイテム・ベースの割り当て」トリガー上の以下のフィールドを更新します。

- PROCESSING\_BY\_AGENT = “Y”。これは、エージェントのインスタンスが、現在このトリガーを処理中であることを示します。
- PROCESS\_OVER\_BY\_TS = 現在時刻 + 1 時間。これは、エージェントがこの IBA トリガーの処理を終了する予定時間を示します。1 時間は固定ウィンドウで、変更できません。Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、現在のタイム・スタンプがこのタイム・スタンプより後の場合は、実際の値に関係なく、PROCESSING\_BY\_AGENT フラグを「N」として扱います。
- IBA\_RUN\_REQUIRED = “N”。これは、IBA\_RUN\_REQUIRED フラグを「N」にリセットします。

### **該当するオーダー・リリース・ステータスおよび割り当て済みのオーダー明細予約に基づいて需要のリストを取得する**

需要のリストは、該当するオーダー・リリース・ステータスおよびオーダー明細予約から派生し、これらには IBA トリガーにおけるアイテムおよびノードが含まれません。以下のタイプの需要が取り出されます。

- 連鎖オーダーの需要
- 作成済みの連鎖オーダーのあるオーダーの需要
- 調達ノードはあるが、連鎖オーダーがまだ作成されていないオーダーの需要

- 調達ノードがないオーダーの需要
- オーダー明細予約からの需要

需要数量は、需要タイプを保有する「ステータス在庫のタイプ」構成のステータスを持つオーダー・リリース・ステータスの量に基づいて派生します。ここでは、「アイテム・ベースの割り当てに、考慮された需要タイプを使用する」が有効である場合に供給タイプが考慮されます。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

## 割り当てる使用可能な供給のリストを取得する

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、約束していない需要および約束した需要を無視して、ノード上のアイテムの在庫状況に基づいて、使用可能な供給を取得します。在庫組織が在庫を外部で管理している場合、外部の在庫状況は、YFSGetExternalInventoryUE 外部プログラムによって読み取ることができます。「アイテム・ベース割り当て時に在庫を検索する需要タイプ」を考慮する供給の在庫状況のみが、割り当てロジックで使用されます。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

割り当てられた需要は、「リリース時に検索する需要」と同じ供給と一致しなければなりません。

## 需要を FIFO (先入れ先出し) 順序と突き合わせる

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、使用可能な供給のリストを最初の出荷日 (ETA) 順にソートして、トップダウン・ロジックを使用して、取得した需要のリストと突き合わせます (最も近い ETA に基づいて突き合わせが行われる、在庫状況取得における通常の突き合わせロジックとは異なります)。需要は、以下の順序で割り当てられます。

- 連鎖オーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の昇順になります。(これらのタイプの需要は、連鎖オーダーにおける変更を避けるために、最も近い ETA に基づいて突き合わせが行われます)。
- 作成済みの連鎖オーダーがあるオーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次に製品利用可能日の昇順になります。(これらのタイプの需要は、オーダーにおける変更を避けるために、最も近い ETA に基づいて突き合わせが行われます)。
- 調達ノードおよび連鎖オーダーの作成が迫っている (事前通知時刻ウィンドウ内にある) オーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の順序になります。
- 調達ノードがなくリリース・ウィンドウ (事前通知時刻ウィンドウ) 内にあるオーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の順序になります。
- オーダー明細でのオーダー明細予約からの需要は、要求された予約日の順序になり、調達ノードあり、または調達ノードなしのオーダーの余剰需要 (事前通知時刻ウィンドウ外) は、最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の順序になります。
- 在庫予約からの需要は、出荷日の順序になります。

需要のタイプが異なると、その重要度に基づいて、優先順位が異なる点に注意してください。連鎖オーダーまたは連鎖オーダーに関連したオーダーの需要は、通常のオーダーの需要よりも高い優先順位で処理されます。また、出荷日が事前通知時刻ウィンドウ内にある需要も、事前通知時刻ウィンドウ外にある需要よりも優先順位が高くなります。

## 一致した需要のオーダー予約を更新する

ユーザー構成の順序付け、次に FIFO 順序で入手可能な供給と需要を突き合わせた後、システムはオーダー明細予約変更および在庫需要変更 (オーダー明細予約変更に対応) のリストを構築し、それらを要約して、オーダー予約更新と在庫更新の数を最適化します。一致した需要について、負のオーダー明細予約が追加されます。一致した需要について、正のオーダー明細予約が追加され、製品利用可能日が一致した供給の最初の出荷日に設定されます。

「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、「アイテム・ベースの割り当て」トリガーに関するタスクの完了後、トリガーのフィールドを以下の値で更新します。

- IBA\_REQUIRED = "N"
- LAST\_IBA\_PROCESSED\_TS = 現在のタイム・スタンプ
- PROCESS\_OVER\_BY\_TS = 現在のタイム・スタンプ
- PROCESSING\_BY\_AGENT = "N"

「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、再スケジュール・プロセスと合わせて使用する必要があります。再スケジュール・プロセスは、「アイテム・ベースの割り当て」プロセスで作成されたオーダー明細予約の使用によって影響を受けたオーダーを再スケジュールするためです。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 182. 「アイテム・ベースの割り当て」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ITEM_BASED_ALLOCATION
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	changeOrder - 「アイテム・ベースの割り当て」プロセスの一部として作成されたオーダー明細予約を更新します。
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 183. 「アイテム・ベースの割り当て」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	「アイテム・ベースの割り当て」エージェントによって処理される在庫アイテムの在庫組織コード。指定された場合、この在庫組織に属する在庫アイテムを持つ IBA トリガーのみが処理されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_IBA_TRIGGER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 184. 「アイテム・ベースの割り当て」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	「アイテム・ベースの割り当て」エージェントによって処理されたオーダーの数。
再スケジュールを必要とするオーダー数	「アイテム・ベースの割り当て」プロセスの結果、再スケジュールを必要とするオーダーの数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

このトランザクションは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `changeOrder` API で指定されたイベントを引き起こします。

## 集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク

これは、「集合・混載パイプライン」上で動作する時間トリガー・トランザクションです。

この時間トリガー・トランザクションは、タスク・キューからレコードを取得します。このトランザクションは、集合・混載のすべての容器がトレーラー上にある場合に、その集合・混載を集合・混載済みトレーラーとしてマークするために使用されます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 185. 「集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	MARK_AS_TRAILER_LOADED
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 186. 「集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
再処理間隔	オプション。「再処理間隔」は、集合・混載の再処理に使用する時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 187. 「集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク」の統計

統計の名前	説明
変更された集合・混載数 (NumLoadsChanged)	変更されたトレーラー集合・混載の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## 在庫の照合

「在庫の照合」は、YFS\_INVENTORY\_SHIPMENT テーブルにあるすべての保留レコードを処理します。保留レコードは、POSTED\_QUANTITY の数字が QUANTITY の数字よりも小さくなります。

各保留レコードは、在庫コスト決定ロジックを適用することによって、YFS\_INVENTORY\_RECEIPT テーブル内の受入レコードと照合されます。販売と受入のデータが照合されたユニット・コストは、YFS\_INVENTORY\_MATCH テーブルにも計上されます。

構成された出荷ノードが在庫コストを管理している場合、このトランザクションを使用します。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 188. 「在庫の照合」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORY_MATCH
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 189. 「在庫の照合」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 189. 「在庫の照合」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	オプション。有効な在庫所有者の組織です。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
供給停止日 (CutOffDate)	オプション。渡された場合、レコードは最大でこの日付まで照合されます。デフォルトでは、データベース内のすべての照合未済のレコードが対象になります。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_SHIPMENT、YFS_INVENTORY_RECEIPT、および YFS_INVENTORY_MATCH テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 190. 「在庫の照合」の統計

統計の名前	説明
処理された在庫出荷数 (NumInventoryShipmentsProcessed)	処理された在庫出荷の数。
挿入された在庫一致数	挿入された在庫一致の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、QUANTITY の値が POSTED\_QUANTITY の値と等しくない、YFS\_INVENTORY\_SHIPMENT テーブルに存在する個別の在庫アイテムの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## 支払集金

このトランザクションは、承認または請求を保留中のオーダーについて、クレジットの検証を要求します。

承認要請および請求要請作成にこのトランザクションを使用します。

このトランザクションは、「支払実行」トランザクションと組み合わせて動作します。このトランザクションは「支払実行」トランザクションとは独立して実行可能ですが、承認と集金は支払実行の依存関係が満たされた後にのみ、発生します。詳しくは、458 ページの『支払実行』を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 191. 「販売オーダーの支払集金」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_COLLECTION
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	requestCollection()

表 192. 返品オーダーの支払集金属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_COLLECTION.0003
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	返品物流
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	requestCollection()

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 193. 「支払集金」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。このトランザクションを実行する必要があるエンタープライズ。空欄のままにした場合、すべてのエンタープライズのオーダーが処理されます。指定した場合、そのエンタープライズのオーダーのみ処理されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

表 193. 「支払集金」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)	<p>「ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)」条件が入力され、requestCollection エージェントが例外をスローする場合 (getFundsAvailable 外部プログラムからなど)、「ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)」が使用されて、オーダーは保留状態に置かれます。古いオーダー保留機能を使用している場合、保留の理由として使用されます。保留タイプが存在しない場合、例外がスローされます。</p> <p>「ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)」条件が入力されていない場合、例外がスローされてもオーダーは保留されません。</p>

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 194. 「支払集金」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
作成された請求要請数 (NumChargeReqsCreated)	作成された請求要請の数。
作成された承認要請数 (NumAuthorizationReqsCreated)	作成された承認要請の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AUTHORIZATION\_EXPIRATION\_DATE の値が現在の日付の値以下 (<=) の、該当する支払ステータスにあるオーダーの数になります。オーダーの該当する支払ステータスは以下のとおりです。

- Awaiting Pay Info
- Awaiting Auth
- Requested Auth
- Request Charge
- Authorized, Invoiced
- Paid
- Release Hold
- Failed Auth
- Failed Charge
- Verify
- Failed

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 195. 「支払集金」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
INCOMPLETE_PAYMENT	modifyOrder	YFS_PAYMENT_ _PAYMENT _INFORMATION.xml	あり
PAYMENT_STATUS	YFS_PAYMENT _COLLECTION .PAYMENT _STATUS_ dtd.txt	YFS_PAYMENT_ COLLECTION. PAYMENT_STATUS.xml	あり
REQUEST_PAYMENT_ STATUS		YFS_PAYMENT_ COLLECTION.REQUEST _PAYMENT_STATUS. xml	あり
ON_LIABILITY_ TRANSFER	modifyOrder _dbd.txt	YFS_PAYMENT_ COLLECTION.ON_ LIABILITY_TRANSFER.xml	あり
ON_INVOICE_ COLLECTION	order_dbd/txt	YFS_CREATE_ORDER_ INVOICE.ON_ INVOICE_ COLLECTION.xml	あり

## 支払実行

このトランザクションは、承認および請求を保留するすべての要請を処理します。

すべての承認要請および請求要請処理にこの時間トリガー・トランザクションを使用します。

このトランザクションには、会計サービスを提供する製品とのインターフェースが必要です。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 196. 「販売オーダーの支払実行」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_EXECUTION
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント

表 196. 「販売オーダーの支払実行」属性 (続き)

属性	値
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	executeCollection()
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	collectionCreditCard、collectionOthers、collectionCustomerAcct

表 197. 返品オーダーの支払実行属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_EXECUTION.0003
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	返品物流
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	executeCollection()
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	collectionCreditCard、collectionOthers、collectionCustomerAcct

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 198. 「支払実行」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
料金タイプ	クレジット・カード・プロセスのタイプ。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• AUTHORIZATION - クレジット・カード・アカウントを検証</li> <li>• CHARGE - クレジット・カードに請求を適用</li> </ul>
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 199. 「支払実行」の統計

統計の名前	説明
処理された承認トランザクション数 (NumAuthTransProcessed)	処理された承認トランザクションの数。
処理が完了した承認トランザクション数 (NumAuthTransSuccessfullyProcessed)	処理された承認トランザクションについて外部プログラムからの正常な戻りの数。
処理された請求トランザクション数 (NumChargeTransProcessed)	処理された請求トランザクションの数。
処理が完了した請求トランザクション数 (NumChargeTransSuccessfullyProcessed)	処理された請求トランザクションについて外部プログラムからの正常な戻りの数。
集金検証数 (NumCollectionValidations)	起動された集金検証外部プログラムからの正常な戻りの数。
クレジット・カード集金数 (NumCreditCardCollections)	クレジット・カード集金の数。
顧客アカウント集金数 (NumCustomerAccountCollections)	顧客アカウント集金外部プログラムからの正常な戻りの数。
その他の集金数 (NumOtherCollections)	その他の集金外部プログラムからの正常な戻りの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、オープンな請求および承認トランザクションの数になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 200. 「支払実行」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
<b>CHARGE_FAILED</b>	modifyOrder dbd.txt	PAYMENT_EXECUTION_ CHARGE_FAILED_dbd.txt	なし

このトランザクションは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `executeCollection()` API で指定されたイベントを引き起こします。

## 在庫一致の公示

このトランザクションは、`YFS_INVENTORY_MATCH` テーブル内のすべてのオープンなレコードを処理し、そのレコードを会計システムに公示します。

`YFS_INVENTORY_MATCH` テーブル内のオープンなレコードのステータスは、01 です。公示後、ステータスは 02 に変更されます。

構成された出荷ノードが在庫コストを管理している場合、このトランザクションを使用します。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 201. 「在庫一致の公示」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	POST_INVENTORY_MATCH
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 202. 「在庫一致の公示」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_MATCH テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 203. 「在庫一致の公示」の統計

統計の名前	説明
公示された在庫一致数 (NumInventoryMatchPosted)	公示された在庫一致レコードの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、オープンなステータスを持つ在庫一致の数になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 204. 「在庫一致の公示」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
POST_INVENTORY_MATCH	POST_ INVENTORY_ MATCH_dbd.txt	YFS_postInventory Match_output.xml	なし

## オーダー保留タイプの処理

PROCESS\_ORDER\_HOLD\_TYPE 抽象化トランザクションから派生した、時間トリガー・トランザクションを作成できます。これは、1 つ以上の保留タイプの処理トランザクションとして構成できます。オーダーが、処理トランザクションとして構成されたトランザクションを持つ保留タイプに関連付けられている場合、そのトランザクションを処理するために、レコードが YFS\_TASK\_Q テーブルに作成されます。

処理トランザクションがトリガーされると、保留タイプ構成に基づいて、処理できる保留タイプをチェックします。処理できる保留タイプがない場合、YFS\_TASK\_Q レコードは削除されます。処理できる保留タイプがある場合、処理対象の保留タイプのリストと共に、processOrderHoldType 外部プログラムが起動されます。processOrderHoldType 外部プログラムは、オーダーから削除可能な保留タイプのリストを戻します。

次に、このトランザクションは、processOrderHoldType 外部プログラムによって戻される出力に基づいて、オーダーを変更し、オーダー保留タイプ・リストを更新します。これで処理できる保留タイプがなくなった場合、YFS\_TASK\_Q レコードは削除されます。処理可能な保留タイプがまだ存在する場合、YFS\_TASK\_Q は次の利用可能日で更新されます。

また、processOrderHoldType 外部プログラムを呼び出して、新規の保留タイプを追加するか、またはオーダーに既に適用されている保留タイプのステータスを変更することもできます。processOrderHoldType 外部プログラムについて詳しくは、*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs* を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 205. 「オーダー保留タイプの処理」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PROCESS_ORDER_HOLD_TYPE
基本伝票種別	オーダー

表 205. 「オーダー保留タイプの処理」属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	changeOrder

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 206. 「オーダー保留タイプの処理」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_TASK_Q テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

なし (None)

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 207. 「オーダー保留タイプの処理」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/ イベント	発生するタイミン グ	キー・データ	公開されるデー タ	テンプレート がサポートさ れるか
ON_SUCCESS	成功時	modifyOrder_ dbd.txt	YFS_ORDER_ CHANGE.ON_ SUCCESS.xml	あり *
ON_HOLD_TYPE _STATUS_ CHANGE	保留タイプのステ ータスに変更され ます。	modifyOrder_ dbd.txt	YFS_ON_ HOLD_TYPE_ STATUS_ CHANGE.xml	あり

表 207. 「オーダー保留タイプの処理」トランザクションによって発生するイベント (続き)

トランザクション/イベント	発生するタイミング	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
<b>ON_ORDER_LINE_HOLD_TYPE_STATUS_CHANGE</b>	保留タイプのステータスが変更されます。	modifyOrder_dbd.txt	YFS_ON_ORDER_LINE_HOLD_TYPE_STATUS_CHANGE.xml	あり
* 注: 要素および属性には、テンプレート駆動型でないものがあります。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。				

## 保留作業オーダー・タイプの処理

この時間トリガー・トランザクションは、「オーダー保留タイプの処理」トランザクションと同じですが、このトランザクションは作業オーダーに使用されます。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 208. 「保留作業オーダー・タイプの処理」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PROCESS_WO_ORDER_HOLD_TYPE
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS プロセス
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	modifyWorkOrder

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 209. 「保留作業オーダー・タイプの処理」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。

表 209. 「保留作業オーダー・タイプの処理」のパラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

なし (None)

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 210. 「保留作業オーダー・タイプの処理」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/ イベント	発生するタイミン グ	キー・データ	公開されるデー タ	テンプレート がサポートさ れるか
ON_SUCCESS	成功時	workOrder_ dbd.txt	VAS_MODIFY_ WORK_ORDER .ON_SUCCESS. xml	あり *
ON_HOLD_TYPE_ STATUS_ CHANGE	保留タイプのステ ータスが変更され ます。	workOrder_ ldbd.txt	VAS_ON_HOLD _TYPE_STATUS _CHANGE.xml	あり

\* 注: 要素および属性には、テンプレート駆動型でないものがあります。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。

## 交渉の発行結果

このトランザクションは、交渉条件をオーダーに発行します。

オーダーで交渉フェーズを使用する必要がある環境で、このトランザクションを使用します。

このトランザクションは、交渉が完了した後に実行する必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 211. 「交渉の発行結果」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PUBLISH_ORD_NEGOTIATION
基本伝票種別	オーダー

表 211. 「交渉の発行結果」属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 212. 「交渉の発行結果」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 213. 「交渉の発行結果」の統計

統計の名前	説明
処理された交渉数 (NumNegotiationsProcessed)	処理された交渉の数。
発行された交渉数 (NumNegotiationsPublished)	発行された交渉の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 214. 「交渉の発行結果」トランザクションによって発生するイベント

基本トランザクション	発生するタイミング	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
<b>PUBLISH_ORD _NEGOTIATION/ ON_SUCCESS</b>	成功時	Negotiation_dbd.txt	YCP_get 交渉 Details_output.xml	あり *
<b>RECEIVE_ORD _NEGOTIATION/ ON_SUCCESS</b>	成功時 (伝票種別が 0001 で、エンティティ・タイプが ORDER の場合)。	同時に実行中の時間トリガー・トランザクションの数。	receiveOrder Negotiation_dbd.txt	なし
* 注: このイベントで使用されるテンプレートは、出力 XML を形成するために getNegotiationDetails() API が使用するテンプレートと同じです。				

## リリース

このトランザクションは、オーダーを特定の出荷ノードに対してリリースし、スケジュール済み出荷ノードでオーダーを処理するための十分な在庫があるようにします。

このトランザクションは、プロセスのスケジューリング後に起動する必要があります。

詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `releaseOrder()` API で提供される情報を参照してください。

組み合わせられた「スケジュールおよびリリース」エージェントを実行する場合、個別のスケジュール・エージェントおよび個別のリリース・エージェントを実行しないでください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 215. リリース属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RELEASE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
呼び出される API (APIs Called)	releaseOrder()

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 216. リリースの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
リリース日付を無視 (IgnoreReleaseDate)	オプション。スケジュール・プロセスが明細のリリース日付条件を無視するかどうかを決定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - リリース日付条件にかかわらず明細数量をリリースします。</li> <li>• N - デフォルト値。リリース日付条件が満たされた後でのみ、明細数量をリリースします。</li> </ul>
在庫の確認 (CheckInventory)	オプション。在庫のチェックが必要かどうかを判断します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。在庫のチェックが必要です。</li> <li>• N - 在庫のチェックは不要です。</li> </ul>
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 217. リリース条件の統計

統計の名前	説明
将来の日付エラー数 (NumFutureDateFailures)	将来の日付エラーが原因でリリースを試行しなかったオーダーの数。
試行されたオーダー数 (NumOrdersAttempted)	リリースを試行されたオーダーの数。
処理できなかったオーダー数 (NumOrdersCannotBeProcessed Failures)	処理をできないエラーが原因でリリースを試行しなかったオーダーの数。
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
リリースされたオーダー数 (NumOrdersReleased)	リリースされたオーダーの数。
バックオーダーされたオーダー数 (NumOrdersBackordered)	バックオーダーされたオーダーの数。

表 217. リリース条件の統計 (続き)

統計の名前	説明
リリースされたオーダー明細数 (NumOrderLinesReleased)	リリースされたオーダー明細の数。
バックオーダーされたオーダー明細数 (NumOrderLinesBackordered)	バックオーダーされたオーダー明細の数。
作成されたオーダー・リリース数 (NumReleasesCreated)	作成されたオーダー・リリースの数。
処理できなかったオーダー数 (NumOrdersCannotBeProcessed Failures)	処理エラーが原因でリリースされなかったオーダーの数。

リリース・プロセスの結果、オーダー明細が分割される場合、NumOrderLinesReleased、NumOrderLinesBackordered、および NumOfReleasesCreated の結果は、1 より大きくなることがあります。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Task\_Q テーブル内の AVAILABLE\_DATE の値が現在の日付の値以下 (<=) となる、トランザクションによって処理可能なレコードの数になります。保留中の各タスクの処理準備ができていないことが条件になります。

## 発生するイベント

このトランザクションは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の releaseOrder() API で指定されるイベントを発生させます。

## 出荷のルーティング

この時間トリガー・トランザクションは、出荷のルーティングに使用され、出荷パイプラインに属しています。構成されたルーティング・ガイドに基づき、出荷用の運送会社コードおよび運送会社サービス・コードを割り当てます。

出荷のルーティング・トランザクションは、既存の集合・混載に出荷を含めるか、新規の集合・混載を作成し、そこに出荷を含めます。

出荷は、以下の条件を満たす場合のみ、1 つの集合・混載にまとめることができます。

- 予定出荷日 - 出荷の予定出荷日が集合・混載の出荷期限日以前であること。
- 集合・混載出発予定日 - 集合・混載出発予定日が集合・混載内の出荷品の出荷期限日以前であること。

出荷期限日は、集合・混載に含まれるすべての出荷に基づき、集合・混載用に計算される日付です。例えば、1 つの集合・混載に 3 つの出荷があり、それぞれの出荷期限日が 2005/12/22、2005/12/12、および 2005/12/19 の場合、2005/12/12 が 3 つの日付の中で最も早いいため、集合・混載の出荷期限日は 2005/12/12 と計算されます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 218. 出荷のルーティング

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ROUTE_SHIPMENT.0001
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	ORDER_DELIVERY
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	com.yantra.ydm.japi.ue.YDMOverrideDetermineRoutingUE com.yantra.ydm.japi.ue.YDMBeforeDetermineRoutingUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 219. 出荷のルーティングの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_SHIPMENT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 220. 出荷のルーティングの統計

統計の名前	説明
ルーティング数 (NumRouted)	ルーティングされる出荷の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能な、保留以外のオーダーを表すレコードの数になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 221. 出荷のルーティング・トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	YDM_ROUTE_SHIPMENT.ON_SUCCESS.xml	あり
ON_FAILURE	shipment_dbd.txt	YDM_ROUTE_SHIPMENT.ON_FAILURE.xml	あり

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON\_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

## スケジュール

このトランザクションは、オーダーを特定の出荷ノードに対してスケジュールし、スケジュール済み出荷ノードでオーダーを処理するための十分な在庫があるようにします。

オーダー作成後にこのトランザクションを実行します。

個別のスケジュール・エージェントまたはリリース・エージェントは、組み合わされた「スケジュールおよびリリース」エージェントの実行中は実行しないでください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 222. スケジュールの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SCHEDULE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
呼び出される API (APIs Called)	scheduleOrder()

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 223. スケジュールの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
最大レコード数 (MaximumRecords)	スケジュール・エージェントが検出可能で、考えられるソリューションの最大数を判別します。このパラメーターにより、検出される最適なソリューションが改善される可能性があります。このエージェントのパフォーマンスにも影響を及ぼします。  これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5 に設定されます。
最適化タイプ (OptimizationType)	オプション。スケジューリング処理に適用する最適化ルールを決定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 01 - 日付で最適化 (デフォルト)</li> <li>• 02 - 出荷ノードの優先順位で最適化</li> <li>• 03 - 出荷数で最適化</li> </ul>
フィルターするオーダー (OrderFilter)	オプション。フィルターするオーダー・タイプを決定します。指定できる値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• A - 全オーダー (デフォルト)</li> <li>• B - バックオーダーのみ</li> <li>• N - 新規オーダーのみ</li> </ul>
スケジュールおよびリリース (ScheduleAndRelease)	オプション。スケジュール・プロセスに対してリリース可能なすべての明細数量をリリースするように通知します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - スケジュール済み明細数量を正常にリリースします。</li> <li>• N - デフォルト値。明細数量のスケジュールのみ行います。</li> </ul> <p>このパラメーターを使用可能にすると、リリース・トランザクションに構成される保留タイプは妥当性検査されません。</p>
リリース日付を無視 (IgnoreReleaseDate)	オプション。スケジュール・プロセスが明細のリリース日付条件を無視するかどうかを決定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - リリース日付条件にかかわらず明細数量をリリースします。</li> <li>• N - リリース日付条件が満たされた後でのみ、明細数量をリリースします。これがデフォルトです。</li> </ul>
次のタスク・キュー間隔	未使用。このエージェントは、失敗したタスクを更新し、適切にスケジュールされたルール内のバック・オーダー再試行間隔セットアップに対して保留になるようにします。

表 223. スケジュールの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 224. スケジュールの統計

統計の名前	説明
将来の日付エラー数 (NumFutureDateFailures)	<p>将来の日付エラーが原因で、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がスケジュールを試行しなかったオーダーの数。</p> <p>エラーは、以下のいずれかが原因である可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>OrderFilter が「B」(バックオーダーのみ) でバックオーダー済み明細およびスケジュール解除明細がない場合。</li> <li>OrderFilter が「N」(新規オーダーのみ) でバックオーダー済み明細またはスケジュール解除明細がいくつかある場合。</li> <li>オーダーに、バックオーダー済みステータスまたはスケジュール解除ステータスのみのオーダー明細があり、ステータス変更タイム・スタンプが現在時刻からスケジューリング・ルールに指定されるバック・オーダー待機期間を減算した日時よりも後の場合。</li> </ul>
試行されたオーダー数 (NumOrdersAttempted)	スケジュールを試行したオーダーの数。この統計には、NumFutureDateFailures 統計および NumOrdersCannotBeProcessedFailures 統計の値は含まれません。
リリースされたオーダー明細数 (NumOrderLinesReleased)	リリースされたオーダー明細の数。

表 224. スケジュールの統計 (続き)

統計の名前	説明
処理できなかったオーダー数 (NumOrdersCannotBeProcessed Failures)	<p>処理をできないエラーが原因で、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がスケジュールを試行しなかったオーダーの数。</p> <p>エラーは、以下のいずれかが原因である可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• YFSCheckOrderBeforeProcessingUE 外部プログラムの結果が false として戻される。</li> <li>• オーダーの HoldFlag 属性に「Y」が設定される。</li> <li>• オーダーの SaleVoided 属性に「Y」が設定される。</li> <li>• オーダーの PaymentStatus が、「承認済み」、「請求済み」、「支払済み」、および「該当せず」のいずれでもない。</li> </ul>
作成されたオーダー数 (NumOrdersCreated)	作成されたオーダーの数。これには、作成された調達オーダーの数も含まれます。
作成されたオーダー明細数 (NumOrderLinesCreated)	作成されたオーダー明細の数。
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
スケジュールされた明細数 (NumOrdersScheduled)	<p>スケジュールされた明細が少なくとも 1 つはあるオーダーの数。</p> <p>これには、「バック・オーダー」を除くあらゆるステータスのスケジュール済み明細が含まれます。</p>
作成された調達オーダー数 (NumOrdersProcOrdersCreated)	作成された調達オーダーの数。
作成された作業オーダー数 (NumWorkOrdersCreated)	作成された作業オーダーの数。
バックオーダーされたオーダー数 (NumOrdersBackordered)	バックオーダーされたオーダーの数。
スケジュールされたオーダー明細数 (NumOrderLinesScheduled)	スケジュールされたオーダー明細の数。
バックオーダーされたオーダー明細数 (NumOrderLinesBackordered)	バックオーダーされたオーダー明細の数。
作成されたオーダー・リリース数 (NumReleasesCreated)	作成されたオーダー・リリースの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能な、保留以外のオーダーを表すレコードの数になります。保留中の各タスクの処理準備ができていないことが条件になります。

## 発生するイベント

このトランザクションは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `scheduleOrder()` API で指定されるイベントを発生させます。

## Oracle ヒントの指定

Oracle ヒントを指定して、`scheduleOrder` エージェントのパフォーマンスを向上させることができます。`scheduleOrder` エージェントのそれぞれの条件 ID に指定できるヒントは、外部ヒントおよび内部ヒントの 2 つです。外部ヒントは、`YFS_TASK_Q` テーブルで必ず使用されます。内部ヒントは、初期の保留機能が使用される場合のみ、`YFS_ORDER_HEADER` テーブルで使用されます。それ以外の場合、内部ヒントは、`YFS_ORDER_RELEASE_STATUS` テーブルで使用されます。

Oracle ヒントを使用可能にするには、以下のエントリを `yfs.properties` ファイルに挿入します。

1. `<INSTALL_DIR>/properties/yfs.properties` ファイルを編集します。
2. `yfs.<agent_criteria_id>.getjobs.hint.outer=/** parallel(YFS_TASK_Q 8) full(yfs_task_q) */` を挿入します。  
  
`yfs.<agent_criteria_id>.getjobs.hint.inner=/** NL_SJ */` を挿入します。

## インボイスの送付

このトランザクションは、外部の売掛システムに送信できるインボイス・データを公開します。

売掛システムとのインターフェースを必要とする環境では、このトランザクションをスケジュールに入れる必要があります。このトランザクションは、インボイス向けのイベントの発生を、以下の構成に基づきオーダー・ライフサイクルの次のタイミングで行います。

- 出荷作成時にインボイス発行 - これは、ご使用の買掛システムが支払集金を行うことを示します。インボイスは、作成されると即時に発行できます。
- 支払集金後にインボイス発行 - これは、コンソールで支払集金を行うことを示します。支払いが `AT_COLLECT` ステータスにあり、支払いが外部システムからは行われない場合、すべての支払い金額が集金済みのときのみインボイスが発行されます。支払いが `AT_CREATE` ステータス、または支払いが外部システムから行われる場合、インボイスは無条件に発行されます。

このトランザクションの要素および属性の多くは、テンプレート駆動型です。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 225. インボイスの送付の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_INVOICE

表 225. インボイスの送付の属性 (続き)

属性	値
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	getOrderInvoiceDetails()

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 226. インボイスの送付の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 227. インボイスの送付の統計

統計の名前	説明
送信されたインボイス数 (NumInvoicesSent)	送信されたインボイスの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、作成済み (「00」) ステータスのオーダー・インボイスの数です。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 228. インボイスの送付トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
<b>PUBLISH_INVOICE_DETAIL</b>	modifyOrder_dbd.txt および sendInvoice_dbd.txt	YFS_getOrderInvoice Details_output.xml	あり

追加のイベントが `getOrderInvoiceDetails()` API により発生することがあります。イベントについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」のこの API で提供される詳細情報を参照してください。

## アイテム変更の送信

統合環境においてこのトランザクションは、外部システムに送信されるアイテム・データの変更を公開します。

アイテム変更が *Sterling Selling and Fulfillment Foundation* で発生すると、アイテム変更を外部システムに送信する必要があります。

ビジネス・プロセスでは、すべてのアイテムの同期をバッチにより一度に行うことが必要な場合があります。例えば、`sendItemChanges` エージェントを構成して、アイテムを、各営業日の終わりに同期ロジックに基づき同期化するようにできます。このトランザクションは、論理キット・アイテムでも動的物理キット・アイテムでもないすべてのアイテムを抽出します。また、`SyncTS` が `NULL` か `MaxModifyTS` が `SyncTS` より大きいすべてのアイテムを抽出します。

アイテムの `MaxModifyTS` は、アイテムが変更されるたびに現在のタイム・スタンプを使用して更新されます。次に、トランザクションはそれらのアイテムに関する詳細情報を取得し、`ON_SUCCESS` イベントを発生させます。このイベントは、「アイテム変更を送信」アクションの起動のために構成する必要があります。

この統合の実装方法について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合ガイド*」を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 229. アイテム変更の送信の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_ITEM_CHANGES
基本伝票種別	なし (None)

表 229. アイテム変更の送信の属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 230. アイテム変更の送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
組織コード	オプション。アイテムの同期の基になる組織。このフィールドは空欄がデフォルトです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、同期を必要とするアイテムの数です。これは、論理キット・アイテムでも動的物理キット・アイテムでもないすべてのアイテムを算出します。また、SyncTS が NULL か MaxModifyTS が SyncTS より大きいアイテムを算出します。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 231. アイテム変更の送信トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	なし (None)	YCM_SEND_ITEM_CHANGES_ON_SUCCESS.XML	あり

## 顧客変更の送信

統合環境においてこのトランザクションは、外部システムに送信される顧客変更データを公開します。

顧客変更が Sterling Selling and Fulfillment Foundation で発生すると、顧客変更を外部システムに送信する必要があります。

ビジネス・プロセスでは、顧客の同期をバッチにより一度に行うことが必要な場合があります。例えば、sendItemChanges エージェントを構成して、アイテムを、各営業日の終わりに同期ロジックに基づき同期化するようにできます。このトランザクションは、ユーザー ID を現在有するコンシューマーであり、同期化を必要とするすべての顧客を抽出します。また、このトランザクションは、2 つのシステム間でユーザーの初期の同期を実行するのにも使用できます。例えば、外部システムが既に存在しており、Sterling Selling and Fulfillment Foundation が追加される場合、SendCustomerChanges エージェントは外部システムのユーザーを同期化します。

sendCustomerChanges エージェントは、バックアップ手段としても機能します。顧客の同期イベントが失敗した場合、エージェントは、指定された時間の経過後に自動的に同期を再試行します。

顧客の MaxModifyTS の更新は、顧客が変更される場合と syncTS が MaxModifyTS より小さい場合には常に、現在のタイム・スタンプを使用して行われ、また syncTS が NULL の場合にも現在のタイム・スタンプを使用して行われます。次に、トランザクションはそれらの顧客に関する詳細情報を取得し、ON\_SUCCESS イベントを発生させます。このイベントは、顧客変更の送信アクションを起動するために構成する必要があります。

この統合の実装方法について詳しくは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合ガイド」を参照してください。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 232. 顧客変更の送信の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_CUSTOMER_CHANGES
基本伝票種別	なし (None)
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 233. 顧客変更の送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
組織コード	オプション。顧客の同期の基になる組織。このフィールドは空欄がデフォルトです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、同期を必要とする顧客の数です。これは、コンシューマーであり、ユーザー ID を現在有し、さらに同期化を必要とする、顧客について算出されます。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 234. 顧客変更の送信トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
SEND_CUSTOMER_CHANGES.ON_SUCCESS	なし (None)	YSC_SEND_CUSTOMER_CHANGES.ON_SUCCESS.XML	あり

## オーダーの送信

このトランザクションは、OrderHeaderKey がタスク・キュー・オブジェクトに格納されるオーダーに関して、ON\_SUCCESS イベントを発生するように試行します。イベントが発生するのは、オーダーのすべてのオーダー明細が特定のステータス (複数の場合あり) に完全に達するときのみです。つまり、明細ごとの ORDERED\_QTY 全体が特定のステータス (複数の場合あり) になる必要があります。イベントの発生に加え、明細のステータスもドロップ・ステータスに変更されて、ピックアップ・ステータスに対応します。抽象化トランザクション SEND\_ORDER から派生する

SendOrder トランザクションでは、イベント、ピックアップ、およびドロップの各ステータスを構成する必要があります。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `sendOrder()` API で提供される詳細情報を参照してください。

オーダーでサード・パーティーとの通信が必要な場合は、このトランザクションを使用します。

タスク・オブジェクトにポストされる `TransactionKey` は、オーダーに関連付けられる `ProcessType` の抽象化トランザクション `SEND_ORDER` のインスタンスであることが必要です。それ以外の場合、例外がスローされます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 235. オーダーの送信の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_ORDER
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>sendOrder()</code>

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 236. オーダーの送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

このトランザクションは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs」の sendOrder() API で指定されるイベントを発生させます。

## リリースの送信

リリースの送信エージェントは、リリースを出荷ノードにディスパッチします。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 237. リリースの送信の属性

属性	値
トランザクション名	リリースの送信
トランザクション ID	SHIP_ADVICE
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	com.yantra.yfs.agent.YFSWMSShipAdviceAgent

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 238. リリースの送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 239. リリースの送信の統計

統計の名前	説明
処理されたりリース数 (NumReleasesProcessed)	処理されたオーダー・リリースの数。
送信されたりリース数 (NumReleasesSent)	送信されたオーダー・リリースの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 240. リリースの送信トランザクションで発生するイベント

トランザクションイベント	公開されるデータ
PUBLISH_SHIP_ADVICE	YFS_publishShipAdvice_output.xml

## オーダー開始交渉

このトランザクションは、交渉プロセスを経るよう構成される、オーダーの交渉を作成します。

このトランザクションは、オーダーが、リリース前に交渉フェーズを経る必要のある環境で使用します。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 241. オーダー開始交渉の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	START_ORD_NEGOTIATION
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	createNegotiation()
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YCPBeforeCreateNegotiationUE、YCPGetNegotiationNoUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 242. オーダー開始交渉の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
ノード	必須。レコードが処理される倉庫管理出荷ノードです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 243. オーダー開始交渉の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
作成された交渉数 (NumNegotiationsCreated)	作成された交渉の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

このトランザクションは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs」の createNegotiation() API で指定されるイベントを発生させます。

## コロニー・マップの同期化

コロニー・マップ・シンクロナイザー・エージェントは、PLT\_COLONY\_MAP テーブル内の組織およびユーザーのコロニー・マップの挿入または更新を行います。エージェントを最初に実行する場合、エージェントはこのテーブルにデータを入れま

す。これは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のインストール後および更新後、マルチ・スキーマ・モードにアップグレードする際に必要なステップです。

マルチ・スキーマ・モードへのアップグレードについては、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Multi-Tenant Enterprise Guide*」を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 244. コロニー・マップ・シンクロナイザーの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	COLONY_MAP_SYNC
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 245. コロニー・マップ・シンクロナイザーの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	同期されるコロニー。  エージェントが PLT_COLONY_MAP テーブルにデータを設定するように、Sterling Selling and Fulfillment Foundation インストール済み環境に備わっているデフォルトのコロニーで、最初にエージェントを実行する必要があります。この後に、別の ColonyID でエージェントを実行できます。
InsertDefaultMappings	「Y」が設定されている場合、コロニーが特定できないユーザーは、コロニー・マップ・シンクロナイザー・エージェント実行対象のコロニーにマッピングされます。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

なし。

## ベスト・マッチ地域の更新

ベスト・マッチ地域の更新トランザクションは、YFS\_REGION\_BEST\_MATCH テーブルを管理し、このテーブルは、ベスト・マッチ地域データをレポートするデータウェアハウス分析で使用されます。ベスト・マッチ地域は、個人情報レコード内の以下の 5 つの住所属性により定義されます。

- ADDRESS\_LINE6
- CITY
- 都道府県 (STATE)
- SHORT\_ZIP\_CODE
- COUNTRY

ベスト・マッチ地域の更新トランザクション用のエージェントは、2 つのモードで稼働します。このモードを使用して、YFS\_REGION\_BEST\_MATCH テーブルのセットアップおよび更新を行うことができます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 246. ベスト・マッチ地域の更新の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	UPDATE_BEST_MATCH_REGION
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YSCGetShortZipCode UE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 247. ベスト・マッチ地域の更新の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 UpdateOnly = N の場合、エージェントを呼び出すごとに特定のレコードのみ戻されます。空欄のままにすると、デフォルトは 1000 です。
テーブル・タイプ (TableType)	YFS_Person_Info テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。  有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。  CONFIGURATION が設定される場合、エージェントは、TableType が CONFIGURATION のテーブルに関連付けられる YFS_Person_Info レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Organization、YFS_Ship_Node などです。  TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が TRANSACTION のテーブルに関連付けられる YFS_Person_Info レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Order_Header、YFS_Shipment などです。  エージェントは、渡されるスキーマと同じスキーマ内に存在するすべての TableType に対して実行される点に注意してください。例えば、TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が同じスキーマ内にあるため、TableType が MASTER のテーブルに関連付けられる YFS_Person_Info レコードに対しても実行されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_PERSON_INFO テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。
UpdateOnly	実行モード。有効な値は、以下のとおりです。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• N - デフォルト値。レコードを YFS_PERSON_INFO テーブルから YFS_REGION_BEST_MATCH テーブルに追加し、地域キーを YFS_BEST_MATCH テーブルに入れます。分析用にベスト・マッチ地域の初期セットアップを実行するには、UpdateOnly に N を設定します。</li> <li>• Y - 更新モード。地域キーを YFS_REGION_BEST_MATCH 内の住所に基づき更新します。分析用にベスト・マッチ地域の初期セットアップを実行後、この値に Y を設定して更新モードを指定します。</li> </ul>
LastPersonInfoKey	オプション。UpdateOnly に N が設定される場合、LastPersonInfoKey は、最初に入れる個人情報レコードを決定します。キーが指定されない場合、デフォルト値は Null です。

表 247. ベスト・マッチ地域の更新の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
<b>LastRegionBest MatchKey</b>	オプション。UpdateOnly に Y が設定される場合、LastRegionBestMatchKey は、更新する最初の地域ベスト・マッチ・キーを決定します。キーが指定されない場合、デフォルト値は Null です。

### 追跡対象の統計

なし。

### 保留中のジョブの数

なし。

### 発生するイベント

なし。

### ページされるテーブル

なし。

## 所有権転送サマリーの読み込み

このメソッドは、YFS\_OWNERSHIP\_TRANSFER\_SUMMARY テーブルを更新します。

このトランザクションは、YFS\_INV\_OWN\_TRANSFER\_RCD テーブル内のレコードをチェックすることによって、YFS\_OWNERSHIP\_TRANSFER\_SUMMARY テーブルを更新します。

また、このトランザクションによってレコードが使用された後、YFS\_INV\_OWN\_TRANSFER\_RCD テーブル内の IS\_STATISTICS\_UPDATED を「Y」に更新します。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 248. 「YFS 所有権転送の読み込み (YFSPopulateOwnershipTransfer)」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	POPULATE_OWN_TRANS_SUMM
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 249. 「YFS 所有権転送の読み込み (YFSPopulateOwnershipTransfer)」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_OWNERSHIP_TRANSFER_SUMMARY テーブルおよび YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし (None)

保留中のジョブの数

なし (None)

発生するイベント

なし (None)

---

## 時間トリガー・ページ・トランザクション

一定の時間間隔でデータベース表をページするために使用できる、いくつかのトランザクションがあります。

ページ・トランザクションは、現在日付を判別し、ページに指定された保持日数を差し引くことで、表をページする時を決定します。表のタイム・スタンプが「現在日付から保持日数を差し引いた日付」を経過していれば、表はページされます。

場合によっては、ページが表のタイム・スタンプ以外の別のフィールドを参照することもあります。これらは資料内で示されています。

エンティティーがページされる場合、他の表に存在する関連情報または従属情報を一緒にページするかを考慮する必要があります。例えば、ライブ出荷があるオーダーがページされると、オーダー出荷コンソール内のそのオーダーの相互参照は不正確になります。

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の次のリリースで変更される可能性があります。

すべての時間トリガー・ページ・トランザクションには、CollectPendingJobs 条件パラメーターがあります。このパラメーターが「N」に設定されている場合、エージェントは、その時間トリガー・トランザクションの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

デフォルトでは、CollectPendingJobs は「Y」に設定されます。1 つの特定の時間トリガー・トランザクションがかなりの量の getPendingJobs 照会を実行している場合、オーバーヘッド・コストが高すぎるため、これを「N」に設定することが有益なことがあります。

## ページ方法

各ページ・トランザクションに対してページ方法を計画するには、以下の推奨事項を考慮に入れる必要があります。

- 「ライブ」を「N」に設定して、ページをテストします。
- ページ内容をテストするためにロギングをオンにします。
- System Management Console でページ・トレースをセットアップし、情報を分析します。

## ページ・トランザクション・ログ・ファイルの構成

### このタスクについて

ページを構成して、指定するディレクトリーにログ・ファイルを書き込むことができます。特定のページを実行するたびに、新規データがこのファイルに追加されます。ファイルが存在しない場合、作成されます。

ページ・ログ・ファイル・ディレクトリーを指定するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. yfs.purge.path プロパティーを <INSTALL\_DIR>/properties/customer\_overrides.properties ファイルに構成します。例えば、UNIX では、ログ・ファイルが /app/yfs/logs/purges ディレクトリーに書き込まれるように指定できます。  
  
customer\_overrides.properties ファイルを使用したプロパティーのオーバーライドについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティー・ガイド』を参照してください。
2. UNIX で <INSTALL\_DIR>/bin/setupfiles.sh スクリプトを実行するか、Windows で <INSTALL\_DIR>/bin/setupfiles.cmd スクリプトを実行します。

## 使用可能なページ

このセクションでは、すべてのページ・トランザクションの詳細を英字順に記載しています。

## アクセス・トークン・ページ

このページは、アクセス・トークンをシステムから削除します。以下の条件がすべて満たされる場合、PLT\_ACCESS\_TOKEN テーブルからページ対象が選択されます。

- アクセス・トークンが期限切れか、非アクティブ状態にある。
- 最終変更日時が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付以前である。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 250. 「アクセス・トークン・ページ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ACCESSTOKPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 251. 「アクセス・トークン・ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、内のモニターのモニタリングに使用されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li><li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li></ul>

表 251. 「アクセス・トークン・ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 252. 「アクセス・トークン・ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたアクセス・トークン数 (NumAccessTokenPurged)	ページされたアクセス・トークンのレコード数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、PLT\_ACCESS\_TOKEN テーブルからページできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

PLT\_ACCESS\_TOKEN

## キャパシティー・ページ

このページは、システムからキャパシティー・データを削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、ページ対象のキャパシティー・データが選択されます。

- すべてのリソース・プールの標準キャパシティー期間の有効終了日が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付と等しいか古い。
- すべてのリソース・プールのオーバーライド済みキャパシティーの日付が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付と等しいか古い。
- すべてのリソース・プールのキャパシティー消費の日付が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付と等しいか古い。
- すべてのリソース・プールのキャパシティー消費の詳細情報において、予定日が、システム日付からページ条件の保持日数 (手動で作成された予約の場合は「手動予約のページ・リード日数 (ManualReservationPurgeLeadDays)」) を引いた日付よりも古い。

- すべてのリソース・プールのキャパシティー消費の詳細情報において、有効期限が過ぎており、予約 ID が空欄ではない。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 253. 「キャパシティー・パージ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CAPACITYPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 254. 「キャパシティー・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 255. 「キャパシティー・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた標準キャパシティー期間数 (NumStdCapacityPeriodsPurged)	パージされた標準キャパシティー期間の数。
パージされたキャパシティー・オーバーライド数 (NumCapacityOverridesPurged)	パージされたキャパシティー・オーバーライドの数。
パージされたキャパシティー消費数 (NumCapacityConsumptionsPurged)	パージされたキャパシティー消費の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_RES\_POOL\_STD\_CAPCTY\_PERD、YFS\_RES\_POOL\_CAPCTY\_OVERRIDE、YFS\_RES\_POOL\_CONSMPTN\_DTLS、およびYFS\_RES\_POOL\_CAPCTY\_CONSMPTN の各テーブルからパージできるレコードの総数です。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_RES\_POOL\_STD\_CAPCTY\_PERD テーブルは、EFFECTIVE\_TO\_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合にパージされます。

YFS\_RES\_POOL\_CAPCTY\_OVERRIDE テーブルは、CAPACITY\_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合にパージされます。

YFS\_RES\_POOL\_CAPCTY\_CONSMPTN テーブルは、CONSUMPTION\_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合、または手動で予約された場合は、CONSUMPTION\_DATE <= (現在日付 - 手動予約の保持日数) の場合にパージされます。このテーブルがパージされると、YFS\_RES\_POOL\_CONSMPTN\_DTLS もパージされます。

YFS\_RES\_POOL\_CONSMPTN\_DTLS テーブルは、RESERVATION\_EXPIRATION\_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合にパージされます。

## ドラフト・オーダー履歴パージ

このパージは、指定された時間間隔の後に、履歴テーブルからデータを削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルへの負荷が低減します。

ページ・コードの疑似論理を使用して、ページを分析することができます。以下の条件が満たされる場合、履歴をページするためにドラフト・オーダーが選択されま

- 最後に変更されたドラフト・オーダーの日付が、保持日数の期間を過ぎている。

コンソールを使用しているすべてのエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジュールする必要があります。

明細タイプに基づいた追加ページ条件については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 分散オーダー管理 構成ガイド」を参照してください。

**注:** ドラフト・オーダーをページして履歴テーブルに移動してから、ドラフト・オーダー履歴テーブルをページする必要があります。497 ページの『ドラフト・オーダー・ページ』を参照してください。

*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* では、ドラフト・オーダー履歴をページするトランザクションは提供されていません。ドラフト・オーダー履歴テーブルをページするトランザクションを定義する場合、トランザクション条件に関する以下の条件パラメーターのセクションを参照してください。

ドラフト・オーダー履歴テーブルをページする独自のトランザクションを定義しない場合、「オーダー・ページ」トランザクションを使用してページ・コード `DRAFTORDERHISTPRG` を指定することができます。ドラフト・オーダー履歴テーブルをページするための「オーダー・ページ」トランザクションを構成するには、531 ページの『オーダー・ページ』で詳細を参照してください。

## 条件パラメーター

ドラフト・オーダー履歴トランザクションを定義するための条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 256. 「ドラフト・オーダー履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	必須。「ドラフト・オーダー履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。資格を満たすレコードを、「ページされるテーブル」に記載された履歴テーブルから削除します。</li> <li>• N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。</li> </ul>

表 256. 「ドラフト・オーダー履歴パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。DRAFTORDERHISTPRG に設定します。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

### 追跡対象の統計

なし。

### 発生するイベント

なし。

### パージされるテーブル

YFS\_ANSWER\_SET\_TRAN\_H

YFS\_ANSWER\_TRAN\_H

YFS\_CHARGE\_TRAN\_DIST\_H

YFS\_CHARGE\_TRANSACTION\_H

YFS\_CREDIT\_CARD\_TRANSACTION\_H

YFS\_ENTITY\_ADDRESS\_H

YFS\_HEADER\_CHARGES\_H

YFS\_INSTRUCTION\_DETAIL\_H

YFS\_INVOICE\_COLLECTION\_H

YFS\_LINE\_CHARGES\_H

YFS\_NOTES\_H

YFS\_ORDER\_AUDIT\_DETAIL\_H

YFS\_ORDER\_AUDIT\_H

YFS\_ORDER\_AUDIT\_LEVEL\_H

YFS\_ORDER\_DATE\_H

YFS\_ORDER\_HEADER\_H

YFS\_ORDER\_HOLD\_TYPE\_H

YFS\_ORDER\_HOLD\_TYPE\_LOG\_H  
YFS\_ORDER\_INVOICE\_DETAIL\_H  
YFS\_ORDER\_INVOICE\_H  
YFS\_ORDER\_KIT\_LINE\_H  
YFS\_ORDER\_KIT\_LINE\_SCHEDULE\_H  
YFS\_ORDER\_LINE\_H  
YFS\_ORDER\_LINE\_OPTION\_H  
YFS\_ORDER\_LINE\_REQ\_TAG\_H  
YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE\_H  
YFS\_ORDER\_PROD\_SER\_ASSOC\_H  
YFS\_ORDER\_RELEASE\_H  
YFS\_ORDER\_RELEASE\_STATUS\_H  
YFS\_ORDER\_SER\_PROD\_ITEM\_H  
YFS\_PAYMENT\_H  
YFS\_PROMOTION\_AWARD\_H  
YFS\_PROMOTION\_H  
YFS\_RECEIVING\_DISCREPANCY\_DTL\_H  
YFS\_RECEIVING\_DISCREPANCY\_H  
YFS\_REFERENCE\_TABLE\_H  
YFS\_TAX\_BREAKUP\_H

## **ドラフト・オーダー・ページ**

このページは、指定された時間間隔の後に、履歴テーブルにデータを保存します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルへの負荷が低減します。履歴テーブルからのドラフト・オーダーのページについて詳しくは、494 ページの『ドラフト・オーダー履歴ページ』を参照してください。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、ドラフト・オーダー・ページ用のトランザクションは提供されていません。ドラフト・オーダーをページするトランザクションを定義する場合、トランザクション条件に関する以下の条件パラメーターのセクションを参照してください。

ドラフト・オーダーをページする独自のトランザクションを定義しない場合、「オーダー・ページ」トランザクションを使用してページ・コード DRAFTORDERPRG

を指定することができます。ドラフト・オーダー・ページ用の「オーダー・ページ」トランザクションを構成するには、531 ページの『オーダー・ページ』で詳細を参照してください。

コンソールを使用しているすべてのエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジュールする必要があります。

ドラフト・オーダーは、以下の条件が満たされる場合に、検証用のエージェントによって選択されます。

- ドラフト・オーダー・フラグが、Y に設定されている。
- 変更時のタイム・スタンプが、保存日付に対して設定されている。

ドラフト・オーダーの選択後、以下の条件に基づいて、各ドラフト・オーダーのページについて妥当性が検証されます。

- オーダーに、資格を満たすオーダー・リリース・ステータス・レコード (ゼロより大きなステータスを持つレコード) が存在しない。
- オーダーの未完了の子オーダー (派生、連鎖、返品、交換、または返金フルフィルメント) が既にすべてページされている。

ドラフト・オーダーが上記の一連の検証条件を満たす場合、エージェントは以下の条件について引き続きドラフト・オーダーを検証します。

- 「ドラフト作成済み」ステータス (1000) およびすべての拡張「ドラフト作成済み」ステータスが含まれる。
- 保持日数に適合しないオーダー・リリース・ステータス・レコードが含まれない。
- オーダーの最後の変更が、リード・タイム (日単位) 設定よりも前である。
- 交換オーダーが返品オーダーの一部である場合、返品オーダーをページする前に交換オーダーが履歴テーブルからページされている。
- オーダー明細予約の場合、ドラフト・オーダーのページは不可。
- 「ドラフト・オーダー支払処理 (Draft Order Payment Processing)」フラグが N に設定されている場合、ドラフト・オーダーはページされる。
- 「ドラフト・オーダー支払処理 (Draft Order Payment Processing)」フラグが Y に設定され、ドラフト・オーダーに料金が存在する場合、ドラフト・オーダーはページされない。ただし、ドラフト・オーダーのページを検証する場合、承認は考慮されない。
- オーダー明細の場合、以下のサービス・オーダー明細は除外されます。
  - セラーの在庫更新が必要で、「ステータス在庫のタイプ」の「セラーの供給を更新する」オプションがオンに設定され、「セラー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄の場合。(「セラー供給タイプ」は、「手持ちの供給」チェック・ボックスが使用可能なカスタム・セラー供給タイプでも可。)
  - 「セラー需要タイプ」が空欄の場合。
  - バイヤーの在庫更新が必要で、「バイヤー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄の場合。

## 条件パラメーター

「ドラフト・オーダー・ページ」トランザクションを定義するための条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 257. 「ドラフト・オーダー・ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクの再処理を検討するまでの中断期間を、時間単位で指定します。デフォルトは 5 時間です。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	必須。「ドラフト・オーダー・ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。  エンタープライズ・コードが空欄の場合、デフォルト・エンタープライズに対して構成されたページ条件が使用され、ドラフト・オーダーのエンタープライズに対して構成されたページ条件は使用されません。
タイプ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。DRAFTORDERPRG に設定します。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_ACTIVITY\_DEMAND

YFS\_ANSWER\_SET\_TRAN

YFS\_ANSWER\_TRAN  
YFS\_CHARGE\_TRANSACTION  
YFS\_CHARGE\_TRAN\_DIST  
YFS\_CREDIT\_CARD\_TRANSACTION  
YFS\_ENTITY\_ADDRESS  
YFS\_HEADER\_CHARGES  
YFS\_INSTRUCTION\_DETAIL  
YFS\_INVOICE\_COLLECTION  
YFS\_LINE\_CHARGES  
YFS\_MONITOR\_ALERT  
YFS\_NOTES  
YFS\_ORDER\_AUDIT  
YFS\_ORDER\_AUDIT\_DETAIL  
YFS\_ORDER\_AUDIT\_LEVEL  
YFS\_ORDER\_HEADER  
YFS\_ORDER\_HOLD\_TYPE  
YFS\_ORDER\_HOLD\_TYPE\_LOG  
YFS\_ORDER\_INVOICE  
YFS\_ORDER\_INVOICE\_DETAIL  
YFS\_ORDER\_KIT\_LINE  
YFS\_ORDER\_KIT\_LINE\_SCHEDULE  
YFS\_ORDER\_LINE  
YFS\_ORDER\_LINE\_OPTION  
YFS\_ORDER\_LINE\_REQ\_TAG  
YFS\_ORDER\_LINE\_RESERVATION  
YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE  
YFS\_ORDER\_LINE\_SRC\_CNTRL  
YFS\_ORDER\_PROD\_SER\_ASSOC

YFS\_ORDER\_RELEASE  
YFS\_ORDER\_RELEASE\_STATUS  
YFS\_ORDER\_SER\_PROD\_ITEM  
YFS\_ORDER\_DATE  
YFS\_PAYMENT  
YFS\_PMNT\_TRANS\_ERROR  
YFS\_PROMOTION  
YFS\_PROMOTION\_AWARD  
YFS\_RECEIVING\_DISCREPANCY  
YFS\_RECEIVING\_DISCREPANCY\_DTL  
YFS\_REFERENCE\_TABLE  
YFS\_TAX\_BREAKUP

### **配達計画のパージ (Delivery Plan Purge)**

配達計画が通常のライフサイクルを完了した場合、このパージによって配達計画を削除します。配達計画に関連付けられたすべての集合・混載と出荷をパージしてから、このパージ・エージェントを実行する必要があります。

条件パラメーターで指定された保持日数を超える期間「完了」のマークが付けられていた配達計画、および、どの出荷、集合・混載も含まない配達計画が、すべてパージされます。設定されたリード・タイム (日単位) より前に、オーダーを履歴に移動しておく必要があります。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、配達計画がパージ対象として選択されます。

- 配達計画が「完了」ステータスにある。
- 配達計画が、どの集合・混載、出荷にも関連付けられていない。
- 配達計画に関連付けられたすべてのオーダーが、パージされている。
- 配達計画に対して最後に行われた変更が、設定されたリード・タイム (日単位) より前である。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 258. 「配達計画のバージ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	DELIVERYPLANPRG
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 259. 「配達計画のバージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「配達計画のバージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、バージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
バージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・バージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「バージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。レコードがバッチ処理で削除されます。</li> <li>• N - レコードは 1 件ずつ削除されます。</li> </ul>

表 259. 「配達計画のパージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	YFS_DELIVERY_PLAN テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 260. 「配達計画のパージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた配達計画数 (NumDeliveryPlansPurged)	パージされた配達計画の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_DELIVERY\_PLAN テーブルからパージできるレコードの数です。

7 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_DELIVERY\_PLAN

## エクスポート・テーブルのパージ (Export Table Purge)

このパージは、システムからエクスポート・テーブルのデータを削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、パージ対象として YFS\_EXPORT テーブルから選択されます。

- YFS\_EXPORT レコードに、処理済み (ステータス = 10) のマークが付けられている。
- 最後に変更された時刻が、リード・タイム (日単位) 設定よりも前である。  
このパージは、ハブで定義されたルールのみを読み取ります。エンタープライズによってオーバーライドされたルールは、考慮されません。このパージは、バッチ削除モード (バッチ削除 (BatchDelete)=Y) で実行された場合、単一スレッド化されます。

アプリケーション・コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジュールする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 261. 「エクスポート・テーブルのパージ (Export Table Purge)」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	EXPORTTBLPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 262. 「エクスポート・テーブルのパージ (Export Table Purge)」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li><li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li></ul>
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - レコードがバッチ処理で削除されます。</li><li>• N - デフォルト値。レコードは 1 件ずつ削除されます。</li></ul>
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

表 262. 「エクスポート・テーブルのページ (Export Table Purge)」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	YFS_EXPORT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 263. 「エクスポート・テーブルのページ (Export Table Purge)」の統計

統計の名前	説明
ページされたエクスポート数 (NumExportsPurged)	ページされたエクスポートの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Export テーブルからページできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_EXPORT

## インポート・テーブル・ページ

このページは、インポート・テーブル・データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、YFS\_IMPORT テーブルがページ対象としてピックアップされます。

- YFS\_IMPORT レコードが「処理済み」としてマークされている (Status = "10")。
- 「最終変更時刻」がリード・タイム設定 (日単位) より前である。  
このページは、ハブで定義されたルールのみを読み取ります。エンタープライズによってオーバーライドされたルールは、考慮されません。このページは、バッチ削除モード (バッチ削除 (BatchDelete)=Y) で実行された場合、単一スレッド化されます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 264. 「インポート・テーブル・パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	IMPORTTBLPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 265. 「インポート・テーブル・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - レコードがバッチ処理で削除されます。</li> <li>• N - デフォルト値。レコードは 1 件ずつ削除されます。</li> </ul>
パージ・コード	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

表 265. 「インポート・テーブル・パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID	YFS_IMPORT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 266. 「インポート・テーブル・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされたインポート数 (NumImportsPurged)	パージされたインポート・テーブルの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Import テーブルからパージできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_IMPORT

## 在庫監査パージ

このパージは、在庫監査データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

現在日付からパージ条件の保持日数を引いた日付より前の変更時のタイム・スタンプを持つ、指定された組織のすべての在庫監査を、「在庫監査パージ」でピックアップされるように構成できます。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、在庫監査レコードはパージ対象としてピックアップされます。

- 在庫監査レコードの最終変更日時が、現在のタイム・スタンプから保持日数を引いた日時よりも前である。

このパージのエージェント条件の詳細のスレッド数が 1 に設定されている必要があります。エージェント条件について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

「在庫監査パージ」は、そうするように構成されていた場合でも、過去 60 日以内のレコードはパージしません。

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 267. 「在庫監査ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORYAUDITPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 268. 「在庫監査ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「在庫監査ページ」を実行する対象の在庫組織。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 269. 「在庫監査」の統計

統計の名前	説明
ページされた在庫監査数 (NumInventoryAuditsPurged)	ページされた在庫監査の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Inventory\_Audit テーブルからページできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_INVENTORY\_AUDIT

## 在庫ページ

このページは、在庫データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。このページは、ページの際に保持日数を考慮しません。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。

YFS\_INVENTORY\_SUPPLY では、以下の条件を満たす場合、在庫供給はページ対象としてピックアップされます。

- 供給レコードとノードの在庫状況タイプが同じである。例えば、「追跡」または「無限」である。
- 供給レコードの量が 0 である。
- 供給レコードに、「情報」の供給タイプが含まれていない。

YFS\_INVENTORY\_DEMAND では、以下の条件を満たす場合、在庫需要はページ対象としてピックアップされます。

- 需要レコードの量が 0 以下である。
- YFS\_INVENTORY\_DEMAND\_ADDNL テーブル内に需要の詳細および一致する需要レコードがない。

YFS\_INVENTORY\_TAG の場合、INVENTORY\_TAG\_KEY を使用する既存の供給および需要がない場合に、ページされます。

YFS\_INVENTORY\_RESERVATION では、以下の条件を満たす場合、在庫予約はページ対象としてピックアップされます。

- 在庫予約レコードの量が 0、または出荷日が、システム日付からページ条件の保持日数を引いた日付より前である。

YFS\_INVENTORY\_NODE\_CONTROL では、INV\_PIC\_INCORRECT\_TILL\_DATE が現在のタイム・スタンプからパージ条件の保持日数を引いた日時より前の場合に、パージされます。

YFS\_IBA\_TRIGGER では、IBA\_REQUIRED = 'N'、IBA\_RUN\_REQUIRED = 'N'、および LAST\_IBA\_PROCESSED\_TS が現在のタイム・スタンプからパージ条件の保持日数を引いた日時より前の場合に、パージされます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 270. 「在庫パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORYPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 271. 「在庫パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	「在庫パージ」を実行する対象の在庫組織。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>

表 271. 「在庫パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 272. 「在庫パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた在庫需要数 (NumInventoryDemandsPurged)	パージされた在庫需要の数。
パージされた在庫ノード管理数 (NumInventoryNodeControlsPurged)	パージされた在庫ノード管理の数。
パージされた在庫予約数 (NumInventoryReservationsPurged)	パージされた在庫予約の数。
パージされた在庫タグ数 (NumInventoryTagsPurged)	パージされた在庫タグの数。
パージされたアイテム・ベースの割り当てトリガー数 (NumItemBasedAllocationTriggersPurged)	パージされたアイテム・ベースの割り当てトリガーの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Inventory\_Supply、YFS\_Inventory\_Demand、YFS\_Inventory\_Tag、YFS\_Inventory\_Reservation、YFS\_IBA\_Trigger、および YFS\_Inventory\_Node\_Control テーブルからパージできるレコードの総数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_IBA\_TRIGGER

YFS\_INVENTORY\_DEMAND

YFS\_INVENTORY\_TAG

YFS\_INVENTORY\_RESERVATION

YFS\_INVENTORY\_SUPPLY

YFS\_INVENTORY\_NODE\_CONTROL

## 在庫供給一時パージ

「在庫供給一時パージ」エージェントは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の在庫ピクチャーとノード上の実際の在庫ピクチャーの同期プロセスによって生成された、一時在庫テーブルのコンテンツをクリーンアップします。

ノード在庫ピクチャーは、ロードのプロセス時に、YFS\_INVENTORY\_SUPPLY\_TEMP テーブルに保管されます。同期フェーズが完了し、YFS\_INVENTORY\_SUPPLY テーブルの更新が終了したら、YFS\_INVENTORY\_SUPPLY\_TEMP テーブルをパージする必要があるため、このエージェントがそのパージを実行します。

ノード在庫との同期の構成については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

「在庫供給一時パージ」エージェントを使用して、YantraMessageGroupID のグループについて、現在日時からパージ条件の保持日数を引いた日時より前の変更時のタイム・スタンプを持つ YFS\_INVENTORY\_SUPPLY\_TEMP 内のすべてのレコードがパージされます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 273. 「在庫供給一時パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SUPPLYTEMPPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 274. 「在庫供給一時パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 274. 「在庫供給一時パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「在庫供給一時パージ」を実行する対象の在庫組織。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 275. 「在庫供給一時パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた在庫一時供給数 (NumInventorySupplyTempsPurged)	パージされた YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブル内のエントリーの数。

## 保留中のジョブの数

最大の変更時のタイム・スタンプが現在のタイム・スタンプからパージ条件のリード日数を引いた日時より前である、YFS\_INVENTORY\_SUPPLY\_TEMP テーブルの固有の YantraMessageGroupID の数。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_INVENTORY\_SUPPLY\_TEMP

## アイテム監査パージ

このパージは、YFS\_AUDIT テーブル・データをシステムから削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルにおける負荷が削減されます。このパージ

は、以下の条件を満たした場合、YFS\_AUDIT テーブルおよび YFS\_AUDIT\_HEADER テーブル内のレコードをパージします。

- 指定された保持日数よりも大きい「変更時のタイム・スタンプ」を持つ YFS\_AUDIT レコード、および「YFS\_ITEM」というテーブル名のレコード。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

エンタープライズが Applications Manager によって YFS\_ITEM テーブル内のレコードを変更したときに、YFS\_ITEM が監査され、監査レコードが YFS\_AUDIT テーブルに挿入されます。監査レコードをクリーンアップするために、このパージ・トランザクションを使用できます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションを適宜スケジュールする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 276. 「アイテム監査パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	YFS_ITEM_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 277. 「アイテム監査パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、値はデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。</li> <li>• N - テスト・モード。</li> </ul>

表 277. 「アイテム監査パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 278. 「アイテム監査パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされたアイテム監査レコード数 (NumItemAuditRecords Purged)	パージされたアイテム監査レコードの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、条件値に一致した、YFS\_AUDIT テーブルからパージできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_AUDIT、YFS\_AUDIT\_HEADER

## 集合・混載履歴パージ

このパージは、標準のライフサイクルの完了後に、集合・混載データを履歴テーブルから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。集合・混載に行われた最終変更が、リード・タイム (日単位) が満たされるより前の場合、パージ対象として集合・混載がピックアップされます。

このトランザクションを実行する前に、必ず集合・混載をパージして、履歴テーブルに移動してください。集合・混載のパージに関する詳細は、517 ページの『集合・混載パージ』を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 279. 「集合・混載履歴ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	LOADHISTPRG
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 280. 「集合・混載履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「集合・混載ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li><li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li></ul>
ページ・コード	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 281. 「集合・混載履歴パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた集合・混載履歴数 (NumLoadHistoriesPurged)	パージされた集合・混載履歴の数。
パージされた集合・混載の出荷履歴数 (NumLoadShipmentHistoriesPurged)	パージされた集合・混載の出荷履歴の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Load\_H テーブルからパージできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_LOAD\_H

YFS\_LOAD\_STOP\_H

YFS\_LOAD\_SHIPMENT\_CHARGE\_H

YFS\_LOAD\_STATUS\_AUDIT\_H

YFS\_SHIPMENT\_CONTAINER\_H

YFS\_CONTAINER\_ACTIVITY\_H

YFS\_LOADED\_CONTAINER\_H

YFS\_LOAD\_SHIPMENT\_H

YFS\_ADDITIONAL\_DATE\_H

YFS\_LOAD\_HOLD\_TYPE\_H

YFS\_LOAD\_HOLD\_TYPE\_LOG\_H

## 集合・混載パージ

このパージは、集合・混載データをシステムから削除します。「クローズ」としてマークされているすべての集合・混載をピックアップしてパージします。空の集合・混載 (出荷のない集合・混載など) は、パージ対象と見なされません。このパージの一部として、関連した子テーブルもパージされます。

これは、パイプライン・トランザクションではありません。また、タスク・キューからは動作しません。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、集合・混載はページ対象としてピックアップされます。

- 集合・混載の最終変更が、リード・タイム設定 (日単位) より前である。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 282. 「集合・混載ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	LOADPRG
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 283. 「集合・混載ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get) (唯一の有効値)」に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「集合・混載ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>

表 283. 「集合・混載パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 284. 「集合・混載パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた集合・混載の出荷数 (NumLoadShipmentsPurged)	パージされた集合・混載の出荷の数。
パージされた集合・混載数 (NumLoadsPurged)	パージされた集合・混載の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Load テーブルからパージできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_ADDITIONAL\_DATE

YFS\_LOAD

YFS\_LOAD\_HOLD\_TYPE

YFS\_LOAD\_HOLD\_TYPE\_LOG

YFS\_LOAD\_STOP

YFS\_LOAD\_SHIPMENT

YFS\_LOAD\_SHIPMENT\_CHARGES (この集合・混載に関する料金)

YFS\_LOAD\_STATUS\_AUDIT

YFS\_LOADED\_CONTAINER

YFS\_SHIPMENT\_CONTAINER

## 交渉履歴ページ

このページは、交渉履歴データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。これによって、オーダー交渉履歴テーブルからデータがパージされます。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、交渉は履歴パージ対象としてピックアップされます。

- 交渉の最終変更日時が保持日数期間を超えている。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 285. 「交渉履歴ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	NEGOTIATIONHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 286. 「交渉履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「交渉履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。

表 286. 「交渉履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 287. 「交渉履歴ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた交渉履歴数 (NumNegotiationHistoriesPurged)	ページされた交渉履歴の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Negotiation\_Hdr\_H テーブルからページできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_AUDIT

YFS\_NEGOTIATION\_HDR\_H

YFS\_NEGOTIATION\_LINE\_H

YFS\_RESPONSE\_H

YFS\_RESPONSE\_HDR\_H

YFS\_RESPONSE\_LINE\_H

YFS\_RESPONSE\_LINE\_DTL\_H

## 交渉ページ

このページは、標準のライフサイクルの完了後に、データを履歴テーブルにアーカイブします。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。これは、タスク・キュー (YFS\_TASK\_Q) テーブルから動作します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、交渉はページ対象としてピックアップされます。

- 交渉に対して行われた最終変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。
- 交渉がピックアップ可能なステータスにある。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 288. 「交渉ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORD_NEGOTIATION_PURGE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 289. 「交渉ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「交渉ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。

表 289. 「交渉パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
次回のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 290. 「交渉パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされたオーダー交渉数 (NumOrderNegotiationsPurged)	パージされたオーダー交渉の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし (None)

## パージされるテーブル

YFS\_AUDIT

YFS\_NEGOTIATION\_HDR

YFS\_NEGOTIATION\_LINE

YFS\_RESPONSE

YFS\_RESPONSE\_HDR

YFS\_RESPONSE\_LINE

## 案件履歴パージ

このトランザクションは、案件パージによって前にアーカイブされたタスクを削除します。525 ページの『案件パージ』を参照してください。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、案件パージ・エージェントによって前にパージされた案件が、履歴パージ対象としてピックアップされます。

- 案件の最終変更日時が保持日数期間を超えている。
- 見積履歴がパージされている。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 291. 「案件履歴パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	OPPORTUNITYHISTPRG
基本伝票種別	案件
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	案件フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 292. 「案件履歴パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは N です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。</li> <li>• N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。</li> </ul>

表 292. 「案件履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「案件履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。  「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたページ条件が使用され、案件のエンタープライズに構成されたページ条件は使用されません。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 293. 「案件履歴ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた案件履歴数 (NumOpportunityHistoryPurged)	ページされた案件履歴の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_OPPORTUNITY\_H テーブルからページできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_OPPORTUNITY\_H

## 案件ページ

この時間トリガー・トランザクションは、「案件ページ」条件で指定された保持日数より長い期間のすべての案件、および「キャンセル済み」または「完了済み」のいずれかのステータスにあるすべての案件をページします。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、案件はページ対象としてピックアップされます。

- 案件の最終変更日時が保持日数期間を超えている。
- 案件に関連付けられた見積がパージされている。
- 案件が、パージ・トランザクションによってピック可能なステータスにある。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 294. 「案件パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	OPPORTUNITYPRG
基本伝票種別	案件
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	案件フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 295. 「案件パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは Y です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 295. 「案件パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「案件パージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。  「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたパージ条件が使用され、案件のエンタープライズに構成されたパージ条件は使用されません。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 296. 「案件パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた案件数 (NumOpportunityPurged)	パージされた案件の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_OPPORTUNITY テーブルからパージできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_OPPORTUNITY

## オーダー履歴パージ

このパージは、標準のライフサイクルの完了後に、データを履歴テーブルから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

このトランザクションを実行するには、オーダーがパージされ、履歴テーブルに移動されている必要があります。これについて詳しくは、531 ページの『オーダー・パージ』を参照してください。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、オーダーは履歴パージ対象としてピックアップされます。

- オーダーの最終変更日時が保持日数期間を超えている。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

明細タイプに基づいた追加ページ条件については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 297. 「オーダー履歴ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORDERHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 298. 「オーダー履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。</li> <li>• N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

表 298. 「オーダー履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 299. 「オーダー履歴ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたオーダー履歴数 (NumOrderHistoriesPurged)	ページされたオーダー履歴の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Order\_HEADER\_H テーブルからページできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_ANSWER\_SET\_TRAN\_H

YFS\_ANSWER\_TRAN\_H

YFS\_CHARGE\_TRAN\_DIST\_H

YFS\_CHARGE\_TRAN\_REQUEST\_H

YFS\_CHARGE\_TRAN\_RQ\_MAP\_H

YFS\_CHARGE\_TRANSACTION\_H

YFS\_CREDIT\_CARD\_TRANSACTION\_H

YFS\_ENTITY\_ADDRESS\_H

YFS\_HEADER\_CHARGES\_H

YFS\_INSTRUCTION\_DETAIL\_H

YFS\_INVOICE\_COLLECTION\_H

YFS\_LINE\_CHARGES\_H

YFS\_NOTES\_H

YFS\_ORDER\_AUDIT\_DETAIL\_H

YFS\_ORDER\_AUDIT\_H  
YFS\_ORDER\_AUDIT\_LEVEL\_H  
YFS\_ORDER\_DATE\_H  
YFS\_ORDER\_HEADER\_H  
YFS\_ORDER\_HOLD\_TYPE\_H  
YFS\_ORDER\_HOLD\_TYPE\_LOG\_H  
YFS\_ORDER\_INVOICE\_DETAIL\_H  
YFS\_ORDER\_INVOICE\_H  
YFS\_ORDER\_KIT\_LINE\_H  
YFS\_ORDER\_KIT\_LINE\_SCHEDULE\_H  
YFS\_ORDER\_LINE\_H  
YFS\_ORDER\_LINE\_OPTION\_H  
YFS\_ORDER\_LINE\_REQ\_TAG\_H  
YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE\_H  
YFS\_ORDER\_PROD\_SER\_ASSOC\_H  
YFS\_ORDER\_RELEASE\_H  
YFS\_ORDER\_RELEASE\_STATUS\_H  
YFS\_ORDER\_SER\_PROD\_ITEM\_H  
YFS\_PAYMENT\_H  
YFS\_PROMOTION\_AWARD\_H  
YFS\_PROMOTION\_H  
YFS\_RECEIVING\_DISCREPANCY\_DTL\_H  
YFS\_RECEIVING\_DISCREPANCY\_H  
YFS\_REFERENCE\_TABLE\_H  
YFS\_TAX\_BREAKUP\_H  
YIC\_BOM\_HEADER\_H  
YIC\_BOM\_LINE\_H  
YIC\_BOM\_MESSAGE\_H

## オーダー・パージ

このパージは、標準のライフサイクルの完了後に、データを履歴テーブルにアーカイブします。オーダーを履歴テーブルからパージするには、527 ページの『オーダー履歴パージ』を参照してください。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。これは、タスク・キューで動作します。トランザクション PURGE で使用可能なオーダーを、YFS\_TASK\_Q テーブルからピックアップします。

パージ条件が一致しない場合、AVAILABLE\_DATE が YFS\_ORDER\_HEADER テーブルおよび YFS\_TASK\_Q テーブル内のオーダーの変更タイム・スタンプで、どちらか最大の方に基づいて計算されます。この値については、保持日数が新規の AVAILABLE\_DATE に追加されます。

このトランザクションは、「パージ」トランザクションによってピックアップ可能なステータスにあるオーダーの、すべての明細に依存します。

以下のステータスが、オーダー・パージでピックアップされる構成で使用可能です。

- 「ドラフト作成済み (1000)」、およびすべての拡張された「ドラフト作成済み」ステータス。
- 「作成済み (1100)」およびすべての拡張された「作成済み」ステータス。これらのステータスが使用可能な伝票種別は、「販売オーダー」、「購入オーダー」および「転送オーダー」のみです。
- 「リリース済み (3200)」およびすべての拡張された「リリース済み」ステータス。
- 「出荷済み (3700)」およびすべての拡張された「出荷済み」ステータス。
- 「完了済み (3700)」およびすべての拡張された「完了済み」ステータス。これらのステータスが使用可能な伝票種別は、「マスター・オーダー」のみです。
- 「受入済み (3900)」およびすべての拡張された「受入済み」ステータス。
- 「キャンセル (9000)」およびすべての拡張された「キャンセル」ステータス。
- 「不足 (9020)」およびすべての拡張された「不足」ステータス。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、オーダーはパージ対象としてピックアップされます。

- オーダーのすべてのオープンな子オーダー (派生、チェーン、返品、交換、調達または返金のフルフィルメント) がパージ済み。
- 転入を超える他のオーダーへの保留中の転出料金が無い。
- 保留中の調整インボイスが無い。

前述の 3 つの条件に一致した場合、オーダーは即時にパージされ、支払集金が完了すると完全にキャンセルされます。

パージ・エージェントがキャンセルされたオーダーをピックアップするには、オーダーの支払ステータスが以下のいずれかでなければなりません。

- 支払済み

- 該当せず

オーダーが前述の条件のいずれにも一致しない場合、以下に示す条件についてチェックが続行されます。

- 保持日数に一致しないオーダー・リリース・ステータス・レコードがないこと。
- パージ対象となる正しいステータスにある。例:
  - オーダーのすべてのサービス要請のステータスが「出荷済み」または拡張された「出荷済み」である。
  - オーダーの支払ステータスが「支払済み」または「該当せず」である。
  - パージ未済の交渉がない。
- サービス要請の明細以外のすべてのオーダー明細について、以下が該当する。
  - セラー在庫更新が必要な場合、「ステータス在庫のタイプ」の「セラーの供給を更新する」オプションがオンになっており、「セラー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄である。（「セラー供給タイプ」は、「手持ちの供給」チェック・ボックスが有効になっているカスタム・セラー供給タイプでも構いません。）
  - 「セラー需要タイプ」が空欄の場合。
  - バイヤー在庫更新が必要で、「バイヤー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄である。
- オーダーの最終変更は、リード・タイム設定（日単位）より前でなければなりません。
- コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。
- オーダーは、配達未済のサービス明細を保有してはいけません。
- 返品オーダー処理のための交換オーダーの場合、返品オーダーをパージするには、その前に交換オーダーを履歴からパージする必要があります。

ステータス在庫のタイプに変更がない場合、バイヤーが渡されないと、「出荷済み (3700)」ステータスまたはその拡張ステータスにあるオーダーがパージされます。

デフォルト・パイプラインで「出荷済み」ステータスまたは拡張された「出荷済み」ステータスにあるオーダーは、渡されたバイヤーが在庫を追跡している場合、パージされません。これによって、在庫を追跡しているバイヤーの保留中の供給に関連したオーダーがパージされることを防ぎます。

そのようなオーダーをパージするには、「出荷済み」ステータスまたは拡張された「出荷済み」ステータスのステータス在庫のタイプを構成して、「バイヤー供給タイプ」がステータス在庫タイプで ONHAND になるようにします。

パージ・エージェントが実行されている場合、明細のないドラフト・オーダーが、オーダー履歴テーブルにパージされます。パージ履歴エージェントが実行されると、明細のないドラフト・オーダーは永久に削除されるようになります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 300. 「オーダー・パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PURGE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 301. 「オーダー・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・パージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。  「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたパージ条件が使用され、オーダーのエンタープライズに構成されたパージ条件は使用されません。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li><li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li></ul>

表 301. 「オーダー・パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	<p>必須。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。このパラメーターを、以下の値に設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DRAFTORDERHISTPRG。ドラフト・オーダー情報をオーダー履歴テーブルからパージします。</li> <li>• DRAFTORDERNOLINEHISTPRG。オーダー明細のないドラフト・オーダーをオーダー履歴テーブルからパージします。</li> <li>• DRAFTORDERNOLINEPRG。オーダー明細のないドラフト・オーダーをパージします。</li> <li>• DRAFTORDERPRG。ドラフト・オーダー情報をパージし、オーダー履歴テーブルにアーカイブします。</li> </ul> <p>「パージ・コード」の値は ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE に設定できません。</p>
追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)	<p>オプション。オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージするには、このパラメーターを ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE に設定します。</p> <p>詳しくは、536 ページの『オーダー・リリース・ステータスのパージ』を参照してください。</p>
コロニー ID (ColonyID)	<p>1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。</p>

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 302. 「オーダー・パージ」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
パージされたオーダー数 (NumOrdersPurged)	パージされたオーダーの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_ACTIVITY\_DEMAND  
YFS\_ANSWER\_SET\_TRAN  
YFS\_ANSWER\_TRAN  
YFS\_CHARGE\_TRANSACTION  
YFS\_CHARGE\_TRAN\_DIST  
YFS\_CHARGE\_TRAN\_REQUEST  
YFS\_CHARGE\_TRAN\_RQ\_MAP  
YFS\_CREDIT\_CARD\_TRANSACTION  
YFS\_ENTITY\_ADDRESS  
YFS\_HEADER\_CHARGES  
YFS\_INSTRUCTION\_DETAIL  
YFS\_INVOICE\_COLLECTION  
YFS\_LINE\_CHARGES  
YFS\_MONITOR\_ALERT  
YFS\_NOTES  
YFS\_ORDER\_AUDIT  
YFS\_ORDER\_AUDIT\_DETAIL  
YFS\_ORDER\_AUDIT\_LEVEL  
YFS\_ORDER\_HEADER  
YFS\_ORDER\_HOLD\_TYPE  
YFS\_ORDER\_HOLD\_TYPE\_LOG  
YFS\_ORDER\_INVOICE  
YFS\_ORDER\_INVOICE\_DETAIL  
YFS\_ORDER\_KIT\_LINE  
YFS\_ORDER\_KIT\_LINE\_SCHEDULE  
YFS\_ORDER\_LINE  
YFS\_ORDER\_LINE\_OPTION

YFS\_ORDER\_LINE\_REQ\_TAG  
YFS\_ORDER\_LINE\_RESERVATION  
YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE  
YFS\_ORDER\_LINE\_SRC\_CNTRL  
YFS\_ORDER\_PROD\_SER\_ASSOC  
YFS\_ORDER\_RELEASE  
YFS\_ORDER\_RELEASE\_STATUS  
YFS\_ORDER\_SER\_PROD\_ITEM  
YFS\_ORDER\_DATE  
YFS\_PAYMENT  
YFS\_PMNT\_TRANS\_ERROR  
YFS\_PROMOTION  
YFS\_PROMOTION\_AWARD  
YFS\_RECEIVING\_DISCREPANCY  
YFS\_RECEIVING\_DISCREPANCY\_DTL  
YFS\_REFERENCE\_TABLE  
YFS\_TAX\_BREAKUP  
YIC\_BOM\_HEADER  
YIC\_BOM\_LINE  
YIC\_BOM\_MESSAGE  
YIC\_BOM\_PROP

## **オーダー・リリース・ステータスのパージ**

「オーダー・リリース・ステータスのパージ」エージェントは、「オーダー・パージ」エージェントがデータを履歴テーブルに完全にパージする前に、オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージすることによって、「オーダー・パージ」エージェントの機能を拡張します。

オーダーがパージ対象の条件を満たした場合、数量 0 のオーダー・リリース・ステータス・レコードは YFS\_ORDER\_RELEASE\_STATUS テーブルから削除され、履歴テーブルに入れられません。

「オーダー・リリース・ステータスのパージ」エージェントが完了すると、タスク・キューの AVAILABLE\_DATE は、「オーダー・パージ」のパージ条件で指定

された日付にリセットされます。これによって、「オーダー・パージ」エージェントは、必要に応じてオーダーをピックアップし、処理することができます。「オーダー・パージ」は、通常どおりオーダー・リリース・ステータス・レコードのページを続行します。

以下の条件を満たす場合、「オーダー・パージ」エージェントは、オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージします。

- 「オーダー・パージ」のすべての条件が一致。「オーダー・パージ」の条件については、531 ページの『オーダー・パージ』を参照してください。
- オーダー・リリース・レコードの数量が 0 である。
- 「オーダー・パージ」条件の「追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)」が ORDER\_RELEASE\_STATUS\_PURGE に設定されている。
- 「追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)」の「オーダー・パージ」リード日数内にオーダーが変更されている。

### 条件パラメーター

「オーダー・リリース・ステータスのパージ」の条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 303. 「オーダー・リリース・ステータスのパージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・パージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。  「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたパージ条件が使用され、オーダーのエンタープライズに構成されたパージ条件は使用されません。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
パージ・コード (PurgeCode)	必須。「オーダー・パージ」エージェントを拡張して、オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージするには、ORDERPRG に設定します。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。また、「追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)」も設定する必要があります。

表 303. 「オーダー・リリース・ステータスのパージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)	必須。オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージするには、このパラメーターを ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE に設定します。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) の「オーダー・パージ」によって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_ORDER\_RELEASE\_STATUS

## オーダー・ステータス監査パージ

このパージは、オーダー・ステータス監査データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、オーダー・ステータス監査は履歴パージ対象としてピックアップされます。

- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

このトランザクションは、交渉が完了した後に実行する必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 304. 「オーダー・ステータス監査パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	STATUSAUDITPRG
基本伝票種別	オーダー

表 304. 「オーダー・ステータス監査ページ」属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 305. 「オーダー・ステータス監査ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・ステータス監査ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_STATUS_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 306. 「オーダー・ステータス監査ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたステータス監査数 (NumStatusAuditsPurged)	ページされたステータス監査の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Status\_Audit テーブルからページできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_STATUS\_AUDIT

## 組織監査ページ

このページは、YFS\_AUDIT テーブル・データをシステムから削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルにおける負荷が削減されます。このページは、以下の条件を満たした場合、YFS\_AUDIT テーブルおよび YFS\_AUDIT\_HEADER テーブル内のレコードをページします。

- 指定された保持日数よりも大きい「変更時のタイム・スタンプ」を持つ YFS\_AUDIT レコード、および「YFS\_ORGANIZATION」というテーブル名のレコード。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

エンタープライズが Applications Manager によって YFS\_ORGANIZATION テーブル内のレコードを変更したときに、YFS\_ORGANIZATION が監査され、監査レコードが YFS\_AUDIT テーブルに挿入されます。監査レコードをクリーンアップするために、このページ・トランザクションを使用できます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 307. 「組織監査ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	YFS_ORGANIZATION_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 308. 「組織監査ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、値はデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。</li><li>• N - テスト・モード。</li></ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 309. 「組織監査ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた組織監査レコード数 (NumOrganizationAuditRecordsPurged)	ページされた組織監査レコードの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、条件値に一致した、YFS\_AUDIT テーブルからページできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_AUDIT

YFS\_AUDIT\_HEADER

## 個人情報のページ

このページは、個人情報レコード・カウントを持つ日付のリストを取得し、日付の昇順にソートします。次に、バッファーに入れる指定済みのレコード数および変更タイム・スタンプに基づいて、該当するレコードをページし、YFS\_PERSON\_INFO\_H テーブルに配置します。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 310. 「個人情報ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PERSONINFOPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 311. 「個人情報ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 <ul style="list-style-type: none"><li>空欄のままにするか、または 10000 より小さい数字を指定した場合、デフォルトで 10000 に設定されます。</li><li>10000 よりも大きい数字を指定した場合、その値が使用されます。</li></ul>
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li><li>N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li></ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

表 311. 「個人情報ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「個人情報ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
テーブル・タイプ (TableType)	<p>YFS_Person_Info テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。</p> <p>有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。</p> <p>CONFIGURATION に設定された場合、テーブル・タイプが CONFIGURATION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Organization、YFS_Ship_Node など) についてページが実行されます。</p> <p>TRANSACTION に設定された場合、テーブル・タイプが TRANSACTION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Order_Header、YFS_Shipment など) についてページが実行されます。</p> <p>ページは、渡されたものと同じスキーマに存在するすべてのテーブル・タイプについて実行されることに注意してください。例えば、TRANSACTION に設定された場合、同じスキーマに存在するため、MASTER のテーブル・タイプを持つテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコードについても、ページは実行されます。</p>
コロニー ID (ColonyID)	YFS_PERSON_INFO テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

空欄のままにするか、10000 よりも小さい数字が指定された場合、デフォルトの 10000 に設定されます。しかし、10000 より大きい数字が指定された場合、その値が使用されます。

表 312. 「個人情報ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた個人情報数 (NumPersonInfoPurged)	ページされた個人情報レコードの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_PERSON\_INFO テーブルからページできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_PERSON\_INFO

## 個人情報履歴のページ

これは、ページ基準に基づいて、YFS\_PERSON\_INFO\_H テーブルからレコードを削除します。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 313. 「個人情報履歴のページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PERSONINFOHISTPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 314. 「個人情報履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 <ul style="list-style-type: none"><li>空欄のままにするか、または 10000 より小さい数字を指定した場合、デフォルトで 10000 に設定されます。</li><li>10000 よりも大きい数字を指定した場合、その値が使用されます。</li></ul>

表 314. 「個人情報履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	<p>オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	<p>必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。</p>
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	<p>このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。</p>
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	<p>オプション。「個人情報ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。</p>
テーブル・タイプ (TableType)	<p>YFS_Person_Info テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。</p> <p>有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。</p> <p>CONFIGURATION に設定された場合、テーブル・タイプが CONFIGURATION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Organization、YFS_Ship_Node など) についてページが実行されます。</p> <p>TRANSACTION に設定された場合、テーブル・タイプが TRANSACTION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Order_Header、YFS_Shipment など) についてページが実行されます。</p> <p>ページは、渡されたものと同じスキーマに存在するすべてのテーブル・タイプについて実行されることに注意してください。例えば、TRANSACTION に設定された場合、同じスキーマに存在するため、MASTER のテーブル・タイプを持つテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコードについても、ページは実行されます。</p>
コロニー ID (ColonyID)	<p>YFS_PERSON_INFO_H テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。</p>

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 315. 「個人情報履歴パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた個人情報履歴レコード数 (NumPersonInfoHlstoryRecordsPurged)	パージされた個人情報履歴レコードの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_PERSON\_INFO\_H テーブルからパージできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_PERSON\_INFO\_H

## ピック・リスト・パージ

このパージは、条件パラメーターで指定された保持日数より長い期間存在し、出荷を保有していない、すべてのピック・リストをピックアップします。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、ピック・リストはパージ対象としてピックアップされます。

- ピック・リストが指定された保持日数よりも長い期間存在する。
- ピック・リストが出荷に関連付けられていない。

ピック・リストに関連付けられたすべての出荷は、このパージ・エージェントを実行する前に、パージ済みでなければなりません。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 316. 「ピック・リスト・パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PICKLISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし

表 316. 「ピック・リスト・パージ」属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 317. 「ピック・リスト・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_PICK_LIST テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 318. 「ピック・リスト・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされたピック・リスト数 (NumPickListsPurged)	パージされたピック・リストの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_PICK\_LIST テーブルからパージできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_PICK\_LIST

## 価格リスト・ページ

このページは、価格リスト・データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、価格リストはページ対象としてピックアップされます。

- 価格リストが、現在日付からページ条件の保持日数を引いた日付より前の有効な日付である。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 319. 「価格リスト・ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PRICELISTPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 320. 「価格リスト・ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 320. 「価格リスト・パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 321. 「価格リスト・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた価格セット数 (NumPriceSetsPurged)	パージされた価格セットの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Price\_Set テーブルからパージできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

現在日付からリード日数を引いた日付以前の VALID\_TILL\_DATE を持つ YFS\_PRICE\_SET テーブル

YFS\_PRICE\_PROGRAM\_DEFN

YFS\_ITEM\_PRICE\_SET

YFS\_ITEM\_PRICE\_SET\_DTL

## カタログ一括監査のパージ

このページでは、YFS\_CATALOG\_MASS\_AUDIT テーブルから古い監査レコードを削除します。このテーブルには、属性および属性値をカテゴリおよびアイテムに対して割り当てたことに起因する、カタログに対する変更についてのデータが含ま

れています。また、継承される属性および属性値に関する情報が含まれます。ページ・トランザクションは、指定された日数の間に変更されなかった一括監査レコードを検出し、このレコードをデータベースから削除します。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 322. カタログ一括監査のページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CATALOG_MASS_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 323. カタログ一括監査のページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_CATALOG_MASS_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 324. カタログ一括監査のページの統計

統計の名前	説明
ページされる一括監査レコード数 (NumCatalogMassAuditsPurged)	ページされる一括監査レコードの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、  
YFS\_CATALOG\_MASS\_AUDIT テーブルからページできるレコードの合計数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_CATALOG\_MASS\_AUDIT テーブルは、MODIFYTS < (CurrentDate - LeadDays) の条件を満たす場合にページされます。

## 受入履歴ページ

このトランザクションは、以前、受入ページでアーカイブされた受入を削除します。553 ページの『受入ページ』を参照してください。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、受入ページ・エージェントで以前にページされた受入は、履歴をページするためにピックアップされます。

- 受入の最終変更日時が保持日数期間を過ぎていること。
- 受入に関連付けられる出荷が履歴テーブルからページされること。

受入履歴をページするには、受入を閉じて、出荷をページするようにします。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 325. 受入履歴ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RECEIPTHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし

表 325. 受入履歴ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 326. 受入履歴ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。受入履歴ページの実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。</li> <li>• N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 327. 受入履歴ページの統計

統計の名前	説明
ページされた受入明細履歴数 (NumReceiptLineHistoriesPurged)	ページされた受入明細履歴の数。
ページされた受入履歴数 (NumReceiptHistoriesPurged)	ページされた受入履歴の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Receipt\_Header\_H テーブルからバージできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## バージされるテーブル

YFS\_RECEIPT\_HEADER\_H

YFS\_RECEIPT\_LINE\_H

YFS\_RECEIPT\_STATUS\_AUDIT\_H

YFS\_INSTRUCTION\_DETAIL\_H

## 受入バージ

このバージは、受入データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。このトランザクションは、開かれておらず検査が保留されていない受入をすべてピックアップし、履歴テーブルにアーカイブします。551 ページの『受入履歴バージ』を参照してください。また、受入の子テーブルのアーカイブおよびバージを行います。

これはパイプライン・トランザクションで、タスク・キューから動作します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、バージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

バージは、バージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、受入はバージするためにピックアップされます。

- 受入の最終変更日時が保持日数期間を過ぎていること。
- 受入に関連付けられる出荷がバージされること。
- 受入がバージ・トランザクションに対してピックアップ可能ステータスであること。
- OpenReceiptFlag フィールドの値に「N」が設定されていること。
- 受入に保留中の検査がないこと。
- 受入のウェアハウスに在庫がないこと。

受入をバージするには、受入を閉じて、出荷をバージするようにします。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 328. 受入ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RECEIPTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 329. 受入ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。受入ページの実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li><li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li></ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 330. 受入パージの統計

統計の名前	説明
パージされた受入明細数 (NumReceiptLinesPurged)	パージされた受入明細の数。
パージされた受入数 (NumReceiptsPurged)	パージされた受入の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_RECEIPT\_HEADER

YFS\_RECEIPT\_LINE

YFS\_RECEIPT\_STATUS\_AUDIT

YFS\_INSTRUCTION\_DETAIL

## 再処理エラー・パージ

このパージは、再処理エラーをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、YFS\_REPROCESS\_ERROR テーブルはパージするためにピックアップされます。

- 状態 (State) = 固定 (Fixed) または状態 (State) = 無視 (Ignored) の YFS\_REPROCESS\_ERROR レコードが処理されること。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

このパージは、ハブで定義されたルールのみを読み取ります。エンタープライズによってオーバーライドされたルールは、考慮されません。

ConsoleConsole を使用するあらゆるエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジュールに入れる必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 331. Reprocess Error Purge Attributes

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	REPROCESSPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 332. 再処理エラー・ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li><li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li></ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_REPROCESS_ERROR テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 333. 再処理エラー・ページの統計

統計の名前	説明
ページされた再処理エラー数 (NumReprocessErrorsPurged)	ページされた再処理エラーの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_REPROCESS\_ERROR テーブルからページできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_REPROCESS\_ERROR

## 予約ページ

このページは、有効期限が切れた在庫予約をシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減するとともに、有効期限切れの予約で使用される需要を解放します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、YFS\_INVENTORY\_RESERVATION テーブル内のすべてのレコードはページするためにピックアップされます。

- EXPIRATION\_DATE が現在日付よりも早いか、数量が 0 以下である

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 334. 予約ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RESERVATIONPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

表 334. 予約ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 335. 予約ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_RESERVATION テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 336. Reservation Purge Statistics

統計の名前	説明
NumReservationsPurged	ページされた予約の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_INVENTORY\_RESERVATION テーブルからページできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_INVENTORY\_RESERVATION

### 出荷履歴ページ

このトランザクションは、以前、出荷ページでアーカイブされた出荷を削除します。561 ページの『出荷ページ』を参照してください。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、履歴テーブルにアーカイブされたすべてのレコードはページするためにピックアップされます。

- 出荷で行われた最後の変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

出荷に関連するオーダーは、オーダー・ページによりページされている必要があります。出荷は、出荷のクローズ・トランザクションによりクローズされている必要があります。428 ページの『出荷を閉じる (Close Shipment)』を参照してください。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 337. 出荷履歴ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SHIPMENTHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 338. 出荷履歴ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 338. 出荷履歴パージの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷履歴パージの実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。</li> <li>• N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。</li> </ul>
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 339. 出荷履歴パージの統計

統計の名前	説明
パージされた出荷履歴数 (NumShipmentHistoriesPurged)	パージされた出荷履歴の数。
パージされた出荷明細履歴数 (NumShipmentLineHistoriesPurged)	パージされた出荷明細履歴の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Shipment\_H テーブルからパージできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_ADDITIONAL\_ATTRIBUTE\_H

YFS\_ADDITIONAL\_DATE\_H

YFS\_AUDIT

YFS\_CONTAINER\_DETAIL\_ILS\_H

YFS\_CONTAINER\_STS\_AUDIT\_H

YFS\_INSTRUCTION\_DETAIL\_H  
YFS\_SHIPMENT\_CONTAINER\_H  
YFS\_SHIPMENT\_H  
YFS\_SHIPMENT\_LINE\_H  
YFS\_SHIPMENT\_LINE\_REQ\_TAG\_H  
YFS\_SHIPMENT\_STATUS\_AUDIT\_H  
YFS\_SHIPMENT\_TAG\_SERIAL\_H  
YFS\_CONTAINER\_ACTIVITY\_H

## 出荷ページ

このページは、出荷データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。このトランザクションは、「クローズ」とマークが付いた出荷をすべてピックアップし、履歴テーブルにアーカイブします。559 ページの『出荷履歴ページ』を参照してください。また、出荷の子テーブルのアーカイブおよびページを行います。

これは、パイプライン・トランザクションではありません。また、タスク・キューからは動作しません。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

出荷に関連するオーダーは、オーダー・ページによりページされている必要があります。出荷は、出荷のクローズ・トランザクションによりクローズされている必要があります。詳しくは、428 ページの『出荷を閉じる (Close Shipment)』を参照してください。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、出荷はページするためにピックアップされます。

- 出荷で行われた最後の変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。
- ShipmentClosedFlag フィールドの値に「Y」が設定されていること。
- オーダー・レコードがすべての出荷明細に関して既にページ済みであること。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 340. 出荷ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SHIPMENTPRG
基本伝票種別	オーダー

表 340. 出荷バージの属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 341. 出荷バージの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
実行する日数	オプション。バージする出荷レコードをエージェントが探すリード日数より前の最大日数。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷バージの実行に必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、バージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
バージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・バージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「バージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 342. 出荷バージの統計

統計の名前	説明
NumShipmentsPurged	バージされる出荷の数。
NumShipmentLinesPurged	バージされる出荷明細の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Shipment テーブルからページできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_ADDITIONAL\_ATTRIBUTES

YFS\_ADDITIONAL\_DATE

YFS\_AUDIT

YFS\_CONTAINER\_DETAILS

YFS\_LOAD\_SHIPMENT\_CHARGE

YFS\_MONITOR\_ALERT

YFS\_SHIPMENT\_CONTAINER

YFS\_SHIPMENT\_STATUS\_AUDIT

YFS\_SHIPMENT

YFS\_INSTRUCTION\_DETAIL

YFS\_SHIPMENT\_MONITOR\_ALERT

YFS\_HEADER\_CHARGES

YFS\_LINE\_CHARGES

YFS\_TAX\_BREAKUP

YFS\_SHIPMENT\_HOLD\_TYPE

YFS\_SHIPMENT\_HOLD\_TYPE\_LOG

YFS\_SHIPMENT\_TAG\_SERIALS

YFS\_SHIPMENT\_LINE

YFS\_SHIPMENT\_LINE\_REQ\_TAG

YFS\_ACTIVITY\_DEMAND

YFS\_CONTAINER\_STS\_AUDIT

YFS\_CONTAINER\_ACTIVITY

## 出荷統計ページ

このトランザクションは、指定される保持日数を経過したテーブルから出荷統計を削除します。

このエージェントは、出荷統計レコードの削除が必要な場合 (アプリケーション・サーバーの再始動後など) は常に使用する必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、出荷統計はページするためにピックアップされます。

- 出荷統計で行われた最後の変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 343. 出荷統計ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PRG_SHIP_STATS
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 344. 出荷統計ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷統計ページの実行に必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。

表 344. 出荷統計ページの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_SHIPMENT_STATISTICS テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 統計パラメーター

このトランザクションの統計パラメーターは、以下のとおりです。

表 345. 出荷統計ページの統計

パラメーター	説明
ページされた出荷統計数 (NumShipmentStatisticsPurged)	ページされた出荷統計の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_SHIPMENT\_STATISTICS テーブルからページできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_SHIPMENT\_STATISTICS

## ユーザー・アクティビティー・ページ

このページは、ユーザー・アクティビティー・データをシステムから削除します。指定される保持日数より古いすべてのレコード、およびログアウトのステータスにあるレコードをページします。このページは、バッチ削除モード (バッチ削除 (BatchDelete)=Y) で実行された場合、単一スレッド化されます。

レコードをページする際は、以下の制限が想定されます。

このページは、アプリケーション・サーバーが突然停止した場合は、いかなるレコードもページしません。これは、サーバー停止時にアプリケーション・サーバーに接続されていたユーザーの監査レコードは、更新できないためです。この結果、最

後のアクティビティー時刻またはログアウト時刻には値が入りません。ページでは、ユーザーがログアウトしているのか、それとも引き続きログインしているかどうかを分かりません。したがって、これらのレコードを手動で削除する必要があります。

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 346. ユーザー・アクティビティー・ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	USERACTIVITYPRG
基本伝票種別	なし (None)
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	なし (None)
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 347. ユーザー・アクティビティー・ページのパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、の下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
バッファーに入れるレコード数	必須。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 100 に設定されます。

表 347. ユーザー・アクティビティ・ページのパラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッチ削除 (BatchDelete)	<p>必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。レコードがバッチ処理で削除されます。</li> <li>• N - レコードは 1 件ずつ削除されます。</li> </ul>
コロニー ID (ColonyID)	<p>YFS_USER_ACTIVITY テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。</p>

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 348. 統計ページの統計

統計の名前	説明
ページされた統計数 (NumStatisticsPurged)	ページされた統計の数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_USER\_ACTIVITY

## ユーザー・アクティビティ・監査ページ

このページは、ユーザー・アクティビティ・監査データをシステムから削除します。指定される保持日数より古いすべてのレコードをページします。ページするのは、ログアウトのステータス (ログイン・タイプが「T」または「N」のレコード) にあるレコードのみです。このページは、バッチ削除モード (バッチ削除 (BatchDelete)=Y) で実行された場合、単一スレッド化されます。

レコードをページする際は、以下の制限が想定されます。

- このページは、アプリケーション・サーバーが突然停止した場合は、いかなるレコードもページしません。これは、サーバー停止時にアプリケーション・サーバーに接続されていたユーザーの監査レコードは、更新できないためです。この結果、最後のアクティビティ時刻またはログアウト時刻には値が入らず、ページでは、ユーザーがログアウトしているのか、それとも引き続きログインしているかどうかを分かりません。したがって、このレコードは手動で削除する必要があります。

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 349. ユーザー・アクティビティ監査ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	USERACTAUDPURGE
基本伝票種別	なし (None)
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	なし (None)
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 350. ユーザー・アクティビティ監査ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、の下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
バッファーに入れるレコード数	必須。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 100 に設定されます。
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。レコードがバッチ処理で削除されます。</li> <li>• N - レコードは 1 件ずつ削除されます。</li> </ul>
コロニー ID (ColonyID)	YFS_USER_ACT_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 351. 統計パージの統計

統計の名前	説明
パージされた統計数 (NumStatisticsPurged)	パージされた統計の数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_USR\_ACT\_AUDIT

## 作業オーダー履歴パージ

このトランザクションは、以前、作業オーダー・パージでアーカイブされたタスクを削除します。571 ページの『作業オーダー・パージ』を参照してください。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。作業オーダーの最終変更日時が保持日数期間を超えている場合、作業オーダー・パージ・エージェントで以前にパージされた作業オーダーは、履歴をパージするためにピックアップされます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 352. 作業オーダー履歴パージの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	WORK_ORDER_HISTORY_PURGE
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 353. 作業オーダー履歴パージの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは N です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。</li> <li>• N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。</li> </ul>
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ノード	オプション。作業オーダー履歴パージの実行が必要なノード。これが渡されない場合は、すべてのノードがモニターされます。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。  有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 354. 作業オーダー履歴パージの統計

統計の名前	説明
パージされた作業オーダー履歴数 (NumWorkOrderHistoriesPurged)	パージされた作業オーダー履歴の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_WORK\_ORDER\_H テーブルからパージできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_AUDIT

YFS\_WO\_APPT\_USER\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_APPT\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_ACTIVITY\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_ACTY\_DTL\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_AUDT\_DTL\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_COMPONENT\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_COMP\_TAG\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_HOLD\_TYPE\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_HOLD\_TYPE\_LOG\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_PROD\_DEL\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_SERVICE\_LINE\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_STS\_AUDIT\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_TAG\_H

## 作業オーダー・ページ

この時間トリガー・トランザクションは、作業オーダー・ページ条件に指定される保持日数を超えている作業オーダー、および「キャンセル」ステータスまたは「完了」ステータスの作業オーダーをすべてページします。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、作業オーダーはページするためにピックアップされます。

- 作業オーダーの最終変更日時が保持日数期間を過ぎていること。
- 作業オーダーに関連付けられるオーダーがページされること。
- 作業オーダーがページ・トランザクションによりピックアップ可能なステータスであること。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 355. 作業オーダー・ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	WORK_ORDER_PURGE
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 356. 作業オーダー・ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは Y です。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li><li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li></ul>
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ノード	オプション。作業オーダー・ページの実行が必要なノード。これが渡されない場合は、すべてのノードがモニターされます。

表 356. 作業オーダー・ページの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。  有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 357. 作業オーダー・ページの統計

統計の名前	説明
ページされた作業オーダー数 (NumWorkOrdersPurged)	ページされた作業オーダーの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_WORK\_ORDER テーブルからページできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_AUDIT

YFS\_WO\_APPT\_USER

YFS\_WORK\_ORDER

YFS\_WORK\_ORDER\_ACTIVITY

YFS\_WORK\_ORDER\_ACTY\_DTL

YFS\_WORK\_ORDER\_HOLD\_TYPE

YFS\_WORK\_ORDER\_HOLD\_TYPE\_LOG

YFS\_WORK\_ORDER\_APPT

YFS\_WORK\_ORDER\_AUDT\_DTL

YFS\_WORK\_ORDER\_COMPONENT

YFS\_WORK\_ORDER\_COMP\_TAG

YFS\_WORK\_ORDER\_PROD\_DEL

YFS\_WORK\_ORDER\_SERVICE\_LINE

YFS\_WORK\_ORDER\_STS\_AUDIT

YFS\_WORK\_ORDER\_TAG

## YFS 監査ページ

このページは、YFS\_AUDIT テーブル・データをシステムから削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルにおける負荷が削減されます。このページは、以下の条件を満たした場合、YFS\_AUDIT テーブルおよび YFS\_AUDIT\_HEADER テーブル内のレコードをページします。

- 指定される保持日数より大きい modifyts を有し、かつ YFS\_AUDIT テーブル内に一致するテーブル名の値を有する YFS\_AUDIT レコード。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

YFS 監査ページの構成方法によっては、構成データ・バージョン管理ツールの機能に何らかの影響を及ぼすおそれがあります。データ・バージョン管理ツールの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 構成・デプロイ・ツール・ガイド*」を参照してください。

エンタープライズがエンティティを拡張し、拡張エンティティ属性 AuditTable="Y" を設定する場合、拡張されたテーブルは監査されて、監査レコードは YFS\_AUDIT テーブルに挿入されます。監査レコードをクリーンアップするために、このページ・トランザクションを使用できます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 358. YFS 監査ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	YFS_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

表 358. YFS 監査パージの属性 (続き)

属性	値
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 359. YFS 監査パージの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、この値にデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) が設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。</li> <li>• N - テスト・モード。</li> </ul>
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
テーブル名	必須。監査レコードのパージが必要なテーブル名。
テーブル・タイプ (TableType)	<p>YFS_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性がある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。</p> <p>有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。</p> <p>CONFIGURATION が設定される場合、エージェントは、TableType が CONFIGURATION のテーブルに関連付けられる YFS_AUDIT レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Organization、YFS_Ship_Node などです。</p> <p>TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が TRANSACTION のテーブルに関連付けられる YFS_AUDIT レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Order_Header、YFS_Shipment などです。</p> <p>エージェントは、渡されるスキーマと同じスキーマ内に存在するすべての TableType に対して実行される点に注意してください。例えば、TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が同じスキーマ内にあるため、TableType が MASTER のテーブルに関連付けられる YFS_AUDIT レコードに対しても実行されます。</p>

表 359. YFS 監査ページの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 360. YFS 監査ページの統計

統計の名前	説明
ページされる監査レコード数 (NumAuditRecordsPurged)	ページされる監査レコードの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、条件値に一致した、YFS\_AUDIT テーブルからページできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_AUDIT、YFS\_AUDIT\_HEADER

## YFSInventoryOwnershipAudit ページ

このトランザクションは、条件パラメーターに指定されるリード日数より前の YFS\_INV\_OWN\_TRANSFER\_RCD からすべてのレコードをページします。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 361. YFSInventoryOwnership ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PURGE_INV_TRANSFR_RECORD
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

表 361. YFSInventoryOwnership ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 362. YFSInventoryOwnership ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、この値にデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) が設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。YFSInventoryOwnership 監査ページの実行が必要な在庫組織。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。</li> <li>• N - テスト・モード。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
リード日数	エージェントがレコードをページする、現在日付より前の日数。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

ページされるテーブル

YFS\_INV\_OWN\_TRANSFER\_RCD

## パスワードのリセット要求ページ

このページは、パスワードのリセット要求データをシステムから削除します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 363. 「パスワードのリセット要求ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	なし (None)
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 364. 「パスワードのリセット要求ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li><li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li></ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

表 364. 「パスワードのリセット要求ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	PLT_PWD_REQ テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 365. 「パスワードのリセット要求ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたパスワード要求数 (NumPasswordRequestPurged)	ページされたパスワード要求の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、PLT\_PWD\_REQ テーブルからページできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

PLT\_PWD\_REQ

## ユーザー・ログイン失敗ページ

このページは、ユーザーのログイン試行失敗数に関するデータをシステムから削除します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 366. ユーザー・ログイン失敗ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	なし (None)
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし

表 366. ユーザー・ログイン失敗ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 367. ユーザー・ログイン失敗ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	PLT_USER_LOGIN_FAILED テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 368. ユーザー・ログイン失敗ページの統計

統計の名前	説明
ページされたログイン失敗数 (NumUserLoginFailPurged)	ページされたログイン試行失敗の数

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、PLT\_USER\_LOGIN\_FAILED テーブルからページできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

PLT\_USER\_LOGIN\_FAILED

---

## タスク・キューの同期プログラムの時間トリガー・トランザクション

多くのトランザクションは、タスク・キューをその作業リポジトリとして使用します。パイプラインで構成済みの次の処理ステップを取り扱うために、ワークフロー・マネージャーはトランザクションのタスクを自動的に作成します。

状況によっては、タスク・キュー・リポジトリは期限切れになる場合もあります。例えば、パイプラインがアクティブであるときに処理パイプラインを再構成すると、キューが新規パイプライン構成と同期しなくなることがあります。

ビジネス・ドキュメントのライフサイクル内の一時停止を示す警告は、期限切れのタスク・キュー・リポジトリを示す場合があります。

タスク・キュー同期プログラム・トランザクションは、最新のパイプライン構成に基づいて、各トランザクションにより実行される未完了タスクの最新リストでタスク・キュー・リポジトリを更新するように設計されています。

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、次のリリースで変更される可能性があります。

## 集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、集合・混載実行プロセス・タイプのタスク・キューを同期化します。

以下の疑似論理を使用して、この時間トリガー・トランザクションを分析できます。以下の条件を満たす場合、その集合・混載実行プロセス・タイプのタスク・キューは同期化されます。

- 集合・混載の `LOAD_CLOSED_FLAG` が「Y」でない。
- 集合・混載が、パイプラインのトランザクションでピック可能なステータスにある。
- タスク・キュー・テーブルに集合・混載のタスク・キュー・レコード、トランザクションの組み合わせがない。この場合、システムは、この集合・混載のとトランザクションの組み合わせについて、利用可能日として現在のデータベース時刻を設定したタスク・キュー・レコードを 1 つ挿入します。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 369. 「集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_L_D
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 370. 「集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 371. 「集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

なし。

## オーダー配達タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、オーダー配達プロセス・タイプを同期化します。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 372. 「オーダー配達タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_O_D
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 373. 「オーダー配達タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

### 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 374. 「オーダー配達タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

### 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

なし。

## オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、オーダー・フルフィルメント・プロセス・タイプを同期化します。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 375. 「オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_O_F
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 376. 「オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

### 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 377. 「オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

なし。

## オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、オーダー交渉プロセス・タイプを同期化します。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 378. 「オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_O_N
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 379. 「オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 380. 「オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

なし。

## 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、見積フルフィルメント・プロセス・タイプを同期化します。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 381. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_Q_F
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	見積フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 382. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 382. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 383. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

なし。

---

## モニター

モニターとは、通常の境界を越えているプロセスや状況を監視し、警告を出すトランザクションのことです。

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の次のリリースで変更される可能性があります。

すべてのモニターは、CollectPendingJobs 条件パラメーターを持ちます。このパラメーターが「N」に設定されている場合、エージェントは、そのモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。デフォルトでは、CollectPendingJobs は「Y」に設定されます。これは、1 つのモニターがかなりの量の getPendingJobs 照会を実行している場合、オーバーヘッド・コストが高すぎるため、これを「N」に設定することが有益なことがあります。

## 在庫状況モニター

この時間トリガー・トランザクションは、在庫状況をモニターします。在庫量が、当日、今後の ATP 時間フレーム内の日数、および今後の ATP 時間フレーム外の日数に対して構成されている数量を下回った場合、在庫状況モニターはグローバル警告を発します。ATP 時間フレーム外の日数に対する数量は、最大モニター日数によ

って決定されます。在庫状況モニターは、スケジュールやリリースのトランザクションとは異なり、無限在庫を想定するのではなく、ATP 水準を上回る実際の在庫量を計算します。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 384. 「在庫状況モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ATP_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 385. 「在庫状況モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
MonitorOption	オプション。在庫のモニター方法を指定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - 現在の在庫</li> <li>• 0 - ATP 時間フレームの範囲内と範囲外の在庫。これはデフォルト値です。</li> </ul>
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	オプション。有効な在庫所有者の組織です。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
ステータス (Status)	モニターしている交渉ステータスです。

表 385. 「在庫状況モニター」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

アクションに対して公開されるデータは、AVAILABILITY\_MONITOR\_dbd.txt です。

## 例外モニター

この時間トリガー・トランザクションは、以下に示すようにシステムの例外をモニターします。このトランザクションは、システムのログに記録された例外をモニターし、以下の場合にそれらの例外を上申します。

- 特定の時刻までに例外がユーザーに割り当てられなかった場合。
- 特定の時刻までに例外が解決されなかった場合。
- キューのアクティブ・サイズが、特定の最大サイズを超えた場合。

例外モニターを実行するたびに例外に対して再警告するのを防ぐために、Applications Manager の警告管理を使用して再警告時間間隔を指定します。この属性はキューに関連付けられており、キューごとに構成できます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 386. 「例外モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	EXCEPTION_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 387. 「例外モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
キュー ID	オプション。このモニターの例外を格納する警告キューを定義します。
組織コード	オプション。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
キュー・グループ	オプション。例外のモニター対象となるキューのセットを定義します。キュー ID とキュー・グループの両方が指定された場合、キュー ID は無視されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 388. 「例外モニター」の統計

統計の名前	説明
処理された警告数 (NumInboxProcessed)	処理された警告の数。
キュー・サイズ超過警告数 (NumExceededQueueSizeAlerts)	未解決の警告数がキューの最大アクティブ・サイズを超えた場合に発生するアクションの数。
未解決警告数 (NumUnResolvedAlerts)	警告の未解決警告時間がキューの解決時間を超えた場合に発生するアクションの数。
未割り当て警告数 (NumUnAssignedAlerts)	警告の未割り当て警告時間がキューの割り当て時間を超えた場合に発生するアクションの数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

## 在庫モニター

この時間トリガー・トランザクションは、出荷ノードのレベルで在庫状況をモニターします。使用可能な在庫が構成済みの量を超えたとき、または下回ったときに、出荷ノード・レベルで警告を発行します。

このモニターは、OPEN\_ORDER 需要タイプを使用して、指定されたノードで使用可能な在庫を計算します。OPEN\_ORDER 需要タイプによって考慮される供給タイプに割り当て済みの、すべての供給が考慮されます。在庫供給と需要の考慮の構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 389. 「在庫モニター」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORY_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	checkAvailability()

### 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 390. 「在庫モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファァーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	オプション。有効な在庫所有者の組織です。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

表 390. 「在庫モニター」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
条件のオーバーライドを許可 (AllowedOverriddenCriteria)	このパラメーターが「Y」に設定された場合、エージェント条件パラメーターのオーバーライドの値を、エージェントのトリガー時に以下の形式でコマンド・ラインで指定できます。  <AgentCriteriaAttribute> <OverriddenValue>  これらの属性を渡す場合の詳細については、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> インストール・ガイド」を参照してください。
出荷ノード	オプション。この実行で処理する必要のある有効な出荷ノードのコンマ区切りリスト。これが渡されない場合は、すべての出荷ノードが処理されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

アクションに公開されるデータは、<INSTALL\_DIR>/xapidocs/api\_javadocs/dbd/INVENTORY\_MONITOR\_dbd.txt です。

## 交渉モニター

この時間トリガー・トランザクションは、交渉が一定時間特定のステータスのままの場合に、エンタープライズに警告します。また、交渉の有効期限をモニターします。この時間トリガー・トランザクションは、交渉ステータスに対して構成されたアクションを起動します。交渉の有効期限をモニターするには、ステータス「期限切れ (2000)」を構成します。

オーダーまたはオーダー・リリースに交渉フェーズが必要な環境で、その交渉をモニターしたい場合に、このモニターを使用します。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 391. 「交渉モニター」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORD_NEGOTIATION_MONITOR
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 392. 「交渉モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「交渉モニター」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
ステータス (Status)	モニターしている交渉ステータスです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 393. 「交渉モニター」の統計

統計の名前	説明
処理された交渉数 (NumNegotiationsProcessed)	処理された交渉の数。

表 393. 「交渉モニター」の統計 (続き)

統計の名前	説明
警告を要する交渉数 (NumNegotiationsRequiringAlert)	少なくとも 1 つの警告が発行されている交渉の数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

これは、交渉ステータスに対して構成されたアクションを起動します。

キー・データ - 該当せず。

公開されるデータ - YCP\_getNegotiationDetails\_output.xml

## 強化したオーダー・モニター

「強化したオーダー・モニター」を使用して、以下の状態をモニターすることができます。

- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- マイルストーン z の y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達した。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達した。
- マイルストーン z の y 時間後にマイルストーン x に達した。
- オーダーが y 時間の間、ステータス x の状態にあった。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間前である。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間後である。
- オーダーが y 時間の間、保留タイプ x の状態にあった。
- オーダーが日付タイプ z の前の y 時間の間、保留タイプ x の状態にあった。

オーダー・モニターを構成して、以下のシステム日付タイプと購入オーダー・ドキュメント・タイプをモニターすることができます。

- 実際のオーダー日 - YFS\_ORDER\_HEADER テーブルの ORDER\_DATE 列から読み取られます。
- 実際の次の反復日 - YFS\_ORDER\_HEADER テーブルの NEXT\_ITER\_DATE 列から読み取られます。
- 出荷指定日 - オーダー・リリースが存在する場合、YFS\_ORDER\_RELEASE テーブルの REQ\_SHIP\_DATE 列から読み取られます。それ以外の場合は、YFS\_ORDER\_LINE テーブルの REQ\_SHIP\_DATE から読み取られます。
- 出荷予定日 - YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE テーブルの EXPECTED\_SHIPMENT\_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、出荷指定日と同じロジックが使用されます。

- 実際の出荷日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE テーブルの EXPECTED\_SHIPMENT\_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。
- 指定配達日 - リリースが存在する場合、YFS\_ORDER\_RELEASE テーブルの REQ\_DELIVERY\_DATE 列から読み取られます。
- 予定配達日 - YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE テーブルの EXPECTED\_DELIVERY\_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、指定配達日と同じロジックが使用されます。
- 実際の配達日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE テーブルの EXPECTED\_DELIVERY\_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。  
 オーダー・フルフィルメント、計画済みオーダー実行、返品物流、および購入オーダー実行の各パイプラインの場合、出荷や配達などのシステム定義日付は、時刻コンポーネントを伴わずに格納されます。したがって、これらの日付を使用してルールを構成する場合、すべての時刻計算は、常に 12:00:00 AM を仮定して実行されます。

マイルストーン、日付タイプ、およびルールのモニターについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Supply Collaboration Configuration Guide』、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide』、および『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Reverse Logistics Configuration Guide』を参照してください。

「強化したオーダー・モニター」を実行する場合、該当するすべてのパイプラインで、「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションを構成して実行する必要があります。「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションについては、424 ページの『オーダーを閉じる』を参照してください。

すべてのドキュメント・タイプに対して、同じ再ログ記録の時間間隔が使用されません。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 394. 「強化したオーダー・モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORDER_MONITOR_EX
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 395. 「強化したオーダー・モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・モニター」の実行が必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このモニターでは、以下の統計が追跡されます。

表 396. 「強化したオーダー・モニター」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
発生した警告数 (NumAlertsRaised)	発生した警告の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、現在の日付の値以下 (<=) の NEXT\_ALERT\_TS の値を持つ未完了のオーダーの数になります。

## 発生するイベント

「強化したオーダー・モニター」トランザクションは、ON\_AUTO\_CANCEL イベントを生成しますが、オーダーのキャンセルは行いません。オーダーをキャンセルするには、このイベントに対するサービスを構成する必要があります。

表 397. 「強化したオーダー・モニター」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開済みデータ*	テンプレートがサポートされるか
ON_AUTO_CANCEL	ORDER_MONITOR_dbd.txt	YFS_ORDER_MONITOR_EX.ON_AUTO_CANCEL.html	あり
* これらのファイルは、以下のディレクトリにあります。 <INSTALL_DIR>/xapidocs/api_javadocs/XSD/HTML			

## モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、オーダーの詳細と評価するモニター・ルールの詳細の両方を取得するために、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されます。詳しくは、提供されている <INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX\_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルがない場合、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX.xml ファイルのデフォルト・モニター・テンプレートの MonitorConsolidation->Order 要素が使用されます。

デフォルト・モニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Order->OrderStatuses-> OrderStatus-> MonitorRule 要素は無視され、条件に渡されません。

## 強化した見積モニター

「強化した見積モニター」を使用して、以下の状態をモニターすることができます。

- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- マイルストーン z の y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達した。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達した。
- マイルストーン z の y 時間後にマイルストーン x に達した。
- オーダーが y 時間の間、ステータス x の状態にあった。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間前である。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間後である。

見積モニターを構成して、以下のシステム日付タイプをモニターすることができます。

- 実際の有効期限 - YFS\_ORDER\_HEADER テーブルの EXPIRATION\_DATE 列から読み取られます。

マイルストーン、日付タイプ、およびルールのモニターについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide』を参照してください。

「強化した見積モニター」を実行する場合、該当するすべてのパイプラインで、「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションを構成して実行する必要があります。「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションについて詳しくは、424 ページの『オーダーを閉じる』を参照してください。

すべてのドキュメント・タイプに対して、同じ再ログ記録の時間間隔が使用されま  
す。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 398. 「強化した見積モニター」の属性

属性	値
トランザクション ID	ORDER_MONITOR_EX.0015
ドキュメント・タイプ	見積
プロセス・タイプ	見積フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 399. 「強化した見積モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「見積モニター」の実行に必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このモニターでは、以下の統計が追跡されます。

表 400. 「強化した見積モニター」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理された見積の数。
発生した警告数 (NumAlertsRaised)	発生した警告の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、現在の日付の値以下 (<=) の NEXT\_ALERT\_TS の値を持つ未完了のオーダーの数になります。

## 発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

公開されるデータは、ORDER\_MONITOR\_EX.0015.xml です。

## モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、オーダーの詳細と評価するモニター・ルールの詳細の両方を取得するために、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されます。詳しくは、提供されている <INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX\_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

```
<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/  
ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルがない場合、  
<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/  
ORDER_MONITOR_EX.xml ファイルのデフォルト・モニター・テンプレートの  
MonitorConsolidation->Order 要素が使用されます。
```

デフォルト・モニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Order->OrderStatuses-> OrderStatus-> MonitorRule 要素は無視され、条件に渡されません。

## 強化した返品モニター

「強化した返品モニター」を使用して、以下の状態をモニターすることができます。

- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- マイルストーン z の y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達した。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達した。
- マイルストーン z の y 時間後にマイルストーン x に達した。
- オーダーが y 時間の間、ステータス x の状態にあった。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間前である。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間後である。

強化した返品モニターを構成して、以下のシステム日付タイプをモニターすることができます。

- 実際のオーダー日 - YFS\_ORDER\_HEADER テーブルの ORDER\_DATE 列から読み取られます。

- 出荷指定日 - オーダー・リリースが存在する場合、YFS\_ORDER\_RELEASE テーブルの REQ\_SHIP\_DATE 列から読み取られます。それ以外の場合は、YFS\_ORDER\_LINE テーブルの REQ\_SHIP\_DATE から読み取られます。
- 出荷予定日 - YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE テーブルの EXPECTED\_SHIPMENT\_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、出荷指定日と同じロジックが使用されます。
- 実際の出荷日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE テーブルの EXPECTED\_SHIPMENT\_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。
- 指定配達日 - リリースが存在する場合、YFS\_ORDER\_RELEASE テーブルの REQ\_DELIVERY\_DATE 列から読み取られます。それ以外の場合は、YFS\_ORDER\_LINE テーブルの REQ\_DELIVERY\_DATE から読み取られます。
- 予定配達日 - YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE テーブルの EXPECTED\_DELIVERY\_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、指定配達日と同じロジックが使用されます。
- 実際の配達日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE テーブルの EXPECTED\_DELIVERY\_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。  
 オーダー・フルフィルメント、計画済みオーダー実行、返品物流、および購入オーダー実行の各パイプラインの場合、出荷や配達などのシステム定義日付は、時刻コンポーネントを伴わずに格納されます。したがって、これらの日付を使用してルールを構成する場合、すべての時刻計算は、常に 12:00:00 AM を仮定して実行されます。

マイルストーン、日付タイプ、およびルールのモニターについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Supply Collaboration Configuration Guide』、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide』、および『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Reverse Logistics Configuration Guide』を参照してください。

「強化した返品モニター」を実行する場合、該当するすべてのパイプラインで、「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションを構成して実行する必要があります。「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションについて詳しくは、424 ページの『オーダーを閉じる』を参照してください。

すべてのドキュメント・タイプに対して、同じ再ログ記録の時間間隔が使用されません。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 401. 「強化したオーダー・モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RETURN_MONITOR_EX

表 401. 「強化したオーダー・モニター」の属性 (続き)

属性	値
基本伝票種別	返品オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	返品物流
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 402. 「強化したオーダー・モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・モニター」の実行が必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ステータス最小値 (FromStatus)	オプション。渡されたステータス以上のステータスがモニターされます。
ステータス最大値 (ToStatus)	オプション。渡されたステータス以下のステータスがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このモニターでは、以下の統計が追跡されます。

表 403. 「強化したオーダー・モニター」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
発生した警告数 (NumAlertsRaised)	発生した警告の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、現在の日付の値以下 (<=) の NEXT\_ALERT\_TS の値を持つ未完了のオーダーの数になります。

## 発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

公開されるデータは、RETURN\_MONITOR\_EX.xml です。

## モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、オーダーの詳細と評価するモニター・ルールの詳細の両方を取得するために、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されます。詳しくは、提供されている <INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX\_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルがない場合、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX.xml ファイルのデフォルト・モニター・テンプレートの MonitorConsolidation->Order 要素が使用されます。

デフォルト・モニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Order->OrderStatuses-> OrderStatus-> MonitorRule 要素は無視され、条件に渡されません。

## リアルタイム在庫状況モニター

リアルタイム在庫状況モニターの時間トリガー・トランザクションは、在庫アイテムの在庫状況をモニターします。このトランザクションは、Global Inventory Visibility モジュール内の Applications Manager で定義されるしきい値の間で、特定のアイテムの在庫レベルが変わった場合に REALTIME\_AVAILABILITY\_CHANGE イベントが発生するように構成できます。

このトランザクションは、以下の 3 つのモードで実行できます。

- アクティビティー・ベース: アイテムがしきい値のいずれかを上回るか下回るたびにリアルタイムにイベントを発生させます。
- クイック同期: 最も近くに公開された在庫状況情報を再送します。
- 完全同期: アクティビティーにかかわらずすべてのアイテムをモニターし、すべてのアイテムの在庫情報を公開します。

すべての場合、将来の在庫状況のパーセンテージは検索時に在庫状況を検討する際に使用されます。将来の在庫状況について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

在庫状況ピクチャーを把握するには、OPEN\_ORDER タイプの要求を使用します。供給が維持されていれば、リアルタイム在庫状況モニターは、ノード全体の総合在庫状況または個々のノードの在庫状況をモニターできます。在庫状況モニター・ルールのない在庫アイテム、または使用できないルールがある在庫アイテムは、この時間トリガー・トランザクションで処理することはできません。

ノード全体の総合在庫状況をモニターする場合、リアルタイム在庫状況モニターは、在庫組織のデフォルトの分配グループ内のすべてのノードをモニターします。

個別のノードの在庫状況をモニターする場合、リアルタイム在庫状況モニターは、指定された分配グループ内のすべてのノードをモニターします。分配グループの構成およびノード・レベルの在庫モニターについては、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

構成する場合、リアルタイム在庫状況モニターでは、モニターする際の、手持ちおよび将来の在庫状況のセーフティー要因も考慮します。在庫状況のセーフティー要因および findInventory() API については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」および「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

手持ち数量が、構成される下限しきい値より大きい場合、REALTIME\_ONHAND 警告タイプが発生し、警告レベルは手持ち数量がベースになります。

手持ち数量が、構成される下限しきい値より小さくなった場合、REALTIME\_FUTURE\_MAX 警告タイプが発生します。その場合、警告レベルのベースになるのは将来の供給合計 (FutureAvailableQuantity) で、FirstFutureAvailableDate に最も早く供給される日付が設定され、FutureAvailableDate に最も遅く供給される日付が設定されます。

リアルタイム在庫状況モニターがアクティビティー・ベース・モードで稼働する場合、在庫アイテムのしきい値のいずれかを変更しても、アクティビティーで変更がない限りエージェントはその在庫アイテムをモニターしません。例えば、在庫数量が 700 のアイテム I が 600 の下限しきい値でモニターされており、下限しきい値が 1000 に変更される場合、I のアクティビティーに変更がない限りイベントは公開されません。このようなシナリオで I がモニター対象外のままにされないようにするには、アイテムのモニター・ルールを変更する場合に createInventoryActivity API を呼び出します。

## 在庫数量の最大出荷日の計算および公開

使用可能な場合、リアルタイム在庫状況モニターは、在庫数量の最大出荷日のマトリックスを計算し、公開します。マトリックスには、以下の情報が含まれます。

- 在庫数量 - 最大出荷日に出荷できるアイテムの数を表します。
- 最大出荷日 - 在庫数量が出荷される日時を表します。
- 有効期限日 - オーダーが最大出荷日に出荷される場合に、オーダーを起票できる最後の日時を表します。

マトリックスは、REALTIME\_AVAILABILITY\_CHANGE イベントに対して公開され、YFS\_INVENTORY\_ALERTS 表の AVAILABILITY\_INFO フィールドに XML 形式で保管されます。マトリックスの更新には monitorItemAvailability() API が使用

できます。monitorItemAvailability() API について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

在庫数量の最大出荷日のマトリックスの計算および公開を行うためのリアルタイム在庫状況モニターの使用について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」の在庫ルールの構成に関する章を参照してください。

### 最大出荷日の計算

最大出荷日は、考慮対象のノード全体での最大予定出荷日と同じです。予定出荷日の計算について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き*」を参照してください。さらに、以下のオプションを最大出荷日の一部として構成できます。

- 最大出荷日時
- 最大出荷日時を相殺する日数

**最大出荷日時** - 最大出荷日の時刻を指定する場合、リアルタイム在庫状況モニターは、先に説明したように、最大出荷日を計算してから、以下のロジックを適用します。

- 最大出荷日に指定される時刻が、計算された出荷日の時刻より遅い場合、リアルタイム在庫状況モニターは、指定される時刻で最大出荷日をリセットします。例えば、リアルタイム在庫状況モニターが、最大出荷日を 7 月 21 日の午前 10 時と計算し、最大出荷日時に午前 11 時が設定される場合、最大出荷日は 7 月 21 日の午前 11 時と再計算されます。
- 最大出荷日に指定される時刻が、計算された出荷日の時刻より早い場合、最大出荷日に 1 日加算されて、指定される時刻でリセットされます。例えば、最大出荷日が 7 月 21 日の午前 11 時と計算され、最大出荷日時に午前 10 時が設定される場合、リアルタイム在庫状況モニターは、最大出荷日を 7 月 22 日の午前 10 時と再計算します。

**最大出荷日時を相殺する日数** - 最大出荷日を相殺する日数を指定できます。リアルタイム在庫状況モニターは、最大出荷日時を含む最大出荷日を計算してから、相殺日数で指定される日数を最大出荷日に加算します。例えば、リアルタイム在庫状況モニターが、最大出荷日を 7 月 19 日の午前 11 時と計算し、最大出荷日時を相殺する日数に 1 が設定される場合、最大出荷日は 7 月 20 日の午前 11 時と再計算されます。

### 有効期限日の計算

リアルタイム在庫状況モニターは、有効期限日を、最大出荷日からノードの最小通知時間を減算することで計算してから、ノードの通知スケジュール上の先行する通知時間に調整します。有効期限日は、供給がノードで提供される間のみ有効です。

例えば、在庫数量の最大出荷日が 7 月 19 日の午後 4 時で、出荷ノードの通知スケジュールが以下のような場合、有効期限日は 7 月 18 日の午後 3 時と計算されます。

- 24 時間の最小通知時間
- 午後 3 時と午後 5 時の通知時刻

この例で有効期限日は、最初に 24 時間の最小通知時間を 7 月 19 日の午後 4 時の最大出荷日から減算し、次に午後 3 時の通知時刻に調整します。オーダーが 7 月 18 日の午後 3 時より前に起票されない場合、7 月 19 日の午後 4 時まででアイテムを出荷する前に少なくとも 24 時間前の通知がノードには必要なため、7 月 19 日の最大出荷日はもはや使用できません。また、該当のオーダーが 7 月 19 日の午後 3 時に起票される前に、別のオーダーによりノードの在庫数量が減少する場合、最大出荷日の条件に合わないため、有効期限日は無効になります。

さらに、有効期限日を計算する場合、調整日数は考慮されません。このため、先の例の最大出荷日が、最大出荷日時を相殺する日数に 1 を指定して 7 月 20 日の午後 4 時に更新される場合、有効期限日は 7 月 19 日の午後 3 時と更新されます。

### 例 1: 在庫数量の最大出荷日の計算

ノード 1 の供給ピクチャーは以下のとおりです。

- 24 時間の最小通知時間
- 通知時刻は毎日午後 3 時および午後 5 時
- 作業日は週 7 日、1 日 24 時間

ノード 2 の供給ピクチャーは以下のとおりです。

- 48 時間の最小通知時間
- 通知時刻は毎日午後 2 時および午後 5 時
- 作業日は週 7 日、1 日 24 時間

以下の表は、次の条件が真の場合のノード 1 およびノード 2 の在庫状況マトリックスを示します。

- 現在日付は 7 月 19 日
- 到着予定時刻 (ETA) は数量がノードで使用可能になると推定される日時と同一
- 最大出荷日時に午後 4 時を設定
- 最大出荷日時を相殺する日数に 0 を設定

表 404. 例: 在庫数量の最大出荷日の在庫状況マトリックス

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 1			
7/19/2010	80	7 月 20 日、午後 4 時	7 月 19 日、午後 3 時
7/22/2010	10	7 月 22 日、午後 4 時	7 月 21 日、午後 3 時
ノード 2			
7/19/2010	100	7 月 21 日、午後 4 時	7 月 19 日、午後 2 時
7/22/2010	20	7 月 22 日、午後 4 時	7 月 20 日、午後 2 時

この例で、7 月 19 日は、ノード 1 の 80 アイテムおよびノード 2 の 100 アイテムの数量の ETA です。表で、ノード 1 の使用可能な 80 アイテムの最大出荷日は 7 月 20 日の午後 4 時、ノード 2 の使用可能な 100 アイテムの最大出荷日は 7

月 21 日の午後 4 時と示されます。ノード 1 の場合、最大出荷日は、7 月 19 日午後 3 時の通知時刻に 24 時間の最小通知時間を加算し、さらに午後 4 時の最大出荷日時に調整することで計算します。有効期限日は、24 時間の最小通知時間を最大出荷日から減算してから、午後 3 時の通知時刻に調整することで計算します。ノード 2 の場合、最大出荷日および有効期限日は、ノード 2 の最小通知時間が 48 時間で通知時刻が午後 2 時であることを除いて同様に計算されます。

さらに、例では、ノード 1 の 10 アイテムおよびノード 2 の 20 アイテムの数量の ETA として 7 月 22 日を表示しています。ノード 1 の 10 アイテムの最大出荷日は 7 月 22 日の午後 4 時、ノード 2 の 20 アイテムの最大出荷日は 7 月 22 日の午後 4 時です。現在日付と ETA の間の差が、ノードの最小通知時間よりも大きい場合、ETA 日付は最大出荷日に使用されます。この例で、現在日付 (7 月 19 日) および ETA 日付 (7 月 22 日) の間の差は、両方のノードで最小通知時間よりも大きくなっています。したがって、最大出荷日には、ETA 日付の最大出荷日時 (ノード 1 およびノード 2 とともに 7 月 22 日の午後 4 時) が設定されます。

### 例 2: 作業日でないノードでの最大出荷日の計算

以下の表は、例 1 の供給ピクチャーおよび条件が適用される場合のノード 1 およびノード 2 の在庫状況マトリックスを示します。ただし、このシナリオでは、7 月 19 日および 7 月 20 日は作業日ではありません。

表 405. 例: 作業日ではないノードの在庫状況マトリックス

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 1			
7/19/2010	80	7 月 22 日、午後 4 時	7 月 21 日、午後 3 時
ノード 2			
7/19/2010	100	7 月 23 日、午後 4 時	7 月 21 日、午後 2 時

この例で、ノード 1 には 7 月 19 日時点で 80 の在庫数量があり、最小通知時間は 24 時間です。7 月 19 日および 20 日はノード 1 の作業日ではないため、80 アイテムは 7 月 21 日までは使用可能と見なされません。この場合、最大出荷日は 24 時間の最小通知時間を 7 月 21 日に加算し、午後 4 時の最大出荷日時に調整します。ノード 2 の場合、最大出荷日は、最小通知時間が 48 時間であることを除いて同様に計算されます。

### 例 3: 最大出荷日の相殺

以下の表は、例 2 の供給ピクチャーおよび条件が適用される場合のノード 1 およびノード 2 の在庫状況マトリックスを示します。ただし、このシナリオでは、最大出荷日時を相殺する日数に 1 が設定されます。

表 406. 例: 最大出荷日を相殺する場合の在庫状況マトリックス

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 1			
7/19/2010	80	7 月 23 日、午後 4 時	7 月 22 日、午後 3 時

表 406. 例: 最大出荷日を相殺する場合の在庫状況マトリックス (続き)

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 2			
7/19/2010	100	7 月 24 日、午後 4 時	7 月 22 日、午後 2 時

この例で、ノード 1 およびノード 2 の最大出荷日は、例 2 と同様に計算されます。ただし、最大出荷日時を相殺する日数に 1 が設定されるため、最大出荷日に 1 加算されます。この例で、ノード 1 の有効期限日には 7 月 22 日の午後 3 時が設定され、ノード 2 の有効期限日には 7 月 22 日の午後 2 時が設定されます。相殺日数は有効期限日を計算する際に考慮されないためです。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 407. リアルタイム在庫状況モニターの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	REALTIME_ATP_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	FindInventory

## 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 408. リアルタイム在庫状況モニターの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	MonitorOption に 3 が渡される場合に使用される在庫組織コード。在庫組織はエンタープライズであることが必要です。  このコードが渡されない場合、モニターはすべての在庫組織に対して実行されます。

表 408. リアルタイム在庫状況モニターの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
<b>MonitorOption</b>	<p>1 - アクティビティー・ベース (YFS_INVENTORY_ACTIVITY テーブルの別個の在庫アイテムをベースにモニター)。</p> <p>2 - クイック同期 (YFS_INVENTORY_ALERTS テーブルから情報を公開するためにイベントを再発生)。</p> <p>3 - 完全同期 (指定された在庫組織で管理される全在庫をベースにモニター。在庫組織コードが入力されない場合、全在庫アイテムがモニター対象。)</p> <p>指定されない場合、デフォルト値は 1 です。</p>
<b>アイテムのステータス (ItemStatuses)</b>	<p>処理されるアイテムの有効なステータスのリスト。ステータスは、で区切られる必要があります (例: 3000,2000)。これは、MonitorOption が 2 または 3 として渡される場合のみに使用されます。指定されれば、ステータスに一致するアイテムのみモニターされます。</p>
<b>警告開始タイム・スタンプ (FromAlertTimestamp)</b>	<p>これは、MonitorOption が 2 として渡される場合のみ使用されます。指定される場合、エージェントは REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE イベントを発生させ、エージェントが開始された時刻と FromAlertTimestamp の間に公開された在庫状況情報を再公開します。</p> <p>指定されない場合、全在庫状況情報が公開されてから、エージェントが開始された時刻が再公開されます。</p>
<b>条件のオーバーライドを許可 (AllowedOverriddenCriteria)</b>	<p>Y が設定される場合、エージェント条件パラメーターのオーバーライド値は、エージェントをトリガーする際に以下の形式でコマンド・ラインから指定できます。</p> <p>&lt;AgentCriteriaAttribute&gt; &lt;OverriddenValue&gt;</p> <p>これらの属性を渡す場合の詳細については、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation インストール・ガイド」を参照してください。</p>
<b>開始経過時間 (FromLastNumberOfHours)</b>	<p>これは、MonitorOption が 2 として渡されて FromAlertTimestamp パラメーターを計算する場合のみに使用されます (必要な場合)。</p> <p>FromAlertTimestamp パラメーターは、指定されない場合、現在のタイム・スタンプから FromLastNumberOfHours を減じた時刻として計算されます。</p>

表 408. リアルタイム在庫状況モニターの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
すべての在庫変更についてイベントを発生 (RaiseEventsOnAllAvailability Changes)	「Y」が設定される場合、すべての在庫状況の変更について REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE イベントが発生します。発生条件については、在庫状況が、指定されるしきい値を上回ったのか下回ったのかを問いません。これは、MonitorOption が 1 として渡される場合のみに使用されます。有効値は「Y」か「N」で、デフォルト値は「N」です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 409. リアルタイム在庫状況モニター・トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開済みデータ*	テンプレートがサポートされるか
REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE	なし (None)	YFS_REALTIME_ATP_MONITOR、 REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE.html	あり
* これらのファイルは、以下のディレクトリーにあります。 <INSTALL_DIR>/xapidocs/api_javadocs/XSD/HTML			

「リアルタイム」と説明されていますが、処理するメッセージのバックログがエージェントにある場合、在庫の変更が発生する際にも在庫状況の変更は即時にはトリガーされない可能性があります。さらに、このモニターは、時間トリガー・トランザクションとして存在するため、在庫アイテムの在庫状況のモニターを、構成される実行時プロパティーをベースにモニターがトリガーされる場合のみ行います。

## 出荷モニター

この時間トリガー・トランザクションは、YFS\_MONITOR\_RULE テーブル内のルールに基づき、出荷の状態をレポートします。このトランザクションを使用して、以下の状態をモニターできます。

- 出荷のステータスが指定される合計時間を超えている場合。
- 出荷に関連付けられて、指定される日付が以下の場合。
  - 指定される別の日付の n 時間前
  - 指定される別の日付の n 時間後
  - 指定される別の日付の n 時間前ではない
  - 指定される別の日付の n 時間後ではない
- 出荷が、指定される時間数に対して保留タイプである場合。
- 出荷が、指定される日付の n 時間前の保留タイプである場合。

モニター・ルールは、出荷品の出荷元ポイントおよび宛先ポイントについて構成できます。

モニター・ルールは、出荷の中間ピックアップ・ポイントおよびドロップオフ・ポイントについては構成できません。出荷は、複数のピックアップ・ポイントまたはドロップオフ・ポイントがある場合のみ、中間のピックアップまたはドロップオフを設けることができます。例えば、出荷には出荷品を運ぶ複数の集合・混載があります。集合・混載の最初の荷降ろし、2 番目の荷降ろし、さらにその次の荷降ろしと、出荷ステータスをモニターすることはできません。最後の集合・混載で出荷品が宛先に荷降ろしされると、その時点で出荷ステータスにマークが付けられてモニターすることができます。

これは、パイプライン・トランザクションではありません。また、タスク・キューからは動作しません。

マイルストーン、日付タイプ、およびモニター・ルールについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Supply Collaboration Configuration Guide*」、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide*」、および「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Reverse Logistics Configuration Guide*」を参照してください。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 410. 出荷モニターの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SHIPMENT_MONITOR
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし

表 410. 出荷モニターの属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 411. 出荷モニターの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷モニターの実行に必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 412. 出荷モニターの統計

統計の名前	説明
モニターされる出荷数 (NumShipmentsMonitored)	モニターされる出荷の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、NEXT\_ALERT\_TS の値が現在日付以下 (<=) のオープン状態の出荷の数になります。

## 発生するイベント

これは、出荷ステータスに対して構成されたアクションを起動します。

キー・データ - 該当せず

公開済みデータ - SHIPMENT\_MONITOR.xml

## モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT\_MONITOR\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されて、出荷の詳細および評価モニター・ルールの詳細が取得されます。詳しくは、提供されている <INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT\_MONITOR\_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT\_MONITOR\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが存在しない場合、デフォルトのモニター・テンプレートの MonitorConsolidation->Shipment エlement、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT\_MONITOR.xml ファイルが使用されます。

デフォルトのモニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Shipment-> MonitorRule Elementは無視されて、条件に渡されません。

## 作業オーダー・モニター

この時間トリガー・トランザクションは、作業オーダーが一定の長さの時間にわたり特定状態または保留タイプのみである場合、エンタープライズに警告します。

このモニターを使用して、作業オーダーがどれくらいの間、特定状態または保留タイプのみであるかを追跡します。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 413. 作業オーダー・モニターの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	WORK_ORDER_MONITOR
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS プロセス
抽象化トランザクション	なし

### 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 414. 作業オーダー・モニターの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値)に設定されます。

表 414. 作業オーダー・モニターの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。作業オーダー・モニターの実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ノード	オプション。作業オーダー・モニターの実行が必要なノード。これが渡されない場合は、すべてのノードがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 415. 作業オーダー・モニターの統計

統計の名前	説明
モニターされる作業オーダー数 (NumWorkOrdersMonitored)	モニターされる作業オーダーの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、NEXT\_ALERT\_TS が現在の日付の値以下 ( $\leq$ ) の条件でモニターされる作業オーダーの数になります。

## 発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。アクションに対して公開されるデータは、workOrder\_dbd.txt です。

## モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/monitor/WORK\_ORDER\_MONITOR\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されて、作業オーダーの詳細および評価モニター・ルールの詳細が取得されます。詳しくは、提供されている <INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/WORK\_ORDER\_MONITOR\_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/  
WORK\_ORDER\_MONITOR\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが存在しない場合、デ  
フォルトのモニター・テンプレートの MonitorConsolidation->WorkOrder エlemen  
ト、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/  
WORK\_ORDER\_MONITOR.xml ファイルが使用されます。

デフォルトのモニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->  
WorkOrder-> MonitorRule エレメントは無視されて、条件に渡されません。

## 第 23 章 在庫およびキャパシティー変更トランザクション参照

### 在庫の変更トランザクション

在庫の変更トランザクションは、在庫の変更を起動するイベントのセットアップに使用されます。

#### 起動元

- adjustInventory() API
- ステータス変更をできる任意のその他の API

#### 属性

このトランザクションの属性は以下のとおりです。

表 416. 在庫の変更の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORY_CHANGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

#### 発生するイベント

このトランザクションにより以下のイベントが発生します。

- SUPPLY\_CHANGE

このイベントは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内のあらゆる在庫供給の変更に対して発生します。また、変更された供給に関する詳細情報を公開します。

キー・データ: INSTALL\_DIR/xapidocs/api\_javadocs/dbd/  
INVENTORY\_CHANGE\_SUPPLY\_CHANGE\_dbd.txt 公開されるデータ:  
INSTALL\_DIR/xapidocs/api\_javadocs/XSD/HTML/  
INV\_INVENTORY\_CHANGE\_SUPPLY\_CHANGE.html

- DEMAND\_CHANGE

このイベントは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内のあらゆる在庫要求の変更に対して発生します。また、変更された要求に関する詳細情報を公開します。オーダー情報は、在庫組織が要求の詳細を作成するように設定される場合に公開されます。

キー・データ: INSTALL\_DIR/xapidocs/api\_javadocs/dbd/  
INVENTORY\_CHANGE\_DEMAND\_CHANGE\_dbd.txt

公開されるデータ: INSTALL\_DIR/xapidocs/api\_javadocs/XSD/HTML/  
INV\_INVENTORY\_CHANGE\_DEMAND\_CHANGE.html

- EXTERNAL\_SUPPLY\_CHANGE

このイベントは、外部で維持される在庫に関する Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内のあらゆる供給の変更に対して発生します。

キー・データ: INSTALL\_DIR/xapidocs/api\_javadocs/dbd/  
INVENTORY\_CHANGE\_EXTERNAL\_SUPPLY\_CHANGE\_dbd.txt

公開されるデータ: INSTALL\_DIR/xapidocs/api\_javadocs/XSD/HTML/  
INV\_INVENTORY\_CHANGE\_EXTERNAL\_SUPPLY\_CHANGE.html

- EXTERNAL\_DEMAND\_CHANGE

このイベントは、 Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内で在庫を維持しない、各組織のあらゆる要求の変更に対して発生します。

キー・データ:

INSTALL\_DIR/xapidocs/api\_javadocs/dbd/  
INVENTORY\_CHANGE\_EXTERNAL\_DEMAND\_CHANGE\_dbd.txt 公開されるデータ: INSTALL\_DIR/xapidocs/api\_javadocs/XSD/HTML/INV\_INVENTORY\_CHANGE\_EXTERNAL\_DEMAND\_CHANGE.html

- INVENTORY\_CHANGE

このイベントは、ONHAND\_SUPPLY 供給タイプを使用して在庫の調整を行う場合のみ発生します。例えば、供給が「保留」から「手持ちあり」に変更される在庫の変更の場合です。このイベントは、変更された供給の詳細情報を公開します。キー・データ: INSTALL\_DIR/xapidocs/api\_javadocs/dbd/

INVENTORY\_CHANGE\_INVENTORY\_CHANGE\_dbd.txt 公開されるデータ: INSTALL\_DIR/xapidocs/api\_javadocs/dbd/  
INVENTORY\_CHANGE\_INVENTORY\_CHANGE\_dbd.txt

- ON\_INV\_OWNERSHIP\_TRNSFR

このイベントは、在庫所有権の譲渡が発生する都度、発生します。また、在庫所有権の譲渡に関する情報を公開します。キー・データ: INSTALL\_DIR/xapidocs/api\_javadocs/dbd/INVENTORY\_CHANGE\_INVENTORY\_TRANSFER\_dbd.txt 公開されるデータ: INSTALL\_DIR/xapidocs/api\_javadocs/XSD/HTML/INV\_INVENTORY\_CHANGE.ON\_INV\_OWNERSHIP\_TRANSFER.html

注: 以下のイベントのいずれかを定義する場合は、注意が必要です。

- SUPPLY\_CHANGE
- DEMAND\_CHANGE
- EXTERNAL\_SUPPLY\_CHANGE
- EXTERNAL\_DEMAND\_CHANGE

これらのイベントの結果として changeOrder API を呼び出してはなりません。呼び出すと changeOrder API が changeOrder API を呼び出すイベントを発生する可能性があるため、呼び出しが無限に反復されます。

## キャパシティー変更トランザクション

キャパシティー変更トランザクションは、キャパシティー変更を起動するイベントのセットアップに使用されます。

### 起動元

- adjustInventory() API
- createResourcePool() API
- modifyResourcePool() API
- overrideResourcePoolCapacity() API
- 外部リソース・プールに対して容量を割り当てられる任意のその他の API

### 属性

このトランザクションの属性は以下のとおりです。

表 417. キャパシティー変更の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CAPACITY_CHANGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

### 発生するイベント

このトランザクションにより以下のイベントが発生します。

- ON\_CAPACITY\_ADJUSTMENT

このイベントは、createResourcePool() API または modifyResourcePool() API が起動されると、あらゆる標準キャパシティーの調整に対して発生します。また、標準キャパシティーの調整に関する詳細情報を公開します。

キー・データ: INSTALL\_DIR/xapidocs/api\_javadocs/dbd/  
CAPACITY\_CHANGE\_ON\_CAPACITY\_ADJUSTMENT\_dbd.txt

公開されるデータ: INSTALL\_DIR/xapidocs/api\_javadocs/XSD/HTML/  
INV\_CAPACITY\_CHANGE.ON\_CAPACITY\_ADJUSTMENT.xml

- ON\_OVERRIDE\_CAPACITY

このイベントは、`overrideResourcePoolCapacity()` API が起動されると、オーバーライドされる容量のあらゆる調整に対して発生します。またオーバーライドされる容量の変更に関する詳細情報を公開します。

キー・データ: `INSTALL_DIR/xapidocs/api_javadocs/dbd/  
CAPACITY_CHANGE_ON_OVERRIDE_CAPACITY_dbd.txt`

公開されるデータ: `INSTALL_DIR/xapidocs/api_javadocs/XSD/HTML/  
INV_CAPACITY_CHANGE.ON_OVERRIDE_CAPACITY.xml`

- **EXTERNAL\_CAPACITY\_CHANGE**

このイベントは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内のあらゆる外部容量の変更に対して発生します。また外部リソース・プールの変更された容量に関する詳細情報を公開します。

キー・データ: `INSTALL_DIR/xapidocs/api_javadocs/dbd/  
INVENTORY_CHANGE_EXTERNAL_SUPPLY_CHANGE_dbd.txt`

公開されるデータ: `INSTALL_DIR/xapidocs/api_javadocs/XSD/HTML/  
INV_INVENTORY_CHANGE_EXTERNAL_SUPPLY_CHANGE.html`

**注:** `EXTERNAL_CAPACITY_CHANGE` イベントを定義する場合、このイベントの結果として `changeOrder` API を呼び出してはなりません。呼び出すと、`changeOrder` API が `changeOrder` API を呼び出すイベントを発生する可能性があるため、呼び出しが無限に反復されます。

---

## 第 24 章 転送ノード

転送ノードは、あるロケーションから別のロケーションへデータを転送する方法を決定します。転送ノードの構成プロパティを定義するには、転送ノードから出入りするリンク接続をクリックします。転送ノードに入る リンクは送信者リンクで、出る リンクは受信者リンクです。

### 例外処理

非同期受信者リンクでは、683 ページの『受信者リンク例外処理』 683 ページの『受信者リンク例外処理』に説明があるように、例外を処理するために構成できます。例外処理用に構成できる非同期受信者リンクは、以下のとおりです。

- データベース受信者
- ファイル入出力受信者
- FTP 受信者
- Oracle WebLogic、MQSeries、および TIBCO JMS 受信者
- MSMQ 受信者

---

## データベース

データベース・ノードは、データベース・テーブルを使用して非同期転送を定義します。データベース転送ノードは、送信側および受信側とリンクすることができます。各リンクは、それぞれのプロパティを取り込みます。

スケーリングする場合は、データベース・ノードを使用しないでください。代わりに、JMS キュー・ノードを使用してください。

### データベース送信者 構成プロパティ

このノードに接続するリンクのプロパティは、以下のとおりです。

表 418. データベース送信者構成プロパティ

プロパティ	説明
「実行時」タブ	
テーブル名	メッセージを書き込むテーブルを選択します。有効な値は、YFS_IMPORT および YFS_EXPORT です。

表 418. データベース送信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
例外時にロールバック	<p>サービスが完了した場合にのみメッセージをデータベースにコミットする場合は、このチェック・ボックスを選択します。</p> <p>メッセージをデータベースに直ちにコミットする場合は、このチェック・ボックスのチェックを外します。</p> <p>例えば、何らかの標準 Sterling Selling and Fulfillment Foundation API の ON_SUCCESS イベントがサービスに接続されており、そのサービスでメッセージがトランザクション・モードでデータベースに書き込まれる場合、メッセージはその ON_SUCCESS イベントの正常終了時にのみデータベースにコミットされます。メッセージがステージされた後に、ON_SUCCESS イベントでエラーが発生した場合、メッセージはキューからロールバックされます。ただし、非トランザクション・モードの場合、メッセージがステージされてロールバックされないと、メッセージはデータベースに残ります。</p>
「ヘッダー」タブ	
	<p>送信者は、ヘッダー名とヘッダー値によって、テーブル内のメッセージを区別することができます。詳しくは、「データベース受信者構成プロパティ」の表の「セクター」フィールドを参照してください。</p> <p>ヘッダー名とヘッダー値に加えて、メッセージ・タイプ EOF の EOF メッセージが USER_REFERENCE 列に追加されます。セクターとして USER_REFERENCE を使用する場合、同様にメッセージ・タイプ EOF を含むようにセクター条件を変更する必要があります。</p> <p><b>注:</b> ヘッダー名は固有でなければなりません。2 つのヘッダーに同じヘッダー名を付けることはできません。</p> <p> を選択して、新規のヘッダー名および値を追加します。</p> <p>既存のヘッダー名とヘッダー値を変更する場合は、 を選択します。</p> <p>既存のヘッダー名とヘッダー値を削除する場合は、 を選択します。</p> <p><b>重要:</b> ヘッダー名にはスペースを入力しないでください。</p>

表 418. データベース送信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
ヘッダー値	<p>名前と値のペアとして、YFS_EXPORT テーブルおよび YFS_IMPORT テーブルの USER_REFERENCE 列に保存されます。格納されるこれらの名前と値のペアの最大サイズは、2048 バイトです。このサイズを超える参照部分は切り捨てられます。</p> <p>指定されたヘッダー名とヘッダー値の各ペアは、YFS_IMPORT/YFS_EXPORT テーブルの USER_REFERENCE 列に 名前 1=値 1、名前 2=値 2 として追加されます。</p> <p>これらの参照値は、YFS_IMPORT/YFS_EXPORT テーブルを照会する際に、MESSAGE フィールドに格納されたキー・データの識別に使用することができます。</p> <p>xml://&lt;full path of the element from root node&gt;/@&lt;attribute name&gt; という構文を使用して、この値をメッセージから動的に抽出するように設定することができます。</p> <p>例えば、公開出荷通知の出力 XML から販売オーダー番号を取得するには、xml://ShipmentAdvices/ShipmentAdvice/@SalesOrderNo の値を設定します。その結果、USER_REFERENCE フィールドには、名前 1=&lt;value of attribute SalesOrderNo in the XML&gt; が入力されます。</p> <p><b>重要:</b> ヘッダー値にはスペースを入力しないでください。</p>

## データベース受信者 構成プロパティ

このノードに接続するリンクのプロパティは、以下のとおりです。

表 419. データベース受信者構成プロパティ

プロパティ	説明
「実行時」タブ	
サブサービス名	非同期受信者ごとに、固有 ID を入力します。
初期スレッド	<p>メッセージを同時に処理できるスレッド数を入力します。この値は、1 以上である必要があります。スループットの要件に応じて、スレッド数を増やすことができます。</p> <p>構成で設定したスレッド数は、サブサービス名に対して、System Management Console から動的に増やすことができます。System Management Console について詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム・ガイド』を参照してください。</p>

表 419. データベース受信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
セレクター	<p>「データベース送信者構成プロパティ」の表のヘッダー名とヘッダー値を使用して、SQL の Where 句として <code>USER_REFERENCE=&lt;name&gt;=value</code> の形式で実装された処理対象のメッセージを入力します。</p> <p>ヘッダー名とヘッダー値に加えて、メッセージ・タイプ EOF の EOF メッセージが <code>USER_REFERENCE</code> 列に追加されます。セレクターとして <code>USER_REFERENCE</code> を使用する場合、同様にメッセージ・タイプ EOF を含むようにセレクター条件を変更する必要があります。</p> <p><b>注:</b> セレクターを指定するときは、単一引用符のみを使用してください。</p> <p><b>注:</b> 同じテーブルから読み取って同じレコードを選択する 2 つのサービスを構成する場合、それらの結果は予測不能になることがあります。データベースの場合、使用可能な列は、<code>YFS_EXPORT/IMPORT</code> テーブルの <code>FLOW_NAME</code>、<code>SUB_FLOW_NAME</code>、<code>USER_REFERENCE</code> です。</p>
テーブル名	<p>メッセージを読み取るテーブルを選択します。有効な値は、<code>YFS_IMPORT</code> および <code>YFS_EXPORT</code> です。</p> <p>受信者リンクで指定されているテーブルと一致する必要があります。</p>
ポーリング間隔 (秒)	<p>データベース・テーブルのメッセージをポーリングする頻度を、秒単位で入力します。デフォルトは 600 秒 (10 分) です。</p> <p>別スレッドが、例外コンソールから解決されたすべての例外を管理し、データベースを 60 秒 (1 分) ごとにポーリングします。例外処理をポーリングする頻度は、変更できません。</p>
EOF メッセージで実行するサービス	<p>メッセージに EOF (End Of File) メッセージ ID が含まれる場合、必須です。</p> <p> を選択して、EOF メッセージを受信した際に起動するサービスを選択します。フレームワークは、EOF メッセージを受信すると、数分間 (customer_overrides.properties ファイルで構成可能) 待機してからこのサービスを実行します。詳しくは、633 ページの『アプリケーション・プラットフォーム・フレームワークでの EOF メッセージの使用可能化』を参照してください。customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド」を参照してください。</p>

表 419. データベース受信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
EOF メッセージのルート・ノード名	<p>メッセージに EOF メッセージ ID が含まれている場合のみ、これを指定する必要があります。</p> <p>EOF メッセージのカスタム・ルート・ノード名を入力します。</p> <p>デフォルトでは、EOF メッセージには「EOF」というルート・ノード名が含まれます。詳しくは、633 ページの『アプリケーション・プラットフォーム・フレームワークでの EOF メッセージの使用可能化』を参照してください。</p>
「サーバー」タブ	
「サーバー名」	<p>必須。実際にサービスを実行する統合サーバー・インスタンスの名前です。</p> <p>新規サーバーの作成について詳しくは、「新規サーバーの追加」を参照してください。</p>
「例外」タブ	<p>受信者リンク例外処理プロパティについては、683 ページの表 454 を参照してください。</p>

## 接続プロパティ

データベース・ノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 420. データベース接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期モードまたは非同期モードで起動されたサービスの場合には可能です。
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意のコンポーネント・ノード</li> <li>任意の転送ノード (FTP、JMS、またはファイル入出力を除く。接続にはパススルー・ノードを使用。)</li> </ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>開始ノード</li> <li>任意の同期転送ノード。</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> <li>任意の非同期転送ノード (FTP、JMS、またはファイル入出力を除く。接続にはパススルー・ノードを使用。)</li> </ul>
データを変更せずに渡す	転送ノードはデータを変更しません

## DCS 6.2 データベース

配送センター・システム (DCS) 6.2 データベース・ノードは、DCS 6.2 データベース・テーブルを使用して、非同期転送を定義します。DCS 6.2 データベース転送ノードを使用して、定位置データで構成される DCS 6.2 テーブルへの読み取り/書き込みを行えるサービスまたはインターフェースを定義できます。DCS 6.2 データベ

ースのインターフェース・テーブルは、INFC\_UPLD\_TAB\_1 および INFC\_DNLD\_TAB\_1 です。これらのインターフェース・テーブルの複数のレコードが、トランザクションを構成します。

これらのインターフェース・テーブルに適用できるデフォルトを定義できます。そのため、DCS 6.2 で固有の属性をデータに設定する必要があり、そのデータを外部システムで使用できない場合、インターフェースのデフォルト設定メカニズムを使用してそれらの属性を設定できます。デフォルト設定コンポーネントについて詳しくは、698 ページの『デフォルト・コンポーネント』を参照してください。

DCS 6.2 データベース・コンポーネントは、インターフェース・タイプ・ノードの、未処理のインターフェース・テーブル (INFC\_DNLD\_TAB\_1) のレコードを読み取ります。サービス定義フレームワークにおいて、DCS 6.2 データベース・コンポーネントの後のいずれかのコンポーネントが例外をスローした場合、そのトランザクションのインターフェース・レコードにエラーのマークが付けられます。それらのエラー・レコードの処理は、インバウンド・インターフェースを実行するサーバー JVM に渡されるシステム・プロパティに基づきます。

注: テキスト・トランスレーター・コンポーネントがインターフェース・レコードのリストを XML に変換する場合、API が要求する入力に XML が準拠するために、テキスト・トランスレーターの出力に XSL Transformation を適用する必要があります。

## DDCS 6.2 データベース送信者 構成プロパティ

このノードに接続するリンクのプロパティは、以下のとおりです。

表 421. DCS 6.2 データベース送信者構成プロパティ

プロパティ	説明
インターフェース・タイプ	インターフェース・タイプを入力します。このインターフェース・タイプのレコードが処理されます。
「テーブル・タイプ」	アップロードまたはダウンロードのインターフェース・テーブルについて、UPLD または DNLD のいずれかを選択します。インターフェース・テーブル名は、このテーブル・タイプおよび「ノード」フィールドに入力された値から生成されます。送信者のデフォルト値は、UPLD です。
ノード	サービスに関連付けられた出荷ノードを入力します。
テーブル名	このフィールドは編集できません。テーブル・タイプが選択されて、入力された出荷ノードに追加されると、テーブル名は自動的に入力されます。  出荷ノード Node1 のテーブル・タイプが UPLD の場合、テーブル名は YFS_INFC_UPLD_TAB1_Node1 となり、DNLD の場合は YFS_INFC_DNLD_TAB1_Node1 となります。
リモート・ホスト ID	データベースのリモート・ホスト ID を入力します。

表 421. DCS 6.2 データベース送信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
例外時にロールバック	<p>親トランザクションの失敗時にデータベースへの書き込みをロールバックする場合は、このボックスにチェックを付けます。</p> <p>メッセージをデータベースに直ちにコミットする場合は、このチェック・ボックスのチェックを外します。</p> <p>例えば、何らかの標準 Sterling Selling and Fulfillment Foundation API の ON_SUCCESS イベントがサービスに接続されており、そのサービスでメッセージがトランザクション・モードでデータベースに書き込まれる場合、メッセージはその ON_SUCCESS イベントの正常終了時にのみデータベースにコミットされます。メッセージがステージされた後に、ON_SUCCESS イベントでエラーが発生した場合、メッセージはデータベースからロールバックされます。ただし、非トランザクション・モードの場合、メッセージがステージされてロールバックされないと、メッセージはデータベースに残ります。</p>

## DCS 6.2 データベース受信者 構成プロパティ

このノードに接続するリンクのプロパティは、以下のとおりです。

表 422. DCS 6.2 データベース受信者構成プロパティ

プロパティ	説明
「実行時」タブ	
サブサービス名	非同期受信者ごとに、固有 ID を入力します。
ノード	サービスに関連付けられた出荷ノードを入力します。
セレクター	<p>オプション。このフィールドは、特定のリモート・ホスト ID を選択するために使用できます。</p> <p><b>注:</b> セレクターを指定するときは、単一引用符のみを使用してください。</p>
「テーブル・タイプ」	アップロードまたはダウンロードのインターフェース・テーブルについて、UPLD または DNLD のいずれかを選択します。インターフェース・テーブル名は、このテーブル・タイプおよび「ノード」フィールドに入力された値から生成されます。受信者のデフォルト値は、DNLD です。
テーブル名	<p>このフィールドは編集できません。テーブル・タイプが選択されて、入力された出荷ノードに追加されると、テーブル名は自動的に入力されます。</p> <p>出荷ノード Node1 のテーブル・タイプが UPLD の場合、テーブル名は YFS_INFC_UPLD_TAB1_Node1 となり、DNLD の場合は YFS_INFC_DNLD_TAB1_Node1 となります。</p>
インターフェース・タイプ	レコードが処理されるインターフェース・タイプです。
ポーリング間隔 (秒)	データベース・テーブルのメッセージをポーリングする頻度を、秒単位で入力します。デフォルトは 600 秒 (10 分) です。

表 422. DCS 6.2 データベース受信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
「サーバー」タブ	
「サーバー名」	<p>必須。実際にサービスを実行する統合サーバー・インスタンスの名前です。</p> <p>新規サーバーの作成について詳しくは、「新規サーバーの追加」を参照してください。</p>
「例外」タブ	受信者リンク例外処理プロパティについては、683 ページの表 454を参照してください。

## 接続プロパティ

DCS 6.2 データベース・ノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 423. DCS 6.2 データベース接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期モードまたは非同期モードで起動されたサービスの場合は可能です。
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキスト・トランスレーター・コンポーネント・ノード</li> <li>エンド・ノード</li> </ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>開始ノード</li> <li>テキスト・トランスレーター・コンポーネント・ノード</li> </ul>
データを変更せずに渡す	転送ノードはデータを変更しません

## コンポーネント・オブジェクト・モデル (COM)

コンポーネント・オブジェクト・モデル (COM) 転送ノードは、構成済み COM コンポーネントに対して実行される同期 COM 呼び出しを定義します。

注: <INSTALL\_DIR>/bin ディレクトリーがシステムのパスに含まれていることを確認してください。

## 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

表 424. COM 送信者構成プロパティ

プロパティ	説明
プログラム ID (Program ID)	<p>呼び出される COM コンポーネントのプログラム ID を入力します。regedit ユーティリティを実行して、呼び出される DLL を検索することで、レジストリー内のプログラム ID を見つけることができます。</p> <p>カスタム COM コンポーネントは、実行メソッドの実装が必要です。そのメソッド・シグニチャーは以下のとおりです。</p> <pre>[id(1), helpstring("method execute")] HRESULT execute([in]BSTR sData, [out]VARIANT *outData, [out, retval] long *RetVal);</pre>

## 接続プロパティ

COM ノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 425. COM 接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期的に起動されたサービスの場合のみ
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"><li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li><li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li></ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"><li>開始ノード</li><li>任意の同期転送ノード</li><li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li><li>任意の非同期転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く。接続にはパススルー・ノードを使用。)</li></ul>
データを変更せずに渡す	いいえ。COM コンポーネントが返すデータは次のサービス・コンポーネントに渡されます。

---

## Enterprise Java Beans (EJB)

Enterprise Java Bean (EJB) 転送ノードは、EJB プロトコルを使用して同期的にメッセージを送信する方法を定義します。EJB 転送ノードには、送信者関連のプロパティがあります。

EJB ノードは、他の以外の Sterling Selling and Fulfillment Foundation EJB を呼び出すためにのみ必要となります。

## 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

表 426. EJB 送信者構成プロパティ

プロパティ	説明
「プロバイダー URL」	EJB ホームの JNDI 検索用プロバイダー URL を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Oracle WebLogic の場合、t3://&lt;DNS Server Name or IP Address&gt;:&lt;port&gt; に設定します。</li> </ul>
EJB ホーム名	EJB ホーム・インターフェースを実装するクラス名を入力します。これは、クライアントが EJB オブジェクトを検索、作成、または削除するために使用します。
JNDI 名	EJB ホーム・インターフェースの検索に使用される名前を入力します。
「初期コンテキスト・ファクトリー」	初期コンテキスト・ファクトリーのクラス名。これは、命名およびディレクトリー操作の名前解決に使用されるクラスです。
メソッド名	呼び出されるメソッドを入力します。このメソッドは、以下の標準シグニチャーを備える必要があります。  Document outdoc = method(Document indoc)
認証	これを選択すると、セキュリティ・プリンシパルおよびセキュリティ証明に対してセキュリティ関連の認証を定義できます。  セキュリティ・プリンシパルおよびセキュリティ証明は、JNDI 検索で必要になります。
セキュリティ・プリンシパル	「認証」を選択した場合、EJB コンテナのアクセス制御リストのユーザー名を入力します。
セキュリティ証明	「認証」を選択した場合、EJB コンテナのアクセス制御リストのパスワードを入力します。

## 接続プロパティ

EJB ノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 427. EJB 接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期的に起動されたサービスの場合のみ
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> </ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>開始ノード</li> <li>任意の同期転送ノード</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> <li>任意の非同期転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く。接続にはバススルー・ノードを使用。)</li> </ul>

表 427. EJB 接続プロパティ (続き)

接続	ノード接続ルール
データを変更可能	転送ノードによって呼び出されるメソッドに応じてデータを変更することが可能。

## ファイル入力/出力 (ファイル入出力)

ファイル入出力転送ノードは、フラット・ファイルを使用して非同期的にメッセージを交換する方法を定義します。このフロー・コンポーネントは、ファイルの作成または処理に使用できます。ファイルを作成して非同期的に処理する方法を構成できます。

### ファイル入出力送信者 構成プロパティ

このノードを接続するリンクのプロパティは、以下のとおりです。

表 428. ファイル入出力送信者接続プロパティ

プロパティ	説明
作業ディレクトリ	処理を開始する前に入力ファイルを配置しておくディレクトリを入力します。 <b>注:</b> ディレクトリに適切な読み取り/書き込み権限があり、絶対パス名が指定されていることを確認してください。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が <code>&lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties</code> ファイルに定義されていることを確認してください。 <code>customer_overrides.properties</code> ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> プロパティ・ガイド』を参照してください。
完了ディレクトリ	ファイルが正常に処理されるか、指定された「最大出力ファイル・サイズ」または「ファイルあたりの最大トランザクション数」を超えた場合に、ファイルの移動先になるディレクトリを入力します。 <b>注:</b> ディレクトリに適切な読み取り/書き込み権限があり、絶対パス名が指定されていることを確認してください。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が <code>&lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties</code> ファイルに定義されていることを確認してください。 <code>customer_overrides.properties</code> ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> プロパティ・ガイド』を参照してください。
ファイル接頭辞	各ファイル名の先頭に追加する名前を入力します。出力ファイルを別のサービスと区別するために使用されます。

表 428. ファイル入出力送信者接続プロパティ (続き)

プロパティ	説明
ファイル接尾辞	各ファイル名の末尾に追加する名前を入力します。出力ファイルを別のサービスと区別するために使用されます。
最大出力ファイル・サイズ (MB)	現在のファイルをクローズして新規ファイルをオープンする前に増やすことが可能な最大サイズ (MB 単位) を入力します。「最大出力ファイル・サイズ」と「ファイルあたりの最大トランザクション数」の小さい方を超えた場合に、新規ファイルへの書き込みが開始されます。
ファイルあたりの最大トランザクション数	現在のファイルをクローズして新規ファイルをオープンする前にファイルに書き込まれる、メッセージの最大数を入力します。「最大出力ファイル・サイズ」と「ファイルあたりの最大トランザクション数」の小さい方を超えた場合に、新規ファイルへの書き込みが開始されます。
エンコード・タイプ	入力ファイルの文字エンコードを入力します。JVM がサポートする、UTF-8、UTF-16、ISO-8859 などの値を指定します。特に指定されなければ、JVM についての Sterling Application Platform のデフォルト値が設定されます。
ロールオーバーまでの最大時間 (分)	出力ファイルをオープンしたままにする最大時間 (分単位) を入力します。
ルート要素名を無効にする	このボックスにチェックを付けた場合、「ファイルあたりの最大トランザクション数」プロパティの値に基づいて、XML ファイルから XMLELEMENT ルート要素が削除されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「ファイルあたりの最大トランザクション数」プロパティの値が 1 に等しい場合、XML ファイルから XMLELEMENT ルート要素が削除されます。</li> <li>「ファイルあたりの最大トランザクション数」プロパティの値が 1 よりも大きい場合、XML ファイルから XMLELEMENT ルート要素は削除されません。</li> </ul>

## ファイル入出力受信者 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

表 429. ファイル入出力受信者構成プロパティ

プロパティ	説明
「実行時」タブ	
サブサービス名	サービス定義内のそれぞれの非同期受信者に対して、固有の ID を入力します。 注: サブフローを構成する場合、「YIF」で始まるサブサービス名を入力しないでください。

表 429. ファイル入出力受信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
パターンを含む	一括して処理するファイルのリストをコンマ区切りで入力します。例えば、posCreateOrder.* という名前の付いたファイルをすべて指定するには、.*\posCreateOrder.* を使用します。これが指定されない場合、ファイル処理シーケンスで指定された順序で、入力ディレクトリー内のすべてのファイルが処理されます。
エンコード・タイプ	入力ファイルの文字エンコードを入力します。JVM がサポートする、UTF-8、ASCII、ANSI などの値を指定します。特に指定されなければ、JVM についての Sterling Application Platform のデフォルト値が設定されます。
ファイル処理シーケンス	入力ディレクトリーのファイルを処理する順序を入力します。値は、「最終変更時刻」(日付) および「名前別」(名前) です。デフォルトは、「最終変更時刻」です。
ファイルあたりの最大エラー数	受信者がファイルの処理を終了するまでにログに記録されるエラーの数を入力します。これが 0 に設定された場合は 1 に、指定されなかった場合は 10 に、それぞれデフォルト設定されます。
ポーリング間隔 (秒)	ソース・ディレクトリーの未処理ファイルをポーリングする時間 (秒単位) を入力します。デフォルトは 600 秒です。
EOF メッセージの作成	EOF メッセージを作成する場合、このフィールドを選択します。これがチェックされると、フレームワークは、処理された各ファイルの末尾に EOF メッセージを作成してから、次のサービス・コンポーネントに渡します。EOF メッセージの作成について詳しくは、633 ページの『アプリケーション・プラットフォーム・フレームワークでの EOF メッセージの使用可能化』を参照してください。
断片化しない	このボックスにチェックを付けた場合、出力 XML ファイルは、「n」個に分かれたファイルに断片化されません。例えば、集合・混載では、異なる 2 つの集合・混載明細を作成した場合、出力 XML ファイルには、「Load」ルート要素と 2 つの「LoadList」子要素が含まれます。  このボックスにチェックを付けない場合、出力 XML ファイルからルート要素が削除され、子要素ごとに分かれた XML ファイルが作成されます。
<b>「ファイル」タブ</b>	
入力ディレクトリー	入力ファイルを探すディレクトリーを入力します。 <b>注:</b> ディレクトリーに適切な読み取り/書き込み権限があり、絶対パス名が指定されていることを確認してください。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が <INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルに定義されていることを確認してください。 customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。

表 429. ファイル入出力受信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
完了ディレクトリー	<p>ファイルを処理した後に処理済みファイルを保存するディレクトリーを入力します。</p> <p><b>注:</b> ディレクトリーに適切な読み取り/書き込み権限があり、絶対パス名が指定されていることを確認してください。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が &lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties ファイルに定義されていることを確認してください。プロパティおよび customer_overrides.properties ファイルの変更について詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation インストール・ガイド</i>』を参照してください。</p>
作業ディレクトリー	<p>処理を開始する前に入力ディレクトリーのファイルを移動しておくディレクトリーを入力します。</p> <p><b>注:</b> ディレクトリーに適切な読み取り/書き込み権限があり、絶対パス名が指定されていることを確認してください。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が &lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties ファイルに定義されていることを確認してください。customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド</i>』を参照してください。</p>
エラー・ディレクトリー	<p>処理されるファイル内のすべてのエラーが作成されるディレクトリーを入力します。処理されるファイルごとに、エラー・ファイルが新規作成されます。</p> <p><b>注:</b> ディレクトリーに適切な読み取り/書き込み権限があり、絶対パス名が指定されていることを確認してください。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が &lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties ファイルに定義されていることを確認してください。customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド</i>』を参照してください。</p>
エラー・ファイル接尾辞	<p>エラー・ファイルに追加する名前を入力します。エラー・ファイルには、入力ファイルの処理中に発生したエラーが記録されます。デフォルトは、.err です。</p>
完了ファイル接尾辞	<p>「完了ディレクトリー」を指定した場合、必須になります。デフォルトは、.done です。</p>
<b>「サーバー」タブ</b>	
「サーバー名」	<p>実際にサービスを実行する統合サーバー・インスタンスの名前を入力します。</p> <p>新規サーバーの作成について詳しくは、「新規サーバーの追加」を参照してください。</p>
「例外」タブ	<p>受信者リンク例外処理プロパティについては、683 ページの表 454を参照してください。</p>

## 接続プロパティ

ファイル入出力ノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 430. ファイル入出力接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	非同期的に起動されるサービスの場合のみ
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"><li>• FTP 転送ノード</li><li>• テキスト・トランスレーター・コンポーネント・ノード</li><li>• エンド・ノード</li></ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"><li>• 開始ノード</li><li>• FTP 転送ノード</li><li>• テキスト・トランスレーター・コンポーネント・ノード</li></ul>
データを変更せずに渡す	転送ノードはデータを変更しません

## アプリケーション・プラットフォーム・フレームワークでの EOF メッセージの使用可能化

EOF メッセージの作成は、以下の 2 つの部分に分かれています。

- ファイルの入力/出力処理の変更。
- EOF メッセージを処理するための JMS キューおよびデータベース受信者の変更。

### ファイルの入力/出力処理の変更

ファイル入出力受信者は、サービス定義フレームワーク内の次のコンポーネントに送信される前に、発信 XML メッセージに、固有のメッセージ・グループ ID `YantraMessageGroupID` をスタンプします。ファイルの最後に達すると、EOF メッセージが、同じメッセージ・グループ ID で作成されます。この EOF メッセージは、各ファイルの最後に特殊な処理が必要な場合に役立ちます。

### EOF メッセージ作成のルール

Sterling Selling and Fulfillment Foundation・ファイル入出力アダプター・コンポーネントを使用する場合、同じ固有のメッセージ・グループ ID が追加され、メッセージ・ヘッダーがデフォルトで各メッセージに追加されます。

サード・パーティー・コンポーネントを使用し、Sterling Selling and Fulfillment Foundationと統合する際の、EOF メッセージ作成のルールは以下のとおりです。

- EOF メッセージは、以下の形式でなければなりません。

```
<EOF YantraMessageGroupID="Mandatory" />
```

- XML ルート・ノード名は EOF でなければなりません。また、`YantraMessageGroupId` は必須属性になります。この属性は、1 つのグループに属するすべてのメッセージを識別する上で必須です。

- Sterling Selling and Fulfillment Foundationが EOF メッセージを JMS キューまたはデータベースに書き込む際、MessageType="EOF" を持つメッセージ・ヘッダーがフレームワークによって作成されます。

注: サード・パーティー・コンポーネントを使用して JMS キューまたはデータベースに EOF メッセージを書き込んでいる場合は、EOF メッセージのヘッダーが MessageType="EOF" であることを確認する必要があります。

## EOF メッセージ作成のシナリオの例

EOF メッセージの作成、および JMS キューまたはデータベースでのメッセージの処理に関するステップは、ファイル入出力アダプターへの入力のサンプル XML ファイルで詳しく説明されています。

以下の図は、ファイル入出力コンポーネントを持つサービス・フレームワークを示しています。



1. 入力ファイルには、区切り文字で区切られているファイル、テキスト・ファイル、または XML ファイルを使用できます。この例では、XML ファイルを考慮しています。

```
<Items Attr1="Value1" Attr2="Value2" Attr3="Value3" >
  <Item ItemId="Item1" />
  <Item ItemId="Item2" />
  <Item ItemId="Item3" />
</Items>
```

図 32. ファイル入出力ノードからのサンプル入力ファイル

2. 各子ノードの解析された入力 XML ファイルが、JMS キューまたはデータベースに個別メッセージとして渡されます。
3. 次に、フレームワークは、キューに入れられた各メッセージに、すべての入力 XML ファイルのルート・ノード属性を追加します。

注: 入力 XML のルート・ノードに YantraMessageGroupID が含まれていない場合、フレームワークは固有 ID を生成して、キューに入れられた各メッセージに追加します。

入力ファイルが XML ファイルでない場合、ルート・ノード属性は EOF ノードに含まれません。以下に指定した属性が含まれます。

```
<EOF YantraMessageGroupID="file1.txt.001" FileName=""
  FileSize="" LastModifiedTime="" />
```

4. EOF 要素には、入力 XML ファイルのファイル名、ファイル・サイズ (バイト単位)、ファイルの最終変更時刻と共に、そのファイルのルート要素にある属性が含まれます。

## EOF メッセージを処理するための JMS キューおよびデータベース受信者の変更

キューまたはデータベースで受信したメッセージについては、図 33に示した例で説明されています。



図 33. JMS キューまたはデータベースで作成された出力メッセージ

```
1. <Item YantraMessageGroupID="file1.txt.001"
ItemID="Item1" Attr1="Value1" Attr2="Value2" Attr3="Value3"/>
/>
2. <Item YantraMessageGroupID="file1.txt.001"
ItemID="Item2" Attr1="Value1" Attr2="Value2" Attr3="Value3"
/>
/>
<Item YantraMessageGroupID="file1.txt.001"
ItemID="Item3" Attr1="Value1" Attr2="Value2" Attr3="Value3"
/>
/>
4. <EOF YantraMessageGroupID="file1.txt.001" ItemID="Item4"
Attr1="Value1" Attr2="Value2" Attr3="Value3" FileName=""
FileSize="" LastModifiedTime="" />
```

1. JMS キューまたはデータベースで受信したメッセージで EOF に達すると、フレームワークは EOF に同じメッセージ・グループ ID があるかどうかチェックします。
2. JMS キューまたはデータベース受信者コンポーネントを構成して、EOF メッセージを受信した際にサービスが起動されるようにする必要があります。サービスが起動されない場合、例外がスローされます。
3. フレームワークは、サービスを呼び出すまでの一定時間、待機状態に設定されません。この待機時間は、<INSTALL\_DIR>/properties/customer\_overrides.properties ファイルで構成できます。

customer\_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。

通常は、サービスに渡される XML ファイルのルート・ノード名は EOF でなければなりません。しかし、EOF の代わりに、カスタム・ルート・ノード名を指定することができます。このノード名は、JMS キューまたはデータベース受信者のプロパティに指定されます。

例えば、ルート・ノード名を、EOF メッセージのルート・ノード名が NewRootNode、EOF メッセージで実行するサービスが NewService としてカスタマイズする場合、以下のように NewService の入力に含まれていなければならない XML 属性を、「EOF」というメッセージ・タイプ値と共に追加します。

```
<EOF YantraMessageGroupID='123' />
```

NewService への入力は、<NewRootNodeYantraMessageGroupID='123' /> と構成されます。

## 統合サーバーによるエラー処理

EOF ファイル・メッセージが統合サーバーに到達すると、このサービスについて、同じ YantraMessageGroupID を使用して再処理可能なメッセージがないか、チェックされます。再処理可能な保留中のエラー・メッセージがある場合、EOF メッセージは「再処理可能」とマークされます。その後で、このエラー・メッセージは、YFS\_REPROCESS\_TABLE に挿入されます。

---

## ファイル転送プロトコル (FTP)

FTP ノードを使用して、ファイルを送信/受信することができます。ローカル・ディレクトリーに存在するファイルは、FTP サーバー上のリモート・ディレクトリーに送信されます。リモート・ディレクトリーに存在するファイルは、FTP サーバーから受信されてローカル・ディレクトリーに格納されます。

注: 指定されたリモート・ユーザーおよび統合サーバーを実行するユーザーに対して、ソース・ディレクトリーと宛先ディレクトリーおよびファイルへの読み取り権限/書き込み権限がすべて与えられていることを確認してください。

注: FTP サーバーは、マルチスレッドではありません。

## FTP 送信者

### 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

表 431. FTP 送信者構成プロパティ

属性	説明
「実行時」タブ	
サブサービス名	サービス定義内のそれぞれの非同期受信者に対して、固有の ID を入力します。
サーバー・アドレス	リモート FTP サーバーの IP アドレスを入力します。
「ポート」	リモート FTP サーバーのポート番号を入力します。デフォルトは、ポート 21 です。
ユーザー ID	FTP サーバーに対して使用するログイン ID を入力します。
ポーリング間隔	ソース・ディレクトリーの未処理ファイルをポーリングする時間を秒単位で入力します。
パターンを含む	取り出すファイルの正規表現パターンを入力します。これを指定しない場合、作業ディレクトリー内のすべてのファイルが含まれます。  使用可能な Perl 正規表現の例は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• *.*.txt - すべてのテキストファイルを表します。</li><li>• temp\.txt - 「temp」のパターンを含むすべてのテキスト・ファイルを表します。</li></ul>

表 431. FTP 送信者構成プロパティ (続き)

属性	説明
パスワード	FTP サーバーに対して使用するパスワードを入力します。
バイナリー転送	非 ASCII 文字を含むデータを転送するには、このオプションを選択します。
ASCII 転送 (ASCII Transfer)	テキスト・ファイルを転送するには、このオプションを選択します。
ファイルの圧縮	ファイルを圧縮して、圧縮ファイルをリモート FTP サーバーに転送するには、このフィールドを選択します。
ローカル ZIP 完了ディレクトリー	「ファイルの圧縮」を選択した場合、圧縮ファイルを格納するディレクトリーを入力します。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が <INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルに定義されていることを確認してください。customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> プロパティ・ガイド』を参照してください。
「ソース・ファイル・パラメーター」タブ	
作業ディレクトリー	ファイルの転送元になる FTP サーバー上のディレクトリーを入力します。 注: ディレクトリーに適切な読み取り/書き込み権限があり、絶対パス名が指定されていることを確認してください。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が <INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルに定義されていることを確認してください。customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> プロパティ・ガイド』を参照してください。
完了ディレクトリー	リモートの完了ディレクトリーを入力します。これは、リモートのステー징・ディレクトリーからファイルが正常に転送された後に、それらのファイルの移動先となります。 注: ディレクトリーに適切な読み取り/書き込み権限があり、絶対パス名が指定されていることを確認してください。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が <INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルに定義されていることを確認してください。customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> プロパティ・ガイド』を参照してください。
ファイル区切り文字	FTP サーバーで使用されるファイル区切り文字を入力します。ファイル区切り文字は、FTP サーバーの設定で指定されるフォルダー区切り文字です。これは、最も一般的にスラッシュ (/) で表されます。このフィールドは必須です。
完了接尾辞 (Completion Suffix)	リモートの作業ディレクトリーからのファイルをリモートの完了ディレクトリーに移動したときに、ファイル名の末尾に追加する接尾辞を入力します。

表 431. FTP 送信者構成プロパティ (続き)

属性	説明
「宛先ファイル・プロパティ」タブ	
作業ディレクトリー	受信したファイルの転送先となるディレクトリーを入力します。 注: ディレクトリーに適切な読み取り/書き込み権限があり、絶対パス名が指定されていることを確認してください。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が <INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルに定義されていることを確認してください。 customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。
完了ディレクトリー	ローカルの完了ディレクトリーを入力します。これは、リモートの作業ディレクトリーからファイルが正常に転送された後に、それらのファイルの移動先となります。 注: ディレクトリーに適切な読み取り/書き込み権限があり、絶対パス名が指定されていることを確認してください。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が <INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルに定義されていることを確認してください。 customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。
ファイル区切り文字	FTP サーバーで使用されるファイル区切り文字を入力します。このフィールドは必須です。
完了接尾辞 (Completion Suffix)	ローカルの作業ディレクトリーからのファイルをローカルの完了ディレクトリーに移動したときに、ファイル名の末尾に追加する接尾辞を入力します。
「サーバー」タブ	
「サーバー名」	サービスを実際に行うサーバーの名前を入力します。  新規サーバーの作成については、「新規サーバーの追加」を参照してください。
「例外」タブ	受信者リンク例外処理プロパティについては、683 ページの表 454を参照してください。

注: 同じファイルの FTP 転送を試みるファイル受信者またはファイル送信者の、複数のインスタンスを構成しないでください。ファイル・データの紛失を招く可能性があります。

## FTP 受信者 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

表 432. FTP 受信者構成プロパティ

属性	説明
<b>「実行時」タブ</b>	
サブサービス名	サービス定義内のそれぞれの非同期受信者に対して、固有の ID を入力します。
サーバー・アドレス	リモート FTP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
「ポート」	リモート FTP サーバーのポート番号を入力します。デフォルトは、ポート 21 です。
ユーザー ID	FTP サーバーに対して使用するログイン ID を入力します。
ポーリング間隔	ソース・ディレクトリーの未処理ファイルをポーリングする時間を秒単位で入力します。
パターンを含む	取り出すファイルの正規表現パターンを入力します。これを指定しない場合、作業ディレクトリー内のすべてのファイルが含まれます。  使用可能な Perl 正規表現の例は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• *.*\txt - すべてのテキストファイルを表します。</li> <li>• temp.\txt - 「temp」のパターンを含むすべてのテキスト・ファイルを表します。</li> </ul>
パスワード	FTP サーバーに対して使用するパスワードを入力します。
バイナリー転送	非 ASCII 文字を含むデータを転送するには、このオプションを選択します。
ASCII 転送 (ASCII Transfer)	テキスト・ファイルを転送するには、このオプションを選択します。
ファイルの圧縮解除	受信したファイルが圧縮されている場合、このフィールドを選択します。
<b>「ソース・ファイル・パラメーター」タブ</b>	
作業ディレクトリー	ファイルの転送元になる FTP サーバー上のディレクトリーを入力します。 <b>注:</b> ディレクトリーに適切な読み取り/書き込み権限があり、絶対パス名が指定されていることを確認してください。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が <code>&lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties</code> ファイルに定義されていることを確認してください。 <code>customer_overrides.properties</code> ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> プロパティ・ガイド』を参照してください。

表 432. FTP 受信者構成プロパティ (続き)

属性	説明
完了ディレクトリー	完了ディレクトリーを入力します。ファイルは、リモートのステージング・ディレクトリーから正常に転送された後、サーバー上のこの完了ディレクトリーに移動されます。 注: ディレクトリーに適切な読み取り/書き込み権限があり、絶対パス名が指定されていることを確認してください。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が <INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルに定義されていることを確認してください。 customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。
ファイル区切り文字	FTP サーバーで使用されるファイル区切り文字を入力します。ファイル区切り文字は、FTP サーバーの設定で指定されるフォルダー区切り文字です。これは、最も一般的にスラッシュ (/) で表されます。このフィールドは必須です。
完了接尾辞 (Completion Suffix)	リモートの作業ディレクトリーからのファイルをリモートの完了ディレクトリーに移動したときに、ファイル名の末尾に追加する接尾辞を入力します。
<b>「宛先ファイル・プロパティ」タブ</b>	
作業ディレクトリー	受信したファイルの転送先となるディレクトリーを入力します。 注: ディレクトリーに適切な読み取り/書き込み権限があり、絶対パス名が指定されていることを確認してください。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が <INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルに定義されていることを確認してください。 customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。
完了ディレクトリー	完了ディレクトリーを入力します。ファイルは、リモートの作業ディレクトリーから正常に転送された後、次にローカルの完了ディレクトリーに移動されます。 注: ディレクトリーに適切な読み取り/書き込み権限があり、絶対パス名が指定されていることを確認してください。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が <INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルに定義されていることを確認してください。 customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。
ファイル区切り文字	FTP サーバーで使用されるファイル区切り文字を入力します。このフィールドは必須です。
完了接尾辞 (Completion Suffix)	オプション。ファイルをローカルの作業ディレクトリーからローカルの完了ディレクトリーに移動したときに、ファイル名の末尾に追加する接尾辞です。

表 432. FTP 受信者構成プロパティ (続き)

属性	説明
「サーバー」タブ	
「サーバー名」	サービスを実際に行うサーバーの名前を入力します。 新規サーバーの作成について詳しくは、「新規サーバーの追加」を参照してください。
「例外」タブ	受信者リンク例外処理プロパティについては、683 ページの表 454 を参照してください。

注: 同じファイルの FTP 転送を試みるファイル受信者またはファイル送信者の、複数のインスタンスを構成しないでください。ファイル・データの紛失を招く可能性があります。

## 接続プロパティ

FTP ノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 433. FTP 接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	非同期的に起動されるサービスの場合のみ
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファイル入出力転送ノード</li> <li>エンド・ノード</li> <li>FTP の後のパススルーは不可</li> </ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>開始ノード。非同期的に起動されるサービスの場合のみ。</li> <li>ファイル入出力転送ノード</li> <li>FTP の前のパススルーは不可</li> </ul>
データを変更せずに渡す	転送ノードはデータを変更しません

## Hypertext Transport Protocol (HTTP)

HTTP 転送ノードは、HTTP POST メソッドを使用して同期メッセージを送信する方法を定義します。HTTP 転送ノードには、送信者関連のプロパティが備わっています。

### 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

表 434. HTTP 構成プロパティ

プロパティ	説明
「URL」	メッセージの送信先の URL を入力します。
HTTP ポスト変数	HTTP POST データを割り当てる変数名を入力します。
安全	このフィールドが選択されると、指定した URL への送信時にメッセージが暗号化されます。

表 434. HTTP 構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
キー保管タイプ	「安全」をチェックした場合、この値を JKS (Java キー保管) に設定します。
キー保管	「安全」を選択した場合、クライアント・サイドのデジタル証明書を格納するためのキー保管を入力します。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が <INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルに定義されていることを確認してください。 customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> プロパティ・ガイド』を参照してください。
キー保管パスワード	「安全」を選択した場合、キー保管にアクセスするためのパスワードを入力します。
トラストストア	「安全」を選択した場合、サーバー・サイドのデジタル証明書を格納するためのトラストストアを入力します。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が <INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルに定義されていることを確認してください。 customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> プロパティ・ガイド』を参照してください。
トラストストア・パスワード	「安全」を選択した場合、トラストストアにアクセスするためのパスワードを入力します。

注: 保護された HTTP 呼び出しを実行するには、<JAVA\_HOME>/jre/lib/security/java.security ファイルを変更する必要があります。このファイルの以下の行をコメント化します。

```
security.provider.2=com.sun.rsajca.Provider
```

このプロパティをコメント化することによって、この後のコード内で設定される security.provider 変数を、実行時にロードすることができます。共通の Java セキュリティ・ファイルを変更しない場合は、weblogic.policy ファイルの使用に関する BEA の資料を参照し、適宜そのファイルを変更してください。weblogic.policy ファイルは、BEA の Web サイト [http://download.oracle.com/docs/cd/E13222\\_01/wls/docs81/index.html#1091743](http://download.oracle.com/docs/cd/E13222_01/wls/docs81/index.html#1091743) で推奨されている必要な変更を行って使用してください。

以下のパラメーターを Oracle WebLogic 始動スクリプトに追加することによって、Oracle webLogic.policy セキュリティ・ポリシー・ファイルを Java セキュリティ・マネージャーで使用可能にできます。

```
java -Djava.security.manager -Djava.security.policy=<WLS_HOME>/lib/weblogic.policy:wConnection Properties
```

HTTP ノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 435. HTTP 接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期的に起動されたサービスの場合のみ
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> </ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>開始ノード</li> <li>任意の同期転送ノード</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> <li>任意の非同期転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く。接続にはパススルー・ノードを使用。)</li> </ul>
データを変更せずに渡す	転送ノードはデータを変更しません

## WebService

この WebService 転送ノードを使用して、サービス定義フレームワークがアウトバウンド WebService 呼び出しをできるようにします。WebService および smcfs.ear の作成方法について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* インストール・ガイド」を参照してください。

注: WebService SDF コンポーネントは非推奨であり、将来のバージョンで削除されます。WebService の起動には WebService SDF コンポーネントを使用しないことをお勧めします。代わりに、カスタム API を作成して WebService を起動します。

注: API を下位互換性モードで呼び出すために WebService を使用することはできません。また、サービス・ビルダーを使用してのアウトバウンド WebService 呼び出しは、HTTPS プロトコルをサポートしていません。

### 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

- 以下のアプリケーション・サーバーに応じて構成可能。
  - Oracle WebLogic
  - IBM Websphere
  - JBoss

IBM WebSphere の場合

Pass -D websphere-java2wsdl-style=<rpc|document> in the ear command line

JBoss の場合

Pass -D jboss-java2wsdl-style=<rpc|document> in the ear command line.

Oracle WebLogic の場合、文書リテラルを使用します。

JBoss の場合、変数に基づきます。

コーディングのスタイルを指定する Ear.sh ドキュメンテーションを作成します。

Oracle WebLogic および IBM Websphere はサポートされてパラメーター化が可能です。その他は、文書リテラルがサポートされます。

表 436. *WebService* の構成プロパティ

プロパティ	説明
「一般」タブ	
「URL」	メッセージの送信先の URL を入力します。例: http://localhost:7001/smcfsejb/services
ターゲット・オブジェクトの URN	Web サービスのリソース名を入力します。例: yantrawebservice
Sterling Selling and Fulfillment Foundation WebService か	このボックスにチェック・マークを付けて、このサービスが Sterling Selling and Fulfillment Foundation WebService を呼び出すことを指示します。  このボックスにチェック・マークを付けると、デフォルトのパラメーター名は apiString になり、このタブの「パラメーター名」テキスト・ボックスは使用不可になります。
パラメーター名	ドキュメント・パラメーターの名前を入力します。
エンコード・スタイル URI	使用するエンコードの名前を入力します。例: http://schemas.xmlsoap.org/soap/encoding/
メソッド名	起動するメソッドの名前を入力します。
安全	このフィールドが選択されると、指定した URL への送信時にメッセージが暗号化されます。
トラストストア	「安全」を選択した場合、サーバー・サイドのデジタル証明書を格納するためのトラストストアを入力します。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が <INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルに定義されていることを確認してください。 customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。
トラストストア・パスワード	「安全」を選択した場合、トラストストアにアクセスするためのパスワードを入力します。
キー保管タイプ	「安全」をチェックした場合、この値を JKS (Java キー保管) に設定します。
キー保管	「安全」を選択した場合、クライアント・サイドのデジタル証明書を格納するためのキー保管を入力します。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が <INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルに定義されていることを確認してください。 customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。
キー保管パスワード	「安全」を選択した場合、キー保管にアクセスするためのパスワードを入力します。

表 436. *WebService* の構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
SOAPActionURI	この属性で、必要なアウトバウンド Web サービスの起動に使用する URI を入力します。例えば、 <code>http://tempuri.org/PricingEngineGold/Service1/PricingEngineFunc</code> は有効な入力 URI です。
「引数」タブ	
引数名	WebService メソッドに渡すパラメーターの名前。
引数値	WebService メソッドに渡すパラメーターの値。

## 接続プロパティ

WebService ノードの接続プロパティは以下のとおりです。

表 437. *WebService* の接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期的に起動されたサービスの場合のみ
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> </ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>開始ノード</li> <li>任意の同期転送ノード</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> <li>任意の非同期転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く。接続にはパススルー・ノードを使用。)</li> </ul>
データを変更せずに渡す	転送ノードはデータを変更しません

## 同期 Oracle WebLogic および同期 MQSeries

同期 MQSeries および同期 Oracle WebLogic の転送ノードにより、JMS キューを使用して要求操作および応答操作を行うことができます。定義される期間内に応答を受け取らない場合、例外がスローされます。

適切な応答メッセージの識別は、MESSAGEID という名のヘッダー・フィールドを使用して行われます。要求メッセージがキューに入れられる場合、MESSAGEID ヘッダーには現在時刻およびカウンターに基づく固有値が設定されます。応答ヘッダーには、応答ヘッダーがピックアップされて正常に処理されるために同じメッセージ ID があることが必要です。

**注:** MQSeries キューでは、ピックアップ可能なメッセージよりも多くのスレッドが実行中の場合、以下のメッセージがアダプター・ウィンドウに表示される可能性があります。

```
2002.02.25 09:25:53 MQJMS2002E failed to get message from MQ queue
```

注: IBM AIX® 上で実行し、MQSeries を使用している場合は、アプリケーション・サーバー起動スクリプト、統合アダプター・スクリプト、およびすべてのエージェント・サーバー・スクリプトに、以下の環境変数を含めます。

```
LDR_CNTRL=MAXDATA=0x30000000
export LDR_CNTRL
```

## 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

表 438. 同期 WebLogic JMSQueue および同期 MQSeries のプロパティ

プロパティ	説明
<b>「実行時」タブ</b>	
「プロバイダー URL」	<p>使用する JMS 実装のプロバイダーの URL を入力します。これは、JNDI 検索に使用する URL です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Oracle WebLogic を使用した MQSeries の場合、プロパティ (ファイル・システム・コンテキスト用) を <code>file:[drive:]/&lt;pathname&gt;</code> と設定し、そのディレクトリがご使用の環境に存在することを確認してください。</li> <li>• Oracle WebLogic JMS の場合、<code>t3://&lt;DNS Server Name or IP Address&gt;:&lt;port&gt;</code> に設定します。</li> </ul>
「初期コンテキスト・ファクトリー」	<p>初期コンテキスト・ファクトリーのクラス名。これは、命名およびディレクトリ操作の名前解決の開始点となります。</p> <p>IBM WebSphere IOP の URL からアクセスしている MQSeries を使用している場合は、「WebSphere MQ」を選択します。これによって、クラス名は <code>com.ibm.websphere.naming.WsnInitialContextFactory</code> に設定されます。</p> <p>Oracle WebLogic と同様に、ファイル URL からアクセスしている MQSeries を使用している場合は、「ファイル」を選択します。これによって、クラス名は <code>com.sun.jndi.fscontext.RefFSContextFactory</code> に設定されます。</p> <p>Oracle WebLogic JMS を使用している場合は、「WebLogic」を選択します。これによって、クラス名は <code>weblogic.jndi.WLInitialContextFactory</code> に設定されます。</p>
「QCF ルックアップ」	<p>キュー接続ファクトリー名を入力します。これは、JNDI からキュー接続ファクトリーを取得する場合に使用されます。クライアントは、キュー接続ファクトリーを使用して、JMS プロバイダーとのキュー接続を作成します。QCF ルックアップ用の任意の固有 ID を入力します。この名前は、Oracle WebLogic コンソールまたは MQSeries で構成された名前と同じ必要があります。</p>
圧縮が必要です	<p>このオプションは、メッセージの圧縮が必要な場合に選択します。</p>

表 438. 同期 WebLogic JMSQueue および同期 MQSeries のプロパティ (続き)

プロパティ	説明
JMS セキュリティーを有効にする	<p>JMS セキュリティーを有効にする場合は、このボックスにチェックを付けます。これを選択すると、「JMS セキュリティー・プロパティ」タブが使用可能になり、キュー・ベースまたは JNDI ベース (またはその両方) の JMS セキュリティーを構成できるようになります。</p> <p><b>注:</b> Oracle WebLogic 10.3 では、JNDI ベースの JMS セキュリティーのみがサポートされています。キュー・ベースのセキュリティが有効になっている場合は、バイパスされます。そのため、Oracle WebLogic 10.3 を使用している場合は、JNDI ベースの JMS セキュリティーを構成する必要があります。</p> <p><b>注:</b> JMS セキュリティーが有効な場合、JMS セッション・プールを無効にしておく必要があります。JMS セッション・プールを無効にするには、&lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties ファイルで、yfs.jms.session.disable.pooling プロパティを「Y」に設定します。customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。</p>
<b>応答タブ</b>	
キュー名	応答メッセージを受け取るキューの名前を入力します。
セクター	メッセージ・ヘッダーに基づいて、セクターを入力します。セクターを指定するときは、単一引用符のみを使用してください。例えば、セクター APINAME='createOrder' を指定すると、header name='APINAME' で value='createOrder' のすべてのメッセージが選択されます。
タイムアウト (秒)	要求がタイムアウトするまでの時間間隔 (秒) を入力します。
<b>要求タブ</b>	
キュー名	要求メッセージの送信先であるキューの名前を入力します。
ヘッダー名	<p>メッセージ・ヘッダーの名前。例えば、APINAME。</p> <p><b>注:</b> ヘッダー名は固有でなければなりません。2 つのヘッダーに同じヘッダー名を付けることはできません。</p> <p> を選択して、新規のヘッダー名および値を追加します。</p> <p>既存のヘッダー名とヘッダー値を変更する場合は、 を選択します。</p> <p>既存のヘッダー名とヘッダー値を削除する場合は、 を選択します。</p>

表 438. 同期 WebLogic JMSQueue および同期 MQSeries のプロパティ (続き)

プロパティ	説明
ヘッダー値	<p>「ヘッダー名」に関連付けられる値。「ヘッダー名」と「ヘッダー値」は、1組でメッセージ・ヘッダーとして保管され、メッセージ・セレクターを使用して照会することができます。</p> <p>これは、静的な値に設定することができます。例えば、<code>'createOrder'</code> ではメッセージのヘッダーが <code>APINAME=createOrder</code> になります。</p> <p>また、構文 <code>xml://&lt;full path of the element from root&gt;/@&lt;attribute name&gt;</code> を使用して、メッセージから動的に抽出されるように設定することもできます。これによって、ヘッダー <code>APINAME='&lt;value of attribute name in the XML&gt;'</code> を持つメッセージが生成されます。</p>
<b>「再接続 (Reconnect)」タブ</b>	
再試行間隔 (ミリ秒)	<p>JMS サーバーへの接続が失われた場合、JMS サーバーとの接続を再確立するために行う試行と試行の間の時間を入力します。このパラメーターは、「再試行回数」パラメーターと共に使用されます。デフォルト値は 0 で、再試行の間には遅延がないことを表します。</p>
再試行回数	<p>JMS サーバーへの接続が失われた場合、例外をスローするまでに JMS サーバーとの接続を再確立するために行う試行の回数を入力します。このパラメーターは、「再試行間隔」パラメーターと共に使用されます。デフォルト値は 0 で、接続が失われると再試行せずに例外が即時にスローされることを表します。</p>
<b>「JMS セキュリティ・プロパティ」タブ</b>	
<p>このタブは、「実行時プロパティ」タブで「JMS セキュリティを有効にする」を選択すると有効になります。</p> <p><b>注:</b> ここで指定した JMS セキュリティ・プロパティは、<code>&lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties</code> ファイルにエージェントおよびフロー承認パラメーターを定義することでオーバーライドできます。 <code>customer_overrides.properties</code> ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド</i>』を参照してください。</p>	
キュー・ベースのセキュリティ	<p>JMS サービスにキュー・ベースのセキュリティを提供する場合は、このボックスにチェックを付けます。</p> <p><b>注:</b> Oracle WebLogic 10.3 では、JNDI ベースの JMS セキュリティのみがサポートされています。キュー・ベースのセキュリティが有効になっている場合は、バイパスされます。そのため、Oracle WebLogic 10.3 を使用している場合は、JNDI ベースの JMS セキュリティを構成する必要があります。</p>
JNDI ベースのセキュリティ	<p>JMS サービスに JNDI ベースのセキュリティを提供する場合は、このボックスにチェックを付けます。</p>
<b>JMS セキュリティ・パラメーター</b>	
<p>アプリケーション・サーバー固有の JMS セキュリティ・パラメーターについて詳しくは、「JMS セキュリティ・プロパティの設定」のセクションを参照してください。</p>	
パラメーター名	Oracle のセキュリティ・パラメーター名を入力します。
パラメーター値	セキュリティ・パラメーターの値を入力します。

注: JMS セッション・オブジェクトは、実行中のサービスに基づいてプールすることができます。そのため、JMS 送信者がセッション・オブジェクトを必要としている場合、Sterling Application Platform フレームワークは、プールからの空きセッション・オブジェクト取得を試みます。使用可能な空きセッションがない場合は、メッセージを送信するために新規のセッション・オブジェクトが作成され、プールに追加されます。特定の構成可能な期間にわたってアイドル状態のセッション・オブジェクトは、フレームワークによってクローズされます。yfs.properties ファイル内の yfs.jms.session.reaptime プロパティは、JMS セッションのリープ時間の設定に使用します。このプロパティを変更するには、<INSTALL\_DIR>/properties/customer\_overrides.properties ファイルにエントリを追加します。customer\_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド」を参照してください。

## 接続プロパティ

同期 Oracle WebLogic JMSQueue ノードおよび同期 MQSeries ノードの接続プロパティは以下のとおりです。

表 439. 同期 WebLogic JMSQueue および同期 MQSeries のプロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期的に起動されたサービスの場合のみ
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> </ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>開始ノード</li> <li>任意の同期転送ノード</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> <li>任意の非同期転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)。接続にはパススルー・ノードを使用。</li> </ul>
データを変更せずに渡す	転送ノードはデータを変更しません

## Oracle WebLogic、MQSeries、および TIBCO JMS キュー

このコンポーネントは、WebLogic、MQSeries、および TIBCO JMS キューでメッセージング・サービスを起動するため共通インターフェースを提供します。このコンポーネントで、JMS キューを使用可能にするために必要な構成プロパティを指定できます。

注: MQSeries キューでは、ピックアップ可能なメッセージよりも多くのスレッドが実行中の場合、以下のメッセージがアダプター・ウィンドウに表示される可能性があります。

```
2002.02.25 09:25:53 MQJMS2002E failed to get message from MQ queue
```

注: IBM AIX 上で実行し、MQSeries を使用している場合は、アプリケーション・サーバー起動スクリプト、統合アダプター・スクリプト、およびすべてのエージェント・サーバー・スクリプトに、以下の環境変数を含めます。

```
LDR_CNTRL=MAXDATA=0x30000000
export LDR_CNTRL
```

## Oracle WebLogic、MQSeries、および TIBCO JMS キュー送信者

JMS 送信者は、1 次キューで開始した単一接続をキャッシュに入れます。メッセージの送信が失敗する場合、JMS 送信者は、メッセージ送信を構成可能な回数だけ再試行します。各試行の間の遅延は構成可能で、以下の表の「再接続」タブで定義されます。再試行回数の限度に達し、バックアップ・キューがない場合、例外がスローされます。

バックアップ・キューがセットアップされている場合、バックアップ・キューに接続されます。次回メッセージの送信を試行するときは、バックアップ・キューが現行キューになります。1 次キューに再接続するように、送信者を構成できます。1 次キューが動作中と検出された場合、切り替えが行われ、1 次キューが現行キューになります。

### 構成プロパティ

これらのノードの構成プロパティは、以下のとおりです。

表 440. WebLogic、MQSeries、および TIBCO JMS 送信者構成プロパティ

プロパティ	説明
「実行時」タブ	
1 次 JMS サーバーについて、このタブの設定を使用する必要があります。	
キュー名	メッセージの送信先であるキューの名前を入力します。
有効期間	キューからメッセージを削除するまでの期間を入力します。値を 0 にすると、メッセージはキューから削除されなくなります。  0 以外の値を設定した場合、指定された期間消費されなかったキュー内のメッセージは、プロバイダーによって自動的にキューから削除されます。
「プロバイダー URL」	使用する JMS 実装のプロバイダーの URL を入力します。これは、JNDI 検索に使用する URL です。  <ul style="list-style-type: none"> <li>Oracle WebLogic を使用した MQSeries の場合、プロパティ (ファイル・システム・コンテキスト用) を <code>file:[drive:]/&lt;pathname&gt;</code> と設定し、そのディレクトリがご使用の環境に存在することを確認してください。</li> <li>Oracle WebLogic JMS の場合、<code>t3://&lt;DNS Server Name or IP Address&gt;:&lt;port&gt;</code> に設定します。</li> <li>TIBCO JMS の場合、<code>tcp://&lt;DNS Server Name or IP Address&gt;:&lt;port&gt;</code> に設定します。</li> </ul>

表 440. WebLogic、MQSeries、および TIBCO JMS 送信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
「初期コンテキスト・ファクトリー」	<p>初期コンテキスト・ファクトリーのクラス名。これは、命名およびディレクトリ操作の名前解決の開始点となります。</p> <p>IBM WebSphere IOP の URL からアクセスしている MQSeries を使用している場合は、「WebSphere MQ」を選択します。これによって、クラス名は <code>com.ibm.websphere.naming.WsnInitialContextFactory</code> に設定されます。</p> <p>Oracle WebLogic と同様に、ファイル URL からアクセスしている MQSeries を使用している場合は、「ファイル」を選択します。これによって、クラス名は <code>com.sun.jndi.fscontext.RefFSContextFactory</code> に設定されます。</p> <p>Oracle WebLogic JMS を使用している場合は、「WebLogic」を選択します。これによって、クラス名は <code>weblogic.jndi.WLInitialContextFactory</code> に設定されます。</p> <p>TIBCO JMS を使用している場合は、TIBCO を選択します。これによって、クラス名は <code>com.tibco.tibjms.naming.TibjmsInitialContextFactory</code> に設定されます。</p>
「QCF ルックアップ」	<p>キュー接続ファクトリー名を入力します。これは、JNDI からキュー接続ファクトリーを取得する場合に使用されます。クライアントは、キュー接続ファクトリーを使用して、JMS プロバイダーとのキュー接続を作成します。QCF ルックアップ用の任意の固有 ID を入力します。この名前は、Oracle WebLogic コンソール、MQSeries、または TIBCO で構成された名前と同じでなければなりません。</p>
配達モード	<p>キューに入れる際に、メッセージをパーシスタントにするか、または非パーシスタントにするかを示します。</p>
圧縮が必要です	<p>オプション。キューに入れる前に、メッセージを圧縮する必要がある場合、このボックスにチェック・マークを付けます。</p>

表 440. WebLogic、MQSeries、および TIBCO JMS 送信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
このメッセージのコミットは、親トランザクションに依存します	<p>サービスの完了後にのみ、メッセージをキューにコミットする場合、このボックスにチェック・マークを付けます。</p> <p>メッセージを即時にキューにコミットする場合は、このボックスのチェック・マークを外します。</p> <p>例えば、何らかの標準 Sterling Selling and Fulfillment Foundation API の ON_SUCCESS イベントがサービスに接続されており、そのサービスでメッセージがトランザクション・モードでキューに書き込まれる場合、メッセージはその ON_SUCCESS イベントの正常終了時にのみキューにコミットされます。メッセージがステージされた後に、ON_SUCCESS イベントでエラーが発生した場合、メッセージはキューからロールバックされます。ただし、非トランザクション・モードの場合、一度ステージされたらメッセージはキューに残り、ロールバックされません。</p> <p><b>注:</b> このボックスにチェック・マークを付けた場合、システムは JMS コミットと DB コミットを同期化します。ただし、これは 2 フェーズ・コミットではありません。そのため、エラーを引き起こし、メッセージが重複する場合があります。</p>
JMS セキュリティーを有効にする	<p>JMS セキュリティーを有効にする場合は、このボックスにチェックを付けます。これを選択すると、「JMS セキュリティー・プロパティ」タブが使用可能になり、キュー・ベースまたは JNDI ベース (またはその両方) の JMS セキュリティーを構成できるようになります。</p> <p><b>注:</b> Oracle WebLogic 10.3 では、JNDI ベースの JMS セキュリティーのみがサポートされています。キュー・ベースのセキュリティが有効になっている場合は、バイパスされます。そのため、Oracle WebLogic 10.3 を使用している場合は、JNDI ベースの JMS セキュリティーを構成する必要があります。</p> <p><b>注:</b> JMS セキュリティーが有効な場合、JMS セッション・プールを無効にしておく必要があります。JMS セッション・プールを無効にするには、&lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties ファイルで、yfs.jms.session.disable.pooling プロパティを「Y」に設定します。customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。</p>
「ヘッダー」タブ	

表 440. WebLogic、MQSeries、および TIBCO JMS 送信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
ヘッダー名	<p>メッセージ・ヘッダーの名前。例えば、APINAME。  <b>注:</b> ヘッダー名は固有でなければなりません。2 つのヘッダーに同じヘッダー名を付けることはできません。</p> <p> を選択して、新規のヘッダー名および値を追加します。</p> <p>既存のヘッダー名とヘッダー値を変更する場合は、 を選択します。</p> <p>既存のヘッダー名とヘッダー値を削除する場合は、 を選択します。</p>
ヘッダー値	<p>「ヘッダー名」に関連付けられる値。「ヘッダー名」と「ヘッダー値」は、1 組でメッセージ・ヘッダーとして保管され、メッセージ・セレクターを使用して照会することができます。</p> <p>これは、静的な値に設定することができます。例えば、「createOrder」によって、APINAME='createOrder' というヘッダーを持つメッセージが生成されます。</p> <p>また、構文 <code>xml://&lt;full path of the element from root&gt;/@&lt;attribute name&gt;</code> を使用して、メッセージから動的に抽出されるように設定することもできます。これによって、ヘッダー <code>APINAME='&lt;value of attribute name in the XML&gt;'</code> を持つメッセージが生成されます。</p>
<p><b>「再接続 (Reconnect)」タブ</b></p>	
<p>バックアップ JMS サーバーについて、このタブの設定を使用する必要があります。</p>	
再試行間隔 (ミリ秒)	<p>1 次 JMS サーバーとの接続が失われた場合の、1 次 JMS サーバーとの接続を再確立する試行の間の時間を入力します。このパラメーターは、「再試行回数」パラメーターと共に使用されます。デフォルト値は 0 で、再試行間隔に遅延時間がないことを意味します。</p>
再試行回数	<p>1 次 JMS サーバーとの接続が失われた場合に、バックアップ JMS サーバーへのフェイルオーバーまで (有効な場合)、または例外をスローするまでに、1 次 JMS サーバーとの接続の再確立を試行する回数を入力します。このパラメーターは、「再試行間隔」パラメーターと共に使用されます。デフォルト値は 0 で、接続が失われてフェイルオーバーが発生した場合 (有効な場合)、または例外が即時にスローされた場合に、再試行を行わないことを意味します。</p>
バックアップ JMS キューを使用 (Use backup JMS Queue)	<p>バックアップ JMS キューを有効にする場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。</p> <p>このチェック・ボックスを選択した場合のみ、このタブ上の他のコントロールが有効になります。</p>

表 440. WebLogic、MQSeries、および TIBCO JMS 送信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
「プロバイダー URL」	<p>使用する JMS 実装のバックアップ JMS サーバー・プロバイダーの URL を入力します。これは、JNDI 検索に使用する URL です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ファイル URL を使用した MQSeries の場合、プロパティ (ファイル・システム・コンテキスト用) を <code>file:[drive:]/&lt;pathname&gt;</code> と設定し、そのディレクトリがご使用の環境に存在することを確認してください。</li> <li>• Oracle WebLogic JMS の場合、<code>t3://&lt;DNS Server Name or IP Address&gt;:&lt;port&gt;</code> に設定します。</li> <li>• IBM WebSphere JMS の場合、<code>corbaloc::&lt;DNS Server Name or IP Address&gt;:&lt;bootstrapport&gt;</code> に設定します。</li> <li>• TIBCO JMS の場合、<code>tcp://&lt;DNS Server Name or IP Address&gt;:&lt;port&gt;</code> に設定します。</li> </ul>
「初期コンテキスト・ファクトリー」	<p>バックアップ JMS サーバー用の初期コンテキスト・ファクトリーのクラス名。これは、命名およびディレクトリ操作の名前解決の開始点となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• IBM WebSphere IIOP の URL からアクセスしている MQSeries を使用している場合は、「WebSphere MQ」を選択します。これによって、クラス名は <code>com.ibm.websphere.naming.WsnInitialContextFactory</code> に設定されます。</li> <li>• Oracle WebLogic と同様に、ファイル URL からアクセスしている MQSeries を使用している場合は、「ファイル」を選択します。これによって、クラス名は <code>com.sun.jndi.fscontext.RefFSContextFactory</code> に設定されます。</li> <li>• Oracle WebLogic JMS を使用している場合は、Oracle WebLogic を選択します。これによって、クラス名は <code>weblogic.jndi.WLInitialContextFactory</code> に設定されます。</li> <li>• TIBCO JMS を使用している場合は、TIBCO を選択します。これによって、クラス名は <code>com.tibco.tibjms.naming.TibjmsInitialContextFactory</code> に設定されます。</li> </ul>
キュー名	<p>メッセージの送信先であるバックアップ・キューの名前を入力します。</p>
「QCF ルックアップ」	<p>バックアップ JMS サーバーのキュー接続ファクトリー名を入力します。これは、JNDI からキュー接続ファクトリーを取得する場合に使用されます。クライアントは、キュー接続ファクトリーを使用して、JMS プロバイダーとのキュー接続を作成します。QCF ルックアップ用の任意の固有 ID を入力します。この名前は、Oracle WebLogic コンソール、MQSeries、または TIBCO で構成された名前と同じでなければなりません。</p>

表 440. WebLogic、MQSeries、および TIBCO JMS 送信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
1 次 JMS キューへの再接続 (Reconnect To Primary JMS Queue)	バックアップ JMS キュー・サーバーへのフェイルオーバーの発生後、1 次 JMS キューに再接続する場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。このチェック・ボックスを選択したら、再接続までの待ち時間を入力します。
再接続までの時間 (秒)	バックアップ JMS サーバーへのフェイルオーバー後、1 次 JMS サーバーとの接続を再確立する試行の間の最大時間を入力します。1 次 JMS サーバーとの接続が再確立されると、1 次 JMS サーバーの使用に復帰します。1 次 JMS サーバーとの接続が再確立できない場合は、バックアップ JMS サーバーの使用を続行します。デフォルト値は 600 秒です。
<p>「JMS セキュリティ・プロパティ」タブ</p> <p>これは、「実行時」タブで「JMS セキュリティを有効にする」を選択している場合に有効になります。</p> <p><b>注:</b> ここで指定した JMS セキュリティ・プロパティは、&lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties ファイルにエージェントおよびフロー承認パラメータを定義することでオーバーライドできます。customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。</p>	
キュー・ベースのセキュリティ	<p>JMS サービスにキュー・ベースのセキュリティを提供する場合は、このボックスにチェックを付けます。</p> <p><b>注:</b> Oracle WebLogic 10.3 では、JNDI ベースの JMS セキュリティのみがサポートされています。キュー・ベースのセキュリティが有効になっている場合は、バイパスされます。そのため、Oracle WebLogic 10.3 を使用している場合は、JNDI ベースの JMS セキュリティを構成する必要があります。</p>
JNDI ベースのセキュリティ	JMS サービスに JNDI ベースのセキュリティを提供する場合は、このボックスにチェックを付けます。
<p>JMS セキュリティ・パラメータ</p> <p>アプリケーション・サーバー固有の JMS セキュリティ・パラメータについては、「JMS セキュリティ・プロパティの設定」のセクションを参照してください。</p>	
パラメータ名	セキュリティ・パラメータの名前を入力します。
パラメータ値	セキュリティ・パラメータの値を入力します。

**注:** JMS セッション・オブジェクトは、実行中のサービスに基づいてプールすることができます。そのため、JMS 送信者がセッション・オブジェクトを必要としている場合、Sterling Application Platform フレームワークは、プールからの空きセッション・オブジェクト取得を試みます。使用可能な空きセッションがない場合は、メッセージを送信するために新規のセッション・オブジェクトが作成され、プールに追加されます。特定の構成可能な期間にわたってアイドル状態のセッション・オブジェクトは、フレームワークによってクローズされます。

**注:** yfs.properties ファイル内の yfs.jms.session.reaptime プロパティは、JMS セッションのリープ時間の設定に使用します。このプロパティを変更するには、<INSTALL\_DIR>/properties/customer\_overrides.properties ファイルにエントリを追加します。customer\_overrides.properties ファイルを使用したプロパティ

ィーのオーバーライドについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティ・ガイド」を参照してください。

## Oracle WebLogic、MQSeries、および TIBCO JMS 受信者

JMS 受信者は、バックアップ・キューを保有しないため、2 つの異なるサービスを構成する必要があります。1 次キューを `listen` するサービスと、バックアップ・キューを `listen` するサービスです。例外が発生したとき、受信者は、再試行間隔に最大待ち時間の限度 (構成可能) が設定された、指数関数的なバックオフ・メカニズムを使用しようと試みます。

例えば、最大待ち時間が 600 秒の場合、受信者は最初に 1 秒待機し、次に 2 秒、4 秒、8 秒、16 秒というように指数関数的に 600 秒に達するまで待機し、その後受信者は 600 秒ごとに再試行します。したがって、総待ち時間に上限はありません。

JMS 受信者は、1 次キューおよびバックアップ・キューに関してお互いに独立して動作するため、これらのキュー全体でのメッセージの順序はサポートされません。

### 構成プロパティ

このノードの構成プロパティは、以下のとおりです。

表 441. *WebLogic*、*MQSeries*、および *TIBCO JMS* 受信者構成プロパティ

プロパティ	説明
「実行時」タブ	
サブサービス名	サービス定義内のそれぞれの非同期受信者に対して、固有の ID を入力します。
キュー名	メッセージの送信先であるキューの名前を入力します。
「プロバイダー URL」	使用する JMS 実装のプロバイダーの URL を入力します。これは、JNDI 検索に使用する URL です。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Oracle WebLogic を使用した MQSeries の場合、プロパティ (ファイル・システム・コンテキスト用) を <code>file:[drive:]/&lt;pathname&gt;</code> と設定し、そのディレクトリーがご使用の環境に存在することを確認してください。</li><li>• Oracle WebLogic JMS の場合、<code>t3://&lt;DNS Server Name or IP Address&gt;:&lt;port&gt;</code> に設定します。</li><li>• TIBCO JMS の場合、<code>tcp://&lt;DNS Server Name or IP Address&gt;:&lt;port&gt;</code> に設定します。</li></ul>

表 441. WebLogic、MQSeries、および TIBCO JMS 受信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
「初期コンテキスト・ファクトリー」	<p>初期コンテキスト・ファクトリーのクラス名。これは、命名およびディレクトリー操作の名前解決の開始点となります。</p> <p>IBM WebSphere IOP の URL からアクセスしている MQSeries を使用している場合は、「WebSphere MQ」を選択します。これによって、クラス名は <code>com.ibm.websphere.naming.WsnInitialContextFactory</code> に設定されます。</p> <p>Oracle WebLogic と同様に、ファイル URL からアクセスしている MQSeries を使用している場合は、「ファイル」を選択します。これによって、クラス名は <code>com.sun.jndi.fscontext.RefFSContextFactory</code> に設定されます。</p> <p>Oracle WebLogic JMS を使用している場合は、Oracle WebLogic を選択します。これによって、クラス名は <code>weblogic.jndi.WLInitialContextFactory</code> に設定されます。</p> <p>TIBCO JMS を使用している場合は、TIBCO を選択します。これによって、クラス名は <code>com.tibco.tibjms.naming.TibjmsInitialContextFactory</code> に設定されます。</p>
「QCF ルックアップ」	<p>キュー接続ファクトリー名を入力します。これは、JNDI からキュー接続ファクトリーを取得する場合に使用されます。クライアントは、キュー接続ファクトリーを使用して、JMS プロバイダーとのキュー接続を作成します。QCF ルックアップ用の任意の固有 ID を入力します。この名前は、Oracle WebLogic コンソール、MQSeries、または TIBCO で構成された名前と同じでなければなりません。</p>
受入モード	<p>メッセージがトランザクション・モードで受け入れられるか、または非トランザクション・モードで受け入れられるかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 非トランザクション・モードに設定した場合、メッセージは読み取りが終わるとすぐにキューから削除されます。</li> <li>• トランザクション・モードに設定した場合、メッセージは、機能的に処理されたとき、および処理中に例外がスローされた場合に、キューから削除されます。</li> </ul> <p><b>注:</b> 「再処理可能」フラグにチェック・マークが付いており、メッセージ処理時に例外が発生した場合、メッセージを削除する前に、<code>YFS_REPROCESS_ERROR</code> テーブルまたは <code>YFS_INBOX</code> テーブルにメッセージが追加されたことを確認してください。ただし、削除されたメッセージをテーブルに追加する際に「サービス中断」例外が発生した場合は、メッセージはキューに保持されます。</p>

表 441. WebLogic、MQSeries、および TIBCO JMS 受信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
初期スレッド	<p>メッセージを同時に処理できるスレッド数を入力します。スレッド数に基づいて、System Management Console を使用し、スレッド数を増加して、パフォーマンスを強化することができます。System Management Console の使用について詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation システム管理ガイド</i>」を参照してください。</p> <p>また、特定のサーバーの特定の統合アダプターについて、サービス定義フレームワークの複数インスタンスを開始することもできます。統合アダプターについて詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation パフォーマンス管理ガイド</i>」を参照してください。</p>
セレクトター	<p>メッセージ・ヘッダーに基づいて、セレクトターを入力します。これらのセレクトターは、Header Name='Header Value' という形式でなければなりません。セレクトターを指定するときは、単一引用符のみを使用してください。例えば、セレクトター APINAME='createOrder' を使用すると、ヘッダー名が「APINAME」で、値が「createOrder」であるすべてのメッセージが選択されます。</p>
EOF メッセージで実行するサービス	<p>メッセージに EOF メッセージ ID が含まれている場合、必須です。</p> <p> を選択して、EOF メッセージを受信した際に起動するサービスを選択します。EOF メッセージを受信すると、このフレームワークは、サービスを実行するまで数分間 (&lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties ファイルで構成可能) 待機します。詳しくは、633 ページの『アプリケーション・プラットフォーム・フレームワークでの EOF メッセージの使用可能化』を参照してください。</p> <p>customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについて詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド</i>」を参照してください。</p>
EOF メッセージのルート・ノード名	<p>メッセージに EOF メッセージ ID が含まれている場合、EOF メッセージのカスタム・ルート・ノード名を入力します。</p> <p>デフォルトでは、ファイルの終わりのメッセージのルート・ノードは、「EOF」です。詳しくは、633 ページの『アプリケーション・プラットフォーム・フレームワークでの EOF メッセージの使用可能化』を参照してください。</p>

表 441. WebLogic、MQSeries、および TIBCO JMS 受信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
JMS セキュリティーを有効にする	JMS セキュリティーを有効にする場合は、このボックスにチェックを付けます。これを選択すると、「JMS セキュリティー・プロパティ」タブが使用可能になり、キュー・ベースまたは JNDI ベース (またはその両方) の JMS セキュリティーを構成できるようになります。 注: Oracle WebLogic 10.3 では、JNDI ベースの JMS セキュリティーのみがサポートされています。キュー・ベースのセキュリティが有効になっている場合は、バイパスされます。そのため、Oracle WebLogic 10.3 を使用している場合は、JNDI ベースの JMS セキュリティーを構成する必要があります。
<b>「サーバー」タブ</b>	
「サーバー名」	サービスを実際に実行するサーバーの名前を選択します。  新規サーバーの作成について詳しくは、「新規サーバーの追加」を参照してください。
圧縮解除が必要です	着信メッセージが圧縮されており、圧縮解除が必要なことを示すには、このフィールドを選択します。
「例外」タブ	受信者リンク例外処理プロパティについては、683 ページの表 454を参照してください。
<b>「再接続 (Reconnect)」タブ</b>	
再試行間隔の最大時間 (分)	再接続を試行する間隔の最大時間を入力します。デフォルト値は 10 分です。
<b>「JMS セキュリティー・プロパティ」タブ</b>	
これは、「実行時」タブで「JMS セキュリティーを有効にする」を選択している場合に有効になります。 注: ここで指定した JMS セキュリティー・プロパティは、<INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルにエージェントおよびフロー承認パラメータを定義することでオーバーライドできます。customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。	
キュー・ベースのセキュリティ	JMS サービスにキュー・ベースのセキュリティを提供する場合は、このボックスにチェックを付けます。 注: Oracle WebLogic 10.3 では、JNDI ベースの JMS セキュリティーのみがサポートされています。キュー・ベースのセキュリティが有効になっている場合は、バイパスされます。そのため、Oracle WebLogic 10.3 を使用している場合は、JNDI ベースの JMS セキュリティーを構成する必要があります。
JNDI ベースのセキュリティ	JMS サービスに JNDI ベースのセキュリティを提供する場合は、このボックスにチェックを付けます。
<b>JMS セキュリティー・パラメータ</b>	
アプリケーション・サーバー固有の JMS セキュリティー・パラメータについて詳しくは、「JMS セキュリティー・プロパティの設定」のセクションを参照してください。	
パラメータ名	セキュリティ・パラメータの名前を入力します。
パラメータ値	セキュリティ・パラメータの値を入力します。

## 接続プロパティ

WLJMS ノードおよび MQJMS ノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 442. WebLogic JMS および MQSeries JMS 接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期モードまたは非同期モードで起動されたサービスの場合に可能です。
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"><li>任意のコンポーネント・ノード</li><li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く。接続にはパススルー・ノードを使用。)</li></ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"><li>開始ノード</li><li>任意の同期転送ノード</li><li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li><li>任意の非同期転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く。接続にはパススルー・ノードを使用。)</li></ul>
データを変更せずに渡す	転送ノードはデータを変更しません

## IBM WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キュー

このコンポーネントは、IBM WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キューに対するメッセージング・サービスを起動するための、共通インターフェースを提供します。MQSeries コンポーネント・ノードを使用して、必要な構成プロパティを指定できます。

## IBM WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キュー送信者

JMS 送信者は、1 次キューで開始した単一接続をキャッシュに入れます。メッセージの送信が失敗する場合、JMS 送信者は、メッセージ送信を構成可能な回数だけ再試行します。各試行の間の遅延は構成可能で、以下の表の「再接続」タブで定義されます。再試行回数の限度に達し、バックアップ・キューがない場合、例外がスローされます。

バックアップ・キューがセットアップされている場合、バックアップ・キューに接続されます。次回メッセージの送信を試行するときは、バックアップ・キューが現行キューになります。1 次キューに再接続するように、送信者を構成できます。1 次キューが動作中と検出された場合、切り替えが行われ、1 次キューが現行キューになります。

## 構成プロパティ

これらのノードの構成プロパティは、以下のとおりです。

表 443. WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キュー送信者構成プロパティ

プロパティ	説明
<p>「実行時」タブ</p> <p>1 次 JMS サーバーについて、このタブの設定を使用する必要があります。</p>	
キュー名	メッセージの送信先であるキューの名前を入力します。
有効期間 (秒)	<p>キューからメッセージを削除するまでの期間を入力します。値を 0 にすると、メッセージはキューから削除されなくなります。</p> <p>0 以外の値を設定した場合、指定された期間消費されなかったキュー内のメッセージは、プロバイダーによって自動的にキューから削除されます。</p>
「プロバイダー URL」	<p>使用する JMS 実装のプロバイダーの URL を入力します。これは、JNDI 検索に使用する URL です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IBM WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キューの場合、<code>corbaloc::&lt;DNS Server Name or IP Address&gt;:&lt;bootstrappoint&gt;</code> に設定します。</li> </ul>
「初期コンテキスト・ファクトリー」	<p>初期コンテキスト・ファクトリーのクラス名。これは、命名およびディレクトリ操作の名前解決の開始点となります。</p> <p>IBM WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キューを使用している場合、WebSphere MQ を選択します。これによって、クラス名は次のように設定されます。</p> <p><code>com.ibm.websphere.naming. WsnInitialContextFactory.</code></p>
「QCF ルックアップ」	<p>キュー接続ファクトリー名を入力します。これは、JNDI からキュー接続ファクトリーを取得する場合に使用されます。クライアントは、キュー接続ファクトリーを使用して、JMS プロバイダーとのキュー接続を作成します。QCF ルックアップ用の任意の固有 ID を入力します。この名前は、IBM WebSphere 管理コンソールで構成された名前と同じである必要があります。</p>
持続	<p>メッセージをキューに入れたときに、そのメッセージを持続させる場合、このオプションを選択します。</p>
持続しません	<p>メッセージをキューに入れたときに、そのメッセージを持続させない場合、このオプションを選択します。</p>
圧縮が必要です	<p>オプション。キューに入れる前に、メッセージを圧縮する必要がある場合、このボックスにチェック・マークを付けます。</p>

表 443. WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キュー送信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
このメッセージのコミットは、親トランザクションに依存します	<p>サービスの完了後にのみ、メッセージをキューにコミットする場合、このボックスにチェック・マークを付けます。</p> <p>メッセージを即時にキューにコミットする場合は、このボックスのチェック・マークを外します。</p> <p>例えば、何らかの標準 Sterling Selling and Fulfillment Foundation API の ON_SUCCESS イベントがサービスに接続されており、そのサービスでメッセージがトランザクション・モードでキューに書き込まれる場合、メッセージはその ON_SUCCESS イベントの正常終了時にのみキューにコミットされます。メッセージがステージされた後に、ON_SUCCESS イベントでエラーが発生した場合、メッセージはキューからロールバックされます。ただし、非トランザクション・モードの場合、一度ステージされたらメッセージはキューに残り、ロールバックされません。</p> <p><b>注:</b> このボックスにチェック・マークを付けた場合、システムは JMS コミットと DB コミットを同期化します。ただし、これは 2 フェーズ・コミットではありません。そのため、エラーを引き起こし、メッセージが重複する場合があります。</p>
JMS セキュリティーを有効にする	<p>JMS セキュリティーを有効にする場合は、このボックスにチェックを付けます。これを選択すると、「JMS セキュリティー・プロパティ」タブが使用可能になり、キュー・ベースまたは JNDI ベース (またはその両方) の JMS セキュリティーを構成できるようになります。</p> <p><b>注:</b> Oracle WebLogic 10.3 では、JNDI ベースの JMS セキュリティーのみがサポートされています。キュー・ベースのセキュリティが有効になっている場合は、バイパスされます。そのため、Oracle WebLogic 10.3 を使用している場合は、JNDI ベースの JMS セキュリティーを構成する必要があります。</p>
<b>「ヘッダー」タブ</b>	
ヘッダー名	<p>メッセージ・ヘッダーの名前。例えば、APINAME。</p> <p><b>注:</b> ヘッダー名は固有でなければなりません。2 つのヘッダーに同じヘッダー名を付けることはできません。</p> <p> を選択して、新規のヘッダー名および値を追加します。</p> <p>既存のヘッダー名とヘッダー値を変更する場合は、 を選択します。</p> <p>既存のヘッダー名とヘッダー値を削除する場合は、 を選択します。</p>

表 443. WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キュー送信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
ヘッダー値	<p>「ヘッダー名」に関連付けられる値。「ヘッダー名」と「ヘッダー値」は、1組でメッセージ・ヘッダーとして保管され、メッセージ・セレクターを使用して照会することができます。</p> <p>これは、静的な値に設定することができます。例えば、「createOrder」によって、APINAME='createOrder' というヘッダーを持つメッセージが生成されます。</p> <p>また、構文 <code>xml://&lt;full path of the element from root&gt;/@&lt;attribute name&gt;</code> を使用して、メッセージから動的に抽出されるように設定することもできます。これによって、ヘッダー APINAME='&lt;value of attribute name in the XML&gt;' を持つメッセージが生成されます。</p>
<p><b>「再接続 (Reconnect)」タブ</b></p> <p>バックアップ JMS サーバーの場合、このタブの設定を使用する必要があります。</p>	
再試行間隔 (ミリ秒)	<p>1 次 JMS サーバーとの接続が失われた場合の、1 次 JMS サーバーとの接続を再確立する試行の間の時間を入力します。このパラメーターは、「再試行回数」パラメーターと共に使用されます。デフォルト値は 0 で、再試行間隔に遅延時間がないことを意味します。</p>
再試行回数	<p>1 次 JMS サーバーとの接続が失われた場合に、バックアップ JMS サーバーへのフェイルオーバーまで (有効な場合)、または例外をスローするまでに、1 次 JMS サーバーとの接続の再確立を試行する回数を入力します。このパラメーターは、「再試行間隔」パラメーターと共に使用されます。デフォルト値は 0 で、接続が失われてフェイルオーバーが発生した場合 (有効な場合)、または例外が即時にスローされた場合に、再試行を行わないことを意味します。</p>
バックアップ JMS キューを使用 (Use backup JMS Queue)	<p>バックアップ JMS キューを有効にする場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。</p> <p>このチェック・ボックスを選択した場合のみ、このタブ上の他のコントロールが有効になります。</p>
「プロバイダー URL」	<p>使用する JMS 実装のバックアップ JMS サーバー・プロバイダーの URL を入力します。これは、JNDI 検索に使用する URL です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IBM WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キューの場合、<code>corbaloc::&lt;DNS Server Name or IP Address&gt;:&lt;bootstrapport&gt;</code> に設定します。</li> </ul>
「初期コンテキスト・ファクトリー」	<p>初期コンテキスト・ファクトリーのクラス名。これは、命名およびディレクトリ操作の名前解決の開始点となります。</p> <p>IBM WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キューを使用している場合、WebSphere MQ を選択します。これによって、クラス名は次のように設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><code>com.ibm.websphere.naming.WsnInitialContextFactory.</code></li> </ul>

表 443. WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キュー送信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
キュー名	メッセージの送信先であるバックアップ・キューの名前を入力します。
「QCF ルックアップ」	バックアップ JMS サーバーのキュー接続ファクトリー名を入力します。これは、JNDI からキュー接続ファクトリーを取得する場合に使用されます。クライアントは、キュー接続ファクトリーを使用して、JMS プロバイダーとのキュー接続を作成します。QCF ルックアップ用の任意の固有 ID を入力します。この名前は、IBM WebSphere 管理コンソールで構成された名前と同じである必要があります。
1 次 JMS キューへの再接続 (Reconnect To Primary JMS Queue)	バックアップ JMS キュー・サーバーへのフェイルオーバーの発生後、1 次 JMS キューに再接続する場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。このチェック・ボックスを選択したら、再接続までの待ち時間を入力します。
再接続までの時間 (秒)	バックアップ JMS サーバーへのフェイルオーバー後、1 次 JMS サーバーとの接続を再確立する試行の間の最大時間を入力します。1 次 JMS サーバーとの接続が再確立されると、1 次 JMS サーバーの使用に復帰します。1 次 JMS サーバーとの接続が再確立できない場合は、バックアップ JMS サーバーの使用を続行します。デフォルト値は 600 秒です。
<p>「JMS セキュリティー・プロパティ」タブ</p> <p>これは、「実行時」タブで「JMS セキュリティーを有効にする」を選択している場合に有効になります。</p> <p>注: ここで指定した JMS セキュリティー・プロパティは、&lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties ファイルにエージェントおよびフロー承認パラメーターを定義することでオーバーライドできます。customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。</p>	
キュー・ベースのセキュリティ	<p>JMS サービスにキュー・ベースのセキュリティを提供する場合は、このボックスにチェックを付けます。</p> <p>注: Oracle WebLogic 10.3 では、JNDI ベースの JMS セキュリティーのみがサポートされています。キュー・ベースのセキュリティが有効になっている場合は、バイパスされます。そのため、Oracle WebLogic 10.3 を使用している場合は、JNDI ベースの JMS セキュリティーを構成する必要があります。</p>
JNDI ベースのセキュリティ	JMS サービスに JNDI ベースのセキュリティを提供する場合は、このボックスにチェックを付けます。
<p>JMS セキュリティー・パラメーター</p> <p>アプリケーション・サーバー固有の JMS セキュリティー・パラメーターについて詳しくは、「JMS セキュリティー・プロパティの設定」のセクションを参照してください。</p>	
パラメーター名	セキュリティ・パラメーターの名前を入力します。
パラメーター値	セキュリティ・パラメーターの値を入力します。

注: JMS セッション・オブジェクトは、実行中のサービスに基づいてプールすることができます。そのため、JMS 送信者がセッション・オブジェクトを必要としてい

る場合、Sterling Application Platform フレームワークは、プールからの空きセッション・オブジェクト取得を試みます。使用可能な空きセッションがない場合は、メッセージを送信するために新規のセッション・オブジェクトが作成され、プールに追加されます。特定の構成可能な期間にわたってアイドル状態のセッション・オブジェクトは、フレームワークによってクローズされます。yfs.properties ファイル内の yfs.jms.session.reaptime プロパティは、JMS セッションのリープ時間の設定に使用します。このプロパティを変更するには、<INSTALL\_DIR>/properties/customer\_overrides.properties ファイルにエントリーを追加します。customer\_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。

## IBM WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キュー受信者

JMS 受信者は、バックアップ・キューを保有しないため、2 つの異なるサービスを構成する必要があります。1 次キューを listen するサービスと、バックアップ・キューを listen するサービスです。例外が発生したとき、受信者は、再試行間隔に最大待ち時間の限度 (構成可能) が設定された、指数関数的なバックオフ・メカニズムを使用しようと試みます。

例えば、最大待ち時間が 600 秒の場合、受信者は最初に 1 秒待機し、次に 2 秒、4 秒、8 秒、16 秒というように指数関数的に 600 秒に達するまで待機し、その後受信者は 600 秒ごとに再試行します。したがって、総待ち時間に上限はありません。

JMS 受信者は、1 次キューおよびバックアップ・キューに関してお互いに独立して動作するため、これらのキュー全体でのメッセージの順序はサポートされません。

### 構成プロパティ

このノードの構成プロパティは、以下のとおりです。

表 444. WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キュー受信者構成プロパティ

プロパティ	説明
「実行時」タブ	
サブサービス名	メッセージの送信先であるキューの名前を入力します。
キュー名	メッセージの送信先であるキューの名前を入力します。
「プロバイダー URL」	使用する JMS 実装の JMS サーバー・プロバイダーの URL を入力します。これは、JNDI 検索に使用する URL です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>IBM WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キューの場合、corbaloc::&lt;DNS Server Name or IP Address&gt;:&lt;bootstrappoint&gt; に設定します。</li> </ul>

表 444. WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キュー受信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
「初期コンテキスト・ファクトリー」	<p>初期コンテキスト・ファクトリーのクラス名。これは、命名およびディレクトリ操作の名前解決の開始点となります。</p> <p>IBM WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キューを使用している場合、WebSphere MQ を選択します。これによって、クラス名は次のように設定されます。</p> <p>com.ibm.websphere.naming. WsnInitialContextFactory.</p>
「QCF ルックアップ」	<p>バックアップ JMS サーバーのキュー接続ファクトリー名を入力します。これは、JNDI からキュー接続ファクトリーを取得する場合に使用されます。クライアントは、キュー接続ファクトリーを使用して、JMS プロバイダーとのキュー接続を作成します。QCF ルックアップ用の任意の固有 ID を入力します。この名前は、IBM WebSphere 管理コンソールで構成された名前と同じである必要があります。</p>
受入モード	<p>メッセージがトランザクション・モードで受け入れられるか、または非トランザクション・モードで受け入れられるかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>非トランザクション・モードに設定した場合、メッセージは読み取りが終わるとすぐにキューから削除されます。</li> <li>トランザクション・モードに設定した場合、メッセージは、機能的に処理されたとき、および処理中に例外がスローされた場合に、キューから削除されます。</li> </ul> <p>注: 「再処理可能」フラグにチェック・マークが付いており、メッセージ処理時に例外が発生した場合、メッセージを削除する前に、YFS_REPROCESS_ERROR テーブルまたは YFS_INBOX テーブルにメッセージが追加されたことを確認してください。ただし、削除されたメッセージをテーブルに追加する際に「サービス中断」例外が発生した場合は、メッセージはキューに保持されます。</p>
初期スレッド	<p>メッセージを同時に処理できるスレッド数を入力します。スループットに基づいて、System Management Console を使用し、スレッド数を増加して、パフォーマンスを強化することができます。System Management Console の使用について詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation システム管理ガイド</i>」を参照してください。</p> <p>また、特定のサーバーの特定の統合アダプターについて、サービス定義フレームワークの複数インスタンスを開始することもできます。統合アダプターについて詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation パフォーマンス管理ガイド</i>」を参照してください。</p>

表 444. WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キュー受信者構成プロパティ (続  
き)

プロパティ	説明
セクター	メッセージ・ヘッダーに基づいて、セクターを入力します。これらのセクターは、Header Name='Header Value' という形式でなければなりません。セクターを指定するときは、単一引用符のみを使用してください。例えば、セクター APINAME='createOrder' を使用すると、ヘッダー名が「APINAME」で、値が「createOrder」であるすべてのメッセージが選択されます。
EOF メッセージで実行するサービス	メッセージに EOF メッセージ ID が含まれている場合、必須です。  を選択して、EOF メッセージを受信した際に起動するサービスを選択します。 EOF メッセージを受信すると、このフレームワークは、サービスを実行するまで数分間 (<INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルで構成可能) 待機します。詳しくは、633 ページの『アプリケーション・プラットフォーム・フレームワークでの EOF メッセージの使用可能化』を参照してください。 customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについて詳しくは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド」を参照してください。
EOF メッセージのルート・ノード名	メッセージに EOF メッセージ ID が含まれている場合、EOF メッセージのカスタム・ルート・ノード名を入力します。  デフォルトでは、ファイルの終わりのメッセージのルート・ノードは、「EOF」です。詳しくは、633 ページの『アプリケーション・プラットフォーム・フレームワークでの EOF メッセージの使用可能化』を参照してください。
JMS セキュリティーを有効にする	JMS セキュリティーを有効にする場合は、このボックスにチェックを付けます。これを選択すると、「JMS セキュリティー・プロパティ」タブが使用可能になり、キュー・ベースまたは JNDI ベース (またはその両方) の JMS セキュリティーを構成できるようになります。 <b>注:</b> Oracle WebLogic 10.3 では、JNDI ベースの JMS セキュリティーのみがサポートされています。キュー・ベースのセキュリティが有効になっている場合は、バイパスされます。そのため、Oracle WebLogic 10.3 を使用している場合は、JNDI ベースの JMS セキュリティーを構成する必要があります。
<b>「サーバー」タブ</b>	
「サーバー名」	サービスを実際に実行するサーバーの名前を選択します。  新規サーバーの作成について詳しくは、「新規サーバーの追加」を参照してください。
圧縮解除が必要です	着信メッセージが圧縮されており、圧縮解除が必要なことを示すには、このフィールドを選択します。
<b>「例外」タブ</b>	受信者リンク例外処理プロパティについては、683 ページの表 454を参照してください。

表 444. WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キュー受信者構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
<b>「再接続 (Reconnect)」 タブ</b>	
再試行間隔の最大時間 (ミリ秒)	再接続を試行する間隔の最大時間を入力します。
<b>「JMS セキュリティ・プロパティ」 タブ</b>	
これは、「実行時」タブで「JMS セキュリティを有効にする」を選択している場合に有効になります。 <b>注:</b> ここで指定した JMS セキュリティ・プロパティは、<INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルにエージェントおよびフロー承認パラメータを定義することでオーバーライドできます。customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド」を参照してください。	
キュー・ベースのセキュリティ	JMS サービスにキュー・ベースのセキュリティを提供する場合は、このボックスにチェックを付けます。 <b>注:</b> Oracle WebLogic 10.3 では、JNDI ベースの JMS セキュリティのみがサポートされています。キュー・ベースのセキュリティが有効になっている場合は、バイパスされます。そのため、Oracle WebLogic 10.3 を使用している場合は、JNDI ベースの JMS セキュリティを構成する必要があります。
JNDI ベースのセキュリティ	JMS サービスに JNDI ベースのセキュリティを提供する場合は、このボックスにチェックを付けます。
<b>JMS セキュリティ・パラメータ</b>	
アプリケーション・サーバー固有の JMS セキュリティ・パラメータについて詳しくは、「JMS セキュリティ・プロパティの設定」のセクションを参照してください。	
パラメータ名	セキュリティ・パラメータの名前を入力します。
パラメータ値	セキュリティ・パラメータの値を入力します。

## 接続プロパティ

WLJMS ノードおよび MQJMS ノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 445. WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キュー接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期モードまたは非同期モードで起動されたサービスの場合は可能です。
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意のコンポーネント・ノード</li> <li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く。接続にはパススルー・ノードを使用。)</li> </ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>開始ノード</li> <li>任意の同期転送ノード</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> <li>任意の非同期転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く。接続にはパススルー・ノードを使用。)</li> </ul>

表 445. WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キュー接続プロパティ (続き)

接続	ノード接続ルール
データを変更せずに渡す	転送ノードはデータを変更しません

## JBoss Default Messaging JMS キュー

このコンポーネントは、JBoss Default Messaging JMS キューでメッセージング・サービスを起動するため共通インターフェースを提供します。一般 JMS コンポーネント・ノードを使用して、構成プロパティを指定できます。

### JBoss Default Messaging JMS キュー送信者

JMS 送信者は、1 次キューで開始した単一接続をキャッシュに入れます。メッセージが送信されない場合、JMS 送信者は、メッセージ送信を構成可能な回数だけ再試行します。各試行の間の遅延は構成可能で、以下の表の「再接続する」プロパティで定義されます。構成された再試行回数に達し、バックアップ・キューがない場合、例外がスローされます。

バックアップ・キューがセットアップされている場合、バックアップ・キューに接続されます。次回メッセージの送信を試行するときは、バックアップ・キューが現行キューになります。1 次キューに再接続するように、送信者を構成できます。1 次キューが動作中の場合、切り替えが行われ、1 次キューが現行キューになります。

#### 構成プロパティ

これらのノードの構成プロパティは、以下のとおりです。

表 446. JBoss Default Messaging JMS キュー送信者の構成プロパティ

プロパティ	説明
<b>「実行時」タブ</b> 1 次 JMS キュー・サーバーについて、このタブの設定を使用します。	
キュー名	メッセージの送信先であるキューの名前を入力します。
有効期間 (秒)	キューからメッセージを削除するまでの期間を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>0 の値を入力した場合、メッセージはキューから削除されません。</li> <li>0 以外の値を入力した場合、ここで指定した期間消費されなかったメッセージは、プロバイダーによって自動的にキューから削除されます。</li> </ul> 注: 値を何も入力しない場合、システムは 0 の値と見なします。
「プロバイダー URL」	JNDI 検索で使用する JMS 実装のプロバイダーの URL を入力します。  JBoss Default Messaging JMS キューの場合、URL は次のように入力します。jnp:::<DNS Server Name or IP Address>:<bootstrap>

表 446. JBoss Default Messaging JMS キュー送信者の構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
「初期コンテキスト・ファクトリー」	<p>初期コンテキスト・ファクトリーのクラス名。これは、命名およびディレクトリー操作の名前解決の開始点となります。</p> <p>JBoss Default Messaging JMS キューを使用している場合は、JBoss を選択します。これによって、クラス名は <code>org.jnp.interfaces.NamingContextFactory</code> に設定されます。</p>
「QCF ルックアップ」	<p>キュー接続ファクトリー名を入力します。これは、JNDI からキュー接続ファクトリーを取得する場合に使用されます。クライアントは、キュー接続ファクトリーを使用して、JMS プロバイダーとのキュー接続を作成します。QCF ルックアップ用の任意の固有 ID を入力します。この名前は、JBoss 管理コンソールで構成された名前と同じでなければなりません。</p>
配達モード	<p>これは、JBoss Messaging では使用されません。各キューにパーシスタンスが設定されます。アプリケーションにパーシスタンスのオーバーライドを許可しないでください。</p>
圧縮が必要です	<p>オプション。キューに入れる前に、メッセージを圧縮する必要がある場合、このボックスにチェック・マークを付けます。</p>
このメッセージのコミットは、親トランザクションに依存します	<p>サービスの完了後にのみ、メッセージをキューにコミットする場合、このボックスにチェック・マークを付けます。</p> <p>メッセージを即時にキューにコミットする場合は、このボックスのチェック・マークを外します。</p> <p>例えば、何らかの標準 Sterling Selling and Fulfillment Foundation API の ON_SUCCESS イベントがサービスに接続されており、そのサービスでメッセージがトランザクション・モードでキューに書き込まれる場合、メッセージはその ON_SUCCESS イベントの正常終了時にのみキューにコミットされます。メッセージがステージされた後に、ON_SUCCESS イベントでエラーが検出された場合、メッセージは後でキューからロールバックされます。ただし、非トランザクション・モードの場合、一度ステージされたらメッセージはキューに残り、ロールバックされません。</p> <p><b>注:</b> このボックスにチェック・マークを付けた場合、システムは JMS コミットと DB コミットを同期化します。ただし、これは 2 フェーズ・コミットではありません。そのため、エラーを引き起こし、メッセージが重複する場合があります。</p>
JMS セキュリティーを有効にする	<p>JMS セキュリティーを有効にする場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。このボックスにチェック・マークを付けたら、「JMS セキュリティー・プロパティ」タブが使用可能になり、キュー・ベースまたは JNDI ベース (またはその両方) の JMS セキュリティーを構成できるようになります。</p>
「ヘッダー」タブ	

表 446. JBoss Default Messaging JMS キュー送信者の構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
ヘッダー名	<p>メッセージ・ヘッダーの名前。例えば、APINAME。  <b>注:</b> ヘッダー名は固有でなければなりません。2 つのヘッダーに同じヘッダー名を付けることはできません。</p> <p> を選択して、新規のヘッダー名および値を追加します。</p> <p>既存のヘッダー名とヘッダー値を変更する場合は、 を選択します。</p> <p>既存のヘッダー名とヘッダー値を削除する場合は、 を選択します。</p>
ヘッダー値	<p>「ヘッダー名」に関連付けられる値。「ヘッダー名」と「ヘッダー値」は、1 組でメッセージ・ヘッダーとして保管され、メッセージ・セレクターを使用して照会することができます。</p> <p>これは、静的な値に設定することができます。例えば、「createOrder」によって、APINAME='createOrder' というヘッダーを持つメッセージが生成されます。</p> <p>また、構文 <code>xml://&lt;full path of the element from root&gt;/@&lt;attribute name&gt;</code> を使用して、メッセージから動的に抽出されるように設定することもできます。これによって、ヘッダー <code>APINAME=&lt;value of attribute name in the XML&gt;</code> を持つメッセージが生成されます。</p>
<p><b>「再接続 (Reconnect)」タブ</b></p>	
<p>バックアップ JMS キュー・サーバーについて、このタブの設定を使用します。</p>	
再試行間隔 (ミリ秒)	<p>1 次 JMS キュー・サーバーとの接続が失われた場合の、1 次 JMS キュー・サーバーとの接続を再確立するために必要な時間を入力します。このパラメーターは、「再試行回数」パラメーターと共に使用されます。デフォルト値は 0 (ゼロ) で、再試行間隔に遅延がないことを意味します。</p>
再試行回数	<p>1 次 JMS キュー・サーバーとの接続が失われた場合に、バックアップ・サーバーへのフェイルオーバーまで (有効な場合)、または例外をスローするまでに、1 次 JMS キュー・サーバーとの接続の再確立を試行する回数を入力します。このパラメーターは、「再試行間隔」パラメーターと共に使用されます。デフォルト値は 0 (ゼロ) で、接続が失われてフェイルオーバーが発生した場合 (有効な場合)、または例外がスローされた場合に、再試行を行わないことを意味します。</p>
バックアップ JMS キューを使用 (Use backup JMS Queue)	<p>バックアップ JMS キューを有効にする場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。</p> <p>このボックスにチェック・マークを付けると、このタブ上の他のコントロールが有効になります。</p>

表 446. JBoss Default Messaging JMS キュー送信者の構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
「プロバイダー URL」	<p>使用する JMS 実装のバックアップ JMS キュー・サーバー・プロバイダーの URL を入力します。これは、JNDI 検索に使用する URL です。</p> <p>JBoss Default Messaging JMS キューの場合、URL は次のように入力します。jnp::&lt;DNS Server Name or IP Address&gt;:&lt;bootstrapport&gt;</p>
「初期コンテキスト・ファクトリー」	<p>初期コンテキスト・ファクトリーのクラス名。これは、命名およびディレクトリ操作の名前解決の開始点となります。</p> <p>JBoss Default Messaging JMS キューを使用している場合は、JBoss を選択します。これによって、クラス名は <code>org.jnp.interfaces.NamingContextFactory</code> に設定されます。</p>
キュー名	<p>メッセージの送信先であるバックアップ・キューの名前を入力します。</p>
「QCF ルックアップ」	<p>JMS サーバー接続ファクトリー名のバックアップ・キューを入力します。これは、JNDI からキュー接続ファクトリーを取得する場合に使用されます。クライアントは、キュー接続ファクトリーを使用して、JMS プロバイダーとのキュー接続を作成します。QCF ルックアップ用の任意の固有 ID を入力します。この名前は、JBoss 管理コンソールで構成された名前と同じでなければなりません。</p>
1 次 JMS キューへの再接続 (Reconnect To Primary JMS Queue)	<p>バックアップ JMS キューへのフェイルオーバーの発生後、1 次 JMS キューに再接続する場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。このボックスを選択したら、再接続までの待ち時間を入力します。</p>
再接続までの時間 (秒)	<p>バックアップ JMS キュー・サーバーへのフェイルオーバー後、1 次 JMS キュー・サーバーとの接続を再確立するために必要な最大時間を入力します。接続が再確立されると、1 次 JMS キュー・サーバーが使用されます。そうでない場合、バックアップ JMS キュー・サーバーが使用されます。デフォルト値は 600 秒です。</p>
<p>「JMS セキュリティ・プロパティ」タブ</p> <p>このタブは、「実行時」タブで「JMS セキュリティを有効にする」オプションを選択している場合に有効になります。</p> <p><b>注:</b> ここで指定した JMS セキュリティ・プロパティは、&lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties ファイルにエージェントおよびフロー承認パラメーターを定義することでオーバーライドできます。customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。</p>	
キュー・ベースのセキュリティ	<p>JMS サービスにキュー・ベースのセキュリティを提供する場合は、このボックスにチェックを付けます。</p>
JNDI ベースのセキュリティ	<p>JMS サービスに JNDI ベースのセキュリティを提供する場合は、このボックスにチェックを付けます。</p> <p><b>注:</b> このチェック・ボックスは、JNDI ベースの JMS セキュリティをサポートしないため、JBoss では適用外です。</p>

表 446. JBoss Default Messaging JMS キュー送信者の構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
JMS セキュリティー・パラメーター	
アプリケーション・サーバー固有の JMS セキュリティー・パラメーターについて詳しくは、「JMS セキュリティー・プロパティの設定」のセクションを参照してください。	
パラメーター名	セキュリティー・パラメーターの名前を入力します。
パラメーター値	セキュリティー・パラメーターの値を入力します。

**注:** JMS セッション・オブジェクトは、実行中のサービスに基づいてプールすることができます。そのため、JMS 送信者がセッション・オブジェクトを必要としている場合、Sterling Application Platform フレームワークは、プールからの空きセッション・オブジェクト取得を試みます。使用可能な空きセッションがない場合は、メッセージを送信するために新規のセッション・オブジェクトが作成され、プールに追加されます。特定の構成可能な期間にわたってアイドル状態のセッション・オブジェクトは、フレームワークによってクローズされます。yfs.properties ファイル内の yfs.jms.session.reaptime プロパティは、JMS セッションのリープ時間の設定に使用します。このプロパティを変更するには、<INSTALL\_DIR>/properties/customer\_overrides.properties ファイルにエントリを追加します。customer\_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。

## JBoss Default Messaging JMS キュー受信者

JMS 受信者は、バックアップ・キューを保有しません。そのため、2 つの異なるサービスを構成する必要があります。1 次キューを listen するサービスと、バックアップ・キューを listen するサービスです。例外が発生したとき、受信者は、再試行間隔に構成可能な最大待ち時間の限度が設定された、指数関数的なバックオフ・メカニズムを使用しようと試みます。

例えば、最大待ち時間が 600 秒の場合、受信者は最初に 1 秒待機し、次に 2 秒、4 秒、8 秒、16 秒というように、600 秒に達するまで待機し、その後受信者は 600 秒ごとに再試行します。したがって、総待ち時間に上限はありません。

JMS 受信者は、1 次キューおよびバックアップ・キューに関してお互いに独立して動作するため、これらのキュー全体でのメッセージの順序はサポートされません。

### 構成プロパティ

このノードの構成プロパティは、以下のとおりです。

表 447. JBoss Default Messaging JMS キュー受信者の構成プロパティ

プロパティ	説明
「実行時」タブ	
サブサービス名	メッセージの送信先であるキューの名前を入力します。
キュー名	メッセージの送信先であるキューの名前を入力します。

表 447. JBoss Default Messaging JMS キュー受信者の構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
「プロバイダー URL」	<p>JNDI 検索で使用する JMS 実装の JMS キュー・サーバー・プロバイダーの URL を入力します。</p> <p>JBoss Default Messaging JMS キューの場合、URL は次のように入力します。jnp::&lt;DNS Server Name or IP Address&gt;:&lt;bootstrapport&gt;</p>
「初期コンテキスト・ファクトリー」	<p>初期コンテキスト・ファクトリーのクラス名。これは、命名およびディレクトリ操作の名前解決の開始点となります。</p> <p>JBoss Default Messaging JMS キューを使用している場合は、JBoss を選択します。これによって、クラス名は次のように設定されます。</p> <p>org.jnp.interfaces.NamingContextFactory</p>
「QCF ルックアップ」	<p>JMS キュー・サーバー接続ファクトリー名のバックアップ・キューを入力します。これは、JNDI からキュー接続ファクトリーを取得する場合に使用されます。クライアントは、キュー接続ファクトリーを使用して、JMS プロバイダーとのキュー接続を作成します。QCF ルックアップ用の任意の固有 ID を入力します。この名前は、JBoss 管理コンソールで構成された名前と同じでなければなりません。</p>
受入モード	<p>メッセージがトランザクション・モードで受け入れられるか、または非トランザクション・モードで受け入れられるかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>非トランザクション・モードに設定した場合、メッセージは読み取りが終わるとすぐにキューから削除されます。</li> <li>トランザクション・モードに設定した場合、メッセージは、機能的に処理されたとき、または処理中に例外がスローされた場合に、キューから削除されます。</li> </ul> <p>注: 「再処理可能」フラグにチェック・マークが付いており、メッセージ処理時に例外が発生した場合、メッセージを削除する前に、YFS_REPROCESS_ERROR テーブルまたは YFS_INBOX テーブルにメッセージが追加されたことを確認してください。ただし、削除されたメッセージをテーブルに追加する際に「サービス中断」例外が発生した場合は、メッセージはキューに保持されます。</p>
初期スレッド	<p>メッセージを同時に処理できるスレッド数を入力します。スループットに基づいて、System Management Console を使用し、スレッド数を増加して、パフォーマンスを強化することができます。System Management Console の使用について詳しくは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation システム管理ガイド」を参照してください。</p> <p>また、特定の統合アダプターおよびサーバーについて、サービス定義フレームワークの複数インスタンスを開始することもできます。統合アダプターについて詳しくは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation パフォーマンス管理ガイド」を参照してください。</p>

表 447. JBoss Default Messaging JMS キュー受信者の構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
セレクター	メッセージ・ヘッダーに基づいて、セレクターを入力します。これらのセレクターは、Header Name='Header Value' という形式でなければなりません。セレクターを指定するときは、単一引用符のみを使用してください。例えば、セレクター APINAME='createOrder' を使用すると、ヘッダー名が「APINAME」で、値が「createOrder」であるすべてのメッセージが選択されます。
EOF メッセージで実行するサービス	メッセージに EOF メッセージ ID が含まれている場合、必須です。  をクリックして、EOF メッセージを受信した際に起動するサービスを選択します。 EOF メッセージを受信すると、このフレームワークは、サービスを実行するまで数分間 (<INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルで構成可能) 待機します。 EOF メッセージについて詳しくは、633 ページの『アプリケーション・プラットフォーム・フレームワークでの EOF メッセージの使用可能化』を参照してください。 customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについて詳しくは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド」を参照してください。
EOF メッセージのルート・ノード名	メッセージに EOF メッセージ ID が含まれている場合、EOF メッセージのカスタム・ルート・ノード名を入力します。  デフォルトでは、EOF メッセージのルート・ノードは「EOF」です。 EOF メッセージについて詳しくは、633 ページの『アプリケーション・プラットフォーム・フレームワークでの EOF メッセージの使用可能化』を参照してください。
JMS セキュリティーを有効にする	JMS セキュリティーを有効にする場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。このボックスを選択すると、「JMS セキュリティー・プロパティ」タブが使用可能になり、キュー・ベースまたは JNDI ベース (またはその両方) の JMS セキュリティーを構成できるようになります。
<b>「サーバー」タブ</b>	
「サーバー名」	サービスを実行するサーバーの名前を選択します。  新規サーバーの作成について詳しくは、「新規サーバーの追加」を参照してください。
圧縮解除が必要です	着信メッセージが圧縮されており、圧縮解除が必要なことを示すには、このボックスにチェック・マークを付けます。
<b>「例外」タブ</b>	受信者リンク例外処理プロパティについては、683 ページの表 454を参照してください。
<b>「再接続 (Reconnect)」タブ</b>	
再試行間隔の最大時間 (ミリ秒)	再接続を試行する間隔の最大時間を入力します。

表 447. JBoss Default Messaging JMS キュー受信者の構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
<p>「JMS セキュリティー・プロパティ」タブ</p> <p>このタブは、「実行時」タブにある「JMS セキュリティーを有効にする」ボックスにチェック・マークを付けた場合のみ有効になります。</p> <p>注: ここで指定した JMS セキュリティー・プロパティは、&lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties ファイルにエージェントおよびフロー承認パラメーターを定義することでオーバーライドできます。customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド」を参照してください。</p>	
キュー・ベースのセキュリティー	JMS サービスにキュー・ベースのセキュリティーを提供する場合は、このボックスにチェックを付けます。
JNDI ベースのセキュリティー	JMS サービスに JNDI ベースのセキュリティーを提供する場合は、このボックスにチェックを付けます。 注: このチェック・ボックスは、JNDI ベースの JMS セキュリティーをサポートしないため、JBoss では適用外です。
<p>JMS セキュリティー・パラメーター</p> <p>アプリケーション・サーバー固有の JMS セキュリティー・パラメーターについて詳しくは、「JMS セキュリティー・プロパティの設定」のセクションを参照してください。</p>	
パラメーター名	セキュリティー・パラメーターの名前を入力します。
パラメーター値	セキュリティー・パラメーターの値を入力します。

## 接続プロパティ

一般 JMS キュー・ノード接続プロパティは、以下のとおりです。

表 448. JBoss Default Messaging JMS キュー接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期モードまたは非同期モードで起動されたサービスの場合に可能です。
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意のコンポーネント・ノード</li> <li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)。パススルー・ノードを使用して、これらを接続します。</li> </ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>開始ノード</li> <li>任意の同期転送ノード</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> <li>任意の非同期転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)。パススルー・ノードを使用して、これらを接続します。</li> </ul>
データを変更せずに渡す	転送ノードはデータを変更しません。

## 同期 IBM WebSphere デフォルト・メッセージング

同期 IBM WebSphere デフォルト・メッセージングの転送ノードにより、JMS キューを使用して要求操作および応答操作を行うことができます。定義される期間内に応答を受け取らない場合、例外がスローされます。

適切な応答メッセージの識別は、MESSAGEID という名のヘッダー・フィールドを使用して行われます。要求メッセージがキューに入れられる場合、MESSAGEID ヘッダーには現在時刻およびカウンターに基づく固有値が設定されます。応答ヘッダーには、応答ヘッダーがピックアップされて正常に処理されるために同じメッセージ ID があることが必要です。

### 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

表 449. 同期する WAS デフォルト・メッセージングのプロパティ

プロパティ	説明
<b>「実行時」タブ</b>	
「プロバイダー URL」	使用する JMS 実装のプロバイダーの URL を入力します。IBM WebSphere デフォルト・メッセージング JMS キューを用いて JNDI 検索を使用するための URL は、次のとおりです。 <code>corbaloc::&lt;DNS Server Name or IP Address&gt;:&lt;bootstrappoint&gt;</code>
「初期コンテキスト・ファクトリー」	初期コンテキスト・ファクトリーのクラス名。これは、命名およびディレクトリ操作の名前解決の開始点となります。  IBM WebSphere corbaloc URL を介してアクセスされる MQSeries を使用している場合、同期 WebSphere MQ を選択します。これにより、クラス名に <code>IBM corbaloc::&lt;DNS Server Name or IP Address&gt;:&lt;bootstrappoint&gt;</code> が設定されます。
「QCF ルックアップ」	キュー接続ファクトリー名を入力します。これは、JNDI からキュー接続ファクトリーを取得する場合に使用されます。クライアントは、キュー接続ファクトリーを使用して、JMS プロバイダーとのキュー接続を作成します。QCF ルックアップの固有 ID を入力します。この名前は、WAS 管理コンソールで構成された名前と同じ必要があります。
圧縮が必要です	このオプションは、メッセージの圧縮が必要な場合に選択します。
JMS セキュリティーを有効にする	JMS セキュリティーを有効にする場合は、このボックスにチェックを付けます。チェックを付けると、キューおよび JNDI ベース、またはそのいずれかをベースにする JMS セキュリティー構成するために、JMS セキュリティー・プロパティ・タブが使用できるようになります。  注: Oracle WebLogic 10.3 では、JNDI ベースの JMS セキュリティーのみがサポートされています。キュー・ベースのセキュリティが有効になっている場合は、バイパスされます。そのため、Oracle WebLogic 10.3 を使用している場合は、JNDI ベースの JMS セキュリティーを構成する必要があります。
<b>要求タブ</b>	

表 449. 同期する WAS デフォルト・メッセージングのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
キュー名	要求メッセージの送信先であるキューの名前を入力します。
ヘッダー名	<p>メッセージ・ヘッダーの名前。例えば、APINAME。</p> <p><b>注:</b> ヘッダー名は固有でなければなりません。2 つのヘッダーに同じヘッダー名を付けることはできません。</p> <p> を選択して、新規のヘッダー名および値を追加します。</p> <p>既存のヘッダー名とヘッダー値を変更する場合は、 を選択します。</p> <p>既存のヘッダー名とヘッダー値を削除する場合は、 を選択します。</p>
ヘッダー値	<p>「ヘッダー名」に関連付けられる値。「ヘッダー名」と「ヘッダー値」は、1 組でメッセージ・ヘッダーとして保管され、メッセージ・セレクターを使用して照会することができます。</p> <p>これは、静的な値に設定することができます。例えば、'createOrder' ではメッセージのヘッダーが APINAME=createOrder' になります。</p> <p>また、構文 <code>xml:<!--<full path of the element from root>/@attribute name&gt;</code> を使用して、メッセージから動的に抽出されるように設定することもできます。これによって、ヘッダー APINAME='&lt;value of attribute name in the XML&gt;' を持つメッセージが生成されます。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>応答タブ</b></td> </tr> <tr> <td>キュー名</td> <td>応答メッセージを受け取るキューの名前を入力します。</td> </tr> <tr> <td>セレクター</td> <td>メッセージ・ヘッダーに基づいて、セレクターを入力します。セレクターを指定する場合は、単一引用符のみ使用します。例えば、セレクター APINAME='createOrder' を指定すると、header name='APINAME' で value='createOrder' のすべてのメッセージが選択されます。</td> </tr> <tr> <td>タイムアウト (秒)</td> <td>このパラメーターは必須です。要求がタイムアウトするまでの時間間隔 (秒) を入力します。</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>「再接続 (Reconnect)」タブ</b></td> </tr> <tr> <td>再試行間隔 (ミリ秒)</td> <td>JMS サーバーへの接続が失われた場合、JMS サーバーとの接続を再確立するために行う試行と試行の間の時間を入力します。このパラメーターは、「再試行回数」パラメーターと共に使用されます。デフォルト値はゼロで、再試行の間には遅延がないことを表します。</td> </tr> <tr> <td>再試行回数</td> <td>JMS サーバーへの接続が失われた場合、例外をスローするまでに JMS サーバーとの接続を再確立するために行う試行の回数を入力します。このパラメーターは、「再試行間隔」パラメーターと共に使用されます。デフォルト値はゼロで、接続が失われると再試行せずに例外が即時にスローされることを表します。</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="93 937 689 955" data-label="Page-Footer"> <p>678 Sterling Selling and Fulfillment Foundation: アプリケーション・プラットフォーム 構成ガイド</p> </div>--></code></p>

表 449. 同期する WAS デフォルト・メッセージングのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
<p>「JMS セキュリティー・プロパティ」タブ</p> <p>このタブは、「実行時プロパティ」タブで「JMS セキュリティーを有効にする」を選択すると有効になります。</p> <p><b>注:</b> Oracle WebLogic 10.3 では、JNDI ベースの JMS セキュリティーのみがサポートされています。キュー・ベースのセキュリティーが有効になっている場合は、バイパスされます。そのため、Oracle WebLogic 10.3 を使用している場合は、JNDI ベースの JMS セキュリティーを構成する必要があります。</p> <p><b>注:</b> ここで指定した JMS セキュリティー・プロパティは、&lt;INSTALL_DIR&gt;/properties/customer_overrides.properties ファイルにエージェントおよびフロー承認パラメータを定義することでオーバーライドできます。customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。</p>	
キュー・ベースのセキュリティー	JMS サービスにキュー・ベースのセキュリティーを提供する場合は、このボックスにチェックを付けます。
JNDI ベースのセキュリティー	JMS サービスに JNDI ベースのセキュリティーを提供する場合は、このボックスにチェックを付けます。
<p>JMS セキュリティー・パラメータ</p> <p>アプリケーション・サーバー固有の JMS セキュリティー・パラメータについては、「JMS セキュリティー・プロパティの設定」を参照してください。</p>	
パラメータ名	セキュリティー・パラメータの名前を入力します。
パラメータ値	セキュリティー・パラメータの値を入力します。

**注:** JMS セッション・オブジェクトは、実行中のサービスに基づいてプールすることができます。そのため、JMS 送信者がセッション・オブジェクトを必要としている場合、Sterling Application Platform フレームワークは、プールからの空きセッション・オブジェクト取得を試みます。使用可能な空きセッションがない場合は、メッセージを送信するために新規のセッション・オブジェクトが作成され、プールに追加されます。特定の構成可能な期間にわたってアイドル状態のセッション・オブジェクトは、フレームワークによってクローズされます。yfs.properties ファイル内の yfs.jms.session.reaptime プロパティは、JMS セッションのリープ時間の設定に使用します。このプロパティを変更するには、<INSTALL\_DIR>/properties/customer\_overrides.properties ファイルにエントリを追加します。customer\_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。

**注:**

## 接続プロパティ

同期 MQSeries ノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 450. 同期する WAS デフォルト・メッセージングのプロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期的に起動されたサービスの場合のみ
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"><li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li><li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li></ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"><li>開始ノード</li><li>任意の同期転送ノード</li><li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li><li>任意の非同期転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)。接続にはパススルー・ノードを使用。</li></ul>
データを変更せずに渡す	転送ノードはデータを変更しません。

## Microsoft Message Queue (MSMQ)

Microsoft Message Queue (MSMQ) 転送ノードによって、サービス定義フレームワークは、MSMQ キューに対するメッセージの読み取りまたは書き込みが可能になります。MSMQ は、ローカル・キュー、リモート・キューの両方を使用することができます。メッセージが検出できないリモート・キューに送信された場合、エラーは生成されません。代わりに、MSMQ は、同じ名前のローカル・キューを作成します。リモート・キューが後で使用可能になると、ローカル・キューにあるメッセージは、リモート・キューに転送されます。

注: MSMQ は、統合アダプターが実行されているシステムと同じシステムにインストールする必要があります。

## MSMQ 送信者 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

表 451. MSMQ 送信者の構成プロパティ

プロパティ	説明
キュー名	次の形式で、メッセージの送信先であるキューの名前を入力します。  <machineName>/private\$/<QueueName>  Sterling Selling and Fulfillment Foundationは、Active Directoryを使用したキュー・ルックアップをサポートしません。

表 451. MSMQ 送信者の構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
有効期間	<p>キューからメッセージを削除するまでの期間を入力します。値を 0 にすると、メッセージはキューから削除されなくなります。</p> <p>0 以外の値を設定した場合、指定された期間消費されなかったキュー内のメッセージは、プロバイダーによって自動的にキューから削除されます。</p>
パーシスタント/非パーシスタント	<p>キューに入れる際に、メッセージをパーシスタントにするか、または非パーシスタントにするかを選択します。</p>
トランザクション/非トランザクション	<p>サービスの完了後のみ、メッセージをキューにコミットする場合、「トランザクション」を選択します。</p> <p>メッセージを即時にキューにコミットする場合は、「非トランザクション」を選択します。</p> <p>例えば、何らかの標準 Sterling Selling and Fulfillment Foundation API の ON_SUCCESS イベントがサービスに接続されており、そのサービスでメッセージがトランザクション・モードでキューに書き込まれる場合、メッセージはその ON_SUCCESS イベントの正常終了時のみキューにコミットされます。メッセージがステージされた後に、ON_SUCCESS イベントでエラーが発生した場合、メッセージはキューからロールバックされます。ただし、非トランザクション・モードの場合、一度ステージされたらメッセージはキューに残り、ロールバックされません。</p> <p>注: トランザクション・モードのメッセージングを使用する場合は、トランザクション・キューとして、MSMQ にキューを作成します。</p>
ストリング・メッセージ	<p>PROPID_M_BODY_TYPE を VT_BSTR に設定する場合、このフィールドを選択します。</p> <p>PROPID_M_BODY_TYPE を VT_EMPTY に設定する場合、このフィールドを選択解除します。</p>

注: JMS セッション・オブジェクトは、実行中のサービスに基づいてプールすることができます。そのため、JMS 送信者がセッション・オブジェクトを必要としている場合、Sterling Application Platform フレームワークは、プールからの空きセッション・オブジェクト取得を試みます。使用可能な空きセッションがない場合は、メッセージを送信するために新規のセッション・オブジェクトが作成され、プールに追加されます。特定の構成可能な期間にわたってアイドル状態のセッション・オブジェクトは、フレームワークによってクローズされます。yfs.properties ファイル内の yfs.jms.session.reaptime プロパティは、JMS セッションのリープ時間の設定に使用します。このプロパティを変更するには、<INSTALL\_DIR>/properties/customer\_overrides.properties ファイルにエントリを追加します。customer\_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。

## MSMQ 受信者 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

表 452. MSMQ 受信者のプロパティ

プロパティ	説明
<b>「実行時」タブ</b>	
実行時 ID	サービス定義内のそれぞれの非同期受信者に対して、固有の ID を入力します。
キュー名	次の形式で、メッセージの送信先であるキューの名前を入力します。  <machineName>/private\$/<QueueName>  Sterling Selling and Fulfillment Foundationは、Active Directory を使用したキュー・ルックアップをサポートしません。
最大スレッド数	このプロセスのスレッドの最大数。
トランザクション/非トランザクション	トランザクション・モードで受信するか、非トランザクション・モードで受信するかを選択します。 <b>注:</b> トランザクション・モードのメッセージングを使用する場合は、トランザクション・キューとして、MSMQ にキューを作成します。
<b>「サーバー」タブ</b>	
「サーバー名」	サービスを実際に行うサーバーの名前を選択します。  新規サーバーの作成について詳しくは、「新規サーバーの追加」を参照してください。
「例外」タブ	受信者リンク例外処理プロパティについては、683 ページの表 454を参照してください。

## 接続プロパティ

MSMQ ノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 453. MSMQ 接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期モードまたは非同期モードで起動されたサービスの場合は可能です。
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意のコンポーネント・ノード</li> <li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く。接続にはパススルー・ノードを使用。)</li> </ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>開始ノード</li> <li>任意の同期転送ノード</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> <li>任意の非同期転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く。接続にはパススルー・ノードを使用。)</li> </ul>
データを変更せずに渡す	転送ノードはデータを変更しません

注: <INSTALL\_DIR>/bin ディレクトリーおよび jvm.dll を含むディレクトリーがご使用のシステムのパスにあることを確認してください。

## 受信者リンク例外処理

非同期の受信者ノードごとに、例外パラメーターを入力します。例外処理は、以下のノードに構成できます。

- データベース受信者
- DCS 6.2 データベース受信者
- ファイル入出力受信者
- FTP 受信者
- Oracle WebLogic、MQSeries、および TIBCO JMS 受信者
- MSMQ 受信者

### 構成プロパティ

非同期受信者ノードの例外プロパティは、以下のとおりです。

表 454. 受信者リンク例外処理のプロパティ

プロパティ	説明
アラート・タイプ	例外発生時に発生する警告のタイプを入力します。例えば、テキスト OrderCreate を入力できます。  これは警告コンソールに表示され、特定タイプの警告をフィルターするのに使用できます。
警告キュー名	例外の送信先の警告キュー名を選択します。
API の中断	中断可能な例外が、拡張 API から戻される場合、このフィールドを選択します。メッセージはキューに保持され、中断待ち時間の間隔の経過後に実行が再開されます。  スローされる例外について詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs</i> 」の YIFRestartableAPI インターフェースを参照してください。
中断待ち時間	メッセージの再処理を試行するまでに待機する時間を入力します。

表 454. 受信者リンク例外処理のプロパティ (続き)

プロパティ	説明
再処理可能	<p>このフィールドの選択は、例外発生時に、非同期のソース (メッセージ・キューまたはデータベースなど) から受け取るメッセージ、およびエラー XML を例外コンソールに保存が必要な場合に行います。</p> <p>再処理可能のマークが付いたメッセージは、例外コンソールで修正して、再処理用に送信できます。例外コンソールについて詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム・ガイド</i>」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> 1 つの統合サーバーについて再処理タイマー・スレッドは 1 つのみあります。再処理タイマー・スレッドは、1 分スリープしてから再処理可能レコードを一度に 50 ずつ処理します。</p>
前の例外をチェック	<p>このフィールドを選択して、サービス実行前に前の例外がないかチェックします。このオプションを選択すると、サービス実行前に、メッセージについて関連するエラーがないかのチェックが行われます。このチェックは、YIFErrorSequenceUE 外部プログラムを使用して、外部に実装される必要があります。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、関連するすべてのサービスが同じサーバーに関連付けられる場合のみ適用可能です。</p>
例外グループ	<p>例外がリンクされる、関連サービスのグループを入力します。例えば、外部システムからオーダーに関する変更を受け取るための 2 つのサービスがあります。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、関連するすべてのサービスが同じサーバーに関連付けられる場合のみ適用可能です。</p>
前のエラーの外部プログラム	<p>メッセージに関連する前のエラーがないかチェックする、YIFErrorSequenceUE 外部プログラムを実装するクラス名を入力します。</p>
<b>例外参照タブ</b>	
例外参照名	<p>例外参照の名前を入力します。これは、YFS_REPROCESS_ERROR テーブルの ERROR_REFERENCE 列に保存されて名前=値として指定されます。例えば、NAME1 です。</p>
例外参照値	<p>関連付けられた例外参照値を入力します。この名前と値のペアは、照会のために YFS_REPROCES_ERROR テーブルの ERROR_REFERENCE フィールドに保管されます。</p> <p>静的な値に設定できます。例えば、「1234」と入力すると ERROR_REFERENCE フィールドに NAME1=1234 が入ります。</p> <p>また、構文 <code>xml://&lt;full path of the element from root&gt;/@&lt;attribute name&gt;</code> を使用して、メッセージから動的に抽出されるように設定することもできます。</p> <p>例えば、販売オーダー番号を createOrder 入力 XML から取得するには、<code>xml://Order/@OrderNo</code> を使用します。この結果、ERROR_REFERENCE フィールドに <code>NAME1=&lt; XML 内の属性 OrderNo の値 &gt;</code> が入ります。</p>

## コンポーネント・ノード

コンポーネント・ノードは、データがある形式から別の形式に変換する方法を決定します。それらの構成プロパティを定義するには、ノードをクリックして、プロパティを編集します。

### 警告

このコンポーネントを使用して、警告を警告コンソールに登録することができます。これは、5.0 より前のリリースのアクションから警告を呼び出すのと同じです。属性を YFS\_INBOX テーブル内でグループ化することによって、警告を統合することもできます。

### 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

表 455. 警告構成プロパティ

プロパティ	説明
「一般」タブ	
警告キュー名	警告の送信先となるキューの名前を選択します。
ユーザー ID	警告が割り当てられるユーザー ID を選択します。
アラート・タイプ	警告のタイプを入力します。ここで割り当てられたタイプは、警告コンソールで警告タイプとして表示され、警告のフィルタリングに使用できます。入力されるタイプは、ユーザーが定義します。
優先順位	発生する例外の優先順位を入力します。
説明	発生する警告の簡単な説明を入力します。
テンプレート名	XSL テンプレート名を入力します。  出力 XSL と入力 XML 文書がマージされて、警告コンソール上の説明フィールドに表示されます。例えば、オーダー番号を表示するためのサンプル XSL は <INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/merged/exception_console/sample_exception_console.xsl です。  入力 XML のタイプが TYPE_JAVA_MAP である場合、オーダー番号を表示するためのサンプル XSL は <INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/merged/exception_console/sample_keymap_exception_console.xsl です。  この XSL は、raiseEvent API によって呼び出されます。入力 XML のデータ・タイプについては、『 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs</i> 』を参照してください。

表 455. 警告構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
リスト・テンプレート	XSL リスト・テンプレートを入力します。出力 XSL と入力 XML 文書がマージされて、警告リストおよびホーム・ページ上に表示されます。
解決期限 (時間)	警告を解決する期限を時間数で入力します。時間数は、5.5 や 20 などの 10 進数で指定することができます。
有効な日数	警告の有効な日数を指定します。この日数が過ぎると、例外を自動的に完了することができます。ゼロの値は、例外が有効期限切れにならないことを意味します。
<b>「システム引数」タブ</b>	
引数名	特定のプロセスのリポジトリに使用可能な定義済み要素です。以下の属性はオプションです。静的な値または動的な値として指定することができます。 xml:<ElementName>/@<AttributeName>
引数値	以下の形式で指定する静的な値または動的な値です。 xml: /<ElementName>/@<AttributeName>
<b>「ユーザー引数」タブ</b>	
参照名	警告に情報を追加するために使用できる、追加の名前/値データを入力します。
参照値	参照値を入力します。これは、以下の形式で指定する静的な値または動的な値です。 xml: /<ElementName>/@<AttributeName>
参照タイプ	参照タイプを入力します。有効な値は、TEXT、URL です。
<b>集約タブ</b>	
集約が必要	警告を集約する場合、このボックスにチェックを付けます。同じテンプレート属性に従う同様の警告の数を加算するための集約数が保持されます。  これが選択されない場合、集約数は常に 1 です。
集約テンプレート	警告を集約する場合、Default または Custom のいずれかを選択します。デフォルトで選択されるオプションは、Default です。  Custom を選択すると、集約テンプレートの属性が下に表示されます。それらは、YFS_INBOX テーブルの属性であり、対応する XML ファイルが <INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/merged/resource/exceptionConsolidation.xml にあります。いずれかの属性を右クリックして選択し、集約するために含めることができます。  YFS_INBOX テーブルの列を拡張している場合、それらの属性が Extn 要素の下に表示されます。

表 455. 警告構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
日付を次の基準で統合	集約を毎日行うか、あるいは毎時行うかを指定します。デフォルトでは、このオプションは Day に設定されます。  このオプションの選択は、集約テンプレートに Date などの時間属性が含まれている場合にのみ有効になります。
「ルーティング」タブ	
ルーティングが必要	ルーティング・ルールに基づいて警告を送信する場合、このボックスにチェックを付けます。ルーティング・ルールの定義について詳しくは、セクション 16.3.3 「例外ルーティング・ルールの作成」を参照してください。
ルーティング組織	警告ルーティング・ルールを所有する組織の XML パスを入力します。  デフォルトでは、このフィールドは使用不可です。
属性名	警告に適用可能な定義済みルーティング属性が表示されます。以下の定義済みルーティング属性を指定することができます。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• バイヤー</li> <li>• セラー</li> <li>• エンタープライズ</li> <li>• ノード</li> <li>• 部門コード</li> </ul> <b>注:</b> 独自のカスタム・ルーティング属性を入力することもできます。
属性 XPath	ルーティング属性の XML パスを入力します。

## 接続プロパティ

警告ノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 456. 警告接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期的に起動されたサービスの場合のみ
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li> <li>• その他の任意のコンポーネント・ノード</li> </ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 開始ノード</li> <li>• 任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li> <li>• その他の任意のコンポーネント・ノード</li> </ul>
データを変更せずに渡す	あり

## アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API)

API コンポーネントは、Sterling Selling and Fulfillment Foundationのシステム API またはユーザーが作成した任意の Java クラスの呼び出しに使用されます。

カスタム・エンティティとハンゴフ・エンティティのための拡張データベース API を構成するには、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースの拡張』を参照してください。

### 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

表 457. API 構成プロパティ

プロパティ	説明
「一般」タブ	
Sterling Selling and Fulfillment Foundationの標準 API (Standard Sterling Selling and Fulfillment Foundation API)	Sterling Selling and Fulfillment Foundationの標準 API を呼び出す場合、このオプションを選択します。これを選択した場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundationの標準 API 名のドロップダウン・リストが表示されます。API ごとにクラス名とメソッド名が表示され、編集することはできません。
拡張 API	カスタム Java コードを呼び出す場合、このオプションを選択します。
拡張データベース API	サービスがカスタム API またはハンゴフ API を呼び出す場合、このオプションを選択します。これが選択されると、カスタム API 名のドロップダウン・リストが表示されます。API ごとにクラス名とメソッド名が表示され、編集することはできません。 <b>注:</b> カスタム・テーブルのレコードをロックする場合、SelectMethod 属性を、入力 XML の一部としてカスタム・エンティティ API に渡します。SelectMethod 属性には、以下の値を設定できます。  WAIT、NO_WAIT、および NONE。  拡張 API でのレコードのロックについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation API のカスタマイズ』を参照してください。
「API 名」	呼び出される API を選択または入力します。 <b>注:</b> このフィールドは、統合の目的にのみ使用されます。
クラス名	呼び出されるクラスを指定します。
メソッド名	呼び出されるメソッドを指定します。
下位互換性が必要	API に渡される入力データが以前のバージョンからのものであることを示すには、このフィールドを選択します (Sterling Selling and Fulfillment Foundationのシステム API にのみ適用可能)。

表 457. API 構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
Version	「下位互換性が必要」を選択した場合、API が対応する Sterling Selling and Fulfillment Foundationのバージョンを選択します。個々の API に適用可能なバージョンのみが表示されます。
「引数」タブ	
引数名	「引数」タブに値を入力することで、名前と値のペアを API に渡すことができます。  カスタム API がカスタム値にアクセスするには、カスタム API は com.yantra.interop.japi.YIFCustomApi インターフェースを実装する必要があります。  これを入力すると、これらの名前と値のペアが、Properties オブジェクトとして CustomApi に渡されます。
引数値	引数値を入力します。
「テンプレート」タブ	
	Sterling Selling and Fulfillment Foundationのシステム API を呼び出すときに、API が使用する出力テンプレートを指定できます。リソース階層ツリー内のサービス定義またはリソース定義 (あるいはその両方) の構成プロパティで、テンプレートを指定できます。ただし、両方の定義レベルでテンプレートが指定された場合、サービス定義で指定されたテンプレートが使用されます。
XML テンプレート	API 出力に使用される XML を構成するには、このラジオ・ボタンを選択します。テンプレートのルート要素名を入力し、「OK」をクリックします。これで、XML を構成できます。
ファイル名	API 出力テンプレートとして使用される XML ファイルのファイル名を入力するには、このラジオ・ボタンを選択します。このファイルは、CLASSPATH にも含める必要があります。
「ファクト」タブ	
	ファクトは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の API またはエージェントが使用する属性です。入力されたファクト名とファクト値に基づいて、対応するコロニーが決定されます。
ファクト名	XML 属性のファクト名を入力します。
ファクト値	XML 属性のファクト値を入力します。

## 接続プロパティ

API ノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 458. API 接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期的に起動されたサービスの場合のみ
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"><li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li><li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li></ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"><li>開始ノード</li><li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li><li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li></ul>
データを変更せずに渡す	あり

## 複合サービス

複合サービス・ノードを使用して、1 つのサービスの一部として実行が必要な複数のサービスを指定することができます。複合サービスに含めることができるのは、同時に起動できるサービスのみです。

**注:** 複合コンポーネントのサービスの実行後にトランザクションが失敗した場合、そのメッセージが Oracle WebLogic、JMS、MQ JMS、DB、またはファイル I/O に出力されます。非同期媒体のメッセージは、ロールバックできません。

**注:** 無限ループにはならなくても、複合サービスがその親サービスを呼び出すように構成しないでください。

表 459. 複合サービス構成プロパティ

プロパティ	説明
サービス名	このサービスから起動するサービスを選択します。

サービスを追加すると、そのプロパティを表示して編集できます。サービスのリスト上で、表示または編集する複合サービスの名前をダブルクリックします。新しいウィンドウが開きます。

## 接続プロパティ

複合サービス・ノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 460. 複合サービス接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期的に起動されたサービスの場合のみ
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"><li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li><li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li></ul>

表 460. 複合サービス接続プロパティ (続き)

接続	ノード接続ルール
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>開始ノード</li> <li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> </ul>
データを変更せずに渡す	あり

## 条件

このノードは、同期的に呼び出されます。条件を使用して、サービス内に分岐ロジックを構築できます。

**注:** 条件ノードを他のオブジェクト (ノードまたはコネクタ) のすぐ近くに配置しないでください。近くに配置すると、アウトバウンド・コネクタ・ポイントがアクティブにならない場合があります。

### 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

表 461. 条件構成プロパティ

プロパティ	説明
条件名	事前構成済みの条件名のリストから条件を選択します。あるいは、新規条件を作成することもできます。

### 接続プロパティ

条件ノードには、2 つの出力接続が必要です。1 つは `true` の場合のため、もう 1 つは `false` の場合のためです。出力リンクを作成する場合、最初に `true` 条件を処理するノードにリンクし、次に `false` 条件を処理するノードにリンクします。

条件ノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 462. 条件接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期的に起動されたサービスの場合のみ
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> </ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>開始ノード</li> <li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> </ul>
データを変更せずに渡す	あり

## E メール

E メール・コンポーネント・タイプは、SMTP プロトコルをラップします。このノードは、同期的または非同期的に呼び出すことができます。これを構成して、XML から動的にアドレス (差出人、宛先など) を取り出すか、静的アドレスに送信するかを指定できます。

**注:** 送信される E メールに HTML コンテンツが含まれる場合、入力 XML を HTML 形式に変換する XSL に、以下の例のようなコメントを含める必要があります。

```
<xsl:comment>CONTENT_TYPE=text/
html</xsl:comment>これによって、変換後の HTML には以下のコメントが含まれま
す。<!--CONTENT_TYPE=text/html-->
```

フレームワークは、この情報を使用して content\_type を text/html に設定します。このコメントが存在しない場合、content\_type は text/plain に設定されます。

### 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

表 463. E メール構成プロパティ

プロパティ	説明
E メール・サーバー	メール・サーバーの名前または IP アドレスを入力します。
E メール・サーバーのリスナー・ポート	メール・サーバーのポート番号を入力します。
件名	Eメールの件名欄に表示する内容を入力します。  XML を <code>xml://&lt;ElementName&gt;/@&lt;AttributeName&gt;</code> の形式で指定した場合、これは入力 XML データの値を使用して動的に置き換えられます。例えば、「 <code>xml://Order/@OrderNo</code> をオンラインでご注文いただきありがとうございます」というテキストは、静的テキストと動的テキストを組み合わせしており、「 <code>MyOrder005</code> をオンラインでご注文いただきありがとうございます」のように置き換えられます。
本文テンプレート	メッセージの本文に適用されるフォーマット設定を含む XSL ファイルです。Sterling Selling and Fulfillment Foundationは、 <code>&lt;INSTALL_DIR&gt;/repository/xapi/template/merged/email/orders_mail.xsl</code> ファイルを提供しています。
出荷元 (From)	<code>xml://&lt;ElementName&gt;/@&lt;AttributeName&gt;</code> のように指定された XML パスを使用して静的または動的に設定できます。アドレス間の区切り文字として、セミコロンを使用します。
宛先 (To)	必須。 <code>xml://&lt;ElementName&gt;/@&lt;AttributeName&gt;</code> のように指定された XML パスを使用して静的または動的に設定できます。アドレス間の区切り文字として、セミコロンを使用します。

表 463. E メール構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
CC	xml://<ElementName>/@<AttributeName> のように指定された XML パスを使用して静的または動的に設定できます。アドレス間の区切り文字として、セミコロンを使用します。
BCC	xml://<ElementName>/@<AttributeName> のように指定された XML パスを使用して静的または動的に設定できます。アドレス間の区切り文字として、セミコロンを使用します。

## 接続プロパティ

このノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 464. E メール接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期的に起動されたサービスの場合のみ
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> </ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>開始ノード</li> <li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> </ul>
データを変更せずに渡す	あり

**注:** SMTP 接続オブジェクトは、実行中のサービスに基づいてプールすることができます。そのため、SMTP 送信者が接続オブジェクトを必要としているときは、常に Sterling Application Platform フレームワークが、プールからの空き接続オブジェクトの取得を試みます。プール内の接続オブジェクトが専有されているか、プールが空の場合、メッセージを送信するための接続オブジェクトが新規作成され、プールに追加されます。特定の構成可能な期間にわたってアイドル状態の接続オブジェクトは、フレームワークによってクローズできます。接続リープ時間のプロパティ設定について詳しくは、<INSTALL\_DIR>/properties ディレクトリーの yfs.properties ファイルを確認してください。

yfs.properties ファイル内の yfs.smtp.session.reaptime プロパティは、JMS セッションのリープ時間の設定に使用されます。このプロパティを変更するには、<INSTALL\_DIR>/properties/customer\_overrides.properties ファイルにエントリを追加します。customer\_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。

## 命名実行時コンポーネント

命名実行時コンポーネントは、マッピング・ツールを提供し、このツールを使用して、取引パートナーが使用する固有条件と突き合わせるために使用する固有の条件を構成できます。

### 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

表 465. 命名実行時プロパティ

プロパティ	説明
命名 XML 名	変換が必要な伝票の宛先マッピングにソースを定義します。

### 命名実行時

実行時プロパティを構成するには、次のようにします。

表 466. 命名実行時構成プロパティ

プロパティ	説明
XML 名	命名構成で作成された XML 名を選択します。命名構成について詳しくは、セクション 10.4、『命名構成の定義』を参照してください。

### 接続プロパティ

このノードの命名実行時接続プロパティは、以下のとおりです。

表 467. 命名実行時接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期的に起動されたサービスの場合のみ
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"><li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li><li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li></ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"><li>開始ノード</li><li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li><li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li></ul>
データを変更せずに渡す	なし

## ルーター

ビジネス・ドキュメントを、参加者のプリファレンスに基づきルーティングできるようにします。参加者は、さまざまなサービスを使用して構成し、ビジネス・ドキュメントが参加者に送信されるように構成できます。シナリオ・モデリングで、取引パートナーに公開されるデータは、ルーターを通じてマークが付けられます。

ルーターは、実行時に公開されるデータから組織コードを抽出し、ドキュメント送信用の関連組織プリファレンスを抽出します。次に、参加者向けに指定されるサービスを実行します。

## 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

表 468. ルーター構成プロパティ

プロパティ	説明
ドキュメント名	参加者にルーティングされるドキュメントを選択します。例えば、購入オーダーです。
XML データを次の役割に転送する	
取引パートナーの役割	参加者の役割を選択します。例えば、バイヤーまたはセラーです。
XML 属性	参加者の組織コードがある XML パスを入力します。例えば、 <code>xml://Order/@OrganizationCode</code> です。  参加者のプリファレンスは、指定されるサービスの実行前にドキュメントに追加されます。

## 接続プロパティ

ルーター・ノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 469. ルーター接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期的に起動されたサービスの場合のみ
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> </ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>開始ノード</li> <li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li> </ul>
データを変更せずに渡す	あり

## テキスト・トランスレーター

テキスト・トランスレーターは、フラット・ファイルと XML の間で形式を変換し、フラット・ファイル・アプリケーションを Sterling Selling and Fulfillment Foundationに統合できるようにします。テキスト・トランスレーター・ファイルの構成については、『時間トリガー・トランザクション参照』を参照してください。

## 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

表 470. テキスト・トランスレーターの構成プロパティ

プロパティ	説明
入力データ形式	データが入力される形式を選択します。オプションは、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• テキスト - フラット・テキスト・ファイル</li><li>• XML - 構造化テキスト・ファイル</li></ul>
出力データ形式	出力データの形式を入力します。入力テキスト形式か出力テキスト形式に組み合わせられた入力データ形式を選択することにより、自動的に決まります。
入力テキスト形式	入力データ形式にテキストを選択した場合、以下を選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 定位置テキスト - このフラット・テキスト・ファイルは、固定最大長を持つフィールドおよび共通するレコード終了文字を持つレコードで構成されます。</li><li>• 区切られたテキスト - このフラット・テキスト・ファイルは、特定の区切り文字、またはセパレーターで区切られる 1 つ以上のレコードで構成されます。</li></ul>
スキーマ名	XML 入力からフラット・ファイルへ変換する際のスキーマ記述ファイルへの相対パスを入力します。場所は、統合アダプターの CLASSPATH から相対する場所です。  例えば、フラット・ファイル・スキーマ XML ファイルが <INSTALL_DIR>/bin/test.xml にあり、<INSTALL_DIR> が CLASSPATH 内にある場合、属性の値は /bin/test.xml です。

## 接続プロパティ

テキスト・トランスレーターは、以下の条件を基に、ファイルまたは DCS 6.2 データベース・ノードを前か後のいずれかにする必要があります。

- ファイルまたは DCS 6.2 データベース・ノードの後に テキスト・トランスレーター・コンポーネントがくる場合は以下のようになります。
  - 出力形式は必ず XML
  - 入力形式はテキスト必須
- テキスト・トランスレーター・コンポーネントの後に ファイルまたは DCS 6.2 データベース・ノードがくる場合は以下のようになります。
  - 出力形式はテキスト必須 (定位置テキストまたは区切られたテキスト)
  - 入力形式は XML 必須

テキスト・トランスレーター・コンポーネントは、パススルー・ノードのすぐ前、またはすぐ後にすることはできません。

テキスト・トランスレーター・ノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 471. テキスト・トランスレーターの接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期的に起動されたサービスの場合のみ
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意の同期転送ノード</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード (パススルー・ノードを除く)</li> </ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>開始ノード</li> <li>任意の同期転送ノード</li> <li>その他の任意のコンポーネント・ノード (パススルー・ノードを除く)</li> </ul>
データを変更せずに渡す	あり

## XSL トランスレーター

Extensible Stylesheet Language (XSL) は、XML 文書を HTML などの表示フォーマットに変換するのに使用します。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、クラスパスは `xsl:include` ディレクティブにより含まれる XSL ファイルを検索するのに使用できます。

`yfs.xsl.uriresolver` プロパティを使用して XSL を処理する際に、カスタム `URIResolver` を提供するようにクラスを定義できます。デフォルトで、このプロパティの値には `com.yantra.interop.util.YantraDefaultURIResolver` が設定されます。

別のクラス名を指定する場合、`yfs.xsl.uriresolver` プロパティを `<INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties` ファイル内で変更します。`customer_overrides.properties` ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティ・ガイド』を参照してください。

注: `yfs.xsl.uriresolver` プロパティに別のクラス名が設定される場合、この新しいクラスは、デフォルトの `YantraDefaultURIResolver` クラスの代わりに使用されます。新しいクラスでは、`javax.xml.transform.URIResolver` インターフェースを実装する必要があります。

### 構成プロパティ

このノードのプロパティは、以下のとおりです。

表 472. XSL トランスレーターの構成プロパティ

プロパティ	説明
XSL 名	XSL テンプレート名を入力します。場所は、統合アダプターの CLASSPATH から相対する場所です。

## 接続プロパティ

XSL トランスレーター・ノードの接続プロパティは、以下のとおりです。

表 473. XSL トランスレーターの接続プロパティ

接続	ノード接続ルール
開始ノードの後の最初のノードとして配置可能	同期的に起動されたサービスの場合のみ
前に配置可能	<ul style="list-style-type: none"><li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li><li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li></ul>
後に配置可能	<ul style="list-style-type: none"><li>開始ノード</li><li>任意の転送ノード (FTP またはファイル入出力を除く)</li><li>その他の任意のコンポーネント・ノード</li></ul>
データを変更せずに渡す	はい。XSL トランスレーターは、特定のビジネス・インテグレーション・ニーズに合うようにデータ・ストリームを操作できます。

## デフォルト・コンポーネント

このコンポーネントは、構成プロパティに基づいてデフォルト設定を適用し、クラスを呼び出して追加のオーバーライドを適用します。XML のデータのローカライズに使用することもできます。

このコンポーネントの入力は XML、出力はデフォルトが適用された同じ XML です。このコンポーネントのプロパティは、デフォルトが適用される XML 属性を定義します。属性自体は、他のサービス・コンポーネントで使用される表記で定義されます。

例えば、createOrder() API では、<OrderLine> ノードの <Item> 要素に対して単位をデフォルト設定する必要があることが、前提となります。コンポーネント・プロパティは、以下のように定義されます。

```
Attribute=/Order/OrderLines/OrderLine/Item/@UnitOfMeasure
Default Value = "EACH"
Override = Y
```

入力 XML が以下の場合:

```
<Order>
  <OrderLines>
    <OrderLine>
      <Item ItemID="" />
    </OrderLine>
  </OrderLines>
</Order>
```

UnitOfMeasure 属性は、EACH の値を付けて Item 要素に追加されます。Override プロパティは、属性の存在にかかわらず入力 XML の属性をオーバーライドする必要があるかどうかを指定します。

以下の表で定義されているデフォルト・コンポーネントの構成プロパティは、オプションです。

表 474. デフォルト・コンポーネント構成プロパティ

プロパティ	説明
<b>「一般」タブ</b>	
デフォルト・テンプレート	<p>デフォルト・テンプレートのパスを入力します。テンプレートは、各属性とそれらのデフォルト値から成ります。次に例を示します。</p> <pre>&lt;Overrides&gt; &lt;Override AttributeName="/Order/OrderLines/OrderLine/Item/@UnitOfMeasure" AttributeValue="EACH" Override="Y" /&gt; &lt;/Overrides&gt;</pre> <p>なお、属性のパスは XPath 変数です。</p>
カスタム・クラス	<p>デフォルト属性を指定するカスタム・クラスを入力します。このクラスはコンポーネントへの元の入力を取得して、デフォルト・テンプレートによって XML を変更し、追加のオーバーライドを適用してから、変更済み出力 XML を返します。このクラスは、YIFXMLAttrOverride インターフェースを実装します。このインターフェースについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs</i>』を参照してください。</p> <p>このクラスは、オーダーの存在を確認し、以前に適用されたデフォルトを適用またはオーバーライドすることができます。このクラスは、修正の際に、データベースからのデータの検索に基づいてデフォルト設定したり、デフォルト設定を取り消したりするために主に使用されます。</p>
ロケール・コード・パス	<p>入力ドキュメント内のロケール・コードのパスを XPath 式で入力します。</p> <p>静的属性値を指定するのではなく、カスタム・オーバーライドの「属性のローカライズ」を指定できます。例えば、XML ファイルに以下のようなタイプを含めることができます。</p> <pre>&lt;Overrides&gt; &lt;Override AttributeName="//Organization/@OrganizationCode" Type="LOCALIZE" /&gt; &lt;/Overrides&gt;</pre>
<b>「カスタム・オーバーライド」タブ</b>	
要素パス	カスタム・オーバーライドの要素のパスを指定します。これは、XPath 式です。
属性	属性名を指定します。
値	属性値を指定します。
<b>カスタム・オーバーライドの追加</b>	
要素パス	カスタム・オーバーライドの要素の XPath パスを入力します。
属性名	オーバーライドする XML 属性の名前を入力します。

表 474. デフォルト・コンポーネント構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
属性のローカライズ	属性値をローカライズする場合、このオプションを選択します。ローカライズのパスは、ロケール・コードで指定します。
静的属性値を使用する	静的属性値を使用する場合、このオプションを選択します。  このオプションを選択すると、値を入力して、既存の値のオーバーライドを確認できます。
属性値	属性値を入力します。
既存の値を常にオーバーライドする	上記で入力した新しい値で既存の値を常にオーバーライドする場合、このボックスにチェックを付けます。

## データ・セキュリティ

データ・セキュリティ・コンポーネントを使用して、サービスに到着または通過する XML の属性を構成し、エンタープライズのリストに対して検証することができます。これによって、セクション 4.3 「ユーザー・グループの定義」に記載されたユーザー・グループに基づいてデータを保護することができます。

エンタープライズ検証では、ユーザーがアクセス可能なエンタープライズのリストが決定され、指定された属性値について検証されます。ユーザーが決定されると、そのユーザーのデータ・セキュリティ ID が YFS\_USER テーブルから取得されて、そのユーザーがアクセスできるエンタープライズのリストが決定され、属性値が検証されます。

カスタム検証の場合、ユーザー ID を設定して検証するために、YIFSecurityValidator インターフェースを実装することができます。このインターフェースを実装するクラスを作成して、このコンポーネントにユーザーを設定し、入力 XML を解析して属性値のリストを取得します。次に、そのリストを検証メソッドに渡します。

YIFSecurityValidator について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』を参照してください。

セキュリティ・コンポーネントのアクセス検証に成功した場合、入力 XML は次のコンポーネントに渡されます。検証が失敗した場合、呼び出し元にエラーがスローされ、セキュリティ・アクセスに失敗したことが示されます。

このデータ・セキュリティ・コンポーネントは、XML が通過するサービスで使用することができます。XML を出力しないコンポーネントの後に、このコンポーネントを構成した場合、実行時エラーがスローされます。

表 475. 「データ・セキュリティ」パネル構成プロパティ

プロパティ	説明
「一般」タブ	

表 475. 「データ・セキュリティー」パネル構成プロパティー (続き)

プロパティー	説明
エンタープライズ検証	エンタープライズのリストに対してユーザー・グループを検証する場合、このオプションを選択します。  このオプションを選択した場合、「検証する属性」に入力する必要があります。
検証する属性	エンタープライズ検証を選択した場合にのみ、必須です。検証が必要な属性への XPath を入力します。
カスタム検証	カスタム検証の実行を選択する場合、このオプションを選択します。  このオプションを選択した場合、クラス名を指定する必要があります。
クラス名	カスタム検証を選択した場合にのみ、必須です。カスタム検証を実装するカスタム・クラスの名前を入力します。
ユーザー ID	以下のオプションのいずれかを選択して、カスタム検証またはエンタープライズ検証のユーザー情報を設定します。  ユーザー ID: ドロップダウン・リストからユーザー ID を選択します。  YFSEnvironment: YFSEnvironment のユーザー ID を使用するには、このオプションを選択します。
「引数」タブ	
引数名	バリデーター・メソッドに渡すパラメーターの名前。
引数値	バリデーター・メソッドに渡すパラメーターの値。

## Jasper プリンター・コンポーネント

このコンポーネントを使用して、イベントに基づいて伝票を自動的に印刷できます。また、伝票の PDF または RTF オブジェクトを生成できます。これは、標準の XML ベース・コンポーネントで、XML を入力として受け入れ、同じく出力 XML を提供します。

例えば、ストア・ピックアップのためにストアでピック・リストを印刷するのは、ストアが在庫を管理しない 1 つの例です。この場合、オーダーが発行された Web サイト、またはコール・センターがストア・ピックアップのためのオーダーを収集します。これらのオーダーは、処理のために下のストアに送信されます。ストアの在庫管理担当者は、定期的にチェックして、ピックするオーダーがないか確認します。オーダーがある場合、担当者は、紙のピック・リストを印刷して、必要な製品を小売店のフロアに取り出すことができます。場合によっては、オーダーをストアで受け取ったときに、自動的に印刷をトリガーすることができます。

伝票は、コンソールからシングルクリックするだけで、簡単に印刷できます。この機能は、フロー実行およびプリンター・コンポーネントを使用してサポートされません。

Jasper 印刷コンポーネントを使用して、PDF レポートを生成し、HTTP 応答を介して配信することができます。これを行うには、Jasper 印刷コンポーネントでサービスを構成し、「Jasper 印刷オブジェクト」オプションを選択します。現在、このサービスを起動するには、「InteropJasperServlet」サーブレットに HTTP 呼び出しを行い、PDF オブジェクトの生成で作成したサービスおよびサービスの名前に対して、入力 XML の「ロケール」を渡します。これらのサービスは、サービス定義フレームワーク (SDF) で作成されます。SDF およびサービスの作成方法については、第 3 章を参照してください。

また、一般プロセス・タイプで定義された印刷トランザクションを使用して、印刷イベントの成功および失敗を監査することもできます。このトランザクションは、構成可能で、Print.ON\_SUCCESS および Print.ON\_FAILURE の 2 つのイベントがあります。ON\_FAILURE イベントは、印刷の失敗など、サービス中断の例外の場合のみ発生します。

以下の表は、Jasper 印刷構成プロパティを示しています。

表 476. Jasper 印刷構成プロパティ

フィールド	説明
「一般」タブ	
Jasper レポート	これは、コンパイルされた Jasper ファイルです。ファイル名は、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation カスタマイズ 基本」で説明されているとおり、標準および拡張可変長フォーマットの両方で変数をサポートしています。
選択有効期限をレポート	レポートのルートとして送信する要素を指定します。デフォルトでは、XML 全体が使用されます。このフィールドを指定しても、要素に解決されない場合、エラーがスローされます。
ロケール	レポート内の文字列を翻訳するためのロケールを指定します。XML のデータは、デフォルト設定のコンポーネントを使用してローカライズできます (698 ページの『デフォルト・コンポーネント』を参照)。
Sterling Selling and Fulfillment Foundation・リソース・バンドルの使用	チェック・マークを付けた場合、レポートのすべての文字列は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation・リソース・バンドルを使用して、要求されたロケールに翻訳されます。
「出力」タブ	
プリンター	使用するプリンターを指定する場合にこのオプションを選択します。
プリンター名	使用するプリンターを指す XML パスを入力します。
コピー数	印刷する部数を入力します。
「変数」タブ	
変数名	バリデーター・メソッドに渡すパラメーターの名前。
変数値	バリデーター・メソッドに渡すパラメーターの値。

カスタム印刷フォーマットを可能にするために、印刷コンポーネントの構成は、入力 XML に基づいたレポート・ファイル名の変更をサポートしています。例えば、入力 XML に次のファイル名が含まれているとします。

```
${jasperfolder}/compiled/${orgcode}/report.${doctype}.jasper
```

最初に、すべての変数が「変数」タブで定義された変数に照らして解決されます。

```
orgcode g xml:/Order/@OrganizationCode
```

```
doctype g xml:/Order/@DocumentType
```

残りの変数は、yfs.properties ファイルに照らして解決されます。この場合、`${jasperfolder}` 変数は yfs.properties 定義によって、次のように解決されます。`jasperFolder=/someCustomJasperFolder`。このプロパティを変更するには、`<INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties` ファイルにエントリーを追加します。customer\_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティ・ガイド』を参照してください。

したがって、`<Order OrganizationCode="DEFAULT" DocumentType="0001" .... />` と入力すると、式は `/someCustomJasperFolder/compiled/DEFAULT/report.0001.jasper` に解決されます。

レポートの処理時にエラーが発生した場合、例外がスローされます。例えば、ファイル名が無効な場合、例外がスローされます。非同期サービスを一時停止する機能を有効にして、レポートを印刷すると、サービス中断例外がスローされます。

---

## アダプター・ノード

サービス定義フレームワークは、カスタム・アダプターを介して IBM Sterling B2B Integrator などの外部システムに接続するためのフックを提供します。Sterling Selling and Fulfillment Foundationは、現在、標準アダプター Sterling GISIBM Sterling B2B Integrator を提供しています。

### Sterling GISIBM Sterling B2B Integrator

このアダプターは、HTTP プロトコルを使用する IBM Sterling B2B Integrator 製品で通信する際に使用します。名前と値のペアを送信するのは対照的に、HTTP 接続を使用して XML をストリーミングできるため、パフォーマンスが向上します。ただし、名前と値のペアを使用する場合、特定の GIS フィックスパックが必要です。ご使用の JDK バージョンに適するフィックスパックについては、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* インストール・ガイド』を参照してください。

#### 構成プロパティ

このアダプターのプロパティは、以下のとおりです。

表 477. IBM Sterling B2B Integrator 構成プロパティ

プロパティ	説明
「URL」	メッセージの送信先の URL を入力します。

表 477. IBM Sterling B2B Integrator 構成プロパティ (続き)

プロパティ	説明
XML ドキュメントの配信	XML ドキュメントをストリーミングで送受信する場合、このフィールドを選択します。選択された場合、「HTTP ポスト変数」入力ボックスは使用不可になります。
HTTP ポスト変数	HTTP POST データを割り当てる変数名を入力します。
安全	このフィールドが選択されると、指定した URL への送信時にメッセージが暗号化されます。
キー保管タイプ	「安全」をチェックした場合、この値を JKS (Java キー保管) に設定します。
キー保管	「安全」を選択した場合、クライアント・サイドのデジタル証明書を格納するためのキー保管を入力します。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が <INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルに定義されていることを確認してください。 customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。
キー保管パスワード	「安全」を選択した場合、キー保管にアクセスするためのパスワードを入力します。
トラストストア	「安全」を選択した場合、サーバー・サイドのデジタル証明書を格納するためのトラストストアを入力します。絶対パス名の代わりに変数を使用する場合は、その変数が <INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルに定義されていることを確認してください。 customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。
トラストストア・パスワード	「安全」を選択した場合、トラストストアにアクセスするためのパスワードを入力します。

名前と値のペアを使用する場合、HTTP ポスト変数名を入力します。何らかの名前と値のペアを追加で指定が必要な場合、「ポスト変数」タブで名前と値を入力します。このタブで、 を選択して、以下の表の指示に従います。

表 478. IBM Sterling B2B Integrator ポスト変数プロパティ

フィールド	
ポスト変数名	ポスト変数の名前を入力します。
ポスト変数値	ポスト変数名の値を入力します。

---

## 第 25 章 テキスト・トランスレーター参照

時には、サービス・ノードは、グラフィカル・ユーザー・インターフェースに加え、構成するファイルを必要とすることもあります。

---

### ファイル形式の理解

フラット・ファイルには、通常、一連のレコード (または明細) が含まれており、各レコードは一連のフィールドで構成されます。

フラット・ファイルの形式は、以下のタイプのいずれかにできます。

- 定位置
- 区切られた
- XML

#### 位置指定フラット・ファイル

位置指定フラット・ファイルには、固定された最大長を持つフィールドおよび共通のレコード終了文字を持つレコードがあります。

例えば、UNIX システム上の位置指定フラット・ファイルに、最大 15 文字の固定長の「名前」フィールドと最大 10 文字の固定長の「色」フィールドがあり、各フィールドの最後が空白で区切れ、改行文字 (\n) がある場合、以下の例のように表示されます。

```
NAME          COLOR      \n
Sam           turquoise \n
David         red        \n
Elizabeth     orange    \n
```

図 34. 位置指定フラット・ファイルのフラグメント

#### 区切られたフラット・ファイル

区切られたフラット・ファイルには、指定された区切り文字またはセパレーターで互いに区切られた 1 つ以上のレコードが含まれます。例えば、各レコードはオペレーティング・システムのライン・セパレーターで終了し、レコード内の各フィールドはコンマによって分かれています。

区切り文字は、データの一部として読み取られません。ただし、データとして区切り文字が現れる場合、データと区切り文字を区別できるようにデータをフォーマット設定することができます。例えば、区切り文字が表示されているフィールドを引用符で囲むことで、区切り文字をデータとして扱い、区切り文字としては扱わないように指定できます。例えば、区切り文字としてアスタリスク (\*) を使用することを選択し、それがデータ・フィールド内で「Special」の単語の後も現れる場合、

フラット・ファイル内では、「"Special\*"」として存在する必要があります。言い換えると、データ・フィールド全体を引用符 (" ") で囲む必要があります。

例えば、UNIX システム上の区切られたフラット・ファイルには、以下に示すように、コンマで区切られたフィールドが含まれます。

```
NAME, COLOR
Sam, turquoise \n
David, red \n
Elizabeth, orange \n
```

図 35. 区切られたフラット・ファイルのフラグメント

## XML フラット・ファイル

場合によっては、既存のアプリケーションが XML ファイルを作成することがあります。このネイティブ XML ファイルは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で使用できる形式に、XSL を用いて変換する必要があります。

入力フラット・ファイルが XML ファイルの場合、ソース XML は 1 つ以上の子エレメントが続く root エレメントを含んでいることが必要です。root エレメントの下のそれぞれの子エレメントは、フラット・ファイル受信プログラム・サービスの入力として処理されます。例えば、ソース XML が以下のようになっているとします。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Orders>
  <Order name="A1">...</Order>
  <Order name="A2">...</Order>
  <Order name="A3">...</Order>
</Orders>
```

入力 XML は処理されて、以下のように 3 つの異なる XML を作成します。

```
<Order name="A1"/>
<Order name="A2"/>
<Order name="A3"/>
```

このフラット・ファイル受信プログラム用に構成された API は、上に示される、それぞれが異なる XML を使用して 3 回実行されます。

createOrder() API を入力として使用するフラット・ファイルの例については、<INSTALL\_DIR>/xapidocs/code\_examples/flatfile/ ディレクトリーを参照してください。

フラット・ファイル内のデータの位置は、構成内の入力ディレクトリーとして指定されます。フラット・ファイルは、XSD で指定されるように、Sterling Selling and Fulfillment Foundation API の入力として使用されます。

# テキスト・トランスレーター・コンポーネント

## XSD ファイル

テキスト・トランスレーターは、XSD ファイル (XML ファイルの 1 つのタイプ) を使用してフラット・ファイルと XML 形式の間の変換を行います。Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、4 つの XSD を提供します。2 つの XSD は、定位置ファイルおよび区切り文字で区切られているファイルからのデータ用です。もう 2 つの XSD は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation からのデータ用で定位置ファイルおよび区切り文字で区切られているフラット・ファイルに変換します。

これらのファイルは、World Wide Web Consortium (W3C) で定義された標準に準拠しています。この標準については、<http://www.w3.org/XML/Schema> を参照してください。

4 つのすべての XSD ファイルは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation API に対応するように専用に設計されているため、変更することはできません。ただし、スキーマ・ファイルの定義および実装を行う際に、XSD の参照が必要な場合が実際にはあります。

以下の XSD ファイルのそれぞれについては、この章で説明します。

- テキスト・トランスレーター定位置用受信プログラム XSD ファイル
- テキスト・トランスレーター区切り文字付き用受信プログラム XSD ファイル
- テキスト・トランスレーター定位置用送信プログラム XSD ファイル
- テキスト・トランスレーター区切り文字付き用送信プログラム XSD ファイル

これらのファイルは、ycpbe.jar ファイルにアーカイブされ、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で使用されます。

## スキーマ・ファイル

テキスト・トランスレーターは、スキーマ・ファイル (XML ファイルの 1 つのタイプ) を使用し、各フラット・ファイルの構造を記述します。スキーマの形式では、サービスによるデータの変換方法を決定するのに加え、フラット・ファイル・データの構文解析を明確に決定します。

ファイルのスキーマは、原則的に各 API のファイル形式ごとに必要です (例えば、位置の createOrder や区切られた createOrder スキーマの作成が必要な場合があります)。そのため、実行対象の API ごとに少なくとも 1 つの固有スキーマを記述する必要があります。

変換ステップは、入力データのソースに影響されないようにできます。同じデータは、フラット・ファイルでの格納または JMS キューを経由してることがあり、変換仕様はいずれの場合にも適用されます。

バイト数チェック用のスキーマ・ファイルは、ファイル・ヘッダーの場合は 0 を基点にしており、ファイル・トレーラーの場合は 1 を基点にしています。このため、ファイル・スキーマを作成する場合、このことを考慮する必要があります。定位置のスキーマ・ファイルに FileTrailerLength を指定する際に、ファイル・トレーラー

が改行で終わる場合は、改行を考慮する必要があります。UNIX で改行は 1 バイトであり、Windows で改行は 2 バイトです。改行文字の長さは、FileTrailerLength に追加する必要があります。

スキーマ・ファイルは、アクセス可能なすべての場所に、CLASSPATH 変数として格納されます。提供されたサンプル入力ファイルに対応するサンプル・スキーマ・ファイルについては、<INSTALL\_DIR>/xapidocs/code\_examples/flatfile/ ディレクトリーのファイルを参照してください。

**注:** IBM では、/error/ ディレクトリーおよび /complete/ ディレクトリー内のファイルについて、エラーがないか、または未処理のものがないか定期的にチェックすることをお勧めします。

## スキーマ・ファイルの定義

スキーマ・ファイルには、入力データ・ファイルの構造を記述します。スキーマの形式は、サービスによるデータの変換方法を決定します。スキーマの形式によって、フラット・ファイル・データの構文解析を明白に決定する必要があります。

ファイルのスキーマは、原則的に各 API のファイル形式ごとに必要です (例えば、位置の createOrder や区切られた createOrder スキーマの作成が必要な場合があります)。そのため、実行対象の API ごとに少なくとも 1 つの固有スキーマを記述する必要があります。スキーマ・ファイルは、XML を使用して記述します。

スキーマ・ファイルは、アクセス可能なすべての場所に、CLASSPATH 変数として格納されます。提供されたサンプル入力ファイルに対応するサンプル・スキーマ・ファイルについては、<INSTALL\_DIR>/xapidocs/code\_examples/flatfile/ ディレクトリーのファイルを参照してください。

XML から XML に変換する場合、スキーマや XSD ファイルは不要です。

---

## テキスト・トランスレーターのセットアップの確認

サービスをデプロイする前に、テスト・ファイルをいくつか作成し、プロセス全体を通してそのファイルを実行して、すべてのデータが正しく取得され、使用されるようにします。

フラット・ファイル処理中に何らかのエラーが発生すると、このエラーは、フラット・ファイル受信プログラム構成ファイルに指定される 2 つのファイルに記録されます。

- エラー・ファイル - エラーが発生した発生事象ごとのリストを記録します。
- エラー・データ・ファイル - エラーになった実際のレコードが含まれます。

例えば、両方のエラー・ファイルがデフォルトのサフィックス (.err) を使用するよう指定しており、text.in という名の入力ファイルからデータを処理する場合、テキスト・トランスレーターは、エラー発生時にエラー・ログを作成し、それ以降の追加のエラーは以下のそれぞれのファイルの末尾に追加されます。

- text.in.err - エラー発生事象をリストします。
- text.in.err.dat - エラーになったレコードが含まれます。

## エラー・メッセージ

幅広いシチュエーションをカバーするために、通常、エラー・メッセージには複数のパラメーターが備わっています。各パラメーターは、フィールド名またはフィールド位置のいずれかを指します。以下の表に、発生する可能性のあるすべてのエラー状態を示します。中括弧 ({} ) 内のパラメーターは、実行時の状況に応じたデータに置き換わります。

注: 定期的に /error ディレクトリー内および /complete ディレクトリー内のファイルを調べて、エラーが含まれていないか、未処理のままになっていないかを確認する必要があります。

表 479. エラー・ファイルに含まれる可能性のあるエラー

エラー・コード	説明
YIF_OVERLAPPING_FIELDS	レコード {2} 内でフィールド {0} がフィールド {1} と交差しています。このエラー・コードは、同じレコード内で 2 つのフィールドの位置がオーバーラップしていることを示します。
YIF_INVALID_FIELD_BOUNDS	フィールド {0} の境界 (開始位置 = {1} 終了位置 = {2}) が無効です。このエラー・コードは、フィールドの開始位置が終了位置よりも大きいことを示しています。
YIF_INVALID_RECORD_TYPE_POS	レコード・タイプ・フィールドの位置が無効です。
YIF_EMPTY_RECORD_TYPE	レコード {0} にレコード・タイプ ID がありません。スキーマで宣言されていないレコード・タイプのレコードがデータに含まれる場合です。
YIF_EMPTY_RECORD_FOUND	レコードに適合するフィールドが存在しません。レコード・タイプ ID を持つレコードがデータに含まれていますが、個々のフィールドが存在しません。
YIF_INVALID_FIELD_GAP	レコード {0} に、[フィールド {1} 終了位置 = {2}] と [フィールド {3} 開始位置 = {4}] のギャップは存在できません。位置形式では、2 つのフィールドにギャップは存在できません。固定幅のため、不明なギャップは存在できません。固定幅。期間。
YIF_FIELD_OVERLAPS_RECORD_TYPE	レコード {0} で、フィールド {1} [開始位置 = {2}、終了位置 = {3}] がレコード・タイプ・フィールド {4} [開始位置 = {5}] とオーバーラップしています。位置形式において、フィールド・データがレコード・タイプ ID の境界とオーバーラップしている場合です。
YIF_FIELD_OVERLAPS_RECORD_TYPE_FIELD	レコード {0} で、フィールド {1} [位置 = {2}] がレコード・タイプ・フィールド {3} [位置 = {4}] とオーバーラップしています。区切られた形式において、フィールド・データがレコード・タイプ ID の境界とオーバーラップしている場合です。
YIF_SCHEMA_CONTAINS_CYCLE	要素 {0} で開始し、要素 {1} の前で終了するサイクルがスキーマに含まれます。スキーマの記述にサイクルを含めることはできません。サイクルが含まれる場合に、このエラー・コードがレポートされます。

表 479. エラー・ファイルに含まれる可能性のあるエラー (続き)

エラー・コード	説明
YIF_RECORD_ID_TOO_LARGE	レコード ID {0} が大きすぎます。レコード ID の幅が固定され、サイズがそれを越えた場合にこのエラーがレポートされます。
YIF_FIELD_NOT_DEFINED_IN_RECORD	属性マップ内のフィールド {0} がレコード {1} に存在しません。XML から位置形式または区切られた形式に変換するとき、XML 属性に対応するフィールドが存在しない場合です。
YIF_TOO_MANY_ATTRIBUTE_MAPS	要素マップ {1} 内の属性マップの数 = {0} がレコード {3} のフィールドの数 = {2} を超えています。フィールドにマップする必要のある XML 要素の属性数は、対応するレコードのフィールド数を超えることはできません。
YIF_INVALID_RID_BOUNDS	レコード ID 開始位置 {0} は、レコード ID 終了位置 {1} よりも小さい必要があります。位置形式では、レコード ID の境界が正しい必要があります。
YIF_RECORD_ID_NOT_MATCHED	レコード ID {0} は、スキーマ内で宣言されているどのレコードとも一致しません。
YIF_INCORRECT_RECORD_LENGTH	レコード長が正しくありません。
YIF_RECORD_LENGTH_TOO_SMALL	フィールドが少なすぎます。最小フィールド数 = {0} 検出数 = {1}
YIF_TOO_FEW_FIELDS_FOR_RECORD	レコード ID {0} のフィールド数が少ないことが検出されました。期待値 = {1} 検出数 = {2}
YIF_TOO_MANY_FIELDS_FOR_RECORD	レコード ID {0} のフィールド数が多すぎます。期待値 = {1} 検出数 = {2}
YIF_RECORD_LENGTH_TOO_LARGE	フィールド数が多すぎます。最大フィールド数 = {0} 検出数 = {1}
YIF_RECORD_TOKEN_NOT_FULLY_MATCHED	スキャンされたレコード名 {0} が、完全には一致しません。現在のトークンは {1} です。
YIF_INCOMPLETE_PREVIOUS_MATCH	スキャンされたレコード名 {0} に先立つレコード・セットが、完全には一致しません。
YIF_MAX_OCCURENCE_EXCEEDED	一致数が、レコード {0} の最大一致数を超えています。
YIF_FILE_VIOLATES_CONTROL_INFO	ファイル長 {0} は、fileHeader 長 {1} と fileTrailer 長 {2} の和よりも大きい必要があります。

表 479. エラー・ファイルに含まれる可能性のあるエラー (続き)

エラー・コード	説明
YIF_FILE_HEADER_DOES_NOT_EXIST	期待されるファイル・ヘッダー ID {0} が見つかりません。
YIF_FILE_TRAILER_DOES_NOT_EXIST	期待されるファイル・トレーラー ID {0} が見つかりません。
YIF_FILE_HEADER_DOES_NOT_MATCH	期待されるファイル・ヘッダー ID <{0}> と検出された <{1}> とが一致しません。
YIF_FILE_TRAILER_DOES_NOT_MATCH	期待されるファイル・トレーラー ID <{0}> と検出された <{1}> とが一致しません。
YIF_UNABLE_TO_BOUND_INPUT_STREAM	入力ストリームの境界 (スキャン長 = <{0}> スキャン開始位置 = <{1}>) を設定できません。
YIF_DIR_DOES_NOT_EXIST	指定されたディレクトリー {0} が存在しません。
YIF_DIR_IS_NOT_WRITEABLE	指定されたディレクトリー {0} に対する書き込み権限がありません。
YIF_INVALID_INCLUDES_PATTERN	「パターンを含む」の値 {0} が有効な正規表現ではありません。

## テキスト・トランスレーター XSD ファイル

### テキスト・トランスレーター定位置用受信プログラム XSD ファイル

定位置用受信プログラム XSD ファイルは、フラットな定位置ファイル内のデータを XML データに変換する方法を定義します。以下の表では、XSD の基本的な要素および属性をリストしています。

「改行」は定位置用受信プログラム XSD ファイルで使用される、唯一のサポート対象のレコード区切り文字です。

表 480. 位置指定フラット・ファイル受信プログラム XSD ファイルの要素

プロパティ	説明
<b>ParserDefaults エlement</b>	
RecordId 開始位置 (RecordIdStartPosition)	必須。整数。このフィールドは、各レコードの RecordId の開始位置を示します。
RecordId 終了位置 (RecordIdEndPosition)	必須。整数。このフィールドは、各レコードの RecordId の終了位置を示します。
デフォルトのレコード区切り文字 (DefaultRecordDelimiter)	オプション。デフォルトのレコード区切り文字は 改行です。
デフォルトのエスケープ文字 (DefaultEscapeCharacter)	オプション。CharacterType。デフォルトのエスケープ文字は \ です。

表 480. 位置指定フラット・ファイル受信プログラム XSD ファイルのエレメント (続き)

プロパティ	説明
デフォルトの埋め込み文字 (DefaultPadCharacter)	<p>必須。ストリング。最小および最大の長さは共に 1 です。フィールド内のデータ以外の部分を、任意の 1 文字で埋めます。有効値には、スペースまたはゼロ、およびその他の任意の文字が含まれます。デフォルト値は # です。</p> <p>例えば、フィールドの最後に ### を指定しても無視されません。</p> <p>この文字は、フィールドを正確にスペースで満たしたいがブランク・スペースでは不安がある場合、可視化を目的に使用されます。</p>
復帰文字をスキップ (SkipCarriageReturn)	オプション。ブール値。デフォルトは true です。
<p><b>FileHeader エレメント</b></p> <p>他の何かを書き込む前にファイルに書き込まれるヘッダー。これは制御情報として使用できます。各トランザクション集合は、ヘッダー・レコードで始まります。国際化されたテキストが含まれる場合、ヘッダー・レコード長はバイトと見なす必要があります。</p> <p>例えば、販売オーダーのレコード・セットには OrderHeader レコードがあり、トランザクション集合の開始を指定します。</p> <p>このエレメントはオプションです。ただし、FileHeader エレメントがある場合は、FileTrailer エレメントもあることが必要です。この 2 つのエレメントは、各ファイルの開始と終了でテキストを挟むのに使用されます。</p>	
FileHeader の名前 (FileHeaderName)	オプション。ストリング。FileHeader の記述名。ただし、これは処理には使用されません。
FileHeader の ID (FileHeaderId)	必須。ストリング。この属性は、各ファイルの最初で一致させるテキストを指定します。
FileHeader 開始位置 (FileHeaderStartPos)	必須。整数。ヘッダーの開始位置。
FileHeader 長 (FileHeaderLength)	必須。整数。ヘッダーの長さ。
<p><b>FileTrailer エレメント</b></p> <p>ファイルの最後に書き込まれるトレーラー。これは、ファイルが本当に終了したかを検査するための制御情報として使用されます。国際化されたテキストが含まれる場合、ヘッダー・レコード長はバイトと見なす必要があります。</p>	
FileTrailer の名前 (FileTrailerName)	オプション。ストリング。FileTrailer の記述名。ただし、これは処理には使用されません。
FileTrailer の ID (FileTrailerId)	必須。ストリング。この属性は、各ファイルの最後で一致させるテキストを指定します。
FileTrailer 開始位置 (FileTrailerStartPos)	必須。整数。トレーラーの開始位置。
FileTrailer 長 (FileTrailerLength)	必須。整数。トレーラーの長さ。

表 480. 位置指定フラット・ファイル受信プログラム XSD ファイルのエレメント (続き)

プロパティ	説明
<b>CharacterType エレメント</b>	
このエレメントは、XSD ファイルで使用されるすべての要素および属性の文字タイプを指定します。必須。ストリング。最小および最大の長さは共に 1 です。	
<b>Root エレメント</b>	
Root エレメントの下に定義される要素および属性で、入力フラット・ファイルの編成を表します。	
Name	必須。NMTOKEN。root エレメントの名前。これは、作成する XML のルート要素名と同じです。
説明	オプション。ストリング。root エレメントの説明。この属性は処理には使用されません。
XML 名 (XMLName)	オプション。変換された XML 内の root エンティティの名前。
<b>Header エレメント</b>	
必須。これは、Root エレメントの下で最初に読み取られるレコードです。	
Name	必須。NMTOKEN。Header エレメントの名前。これは、XML ファイル内のタグ名です。
レコード名 (RecordName)	必須。NMTOKEN。レコードの名前。このフィールドは、Record エレメントの Name 属性と一致する必要があります。この名前は、フラット・ファイル内で使用される RecordName の ID です。
最小発生回数 (MinOccurrence)	オプション。整数。このシーケンスを発生することができる最小回数。このシーケンスは、少なくとも 1 回はデフォルトで発生します。0 の値は、このシーケンスの発生がオプションであることを表します。デフォルトは 1 です。
最大発生回数 (MaxOccurrence)	必須。整数。このシーケンスを発生することができる最大回数。0 の値は、このシーケンスを無制限に発生できることを表します。デフォルトは 1 です。
<b>Terminal エレメント</b>	
シーケンスの一部でもなければ選択エンティティの一部でもないレコードを定義します。端末エンティティは階層内のリーフ・ノードです。	
最小発生回数 (MinOccurrence)	オプション。整数。このシーケンスを発生することができる最小回数。このシーケンスは、少なくとも 1 回はデフォルトで発生します。0 の値は、このシーケンスの発生がオプションであることを表します。デフォルトは 1 です。
最大発生回数 (MaxOccurrence)	オプション。整数。このシーケンスを発生することができる最大回数。0 の値は、このシーケンスを無制限に発生できることを表します。デフォルトは 1 です。
Name	必須。NMTOKEN。端末ノードの名前。
レコード名 (RecordName)	必須。NMTOKEN。この端末ノードに対応するレコードの名前。

表 480. 位置指定フラット・ファイル受信プログラム XSD ファイルのエレメント (続き)

プロパティ	説明
<b>Sequence エレメント</b>	
<p>このエレメントは必須で、SequenceType タイプです。</p> <p>このレコードは、シーケンスの最初を示すシーケンス・エンティティに対応します。このレコードは、複数タイプのサブレコード (Terminal、Sequence または Choice のエレメントなど) を持つことがあります。</p> <p>例えば、オーダー・トランザクションはオーダー明細を含むことができ、オーダー明細は 1 つ以上の一連の明細アイテムを含むことができます。この場合、オーダー明細レコードはシーケンス・エンティティに対応し、このシーケンス・エンティティには、子として明細アイテムに対応する別のシーケンス・エンティティが含まれます。</p>	
最小発生回数 (MinOccurence)	オプション。整数。このシーケンスを発生することができる最小回数。このシーケンスは、少なくとも 1 回はデフォルトで発生します。0 の値は、このシーケンスの発生がオプションであることを表します。デフォルトは 1 です。
最大発生回数 (MaxOccurence)	オプション。整数。このシーケンスを発生することができる最大回数。0 の値は、このシーケンスを無制限に発生できることを表します。デフォルトは 1 です。
Name	必須。NMTOKEN。Sequence エレメントの名前。
レコード名 (RecordName)	必須。NMTOKEN。フラット・ファイルで識別される Sequence エレメントのレコード名。
<b>Choice エレメント</b>	
<p>このエレメントは必須で、ChoiceType タイプです。</p> <p>Choice エンティティ宣言は、データ内に表示される、子エレメントのグループ内の 1 つのエンティティを定義します。Choice エンティティは、レコードに対応しません。Choice エンティティは、レコードの子エレメントの単なるグループであり、その子エレメントのいずれかが発生できることのみを指定します。ただし、それぞれの子エレメントは、Sequence エレメントまたは Terminal エレメントに対応できます。</p>	
最小発生回数 (MinOccurence)	オプション。整数。このシーケンスを発生することができる最小回数。このシーケンスは、少なくとも 1 回はデフォルトで発生します。0 の値は、このシーケンスの発生がオプションであることを表します。デフォルトは 1 です。
最大発生回数 (MaxOccurence)	オプション。整数。このシーケンスを発生することができる最大回数。0 の値は、このシーケンスを無制限に発生できることを表します。デフォルトは 1 です。
Name	必須。NMTOKEN。Choice エレメントの名前。
<b>RecordDefinitions\Record エレメント</b>	
<p>フラット・ファイル内の明細を記述するレコード。このレコード定義は、XML エレメントに変換されます。</p>	
RecordId	必須。NMTOKEN。これは、ソース XML ファイル内の RecordId です。
Name	レコードの名前。これは、Header、Terminal、Sequence または Choice の Name 属性に関連付けるために使用されます。

表 480. 位置指定フラット・ファイル受信プログラム XSD ファイルの要素 (続き)

プロパティ	説明
説明	ストリング。名前の説明。これは、ファイルの処理時には使用されません。
XML 名 (XMLName)	必須。NMTOKEN。Output エレメントのタグ名。
<b>Field エレメント</b>	
各レコードは、フィールドで構成され、フィールドは、ContainmentType に応じて属性または子エレメントに変換されます。	
Name	必須。NMTOKEN。フィールドの名前。この名前は、レコード内で一意にする必要があります。
XML 名 (XMLName)	必須。NMTOKEN。XML の出力属性または要素名。
説明	オプション。ストリング。フィールドに関する説明。
包含タイプ (ContainmentType)	これは、XML 内で属性またはエレメントのいずれかです。属性の場合、新しい属性にこのフィールドの値が設定されます。エレメントの場合、新しい子エレメントが、XMLName に設定されたタグ名およびこのフィールドの値に設定された値を使用して作成されます。  デフォルトは属性です。
開始位置 (StartPosition)	必須。整数。StartPosition は、前のレコードまたはフィールドの EndPosition よりも 1 つ大きい数にする必要があります。したがって、この 2 つのフィールドまたはレコードは連続します。
終了位置 (EndPosition)	必須。整数。フィールドの終了位置。
fileLayoutType エレメント	必須。ストリング。値は以下のとおりです。  定位置 - 固定長フィールドを持つフラット・ファイル  区切られた - 可変長フィールドを持つフラット・ファイル  XML - XML タグで表されるフィールドを持つフラット・ファイル
recordLayoutType エレメント	必須。ストリング。値は以下のとおりです。  定位置  区切られた
位置調整 (Justification)	オプション。データの位置合わせを指定します。  右 - データを右に位置合わせします。  左 - データが最大フィールド長より短い場合、データを左に位置合わせします。また、データの長さが長さの最小要件よりも短い場合、データを左に位置合わせします。これがデフォルトです。
デフォルト値 (DefaultValue)	オプション。NMTOKEN。
埋め込み文字 (PadCharacter)	必須。ストリング。最小および最大の長さは共に 1 です。フィールド内のデータ以外の部分を、任意の 1 文字で埋めます。有効値には、スペースまたはゼロが含まれます。

表 480. 位置指定フラット・ファイル受信プログラム XSD ファイルのエレメント (続き)

プロパティ	説明
<b>PadCharacterType エレメント</b>	
	必須。ストリング。最小および最大の長さは共に 1 です。フィールド内のデータ以外の部分を、任意の 1 文字で埋めます。有効値には、スペースまたはゼロが含まれます。
<b>JustificationType エレメント</b>	
	オプション。データの位置合わせを指定します。  右 - データを右に位置合わせします。  左 - データが最大フィールド長より短い場合、データを左に位置合わせします。また、データの長さが長さの最小要件よりも短い場合、データを左に位置合わせします。これがデフォルトです。

## テキスト・トランスレーター区切り文字付き用受信プログラム XSD ファイル

テキスト・トランスレーター区切り文字付き用受信プログラム XSD ファイルは、区切り文字で区切られているフラット・ファイル内のデータを XML データに変換する方法を定義します。以下の表では、基本的な要素および属性を定義しています。

Root、FileHeader および FileTrailer のエレメント定義は、711 ページの『テキスト・トランスレーター定位置用受信プログラム XSD ファイル』にある説明と同じです。

表 481. 区切り文字付きフラット・ファイル用受信プログラム XSD ファイルのエレメント

プロパティ	説明
<b>ParserDefaults エレメント</b>	
RecordId 開始位置 (RecordIdStartPosition)	必須。整数。レコードの開始位置を示します。
デフォルトのレコード区切り文字 (DefaultRecordDelimiter)	必須。RecordDelimiterType。レコードとレコードの間のデフォルトの区切り文字は、改行です。
デフォルトのフィールド区切り文字 (DefaultFieldDelimiter)	オプション。CharacterType。フィールドとフィールドの間のデフォルトのフィールド区切り文字は、コンマ「,」です。
デフォルトのエスケープ文字 (DefaultEscapeCharacter)	オプション。CharacterType。デフォルトのエスケープ文字は、\ です。

表 481. 区切り文字付きフラット・ファイル用受信プログラム XSD ファイルの要素 (続き)

プロパティ	説明
デフォルトの埋め込み文字 (DefaultPadCharacter)	<p>必須。ストリング。最小および最大の長さは共に 1 です。フィールド内のデータ以外の部分を、任意の 1 文字で埋めます。有効値には、スペースまたはゼロ、およびその他の任意の文字が含まれます。デフォルト値は # です。</p> <p>例えば、フィールドの最後に ### を指定しても無視されません。</p> <p>この文字は、フィールドを正確にスペースで満たしたいがブランク・スペースでは不安がある場合、可視化を目的に使用されます。</p>
デフォルトの折り返し文字 (DefaultWrapCharacter)	<p>折り返し/引用文字はパラメーター化されています。デフォルトの折り返し文字を、フラット・ファイルの区切りスキーマ (サービス・コンポーネント固有) に定義できます。</p> <p>サンプル・エントリは以下のとおりです。</p> <pre data-bbox="781 825 1455 1167">&lt;?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?&gt; &lt;FlatfileDelimitedSchema xmlns:xsi= "http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xsi:noNamespaceSchemaLocation= 'delimitedreceiver.xsd'&gt; &lt;ParserDefaults   DefaultRecordDelimiter="Newline"   DefaultFieldDelimiter=" "   DefaultPadCharacter="#"   RecordIdStartPosition="1"   DefaultWrapCharacter="@"&gt;   ... &lt;/ParserDefaults&gt; &lt;/FlatfileDelimitedSchema&gt;</pre> <p>上の例で、折り返し/引用文字には @_ が設定されています。</p> <p>注: デフォルトの折り返し文字属性はオプションであり、デフォルト値は "" です。DefaultWrapCharacter="NONE" の場合、折り返し文字は使用されません。</p>
復帰文字をスキップ (SkipCarriageReturn)	オプション。ブール値。デフォルトは true です。
<b>TranslationProperties 属性</b>	
スキーマ XML ファイル (SchemaXMLFile)	<p>必須。ストリング。XML 入力からフラット・ファイルへ変換する際の XSD 記述ファイルへの相対パス。場所は、FileSendAgent の CLASSPATH から相対する場所です。</p> <p>例えば、フラット・ファイル XSD XML ファイルが &lt;INSTALL_DIR&gt;/bin/test.xml ファイルにあり、&lt;INSTALL_DIR&gt; が CLASSPATH 内にある場合、属性の値は /bin/test.xml ファイルです。</p>
<b>RecordDefinitions\Record エlement</b>	
フラット・ファイル内の明細を記述するレコード。このレコード定義は、XML エlement に変換されます。	

表 481. 区切り文字付きフラット・ファイル用受信プログラム XSD ファイルのエレメント (続き)

プロパティ	説明
RecordId	必須。NMTOKEN。これは、ソース XML ファイル内の RecordId です。
Name	レコードの名前。これは、Header、Terminal、Sequence または Choice の Name 属性に関連付けるために使用されます。
説明	ストリング。名前の説明。これは、ファイルの処理時には使用されません。
Smiling	必須。NMTOKEN。Output エレメントのタグ名。
<b>Field エレメント</b>	
各レコードは、フィールドで構成され、フィールドは、ContainmentType に応じて属性または子エレメントに変換されます。	
Name	必須。NMTOKEN。フィールドの名前。この名前は、レコード内で一意にする必要があります。
Smiling	必須。NMTOKEN。XML の出力属性または要素名。
フィールド位置 (Field Position)	必須。整数。レコード内のこのフィールドの位置。 RecordId の位置が 1 の場合、フィールドの番号付けは 2 の位置から始まります。
包含タイプ (Containment Type)	これは、XML 内で属性またはエレメントのいずれかです。属性の場合、新しい属性にこのフィールドの値が設定されます。エレメントの場合、新しい子エレメントが、Smiling に設定されたタグ名およびこのフィールドの値に設定された値を使用して作成されます。  デフォルト値は属性です。

## テキスト・トランスレータ一定位置用送信プログラム XSD ファイル

テキスト・トランスレータ一定位置用送信プログラム XSD ファイルは、XML データを位置指定フラット・ファイルに変換する方法を定義します。以下の表では、XSD の基本的な要素および属性をリストしています。

FileHeader および FileTrailer のエレメント定義は、711 ページの『テキスト・トランスレータ一定位置用受信プログラム XSD ファイル』にある説明と同じです。

表 482. 位置指定フラット・ファイル送信プログラム XSD ファイルのエレメント

プロパティ	説明
<b>ParserDefaults エレメント</b>	
RecordId 開始位置 (Record Id Start Position)	必須。整数。このフィールドは、各レコードの RecordId の開始位置を示します。
RecordId 終了位置 (Record Id End Position)	必須。整数。このフィールドは、各レコードの RecordId の終了位置を示します。

表 482. 位置指定フラット・ファイル送信プログラム XSD ファイルの要素 (続き)

プロパティ	説明
デフォルトのレコード区切り文字 (Default Record Delimiter)	必須。Record Delimiter Type。レコードとレコードの間のデフォルトの区切り文字は、改行です。
デフォルトのエスケープ文字 (Default Escape Character)	オプション。Characterizes。デフォルトのエスケープ文字は \ です。
デフォルトの埋め込み文字 (Default Pad Character)	必須。ストリング。最小および最大の長さは共に 1 です。フィールド内のデータ以外の部分を、任意の 1 文字で埋めます。有効値には、スペースまたはゼロ、およびその他の任意の文字が含まれます。デフォルト値は # です。  例えば、フィールドの最後に ### を指定しても無視されません。  この文字は、フィールドを正確にスペースで満たしたいがブランク・スペースでは不安がある場合、可視化を目的に使用されます。
復帰文字をスキップ (SkipCarriageReturn)	オプション。ブール値。デフォルトは true です。
<b>ElementMapList エlement</b>	
この Element は、XML 内の Element をフラット・ファイル内のレコードにマッピングします。	
<b>ElementMap エlement</b>	
要素名 (ElementName)	必須。NMTOKEN。XML ファイル内の Element の名前。
RecordId	必須。NMTOKEN。書き込み用のレコード ID。
<b>AttributeMap エlement</b>	
属性名 (AttributeName)	必須。NMTOKEN。属性の名前。
フィールド名 (FieldName)	必須。NMTOKEN。属性に対応するフィールド。このフィールドは、Field Element の Name 属性に対応します。
データ切捨て (TruncateData)	オプション。ブール値。デフォルトは true です。
<b>RecordDefinitions\Record エlement</b>	
フラット・ファイル内の明細を記述するレコード。このレコード定義は、XML Element に変換されます。	
RecordId	必須。NMTOKEN。これは、ソース XML ファイル内の RecordId です。
Name	レコードの名前。これは、Header、Terminal、Sequence または Choice の Name 属性に関連付けるために使用されます。
説明	ストリング。名前の説明。これは、ファイルの処理時には使用されません。
XML 名 (XMLName)	必須。NMTOKEN。Output Element のタグ名。
<b>Field エlement</b>	
各レコードは、フィールドで構成され、フィールドは、ContainmentType に応じて属性または子 Element に変換されます。	

表 482. 位置指定フラット・ファイル送信プログラム XSD ファイルの要素 (続き)

プロパティ	説明
Name	必須。NMTOKEN。AttributeMap 内で参照として使用されるフィールドの名前。この名前は、レコード内で一意にする必要があります。
XML 名 (XMLName)	必須。NMTOKEN。XML の出力属性または要素名。
開始位置 (StartPosition)	必須。整数。StartPosition は、前のレコードまたはフィールドの EndPosition よりも 1 つ大きい数にする必要があります。したがって、この 2 つのフィールドまたはレコードは連続します。
終了位置 (EndPosition)	必須。整数。フィールドの終了位置。
埋め込み文字 (PadCharacter)	必須。文字。最小および最大の長さは共に 1 です。フィールド内のデータ以外の部分を、任意の 1 文字で埋めます。有効値には、スペースまたはゼロが含まれます。
位置調整 (Justification)	オプション。データの位置合わせを指定します。 右 - データを右に位置合わせします。  左 - データが最大フィールド長より短い場合、データを左に位置合わせします。また、データの長さが長さの最小要件よりも短い場合、データを左に位置合わせします。これがデフォルトです。

## テキスト・トランスレータ区切り文字付き送信プログラム XSD ファイル

テキスト・トランスレータ区切り文字付き送信プログラム XSD ファイルは、XML データを区切り文字で区切られているファイルに変換する方法を定義します。以下の表では、基本的な要素および属性をリストしています。

Root、FileHeader および FileTrailer の要素定義は、711 ページの『テキスト・トランスレータ区切り文字付き送信プログラム XSD ファイル』にある説明と同じです。

表 483. 区切り文字付きフラット・ファイル送信プログラム XSD ファイルの要素

プロパティ	説明
<b>ParserDefaults エlement</b>	
RecordId 開始位置 (RecordIdStartPosition)	必須。整数。レコードの開始位置を示します。
デフォルトのレコード区切り文字 (DefaultRecordDelimiter)	必須。RecordDelimiterType。レコードとレコードの間のデフォルトの区切り文字は、改行です。
デフォルトのフィールド区切り文字 (DefaultFieldDelimiter)	オプション。CharacterType。フィールドとフィールドの間のデフォルトのフィールド区切り文字は、コンマ「,」です。
デフォルトのエスケープ文字 (DefaultEscapeCharacter)	オプション。CharacterType。デフォルトのエスケープ文字は、\ です。

表 483. 区切り文字付きフラット・ファイル用送信プログラム XSD ファイルの要素 (続き)

プロパティ	説明
デフォルトの埋め込み文字 (DefaultPadCharacter)	<p>必須。ストリング。最小および最大の長さは共に 1 です。フィールド内のデータ以外の部分を、任意の 1 文字で埋めます。有効値には、スペースまたはゼロ、およびその他の任意の文字が含まれます。デフォルト値は # です。</p> <p>例えば、フィールドの最後に ### を指定しても無視されません。</p> <p>この文字は、フィールドを正確にスペースで満たしたいがブランク・スペースでは不安がある場合、可視化を目的に使用されます。</p>
復帰文字をスキップ (SkipCarriageReturn)	オプション。ブール値。デフォルトは true です。
EOR フィールド区切り文字抑止 (SuppressEORFieldDelimiter)	オプション。ブール値。デフォルトは False です。この属性が True として渡されると、レコードの最後に区切り文字が出力されません。
<b>ElementMapList エlement</b>	
この Element は、XML 内の Element をフラット・ファイル内のレコードにマッピングします。	
<b>ElementMap エlement</b>	
要素名 (ElementName)	必須。NMTOKEN。XML ファイル内の Element の名前。
RecordId	必須。NMTOKEN。書き込み用のレコード ID。
<b>AttributeMap エlement</b>	
属性名 (AttributeName)	必須。NMTOKEN。属性の名前。
フィールド名 (FieldName)	必須。NMTOKEN。属性に対応するフィールド。このフィールドは、Field Element の Name 属性に対応します。
データ切捨て (TruncateData)	オプション。ブール値。デフォルトは true です。
<b>RecordDefinitions\Record エlement</b>	
フラット・ファイル内の明細を記述するレコード。このレコード定義は、XML Element に変換されます。	
RecordId	必須。NMTOKEN。これは、ソース XML ファイル内の RecordId です。
Name	レコードの名前。これは、Header、Terminal、Sequence または Choice の Name 属性に関連付けるために使用されます。
説明	ストリング。名前の説明。これは、ファイルの処理時には使用されません。
XML 名 (XMLName)	必須。NMTOKEN。Output Element のタグ名。
RecordId 書き込み (WriteRecordId)	デフォルト値は Y です。N に設定される場合、レコード ID は出力ファイルに書き込まれません。
<b>Field エlement</b>	
各レコードは、フィールドで構成され、フィールドは、ContainmentType に応じて属性または子 Element に変換されます。	

表 483. 区切り文字付きフラット・ファイル用送信プログラム XSD ファイルのエレメント (続き)

プロパティ	説明
Name	必須。NMTOKEN。AttributeMap 内で参照として使用されるフィールドの名前。この名前は、レコード内で一意にする必要があります。
XML 名 (XMLName)	必須。NMTOKEN。XML の出力属性または要素名。
フィールド位置 (FieldPosition)	必須。整数。レコード内のこのフィールドの位置。RecordId の位置が 1 の場合、フィールドの番号付けは 2 の位置から始まります。

## テキスト・トランスレーターの実行

テキスト・トランスレーターは、<INSTALL\_DIR>/bin/ ディレクトリーにあるスクリプトを使用します。

ファイル・スキーマおよび XSD が正常に構文解析されて解釈されるようにするために、以下の行を開始スクリプトに追加できます。

```
"-Djavax.xml.parsers.SAXParserFactory=org.apache.xerces.jaxp.SAXParserFactoryImpl
-Djavax.xml.parsers.DocumentBuilderFactory=org.apache.xerces.jaxp.DocumentBuilderFactoryImpl"
```

例えば、startIntegrationServer.sh スクリプト内の全体の Java 行は、以下の例のようになります。

```
java
-Djavax.xml.parsers.SAXParserFactory=org.apache.xerces.jaxp.SAXParserFactoryImpl
-Djavax.xml.parsers.DocumentBuilderFactory=org.apache.xerces.jaxp.DocumentBuilderFactoryImpl com.yantra.integration.adapter.IntegrationAdapter TextTranslatorJMS
```

## 第 26 章 ドキュメント・タイプ

この章では、参考として、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で使用されるさまざまなドキュメント・タイプについて記述します。

表 484. ドキュメント・タイプ

ドキュメント・タイプ	数値	説明
<b>オーダー</b>		
販売オーダー	0001	このドキュメント・タイプは、アイテムまたはサービスの企業間での販売、または企業から顧客への販売のいずれかで使用されます。
計画済みオーダー	0002	このドキュメント・タイプは、今後行われるオーダーの計画に使用されます。
返品オーダー	0003	このドキュメント・タイプは、セラーにアイテムを返品するために使用されます。
テンプレート・オーダー	0004	このドキュメント・タイプは、今後発生するオーダーをモデル化できるテンプレートの作成に使用されます。
「購入オーダー」	0005	このドキュメント・タイプは、企業によって、他の企業からアイテムまたはサービスを購入するために使用されます。
転送オーダー	0006	このドキュメントタイプは、ある組織から別の組織 (例えば、倉庫から配送センター、倉庫から別の倉庫、配送センターからストア) にアイテムを転送するために使用されます。
マスター・オーダー	0007	このドキュメント・タイプは、時刻指定されたシーケンスで出荷されるアイテムの、企業間での販売、または企業から顧客への販売のいずれかで使用されます。
見積	0015	このドキュメント・タイプは、セールス案件での見積もりの提供に使用されます。
<b>集合・混載</b>		
集合・混載	1001	このドキュメント・タイプは、複数の出荷を 1 つの配達に統合する配達計画で使用されます。
<b>一般</b>		
一般	2001	このドキュメント・タイプは、他のどのドキュメント・タイプにも該当しないトランザクションおよびサービスで使用されます。
格納	2002	このドキュメント・タイプは、格納関連プロセスで使用されるトランザクションおよびサービスで使用されます (倉庫に到着する製品が格納される場所を指定するため)。
レイアウト	2003	このドキュメント・タイプは、倉庫レイアウトおよび関連プロセスを構成するために使用されるトランザクションおよびサービスで使用されます。

表 484. ドキュメント・タイプ (続き)

ドキュメント・タイプ	数値	説明
在庫	2004	このドキュメント・タイプは、在庫追跡、保守、および関連プロセスに使用されるトランザクションおよびサービスで使用されます。
トレーラー (Trailer)	2005	このドキュメント・タイプは、トレーラーの積み付け/荷降ろし関連プロセスに使用されるトランザクションおよびサービスで使用されます。
タスク	2006	このドキュメント・タイプは、倉庫内で実行する必要のあるすべてのタスクを計画するトランザクションおよびサービスで使用されます。
移動要請	2007	製品を倉庫内のある場所から別の場所に移動する方法を記述するトランザクションおよびサービスで使用されます。
積荷目録	2008	このドキュメント・タイプは、積荷目録プロセスに関連し、運送会社を指定して出荷内容を記述するトランザクションおよびサービスで使用されます。
超過梱包	2009	このドキュメント・タイプは、1 つ以上の出庫容器を別の出庫容器に梱包することに関わる、超過梱包プロセスに関連するトランザクションおよびサービスで使用されます。
<b>棚卸</b>		
棚卸	3001	このドキュメント・タイプは、倉庫内の在庫の物理的棚卸の実行に関連するトランザクションおよびサービスで使用されます。
<b>コンテナ</b>		
コンテナ	5001	出庫製品の梱包に使用される容器に関連するトランザクションおよびサービスで使用されます。
<b>ウェーブ (Wave)</b>		
出庫ピッキング	4001	このドキュメント・タイプは、出庫ピッキング・プロセスに関連するトランザクションおよびサービスで使用されます。
<b>作業オーダー</b>		
作業オーダー	7001	このドキュメント・タイプは、以下の異なる 2 つの状況で使用されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• WMS: 倉庫内で、通常はアイテムに対して実行する必要のあるタスク (タグ付け、キット化など)。</li> <li>• DOM: 提供サービスがオーダーされた場合、通常は取り付けや修理などのタスクの作業オーダーが作成されます。</li> </ul>
<b>案件</b>		
案件	0020	このドキュメント・タイプは、顧客へのセールス案件の提供に使用されます。

---

## 第 27 章 条件ビルダーの属性

---

### 条件ビルダーの属性

条件ビルダーのステートメントは、Applications Manager 全体で定義されている属性を使用して構築されます。

これらの属性は、以下のようにグループ化されています。

#### 販売オーダー

- オーダー・フルフィルメント
- オーダー交渉
- 出荷
- 入荷

#### 計画済みオーダー

- 計画済みオーダー実行
- 計画済みオーダー交渉

#### 返品オーダー

- 返品物流
- 返品出荷
- 返品受入

#### テンプレート・オーダー

- テンプレート・オーダー

#### 購入オーダー

- 購入オーダー実行
- 購入オーダー交渉
- 入荷
- 購入オーダー受入

#### 転送オーダー

- 転送オーダー実行
- 転送オーダー配達
- 転送オーダー受入

#### マスター・オーダー

- マスター・オーダー・フルフィルメント

#### 見積

- 見積フルフィルメント

## 集合・混載

- 集合・混載実行

## 一般

- 一般
- WMS 格納
- WMS レイアウト定義
- WMS 在庫
- トレーラー積み付け
- タスク実行
- 移動要請実行
- 積荷目録作成
- 超過梱包作成

## 棚卸

- 棚卸実行

## 容器

- パック・プロセス

## ウェーブ

- 出庫ピッキング

## 作業オーダー

- VAS プロセス

## 案件

- 案件フルフィルメント

## アイテム・ベース割り当て (IBA)

- アイテム・ベース割り当て (IBA) オーダー

---

## 販売オーダー

### オーダー・フルフィルメント

「オーダー・フルフィルメント」、「オーダー実行」、「見積フルフィルメント」、「転送オーダー実行」、および「テンプレート・オーダー」の条件ビルダー属性は同じです。

表 485. オーダー・フルフィルメントの条件ビルダー属性

属性	説明
オーダー属性	
条件変数 1	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。

表 485. オーダー・フルフィルメントの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
条件変数 2	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。
配達方法	オーダーの配達方法 (出荷、ピックアップまたは配達)。
処分コード	アイテムの処分コード。このフィールドは、「返品物流」および「供給コラボレーション」に対してのみ適用されます。
明細タイプ	オーダー明細のタイプ。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、オーダー明細タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
オーダー・タイプ	オーダー・タイプ。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、オーダー・タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
支払ステータス	オーダーの支払ステータス。
販売取り消し済み	オーダーが取り消し済みかどうかを示すフラグ。
トランザクション ID	オーダーで実行された最終トランザクションの ID。
参加者属性	
「請求先 ID」	オーダーの請求先住所の ID。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
エンタープライズ・コード	オーダー上のエンタープライズのコード。
入荷ノード	オーダーの出荷を受け入れるノード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷ノード	オーダーの出荷品を出荷するノード。
出荷ノード・インターフェース・タイプ	オーダー上の出荷ノードのインターフェース・タイプ (「外部アプリケーション」、「コンソール」、「Sterling WMS」、または「WMS 6.2」)。
「出荷先 ID」	オーダーの出荷先住所の ID。
サプライヤー・コード	オーダーのサプライヤーのコード。
製品属性	
製品 ID	オーダー明細上のアイテムの ID。
アイテム・グループ・コード	サービス・アイテムのグループ・コード。例えば、サービスが提供サービス・アイテムの場合、アイテム・グループ・コードは PS です。
アイテム明細 (Product Line)	オーダー明細上のアイテムの製品明細。
ソーシング属性	
フルフィルメント・タイプ	オーダーのフルフィルメント・タイプ。
計画的なバックオーダー	オーダーが、オーダー作成時に意図的に「バックオーダー済み」ステータスに入れられたかどうかを示すフラグ。
固定事前定義ノード	オーダー上のノードが固定事前定義ノードかどうかを示すフラグ。
オーダー・ソーシング分類	オーダーのオーダー・ソーシング分類。

表 485. オーダー・フルフィルメントの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
予約が必須	予約が必須かどうかを示すフラグ。
関連したオーダー属性	
チェーン・タイプ	オーダーのチェーン・タイプ。
連鎖明細	オーダー明細が他のオーダー明細に連鎖されているかどうかを示すフラグ。
派生明細	オーダー明細が他のオーダー明細から派生しているかどうかを示すフラグ。
オーダー目的	オーダーの目的。交換オーダーの場合、このフィールドは EXCHANGE に設定されます。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## オーダー交渉

「オーダー交渉」および「計画済みオーダー交渉」の条件ビルダー属性は同じです。

表 486. オーダー交渉の条件ビルダー属性

属性	説明
エンタープライズ・コード	オーダー上のエンタープライズのコード。
イニシエーター組織コード	交渉を開始する組織のコード。
ネゴシエーター組織コード	イニシエーターの提案を承認、修正申し込み、または拒否できる組織のコード。
交渉パイプライン・キー	このオーダーで使用される交渉パイプラインのキー。
交渉の番号	このオーダーの交渉の番号。
交渉ルール・キー	このオーダーの交渉ルールのキー。
ヘッダー・エンティティ	交渉が開始された対象のエンティティ。現在、適用可能なエンティティは「オーダー」のみです。
交渉ステータス	このオーダーの交渉のステータス。
ドキュメント・タイプ	このオーダーの伝票種別。標準の値は「販売オーダー」です。
運賃条件	このオーダーに関する運賃条件。
支払条件 (Payment Terms)	このオーダーに関する支払条件。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## 出荷

「出荷」、「入荷」、「転送オーダー配達」、および「返品出荷」の条件ビルダー属性は同じです。

表 487. 出荷条件ビルダー属性

属性	説明
エンタープライズ・コード	出荷上のエンタープライズのコード。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷ノード	この出荷品を出荷するノード。
出荷ノード・インターフェース・タイプ	オーダー上の出荷ノードのインターフェース・タイプ（「外部アプリケーション」、「コンソール」、「Sterling WMS」、または「WMS 6.2」）。
入荷ノード	この出荷を受け取ったノード。
出荷モード	出荷に使用される出荷モード。例えば、「小包」、「小口貨物」、「小口貨物未満」などです。
運賃条件	この出荷に関する運賃条件。
運送会社タイプ	この出荷の運送会社タイプ。
危険物フラグ (Hazardous Materials Flag)	これらの材料が危険物かどうかを示すフラグ。
ESP チェックが必要	出荷集約時にエコノミック出荷パラメーター・チェックが必要かどうかを示すフラグ。
予約が必要	サービス実行で予約が必要かどうかを示すフラグ。
ルーティング・ガイド保守	この出荷でルーティング・ガイドを保守するかどうかを示すフラグ。
配送業者 (Carrier)	この出荷の運送会社。
WMS 6.2 とリアルタイムの統合	この出荷品の出荷元のノードが Sterling Warehouse Management System と統合しているかどうかを示すフラグ。このフィールドを「N」に設定すると、ユーザーが WMS 6.2、またはその他の倉庫管理システムと統合していることを意味します。
手動で入力されました	この出荷がコンソールを使用して入力されたかどうかを示すフラグ。
配達コード	輸送コストを支払うエンティティのコード。
国/地域	出荷品の出荷先の国または地域。
配達方法	出荷の配達方法 (出荷、ピックアップまたは配達)。
要請されたシリアル	出荷が、特定のシリアル番号が渡された明細を保有するかどうかを示すフラグ。保有している場合、異なる出荷プロセスがバイラインで選択できます。
提供サービス	出荷が、関連付けられた提供サービス・アイテムを保有するかどうかを示すフラグ。
出荷タイプ	同じ性質の出荷のセットを示す。

表 487. 出荷条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについては、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## 受入

受入条件ビルダーの属性は、返品受入の属性と同じです。

---

## 計画済みオーダー

### 計画済みオーダー実行

「計画済みオーダー実行」の条件ビルダー属性は、「オーダー・フルフィルメント」属性と同じです。

### 計画済みオーダー交渉

「計画済みオーダー交渉」の条件ビルダー属性は、「オーダー交渉」属性と同じです。

---

## 返品オーダー

### 返品物流

表 488. 返品フルフィルメントの条件ビルダー属性

属性	説明
オーダー属性	
条件変数 1	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。
条件変数 2	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。
配達方法	返品のパッケージング方法 (出荷、ピックアップまたは配達)。
処分コード	アイテムの処分コード。
明細タイプ	返品明細のタイプ。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、返品明細タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。

表 488. 返品フルフィルメントの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
オーダー・タイプ	返品の種類。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、返品タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
支払ステータス	返品の出荷ステータス。
販売取り消し済み	返品が取り消し済みかどうかを示すフラグ。
トランザクション ID	返品で実行された最後のトランザクションの ID。
参加者属性	
「請求先 ID」	返品の出荷先住所の ID。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
エンタープライズ・コード	返品の出荷先住所のコード。
入荷ノード	返品の出荷を受け付けるノード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷ノード	返品の出荷品を出荷するノード。
出荷ノード・インターフェース・タイプ	返品に関する出荷ノードのインターフェース・タイプ (外部アプリケーション、コンソール、Sterling WMS、または WMS 6.2)。
「出荷先 ID」	返品の出荷先住所の ID。
サプライヤー・コード	返品の出荷先住所のコード。
製品属性	
製品 ID	返品明細のアイテムの ID。
アイテム・グループ・コード	サービス・アイテムのグループ・コード。例えば、サービスが提供サービス・アイテムの場合、アイテム・グループ・コードは PS です。
アイテム明細 (Product Line)	返品明細のアイテムの製品明細。
ソーシング属性	
フルフィルメント・タイプ	返品の出荷タイプ。
計画的なバックオーダー	返品が、返品作成時に計画的にバックオーダー済みステータスにされたかどうかを示すフラグ。
固定事前定義ノード	返品の出荷先住所が固定事前定義ノードかどうかを示すフラグ。
オーダー・ソーシング分類	返品の出荷先住所の分類。
予約が必須	予約が必須かどうかを示すフラグ。
関連したオーダー属性	
チェーン・タイプ	返品の出荷先住所のタイプ。
連鎖明細	返品明細が別の返品明細に関連付けられているかどうかを示すフラグ。
派生明細	返品明細が別の返品明細から派生したものであるかどうかを示すフラグ。
オーダー目的	このフィールドは、販売オーダーのみに適用されます。

表 488. 返品フルフィルメントの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## 返品出荷

返品出荷の条件ビルダー属性は、出荷属性と同じです。

## 返品受入

受入、購入オーダー受入、返品受入、転送オーダー受入の条件ビルダーの属性は同じです。

表 489. 返品受入の条件ビルダー属性

属性	説明
ドキュメント・タイプ	受入の伝票種別。通常の値は、返品オーダーです。
エンタープライズ・コード	受入を保有するエンタープライズ・コード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷ノード	出荷品の出荷元のノード。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
入荷ノード	出荷を受け取ったノード。
受入ノード・インターフェース・タイプ	オーダーに関する受入ノードのインターフェース・タイプ (外部アプリケーション、コンソール、Sterling WMS、または WMS 6.2)。
出荷モード	出荷に使用される出荷モード。例えば、「小包」、「小口貨物」、「小口貨物未満」などです。
運賃条件	受入の運賃条件。
運送会社タイプ	受入の運送会社タイプ。
危険物	このフラグは、受入に危険物があるかどうかを示します。
検査保留中	この返品に検査保留中のものがあるかどうかを示すフラグ。
受入ノードをリアルタイムに統合 (Is Receiving Node Integrated Real Time)	このフラグは、受入ノードが WMS 6.2 と統合されるか、別の WMS システムと統合されるかどうかを示します。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## テンプレート・オーダー

テンプレート・オーダーの条件ビルダー属性は、オーダー・フルフィルメント属性と同じです。

### 「購入オーダー」

#### 購入オーダー実行

表 490. 購入オーダー実行の条件ビルダー属性

属性	説明
オーダー属性	
条件変数 1	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。
条件変数 2	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。
配達方法	入庫オーダー (出荷、ピックアップまたは配達) の配達方法。
処分コード	アイテムの処分コード。
明細タイプ	入庫オーダー明細のタイプ。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、入庫オーダー明細タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
オーダー・タイプ	入庫オーダーのタイプ。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、入庫オーダー・タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
支払ステータス	入庫オーダーの支払ステータス。
販売取り消し済み	入庫オーダーが取り消し済みかどうかを示すフラグ。
トランザクション ID	入庫オーダーで実行された最後のトランザクションの ID。
参加者属性	
「請求先 ID」	入庫オーダーの請求先住所の ID。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
エンタープライズ・コード	入庫オーダーのエンタープライズ・コード。
入荷ノード	入庫オーダーの出荷を受け付けるノード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷ノード	入庫オーダーの出荷品を出荷するノード。
出荷ノード・インターフェース・タイプ	入庫オーダーに関する出荷ノードのインターフェース・タイプ (外部アプリケーション、コンソール、Sterling WMS、または WMS 6.2)。
「出荷先 ID」	入庫オーダーの出荷先住所の ID。
サプライヤー・コード	入庫オーダーのサプライヤーのコード。
製品属性	
製品 ID	入庫オーダー明細上のアイテムの ID。

表 490. 購入オーダー実行の条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
アイテム・グループ・コード	サービス・アイテムのグループ・コード。例えば、サービスが提供サービス・アイテムの場合、アイテム・グループ・コードは PS です。
アイテム明細 (Product Line)	入庫オーダー明細のアイテムの製品明細。
ソーシング属性	
フルフィルメント・タイプ	入庫オーダーのフルフィルメント・タイプ。
計画的なバックオーダー	入庫オーダーが、入庫オーダー作成時に計画的にバックオーダー済みステータスにされたかどうかを示すフラグ。
固定事前定義ノード	入庫オーダーのノードが固定事前定義ノードかどうかを示すフラグ。
オーダー・ソーシング分類	入庫オーダーのオーダー・ソーシング分類。
予約が必須	予約が必須かどうかを示すフラグ。
関連したオーダー属性	
チェーン・タイプ	入庫オーダーのチェーン・タイプ。
連鎖明細	入庫オーダー明細が別の入庫オーダー明細に紐付けられているかどうかを示すフラグ。
派生明細	入庫オーダー明細が別の入庫オーダー明細から派生したものであるかどうかを示すフラグ。
オーダー目的	このフィールドは、販売オーダーのみに適用されます。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについては、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## 購入オーダー交渉

表 491. 購入オーダー交渉の条件ビルダー属性

属性	説明
エンタープライズ・コード	入庫オーダーのエンタープライズ・コード。
イニシエーター組織コード	交渉を開始する組織のコード。
ネゴシエーター組織コード	イニシエーターの提案を承認、修正申し込み、または拒否できる組織のコード。
交渉パイプライン・キー	この入庫オーダーが通る交渉パイプラインのキー。
交渉の番号	この入庫オーダーの交渉の番号。
交渉ルール・キー	この入庫オーダーの交渉ルールのキー。
ヘッダー・エンティティ	交渉が開始された対象のエンティティ。現在、適用可能なエンティティは「オーダー」のみです。
交渉ステータス	この入庫オーダーの交渉ステータス。

表 491. 購入オーダー交渉の条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
ドキュメント・タイプ	この在庫オーダーのドキュメント・タイプ。通常の値は、「購入オーダー」です。
運賃条件	この在庫オーダーの運賃条件。
支払条件 (Payment Terms)	この在庫オーダーの支払条件。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## 入荷

「入荷」条件ビルダー属性は、「出荷」属性と同じです。

## 購入オーダー受入

購入オーダー受入の条件ビルダー属性は、返品受入属性と同じです。

## 転送オーダー

### 転送オーダー実行

転送オーダー実行の条件ビルダー属性は、オーダー・フルフィルメント属性と同じです。

### 転送オーダー配達

転送オーダー配達条件ビルダー属性は、出荷属性と同じです。

### 転送オーダー受入

転送オーダー受入の条件ビルダー属性は、返品受入属性と同じです。

## マスター・オーダー・フルフィルメント

表 492. マスター・オーダー・フルフィルメントの条件ビルダー属性

属性	説明
マスター・オーダー属性	
条件変数 1	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。

表 492. マスター・オーダー・フルフィルメントの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
条件変数 2	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。
配達方法	オーダーの配達方法 (出荷、ピックアップまたは配達)。
処分コード	アイテムの処分コード。このフィールドは、「返品物流」および「供給コラボレーション」に対してのみ適用されます。
明細タイプ	オーダー明細のタイプ。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、オーダー明細タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
オーダー・タイプ	オーダー・タイプ。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、オーダー・タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
支払ステータス	オーダーの支払ステータス。
販売取り消し済み	オーダーが取り消し済みかどうかを示すフラグ。
トランザクション ID	オーダーで実行された最終トランザクションの ID。
参加者属性	
「請求先 ID」	オーダーの請求先住所の ID。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
エンタープライズ・コード	オーダー上のエンタープライズのコード。
入荷ノード	オーダーの出荷を受け入れるノード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷ノード	オーダーの出荷品を出荷するノード。
出荷ノード・インターフェース・タイプ	オーダー上の出荷ノードのインターフェース・タイプ (「外部アプリケーション」、「コンソール」、「Sterling WMS」、または「WMS 6.2」)。
「出荷先 ID」	オーダーの出荷先住所の ID。
サプライヤー・コード	オーダーのサプライヤーのコード。
製品属性	
製品 ID	オーダー明細上のアイテムの ID。
アイテム・グループ・コード	サービス・アイテムのグループ・コード。例えば、サービスが提供サービス・アイテムの場合、アイテム・グループ・コードは PS です。
アイテム明細 (Product Line)	オーダー明細上のアイテムの製品明細。
ソーシング属性	
フルフィルメント・タイプ	オーダーのフルフィルメント・タイプ。
計画的なバックオーダー	オーダーが、オーダー作成時に意図的に「バックオーダー済み」ステータスに入れられたかどうかを示すフラグ。
固定事前定義ノード	オーダー上のノードが固定事前定義ノードかどうかを示すフラグ。
オーダー・ソーシング分類	オーダーのオーダー・ソーシング分類。

表 492. マスター・オーダー・フルフィルメントの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
予約が必須	予約が必須かどうかを示すフラグ。
関連したマスター・オーダー属性	
チェーン・タイプ	オーダーのチェーン・タイプ。
連鎖明細	オーダー明細が他のオーダー明細に連鎖されているかどうかを示すフラグ。
派生明細	オーダー明細が他のオーダー明細から派生しているかどうかを示すフラグ。
オーダー目的	オーダーの目的。交換オーダーの場合、このフィールドは EXCHANGE に設定されます。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについては、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## 見積フルフィルメント

見積フルフィルメントの条件ビルダー属性は、オーダー・フルフィルメント条件ビルダー属性と同じです。

## 集合・混載実行

表 493. 集合・混載実行条件ビルダー属性

属性	説明
集合・混載タイプ	集合・混載ドキュメントのタイプ。
エンタープライズ・コード	集合・混載ドキュメント上のエンタープライズのコード。
所有者の組織コード	集合・混載ドキュメントを所有する組織のコード。
配送業者 (Carrier)	集合・混載の輸送に使用される運送会社。
配達サービス・コード	集合・混載の輸送に使用される配達サービスのコード。
出荷モード	出荷に使用される出荷モード。例えば、「小包」、「小口貨物」、「小口貨物未満」などです。
危険物	この集合・混載で危険物が輸送されるかどうかを示すフラグ。
出荷元ノード	集合・混載の出荷元ノード。
移動先ノード	集合・混載の出荷先のノード。
複数の集合・混載場所	追加の出荷を集合・混載または荷降ろしするために、複数の集合・混載場所を経由するかどうかを示すフラグ。

表 493. 集合・混載実行条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## 一般

以下の条件ビルダーの属性は、「WMS 格納」、「WMS レイアウト定義」、「WMS 在庫」、「トレーラー積み付け」、「タスク実行」、「移動要請実行」、「積荷目録作成」、および「超過梱包作成」の属性と同一です。

表 494. 一般条件ビルダーの属性

属性	説明
エンタープライズ・コード	エンタープライズのコード。
組織コード	組織のコード。
供給業者コード	サービスを提供する組織のコード。
出荷ノード	この出荷品を出荷するノード。
供給タイプ	在庫ステータスに関連付けられた供給タイプ。代表的な値は、「手持ち在庫」、「保留」などです。
製品 ID	オーダー明細上のアイテムの ID。
単位	製品の単位。
製品クラス	製品の特性に基づくアイテムの在庫分類です。代表的な値は、FQ (一級品)、SQ (二級品) などです。
在庫ステータス (Inventory Status)	倉庫内の在庫管理プロセスの結果に基づく、製品の在庫サブ分類。代表的な値は、「良品」(良品の在庫)、「破損品」(損傷した在庫)、「品質保留 (Qty-Hold)」(品質の保留) などです。
価格調整タイプ (Adjustment Type)	在庫調整のタイプ。代表的な値は、「循環棚卸」、「受入」、「ピッキング」、「バック」、「出荷 (Shipping)」などです。
アラート・タイプ	例外が発生したときに生成される警告のタイプです。
配送業者 (Carrier)	出荷の輸送に使用される運送会社。
タスク・タイプ (Task Type)	タスクに適用可能なタスク・タイプ。代表的な値は、「受入」、「品質管理」、「棚卸 (Count)」、「補充」、「取り出し」、「格納」、「VAS」、「梱包」、「出荷」、および「ピッキング」です。
ユーザー ID に割り当て (Assigned To User ID)	タスクが割り当てられるユーザーの ID。
タスク・ステータス (Task Status)	タスクが通過するパイプライン内でのタスク・ステータス。代表的な値は、「未完了」、「提案済み」、「進行中」、「保留」、「完了」、「キャンセル」などです。

表 494. 一般条件ビルダーの属性 (続き)

属性	説明
ドキュメント・タイプ	このオーダーの伝票種別。代表的な値は、「販売オーダー」、「購入オーダー」、「転送オーダー」、および「返品オーダー」です。
SC UI クライアントのバージョン (SC UI Client Version)	リッチ・クライアント・プラットフォーム・アプリケーションのバージョン番号。
アクティビティ・グループ ID	アクティビティ・グループの ID。
{自分の属性を入力してください}	カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについては、『 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i> 』を参照してください。  このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。

---

## WMS 格納

WMS 格納の条件ビルダー属性は、一般属性と同じです。

---

## WMS レイアウト定義

WMS レイアウト定義の条件ビルダー属性は、一般属性と同じです。

---

## WMS 在庫

WMS レイアウト在庫の条件ビルダー属性は、一般属性と同じです。

---

## トレーラー積み付け

トレーラー積み付けの条件ビルダー属性は、一般属性と同じです。

---

## タスク実行

タスク実行の条件ビルダー属性は、一般属性と同じです。

---

## 移動要請実行

「移動要請実行」の条件ビルダー属性は、「一般」属性と同じです。

---

## 積荷目録作成

「積荷目録作成」の条件ビルダー属性は、「一般」属性と同じです。

## 超過梱包作成

「超過梱包作成」の条件ビルダー属性は、「一般」属性と同じです。

## 棚卸実行

表 495. 棚卸実行条件ビルダーの属性

属性	説明
エンタープライズ・コード	棚卸要請を作成する対象となるエンタープライズのコードです。
要請タイプ	要請される棚卸のタイプ。
棚卸プログラム名	棚卸要請を作成する対象となる棚卸プログラムの名前です。
ノード・キー	棚卸要請が処理されるノード。
ゾーン ID	棚卸を実行する必要があるゾーンです。
ロケーション・サイズ・コード	棚卸を実行する必要があるロケーションのキャパシティーです。
LPN レベル	LPN レベルで棚卸タスクを実行するかどうかを示すフラグです。
ケース・レベル	ケース・レベルで棚卸タスクを実行するかどうかを示すフラグです。
パレット・レベル	パレット・レベルで棚卸タスクを実行するかどうかを示すフラグです。
アイテム・レベル	アイテム・レベルで棚卸タスクを実行するかどうかを示すフラグです。
解決可能	この棚卸結果の差異が解決可能かどうかを示すフラグです。
製品クラス	製品の特性に基づくアイテムの在庫分類です。代表的な値は、FQ (一級品)、SQ (二級品) などです。
単位	棚卸を行ったアイテムの計測単位です。
アイテム分類 1	棚卸方法を決定するための 1 番目のアイテム分類属性です。
アイテム分類 2	棚卸方法を決定するための 2 番目のアイテム分類属性です。
アイテム分類 3	棚卸方法を決定するための 3 番目のアイテム分類属性です。
差異あり	棚卸要請に差異があるかどうかを示すフラグです。
絶対差異あり	棚卸要請に絶対差異があるかどうかを示すフラグです。
差異数量	棚卸結果とシステム数量との間の数量の差 (+/-) です。
絶対差異数量	棚卸結果とシステム数量との間の絶対差です。
差異値	棚卸結果とシステム数量との間のコストまたは値の差 (+/-) です。
絶対差異値	棚卸結果とシステム数量との間のコストまたは値の絶対差です。
前の棚卸との差異あり	このフラグは、現在の棚卸結果と以前の棚卸結果との間の差異を表示するかどうかを示します。

表 495. 棚卸実行条件ビルダーの属性 (続き)

属性	説明
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## バック・プロセス

表 496. バック・プロセス条件ビルダー属性

属性	説明
<b>ノード属性</b>	
出荷ノード	この出荷品を出荷するノード。
入荷ノード	この出荷を受け取ったノード。
出荷元の出荷ノード・インターフェース・タイプ	出荷元の出荷ノードのインターフェース・タイプ (「外部アプリケーション」、「コンソール」、「Sterling WMS」、または「WMS 6.2」)。
出荷元サプライヤー・コード	出荷品を出荷するサプライヤーのコード。
出荷元 DCM リアルタイム統合	出荷元のノードが WMS 6.2 を使用するかどうかを示すフラグ。
出荷元の国/地域	出荷元の国または地域のコード。
出荷先の出荷ノード・インターフェース・タイプ	出荷先の出荷ノードのインターフェース・タイプ (「外部アプリケーション」、「コンソール」、「Sterling WMS」、または「WMS 6.2」)。
出荷先サプライヤー・コード	出荷先のサプライヤーのコード。
出荷先 DCM リアルタイム統合 (Ship to DCM Integration Real Time)	出荷先のノードが WMS 6.2 を使用するかどうかを示すフラグ。
出荷先の国/地域	出荷先の国または地域のコード。
<b>組織属性</b>	
エンタープライズ・コード	出荷を所有するエンタープライズのコード。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
<b>出荷属性</b>	
出荷モード	出荷に使用される出荷モード。例えば、「小包」、「小口貨物」、「小口貨物未満」などです。
配送業者 (Carrier)	出荷の輸送に使用される運送会社。
運賃条件	出荷の運賃条件。
配達コード	輸送コストを支払うエンティティのコード。

表 496. バック・プロセス条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
梱包して保管 (Pack And Hold)	出荷を梱包して、後日取り出せるように格納する必要があるかどうかを示すフラグ。
出荷容器棚卸	出荷での容器の数。
容器詰めされた出荷フラグ (Shipment Containerized Flag)	出荷の容器詰めの状態を示すフラグ。値「01」は容器詰めされていないこと、値「02」は容器詰め途中であること、値「03」は容器詰めが完了したことを示します。
容器属性	
出荷容器	容器が出荷に属するかどうかを示すフラグ。
集合・混載容器	容器が集合・混載の一部かどうかを示すフラグ。
在庫パレット	容器が在庫パレットかどうかを示すフラグ。
LPN から変換される	在庫容器が出荷容器に変換済みかどうかを示すフラグ。
シリアル・キャプチャー保留中	容器についてシリアル・キャプチャーが保留中かどうかを示すフラグ。
梱包プロセスが完了している	容器について保留中の梱包アクティビティがないかどうかを示すフラグ。
製品配置が完了している	システムの推奨に従った製品の容器への配置が完了したかどうかを示すフラグ。
VAS が必要	容器に付加価値サービスが必要かどうかを示すフラグ。
子容器あり	容器が、他の容器を持つ親容器かどうかを示すフラグ。
アイテム数	容器に含まれているアイテムの数。
容器タイプ	出荷容器がケースまたはパレットのいずれかを指定する属性。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## 出庫ピッキング

表 497. 出庫ピッキング条件ビルダー属性

属性	説明
アクティビティ・グループ ID	アクティビティ・グループの ID。
出荷グループ ID	出荷グループの ID。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## VAS プロセス

表 498. VAS プロセスの条件ビルダー属性

属性	説明
エンタープライズ・コード	アイテムまたはライセンス・プレートを所有するエンタープライズのコード。
供給業者コード	サービスを提供する組織のコード。
ノード・キー	作業オーダーが実行されるノード。
目的 (Purpose)	作業オーダー (オーダー (ORDER) / 在庫 (STOCK) / 出荷 (SHIP)) の目的。
サービス・アイテム・グループ・コード	サービス・アイテム・グループのコード (KIT/DKIT/COMPL/INVC/PS)。
サービス製品 ID (Service Item ID)	サービス・アイテムの ID。
セグメント・タイプ	セグメントのタイプ。これは MTO (オーダー用) または MTC (顧客用) にできます。
セグメント	作業オーダー内で起動される在庫が属する先のセグメント。
コンポーネントあり	作業オーダーにコンポーネント・アイテムがあるかどうかを示すフラグ。
ステータス (Status)	作業オーダーのステータス。
事前電話ステータス	事前電話プロセスのステータスを示すフラグ。
予定ステータス	予定のステータス。これは、サービス・オーダー明細と同期しています。予定ステータスは、提供サービス作業オーダーの場合に使用されます。
試行回数	作業オーダーの実行試行回数。
予定までの時間数	サービス・アイテムの予定までに残された時間数。
予定後の時間数	サービス・アイテムの最後の予定からの時間数。
最後に実行してからの時間数	サービス実行を最後に試行してからの時間数。
前回の実行は成功しました	このフラグは、サービス実行の最後の試行が成功したかどうかを示します。
未完了作業オーダー・フラグ	作業オーダーの実行が終了したかどうかを示すフラグ。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## 案件フルフィルメント

表 499. 案件フルフィルメント条件ビルダー属性

属性	説明
案件属性	
案件 ID	案件の ID。
案件名 (Opportunity Name)	案件の名前。
ステータス (Status)	案件のステータス。
通貨値	案件の通貨値。
成功の確率	オーダーが案件から作成される可能性。
参加者属性	
「請求先 ID」	案件の請求先住所の ID。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する可能性のある組織のコード。
エンタープライズ・コード	案件のエンタープライズのコード。
所有者ユーザー ID	案件の所有者のユーザー ID。
共同所有者ユーザー ID	案件の共同所有者のユーザー ID。
顧客連絡先 ID	案件の顧客連絡先の ID。
チーム・コード	案件を管理するチームのコード。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについては、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## アイテム・ベース割り当て (IBA) オーダー

表 500. IBA 属性

属性	説明
オーダー属性	
交換タイプ	オーダーの交換タイプ。
優先コード	オーダーのカスタマイズ可能優先コード。
優先番号	オーダーの数字の優先コード。
ドキュメント・タイプ	このオーダーの伝票種別。標準の値は 0001 (販売オーダー) です。
オーダー・タイプ	オーダー分類属性。このフィールドは、レポート作成目的、またはビジネス・プロセスのモデル化のための条件作成に使用できません。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、このフィールドに基づくデフォルト・ロジックはありません。
入力タイプ	このオーダーの作成で使用したチャネル。
部門コード	オーダーが発行された宛先の部門コード。
検索条件 1	検索可能なカスタマイズ可能フィールド。
検索条件 2	検索可能なカスタマイズ可能フィールド。

表 500. IBA 属性 (続き)

属性	説明
<b>オーダー明細</b>	
明細タイプ	この明細タイプは、パイプラインの決定または条件付き処理のプロセス・モデリングで使用できます。
条件変数 1	プロセス・モデリングで条件の作成に使用可能なユーザー定義の変数。
条件変数 2	プロセス・モデリングで条件の作成に使用可能なユーザー定義の変数。
<b>出荷属性</b>	
サービス・レベル (Level of Service)	オーダーまたは明細のサービスのレベル。
「出荷先 ID」	出荷先の ID。バイヤー組織を表す顧客定義が、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内にある場合、出荷先 ID は顧客 ID を表すことができます。そうでない場合、出荷先 ID は、出荷先の住所の担当者 ID またはオーダーの受入ノードを表すことができます。
配達サービス・コード	集合・混載の輸送に使用される配達サービスのコード。
<b>参加者属性</b>	
エンタープライズ・コード	オーダー上のエンタープライズのコード。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
「請求先 ID」	オーダーの請求先となる顧客の ID。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>



---

## 第 28 章 プロジェクト変更管理の構成

---

### データベース変更のエクスポート

多くのユーザーは、新機能またはデータベース変更を別のプロジェクトとして実装します。データベース変更は、運用エラーを最小限にするために、実稼働環境に実装する前に、まず実稼働環境のレプリカであるステージング環境またはテスト環境に実装できます。変更プロジェクト管理がリソース XML ファイル `changeDataManagementRules.xml` で有効になっていれば、変更は実稼働環境にエクスポートされます。

データベース変更は、表 `YFS_ENTITY_CHANGE` に保管されます。

データベース変更は、各デプロイメントに指定されたプロジェクト・ルールに基づいて、実稼働環境でパブリッシュされます。「変更データのエクスポート」エージェントおよび「変更データのインポート」エージェントの両エージェントは、変更をターゲット環境でパブリッシュするために使用されます。「変更データのエクスポート」エージェントおよび「変更データのインポート」エージェントの両エージェントは、変更をパブリッシュするために周期的に実行されます。エージェントの詳細については、『ビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクション』のセクションにある、『変更データ・エクスポート・エージェント』および『変更データ・インポート・エージェント』のトピックを参照してください。

**注：** データベース変更をターゲット環境でパブリッシュする場合は、すべてのデプロイメント間でデータベースの 1 次キーを同じものとしておくために、ターゲット環境は必ずソース環境のレプリカとします。

**注：** 特定のエンタープライズのデータベース変更は、個別にエクスポートすることはできません。すべてのエンタープライズの変更は同時にエクスポートされます。

---

### データベース変更のパブリッシュのルールの構成

実稼働環境で変更をパブリッシュする場合、各インストール済み環境またはデプロイメント環境でその独自のプロジェクト・ルールを定義する必要があります。

- プロジェクトのエクスポート: 「開発者」環境内のプロジェクトは「ステージング」環境にエクスポートする必要があります。プロジェクトが承認された場合は、それらを「実稼働」環境に移動させる必要があります。
- エンティティ変更の保守: エンティティ変更は、変更済みデータを別の環境に送信するためにログに記録する必要があります。このロギングは「実稼働」環境ではオフになります。

プロジェクト・ルールは、`changeDataManagementRules.xml` と呼ばれるリソース XML ファイルに保管されます。例:

```
<ChangeDataManagementRules DeploymentName="STAGING">
  <Rules>
    <Rule Name="MaintainEntityChanges" Value="Y">
      <TableTypeList>
```

```

        <TableType Type="CONFIGURATION"/>
        <TableType Type="MASTER"/>
    </TableTypeList>
</Rule>
<Rule Name="EnableChangeProjectManagement" Value="Y"/>
<Rule Name="ChangeProjectIDPrefix" Value="ST"/>
<Rule Name="ExportProjects" Value="N"/>
    <Rule Name="PreventTableImport" Value="Y">
        <TableList
            <Table Name="YFS_USER"/>
            <Table Name="PLT_USER_UI_STATE"/>
        </TableList>
    </Rule>
</Rules>
</ChangeDataManagementRules>

```

以下のルールを `changeDataManagementRules.xml` に設定します。

### DeploymentName

インストールまたはデプロイメントを定義します。例えば、「開発」や「ステージング」などです。

### MaintainEntityChanges

このルールの下で構成されたテーブル・タイプの変更を追跡するには、このルールを「Y」に設定します。

### EnableChangeProjectManagement:

デフォルトのプロジェクトによる変更を追跡するには、このルールを「Y」に設定します。

### ChangeProjectIDPrefix

プロジェクト ID を生成するために使用される接頭辞。各デプロイメントの固有の接頭辞を指定します。例えば、ステージングは ST、開発は DV などです。

### ExportChangeProjects

変更プロジェクト定義を別の環境にエクスポートするには、このルールを「Y」に設定します。

### PreventTableImport

特定のテーブルがエンティティ変換の一部としてインポートされないようにできます。このルールの下で指定されたテーブルをインポートしないようにするには、このルールを「Y」に設定します。

注: アイテムや価格リストなどのエンティティに変更を加えるために *Sterling Business Center* を使用する場合は、PreventTableImport ルールの下で、インポートしないようにするテーブルのリストに PLT\_USER\_UI\_STATE テーブルを追加します。

k

### エンティティ変換

構成パラメーターはそれぞれの環境で異なります。例えば、「開発者」環境の構成 (URL や IP アドレスなど) は、「ステージング」環境のそれとは異なります。ある環境からのデータを別の環境にエクスポートすると、構成もターゲット環境に合うように変更する必要があります。例えば、「ステージング」環境からのデータを「実稼働」にエクスポートする場合、レコードの IP アドレスは、10.10.20.80 から

10.10.20.81 に変更する必要があります。これは「エンティティ変換」と呼ばれるもので、エンティティに対して定義され、ソースとターゲットのペアのデプロイメントに関連付けられます。

レコードのエクスポートとインポートのエンティティ変換は、リソース XML ファイルの `entityTransforms.xml` に定義されて保管されます。以下に例を示します。

```
<Transformations>
  <Table Name="YFS_SUB_FLOW">
    <Columns>
      <Column Name="CONFIG_XML">
        <Transform Match="t3://localhost:7001
          Replace="{PROVIDER_URL}" XPath
            ="xml:/SubFlowConfig/Link/Properties/@ProviderURL">
        </Column>
      </Columns>
    </Table>
  </Transformations>
```

エクスポート時に、エンティティのソース環境の構成パラメーターは、ターゲット環境の構成パラメーターで置き換えられます。これは、`entityTransforms.xml` 内に指定されます。 `entityTransforms.xml` は、`<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/merged/resource` フォルダー内に存在します。

---

## データベース変更の公開前に設定するプロパティ

変更を宛先の環境に公開する前に設定が必要なプロパティは、以下のとおりです。

### `customer_overrides.properties` に設定するプロパティ

変更データのエクスポート・エージェントが実行される前に `customer_overrides.properties` ファイルに設定が必要なプロパティは以下のとおりです。

- `yfs.ChangeDataPublisherExportDirectory`
- `yfs.ChangeDataPublisherWorkingDirectory`
- `yfs.ChangeDataPublisherFilePrefix`

### `sandbox.cfg` に設定するプロパティ

インストール後に `sandbox.cfg` に設定が必要なプロパティは、以下のとおりです。

### `OVERRIDE_LOAD_DEFAULTS_PK_GEN`

上記のプロパティについて詳しくは、「[プロパティ・ガイド \(Properties Guide\)](#)」を参照してください。



---

## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

*IBM Corporation*

*J46A/G4*

*555 Bailey Avenue*

*San Jose, CA 95141-1003*

*U.S.A.*

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、**IBM** 所定のプログラム契約の契約条項、**IBM** プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、**IBM** より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

**IBM** 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。**IBM** は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。**IBM** 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願います。

**IBM** の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている **IBM** の価格は **IBM** が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© IBM 2011. このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムの派生物です。© Copyright IBM Corp. 2011.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

## 商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://ibm.com)<sup>®</sup> は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

IT Infrastructure Library は、英国 Office of Government Commerce の一部である the Central Computer and Telecommunications Agency の登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

ITIL は英国 Office of Government Commerce の登録商標および共同体登録商標であって、米国特許商標庁にて登録されています。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Cell Broadband Engine, Cell/B.E は、米国およびその他の国における Sony Computer Entertainment, Inc. の商標であり、同社の許諾を受けて使用しています。

Linear Tape-Open, LTO, LTO ロゴ、Ultrium および Ultrium ロゴは、米国およびその他の国における HP、IBM Corp. および Quantum の商標です。

Connect Control Center<sup>®</sup>、Connect:Direct<sup>®</sup>、Connect:Enterprise<sup>™</sup>、Gentran<sup>®</sup>、Gentran<sup>®</sup>:Basic<sup>®</sup>、Gentran:Control<sup>®</sup>、Gentran:Director<sup>®</sup>、Gentran:Plus<sup>®</sup>、Gentran:Realtime<sup>®</sup>、Gentran:Server<sup>®</sup>、Gentran:Viewpoint<sup>®</sup>、Sterling Commerce<sup>™</sup>、Sterling Information Broker<sup>®</sup>、および Sterling Integrator<sup>®</sup> は、Sterling Commerce<sup>™</sup>、Inc.、IBM Company の商標です。

# 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## [ア行]

「アイコン」フィールド 304  
アクション 199  
    削除 204  
    作成 199  
    変更 203  
「アクションの発生」フィールド 345, 346  
「アクション名」フィールド 77, 201  
「アクション・グループ」フィールド 201  
「アクション・コード」フィールド 201  
アクセス・ポリシー 237  
「アクティブ」フィールド 215  
アクティブ・フィールド 175  
「値」フィールド 111  
「値の表示」フィールド 337  
アダプター・ノード 205, 206  
「新しいオーダー・リリースの統合」フィールド 145  
「宛先 (To)」フィールド 54, 55  
「宛先ノード」フィールド 85  
アプリケーションのバージョン  
    削除 271  
    作成 270  
    変更 271  
「アプリケーション・サーバーがダウンした場合」フィールド 267  
アプリケーション・バージョン・コード 270  
アプリケーション・メニュー  
    変更 302  
アプリケーション・ルールのサイド・パネル 9  
アラート 40, 44, 343  
アラート・キュー 343, 346  
    サイズ・ベース 344  
    削除 347  
    変更 347  
    未割り当ての警告 345  
    ユーザー・リスト 346  
「アラート・タイプ」フィールド 683  
「アルゴリズムの選択」フィールド 92  
案件基本伝票種別 135

一般基本伝票種別 135  
一般プロセス・タイプ 136  
移動要請実行プロセス・タイプ 136  
イベント 163  
    削除 176  
    追加, トランザクションへの 174  
    変更 176  
イベント ID フィールド 175  
「イベント」フィールド 163  
イベント名フィールド 175  
イベント・ハンドラー  
    定義 176  
印刷  
    定義 371  
    プリンター - ステーションの関連付け 217, 230  
    プリンター・プリファレンス  
        設定 217  
        ユーザー 217  
    ユーザーのプリンター・プリファレンス  
        定義 216, 230  
    ラベル書式  
        削除 377  
        作成 375  
        定義 375  
        変更 377  
Loftware  
    マッピング XML ファイル 375  
    ラベル書式 375  
Loftware Label Manager 375  
印刷形式プリファレンス  
    定義 39, 43, 64  
インストール・ルール 256  
インデックス  
    カタログ検索 436  
「インボイス作成の許可」フィールド 144  
ウェーブ・リリース印刷ドキュメント・セット 371  
運送会社 34, 118  
    属性の定義 65  
    役割  
        運送会社 34  
運送会社サービス 65  
運送会社ドキュメント 118, 120, 121, 333  
「運送会社ドキュメント」タブ 118  
「運賃条件のオーバーライド」フィールド 55

「エージェント条件グループ」フィールド 76  
「エージェント/統合サーバーが予期せずに停止した場合」フィールド 267, 269  
「エージェント・サーバー」フィールド 166  
「エコノミック出荷パラメーターを維持」フィールド 47  
「エラーにより処理中止」フィールド 342  
エラー・コード  
    カスタマイズ 326  
エンタープライズ 2, 34, 35  
    印刷形式プリファレンス 39  
    属性の定義 36  
        関連付けられた組織の削除 38  
        関連付けられた組織の変更 38  
        組織の追加 37  
エンタープライズはイベント・ハンドラーを構成できますかフィールド 175  
「エンタープライズ・コード」フィールド 61  
「エンティティ ID のオーバーライド」フィールド 317  
「エンティティのキー名」フィールド 317  
エンティティ変換 748  
エンド・ノード 207  
オーダー基本伝票種別 135  
オーダー交渉プロセス・タイプ 136  
「オーダー作成時に予約を作成」フィールド 144  
「オーダー作成/変更時にアイテムを検証する (Validate Item During Order Creation/ Modification)」フィールド 142, 147  
「オーダーの作成」タブ 142  
「オーダー番号」フィールド 47  
オーダー保留  
    廃止が予定されている機能 261  
オーダー・パイプライン 261  
オーダー・フルフィルメント・プロセス・タイプ 136  
「親組織」フィールド 31  
「親チーム ID」フィールド 234  
「親によって識別された名前」フィールド 76  
音声ベースのタスクの超過ピック 101

## [カ行]

### 下位互換性

- オーダー保留の廃止予定機能 261
- 「下位互換性が必要」フィールド 176, 184, 256
- 「開始時刻」フィールド 125, 127
- 「開始システム」フィールド 339
- 「開始組織」フィールド 339

### 開始ノード 206

- 「外部アプリケーション」フィールド 77
- 「外部生成」フィールド 90
- 「外部で管理」フィールド 49

### 外部でトリガーされるトランザクション定義 163

### 外部トリガー・トランザクション 159

### 外部プログラム 251

### 外部プログラム実装

- 定義 253
- 「外部プログラム実装メモ」フィールド 185, 256

### 仮インボイス 144

### 価格

- 定義 108

### 価格設定組織 10, 12

### 拡張 XML 条件

- 「拡張 XML」フィールド 197
- 「条件 ID」フィールド 197
- 「条件グループ」フィールド 197
- 「条件のケース」フィールド 197
- 「条件名」フィールド 197
- 「ソース・ビュー」フィールド 197
- 「拡張 XML」フィールド 194
- 「拡張出荷モード」フィールド 66, 70, 73

### 拡張ステータス

- 削除 191
- 作成 189
- 変更 190

### 拡張トランザクション 160

- 「確認済みオーダーについて価格計算を許可」フィールド 145
- 「下限 (From)」フィールド 54, 55

### カスタム共通コード

- 追加、値 325

### カスタム共通コードの値

- 削除 326
- 変更 325

### カスタム共通コード・タイプ 323

- 削除 324
- 作成 323
- 変更 324

### カスタム・エラー・コード 326

- 検索 326
- 削除 328
- 追加 327

### カスタム・エラー・コード (続き)

- 変更 327

### カタログ 105

- インデックス作成 436

### カタログ組織 105

- 「カタログ定義」フィールド 105
- 「カタログに基づいたデフォルトの配達方法」フィールド 143, 147

### カタログ・モデル 259

### 貨物 65

- 「荷役コスト計算に使用するコスト要因グループ」フィールド 40, 44

### カレンダー

- 継承、カレンダーの継承も参照 123
- 組織の定義 123
- デフォルトの定義 126
- 例外の作成 127

### 「カレンダー ID」フィールド 125

### カレンダー定義の継承フィールド 125

### カレンダーの継承 123

- 親カレンダー 123
- 子カレンダー 123

### 制限 124

### 為替レート 295

- 「管理者」フィールド 31, 215
- 「完了時にウィンドウを閉じる」フィールド 319

### 関連エンティティ 310

### 「関連エンティティ」フィールド 310

### 「企業の住所」フィールド 32

### 「危険物の出荷を許可」フィールド 67, 70, 74

### 「基軸通貨」フィールド 296

### 「基準からの換算レート」フィールド 296

### 「基準への換算レート」フィールド 296

### 「起動したサービスのリスト」フィールド 201

### 基本伝票種別 135, 136

### 基本トランザクション 159

### 「基本トランザクション名」フィールド 162

### 基本リポジトリ 150

### キャパシティー集約レベル 259

### キャパシティー組織 106

### 「キャパシティー編成」フィールド 106

### キュー 343

- サイズ・ベース 344

### 削除 347

### 作成 343

### 変更 347

### 未解決の警告 346

### 未割り当ての警告 345

### ユーザー・リスト 346

### 「キュー ID」フィールド 344

### キュー管理 4, 343, 357, 371, 379, 381, 395

### 「キューの説明」フィールド 344

### 「キューの優先順位」フィールド 344

### 「キュー名」フィールド 201, 344, 682

### 共通コード 323

### 国または地域

### ロケール 300

### 国または地域コード

### 削除 286, 402

### 作成 285, 401

### 変更 286, 401

### 「国/地域」フィールド 54, 353

### 「クライアントの時刻形式」フィールド 300

### 「クライアントの日時形式」 301

### 「クラス名」フィールド 195, 202, 337

### 「グループ ID」フィールド 221

### 「グループの説明」フィールド 221

### 「グループ名」フィールド 221

### 「グループ・タイプ」フィールド 221

### 計画済みオーダー交渉プロセス・タイプ 136

### 計画済みオーダー実行プロセス・タイプ 136

### 警告キュー

### 作成 343

### 「警告キュー名」フィールド 166, 683

### 「警告コンソールに送信」フィールド 201

### 警告コンソール・テンプレート 202

### 警告ノード 685

### 「警告を上申するまでの経過時間」フィールド 345, 346

### 「警告を別のキューに移動」フィールド 345, 346

### 「形式」フィールド 113, 116, 119

### 継承

### 決定 10

### 「継承されたエンタープライズ・アクセス」フィールド 234

### 「継承された伝票種別アクセス」フィールド 235

### 「結合」フィールド 318

### 権限 222

### リスト、ユーザーの 223

### 「権限タイプ」フィールド 122

### 言語

### ロケール 300

### 「言語」フィールド 300

### 言語コード

### 削除 288

### 作成 287

### 変更 287

### 「コード値 API」フィールド 337

### 「コードの説明」フィールド 337

コード名フィールド 337  
「航空便」フィールド 67, 70, 74  
構成画面  
  アクセス 10  
構成バージョン・ラベル  
  削除 393  
  作成 392  
  変更 392  
購入オーダー交渉プロセス・タイプ 136  
購入オーダー実行プロセス・タイプ 136  
購入オーダー受入プロセス・タイプ 136  
「購入可」フィールド 216, 240, 241  
「顧客 PO 番号」フィールド 46, 47, 60  
国際化対応のルール 285  
  国または地域コード 285  
  言語コード 287  
  時刻形式 290  
  通貨換算 295  
  通貨定義 293  
  日時形式 291  
  日付形式 288  
コスト要因プリファレンス 40, 44  
「コスト要因プリファレンス」タブ 40, 44  
子組織  
  表示 123  
小包 71  
小包運送会社プリファレンス 83  
  ノード 81  
  「固定的」フィールド 194  
  「固定輸送日数」フィールド 67, 70, 74  
コネクタ・ノード 205  
「このアクションの一部として次のサービスを起動する」フィールド 201  
「このキューを監査」フィールド 344  
「このサービスはリアルタイムの応答を提供します」フィールド 208  
「この組織はキャパシティー組織である」フィールド 106  
「この組織は在庫組織である」フィールド 103, 104  
「この地域レベルは一連の郵便番号で定義可能」フィールド 350  
「このトランザクションは保留中のオーダーの処理を停止できます (This Transaction Can Be Stopped From Processing Orders That Are On Hold)」フィールド 162  
コンソール API 314  
コンソール関連エンティティ 310  
コンソール検索ビュー 311  
コンソール内部パネル 316  
コンソール・アイコン 319  
コンソール・アクション 317  
コンソール・エンティティ 308  
コンソール・リスト・ビュー 313

コンソール・リンク 319  
コンプライアンス・サービス 60  
  削除 64  
  作成 61  
  変更 63  
「コンプライアンス・サービス」フィールド 62  
コンポーネント・ノード 205, 206, 685  
梱包 101

## [サ行]

サード・パーティー物流  
  ノード 77  
サード・パーティー物流管理 34  
サード・パーティー物流管理モデル 2  
「サード・パーティー物流ノード」フィールド 77  
「サーバー名」フィールド 682  
「サーバー」タブ 682  
サービス定義 204, 252  
  作成 207  
「サービスとして実装」フィールド 184, 255  
「サービスの起動」フィールド 314  
「サービスの説明」フィールド 66, 70, 73  
「サービス名」フィールド 184, 201, 208, 256, 315  
「サービス・グループ名」フィールド 201, 208  
サービス・ノード 205  
  「再警告までの経過時間」フィールド 345, 346  
在庫コスト計算の要因 40, 44  
  「在庫コストの管理」フィールド 77  
在庫集約レベル 258  
在庫組織 103  
  「在庫組織」フィールド 103  
在庫モニター・ルール 40, 44  
  「在庫モニター・ルール」タブ 41, 45  
再処理可能フィールド 684  
  「最大顧客割り当て」フィールド 215  
  「最大レコード・フィールドの非表示」フィールド 311  
  「作業オーダー作成可能」フィールド 79  
  「作業オーダーの他に配達する製品の出荷を作成」フィールド 146  
  「作業基準のデータ」フィールド 162  
  「作業日の時間数」フィールド 76  
作成  
  カタログ・インデックス 436  
参加者 27  
参加者モデリング 3  
  組織の作成 27

時間単位  
  削除 284  
  作成 283  
  変換率の削除 284  
  変換率の作成 283  
  変換率の変更 284  
  変更 283  
時間トリガー・トランザクション 160  
  定義 165  
時刻 392  
時刻形式  
  削除 291  
  作成 290  
  変更 290  
「時刻形式」フィールド 300  
「システム ID」フィールド 203  
「システム生成」フィールド 90  
「システム生成方法のデータの設定」フィールド 90  
「システム名」フィールド 337  
「実行」フィールド 202  
「実行時 ID (Runtime ID)」フィールド 682  
「実行時」タブ 682  
「実行数量」フィールド 63  
「自動実行のスキップ」フィールド 316  
支払情報  
  組織の定義 121  
  「支払処理の許可」フィールド 144  
  「支払処理の許可」フラグ 145  
シフト 80, 125  
  「シフト終了時刻を使用」フィールド 80  
  「シフト名」フィールド 125, 127  
  「シフト有効対象」フィールド 127  
就業日 128  
就業日以外 128  
集合・混載基本伝票種別 135  
集合・混載実行プロセス・タイプ 136  
修飾タグ  
  削除 398  
  作成 397  
  変更 398  
修飾タグ・タイプ  
  削除 396  
  作成 395  
  変更 396  
修飾タグ・バージョンの互換性  
  削除 400  
  設定 398  
  変更 399  
「集約最大重量しきい値 (Consolidate up to weight threshold of)」フィールド 47  
「集約最大容積しきい値 (Consolidate up to volume threshold of)」フィールド 47  
「集約者」フィールド 54, 55  
「終了時刻」フィールド 125, 127

「終了システム」フィールド 339  
「終了組織」フィールド 340  
重量単位  
削除 282  
作成 281  
変換率の削除 282  
変換率の作成 281  
変換率の変更 282  
変更 281  
「重量単位」フィールド 300  
受信側 206  
「出荷加速の限度」フィールド 47  
「出荷カレンダー」フィールド 81  
「出荷先のオーバーライド」フィールド 55  
出荷時のみ (バイヤーが要求する場合)  
(Only when shipping, if the buyer mandates) 100  
「出荷遅延時間の上限」フィールド 47  
「出荷通知番号の最大長」フィールド 263  
「出荷の仮インボイス作成を許可」フラグ 144  
「出荷のための調達を許可」フィールド 79  
出荷プロセス・タイプ 136  
「出荷容器マーキングは不要」フィールド 59  
出荷ラベル 371  
「出荷レベルの統合」フィールド 67, 70, 74  
出庫ピッキング・プロセス・タイプ 137  
「出力名前空間」フィールド 311, 312, 313  
受入 101  
「受入カレンダー」フィールド 80  
受入時のみ (Only when receiving) 100  
「受入処理時間 (時間数)」フィールド 81  
「受入処理時間」の「フォワーディング (時間数)」 81  
「主要 URL」フィールド 31  
主要エンタープライズ 36, 110  
「主要エンタープライズ」フィールド 29  
需要タイプ 144  
小口貨物 「LTL」を参照 68  
小口貨物運送会社プリファレンス  
ノード 89  
条件 192  
影響されたエンティティの表示 198  
削除 197  
作成 193  
変更 196  
「条件 ID」フィールド 194  
「条件値」フィールド 195  
条件グループ 194, 197  
「条件グループ」フィールド 194  
条件ノード 691  
「条件のプロパティ」フィールド 195  
条件ビルダー 743  
使用 195  
「条件名」フィールド 194  
詳細ビューのコンポーネント  
アンカー・ページ  
定義 312  
「承認の発行」フィールド 122  
「初期 コンテキスト・ファクトリー」フィールド 167  
初期コンテキストのファクトリー・コード 265  
削除 266  
作成 265  
変更 266  
「シリアル番号付きアイテムについてはシリアル情報を要求する」フィールド 59  
「時/分の時刻形式」フィールド 300  
「数値による出荷通知番号を使用」フラグ 263  
「スケジュール時とリリース時の在庫チェックを許可」フィールド 144  
「スケジュールする需要タイプ」フィールド 144  
ステータス 189, 261  
ステータス変更リスナー  
作成 186  
ステータス・モニター・ルール 191  
ステータス・モニター・ルールの定義 191  
「ストアード・プロシージャー」フィールド 203  
「ストア」フィールド 54, 55  
「すべてのケースに SCM を適用」フィールド 60  
「すべての出荷単位 (ケースまたはパレット) に SCM を適用」フィールド 60  
「すべてのタグ管理アイテムについてタグ情報を要求する」フィールド 59  
「スレッド数」フィールド 166  
寸法単位  
削除 274, 276, 278  
作成 273, 275, 277  
変換率の削除 274, 276, 278  
変換率の作成 273, 275, 277  
変換率の変更 274, 276, 278  
変更 273, 275, 277  
「寸法単位」フィールド 300  
税管轄フィールド 122  
「請求先住所」フィールド 215  
請求書  
仮 144  
「生成しない」フィールド 90  
「製品 ID」フィールド 60  
「製品クラス」フィールド 60  
「製品分類」フィールド 62  
積荷目録作成プロセス・タイプ 137  
セキュリティ 3, 213  
データ・アクセス・ポリシー 237  
セキュリティ管理 213  
セラー 2, 35, 115, 118  
印刷形式プリファレンス 43  
属性の定義 42  
データ・アクセスの構成 241  
「セラーの組織について在庫の更新を許可」フィールド 144  
セラーのドキュメント 115, 117, 118, 333  
「セラーのドキュメント」タブ 115  
「選択キー名」フィールド 318  
ソーシングの地域選択  
定義 403  
送信側 206  
「属性ロケーション」フィールド 341  
組織  
カレンダーの定義 123  
デフォルトの定義 126  
例外の作成 127  
子組織の表示 123  
作成 27  
参加者関連付けの割り当て 33  
支払情報の定義 121  
主要情報の定義 30  
通信規格  
運送会社ドキュメント 118, 120, 121  
削除 115, 118, 121  
作成 112, 115, 118  
セラーのドキュメント 115, 117, 118  
通信プロトコル 110  
バイヤーのドキュメント 112, 114, 115  
変更 114, 117, 120  
通信プロトコル 110  
削除 112  
作成 110  
変更 111  
部門  
削除 130  
作成 129  
変更 130  
部門の表示 129  
変更 131  
役割の設定  
運送会社プリファレンスの設定 40, 44  
エンタープライズ属性の設定 40, 44

組織 (続き)  
 役割の設定 (続き)  
 在庫モニター・ルールの設定 40, 44  
 役割の定義  
 運送会社属性の定義 65, 68, 71  
 エンタープライズ属性の定義 36, 37, 38  
 貨物運送会社サービスの定義 65  
 関連組織の追加 37  
 関連付けられた組織の削除 38  
 関連付けられた組織の変更 38  
 小包運送会社サービスの設定 71  
 小包運送会社プリファレンスの定義 81  
 主要情報の定義 75  
 小口貨物運送会社サービスの定義 68  
 小口貨物運送会社プリファレンスの定義 88  
 セラー属性の定義 42, 45  
 ノード操作の定義 78  
 ノード属性の定義 75, 78, 81, 88  
 役割の割り当て 33  
 「組織 コード」フィールド 337  
 組織階層 131  
 作成 131  
 組織を削除 132  
 追加、組織 132  
 「組織コード」フィールド 28  
 「組織で独自のカタログを定義」フィールド 105  
 組織の接尾辞 31  
 組織のルール 12  
 オーバーライド 13  
 別の組織のルールをロード 15  
 「組織はエンタープライズである」フィールド 28  
 「組織名」フィールド 28  
 組織レベル 10  
 ルール 12  
 「その他 (Other)」タブ 162

## [タ行]

「代替可能」フィールド 79  
 「タイトル・バーの非表示」フィールド 312  
 「タイム・ゾーン」フィールド 300  
 タスク実行プロセス・タイプ 136  
 「タスク・ベースのトランザクション」フィールド 162  
 棚卸実行プロセス・タイプ 137  
 「他の通貨」フィールド 296  
 単位 (計測単位)  
 変更 273

「単位」フィールド 60  
 チーム 215, 233  
 削除 237  
 作成 233  
 変更 236  
 「チーム ID」フィールド 234  
 「チーム」フィールド 215  
 地域  
 削除 354  
 作成 353, 354  
 地域スキーマ  
 削除 354  
 作成 352  
 変更 354  
 「地域スキーマ名」フィールド 353  
 地域の定義 4, 349  
 地域 353  
 地域スキーマ 352  
 地域レベル 349  
 「地域名」フィールド 353  
 地域レベル  
 削除 351  
 作成 349  
 変更 350  
 「地域レベル名」フィールド 350  
 「チェック・ディジットの決定」フィールド 92  
 「抽象から派生したトランザクション」フィールド 162  
 中断待ち時間フィールド 683  
 超過梱包作成プロセス・タイプ 137  
 調達 79  
 転送オーダー 79  
 在庫オーダー 79  
 連鎖オーダー 79  
 調達購入オーダー 145  
 調達転送オーダー 145  
 「調達配置済み供給タイプ」フィールド 144  
 「通貨」フィールド 300  
 通貨換算 295  
 削除 297  
 作成 295  
 変更 296  
 通貨定義 293  
 削除 294  
 作成 293  
 変更 294  
 通過ノード 207  
 通信 4  
 通信プロトコル 110  
 削除 112  
 作成 110  
 変更 111  
 「通知サービス」フィールド 91  
 「通知しきい値」フィールド 91

「月表示日付形式」フィールド 300  
 「データの発行」フィールド 203  
 データベース受信者のプロパティ 621  
 データベース送信者のプロパティ 619  
 データベース・ノード 619  
 データベース受信者のプロパティ 621  
 データベース送信者のプロパティ 619  
 データ・アクセス・ポリシー 237  
 データ・セキュリティ・コンポーネント 700  
 エンタープライズ検証 700  
 カスタム検証 700  
 テーマ 321  
 削除 323  
 作成 322  
 変更 322  
 「テーマ」フィールド 215, 322  
 「定数」フィールド 342  
 テキスト・トランスレーター・コンポーネント  
 スキーマ・ファイル 707  
 XSD ファイル 707  
 区切り文字付き受信プログラム 716  
 区切り文字付き送信プログラム 720  
 定位置受信プログラム 711  
 定位置送信プログラム 718  
 テキスト・トランスレーター・ノード 695  
 テキスト・トランスレーター・ファイル形式  
 区切られた 705  
 定位置 705  
 XML 706  
 デバイス  
 既存からの新規作成 368  
 削除 368  
 作成 363  
 定義 362  
 デバイス属性  
 設定 365  
 変更 368  
 デバイス ID 365  
 デバイス属性 365  
 デバイス・サブタイプ 365  
 削除 361  
 作成 360  
 定義 359  
 変更 361  
 デバイス・タイプ 359, 365  
 削除 359  
 作成 357  
 変更 359

- 「デフォルト API を無視する」チェック・ボックス・フィールド 314
  - 「デフォルト API を無視する」フィールド 311, 312
  - 「デフォルト値の使用」フィールド 342
  - 「デフォルト設定にテンプレート・オーダーを使用」フィールド 143
  - 「デフォルトのエンタープライズ・アクセス」フィールド 234
  - 「デフォルトのコピー部数」フィールド 39, 43, 65
  - 「デフォルトの申告金額」フィールド 76
  - 「デフォルトの伝票種別アクセス」フィールド 234
  - 「デフォルトの有効開始日」フィールド 125
  - 「デフォルトの有効終了日」フィールド 125
  - デフォルトのラベル書式 374
  - デフォルト・コンポーネント 698
    - 構成プロパティ 699
    - 「電子コード」フィールド 66, 70, 73
  - 転送オーダー 84
  - 転送オーダー実行プロセス・タイプ 136
  - 転送オーダー受入プロセス・タイプ 136
  - 転送オーダー配達プロセス・タイプ 136
  - 転送スケジュール 84
  - 転送ノード 205, 619
  - 伝票種別 136, 251
    - 新規として保存 137
    - 設定 135
    - 説明の変更 139
  - 「伝票種別」フィールド 139, 184, 255, 310
  - テンプレート 148
    - 「テンプレート」フィールド 202, 203
    - 「テンプレート伝票種別」フィールド 143
    - 「テンプレート・オーダーとして使用」フィールド 142
  - テンプレート・オーダー・プロセス・タイプ 136
  - 同期 MQSeries ノード 645, 677
  - 同期 WebLogic ノード 645
  - 同期転送ノード 205
    - 「同期モード」フィールド 208
    - 「統合サービス」フィールド 114, 117, 120
    - 「動的」フィールド 194
    - 「登録済み」フィールド 216, 240, 241
    - 「ドキュメント」フィールド 113, 116, 119
  - ドキュメント形式コード
    - 削除 331
    - 作成 330
    - 変更 331
  - ドキュメント定義 35
  - ドキュメントの印刷 373
    - 削除 374, 383, 385, 389
    - 作成 372, 381, 384, 385
    - 変更 374, 383, 384, 386
  - 「ドキュメントの印刷」フィールド 39, 43, 65
  - ドキュメントの説明 373
  - 「ドキュメント分類」フィールド 142, 147
  - 「特定のリストに含まれるエンタープライズのみアクセスを制限する」フィールド 234
  - 「特定のリストに含まれる伝票種別のみアクセスを制限する」フィールド 235
  - 「都道府県」フィールド 54
  - 「ドライバー日付」フィールド 142
  - ドラフト・オーダー 145, 147
    - 「ドラフト・オーダーについて価格計算を許可」フィールド 145, 147
    - 「ドラフト・オーダーの監査を記録する」フィールド 143, 147
  - トランザクション 135, 159
    - イベントの削除 176
    - イベントの変更 176
    - イベント・ハンドラーの定義 176
    - 外部でトリガーに定義 163
    - 外部トリガー 159
    - 外部プログラムの管理 181
    - 削除 189
    - 作成 160
    - 時間トリガー 160
      - 定義 165
    - ステータス変更リスナーの作成 186
    - 追加、イベント 174
  - ドロップ・ステータス
    - 削除 179
    - 追加 178
  - 派生トランザクションの作成 185
  - ピックアップ・ステータス
    - 削除 178
    - 追加 177
    - 変更 188
  - ユーザー・トリガー 160
  - ユーザー・トリガーに定義 173
  - 「トランザクション ID」フィールド 161
  - トランザクション完了 179
    - イベント 181
    - サポートされるトランザクション
      - 拡張 179
      - カスタム 179
    - ステータス・ベース・トランザクション 180
  - 「トランザクション名」フィールド 161
  - トレーラー積み付けプロセス・タイプ 136
  - ドロップ・ステータス 189
    - 削除 179
    - 追加 178
  - 「ドロップ・ステータス」フィールド 163
- ## [ナ行]
- 「内容を含まない出荷容器マーキングが必要」フィールド 60
  - 「内容を含む出荷容器マーキングが必要」フィールド 60
  - 「ナビゲーション・パネルの非表示」フィールド 312
  - 「名前」フィールド 111
  - 日時形式 291
    - 削除 292
    - 作成 291
    - 変更 292
  - 「日時形式」フィールド 300
  - 「日/時/分形式」フィールド 300
  - 入荷プロセス・タイプ 136
  - 「入力キー名」フィールド 319
  - 「入力名空間」フィールド 318
  - 任意のノード操作の実行時 (When performing any node operation) 100
  - ノード 35
    - 属性の定義 75
      - 小包運送会社プリファレンスの定義 81
      - 主要情報の定義 75
      - 小口貨物運送会社プリファレンスの定義 88
      - ノード操作の定義 78
      - PRO 番号の定義 89
    - 役割
      - ノード 35
      - 役割の定義
        - ノードの詳細属性の定義 99
      - ユーザー・アクセスの構成 241
    - 「ノード」フィールド 55
  - ノードのプロパティ
    - 設定 209
    - 「ノード・タイプ」フィールド 76
    - 「納税者 ID」フィールド 122
- ## [ハ行]
- バーコード 257
  - ページ 249
  - ページ条件 249
    - を変更、システムの 250
  - 「バージョン」フィールド 184, 256

- バージョン・ラベル ID 392
- バージョン・ラベル ID の説明 392
- 「バージョン・コード」フィールド 250
- 配送 101
- 配送業者
  - 属性の定義
    - 貨物運送会社サービスの定義 65
    - 小包運送会社サービスの定義 71
    - 小口貨物運送会社サービスの定義 68
  - 「配送業者」フィールド 90
  - 「配送業者/サービス」フィールド 55, 69
  - 「配達サービス・コード (Carrier Service Code)」フィールド 55
- 配達指定日フィールド 142
- パイプライン
  - 作成 151
  - 変更 154
  - モニター・ルールの定義 154
- パイプラインの決定 150
- バイヤー 2, 33, 118
  - 印刷形式プリファレンス 64
  - データ・アクセスの構成 239
  - パッケージ・パラメーター 58
  - 「バイヤーの組織について在庫の更新を許可」フィールド 144
- バイヤーのドキュメント 112, 114, 115, 333
  - 「バイヤーのドキュメント」タブ 112
  - 「バイヤー・カタログの単位を使用」フィールド 59
  - 「パスワード」フィールド 214
  - 「パスワード・ポリシー」フィールド 215
  - 「派生伝票種別」フィールド 162
- 派生トランザクション
  - 作成 185
  - 「派生の親に対する変更の反映を許可」フィールド 146
- パッキング・スリップ 371
- 「バックアップ・プロトコル」フィールド 113, 116, 119
- バック・プロセス・プロセス・タイプ 137
- パッケージ・パラメーター 58
- 「パッケージ・レベルの統合」フィールド 67, 70, 74
- 「発生処理タイプ」フィールド 162
- ハブ 34, 151
  - 「ハブのあるアカウント番号」フィールド 28, 122
- パラメーター値 366
- 「パラメーター値」フィールド 169
- パラメーター名 366
- 「パラメーター名」フィールド 169
- 「バリエーション」フィールド 300
- 「バルク仕分けノード」フィールド 55
- 「非課税」フィールド 122
- ビジネス通信コンポーネント 4, 329
  - ドキュメント形式コード 330
  - ビジネス・ドキュメント・コード 331
  - プロトコル・コード 329
- ビジネス・ドキュメント
  - 分類 333
  - ビジネス・ドキュメント・コード
    - 削除 333
    - 作成 332
    - 変更 332
- ビジネス・モデル 1
- ピックアップ・ステータス 189
  - 削除 178
  - 追加 177
  - 「ピックアップ・ステータス」フィールド 163
- ピック用のカート積荷目録 371
- ピック用のバッチ・シート 371
- 日付
  - 計算 78
  - 予定日の計算 78
- 日付形式
  - 削除 289
  - 作成 288
  - 変更 289
  - 「日付形式」フィールド 300
- 非同期転送ノード 205
- 「非同期モード」フィールド 208
- 「ビュー ID」フィールド 318
- 「ビュー・グループ ID」フィールド 311, 312, 314, 318
- 表示エラーの詳細フィールド 224
- 「標準コスト計算に使用するコスト要因グループ」フィールド 40, 44
- ファイル転送プロトコルです。FTP を参照してください。 636
- ファイル入出力送信者ノード 629
- ファイル入出力ノード 629
- ファイル入出力ノード・プロパティ 630
- 複合サービス・ノード 690
- 複数事業部制コーポレーション 2, 34
- 「物理キット・コスト計算に使用するコスト要因グループ」フィールド 40
- 物理的棚卸が実施されている間、他の在庫操作を許可する 101, 104
- 部門
  - 削除 130
  - 作成 129
  - 表示 129
  - 変更 130
- 部門コード・フィールド 47, 60, 214
- 「部門の略語」フィールド 130
- プリンター 359
- プリンター ID 219, 232
- プレゼンテーション 4
- 「プログラム」フィールド 202
- プロセス・タイプ 3, 136, 140
  - 一般 136
  - 移動要請実行 136
  - オーダー交渉 136
  - オーダー・フルフィルメント 136
  - 計画済みオーダー交渉 136
  - 計画済みオーダー実行 136
  - 購入オーダー交渉 136
  - 購入オーダー実行 136
  - 購入オーダー受入 136
  - 集合・混載実行 136
  - 出荷 136
  - 出庫ピッキング 137
  - 主要情報の定義 141
  - 積荷目録作成 137
  - タスク実行 136
  - 棚卸実行 137
  - 超過梱包作成 137
  - 転送オーダー実行 136
  - 転送オーダー受入 136
  - 転送オーダー配達 136
  - テンプレートの定義 148
  - テンプレート・オーダー 136
  - トレーラー積み付け 136
  - 入荷 136
  - バック・プロセス 137
  - 返品出荷 136
  - 返品受入 136
  - 返品物流 136
  - マスター・オーダー・フルフィルメント 136
  - 見積フルフィルメント 136
  - VAS プロセス 137
  - WMS 格納 136
  - WMS 在庫 136
  - WMS レイアウト定義 136
  - 「プロセス・タイプ」フィールド 142
  - 「プロセス・タイプ名」フィールド 142
  - プロセス・タイプ・パイプライン 150
  - プロセス・モデリング 3, 135
  - プロセス・モデリング・ツリー表示 137
  - 「プロトコル」フィールド 111, 113, 116, 119
  - プロトコル・コード 329
    - 削除 330
    - 作成 329
    - 変更 329
  - 「プロバイダー URL」フィールド 168
  - 文書テンプレート 148
  - 「別のプロセスを作成」フィールド 162

変更ルールのオーバーライド・フィールド  
224  
返品出荷プロセス・タイプ 136  
「返品出荷ラベルの統合をサポート」フィールド 67  
返品受入プロセス・タイプ 136  
返品物流プロセス・タイプ 136  
法人組織 32  
「法人組織」フィールド 32  
保持しないフィールド 49  
「保持日数」フィールド 250  
「ホスト・コード」フィールド 66, 70, 73  
保存ディレクトリー 374  
保留  
このトランザクションは保留中のオーダーの処理を停止できます (This Transaction Can Be Stopped From Processing Orders That Are On Hold) 162  
状態にする 261

## [マ行]

「マーク対象 (Mark For)」フィールド  
47, 60  
マーケットプレイス 2, 34  
前のエラーの外部プログラム・フィールド  
684  
前の例外をチェック・フィールド 684  
マスター・オーダー・フルフィルメント・プロセス・タイプ 136  
マッピング XML ファイル名 377  
「マッピング・タイプ」フィールド 342  
「未解決の警告を上申する場合の上限数」フィールド 345  
見積フルフィルメント・プロセス・タイプ  
136  
主要情報の定義 146, 147  
命名構成  
定義 339  
命名実行時コンポーネント 335  
命名定義 338  
命名実行時ノード 694  
命名定義  
マッピングの作成 338  
命名法 4  
「命名法」フィールド 342  
命名法変換エンジン 335  
「メニュー ID」フィールド 304  
メニュー構成 301  
アプリケーション・メニューの詳細の  
変更 302  
メニュー項目の定義 303  
メニュー・グループを新規メニュー分  
類として保存 302

メニュー項目  
削除 305  
作成 303  
変更 305  
メニュー・グループ 214, 301  
新規分類として保存 302  
「メニュー・グループ」フィールド 214  
メニュー・シーケンス 304  
「メニュー・シーケンス」フィールド  
304  
「免除証書」フィールド 122  
「元のノード」フィールド 85  
「モニターしきい値に達した場合またはそれを  
超えた場合」フィールド 267  
モニター・ルール  
定義 154  
モニター・ルール・タイプ 156

## [ヤ行]

役割  
セラール 35  
組織 33  
バイヤー 33  
複数組織 35  
割り当て、組織への 35  
割り当て、ヤードへの 110  
ユーザー 213  
削除 219  
作成および変更 213  
データ・アクセスの構成 238  
「ユーザー ID (User ID)」フィールド  
214  
「ユーザー ID」フィールド 201  
ユーザー出口 182  
「ユーザー名 (User Name)」フィールド  
214  
ユーザー・インターフェース拡張性 4  
ユーザー・グループ 220  
管理、リソース・アクセス権 222  
削除 232  
作成および変更 220  
登録されているユーザーの表示 229  
ユーザー・トリガー・トランザクション  
160  
定義 173  
ユーザー・リスト 309  
ユーロ通貨 293  
ユーロ通貨加盟国 293  
「有効開始」フィールド 296  
「有効期間」フィールド 127  
「有効終了」フィールド 296  
「有効なリソース計画」フィールド 76  
「優先順位」フィールド 55  
「郵便番号」フィールド 54

「郵便番号でこの地域を定義する」フィールド  
353  
「輸出ライセンス番号」フィールド 76  
要求された出荷日フィールド 142  
容積単位  
削除 280  
作成 279  
変換率の削除 280  
変換率の作成 279  
変換率の変更 280  
変更 279  
「容積単位」フィールド 300  
「曜日祝日表示の日付形式」フィールド  
300  
「要予約」フィールド 46

## [ラ行]

「ライセンス有効期限」フィールド 76  
「ラベル書式」フィールド 39, 43, 65  
ラベル書式ファイル名 377  
ラベル書式名 377  
「リアルタイムの外部供給取得」フラグ  
100, 104  
「リアルタイムのキャパシティー取得」フ  
ィールド 106  
「リアルタイムの在庫取得」フィールド  
103  
リソース 306  
コンソール API 314  
コンソール関連エンティティー 310  
コンソール検索ビュー 311  
コンソール詳細ビュー  
コンソール詳細ビュー 311  
コンソール内部パネル 316  
コンソール・アイコン 319  
コンソール・アクション 317  
コンソール・エンティティー 308  
ユーザー・リストの表示 309  
JSP リストの表示 309  
コンソール・リスト・ビュー 313  
コンソール・リンク 319  
リソース 順序付け 308  
リソース ID 31, 304  
「リソース ID」フィールド 304, 307  
リソース・シーケンス・フィールド 308  
リソース・タイプ・フィールド 308  
「リダイレクター・ビュー (Redirector  
View)」フィールド 313  
リポジトリ 150  
「リリースする需要タイプ」フィールド  
144  
ルーター・ノード 695  
「ルーティングの地域スキーマ」フィール  
ド 49  
ルーティング・ガイド 48

## ルーティング・ガイド (続き)

- 削除 51
- 作成 49
- フィールド 49
- 変更 51
- VICS 48

## ルーティング・ガイド明細

- 削除 56
- 作成 52
- 定義 52
- 変更 56

「例外」タブ 682

例外グループ・フィールド 684

例外参照値フィールド 684

例外参照タブ 684

例外参照名フィールド 684

例外処理 619, 683

「冷凍庫あり」フィールド 67, 70, 74

連鎖オーダー 84, 145

「連鎖オーダーの作成を許可」フィールド  
145

「連鎖された調達転送オーダーの伝票種  
別」フィールド 145

「連鎖された調達入荷オーダーの伝票種  
別」フィールド 145

「連鎖された伝票種別」フィールド 162

「連絡先住所」フィールド 215

「ロールバック・セグメント」フィールド  
250

「ログ・ファイルに書き込む」フィールド  
250

「ログ・ファイル名」フィールド 251

ロケール 299

- 国または地域 300
- 言語 300
- 削除 301
- 作成 299
- 変更 301

ISO-3166 コード 300

ISO-639 コード 300

「ロケール」フィールド 28, 31

「ロケールの説明」フィールド 300

「ロケール・コード」フィールド 214,  
300

## [ワ行]

ワークフロー 135

## [数字]

「1日あたりの距離」フィールド 67, 70,  
74

## A

API ノード 688

「API の起動」フィールド 315

API の中断フィールド 683

「API 名」フィールド 315

Applications Manager

- アクション 20
- コンテキスト・ヘルプ 25
- 伝票種別 21
- 特殊文字 25
- トラブルシューティング 25
- 日時の入力 24
- ユーザー 23
- リスト 23
- ルックアップ 機能 21

開始 7

作業領域 16

レイアウト 7

## B

「BOL 接頭辞」フィールド 76

## C

CAPACITYPRG ページ・ルール 249

## D

「DB 拡張機能の呼び出し」フィールド  
202

DCS 6.2 データベース受信者プロパテ  
ィー 625

DCS 6.2 データベース送信者プロパテ  
ィー 624

DCS 6.2 データベース・ノード 623

インターフェース・テーブル 623

エラー処理 624

受信者 625

送信者 624

デフォルトの定義 624

DCS 6.2 データベース受信者プロパテ  
ィー 625

DCS 6.2 データベース送信者プロパテ  
ィー 624

DocumentType 属性 310

「DUNS 番号」フィールド 28, 31

## E

「E メール送信」フィールド 202

「Eメールのprotocols」フィールド  
260

「Eメール・サーバーのIPアドレス」フ  
ィールド 260

「Eメール・サーバーのリッサー・ポー  
ト」フィールド 260

「Eメール・サーバー名」フィールド  
260

Eメール・テンプレート 202

Eメール・ノード 692

EJB ノード 627

EXPORTTBLPRG ページ・ルール 249

## F

「Fax の送信」フィールド 203

FTP 受信者のプロパティ 639

FTP 送信者のプロパティ 636

FTP ノード 636

FTP (ファイル転送プロトコル) 636

## G

「GLN」フィールド 76

## H

HP LaserJet 5P 359

「HTTP 拡張機能の呼び出し」フィールド  
203

HTTP ノード 641

## I

i18n タグ 310

IMPORTTBLPRG ページ・ルール 249

INBOXPRG ページ・ルール 249

INVENTORYPRG ページ・ルール 249

ISO-3166 コード 300

ISO-639 コード 300

## J

Jasper プリンター・コンポーネント 701  
構成プロパティ 702

変数ファイル名 702

「Java Server Page」フィールド 311,  
312, 313, 317

「Java 拡張機能の呼び出し」フィールド  
202

「Java クラス」フィールド 184, 256

「Java クラスとして実装」フィールド  
184, 256

JavaScript フィールド 317

「JMS キュー名」フィールド 166

JMS セキュリティー 169, 647, 652, 659,  
662, 667, 670, 675, 677  
JMS セキュリティー・プロパティー 170  
JBoss 170, 172  
WebSphere 170  
JMS セキュリティー・プロパティー (キ  
ュー・ベース)  
WebLogic 170  
JSP タグ・ライブラリー  
i18n 310  
JSP リスト 309

## L

Loftware Label Manager 374  
LTL (小口貨物) 68

## M

MANIFESTPRG パージ・ルール 249

## P

PERSONIFOPRG パージ・ルール 249  
PERSONINFOHISTPRG パージ・ルール  
249  
PRICELISTPRG パージ・ルール 249  
「PRO 番号開始」フィールド 91  
「PRO 番号終了」フィールド 91  
「PRO 番号生成方法」フィールド 90  
「PRO 番号セット - 1」フィールド 90  
「PRO 番号セット - 2」フィールド 91  
「PRO 番号セット」フィールド 90  
「PRO 番号接頭辞」フィールド 91

## Q

「QCF ルックアップ」フィールド 168

## R

REPROCESSPRG パージ・ルール。 249  
RF スキャナー 360

## S

「SCM を適用しない」フィールド 60  
STATISTICSPRG パージ・ルール 249  
Sterling WMS (Sterling WMS) 77

## U

UCC-128 371  
UPS 標準運送会社ラベル 371

「URL」フィールド 203  
USERACTAUDITPRG パージ・ルール  
249  
USERACTIVITYPRG パージ・ルール  
249

## V

VAS プロセス・タイプ 137  
VICS 48  
VICS 積荷証券 (BOL) 371

## W

WebService ノード 643  
「WMS 6.2 (WMS 6.2)」フィールド 77  
WMS 格納プロセス・タイプ 136  
WMS 在庫プロセス・タイプ 136  
WMS レイアウト定義プロセス・タイプ  
136

## X

XML テンプレート 148  
XML バインディング 318, 320  
「XML 名」フィールド 339, 341  
XSL トランスレーター・ノード 697

## Z

Zebra 170 359





Printed in Japan